



# 取扱書

よくお読みになってご使用ください。  
取扱書は車の中に保管しましょう。

# DYNA







	絵で見る目次
	警告ラベル
	基本操作早わかり
1	必読！安全・快適に運転するために
2	お車をたいせつに
3	各部の開閉
4	シート・シートベルトの取り扱い
5	スイッチ・運転装置の取り扱い
6	メーター・警告灯・表示灯の見方
7	ヒーター・エアコンの取り扱い
8	アクセサリ（装備品）の取り扱い
9	正しい運転操作
10	冬期・夏期の取り扱い
11	キャブチルト
12	日常（運行前）点検
13	点検・手入れ
14	給油・給脂
15	故障時の処置
	サービスデータ
	さくいん

このたびはトヨタ車をお買い上げいただき誠にありがとうございます。  
ございます。

本書は、安全・快適で社会環境にもやさしい運転をしていただくために正しい取り扱いと簡単な点検・手入れについて説明してあります。

取り扱いや点検・手入れを誤りますと故障や事故の原因になりますので、お車をご使用する前に必ずお読みください。

- 「必読！安全・快適に運転するために」や ▲ 危険、▲ 警告、▲ 注意、  
 アドバイス、 知識、\* のマークのところは重要です。これらの記載事項を守らないと傷害を負ったり事故の原因になり、また、保証をお受けできない場合がありますので、よくお読みください。
- ▲ 注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく場合があります。  
いずれの場合も安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

### ▲ 危険

部品自体が危険性を内包し、取り扱いを誤った場合、生命の危険や重大な傷害につながる事項です。

### ▲ 警告

取り扱いを誤った場合、生命の危険や重大な傷害につながる可能性がある事項です。

### ▲ 注意

取り扱いを誤った場合、傷害を負ったり車などの物的損害につながる可能性がある事項です。

### アドバイス

車両の正規性能を確保するために守っていただきたい事項です。

### 知識

知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことです。

\* 取り扱い、運転方法、点検整備に関する参考となる事項です。

## 知っておいていただきたいこと

- ■、▶、●のマークは、項目の大きさを順に示します。
- 本文中の★印の装置については、お車の仕様により装着されていない場合があります。
- 取扱書は、いつも使用できるように自動車検査証およびメンテナンスノートとともに必ずお車の中に、大切に保管してください。
- 本書は車両本体（シャシ）の説明書です。架装物の取り扱いについては、架装メーカーの「取扱説明書」をご覧ください。
- 排出ガス規制適合車を表す記号は省略した型式で表示してあります。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有されるかたのために本書とメンテナンスノートを必ずお車につけておいてください。
- 本書の内容でご不明な点がありましたら、別冊の「メンテナンスノート」に記載されているトヨタ販売店までお問い合わせください。
- お車の仕様などの変更により、本書の内容の一部があなたのお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
- 単位について：SI 単位と従来単位を併記し、従来単位は { } 内に示してあります。
- AdBlue<sup>®</sup>（アドブルー）はドイツ自動車工業会の登録商標です。
- Bluetooth<sup>®</sup> は、Bluetooth SIG, Inc. の登録商標です。

## 本書に記載している車の型式名

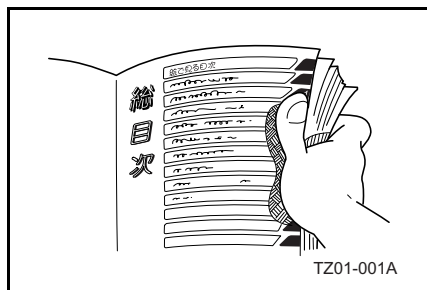
この本は、下に書いてある型式の車について説明しています。お車の型式をご確認の上お使いください。

名称	型式	エンジン型式	名称	型式	エンジン型式
ダイナ	XZU601W	N04C	ダイナ	XZU701A	N04C
	XZU603C			XZU701B	
	XZU603D			XZU703	
	XZU603H			XZU703A	
	XZU603W			XZU703B	
	XZU606			XZU711	
	XZU606A			XZU711B	
	XZU606B			XZU713	
	XZU606H			XZU713B	
	XZU633C			XZU721	
	XZU633D			XZU721B	
	XZU641W			XZU723	
	XZU643B			XZU723B	
	XZU643G			XZU731	
	XZU643W			XZU731B	
	XZU646			XZU733	
	XZU646B			XZU733B	
	XZU651W			XZU776	
	XZU653K			XZU776B	
	XZU653W				
	XZU656				
	XZU656B				
	XZU676				
	XZU676B				
	XZU676C				
	XZU686				
	XZU686B				
	XZU696				
XZU696B					

本書には、知りたいことが簡単にさがせるよういろいろな目次を用意してあります。目的に応じてお使いください。

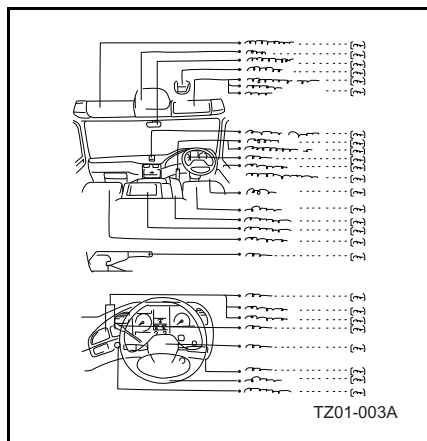
### ■ 総目次

この本の構成を知りたいときは、こちらをご覧ください。



### ■ 絵で見る目次

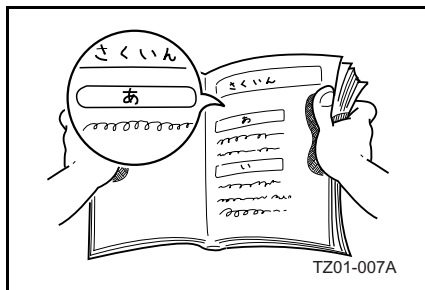
名称がわからないときは、こちらをご覧ください。



### ■ さくいん

名称がわかっているときは、こちらをご覧ください。

各項目が、あいうえお順に書いてあります。





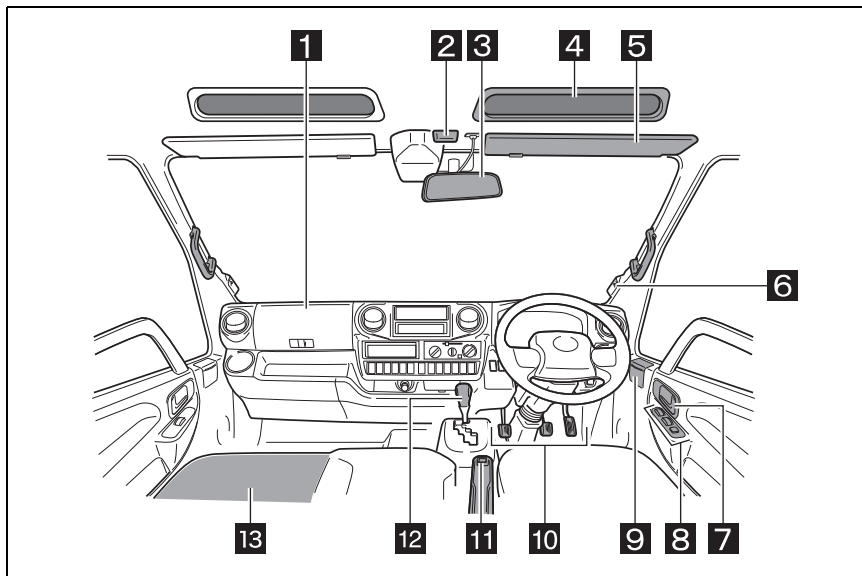
## 絵目次

本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。

# 絵で見る目次

## ■ 室内

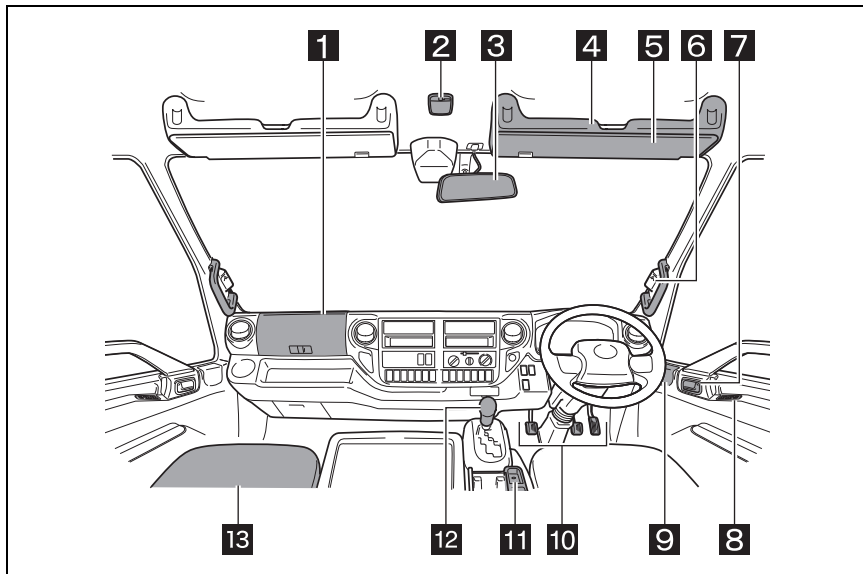
### ▶ 標準キャブ



<b>1</b>	助手席 SRS エアバッグ★	P.5-34
<b>2</b>	フロントルームランプ	P.8-34
<b>3</b>	デジタルインナーミラー	P.8-37
	インナーミラー★	P.8-43
<b>4</b>	コンソールボックス類	P.8-47
<b>5</b>	サンバイザー	P.8-44
<b>6</b>	サイトアラウンドモニターシステム	P.5-131
<b>7</b>	インサイドハンドル	P.3-10
<b>8</b>	パワーウィンドウ	P.3-15
<b>9</b>	灰皿★	P.8-45
<b>10</b>	ペダル	P.5-19
<b>11</b>	パーキングブレーキスイッチ	P.5-29
	パーキングブレーキレバー★	P.5-29
<b>12</b>	シフトレバー	
	MT 車	P.5-20
	AT 車	P.5-22
<b>13</b>	シート	P.4-2

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ ワイドキャブ

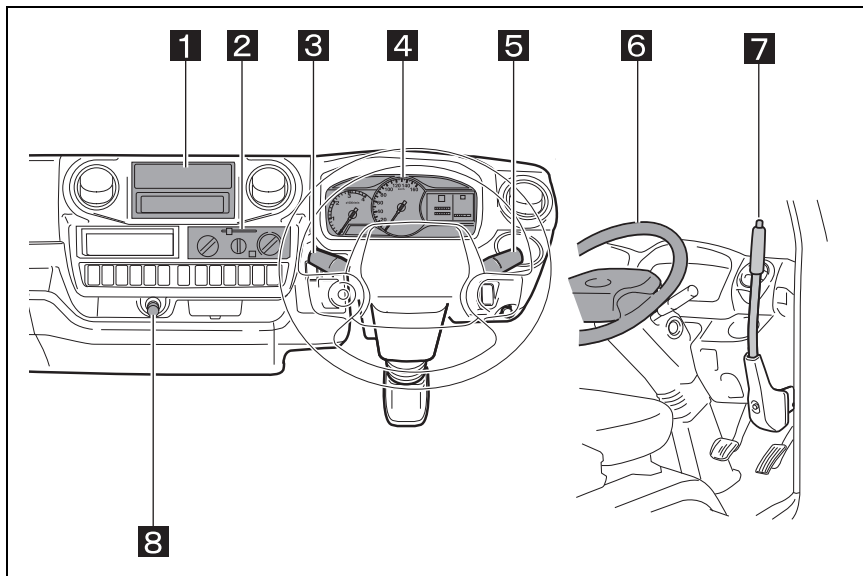


<b>1</b>	助手席 SRS エアバッグ★	P.5-34
<b>2</b>	フロントルームランプ	P.8-34
<b>3</b>	デジタルインナーミラー	P.8-37
	インナーミラー★	P.8-43
<b>4</b>	コンソールボックス類	P.8-47
<b>5</b>	サンバイザー	P.8-44
<b>6</b>	サイトアラウンドモニターシステム	P.5-131
<b>7</b>	インサイドハンドル	P.3-10
<b>8</b>	パワーウィンドウ	P.3-15
<b>9</b>	灰皿★	P.8-45
<b>10</b>	ペダル	P.5-19
<b>11</b>	パーキングブレーキスイッチ	P.5-29
	パーキングブレーキレバー★	P.5-29
<b>12</b>	シフトレバー	
	MT 車	P.5-20
	AT 車	P.5-22
<b>13</b>	シート	P.4-2

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル

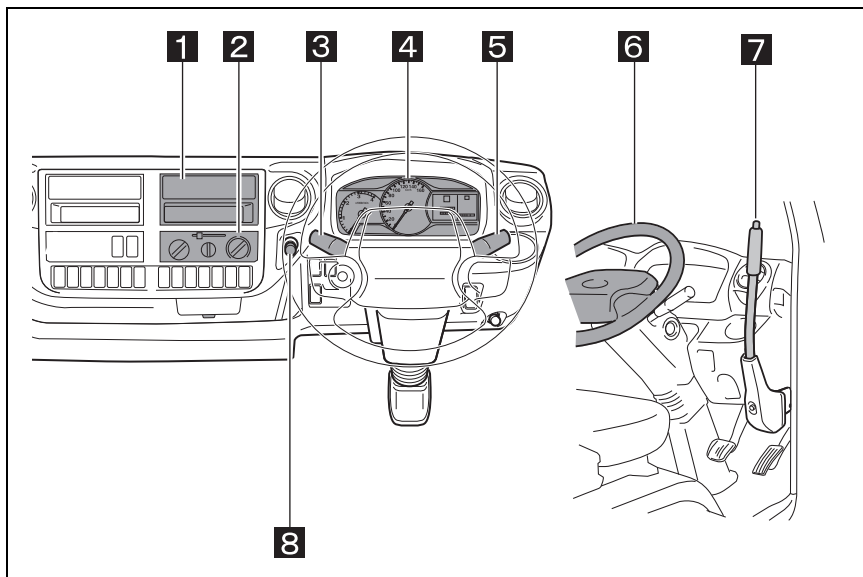
▶ 標準キャブ



<b>1</b>	オーディオ .....	P.8-5
<b>2</b>	エアコン .....	P.7-3
<b>3</b>	ワイパー&ウォッシャー .....	P.5-40
	排気ブレーキ.....	P.5-51
	暖機.....	P.5-17
<b>4</b>	メーター類 .....	P.6-2
<b>5</b>	方向指示 .....	P.5-49
	ライティング.....	P.5-42
	フォグランプ★ .....	P.5-49
<b>6</b>	ハンドル .....	P.5-33
<b>7</b>	PTO レバー★.....	P.5-80
	ダンプレバー★.....	P.5-82
<b>8</b>	アクセサリソケット★.....	P.8-44

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ ワイドキャブ

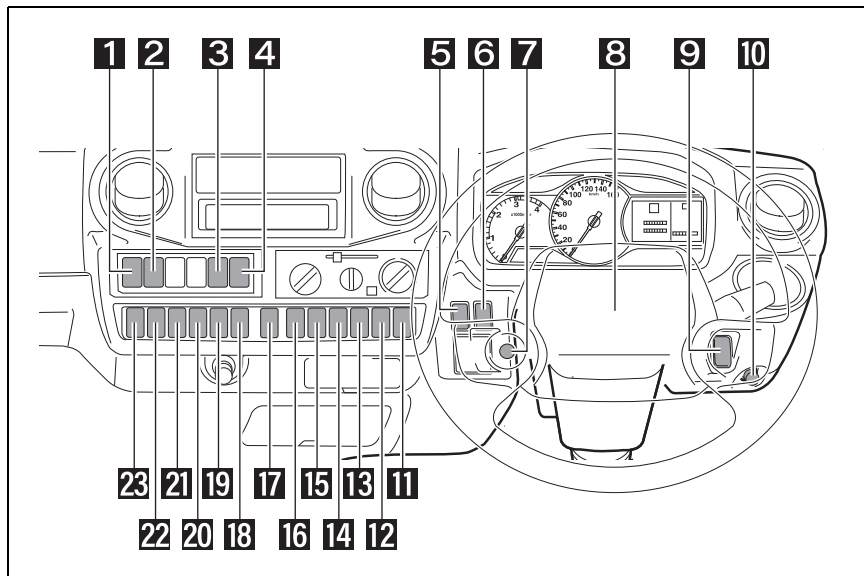


<b>1</b>	オーディオ .....	P.8-5
<b>2</b>	エアコン .....	P.7-3
<b>3</b>	ワイパー&ウォッシャー .....	P.5-40
	排気ブレーキ .....	P.5-51
	暖機 .....	P.5-17
<b>4</b>	メーター類 .....	P.6-2
<b>5</b>	方向指示 .....	P.5-49
	ライティング .....	P.5-42
	フォグランプ★ .....	P.5-49
<b>6</b>	ハンドル .....	P.5-33
<b>7</b>	PTO レバー★ .....	P.5-80
	ダンプレバー★ .....	P.5-82
<b>8</b>	アクセサリソケット★ .....	P.8-44

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スイッチ類

▶ 標準キャブ

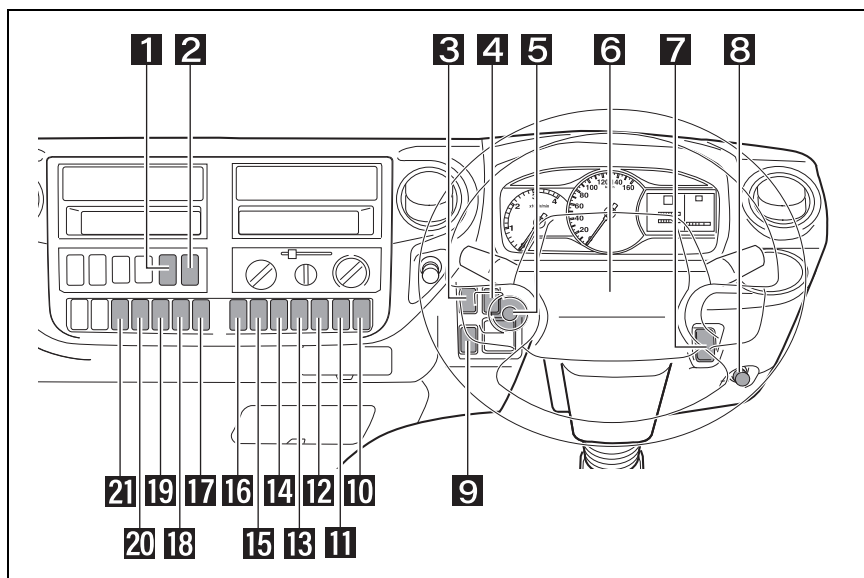


<b>1</b>	非常 PTO ★	P.5-86
<b>2</b>	バッテリーメイン (消防車)	P.5-12
<b>3</b>	リヤパワーウインドウ (左側)	P.3-15
<b>4</b>	リヤパワーウインドウ (右側)	P.3-15
<b>5</b>	電動格納式アウターミラー★	P.5-52
<b>6</b>	ミラーヒーター★	P.5-54
<b>7</b>	ステアリングスイッチ (マルチインフォメーション)	P.6-4
	ステアリングスイッチ (電話) ★	P.8-4
<b>8</b>	ホーンボタン	P.5-34
<b>9</b>	室内 LED 灯★	P.8-36
	消防 PTO ★	P.5-86
<b>10</b>	スロットル★	P.5-16
<b>11</b>	PTO ★	P.5-80
<b>12</b>	エコモードギヤインアイドルアップ (MT 車) ★	P.5-73
<b>13</b>	バックブザー減音スイッチ	P.5-48
<b>14</b>	非常点滅灯	P.5-48
<b>15</b>	排出ガス浄化装置	P.5-70

<b>16</b>	ヘッドランプクリーナー★ .....	P.5-51
<b>17</b>	VSC OFF .....	P.5-90
<b>18</b>	ヘッドランプ光軸調整 .....	P.5-50
<b>19</b>	車線逸脱警報装置 OFF .....	P.5-92
	PGS OFF .....	P.5-95
<b>20</b>	4WD 切り替え (4WD 車) ★ .....	P.5-67
<b>21</b>	ブレーキロック★ .....	P.5-88
	アイドルストップキャンセル★ .....	P.5-74
	アイドルストップキャンセルブレーキロック★ .....	P.5-74
<b>22</b>	クリアランスソナー .....	P.5-124
<b>23</b>	運転席シートヒーター .....	P.5-140

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ ワイドキャブ



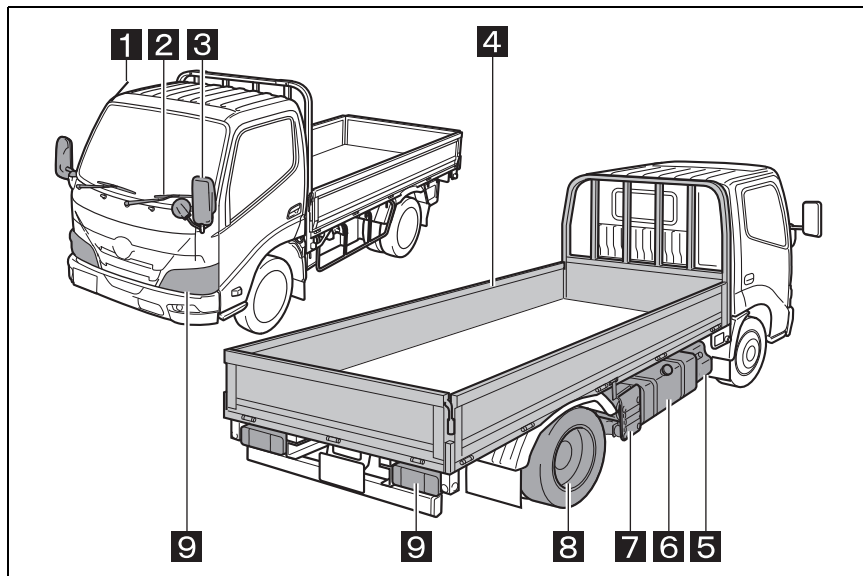
<b>1</b>	リヤパワーウインドウ (左側).....	P.3-15
<b>2</b>	リヤパワーウインドウ (右側).....	P.3-15
<b>3</b>	電動格納式アウターミラー★.....	P.5-52
<b>4</b>	ミラーヒーター★.....	P.5-54
<b>5</b>	ステアリングスイッチ (マルチインフォメーション).....	P.6-4
	ステアリングスイッチ (電話) ★.....	P.8-4
<b>6</b>	ホーンボタン.....	P.5-34
<b>7</b>	室内 LED 灯★.....	P.8-36
<b>8</b>	スロットル★.....	P.5-16
<b>9</b>	PTO ★.....	P.5-80
<b>10</b>	非常点滅灯.....	P.5-48
<b>11</b>	バックブザー減音スイッチ.....	P.5-48
<b>12</b>	排出ガス浄化装置.....	P.5-70
<b>13</b>	ヘッドランプクリーナー★.....	P.5-51
<b>14</b>	ヘッドランプ光軸調整.....	P.5-50
<b>15</b>	エコモードギヤインアイドルアップ (MT 車) ★.....	P.5-73
<b>16</b>	VSC OFF.....	P.5-90

<b>17</b>	車線逸脱警報装置 OFF .....	P.5-92
	PCS OFF .....	P.5-95
<b>18</b>	4WD 切り替え (4WD 車) ★ .....	P.5-67
<b>19</b>	ブレーキロック★ .....	P.5-88
	アイドルストップキャンセル★ .....	P.5-74
	アイドルストップキャンセルブレーキロック★ .....	P.5-74
<b>20</b>	クリアランスソナー .....	P.5-124
<b>21</b>	運転席シートヒーター .....	P.5-140

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

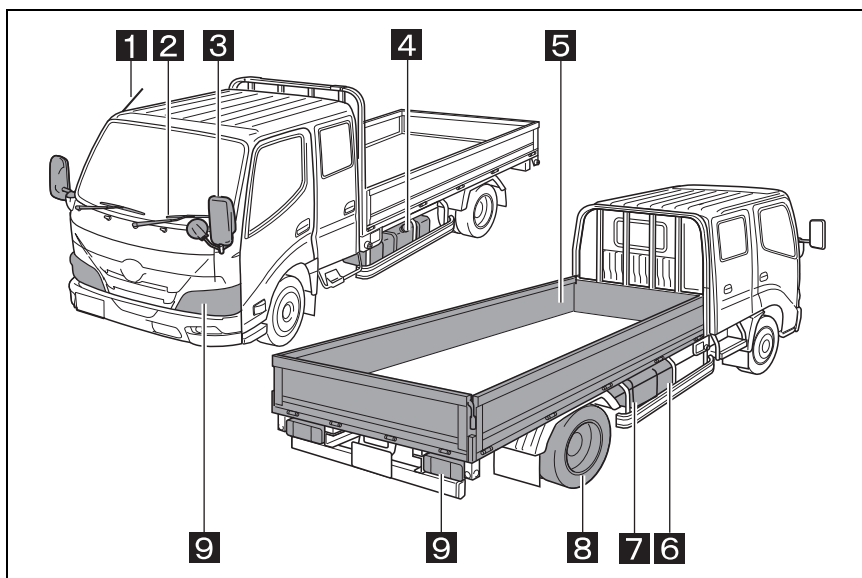
■ 外観

▶ シングルキャブ車



<b>1</b>	アンテナ .....	P.8-2
<b>2</b>	ワイパー .....	P.13-67
<b>3</b>	アウターミラー .....	P.5-55
<b>4</b>	荷台 .....	P.3-19
<b>5</b>	尿素水タンク .....	P.13-77
<b>6</b>	燃料タンク .....	P.3-19
<b>7</b>	マフラー	
	DPR .....	P.1-27
	尿素 SCR .....	P.1-29
<b>8</b>	タイヤ .....	P.13-47
<b>9</b>	ランプ類 .....	P.15-19

▶ ダブルキャブ車






<b>1</b>	アンテナ .....	P.8-2
<b>2</b>	ワイパー .....	P.13-67
<b>3</b>	バックミラー .....	P.5-55
<b>4</b>	燃料タンク .....	P.3-19
<b>5</b>	荷台 .....	P.3-19
<b>6</b>	マフラー DPR.....	P.1-27
	尿素 SCR.....	P.1-29
<b>7</b>	尿素水タンク.....	P.13-77
<b>8</b>	タイヤ .....	P.13-47
<b>9</b>	ランプ類 .....	P.15-19



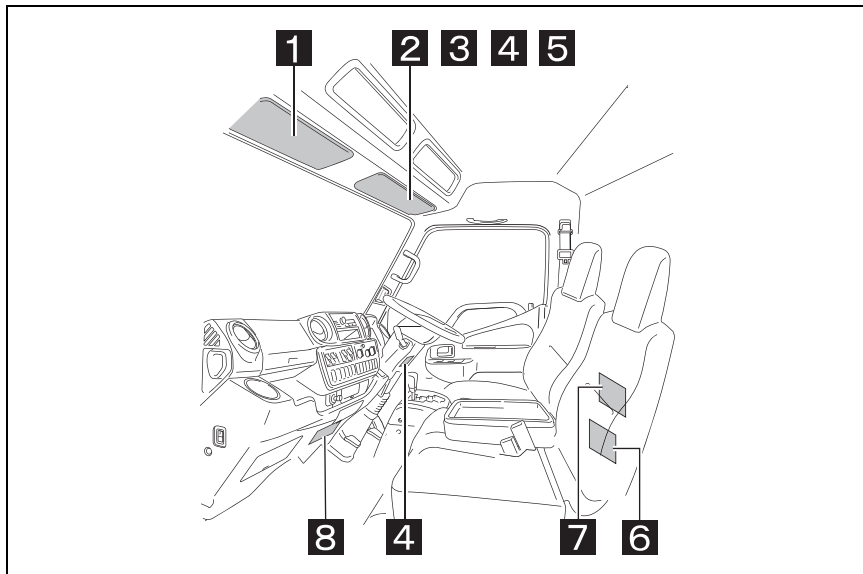
## 警告ラベル

- ★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。
- 以下の警告ラベルは重要ですので、ご使用前には必ずお読みください。
  - 記載事項が見にくいものや、損傷のあるもの、はがれているものがある場合には、トヨタ販売店にお申し付けください。  
なお、これらの警告ラベルは車両本体（シャシ）についてのものです。架装物に関するものは架装メーカーの資料をご覧ください。

## ■警告ラベルのシンボルマークと意味

シンボルマーク	意味
 危険	部品自体が危険性を内包し、取り扱いを誤った場合、生命の危険や重大な傷害につながる事項です。
 警告	取り扱いを誤った場合、生命の危険や重大な傷害につながる可能性がある事項です。
 注意	取り扱いを誤った場合、傷害を負ったり車などの物的損害につながる可能性がある事項です。

## キャブ内

**1 助手席 SRS エアバッグ★※**

※ 助手席 SRS エアバッグ装着車では助手席ベビーシートを取り付けたりチャイルドシートを後ろ向きに取り付けたりしないでください。

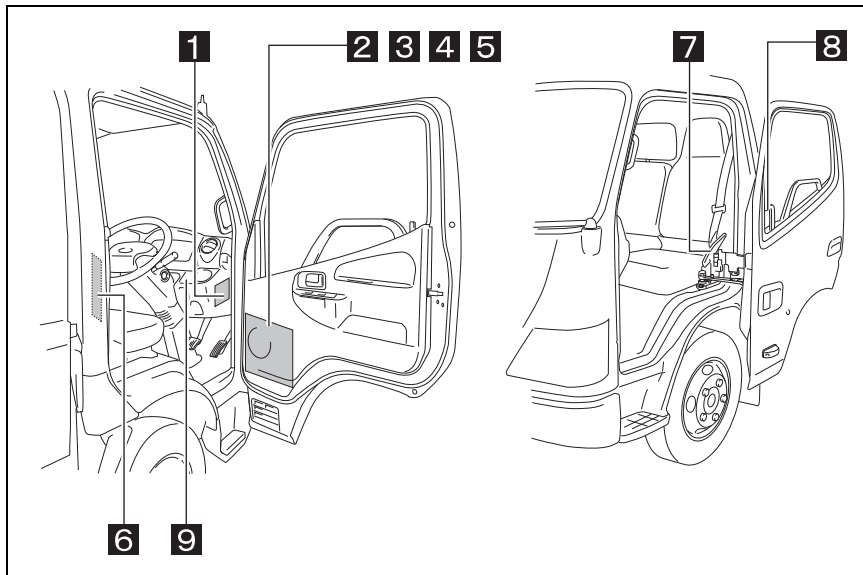
重大な傷害におよぶか、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。(→P.5-38)

**2 ブレーキロック★****6 ジャッキ****3 排出ガス浄化装置・尿素 SCR****7 DC/DC コンバーター★****4 運転席 SRS エアバッグ★****8 ヒューズ**

(→ P.5-34)

**5 後部架装物**

## ドア周り



**1** ブレーキフルード

**2** PTO レバー★

**3** ダンプレバー★

**4** ダンプレバーロック★

**5** 駆動切り替え★

**6** タイヤ交換 (4WD 車)

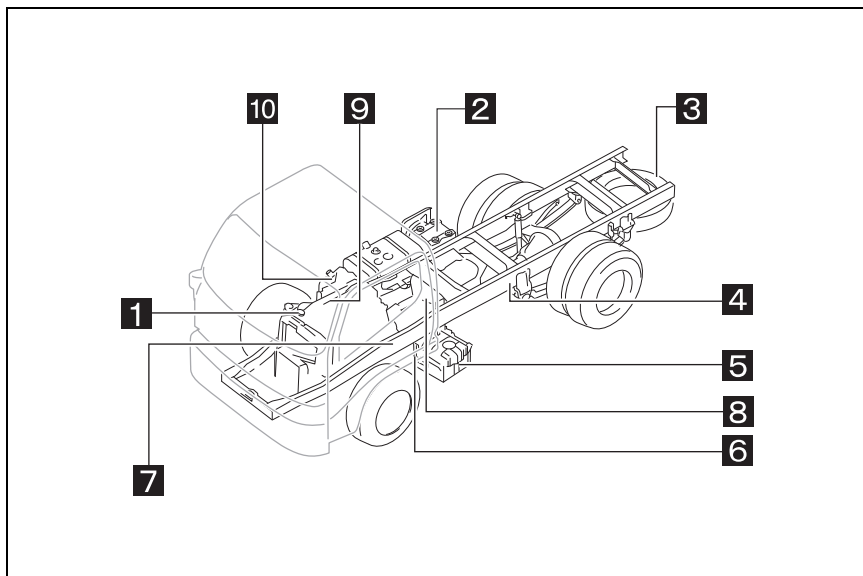
**7** アームレールカバー (スライド  
ドア車)

**8** ドア側グリップ (スライドドア  
車)

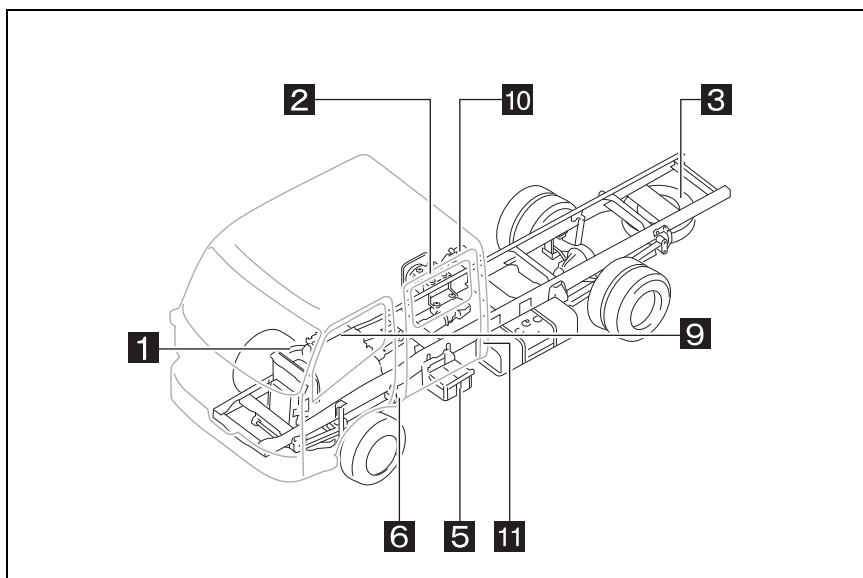
**9** 電動パーキングブレーキ

キャブ外

▶ シングルキャブ車



▶ ダブルキャブ車



- 1 ラジエーターキャップ
- 2 マフラー（排出ガス浄化装置）
- 3 スペアタイヤ
- 4 安全棒★
- 5 バッテリー
- 6 ヒューズブルリンク
- 7 キャブチルトステー（手動キャブチルト）
- 8 キャブチルト（手動キャブチルト）
- 9 オイルフィルターキャップ
- 10 尿素水タンク
- 11 キャブチルト（電動キャブチルト）★



## 基本操作早わかり

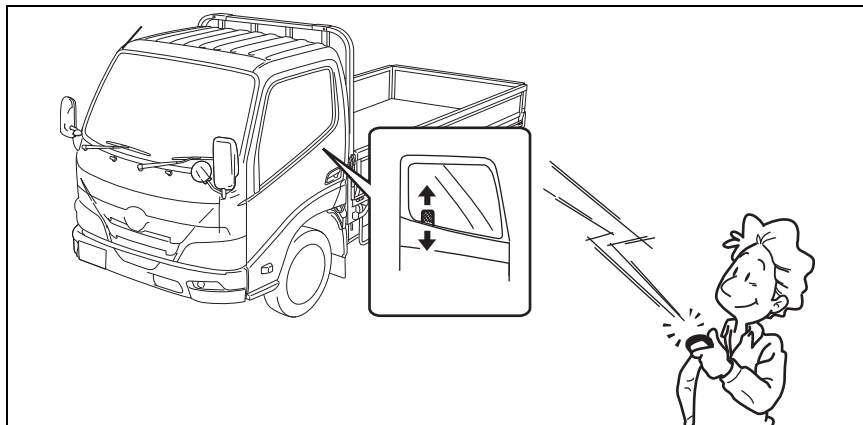
～はじめてこの車にお乗りになる方へ～

この章では、はじめて車を購入された方やトヨタ車にはじめてお乗りになる方のために、この車の基本的な運転装置および装備品を簡単に説明しています。

詳しい取り扱い説明や注意事項は各章をしっかりと読みください。

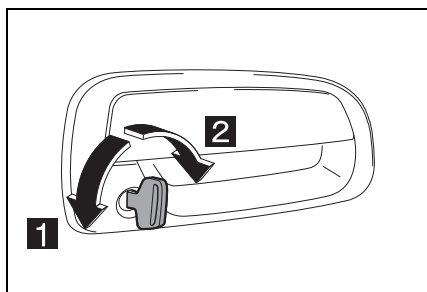
ドアの施錠と解錠 ..... 基本操作早わかり -2	夜間や雨天時などの走行 ..... 基本操作早わかり -16
各部の開閉に関する 詳しい紹介は ..... 基本操作早わかり -3	他車への合図 ..... 基本操作早わかり -16
運転席の調整機能 ..... 基本操作早わかり -4	スイッチに関する詳しい紹介 は..... 基本操作早わかり -17
リヤシートの調整機能 (ダブルキャブ車) ..... 基本操作早わかり -5	エアコンの使い方 ..... 基本操作早わかり -18
シートに関する詳しい紹介は ..... 基本操作早わかり -6	オーディオの使い方 (AM/FM ラジオ) ..... 基本操作早わかり -19
シートベルトの着用のしかた ..... 基本操作早わかり -7	エアコン、オーディオに 関する詳しい紹介は ..... 基本操作早わかり -20
シートベルトに関する 詳しい紹介は ..... 基本操作早わかり -9	
エンジンのかけ方 ..... 基本操作早わかり -10	
シフトレバーの動かし方 (発進時の場合) ..... 基本操作早わかり -11	
パーキングブレーキレバーの 使い方 ..... 基本操作早わかり -12	
運転装置に関する詳しい紹介 は..... 基本操作早わかり -13	
警告灯が点灯または点滅した ままのときは ..... 基本操作早わかり -14	
警告灯に関する詳しい紹介は ..... 基本操作早わかり -15	

## ドアの施錠と解錠



### ■ キー

★：グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。

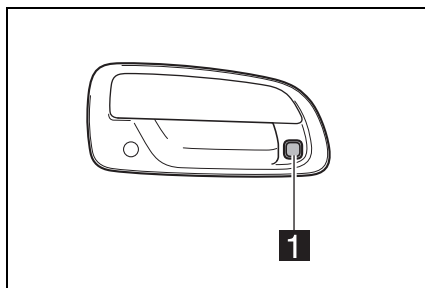


**1** 解錠

**2** 施錠

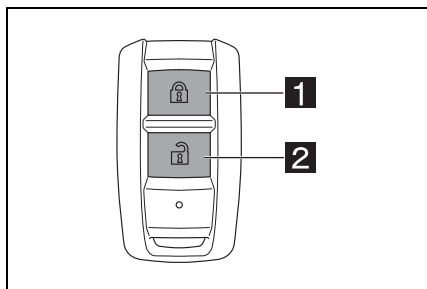
### ■ リモートキー / 電子キー★

### ■ ロック / アンロックスイッチ★



**1** ロック / アンロックスイッチ

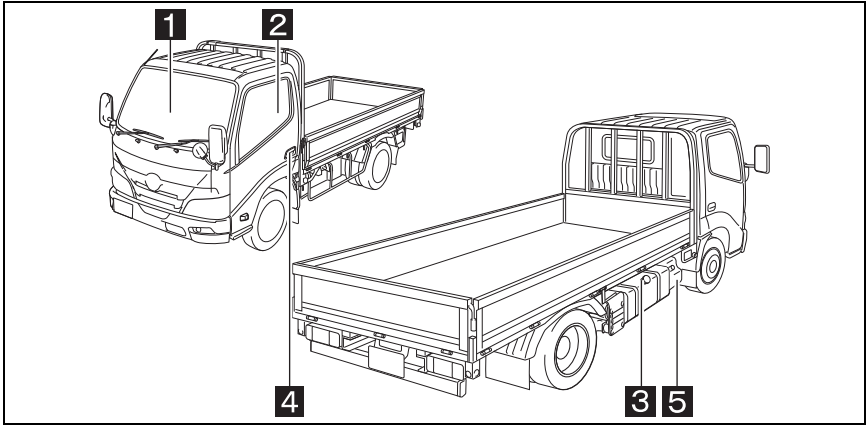
★：グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。



**1** 施錠

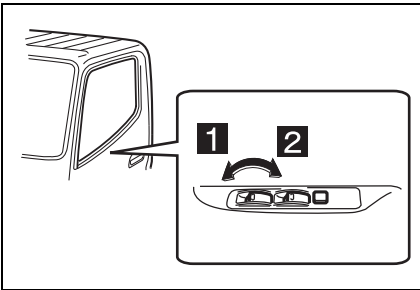
**2** 解錠

各部の開閉に関する詳しい紹介は



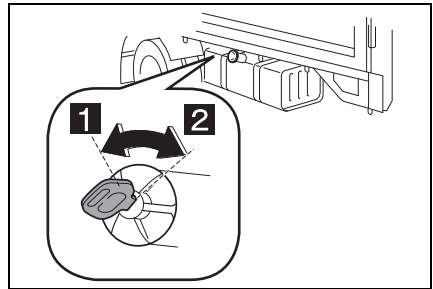
- 1 キャブチルト (→P.11-1)
- 2 ドアガラス開閉
- 3 燃料補給口
- 4 ドアの開閉
- 5 尿素水タンク (→P.13-77)

■ ドアガラスの開閉



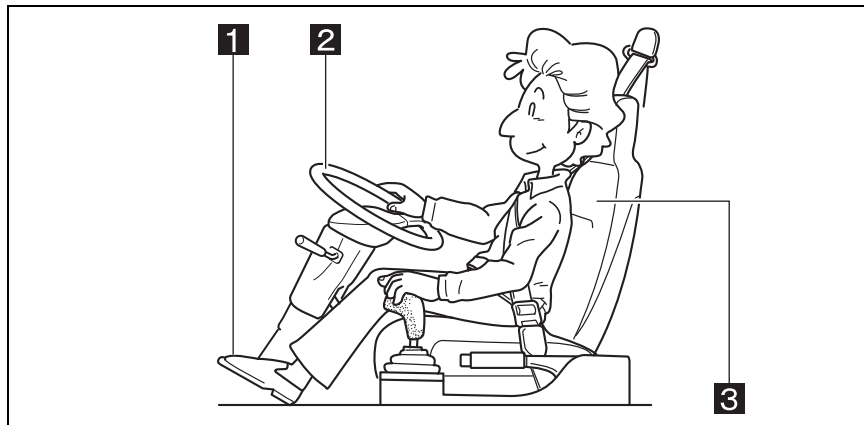
- 1 閉まる
- 2 開く

■ フューエルキャップ (燃料補給口) の開閉



- 1 解錠
- 2 施錠

## 運転席の調整機能

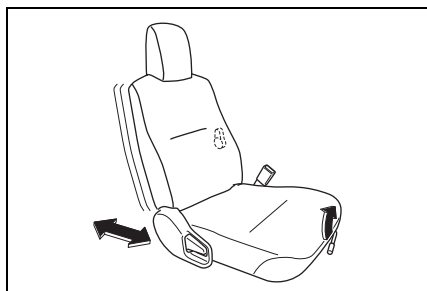


**1** ペダルが十分に踏み込めること

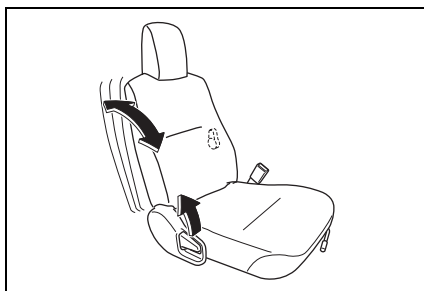
**2** ハンドルが楽に操作できること

**3** 背もたれから背を離さないこと

### ■ シートスライド

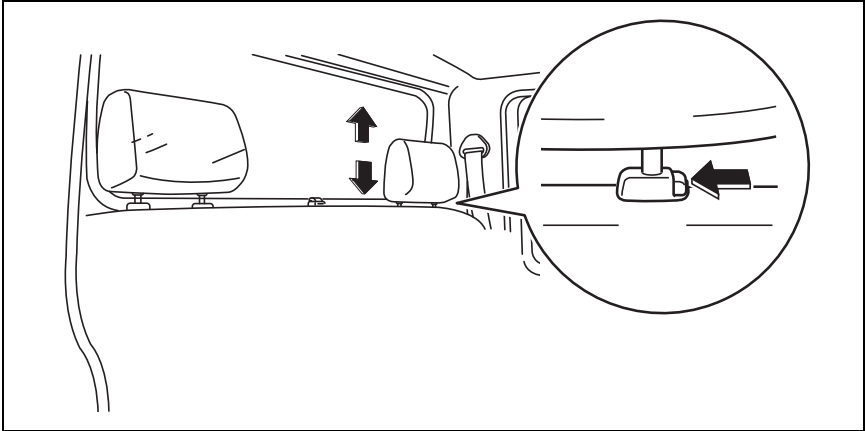


### ■ シートバックの角度

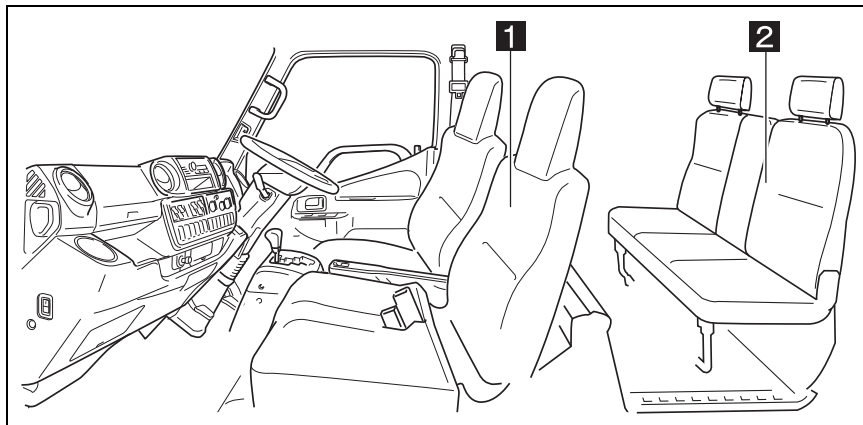


## リヤシートの調整機能 (ダブルキャブ車)

- ▶ ヘッドレスト (脱着式ヘッドレスト装着車)



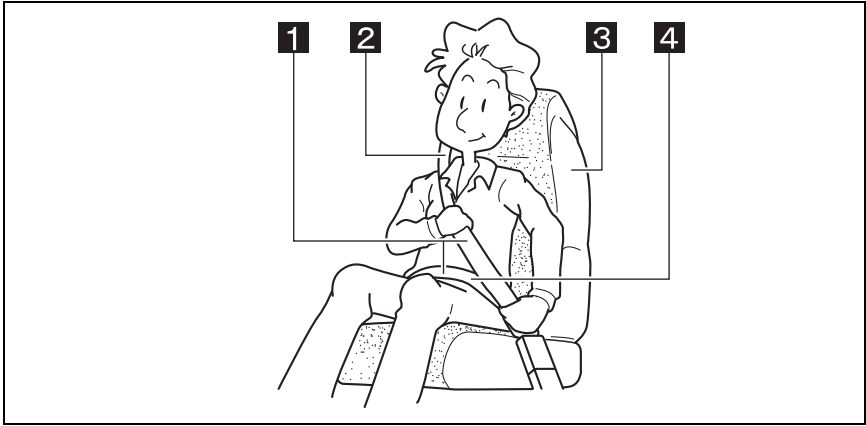
## シートに関する詳しい紹介は



**1** フロントシートの調整 (→P.4-2)

**2** リヤシートの調整 (ダブルキャブ車) (→P.4-4)

## シートベルトの着用のしかた

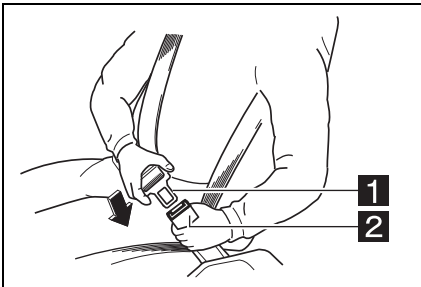


- 1 ねじれていないこと
- 2 肩の真ん中に十分にかかること
- 3 シートを調整し、上体を起こし深く腰掛けること
- 4 必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

## 着用のしかた

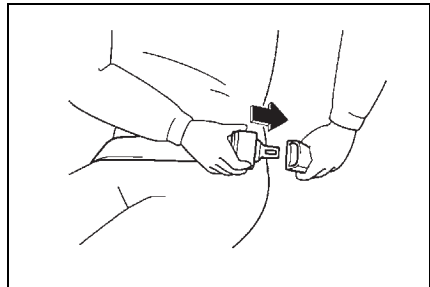
1. ベルトを引き出します。
2. プレートをバックルに挿し込みます。
3. カチッというまで挿し込みます。

## ▶ 3点式シートベルト



- 1 プレート
- 2 バックル

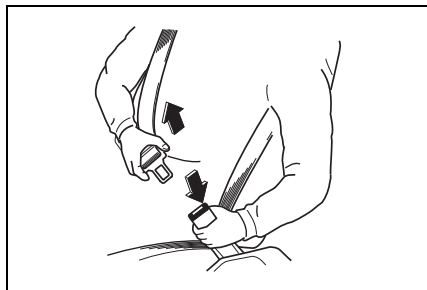
## ▶ 2点式シートベルト



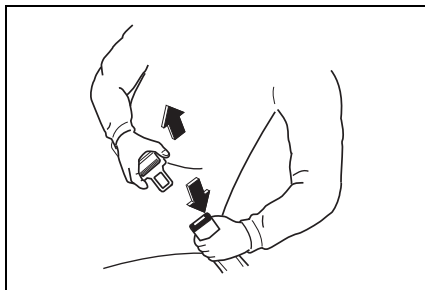
## はずしかた

1. バックルの解除ボタンを押します。
2. ベルトを巻き取らせませす。

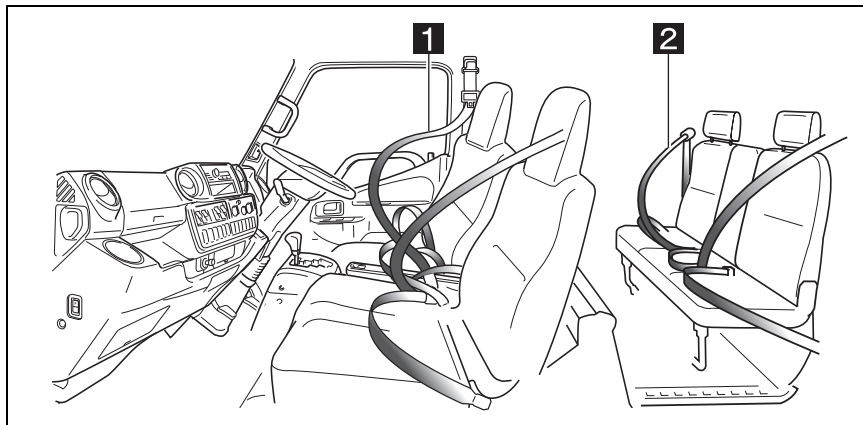
### ▶ 3点式シートベルト



### ▶ 2点式シートベルト



## シートベルトに関する詳しい紹介は

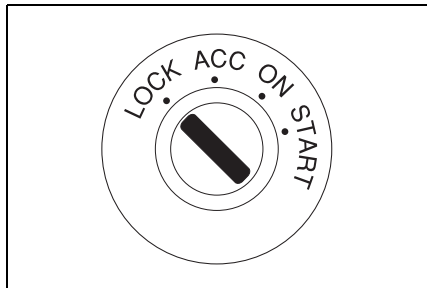


**1** フロントシートベルトの着用 (→P.4-7)

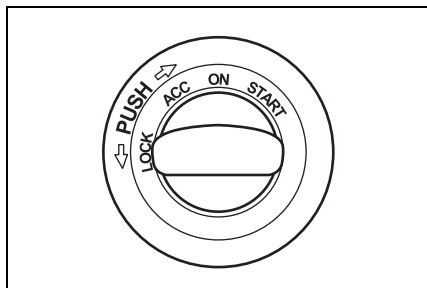
**2** リヤシートベルトの着用 (ダブルキャブ車) (→P.4-7)

## エンジンのかけ方

### ▶ スマートシステム無し車

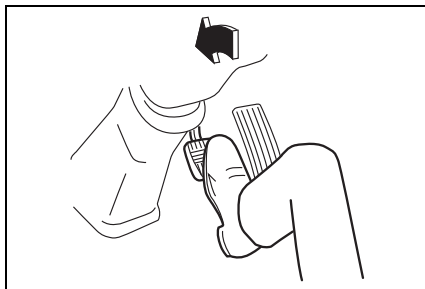


### ▶ スマートシステム付き車



スイッチの位置	詳細
LOCK (ロック)	キーを抜き挿しできる位置。 ハンドルを回した状態でキーを抜くとハンドルがロックされます。
ACC (アクセサリ)	エンジン停止時、次の電装品が使用できる位置。 オーディオ、アクセサリソケットなど。
ON (オン)	エンジン回転中の位置。 予熱付き車は、始動時に予熱します。
START (スタート)	エンジンを始動する位置。

1. 右足でブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。

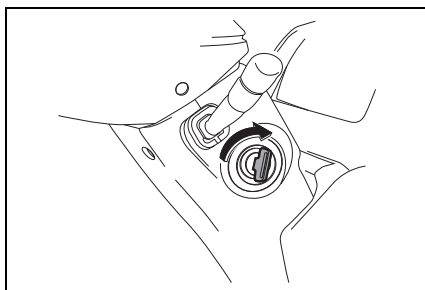


2. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。  
シフトレバーの位置を確認します。

MT車は、シフトレバーを「N」にしクラッチペダルをいっぱいまで踏み込みます。

AT車はシフトレバーを「P」にします。

3. エンジンスイッチをSTARTまで回します。

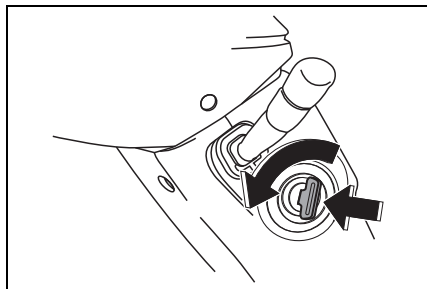


## キーの抜き方

MT車は、シフトレバーを「N」にして行います。

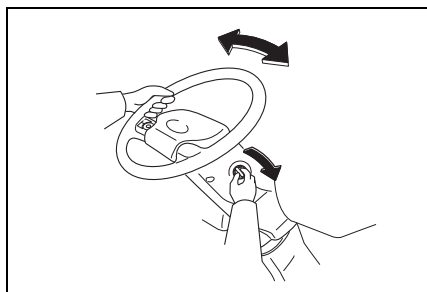
AT車はシフトレバーを「P」にします。

1. ACCの位置に合わせてからキーを押し込みます。
2. LOCKに回し引き抜きます。



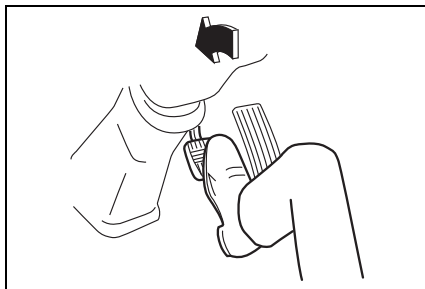
## ハンドルロック解除

ハンドルを動かしながらエンジンスイッチを回します。



## シフトレバーの動かし方 (発進時の場合)

1. 右足でブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。



2. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
3. MT車はクラッチペダルをいっばいに踏み込んで操作します。

AT車はシフトレバーを「P」から操作します。

## パーキングブレーキレバーの使い方★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### 解除のし方

ブレーキペダルを踏みます。

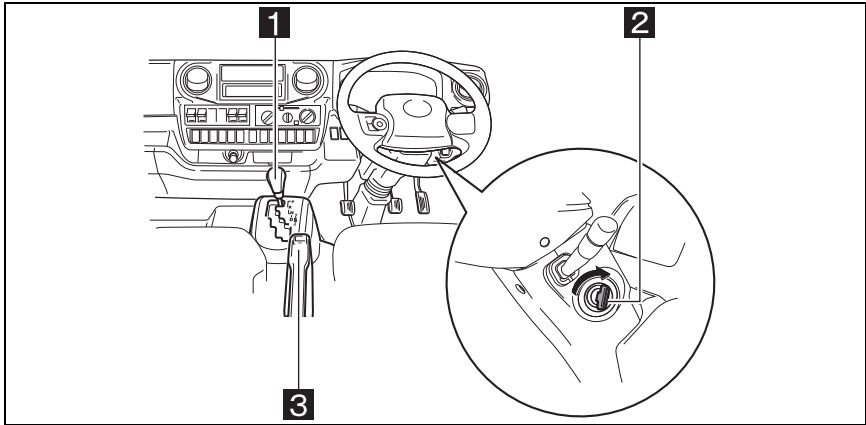
1. レバーを少し引き上げます。
2. 解除ボタンを押します。
3. 完全に下まで降ろします。同時にパーキングブレーキ表示灯ランプが消灯します。

### かけ方

右足でブレーキペダルをしっかり踏みます。

解除ボタンを押さずにレバーをいっぱいまで引き上げます。最後に「カチッ」というノッチ音がすることを確認してください。同時にパーキングブレーキ表示灯ランプが点灯します。

## 運転装置に関する詳しい紹介は

**1** シフトレバー

MT 車 (→P.5-20)

AT 車 (→P.5-22)

**2** エンジン (イグニッション) スイッチ (→P.5-8)

エンジンスイッチ






(スマートエントリー &amp; スタートシステム付き車) (→P.5-10)

**3** パーキングブレーキスイッチ (→P.5-29)

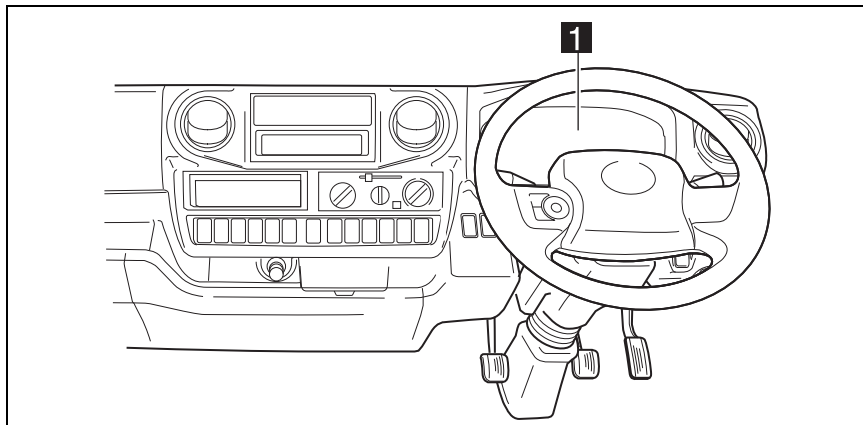
パーキングブレーキレバー★ (→P.5-29)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 警告灯が点灯または点滅したままのときは

表示	名符	警告理由
	A/T 油温	オートマチックトランスミッションフルードの温度が異常に高くなると点灯します。
	フロントディファレンシャルオイル油温	フロントディファレンシャルオイルの温度が異常に高くなると点灯します。
	ブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>リザーバータンク内のブレーキフルードが規定量以下になったとき。</li> <li>ブレーキシステムに異常があるとき。 (ブレーキ油圧加圧機能付き車)</li> </ul>
	バキューム	バキュームタンク内の負圧が低下すると点灯します。
	油圧	エンジン内のオイル圧力の異常です。
	燃料・水分離器水位	燃料フィルターに規定レベル以上の水がたまっています。
	ABS	ABS の異常です。
	充電	充電システムの異常です。
	パーキングブレーキ	パーキングブレーキに異常があると点滅します。
	シートベルト非着用 (運転席・助手席)	運転席・助手席の乗員がシートベルトを着用していません。
	SRS エアバッグ	SRS エアバッグシステムまたはプリテンショナー付シートベルトシステムの異常です。
	エンジン警告	エンジン電子制御システムなどの異常です。
	MIL	排気ガス浄化性能に影響を与える部品システム異常です。
	AHB	AHB システムに異常があると、橙色に点灯します。

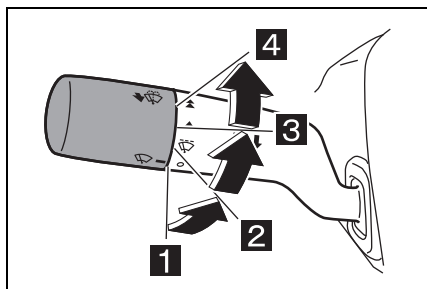
警告灯に関する詳しい紹介は



**1** 警告灯 (→P.6-34)

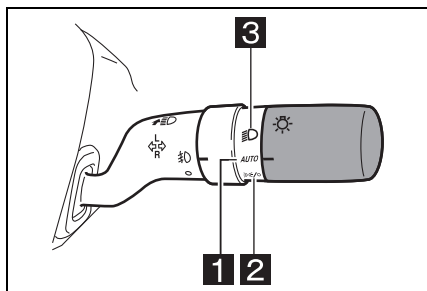
## 夜間や雨天時などの走行

### フロントワイパーの使い方



- 1** 停止
- 2** 間欠作動
- 3** 低速作動
- 4** 高速作動

### ランプの使い方

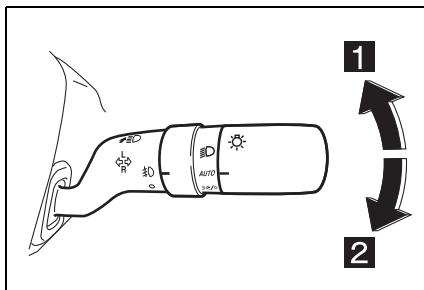


- 1** AUTO
- 2** 〇 / OFF
- 3** headlights icon

レバーを 〇 / OFF の位置へ操作し手を離すと、自動的に AUTO の位置へ戻ります。

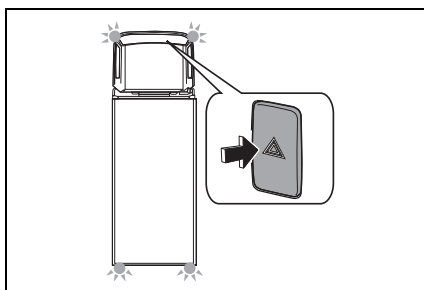
## 他車への合図

### ■ 方向指示灯

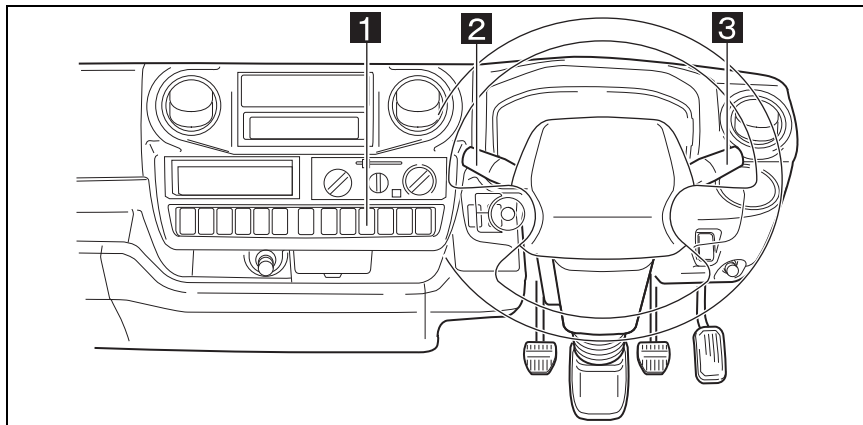


- 1** 左折
- 2** 右折

### ■ 非常点滅灯



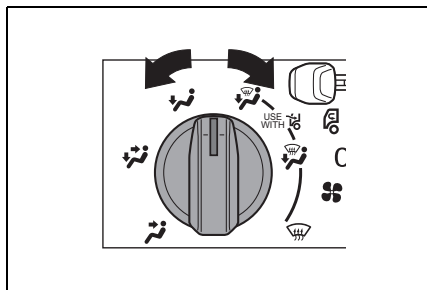
## スイッチに関する詳しい紹介は



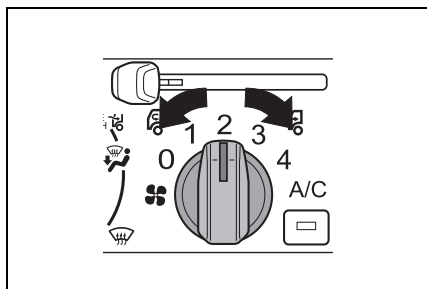
- 1** 非常点滅灯スイッチ (→P.5-48)
- 2** ウォッシャースイッチ (→P.5-40)  
ワイパースイッチ (→P.5-40)
- 3** ランプスイッチ (→P.5-42)  
方向指示レバー (→P.5-49)

## エアコンの使い方

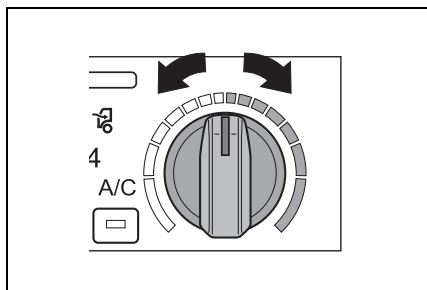
1. 吹き出し口を選択します。



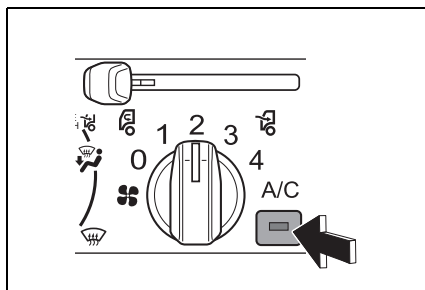
2. 風量を調整します。



3. 希望温度に合わせます。



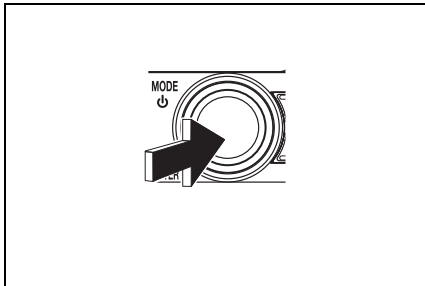
4. エアコンが作動していないときは、エアコンスイッチを押します。



## オーディオの使い方 (AM/FM ラジオ)

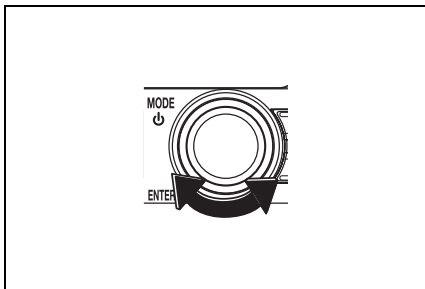
### ■ 電源の入・切

ロータリーノブを押して電源を入れます。1 秒以上押すと電源が切れます。



### ■ 音量の調整

ロータリーノブを右に回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。



## ラジオを聞くには

### ■ AM/FM 放送の切り替え

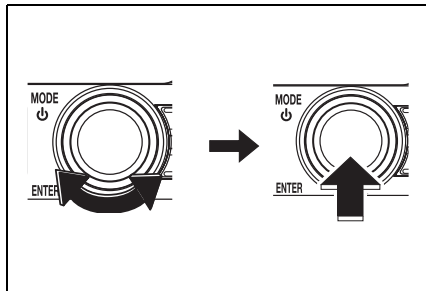
ロータリーノブを回してオーディオモードを選択し、ロータリーノブを押します。

オーディオモードは次の順序で切り替わります。

FM1 → FM2 → FM3 → USB ※1 →  
BT-AUDIO → AUX ※2 → AM1 →  
AM2 → FM1 …

※1 USB 未接続時はスキップします。

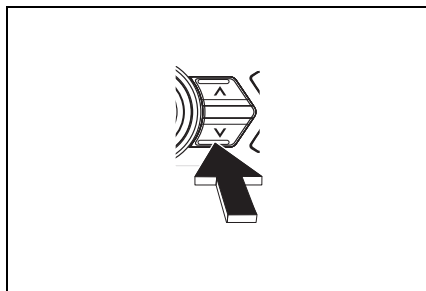
※2 AUX プレーヤー未接続時はスキップします。



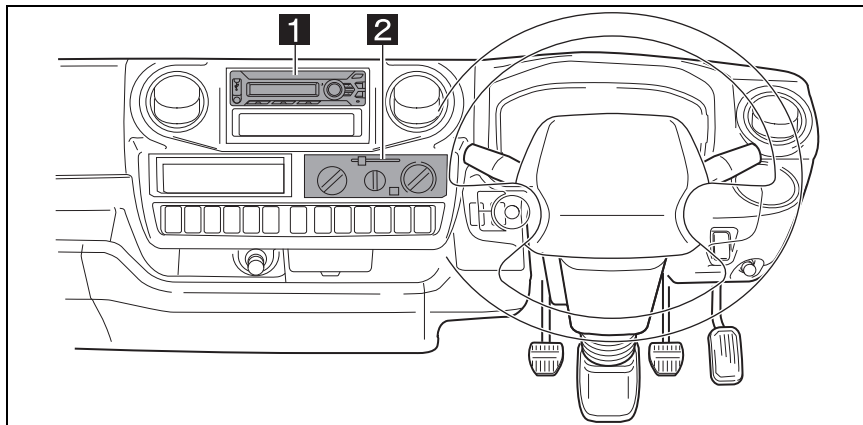
### ■ 放送局の設定（自動選局）

「Tune/Track」ボタンを2秒未満1秒以上押します。

ラジオ局の検索が始まり、ラジオ局が見つかったと停止します。



エアコン、オーディオに関する詳しい紹介は



**1** オーディオ (→P.8-5)

**2** エアコン (→P.7-3)

# 必読！安全・快適に 運転するために

## 1



運転前に .....	P.1-2
安全・快適走行 のために .....	P.1-7
ターボ車の取り扱い .....	P.1-13
オートマチック車を運転する にあたって .....	P.1-14
4WD 車の取り扱い .....	P.1-15
駐・停車するとき .....	P.1-18
お子さまを乗せるときの 気くばり .....	P.1-20
これは危ない！ 気をつけて .....	P.1-21
SRS エアバッグ について .....	P.1-25
DPR（排出ガス浄化装置）の 取り扱い .....	P.1-27
尿素 SCR（尿素選択式 還元触媒）システム .....	P.1-29
知っておいていただきたい こと .....	P.1-31
故障診断コネクタなどへの 電装品取り付けについて .....	P.1-32

## 運転前に

### ▲ 警告

- **まず、出発する前に日常（運行前）点検を（→P.12-2）**
- 日常点検や定期点検は道路運送車両法により運転者に義務付けされています。一日一回お車を運転する前に必ず日常点検を行い異常がないことを確認してください。
- 定期点検は、安全の確保、公害防止の観点から、定期的を実施する点検です。定期点検整備は、専用の設備機器、指定の油脂類、交換された部品・油脂類の適切な処理などが必要なため、トヨタ販売店にご相談ください。
- 点検整備を実施しないと、例えばエンジンオイルの不足・劣化によりエンジン内部が焼き付きなどを起こすおそれがあります。また、ブレーキパッドやブレーキディスクなど、その役割を果たすと共に摩耗していく部品については、使用限度（摩耗限度）をこえての使用は故障を引き起こすばかりか、事故に結びつくおそれがあります。
- 点検時、または前日や前回の運転で異常があったときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

### ■ 指定された燃料を

- ディーゼル車には超低硫黄軽油（S10：硫黄成分 10 ppm 以下、標準として JIS 軽油 2 号）を使用してください。ただし寒冷地では地域に合った燃料を補給してください。指定以外の燃料を補給すると、エンジンに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。また、煤煙の発生により排出ガスが悪化し、白煙の発生や触媒を劣化させる原因にもなります。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。万一誤った燃料を入れたときは、完全に抜き取ってください。
  - 指定以外の燃料を使用したために生じたエンジン損傷については保証に応じられません。
- ### ■ バイオディーゼル燃料を使用する際は最寄りのトヨタ販売店にお問い合わせください
- バイオディーゼル燃料は人体に有害です。取り扱うときは必ず保護手袋および保護メガネを着用してください。
  - エンジン損傷の原因になりますので、バイオディーゼル燃料を使用する際は、次のことを必ずお守りください。
    - ・ バイオディーゼル燃料を使用すると、従来の燃料に比べて水の蓄積が多くなります。フューエルフィルターの水抜きを確実に行ってください。水抜きを怠るとマルチインフォメーションに  を表示します。  
 が表示した場合はすぐにフューエルフィルターの水抜きを行ってください。

- ・ バイオディーゼル燃料は製造日から6カ月以内のものを使用してください。また、燃料補給後3カ月以内に使い切ってください。
- ・ バイオディーゼル燃料を使用する際は、「揮発油等の品質の確保等に関する法律」に準拠した5%以下のものを使用してください。指示されたもの以外のバイオディーゼル燃料を使用すると、エンジン損傷の原因になります。
- ・ JIS K2204 に適合していないバイオディーゼル燃料に切り替える場合は、タンクおよび配管の洗浄を行い、燃料フィルターエレメントを新品に交換してください。
- ・ 水の蓄積や微生物の発生を防ぐために、バイオディーゼル燃料の保管タンクは十分清掃してください。
- ・ エンジンオイルの量は取扱書に従い、正しく点検してください。

#### ■ 燃料添加剤や燃料水抜き剤などを使用しないでください

燃料添加剤や燃料水抜き剤、燃費向上添加剤、使用済みエンジンオイル等を使用すると、煤煙の発生やサプライポンプおよびインジェクター内の燃料潤滑部分の摺動不良により故障の原因となります。

#### ■ 燃料タンク内に燃費向上装置などを取り付けしないでください

取り付けた装置（市販品）の摩耗粉や破片などにより、サプライポンプおよびインジェクターの故障の原因となります。

#### ■ 走行前に全てのドアおよびテールゲート・サイドゲート（荷台装着車）が確実に閉まっていることを確認してください

ドアおよびテールゲート・サイドゲートが確実に閉まっていないと走行中に突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、ツールボックス装着車は、ツールボックスのフタが確実に閉まっていることを確認してください。

#### ■ 窓ごしなど車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください

思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ず運転席に座って行ってください。

#### ■ キャブチルト警告灯が点灯したまま走行しないでください

キャブが確実にロックされていないため、走行中にキャブがはね上がり、思わぬ事故や重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

#### ■ 走行する前にシートバックトレイ★が確実に固定されていることを確認してください

確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどにシートバックトレイが不意に動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

#### ■ フロントの外気取り入れ口に雪、落ち葉などが付いているときは取り除いてください

外気が導入できず、車内の換気が十分できなくなり、雨天時など車内の湿度が上がると、ガラスが曇ったりして視界が悪くなるおそれがあります。

■ 助手席やセンターシート★、リヤシート★に荷物を積み重ねないでください

● 急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員にあたり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

● 荷物は荷台または荷室に安定した状態で（例えば、荷物または荷室前方に均等に）で置いてください。

■ キャブと荷台の間に、物を置かないでください

● また、ロープやほろなどを使用する場合は、先端がたれ下がらないように注意してください。（パンを除く荷台装着車）

● ロープやほろなどの燃えやすいものがたれ下がると、エンジンや排気管の熱により引火し、車両火災につながるおそれがあります。

■ フレームの上のすき間に板などを差し込まないでください

排気管の熱で車両火災につながるおそれがあります。

■ オーバーヘッドコンソール★には、重い荷物や開口部からはみ出るような荷物を置いたり、荷物を積み重ねないでください

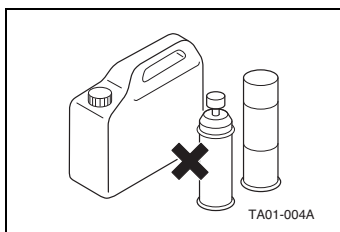
発進時や旋回時、急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出しけがをしたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ アウターミラーを格納したまま走行しないでください

アウターミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

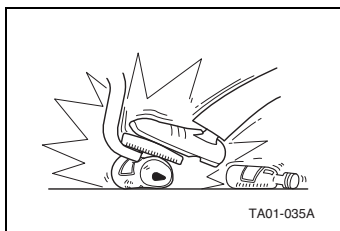
■ 燃料の入った容器やスプレー缶などはせないで

車内に燃料の入った容器やスプレー缶などを持ち込まないでください。万一の事故のとき、破裂または引火するおそれがあります。

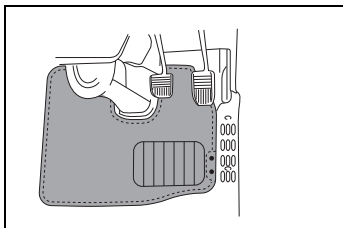


■ 運転席付近の整理整頓

ブレーキペダルやアクセルペダルの下に空缶などがはさまるとブレーキ操作ができなくなるおそれやアクセルペダルが戻らなくなるおそれがあります。空缶などがあるときは、取り除いてください。



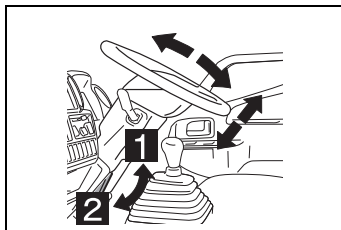
- フロアマットはお車に合ったものを正しく敷いてください。フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなどのおそれがあり危険です。また、アクセルペダルを覆ったり、重ねて敷いたりするとアクセルペダルがもどらなくなるなどのおそれがあり危険です。



- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認してください。
- 運転する前に以下のことを確認してください。
  - ・フロアマットが正しい位置に敷かれていることを定期的に確認し、特に洗車後は、必ず確認を行ってください。
  - ・エンジン停止およびシフトレバーが「N」（AT車は「P」）の位置で、各ペダルを踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

### ■正しい運転姿勢が取れるように

- シートの調整、シートベルトの調整、ハンドルの調整は停車しているときに行ってください。走行中に調整すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートの調整（→P.4-2）
  - ・シートは前後に動かし確実に固定したことを確認してください。
- ハンドル位置の調整（→P.5-33）



#### 1 解除

#### 2 ロック

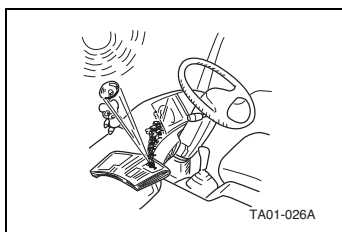
- ・ハンドルの位置は操作が最も楽な位置に調整してください。
- ・調整後は、ハンドルが確実にロックされていることを確認してください。
- シートベルトの調整（→P.4-7）
  - ・腰部のベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に着用してください。
  - ・妊娠中の方や疾患のある方も必ずシートベルトを正しく着用してください。（ただし、かかりつけの医師と相談してから使用してください）
  - ・アジャスタブルショルダーベルトアンカー★の高さは、肩部のベルトが首やあごにあたらないように調節してください。

### ■ 積荷は正しく (→P.9-13)

積みすぎや片寄った積み方は、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。決められた最大積載量を守り正しい積み方をしてください。過積載は法律で禁止されています。

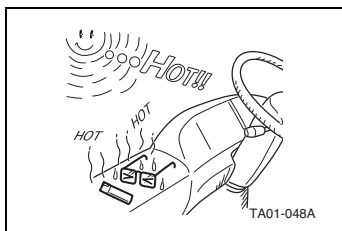
### ■ ウィンドウガラスなどにアクセサリを取り付けしないで

アクセサリ類は運転をさまたげるほか、アクセサリの吸盤がレンズの働きをして、火災の原因ともなります。



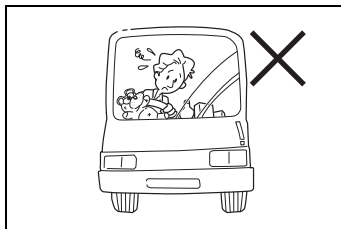
### ■ メガネやライターを放置したまま、車から離れないで

車内に放置したままにしておくと、ライターが爆発したりして火災の原因となります。また、プラスチック素材のメガネは変形・ひび割れを起こすことがあります。



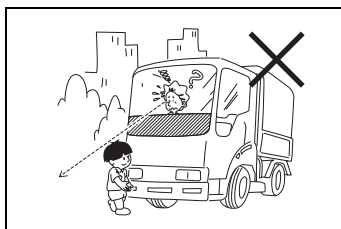
### ■ 運転のさまたげになるところには物を置かないで

インストルメントパネルやダッシュボードの上に物を置いたまま走行すると、運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いて運転のさまたげになるおそれがあります。



### ■ フロントガラスについて

装飾板を取り付けたりフィルムなどを貼らないでください。前方の視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。



### ■ エンジンを始動するときは (→P.5-29)

パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを「N」(AT車は「P」)の位置にあることを確認してください。これらの位置以外でエンジンを始動させると急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 安全・快適走行のために

## ▲警告

## ■ 渡河などの水中走行はしないでください

- 水中走行はできません。
- エアクリーナーや DPR クリーナーからエンジンに水が入るとエンジンを破損するおそれがあります。(ウォーターハンマー現象)
- 「水没・冠水したとき (→P.15-47)」を合わせてご覧ください。

## ■ 冠水路脱出後の車両点検

- 必ず下記の項目などをトヨタ販売店で点検してください。
- ・ エアクリーナーや DPR クリーナーなどに水が入っていないことを確認します。
- ・ 電気系統に浸水がないか各部を点検します。特にバッテリー前方の電装品ボックス内部の点検を行い浸水がないことを確認します。水が入っていた場合は、拭き取り乾燥させます。また、バッテリー端子部の水分も拭き取り、清浄します。
- ・ スターター、オルタネーターを分解し、内部に水が溜まっていないことを確認します。
- ・ ブレーキの効き具合を確認します。効きが悪いときは、前後の車に十分注意し低速で走行しながら効きが回復するまで、数回ブレーキを踏みブレーキの湿りを乾かします。

## ■ スタック※したときは

- スタックからの脱出をこころみるときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出の勢いで、ものを損傷させたり、人身事故を引き起こすおそれがあり危険です。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト(破裂)したり、駆動部品(ディファレンシャルギヤなど)の異常過熱により、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- スタックからの脱出のために、やむを得ず前進・後退を繰り返すときは、トランスミッションやディファレンシャルギヤなどに損傷を与えるおそれがあるため、次のことに注意してください。
  - ・ AT車はシフトレバーを「D」または「R」、MT車は「1」または「R」に確実にしてから、アクセルペダルを軽く踏んでください。また、シフトレバー操作中は絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
  - ・ 過度の空ぶかしやタイヤの空転をさせないでください。
  - ・ 過度にタイヤが空転した場合には、エンジン回転が低くなってから徐々にブレーキ操作をしてください。
  - ・ 数回行っても脱出できないときは、本操作を中止してください。
- スタック脱出には、次の方法が有効です。
  - ・ タイヤ前後の土や雪を取り除く
  - ・ タイヤの下に木や石などをあてがう


- スタックからの脱出などにけん引フックを使用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、けん引フックやロープに無理な力がかかり破損するおそれがあります。また、万一の場合、その破片が周囲の人やものにあたると重大な障害をあたえるおそれがあります。
- ・ けん引してもらった車がなかなか動かないときは、無理にけん引しないでください。
- ・ けん引は車に対してできるだけまっすぐに引っ張ってください。
- ・ けん引中は車に近寄らないでください。
- けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。無理にけん引せず、トヨタ販売店やJAFなどに依頼してください。
- ※ ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。
- **窓から手や顔を出さないでください**  
 走行中、手や顔を出していると、車外のものなどに当たったり、急ブレーキ時に頭を窓枠にぶついたりして、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- **ドアガラスなどを開けるときの閉めるときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まないように注意してください**  
 ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして、生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあります。

■ **オープントレイ・物入れ内などに転がりやすいものや凹面よりはみ出すものを収納しないでください**

急ブレーキ、急旋回したときなどに収納物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ **アッパーボックスなどのフタを開けたまま走行しないでください**

急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ **湿度が高いときにエアコンを作動させている場合は、吹き出し口切り替えレバーを  の位置にしないでください**

外気とウインドウの温度差でウインドウ外側表面が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■ **荷台または荷室には人を乗せて走行しないでください**

急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **エンジン回転中はシフトレバーを倒さないでください**

万一、ギヤが入っていると車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ **走行中にはシフトレバーを「N」にしないでください**

走行中にシフトレバーを「N」にすると、エンジンブレーキが効かなくなります。

### ■ 走行中はドアレバーを引かないでください

ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

### ■ エンストしたときは、落ち着いて操作してください

エンストしたときは、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合は、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れて操作し、周囲の安全を確かめ、路肩に寄せて停車してください。

### ■ 走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

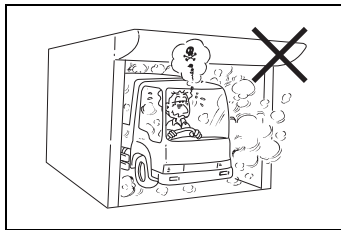
- ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 警告音は、ブレーキパッドウェアインジケーターによるもので、走行中に警告音（「キーキー」という金属音）を発生させ、ブレーキパッドが使用限度に近付いたことを運転者に知らせます。
- 警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキのパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって、思わぬ事故につながるおそれがあります。

### ■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、次のことをお守りください

- 十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

### ■ 排出ガスには十分気をつけて

- 排出ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排出ガスを吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- 換気が悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。特に車庫や屋内など囲まれた場所では排出ガスが充満し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

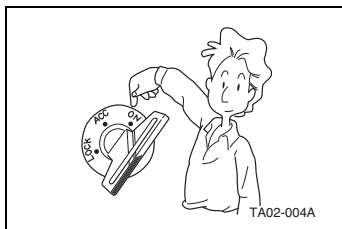


- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また排気管の異常などに気づいたら、必ずトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。そのまま使用すると排出ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

- 車内に排出ガスが侵入してきたと感じたら、すべての窓を全開にしたり、ヒーターの内外気切り替えを外気導入にするなどして、新鮮な外気を車内に入れてください。また、すみやかにトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。そのまま放置すると排出ガスによる一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

### ■ 走行中はエンジンスイッチを切らないで (→P.5-8)

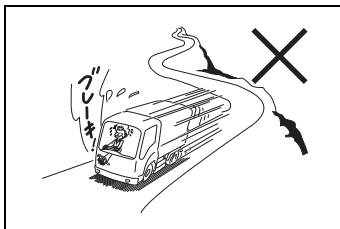
- 走行中は絶対に「ON」の位置以外にしないでください。



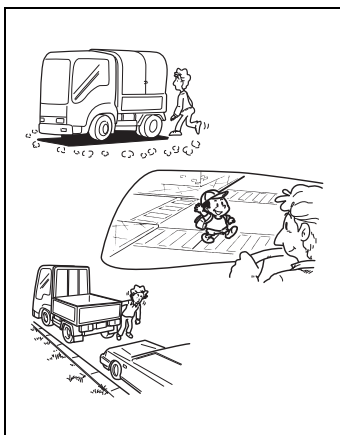
- 「ACC」の位置にするとエンジンが停止し、ハンドル操作やクラッチペダル操作が極端に重くなったり、ブレーキの効きが悪くなり危険です。また、キーを抜いたままや「LOCK」の位置にしたままで絶対に走行しないでください。ハンドルがロックされ操作ができなくなり危険です。

### ■ 坂道を下るときは (→P.9-4)

坂道を下るときは、フットブレーキにたよらず、エンジブレーキ・排気ブレーキを併用してください。ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。



### ■ 発進前の安全確認

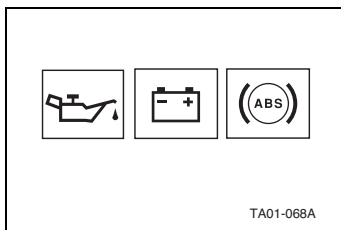


- 車の前後に人や障害物がないことをミラーだけでなく直接自分の目で見て確認してください。ミラーでは確認しきれない死角があります。
- 信号待ちなどで停車したときは、いつも周りの状況に目を配り安全を十分確認してから発進してください。
- 後退するときに十分な視界が得られない場合は、車から降りて後方に障害物がないことを確認してください。

### ■警告灯が点灯したときは（→P.6-34）

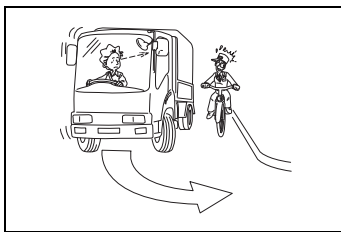
警告灯が点灯したりブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、各部を点検してください。警告灯・計器類の警報を無視して運転するとと思われる事故の原因になります。原因がわからないときや自分で整備できないときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

下記の警告灯は一例で、お車の仕様により異なります。



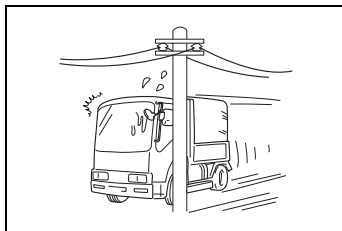
### ■カーブの手前では減速を

カーブの手前では十分に減速してください。カーブ途中での急ブレーキや急ハンドルは、荷ぐずれやタイヤスリップ、横転など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、内輪差に注意し、ミラーで左側の安全を確認し走りしてください。



### ■ミラーに気をつけて

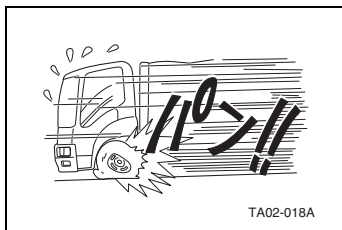
- ミラーは車体より張り出しています。狭い道路を走行するときは、歩行者などに注意してください。



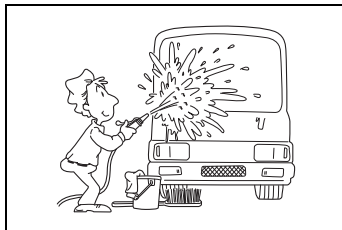
- 運転中にミラーを見ると視界が大きく移動します。前方の安全に注意しながらミラーでの確認を行ってください。

### ■走行中にタイヤがパンクやバーストしたときは（→P.13-54、15-39）

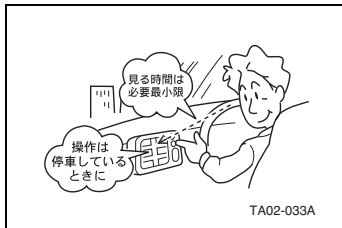
急ブレーキをかけないでください。ハンドルを強くとられ危険です。ハンドルをしっかりとって徐々にブレーキをかけてスピード落とし、安全な場所に停車してください。また、そのまま走り続けるとタイヤの過熱から出火につながるおそれがあります。



### ■洗車後や水たまりを走行した後は



- 低速でブレーキペダルの踏みおき具合を確認してください。ブレーキドラムに水が入ると効が悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 効が悪いときは、前後の車に十分注意し低速で走行しながら効が回復するまで、数回ブレーキを踏みブレーキの湿りを乾かしてください。
- カーナビゲーションシステム★をつかうときは
  - 安全のため、運転者は走行中に操作をしないでください。わき見運転や前方不注意、またはハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあります。車を停止させてから操作してください。
  - 画面を見る時間は、必要最小限としてください。



- 運転中は、携帯電話を使用しないで運転者が自動車電話や携帯電話を使用する場合は、安全な場所に停車してから使用してください。

走行中の使用は、わき見運転や前方不注意による追突事故などにつながるおそれがあるほか、法律で禁止されています。



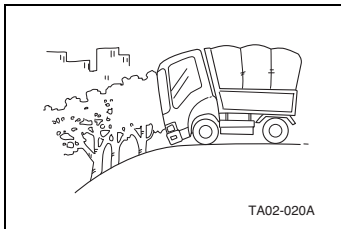
- 悪天候時の走行は（→P.9-4）

悪天候時は、速度を控えて走行してください。視界が悪くなるほか、路面が滑りやすくなるため制動距離は乾燥路よりも長くなります。また、急ブレーキ・急ハンドルはスリップしやすくなりますのでエンジンブレーキ・排気ブレーキを併用して減速してください。



## ■車を移動するときは、必ずエンジンを始動して

坂道などを利用してエンジンをかけずに移動しないでください。エンジンがかかっていないとブレーキの効が悪くなったり、ハンドルが極端に重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。



## ■排気ブレーキを作動させるとき

滑りやすい路面状態で排気ブレーキを作動させるとスリップするおそれがありますので十分注意してください。

### ⚠ 注意

#### ■冷凍コンプレッサ使用時の注意点

エンジンがアイドル状態の時、バッテリーの放電を防ぐため、冷凍機の作動時にアイドル回転数を上げる回路が装着されています。

冷凍コンプレッサ使用時に規定のアイドル回転数となっていることを確認してください。異常時はトヨタ販売店もしくは架装メーカーへ入庫し、点検整備を実施してください。

## ターボ車の取り扱い

### 📖 知識

#### ■ターボ装置とは

エンジンに大量の空気を過給してエンジンからより大きな馬力を引き出すので、非常に精密に作られています。

#### ■ターボ車の点検手入れはしっかりと

ターボ装置は毎分 10 数万回転におよぶ高回転、700 °C 以上の高温下で使われ、その潤滑と冷却はエンジンオイルと冷却水で行われています。

### ⚠ 注意

#### ■エンジンが冷えているときは空ぶかしや急加速は絶対に行わないで

始動直後に空ぶかしや高速回転をさせないでください。エンジンの不調や故障の原因になります。また、燃料の無駄使いにもなります。

#### ■マフラーなどには指定以外の部品を使わないで

ターボ装置の故障の原因になります。

#### ■ターボ車の運転について

●水温計の指針が動き出すまで暖機運転を行ってください。

●登坂や高速走行後は、アイドル運転を行いターボチャージャーを冷却してからエンジンを停止してください。

#### ■ターボ車の点検手入れはしっかりと

●ターボ性能を保つためには、トヨタ純正エンジンオイル、オイルフィルターなどの定期的な交換、そしてエアクリナーの定期的な清掃と交換が必要です。

- シビアコンディション時を除きエンジンオイル、オイルフィルターは15,000km 走行ごとに必ず交換してください。

## オートマチック車を運転するにあたって★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### アドバイス

#### ■ オートマチック車の運転操作方法を十分理解して

オートマチック車固有の特性がありますので運転操作方法を十分理解して正しく操作してください。

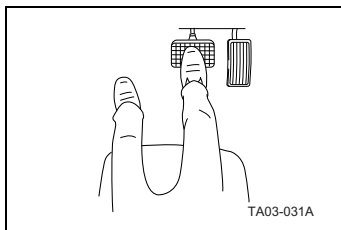
### 知識

#### ■ オートマチック車の発進時のシフトチェンジはブレーキペダルを踏んだままで（→P.5-22）

- ブレーキペダルを踏んだままでないと「P」位置からシフトできません。
- レバーを「R」位置に入れるとブザーが鳴ります。  
バックブザー減音スイッチが操作されている（表示灯が点灯している）ときは、車外のバックブザーは通常より小さい音で鳴ります。

### 警告

- 発進時のシフトチェンジはブレーキペダルを踏んだままで（→P.5-22）
- エンジン回転が高いときは、ブレーキペダルを踏んでいない状態で「D」・「S」または「R」位置に入れると急発進するおそれがあり危険です。



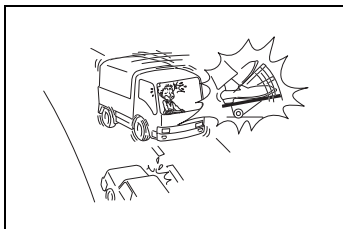
TA03-031A

● 発進時には必ずブレーキペダルを踏んだまま「P」または「N」位置から「D」または「R」位置にシフトしてください。

● シフト位置を確かめ、周りの安全を確認してから発進してください。

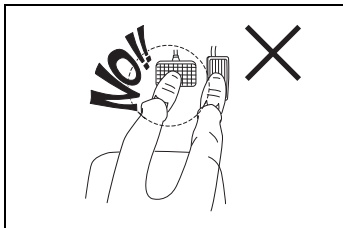
### ■ぬれた路面・凍結路などでは

アクセルペダルをいっぱい踏み込むと自動的にシフトダウンしますので滑りやすい路面ではアクセルペダルを急激に踏み込まないでください。タイヤが空転し、車の方向性を失うおそれがあります。



### ■ブレーキペダル操作は必ず右足で (→P.5-19)

右足をアクセルペダルにのせたまま、左足でブレーキペダル操作をすると、ブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキパッドまたはライニングの摩耗を早めるおそれがあります。

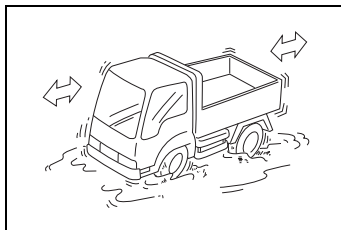


## 4WD 車の取り扱い

### 知識

#### ■スタック（立ち往生）したら

タイヤの下に石や木などをあてがい脱出するか、前進・後退を繰り返し慣性を利用して脱出します。また、ぬかるみがひどいときは、タイヤチェーンを利用するのも効果的です。



#### ■急坂路を上るときは

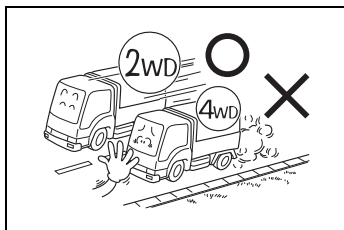
上る前にあらかじめ路面の状態を確かめ、凹凸の少ないところを選びます。上り始めと終わりは、なだらかな斜面を選んでください。

#### ■急坂路を下るときは

下る前にあらかじめ路面の状態を確かめ、斜度に合った変速ギヤを選びます。下る途中での変速やクラッチ操作は避けてください。

**▲ 警告****■ 乾燥した舗装路面および高速道路を走行するときは**

必ず2WD（後輪駆動）で走行してください。4WD（4輪駆動）で走行すると駆動系部品に悪影響をあたえ、駆動系のオイル漏れや焼き付きなどにより、思わぬ事故につながるおそれがあります。

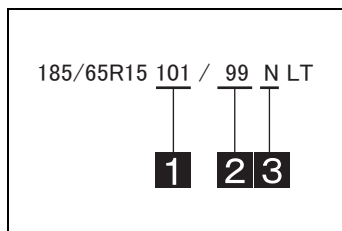
**■ 雪路走行は、4WD（4輪駆動）で慎重に走行してください**

アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同様に慎重に行ってください。急な操作は思いがけない事故やスタック（立ち往生）のおそれがあります。

**▲ 注意****■ タイヤを交換するときは**

● サイズ、メーカー、銘柄およびトレッドパターン（溝模様）の異なったタイヤを混ぜて使用したり、指定サイズ以外のタイヤを装着すると、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。

● 交換後のタイヤはロードインデックスと速度記号が交換前のタイヤと同一またはそれ以上になるタイヤを使用してください。



**1** ロードインデックス  
（単輪使用時）

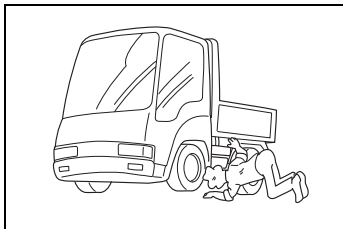
**2** ロードインデックス  
（複輪使用時）

**3** 速度記号

- ・ スペアタイヤは前輪または後輪と同一サイズを装備しています。交換時は同一サイズのタイヤを装着してください。
- ・ 前後輪の指定サイズが異なる場合、必ず前後ともに指定サイズのタイヤを使用してください。
- 次の場合も、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。タイヤ空気圧の点検を行ってください。
  - ・ 空気圧の差が著しいとき
  - ・ 空気圧が指定値から外れているとき
- タイヤを交換するときは、次の事項を必ず守ってください。
  - ・ トヨタ販売店に相談する。
  - ・ ノーマルタイヤ・冬用タイヤを装着するときは、全輪とも指定サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着する。
  - 異常のあるタイヤを装着しない。

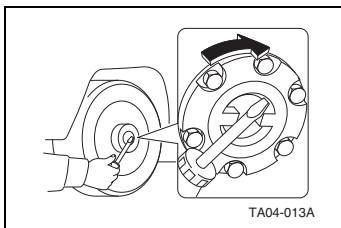
### ■ ラフロード走行後は、各部点検を忘れずに行ってください

路面の凹凸などで損傷した箇所はないか下周りなどを入念に点検してください。



### ■ 4WD（4輪駆動）走行時は（→P.5-80）

- 必ず左右のフリーホイールハブを両方とも「LOCK」の位置に合わせてください。「FREE」の状態では4WD（4輪駆動）への切り替えを行わないでください。異音が発生したり、故障の原因となります。



- 左右のフリーホイールハブが「LOCK」されていないと、4WD 切り替えスイッチを操作し表示灯が点灯した状態でも車両は4WD（4輪駆動）にはなりません。

### ■ 4WD 車について

4WD 車といっても万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心掛けてください。

4WD 車は、あくまで一般走行が目的で不整地、悪路走行を目的としてはおりません。

### ■ 4WD（4輪駆動）から2WD（後輪駆動）への切り替え操作をしたときに

表示灯が消灯しないときは、周囲の安全を確認して加減速または後退を行ってください。

## 駐・停車するとき

### ▲警告

#### ■シフトレバーの「P」位置への操作は車両が停止してから

●車両が完全に停止する前にシフトレバーを「P」位置にしないでください。トランスミッション部品の破損あるいは事故による重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。駐車の際には車両が完全に停止したことを確認した後、必ずパーキングブレーキを確実にかけてから、シフトレバーを「P」位置に操作して下さい。

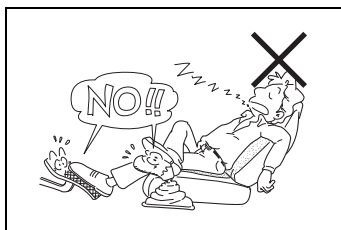
●車両が完全に停車しない状態でシフトレバーを「P」位置に操作した場合、ブザーが鳴ります。車両を完全に停車させ、必ずパーキングブレーキを確実にかけてから、シフトレバーを「P」位置に操作して下さい。

#### ■パーキングブレーキは確実にかけて

パーキングブレーキは確実にかけ、コンビネーションメーターに内蔵されている表示灯が点灯していることを確認してください。

#### ■エンジンをかけたまま運転席で仮眠しないで

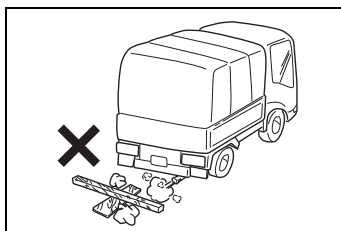
●仮眠するときは、必ずエンジンを止めてください。眠っているときに無意識にアクセルペダルを踏み込んだりシフトレバー（装着車）を動かしたりして、事故やエンジン・排気管などの異常過熱による火災の原因になり危険です。



●風通しの悪い所で駐停車しないでください。周囲の状況によっては、排出ガスが車内に侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

#### ■燃えやすい物の付近に車を止めないで

枯草や紙くずなど燃えやすい物がある場所に車を止めないでください。走行直後やDPR再生中は排気管やマフラー付近が高温になっています。燃えやすい物が近くにあると火災の原因になります。

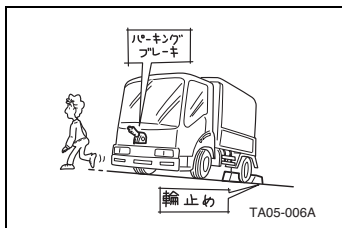


## ■ 坂道駐車は確実に

- 坂道の駐車は避け、平らな場所を選んで駐車してください。坂道に駐車すると、駐車中に車が動き、事故につながるおそれがあります。
- やむを得ず坂道に駐車するときは、パーキングブレーキを確実にかけ、車が動かないことを確認してからタイヤの前後に輪止めをかけてください。
- パーキングブレーキレバー★の引きしろは適正に調整してください。引きしろが多いと駐車の際に引っばいに引けなくなります。(→P.12-13)

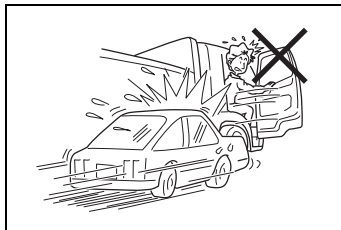
## ■ お車から離れるときは

- パーキングブレーキを確実にかけ、エンジンを止めドアは施錠してください。坂道に駐車するときや長時間の駐車はタイヤの前後に輪止めを併用してください。無人で車が動いたり車両盗難のおそれがあります。また、施錠していても車内に貴重品をおいたままにしないでください。

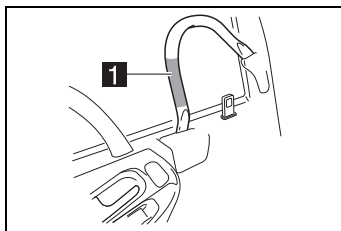


## ■ ドアを開けるときは (→P.3-10)

いきなり開けると後続車や歩行者などにぶつかるおそれがあります。前後の安全を十分確かめてから開けてください。



- ドアを閉める際は、ラベル部を握らないで下さい。周辺部品とグリップが狭く、手を挟む恐れがあります。推奨握り位置を握り、ドアを閉めて下さい。



## 1 推奨握り位置

## ⚠ 注意

- パーキングブレーキレバー★を引っばいに引いた際、最後に「カチッ」というノッチ音を確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

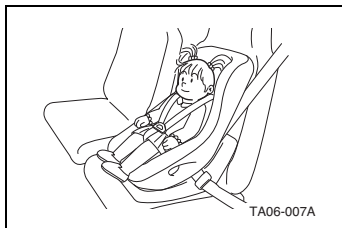
## お子さまを乗せるときの気 くばり

### ▲ 警告

#### ■ お子さまをひざの上で抱いて乗せない てください (→P.4-2)

ひざのうえにお子さまを抱いていても、急ブレーキや衝突したときなどに十分に支えることができずお子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

#### ■ お子さまにもシートベルトまたは チャイルドシートを (→P.4-7)



● シートベルトが首やあごにあたる場合や腰骨にかからないような小さなお子さまには、年令や体の大きさに合った子供専用シート（ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシート）をご使用ください。子供専用シートをご使用なるときは、必ず商品に付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってご使用ください。

● お子さまはリヤシートに座らせてください。

#### ■ 助手席 SRS エアバッグ装着車

● 助手席 SRS エアバッグ装着車では助手席ベビーシートを取り付けたりチャイルドシートを後ろ向きに取り付けたりしないでください。

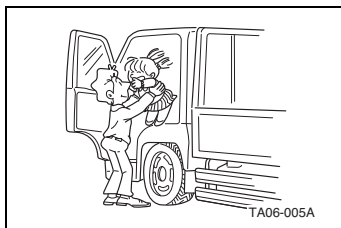
● 助手席 SRS エアバッグ装着車で、やむを得ず助手席にお子さまを乗せるときでも、必ずシートベルトまたはチャイルドシートを着用させ、シートに深く腰かけて、背もたれに背中がついた正しい姿勢で座らせてください。SRS エアバッグがふくらんだときの強い衝撃で生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。

#### ■ パワーウィンドウなどはお子さまに 操作させないで (→P.3-15)

パワーウィンドウは必ずウィンドウロックスイッチを使用し、運転席側で操作してください。

お子さまが操作すると、手や頭などをはさんだり思わぬケガをするおそれがあります。

#### ■ 車から離れるときは、お子さまを車 内に残さないで



● お子さまのいたずらにより車が発進したり火災を起こすなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

● 炎天下の車内は高温となり熱中症になるなどのおそれがあります。

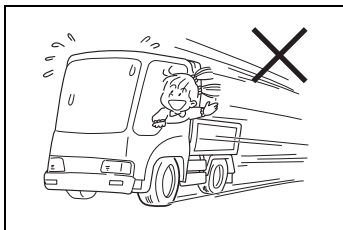
#### ■ 運転装置や装備品には触れさせない で

● お子さまのいたずらなどにより、思わぬ事故や故障の原因になります。

- パワーウィンドウ装着車は、ウィンドウロックスイッチを使用して、お子さまが誤って操作しないようにしてください。また、ドアガラスを開けるときや閉めるときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まないように注意して操作してください。

#### ■ 窓から手や顔を出させないで

車外の物などに当たったり、急ブレーキ時に生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。

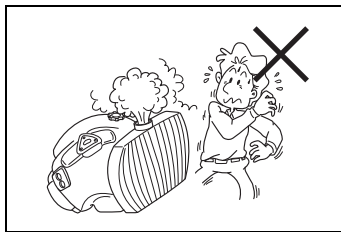


## これは危ない！気をつけて

### ▲ 危険

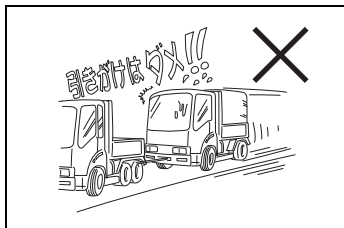
- 点検整備を行うときは（→P.13-3）
- 点検・取り扱い時には、端子部との接触によるショートが起きないように十分注意してください。感電、爆発などのおそれがあり非常に危険です。
- バッテリーからは引火性の水素ガスが発生していますので、バッテリーの近くで火花を飛ばしたりタバコの火などの火気を近づけたりしないでください。バッテリーから発生する水素ガスに引火すると爆発するおそれがあり非常に危険です。
- ラジエーターキャップに気をつけて（→P.13-28）

ラジエーターキャップが熱いときは、キャップを外さないでください。熱湯・蒸気が噴き出して、やけどをするおそれがあり危険です。また、ラジエーターキャップは確実に締めてください。



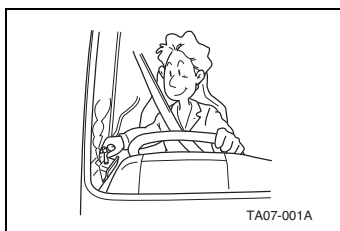
■ バッテリーがあがったときは  
(→P.15-41)

- 引きがけや坂道で車を動かしてエンジンをかけないでください。追突事故につながるおそれがあり危険です。



▲ 警告

■ 灰皿を開けたままにしないで  
(→P.8-45)

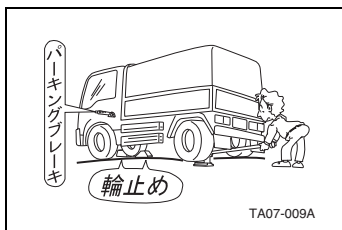


- マッチ・タバコなどの火は消してから灰皿の中に入れてください。火のついたままに入れると吸いながら燃え移り火災の原因になります。
  - 使用後は必ずふたを閉めてください。
  - 灰皿の中には吸いながら以外の物を入れしないでください。特に紙くずや空箱など燃えやすいものはタバコの火が燃え移り火災の原因になります。
  - 灰皿の中には吸いがらをためすぎないでください。
  - 火のついたタバコや吸いがらなどは、絶対に窓の外に投げ捨てないでください。道路を汚すばかりでなく、捨てたタバコや吸いがらが、火災の原因になります。
- バッテリーがあがったときは  
(→P.15-41)
- ブースターケーブルで他車のバッテリーと接続するときは、故障車と同じ電圧の車を使用してください。

## ■ ジャッキは正しい位置で

(→P.13-42)

地面がかたい平坦な場所を選んでください。また、パーキングブレーキを確実にかけ、ジャッキアップ軸以外のタイヤの前後に輪止めを掛けてください。坂道および地面の柔らかいところでは、ジャッキが傾いたり滑ったりして車が落下し思わぬ事故につながるおそれがあります。



## ■ 電飾品を取り付けるときは

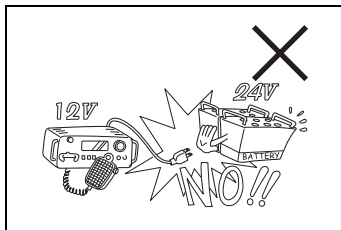
- 市販の電飾品を取り付けるために勝手に配線すると装置の誤作動や電線の過熱により火災の原因になります。
- 電装品（無線機、オーディオなど）を取り付ける際は、トヨタ販売店にご相談ください。

## ■ DC/DC コンバーターについて

- 車両に搭載されている DC/DC コンバーターを電装品の電源として使用しないでください。過電流による DC/DC コンバーターの出力停止が原因でエンストするおそれがあります。
- 車両に搭載されている DC/DC コンバーターの取り付け位置を変更しないでください。ポデーアースを使用しており、取り付け方によっては、DC/DC コンバーターの出力が安定しなくなり、エンストするおそれがあります。

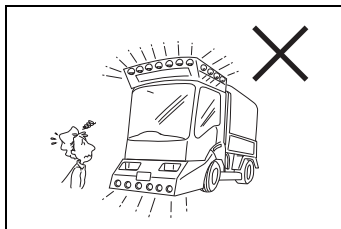
## ■ 無線機について

- 電源に注意（V 数の異なる仕様の無線機は直接取り付けることはできません）



- コンピューターやハーネスからできるだけ離して取り付けないと電子部品が誤作動を起こすことがあります。

## ■ 不正改造はしないで



- トヨタが国土交通省に届出をした部品以外の物を取り付けたり、部品を取り外すと法規違反になることがあります。
- トヨタ純正部品以外の部品を取り付けると、車の性能や機能を損なうことがあり、故障や事故の原因になります。アクセサリを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 車高を落したり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし重大な傷害を受けるか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

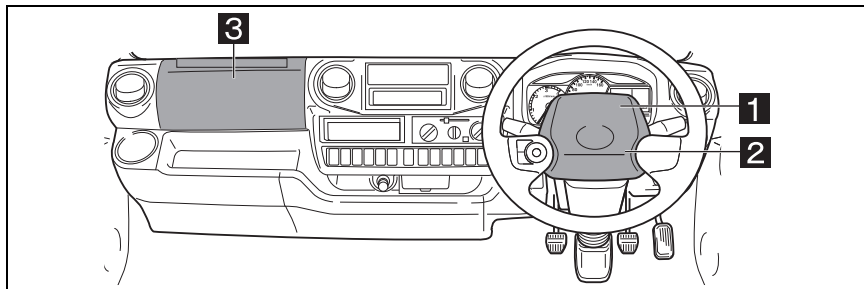
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。SRS エアバッグ装着車はハンドルに SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・ タイヤ、ディスクホイール、ホイール取り付けナット・ボルトの交換異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行中に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・ 電装品、無線機などの取り付け、取り外し  
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯、ライトセンサー及び関連回路は改造しないでください。
- 車幅灯（尾灯と番号灯は除く）及び制動灯を増設する場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 方向指示灯を増設する場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- フロントガラスおよび運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界を妨げるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

#### ■ 荷台について

- 荷台のテールゲートやサイドゲートを降ろしたまま走行しないでください。降ろしたまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。また、排気管からの熱でサイドゲートを損傷するおそれがあります。

## SRS エアバッグについて

SRS エアバッグは、運転者または助手席乗員（助手席 SRS エアバッグ装着車）に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて、運転者、乗員の頭や顔などの上体に作用する衝撃力を分散、緩和させる機能があります。



### ▶ 運転席

#### 1 展開部

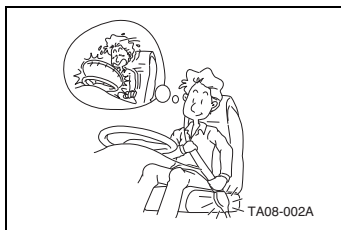
#### 2 パッド部

### ▶ 助手席

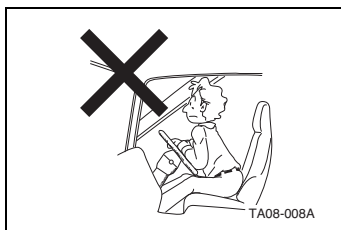
#### 3 展開部

### ▲ 警告

- シートベルトを必ず着用してください。（→P.4-7）
- SRS エアバッグはシートベルトの補助拘束装置であり、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトを正しく着用しないと、衝突や急ブレーキなどで前方に放り出されたと同時に、SRS エアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け生命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



### ■ 正しい姿勢で（→P.4-2）

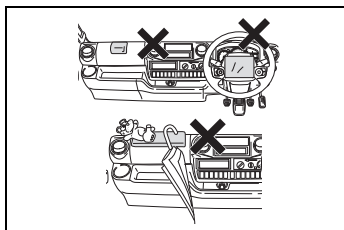


- シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。SRSエアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車しているとSRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。
- 運転者は正しい運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近づきすぎないように座ってください。

### ■ SRS エアバッグの作動について

- 助手席 SRS エアバッグ装着車では、助手席乗員は助手席 SRS エアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シート前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったり、足を乗せたりしないでください。
- ひざの上に物をかかえるなど乗員とSRSエアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグがふくらんだときに物が飛ばされたり、正常な作動をさまたげたりして危険です。

### ■ SRS エアバッグ展開部に物を置かないでください



- カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。

- SRSエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどでおおわないでください。
- 助手席 SRS エアバッグ装着車では、インストルメントパネル上部に芳香剤など物を置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席 SRS エアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。
- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

### ■ お子さまを乗せるときの注意

- 必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとSRSエアバッグがふくらんだときの強い衝撃でお子さまの生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ダブルキャブ車ではお子さまはリヤシートに座らせて必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、ベビーシート・チャイルドシート・ジュニアシートなどの子供専用シートをリヤシートに装着してご使用ください。
- 助手席 SRS エアバッグ装着車では、助手席にはベビーシートなどうしろ向き装着の子供専用シートは絶対に取り付けしないでください。助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまをSRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

### ■車やSRSエアバッグを修理や廃棄するときの注意

- SRSエアバッグが収納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずケガをするおそれがあります。
- SRSエアバッグにかかわる改造や修理を行う場合は、トヨタ販売店にお申し付けください。
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけなく作動し、ケガをするおそれがあります。

## DPR（排出ガス浄化装置）の取り扱い

フィルターに捕集したススが一定量堆積すると（一般道走行では約150～200km<sup>※</sup>）自動的に捕集したススを燃焼（再生）するクリーニングモードとなります。排出ガス浄化装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

※ お客様の走り方によって距離は異なります。

### アドバイス

#### ■自動的に捕集したススを燃焼（再生）します

- 排出ガス浄化装置に捕集したススを燃焼（再生）するため、クリーニングモード中は車両が信号待ちなどで停車したときにアイドル回転数が上がり排気ブレーキが作動します。
- 車両をアイドルリング状態で長時間放置すると白煙排出防止のためアイドル回転数が上がり、排気ブレーキが作動することがあります。
- 運転条件によっては、排出ガス浄化装置内に捕集したススの燃焼（再生）が完了しない場合があります。このときはスイッチ内蔵の表示灯とメーターパネル内の表示灯が常時点滅します。安全な場所に停車し、アイドルリング状態で排出ガス浄化装置スイッチを押して、ススの燃焼（再生）を行ってください。

#### ■次のような特徴があります

- 排出ガス浄化装置により、排出ガスを浄化して放出するため、従来のディーゼル車とは排出ガスの臭いが異なります。

- 始動時に排気管から白い煙が出ることがありますが、これは水蒸気ですので異常ではありません。
- ススの燃焼（再生）中およびアイドルリング状態での長時間放置時にマフラーの周辺から白い煙が出ることがありますが、これは水蒸気ですので異常ではありません。

## 知識

### ■ DPR とは

Diesel Particulate active Reduction system の略で DPR- クリーナー内に排出ガス中のススが一定量堆積すると自動的に捕集したススの燃焼（再生）処理を行います。これにより、ススなどが異常に堆積するのを防ぎ、DPR の浄化能力を常に良好に保ちます。また、高性能触媒と電子制御コモンレール式燃料噴射システムの採用により、走行中にススの燃焼（再生）処理を可能としています。

## 警告

### ■ 指定以外の燃料を補給しないでください

燃料は超低硫黄軽油（S10：硫黄成分 10 ppm 以下）を使用してください。

### ■ 枯草や紙くずなど燃えやすい物がある場所に車を停めないでください

走行直後やクリーニングモード中は排気管やマフラー付近および排出ガスが高温になっています。燃えやすい物が近くにあると火災の原因になります。また、高温の排出ガスによりやけどをするおそれがあります。塗装されている路面に停車している場合、路面が変色するおそれがあります。

## 注意

### ■ 指定（推奨）銘柄のエンジンオイルを使用してください

排出ガス浄化装置の機能を長期間維持するために指定（推奨）銘柄のエンジンオイルをお使いになることを推奨します。

### ■ 排気管の改造はしないでください

排気管の向きや長さを変更すると排出ガス浄化装置に悪影響をおよぼすおそれがありますので、排気管の改造は行わないでください。

## 尿素 SCR（尿素選択式還元触媒）システム

尿素 SCR（尿素選択式還元触媒）システムは、マフラー内に AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）を噴射することにより排出ガス中の有毒な NOx を水と窒素に分解して、NOx を低減します。

AdBlue<sup>®</sup>（アドブルー）はドイツ自動車工業会の登録商標です。

### アドバイス

#### ■ アフターランについて

- エンジンが停止した後にアフターランが作動すると、ポンプの駆動音が聞こえます。
- メンテナンスを行う際は、アフターランが終了した後に作業してください。

### 知識

#### ■ アフターランとは

AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）の噴射が終了した状態では、尿素水ポンプや配管の中に AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）が残ったままとなっています。それらに残った AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）が寒冷時に凍結したり、乾燥して結晶化しないよう、エンジン停止後、AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）をタンクへ引き戻すシステムです。

#### ■ 寒冷時の AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）解凍・保温システムについて

- AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）解凍システム

AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）は -11℃以下で凍結します。低温時でも尿素 SCR システムが正常に作動するように電気ヒーターを用いて尿素水タンク、尿素水ポンプおよび尿素水配管の解凍と保温を行う装置が搭載されています。

- 解凍

エンジン始動時に各温度センサーにて AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）が凍結していると判断した際は、電気ヒーターを用いてタンク、ポンプおよび配管の解凍を行います。その際、凍結した AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）がポンプや配管内を傷めないよう尿素水ポンプは停止しています。

- 保温

システム作動中に温度低下が起こり、AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）が配管内で凍結する可能性があるると判断した際は、電気ヒーターを用いてタンク、ポンプおよび配管の保温を行います。尿素水ポンプは、排出ガスを浄化するため稼働しています。

#### ■ AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）の保管方法

- AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）は、直射日光の当たらない風通しの良い場所で、容器を密閉した状態で保管してください。
- 高温となる場所での保管は AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）の寿命が低下する原因となります。30℃以下の場所での保管が好ましい条件です。

## ⚠️ 注意

### ■ 装置の故障を防ぐために、必ず以下の点をお守りください

#### ● 使用する AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）

必ず日本工業規格（JIS）に適合した AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）を使用してください。

#### ● 指定の AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）以外を補給しないでください。（→ P.6-54）

AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）以外のものや水で薄めた AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）をタンクに入れると排出ガスが悪化するだけでなく尿素水ポンプや尿素水インジェクター故障の原因となります。誤って指定の AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）以外のものを入れた場合は、最寄りのトヨタ販売店に連絡し、指示を受けてください。また、指示があるまでエンジンスイッチを「ON」の位置に回さないでください。

### ■ アフターラン作動時について

#### ● アフターランが終了するまで尿素 SCR システムは作動しています。

- ・ エンジン停止直後にバッテリーを切ったり、ハーネスなどのコネクタを外さないでください。
- ・ AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）の配管を外さないでください。

### ■ AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）解凍・保温システムについて

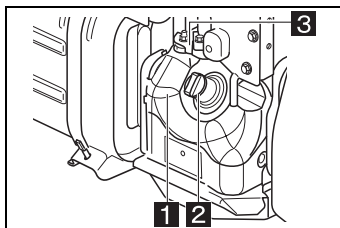
外気温度センサー、尿素水タンク温度センサーおよび尿素水ポンプの温度をもとに AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）の温度が算出されるため、車両付近に熱源物を近づけないでください。解凍・保温システムが作動しないおそれがあります。

### ■ AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）の保管方法

- AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）は、-11℃で凍結します。凍結による体積膨張で、容器を破損するおそれがありますので、満水位以上の保管はしないでください。
- AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）を、他の薬剤と混合したり、加熱したり、希釈しないでください。

### ■ 尿素水タンクについて

荷台昇降時、尿素水タンクやフィルターキャップ、DCU に足をかけないでください。破損の原因となります。



**1** 尿素水タンク

**2** フィルターキャップ

**3** DCU

## 知っておいていただきたいこと

### ■ データロガー

お車には一部の車両を除きデータロガーが装備されています。データロガーは車両の走行データを集計し記録するものです。タコグラフやドライブレコーダのように車両の状態を時間の経過に沿って常時記録し続けるものではありません。

データロガーは主に次のようなデータを記録します。

- 車両の一部のシステムの作動状態（PCS等）
- 車両の車速やエンジン回転数などの頻度情報

### ■ データの取り扱いについて

車両をご安心にご利用いただくために、トヨタ自動車は記録されたデータをソフトウェアのセキュリティ分析を目的として、取得・利用することがあります。

当社の個人情報保護方針に従い、適正に取り扱います。

詳細につきましては当社ホームページで公表している「個人情報の取り扱い」をご確認ください。

### ■ ソフトウェアアップデートについて

機能改善などを目的としてソフトウェアをアップデートする場合があります。アップデート内容についてご確認したい場合は、トヨタ販売店にお申し出ください。

### ■ サイバー攻撃のリスクについて

- 電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関して日野自動車は保証いたしません。
- 他車両から外した電子機器や無線機を取り付けるとサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。他車両から外した部品は取り付けないでください。
- 施錠しない状態での駐車や不特定の人が容易に触れることが可能な状態での車両の長期保管は意図せぬ不正機器の取付や改造のリスクにつながります。車両の施錠及び防犯対策をお願いいたします。

## 故障診断コネクタなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクタなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

## お車をたいせつに

## 2

保証について .....	P.2-2
車の点検について .....	P.2-3
新車時の取り扱い .....	P.2-5
車台番号・エンジン番号 .....	P.2-6

## 保証について

お買い上げいただいたお車は、高度の技術と徹底した品質管理のもとに製造しておりますので、性能と機能ともに十分お客様にご満足いただけるものと確信しております。しかし、万一材料または製造上の不具合がありました場合、保証書に記載されている範囲内において無料で整備させていただきまますので保証書をご持参のうえ、トヨタ販売店にお申し付けください。保証書は「メンテナンスノート」にとじ込まれています。

## 点検整備と取り扱いについて

取り扱いの不注意による故障、および「メンテナンスノート」に定められた点検整備を怠ったために生じた故障については保証に応じられません。日頃から正しい取り扱いと点検整備を実施してください。

## 保証の対象外

### ■ 純正品以外の部品の使用による故障

純正以外の部品、油脂類および追加装着部品の使用による故障については保証できません。

### ■ 不正改造による故障

法律で定められている基準に適合しなくなるような改造（用品類の不正な取り付け方も含みます）は禁止されています。したがって、これらに伴う故障についても保証できません。

### ■ 燃料

エンジン性能を確保するため指定された燃料のみ使用してください。不適切な燃料の使用によるエンジン故障の場合は保証を受けられません。

## 純正部品について

部品、油脂類などを購入するときは、「トヨタ純正部品」をご指定ください。「トヨタ純正部品」は、弊社がその品質を保証しておりますので、安心してご使用いただけます。

## トヨタのサービス網

- 別冊の「メンテナンスノート」には、全国のトヨタ販売店の所在地が記載されています。
- 点検整備や一般整備は、トヨタ販売店をご利用ください。

## 車の点検について

お車の性能を維持し、いつも安全・快適に、また末永くご使用いただくためには、予備整備として定期的な点検・整備を実施していただくことが大切です。

### 日常（運行前）点検

1日1回お車を運転する前に必ず日常点検を行い、異状がないことを確認してください。（→P.12-1）

簡単な点検により、常にお車の状態を知っておくと、思わぬトラブルを未然に防止できます。なお、「日常点検」は法律で義務づけられています。

### 新車時点検

ご使用開始後 1,000 km と 5,000 km 走行時の 2 回については、「点検整備記録簿」にもとづき工賃無料（油脂液代・部品代などは有料）で点検・調整をいたします。

別冊の「メンテナンスノート」をご持参のうえ、トヨタ販売店にお申し付けください。

なお、お車の性能維持のためにも、「新車時点検」時に、次のオイル交換をお勧めします。

- 1,000 km 時：エンジンオイル
- 5,000 km 時：パワーステアリングフルード

## 定期点検

- 定期点検では法令で定められた期間（自家用自動車は6カ月ごと・12カ月ごと、事業用自動車は3カ月ごと・12カ月ごと）での実施が義務づけられています。また、法定点検に加え弊社では一部のメーカー指定点検項目を定めてあります。
- 別冊の「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿にしたがって実施してください。
- 走行距離（稼働時間）ごとに行う点検整備
- 油脂液類・エレメント類は使用期間よりも走行距離に大きく影響されますので、使用期間とは別に走行距離ごとの点検・交換（有料）を行ってください。

## 定期交換部品

自動車部品のうち安全上重要なゴム部品などは、時間の経過とともに材質が変化して劣化が進みます。

定期点検時は、いつまで安全に使用できるか予測がしにくいものです。

お車の機能、性能と安全を保持するために重要な役割をもっている部品ですから、弊社が指定する期間ごとに定期交換を行ってください。

この定期交換部品および時期は、別冊の「メンテナンスノート」に詳しく記載してありますのでご覧ください。

## 点検・手入れ

- お車の性能を維持していただくために、「メンテナンスノート」に定められた定期点検項目のうち、車両の構造と装置の基礎知識があれば皆様にもできる点検項目について、また、お車を快適にお使いいただくための点検・手入れについてまとめてあります。
- 安全のため「点検・調整作業にあたっての注意」を必ずお読みください。（→P.13-3）

## アドバイス

### ■ 故障を未然に防ぐには

- お車は使用する期間と使い方に応じて劣化が進み、その構成部品や装置に性能低下が生じます。
- 故障を未然に防ぎ社会環境に悪影響をおよぼす公害の防止のためにも定期点検・整備は必ず実施してください。

### ■ 故障修理や交換時期について

- 定期交換は、お客様の責任と費用のご負担により実施していただくもので保証修理とは異なりますのであらかじめご了承ください。
- この交換時期は弊社が標準的な走行距離にもとづいて期間を定めたものです。お車の走行条件その他の事情により、定期交換時期前であっても早めに交換が必要となることがありますので、トヨタ販売店にご相談ください。

 知識

## ■ 点検項目について

車両総重量 8 トン以上の車またはレンタカー（乗用車は除く）は、事業用車と同じ取り扱いとなりますので事業用定期点検項目および期間で実施しなければなりません。

## 新車時の取り扱い

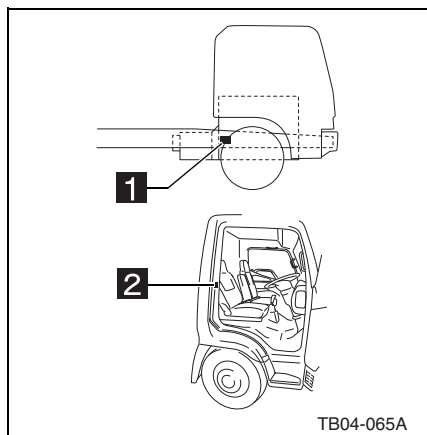
## ならし運転

新車時の取り扱いかたによっては、お車の性能や寿命に影響がでます。走行距離が 1,000 km ぐらいまでは、エンジン回転数を控えめにし、速度をおさえて走行してください。その後、徐々に低速から高速までならし運転を行ってください。

## 車台番号・エンジン番号

お車の登録および車検時に必要です。また、部品注文や整備をお申し付けの際、一緒にご連絡いただければより適切な処理が行えます。

### 車台番号



#### 1 打刻位置

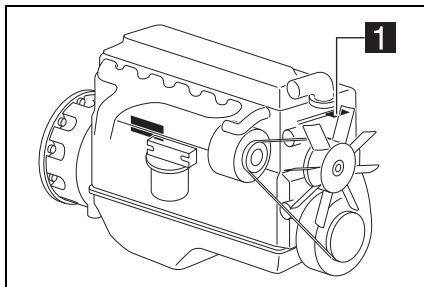
車両右側フレームのフロントホイール付近に、車両型式と車台番号が打刻してあります。

例：XZU 606 ～ 0000002

#### 2 ラベル

運転席ドアを開いたピラー一部に車両型式と車台番号を記載したラベルが貼り付けてあります。

## エンジン番号



#### 1 エンジン番号打刻位置

例：N04C UD10101

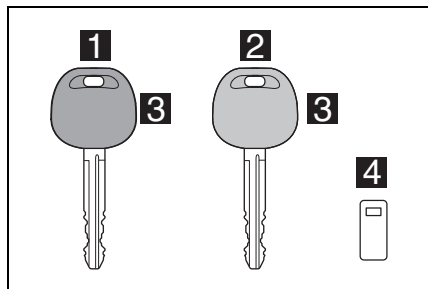
## 各部の開閉

## 3

キー .....	P.3-2
キーレスエントリー .....	P.3-3
電子キー .....	P.3-6
ドア .....	P.3-10
ドア（スマートエントリー付 き車） .....	P.3-14
ドアガラスの開閉 .....	P.3-15
エンジン点検口の開閉 ..	P.3-17
車両への乗り降り .....	P.3-18
フューエルキャップ （燃料補給口） .....	P.3-19
荷台 .....	P.3-19
ツールボックス .....	P.3-23

## キー

- ▶ エンジンイモビライザー機能付きキー



**1** メインキー（黒色）

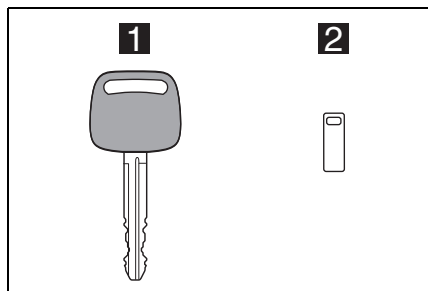
**2** サブキー（灰色）

**3** キーグリップ

**4** キーナンバープレート

次のときは車がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができない場合があります。

- キーグリップに金属製のリングなどが接しているとき
  - キーグリップに他のキーの金属部が接しているとき
  - キーが他の車のエンジンイモビライザーシステム用キーと近いとき
- ▶ エンジンイモビライザー機能無しキー



**1** メインキー

**2** キーナンバープレート

## 知識

■ エンジンイモビライザー機能とは

- 車両盗難防止のために、メインキーおよびサブキーに信号発信機を内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにした機能です。
- キーに登録された信号は車ごとに異なります。
- キーの操作状況・環境等により、ごくまれにエンジンの始動ができないことがあります。エンジンの始動ができなかった場合は、いったんキーを抜き、10秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■ エンジンイモビライザー機能付きキーについて

- メインキーを紛失しないように十分注意してください。メインキーを全て紛失すると、キーの作製にコンピューターの交換が必要となります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- キーは、同じ車でメインキーは最大5本、サブキーは最大3本まで使用することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ キーナンバープレートについて

- お客様以外の方にキーナンバーを知られないように、キーナンバーをキーナンバープレートに打刻しています。
- 車両以外の場所で大切に保管してください。万一、キーを紛失したときは、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーを作製できます。

## ⚠ 注意

### ■ エンジンイモビライザーシステムについて

エンジンイモビライザーシステムの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

- 故障診断コネクタや車両内外に不審な機器が設置されていないかご確認ください。

### ■ エンジンイモビライザー機能付きキーについて

故障を防ぐために次のことをお守りください。

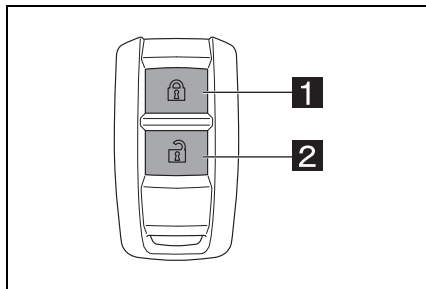
- キーを無理に曲げたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- インストルメントパネルの上など高温になる場所に置かないでください。
- 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けないでください。
- キーを超音波洗浄機などでは洗浄しないでください。
- 水に濡らさないでください。
- 車両を離れる際はドアを施錠し、キー保管時は車両から離れた場所に確実に保管してください。

## キーレスエントリー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リモートキーの操作により、離れたところからドアの施錠・解錠ができます。また、一般仕様は、車両の非常点滅灯点滅による応答で施錠・開錠の確認ができます。

### ▶ 一般仕様



**1** 施錠（非常点滅灯 1 回点滅）※

**2** 解錠（非常点滅灯 2 回点滅）※

ボタンは 1 秒以上確実に押してください。

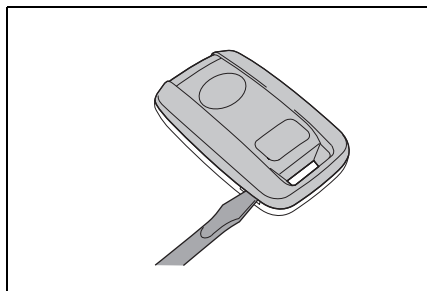
※ ドアが開いている、または半ドア状態ではリモートキーは作動しません。

## 電池の交換

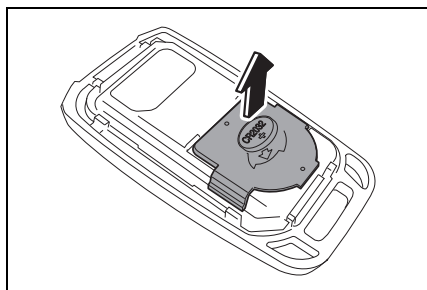
リモートキーを操作しても施錠・解錠できないときは電池の消耗が考えられます。電池が消耗したときは、新しい電池と交換してください。

### ▶ 一般仕様

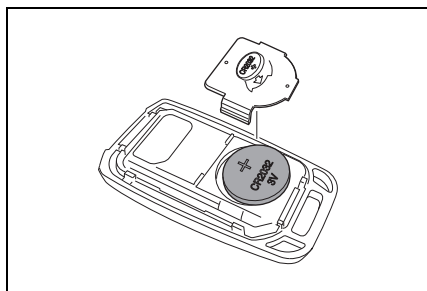
1. 凹部にドライバーを差し込み、カバーを外す。



## 2. バッテリーカバーを外す。



## 3. 電池を新品の電池と交換する。



## 4. 電池交換後は、取り外しの逆の手順で取り付ける。

### ■ 電池の種類

使用電池	数量
リチウム CR2032	1

### 👉 アドバイス

#### ■ 電池の交換について

使用済の電池は、地方自治体の条例または規則にしたがって、適切に処置してください。

#### ■ 電波キー（リモートキー）について

電波キー（リモートキー）を紛失したときは、トヨタ販売店にご相談ください。

### 📖 知識

#### ■ リモートキーについて

- キャブから約 5m 以内で作動します。周囲の状況や電波ノイズなどにより、作動距離が変わることがあります。
- リモートキーで解錠したときは、30 秒以内にドアを開けなければ、自動的に施錠します。同時に、非常点滅灯が 1 回点滅します。（アンサーバック機能）
- 次のようなときは、作動しません。
  - ・ エンジンがかかっているとき
  - ・ キーがささっているとき
  - ・ いずれかのドアが開いているとき

#### ■ 電池の消耗について

電池の寿命は使用条件により変わることがあります。

#### ■ 機能が正常に動かないおそれのある状況

次のような場合、ワイヤレス機能が正常に動かないおそれがあります。

- 近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき

- 無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 複数のリモートキーが近くにあるとき
- リモートキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
- リモートキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

### ■ 航空機に乗るときは

航空機にリモートキーを持ち込む場合は、航空機内でリモートキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

## ▲ 警告

### ■ リモートキーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- リモートキーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。

- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

### ■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

## ▲ 注意

### ■ リモートキーについて

- 水にぬらしたり、分解したり、落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。故障の原因になります。
- 高温になる場所に放置しないでください。電池の寿命低下や故障の原因になります。
- 磁気のあるものに近付けたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。

### ■ 電池交換後、正常に機能させるために

次のことをお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない（錆の原因になります）

- 本体に燃料や艶出剤などの油脂を付着させない
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない
- リモートキーは電波法の認証に適合しています

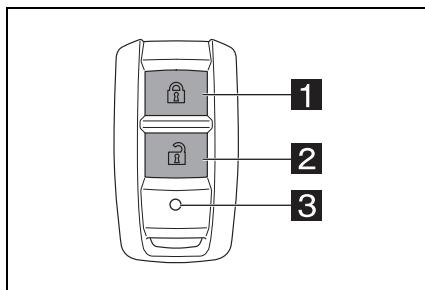
必ず以下のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。  
分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。
- 技適マークと認可番号はケースを取り外した際、確認が可能です。

## 電子キー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### 電子キー

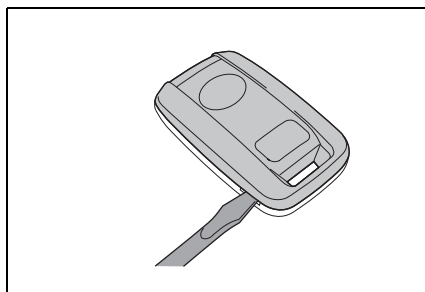


- 1 ロックボタン
- 2 アンロックボタン
- 3 電子キー表示灯

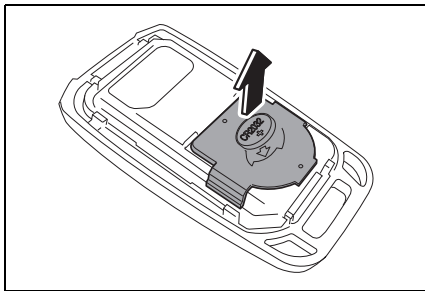
### 電池の交換

電子キーを操作しても施錠・解錠できないときは電池の消耗が考えられます。電池が消耗したときは、新しい電池と交換してください。

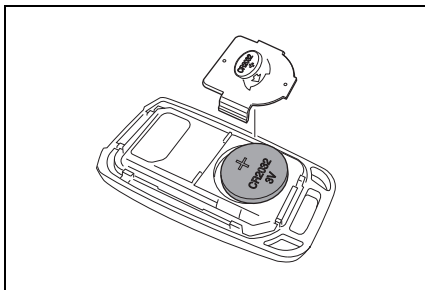
1. 凹部にドライバーを差し込み、カバーを外す。



2. バッテリーカバーを外す。



### 3. 電池を新品の電池と交換する。



### 4. 電池交換後は、取り外しの逆の手順で取り付ける。

#### ■ 電池の種類

使用電池	数量
リチウム CR2032	1

#### 👉 アドバイス

##### ■ 電池の消耗について

以下の状況では電池が消耗している可能性があります。電池残量が少なくなった場合は新しい電池と交換してください。

- スマートエントリー&スタートシステムが作動しない。
- ワイヤレス機能が作動しない
- スマートエントリー&スタートシステム機能やワイヤレス機能は作動しているが、作動範囲が狭い。

- 電子キーのインジケータが点灯しない。

##### ■ 電池の交換について

使用済みの電池は、地方自治体の条例または規則にしたがって、適切に処置してください。

#### 📖 知識

##### ■ キーを携帯するとき

- 電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。
- 航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのボタンを押さないでください。また、かばん等に保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障を及ぼす恐れがあります。

##### ■ 電池の消耗について

- 電子キーの電池の標準的な寿命は1～2年です。(電子キーは車両との通信のために常時受信動作をおこなっており、使用・未使用にかかわらず電池は消耗します)
- 電池の著しい消耗を防ぐため、以下のような電化製品の1m以内に電子キーを置かないでください。

- ・ テレビ
- ・ パソコン
- ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- ・ 電気スタンド
- ・ 電磁調理器

##### ■ キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

## ▲ 警告

### ■ 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

### ■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

## ▲ 注意

### ■ 電子キーは精密機器です

以下項目についてご注意ください。

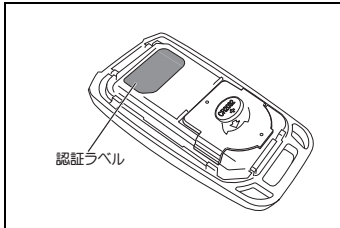
- 落としたり、強い衝撃をあたえたり、無理に曲げたりしない
- 温度の高い所に長時間放置しない
- 水に濡らしたり、超音波洗浄機などで洗浄したりしない
- 電子キーに金属製、または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近づけたりしない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- 電池交換時以外は、不用意に分解しない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

### ■ キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

- 認証ラベルをはがさないでください。認証ラベルのないものの使用は禁止されています。



- スマートエントリー&スタートシステムの故障等でトヨタ販売店に車両を持っていかれる場合は、車両に付属している全てのキー（電子キー、メカニカルキー）をお持ちください。
- 電子キーは運転者が必ず携帯してください。
- 車両を離れる際はドアを施錠し、キー保管時は車両から離れた場所に確実に保管してください。
- 必ずメカニカルキーと電子キーを一緒に持ち歩いてください。
- 電子キーを紛失した状態で放置されますと、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーを全てお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

#### ■ エンジンイモビライザーシステム

- 電子キーには信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。
- 電源を OFF にする、又は、電源 ON 状態でドアを開閉するとシステムの作動を知らせるためにインジケータが点滅します。

- システムが正常に作動しないとき
    - ・ 電子キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
    - ・ 電子キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき
  - キーかざしによる電源遷移時（ACC/IG ON）はドア開閉してもエンジンイモビライザーがセットしないため、そのまま車両から離れないでください。
  - システムが車室内に電子キーを検知していないとき、エンジン始動操作をすると盗難防止機能が働いてエンジンが数秒後に停止したり、スタータが回らないことがあります。
    - ・ 電子キーを身に着けていないとき
    - ・ 運転席のドアが開いているとき
    - ・ 電子キーの電池残量が少ないとき
    - ・ 周囲の電波環境が良くないとき
  - スタータが回らなくなった場合には、エンジンスイッチを OFF にして1分程度待ってからエンジンを再始動してください。
  - 故障診断コネクタや車両内外に不審な機器が設置されていないかご確認ください。
- #### ■ 電池交換時の注意
- 濡れた手で電池を交換しないでください。錆びの原因になります。
  - 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしないでください。
  - 電極を曲げないでください。

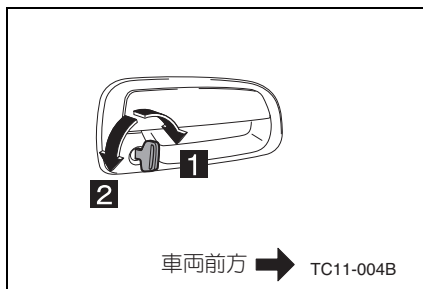
- ドライバーにテーピングをしたり、あて布をしてから電池カバーを外してください。電池カバーに傷がつくおそれがあります。

## ドア

### ドアの施錠・解錠

#### ■ 車外から

##### ▶ 運転席・助手席・後部席★



#### 1 施錠

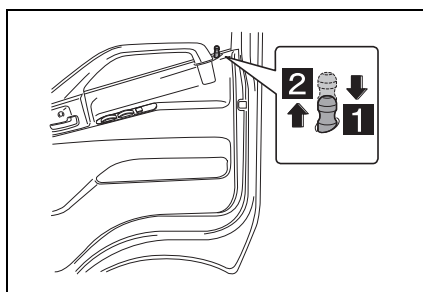
#### 2 解錠

- \* 運転席ドアをキーで操作すると、助手席側も同時に施錠・解錠ができます。(助手席側スライドドア車除く)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

#### ■ 車内から

##### ▶ 運転席・助手席・後部席★



#### 1 施錠

#### 2 解錠

- \* 運転席側のロックノブを操作すると、助手席側も同時に施錠・解錠ができます。(助手席側スライドドア車除く)

★：グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。

### ■車外からのキーを使わない施錠

▶ 運転席・助手席・後部席★

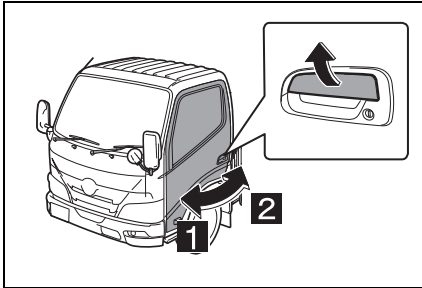
1. ロックノブを施錠側にする。
2. アウトサイドハンドルを引き上げたままドアを閉める。

★：グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。

## ドアの開閉

### ■車外から

▶ 運転席・助手席・後部席★



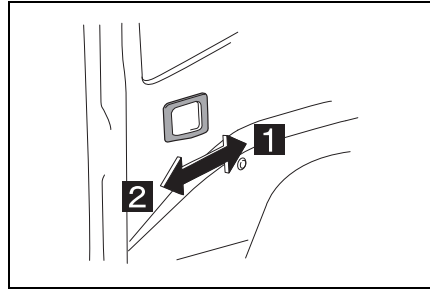
#### 1 開く

ロックが解除されるまでアウトサイドハンドルを引き上げます。

#### 2 閉じる

★：グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。

▶ 助手席スライドドア★



#### 1 開く

アウトサイドハンドルを手前に引きながらドアをスライドします。

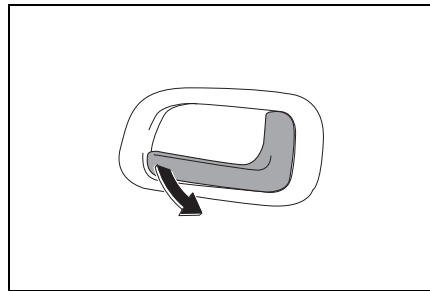
#### 2 閉じる

★：グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。

### ■車内から

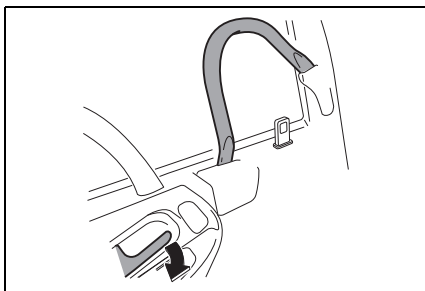
▶ 運転席・助手席・後部席★

ロックが解除されるまでインサイドハンドルを引きます。



▶ 助手席スライドドア★

インサイドハンドルを引きながら  
ドアをスライドします。



★：グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。

## 知識

### ■ ドアの開閉について

傾斜した場所では平坦な場所よりもドアの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。

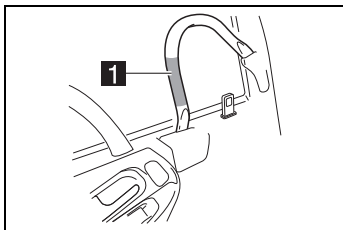
### ■ キー抜き忘れ防止警報（チャイム）

キーが「LOCK」または「ACC」の位置に差し込まれたままで運転席ドアを開けると、チャイムが鳴り、キーの抜き忘れを知らせます。

## 警告

- 走行前に全てのドアが閉まっていることを確認してください
- ドアが完全に閉まっていないと走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中はドアレバーを引かないでください。
- お子さまにドアの操作をさせないでください。
  - ・ 閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、生命にかかわる重大な傷害におよぶが、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - ・ 傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。
- 助手席スライドドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
  - ・ 助手席スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
  - ・ ドアガラスを開けた状態で助手席スライドドアを開閉するときは、窓から手、足、顔などを出さないでください。
  - ・ 人がいるときは、安全を確認し動かしことを知らせる「声かけ」をしてください。
  - ・ 半開き状態では助手席スライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜地での停車時にドアが開いていると、突然動き出すおそれがあります。

- ・坂道では助手席スライドドアの開閉スピードが速くなります。ドアが体に当たったり挟んだりしないよう、注意してください。
- ・下り坂の停車時に乗りおりするときは、助手席スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。
- ・助手席スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- ・ドアを閉める際は、ラベル部を握らないで下さい。周辺部品とグリップが狭く、手を挟む恐れがあります。推奨握り位置を握り、ドアを閉めて下さい。



**1** 推奨握り位置

### ⚠ 注意

#### ■ ドアの施錠・解錠について

- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキを確実にかけエンジンを止めドアを施錠してください。
- お子さまづれのときは、車内にお子さまを残したままお車を離れないでください。

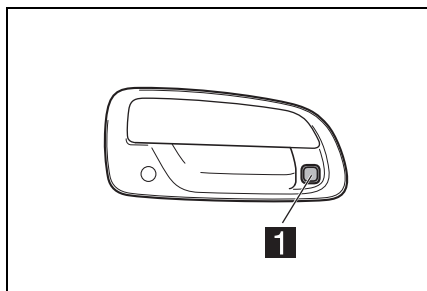
#### ■ 助手席スライドドアを開閉する前に、付近の状態を必ず確認してください

- 助手席スライドドアを開閉する前に、助手席スライドドアが安全に開閉できるように車外および車内の助手席スライドドア付近の状態を必ず確認してください。
- 助手席スライドドアを開閉するときは、ガードバーインパネサイド部を持たないでください。
- 助手席スライドドアのステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだまま助手席スライドドアを開閉すると、助手席スライドドアの故障の原因になります。

## ドア（スマートエントリー付き車）

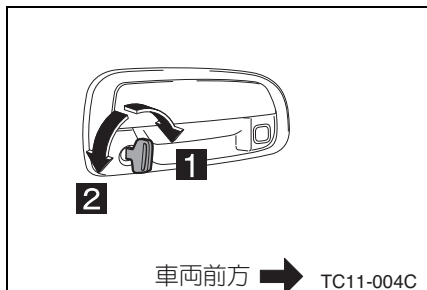
### ■ 電子キーによるドアの施錠・解錠

電子キーを携帯している状態で運転席側アウトードアハンドル部にあるロック/アンロックスイッチを確実に押してください。ドアを開ける際は、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。



#### 1 ロック / アンロックスイッチ

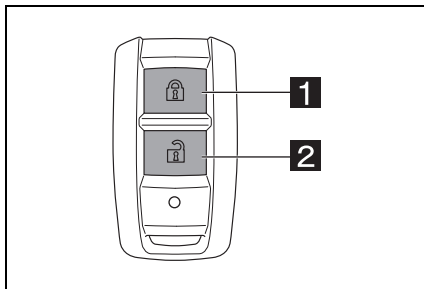
### ■ メカニカルキーによるドアの施錠・解錠



#### 1 施錠

#### 2 解錠

### ■ ワイヤレス機能によるドアの施錠・解錠



#### 1 施錠

#### 2 解錠

### ■ アンサーバック機能

電子キーおよびワイヤレス機能でドアの施錠・解錠をおこなった際は、作動の合図として非常点滅灯の点滅（施錠：1回、解錠：2回）で知らせます。

### ⚠ 注意

#### ■ 電子キーの検知に関する注意事項

- 車室外から操作する場合は電子キーを車に近づけすぎないようにしてください。作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴る、キー閉じ込み防止機能が正しく働かない場合があります）
- 電子キーが作動範囲内であっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。
  - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合

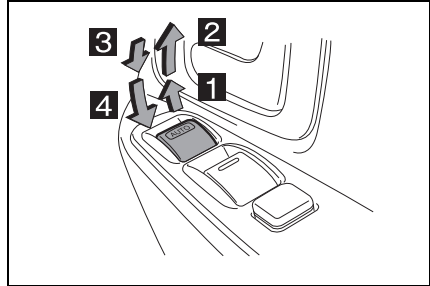
- ・ 電子キーがインストルメントパネルやフロア上、カップホルダ、ドアポケット、シート後方などに置かれている場合

## ドアガラスの開閉

### パワーウィンドウ

エンジンスイッチが「ON」位置のときにドアガラスの開閉ができます。

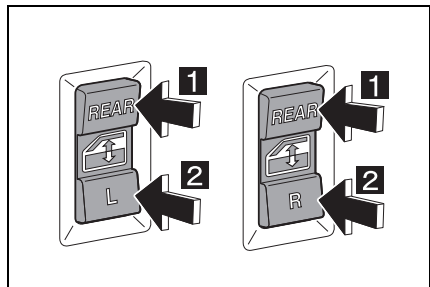
#### ▶ 運転席、助手席



- 1** 閉める（少し引き上げる）
- 2** 自動全閉（運転席のみ）※
- 3** 開ける（少し押し下げる）
- 4** 自動全開（運転席のみ）※

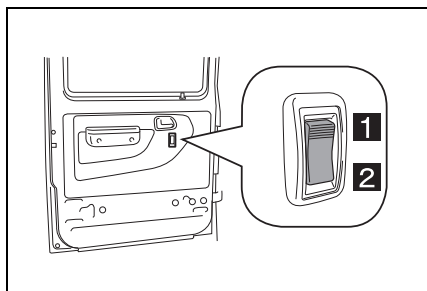
※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

#### ▶ ダブルキャブ車運転席側スイッチ（後部ドアガラス用）



- 1** 閉める
- 2** 開ける

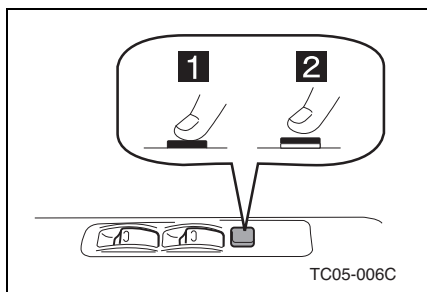
▶ ダブルキャブ車後部席側スイッチ  
（後部ドアガラス用）



**1** 閉める

**2** 開ける

### ウィンドウロックスイッチ



**1** ロック

**2** ロック解除

助手席側または後部席側ドアガラスを  
ロックするスイッチです。

### ▲ 警告

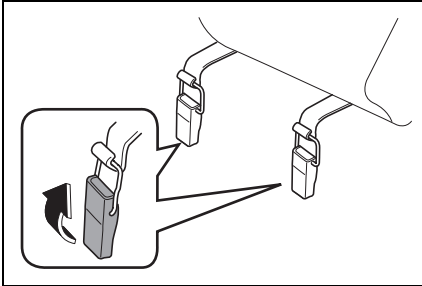
- 走行中は窓から手や顔を出さないでください。また、ドアガラスなどを開閉するときは手・腕・頭・首などを挟まないようにしてください
- 走行中は窓から手や顔を出さないでください。車外のものなどに当たったり、急ブレーキをかけたときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドアガラスやサイドウィンドウを開閉するときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟まないように注意してください。とくにお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまにドアガラスやサイドウィンドウの操作をさせないでください。開けるときの閉めるとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まれたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

## エンジン点検口の開閉★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

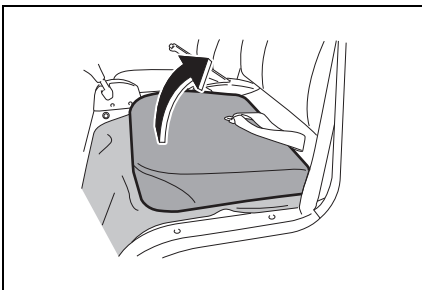
### 開け方

1. 助手席足元にあるレバー 2 か所のロックを外す。

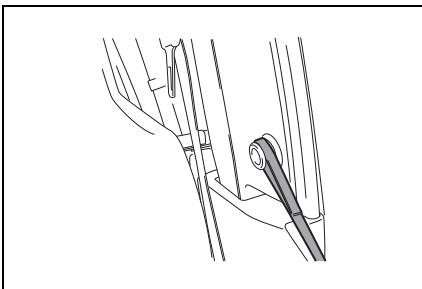


2. シートを持ち上げる。

\* ワイドキャブ車またはダブルキャブ車は、シートバックを前方に倒してからシートを持ち上げます。



3. バンドをフックに掛けて固定する。



### 閉じ方

- 閉じるときは、開けたときの逆の手順で行います。
- エンジンカバーを閉めるときは、フロアマットがかみ込まないように注意して、確実にロックしてください。

### ▲警告

#### ■ エンジン点検口を閉める前に

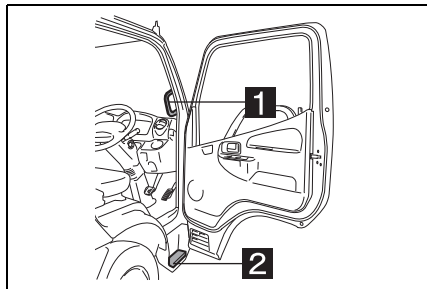
エンジンルーム内に布や手袋、工具類などの置き忘れがないことを確認してください。布などの燃えやすい物は火災の原因になります。また工具類は振動などで飛びはね、部品を損傷させるおそれがあります。

#### ■ エンジン点検口を閉めた後は

走行前にシートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと、走行中にシートが動き思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

## 車両への乗り降り

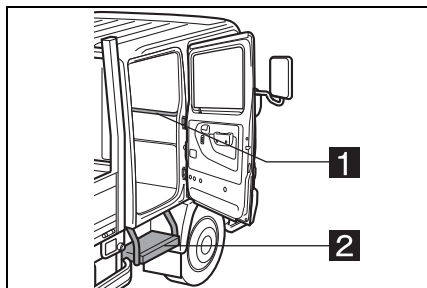
### ▶ シングルキャブ車



**1** グリップ

**2** ステップ

### ▶ ダブルキャブ車



**1** グリップ

**2** ステップ

## 乗降のしかた

グリップを握ってステップに足をかけ乗降します。

### 👉 アドバイス

#### ■ 乗降について

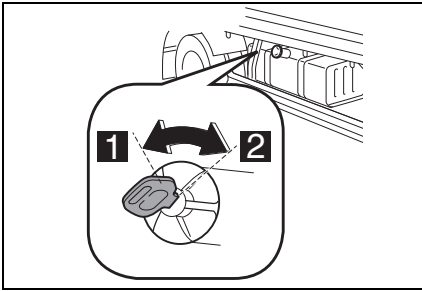
グリップ以外の装置をつかんで乗降しないでください。

## ⚠ 注意

### ■ 乗降のしかた

- 車両への乗り降りは必ずステップを使用してください。
- くつ底に油やグリース、雪などが付着していると乗降時やペダル操作時に滑ったりするおそれがありますので、できるだけ付着物を落として乗車してください。
- ステップがぬれていたたり着氷している場合は滑らないように注意してゆっくり乗降してください。
- 風の強いときなどは、乗降中に突然ドアが開閉することがありますので十分注意してください。

## フューエルキャップ（燃料補給口）



### 1 解錠

\* 解錠位置ではキーの取り外しができません。

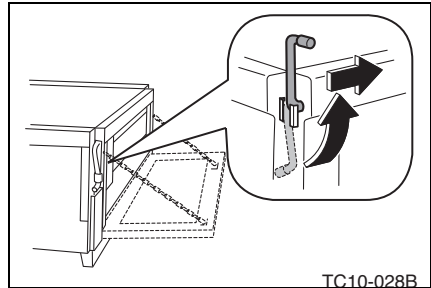
### 2 施錠

## 荷台

### テールゲートの降ろし方

#### ▶ 木製ボデー

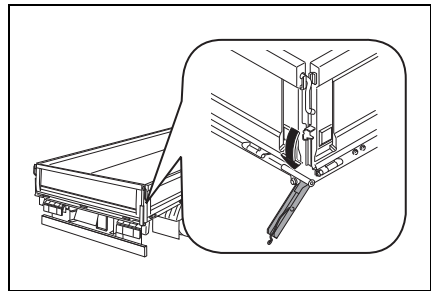
左右のレバーを上に戻し内側に押し込んでロックを外すとテールゲートが開きます。



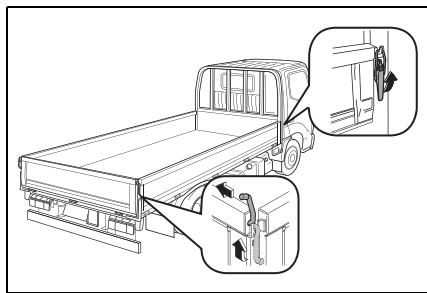
### サイドゲートの開け方

#### ▶ 木製ボデー

1. ロックレバーを外側に押しながらサイドストッパーを後方に倒す。



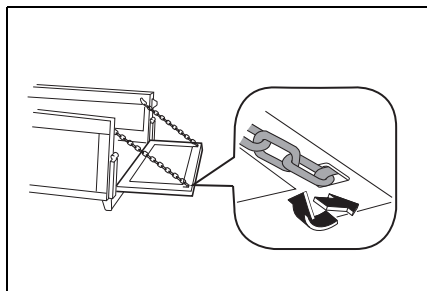
2. サイドゲートの前後にあるレバーを引き上げてロックを外す。



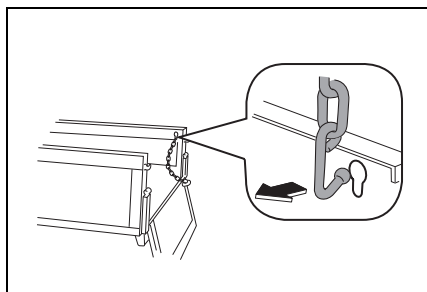
### チェーンの外し方

#### ▶ 木製ボデー

1. テールゲート側のチェーンを外す。



2. サイドゲート側のチェーンを外す。

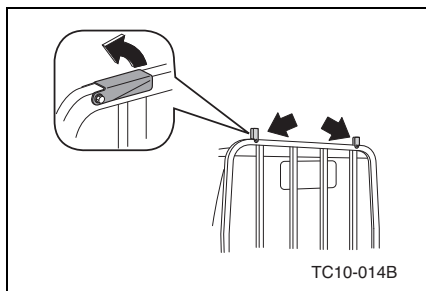


### ガードフレームストッパー

ガードフレーム上に積荷を載せる場合は、必ずガードフレームストッパー間に載せ、ロープでしっかり固定します。

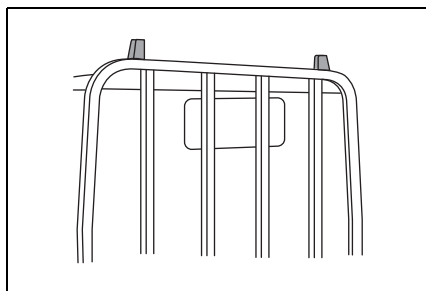
#### ▶ 木製ボデー（折りたたみ式）

使用するときにはストッパーを引き上げます。



TC10-014B

#### ▶ 木製ボデー（固定式）



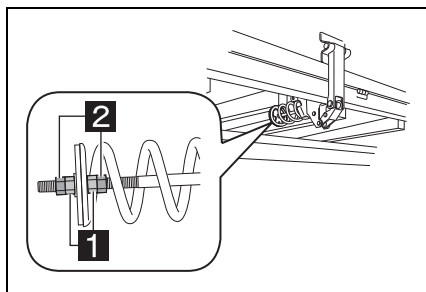
### かるがるゲート★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

サイドゲート開閉時の操作力を調整できます。調整するには、17 mm のスパナが必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

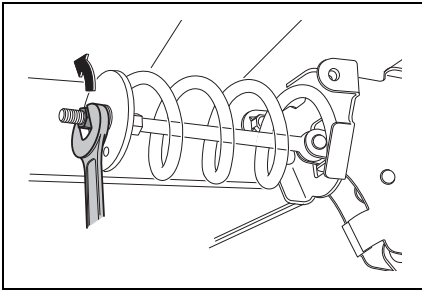
#### ■ 調整のしかた

#### ▶ タイプ I

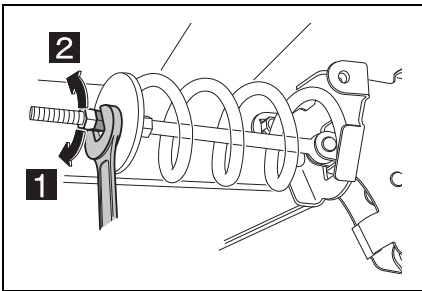


**1** 荷重調整ナット**2** ロックナット

1. 荷重調整ナットを押さえながら、ロックナットをゆるめる。

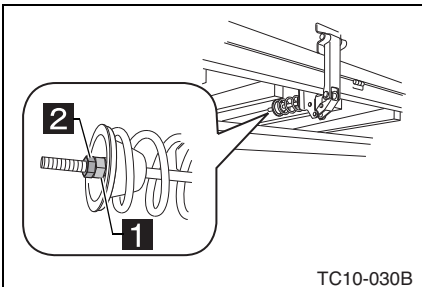


2. 荷重調整ナットを回し、荷重調整を行う。

**1** ゲート軽い**2** ゲート重い

3. 調整後、荷重調整ナットを押さえながらロックナットを締める。

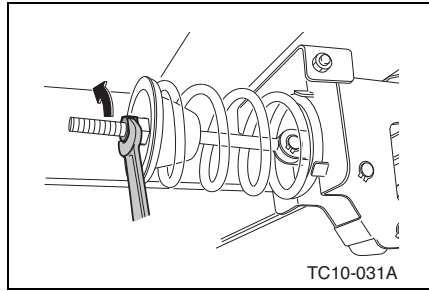
## ▶ タイプ II



TC10-030B

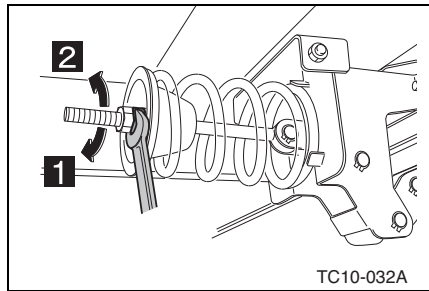
**1** 荷重調整ナット**2** ロックナット

1. 荷重調整ナットを押さえながら、ロックナットをゆるめる。



TC10-031A

2. 荷重調整ナットを回し、荷重調整を行う。



TC10-032A

**1** ゲート軽い**2** ゲート重い

3. 調整後、荷重調整ナットを押さえながらロックナットを締める。

👉 **アドバイス**

- ガードフレームストッパーについて  
ガードフレームには重量物を載せないでください。

## ▲ 警告

- **テールゲート・サイドゲートを操作するときは、次のことをお守りください**
- 荷台には人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 走行前にテールゲート・サイドゲートが確実にロックされていることを確認してください。ゲートが確実に閉まっていないと、走行中に突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- テールゲートを開けて駐停車するときは、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。ゲートが開いていると非常点滅灯などが見えなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- テールゲートを閉めるときは、チェーン（チェーン装着車）がかみ込んでいないことを確認し、ハンドルで確実にロックしてください。ロックが不十分だと、走行中にゲートが開くなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- テールゲート・サイドゲートを閉めるときは、周囲の安全を確かめ、ゲートで指などを挟まないように十分注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあります。
- お子さまにはテールゲート・サイドゲートの操作をさせないでください。お子さまが操作すると、手・頭・首などを挟んだりして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。

- テールゲート・サイドゲートを開けたまま走行しないでください。開けたまま走行すると、ゲートが車外のものなどにあたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- テールゲート・サイドゲートのハンドルやレバーを操作するときは、しっかりと握り、確実に操作してください。手を挟んでけがをしたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- テールゲート・サイドゲートのハンドルやレバーをはずすときは、ゲートをしっかり支えてください。車両の傾斜や積荷の重みで急に開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 傾斜地では、平坦な場所よりもテールゲート・サイドゲートの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。指などを挟まないよう十分注意してください。

## ▲ 注意

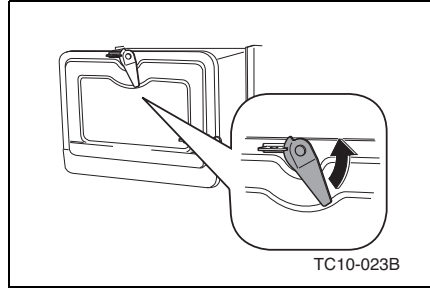
- **テールゲート・サイドゲートには積荷の重量をかけないでください**
- テールゲート・サイドゲートには積荷の重量をかけないでください。ゲートなどが損傷するおそれがあります。
- テールゲートを閉めるときは、チェーンがかみ込んでいないことを確認してください。かみ込んだままロックすると、ゲートやチェーンを損傷するおそれがあります。（チェーン装着車）

- テールゲート・サイドゲートを開閉する前に、ゲートが安全に開閉できるように、荷台および車外のゲート付近の状態を必ず確認してください。
- ガードフレームストッパーの破損を防ぐため、ガードフレームストッパーに過度に重いものを乗せないでください。
- サイドゲートを開けるときは、必ずエンジンを止めてください

マフラー出入口付近では高温の排出ガスが出るためエンジンをかけたままサイドゲートを開けると、サイドゲート本体および表面デザインの変形・変色、断熱材入りサイドゲートの断熱材が溶けることによる外板剥離、骨格部材の変形などが発生します。

## ツールボックス

レバーを回すと開きます。





## シート・シートベルト の取り扱い

# 4

シート .....P.4-2

シートベルト .....P.4-7

## シート

## ドライバーシート

## ■正しい運転姿勢

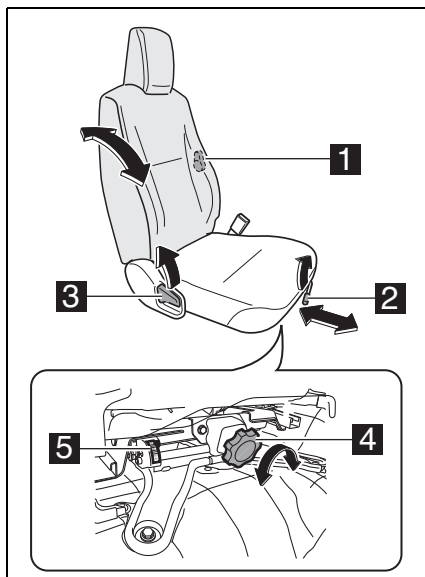


- シートバックから背を離さない
- ペダルを十分に踏み込める
- ハンドルが楽に操作できる
- シートベルトが正しく着用できる
- シフトレバーの操作が楽にできる

## ■各部の調整

ダイヤルを回して希望のサスペンションの硬さに調節できます。

- 体重目盛りは目安です。
- 大きな段差を乗り越えた場合は、底に付くことがあります。



## 1 ランバーサポート★

腰部の硬さを調整できます。

## 2 シートスライド

シートを前後に調整できます。

## 3 シートバック角度

背もたれの角度が調整できます。

## 4 体重調整ダイヤル

(サスペンションシート装着車)

## 5 体重調整目盛り

(サスペンションシート装着車)

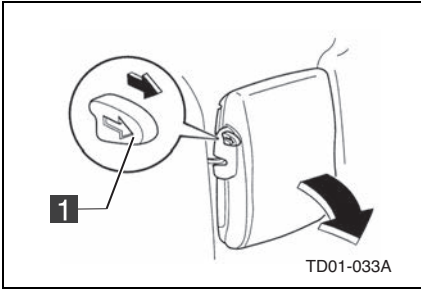
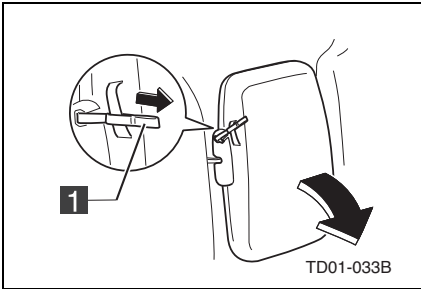
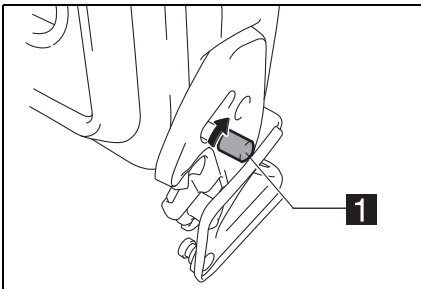
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## センターシート★

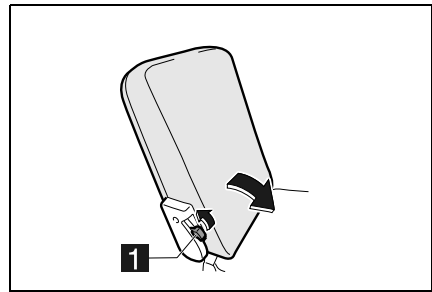
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートバック（背もたれ）を前方に倒すときは、ロック解除レバーまたはロック解除ストラップを引きます。

## ▶ 標準キャブ

**1** ロック解除レバー**1** ロック解除ストラップ**1** ロック解除レバー

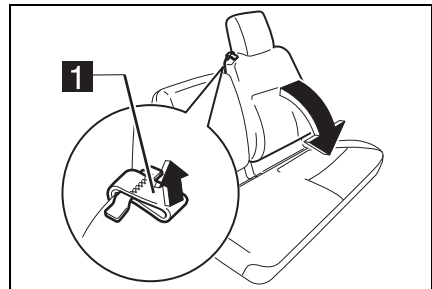
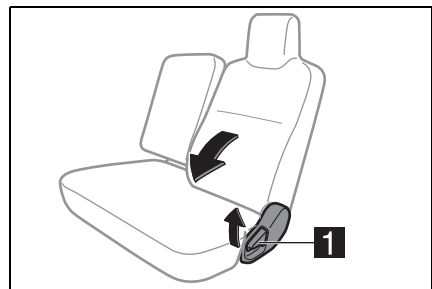
## ▶ ワイドキャブ

**1** ロック解除レバー

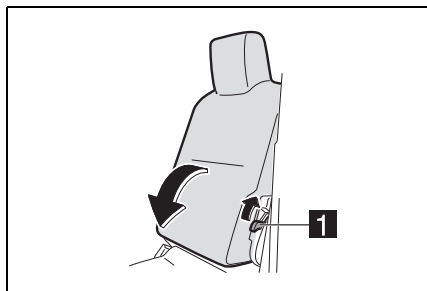
## アシスタントシート

ロック解除レバーまたはロック解除ストラップを引くと、背もたれが倒れます。

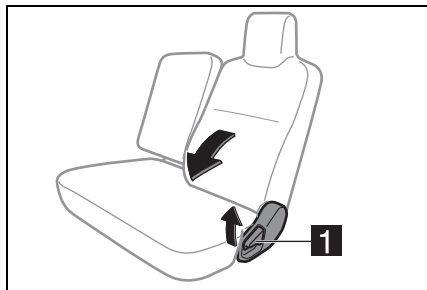
## ▶ 標準キャブ

**1** ロック解除ストラップ**1** ロック解除レバー

## ▶ ワイドキャブ



### 1 ロック解除レバー



### 1 ロック解除レバー

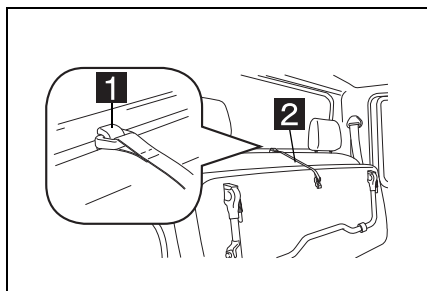
## リヤシート★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ▶ ダブルキャブ車

#### ■ 折りたたみ

- シートを折りたたむことができます。
- シートクッションのバンドをフックに掛けて固定します。

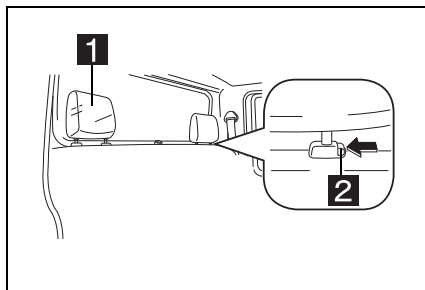


### 1 フック

### 2 バンド

#### ■ ヘッドレスト

- 上げるときは、ヘッドレストを持ったまま引き上げます。
- 下げるときは、固定ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときは、固定ボタンを押したまま引き抜きます。



### 1 ヘッドレスト

### 2 固定ボタン

## ⚠ 警告

- 走行中はドライバーシートの調整をしないでください
- 調整中にシートが突然動き運転を誤り、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートを調整したあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。

- シートの下に物を置かないでください。ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因になります。
- 背もたれと背中の中にクッション（座布団）などを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 助手席やセンターシート（センターシート装着車）、リヤシート（ダブルキャブ車）に荷物を積み重ねないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員にあたったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害をうけるおそれがあり危険です。
- 走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が慣性力で飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートの操作をするときは、必ず平坦な場所で行ってください。不整地や傾斜地では、操作中に不意にシートが動き手足を挟まれ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- シートバックトレイ装着車は、センターシートを倒した上に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに体が飛ばされ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを折りたたんだ状態で、空いたスペースに人を乗せて走行しないでください
- 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 脱着式ヘッドレスト装着車は、ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 脱着式ヘッドレスト装着車でヘッドレストを取り付けるときは、「カチッ」と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違っして取り付けると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 倒した背もたれの上や、荷室に人を乗せて走行しないでください
- 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- シートをもとにもどしたときは、シートを軽くゆさぶり、さらにシートクッション後部を持ち上げ確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などにシートが倒れたり、荷室内のものが飛び出すなど、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートを操作するときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷付くおそれがあり、傷付いたまま使用すると衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

#### ■ リヤシートについて

シートクッションを折りたたむときは、バンドがフックに確実に掛かっていることを確認してください。

#### 注意

- シートを調整するときは同乗者や荷物などまわりの状況に注意してください
- シートを調整するときは、同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。

- 車内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートの下に手を入れると、シートレール・シートフレーム（シートの土台部分）などにあたり、けがをするおそれがありますので十分に注意して行ってください。
- 背もたれにもたれかかったままシートバックの角度調整をしないでください
- 背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。
- シートを操作するときは、可動部や結合部に手足を挟まないように注意してください。けがをするおそれがあります。
- 背もたれをうしろに倒した状態で、荷物などを背もたれの上に載せないでください。シートを損傷するおそれがあります。

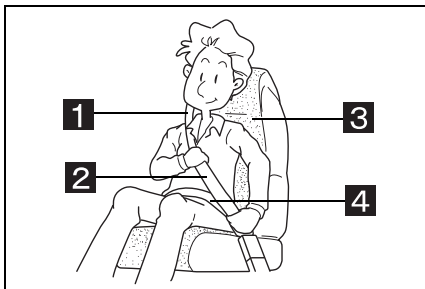
## シートベルト

運転する前には必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減するだけでなく危険な場合があります。

なお、着用は法律によって義務づけられています。

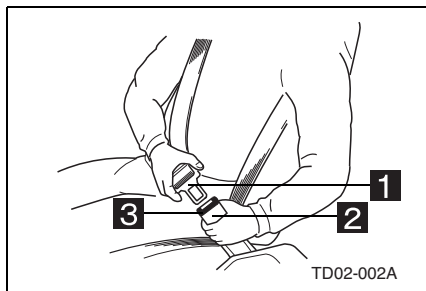
シートベルトの注意事項を十分理解し、正しく取り扱ってください。



- 1 肩の真ん中に十分にかかること
- 2 ねじれていないこと
- 3 シートを調整し、上体を起こし深く腰掛けること
- 4 必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

### 3点式シートベルト

ドライバーシート・アシスタントシートのシートベルトはELRが装着されています。



- 1 プレート
- 2 バックル
- 3 解除ボタン

#### ■ELR（緊急ロック式巻き取り装置）

- 通常ベルトは体の動きに合わせて自由に伸縮できますが、万一衝突や急停車のとき、自動的に固定し体を守ります。
- ベルトを急に引き出すと途中で固定することがあります。

#### ■プリテンショナー付きシートベルト★

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

前方から一定以上の強い衝撃を受けると、着用しているシートベルトが瞬時に巻き取られ、運転者をシートに拘束し、衝撃の緩和とともにSRSエアバッグの効果を高める装置です。

#### ■着け方

1. シートバックは倒さずにシートに深く腰掛けて座る。
2. 確実に肩にベルトをとおしてプレートを持って引き出し、ねじれていないことを確認する。

- \* シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引き

てから、ベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

3. プレートをバックルに「カチッ」と音がするまで、確実に差し込む。

\* エンジンスイッチが「ON」のときは、運転席シートベルト未着用警告灯・助手席シートベルト未着用警告灯が消灯したことを確認してください。(フロントシートベルト着用時のみ)

4. 腰部ベルトを密着させる。

\* 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるとし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させます。

5. 肩部ベルトをかける。

\* 肩部ベルトは、必ず肩に十分にかかるようにします。このとき、ベルトが首にあたり、肩からはずれないようにしてください。

### ■はずし方

解除ボタンを押します。ベルトは自動的に巻き込まれます。

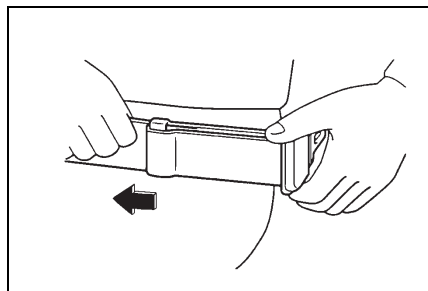
## 2点式シートベルト★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

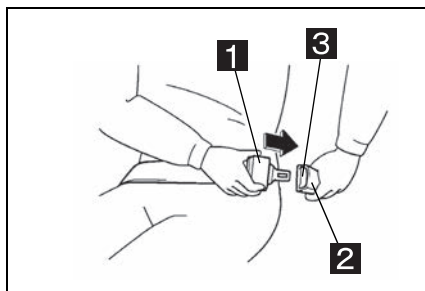
- ▶ センターシート

### ■着け方

1. ベルトを引いて必要な長さにする。



2. ベルトにねじれがないようにプレートをバックルに「カチッ」と音がするまで確実に差し込む。

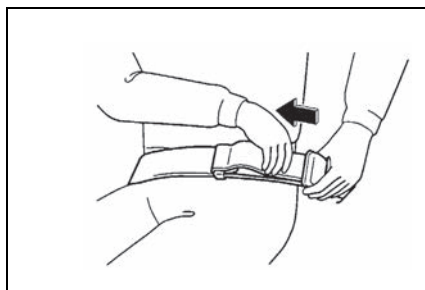


1 プレート

2 バックル

3 解除ボタン

3. ベルトを引いて腰骨のできるだけ低い位置に密着させる。



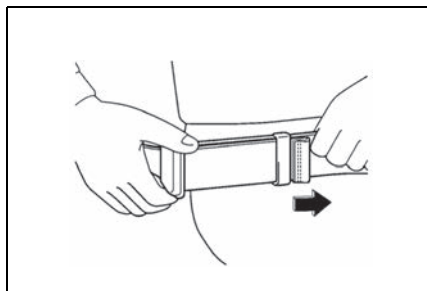
### ■はずし方

解除ボタンを押します。

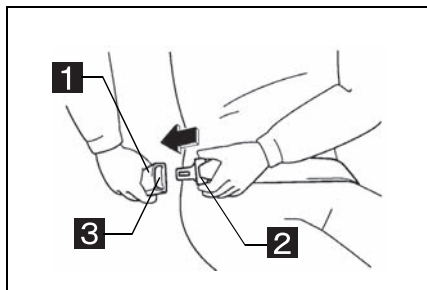
- ▶ ダブルキャブ車のフロントシート

### ■着け方

1. ベルトを引いて必要な長さにする。

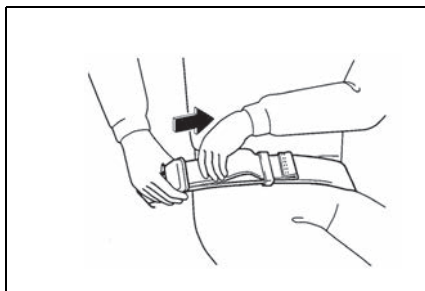


2. ベルトにねじれがないようにプレートをバックルに「カチッ」と音がするまで確実に差し込む。



- 1 プレート  
2 バックル  
3 解除ボタン

3. ベルトを引いて腰骨のできるだけ低い位置に密着させる。



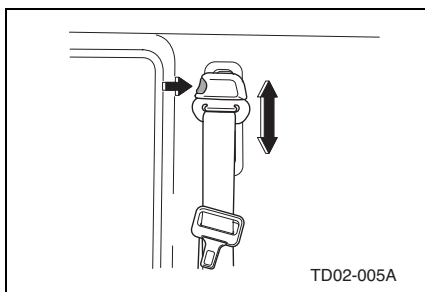
### ■はずし方

解除ボタンを押します。

### アジャスタブルショルダーベルトアンカー


ベルトが肩に十分かからないとき使用します。高さは5段階に調整できます。

プッシュボタンを押しながら上下に動かし、ベルトが肩に十分かかる位置でボタンから手を離し固定します。調整後、確実に固定されていることを確認します。



### お子さま用シート選択の目安

種類	体重 (kg)	身長 (cm)	参考年齢
ベビーシート	～ 10 未満	～ 75 以下	～ 12カ月
チャイルドシート	9 ～ 18 未満	75 ～ 105 以下	9カ月～ 4才
ジュニアシート	15 ～ 32 以下	100 ～ 135 以下	4才～ 10才

 **アドバイス****■ プリテンショナー付きシートベルトについて**

一度作動すると、引き出すことも巻き取ることもできなくなり再使用できません。ただちにトヨタ販売店で交換してください。

**▲ 警告****■ シートベルトについて**

- 走行前に必ず着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 上体を起こし、シートに深く腰を掛けた状態で着用してください。正しい姿勢で着用しないと十分な効果を発揮しないおそれがあります。
- 腰部のベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。腰部からずれていると衝突したときなどに強い圧迫を受けケガをするおそれがあり危険です。
- ねじれたまま着用しないでください。衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができずケガをするおそれがあります。
- 首・あご・顔にあたらないように着用してください。
- 3点式シートベルトは、腕の下に通して着用しないでください。ベルトが十分かかっていないと衝突したときなどに体が前方に投げ出されケガをするおそれがあります。
- シートベルトは1人用です。2人以上で1組のベルトを使用しないでください。衝突したときなどにベルトの機能が正常に働かずケガをするおそれがあります。

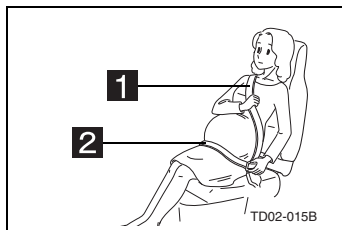
- シートの背もたれを必要以上に傾けて走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり込み、腹部などに強い圧迫を受けケガをするおそれがあり危険です。
- 炎天下に車両を屋外に停車させているとシートベルトのプレートなどの金属部分が高温となりやけどをするおそれがありますので金属部分を直接触れないようにご注意ください。
- アジャスタブルショルダールベルトアンカーを調整するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - ・ シートベルトが首にあたらないように、また肩の中央に十分かかるようにできるだけ高い位置に調整してください。
  - ・ 調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。
- 妊婦・疾患のある方が着用するときは、かかりつけの医師と相談してから使用してください。衝突のときなど腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
- シートベルトをドアやシートにはさんで傷つけないように注意してください。

- ほつれ・すり切れがあったりバックルが正常に作動しないときは、交換してください。
- 万一事故を起こした後は、必ずシートベルトを新品に交換してください。外観上に異常がなくても正常に作動しないことがあります。軽い衝撃でもトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 改造や取り外しをしないでください。また、バックルや巻き取り部に異物などを入れないでください。ベルトの機能が低下し危険です。
- 汚れは中性洗剤を用いて洗い落としてください。ガソリン・シンナーなどの揮発剤は、シートベルト地を著しく弱める原因になりますので絶対に使用しないでください。

#### ■ シートベルトの取り扱いについて

- 取り外し、取り付け、分解などをしてしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤って引き込み重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 下記を修理するときは、トヨタ販売店にお申し付けください。不適切な修理を行うと正常に作動しなくなるおそれがあります。
  - ・ シートベルト付近の修理
  - ・ キャブの板金、塗装
- 妊娠中の方のシートベルト着用について
  - 妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。(ただし、医師に注意事項をご確認ください)

- 妊娠中の着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。また、肩部ベルトは確実に肩を通しお腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 1 お腹のふくらみをさけて胸部にかかるように着用のこと
  - 2 腰骨のできるだけ低い位置にかかるとお腹のふくらみの下に着用のこと
- 疾患のある方も必ずシートベルトを正しく着用してください。(ただし、医師に注意事項をご確認ください)
  - 車のシートベルトが正しく着用できない小さなお子さまは、体に合った子供専用シートに座らせてください
  - 乳児は、頭や首を含め完全な安全保護サポート（ベビーシート）が必要です。乳児の首は安定していなくて、また頭は他の部分に比べてきわめて重いからです。乳児は、必ず適切なベビーシートに座らせてください。

- 幼児の体形は、シートベルトの設計対象となっている大人とは異なっています。幼児の骨盤は小さく、通常のシートベルトでは骨盤の低い位置にとどまらず、腹部にかかってしまいます。衝突した場合、シートベルトによって腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。幼児は必ず適切な子供専用シートに座らせてください。
- 子供専用シートをご使用になるときは、必ず商品に付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってご使用ください
- 使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、子供専用シートが正しく機能せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。
- 子供専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。
- プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください
- プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとプリテンショナーが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - ・ シートベルトを正しく着用する (→P.4-7)
  - ・ シートベルトを正しい運転姿勢のとれる位置に調整する (→P.4-2)

- プリテンショナー付シートベルトの取り付け・取りはずし、分解などをしてしないでください。また、プリテンショナー付シートベルトを修理するときは、必ずトヨタ販売店で行ってください。プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリテンショナー付シートベルトが作動するとSRSエアバッグ警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

### 注意

- プリテンショナー付きシートベルトについて
- 前席の乗員の身体を守るための装置です。正しく着用しないと効果が半減するおそれがあります。
- 廃棄するときは、トヨタ販売店にご相談ください。プリテンショナー付きシートベルトが思いがけなく作動しケガをするおそれがあります。



スマートエントリー&スタートシステム.....	P.5-3
エンジン（イグニッション） スイッチ.....	P.5-8
エンジンスイッチ （スマートエントリー& スタートシステム付き車） .....	P.5-10
バッテリーメインスイッチ （消防車）.....	P.5-12
エンジンのかけ方.....	P.5-13
オイルパンヒーター コンセント.....	P.5-15
スロットルノブ.....	P.5-16
暖機運転.....	P.5-17
エンジンの止め方.....	P.5-18
ペダル類.....	P.5-19
マニュアルトランスミッショ ン（MT車）.....	P.5-20
オートマチックトランスミッ ション（AT車）.....	P.5-22
パーキングブレーキ.....	P.5-29
ハンドル.....	P.5-33
ホーンボタン.....	P.5-34
SRS エアバッグ（シートベル ト補助拘束装置）.....	P.5-34

ワイパー&ウォッシャー スイッチ.....	P.5-40	排出ガス浄化装置 スイッチ.....	P.5-70
ランプスイッチ.....	P.5-42	発進アイドルアップ.....	P.5-73
非常点滅灯.....	P.5-48	アイドルストップ システム.....	P.5-74
方向指示レバー.....	P.5-49	ECO MODE スイッチ (MT車).....	P.5-79
フォグランプスイッチ...P.5-49		トランスミッション PTO.....	P.5-80
ヘッドランプ光軸調整 スイッチ.....	P.5-50	ダンプレバー.....	P.5-82
ヘッドランプクリーナー スイッチ.....	P.5-51	消防 PTO.....	P.5-86
排気ブレーキ スイッチ.....	P.5-51	ブレーキロック (作業用補助 制動装置).....	P.5-88
電動格納式アウターミラー スイッチ.....	P.5-52	VSC・TRC.....	P.5-90
ミラーヒーター スイッチ.....	P.5-54	車線逸脱警報装置.....	P.5-92
手動式ミラー.....	P.5-55	PCS (プリクラッシュ セーフティ).....	P.5-95
ワイドビューミラー.....	P.5-55	誤発進抑制機能 システム.....	P.5-115
2面鏡ミラー.....	P.5-57	クリアランスソナー システム.....	P.5-124
バックガイドモニター...P.5-58		サイトアラウンド モニターシステム.....	P.5-131
4WD.....	P.5-67	シートヒーター スイッチ.....	P.5-140
		バックブザー 減音スイッチ.....	P.5-141

## スマートエントリー&スタートシステム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

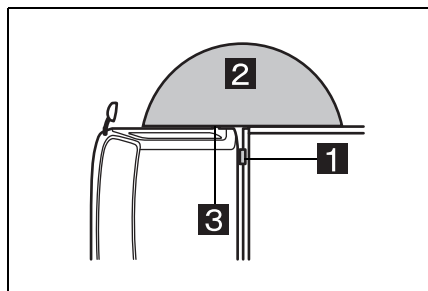
電子キーをポケット等に携帯するだけで以下の操作が行えます。

(必ず運転者が電子キーを携帯してください)

- ドアの施錠・解錠
- エンジンの始動

### ■ アンテナの位置

#### ▶ 車室外

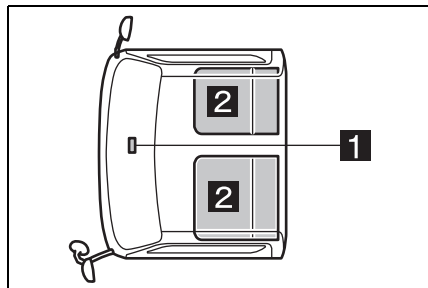


1 アンテナ

2 検知範囲

3 ロック / アンロックスイッチ

#### ▶ 車室内



1 アンテナ

2 検知範囲

### ■ 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池上がりを防止するため、節電機能（節電モード）があります。

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

### ■ 節電モードの設定

電子キーのロックボタンを押しながら、アンロックボタンを2回押し、電子キーのインジケータが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

### ■ ドアの施錠操作時のセキュリティ機能

- 解錠操作後、約30秒以内にドアを開かなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。
- 30秒オートロックが実施された際に、車室内に電子キーがあると認識されると閉じ込み防止のためアンロックを実施します。

・30秒オートロックについて

施錠されるまでの時間はカスタマイズすることができます。カスタマイズについては最寄りのトヨタ販売店にご相談ください。

### ■ カスタマイズ機能

\* お客様のご希望に合わせて作動内容を変更することができます。詳しくは最寄りのトヨタ販売店へお問い合わせください。

- スマートキャンセル

スマートエントリー & スタートシステムの有効無効を設定

- ワイヤレスブザーアンサーバック

スマートロック／アンロック・ワイヤレスロック／アンロック時のワイヤレスブザー吹鳴の有無

- ワイヤレスブザー音量

ワイヤレスブザー吹鳴時の音量調整

- スマート／ワイヤレスタイマロック作動時間

解錠操作（スマートアンロック）を実施後、オートロック機能が作動するまでの時間

- ドア連動タイマロック

電源 OFF 時にドアを閉めた際の自動施錠を実施するかどうか

- ドア連動タイマロック作動時間

ドア連動タイマロック設定有時に、自動ドアロックされるまでの時間

- 電源 ON 中のワイヤレス機能

電源 ACC/IG ON 中のワイヤレスドアロック／アンロックを許可する

### ■ ウォーニング機能

- キーリマインダウォーニング

電源が切れていない状態（エンジンスイッチが LOCK 位置以外）で運転席ドアを開けると、マルチインフォメーションに「電源を OFF して下さい」を表示し、メーター内のブザーが「ピー」と鳴り、電源の切り忘れを知らせます。



- 電源切り忘れ降車ウォーニング

電源が切れていない状態（エンジンスイッチが LOCK 位置以外）で電子キーを持ち出してドアを閉め、スマートロック／アンロックスイッチを押すと、マルチインフォメーションに「電源を OFF して下さい」を表示し、メーター内のブザーが「ピー」と鳴り、ワイヤレスブザーが「ピー」と連続で鳴り、電源の切り忘れを知らせます。



- P レンジ以外降車ウォーニング

シフトレバーが P 位置以外にあるとき運転席ドアを開けると、マルチインフォメーションに「駐車時は P レンジに入れて下さい」を表示し、メーター内のブザーが「ピー」と断続で鳴り、シフトレバーが P 位置以外にあることを知らせます。



● キー持ち出しウォーニング

電源が切れていない状態（エンジンスイッチが LOCK 位置以外）で運転席ドア以外から電子キーを持ち出してドアを閉めると、マルチインフォメーションに「キーが見つかりません」を表示し、メーター内およびワイヤレスブザーが「ピー」と鳴り、電子キーが持ち出されたことを知らせます。



● キー置き忘れウォーニング

電子キーが車室内にある状態で車室外からスマートロック / アンロックスイッチを押すまたは手動ドアロック（ドアロック後、ドアハンドルを引きながらドアを閉める）すると、マルチインフォメーションに「車室内にキーがありません」を表示し、ワイヤレスブザーが「ピー」と連続で鳴り、車室内に電子キーがあることを知らせます。



● キー無し始動操作ウォーニング

電子キーが車室内に無い状態でエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションに「キーが見つかりません」を表示し、メーター内のブザーが「ピー」と鳴り、車室内に電子キーがないことを知らせます。



● 半ドアロックウォーニング（スマート）

いずれかのドアが半ドアの状態では運転席側アウタードアハンドル部にあるロック / アンロックスイッチを押すとワイヤレスブザーが「ピー」と連続で鳴り、ドアが半ドアの状態であることを知らせます。

### ● 半ドアロックウォーニング（ワイヤレス）

いずれかのドアが半ドアの状態では電子キーのドアロックボタンを押すとワイヤレスブザーが「ピー」と連続で鳴り、ドアが半ドアの状態であることを知らせます。

### ● キー閉じ込みウォーニング

車室内に電子キーがある状態で電子キーのドアロックボタンを押すと、マルチインフォメーションに「車室内にキーがあります」を表示し、ワイヤレスブザーが「ピー」と連続で鳴り、車室内に電子キーがあることを知らせます。



● キー電池残量低下ウォーニング  
電子キーの電池残量が少なくなった状態でエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションに「キーバッテリー残りわずか」を表示し、メーター内のブザーが「ピー」と鳴り、電子キーの電池残量が少なくなったことを知らせます。



### ● エンジンイモビライザー照合完了通知

電子キーの電池切れ、スマートキャンセル時、または電波障害時にエンジンスイッチに電子キーをかざしながら、エンジンスイッチを操作するとメーター内のブザーが「ピッ」と鳴り、エンジンイモビライザーの照合が完了したことを知らせます。

### 知識

- 以下のような場合、スマートエントリー&スタートシステムや電子キーのワイヤレス機能、エンジンイモビライザーシステムが正常に動作しなかったり、作動範囲が狭くなったりするおそれがあります。
  - 電子キーの電池が消耗しているとき
  - 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港など、強い電波やノイズを発生する設備があるとき
  - 電子キーが以下のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
    - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
    - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
    - ・ 金属製の財布やカバン

- ・ 小銭
- ・ カイロ
- ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを以下のような製品と同時に携帯しているとき
- ・ 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器
- ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
- ・ パソコンや携帯情報端末 (PDA 等)
- ・ デジタルオーディオプレーヤー
- ・ ポータブルゲーム機器
- 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合

### ▲ 警告

#### ■ 電波がおよぼす影響について

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、スマートアンテナから 22 cm 以内に植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。
- スマートエントリー&スタートシステムを作動しないようにすることもできます。

### ▲ 注意

#### ■ スマートエントリー&スタートシステムの使用について

- 必ず電子キーを携帯した上でスマートエントリー&スタートシステムを作動させてください。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。助手席側のドア付近に電子キーがある場合でも、電子キーを検知し、解錠されることがあります。
- 電子キーが車室内または車に近い位置にある場合に電子キーのロックボタンで施錠（ワイヤレス機能によるドアロック）をおこなうと、スマートアンロックによる解錠ができなくなることがあります。スマートアンロックで解錠できない場合は、電子キーのアンロックボタンかメカニカルキーで解錠してください。

#### ■ ドアの解錠時

- ドアハンドル部のロック/アンロックスイッチを押しながらドアハンドルを引いたときは、解錠できない場合があります。解錠されなかった場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどしてから再度ロック/アンロックスイッチを押し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内にほかの電子キーがあるときは、ロック/アンロックスイッチを押してから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

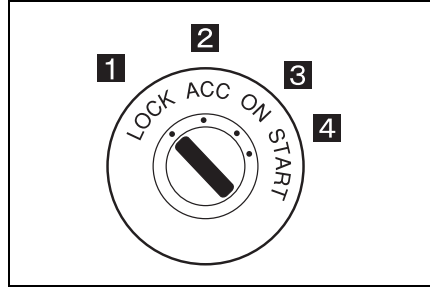
#### ■ 長時間運転しない場合

- 盗難防止のため、電子キーを車から 2 m 以上離しておいてください。

- 長期間車を使用しない場合は、あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。

## エンジン（イグニッション）スイッチ

### エンジンスイッチポジション



#### 1 キーを抜き差しする位置

キーを抜くとハンドルがロックされます。

#### 2 エンジン停止時、電装品が使用できる位置

オーディオ・シガレットライターなど。

#### 3 エンジン回転中の位置

#### 4 エンジンを始動する位置

### アドバイス

#### ■ エンジンスイッチの取り扱い

- キーはエンジンスイッチの奥まで確実に押し込んでください。
- 「LOCK」の位置で、キーの抜き差しやキーを回しにくいときは、ハンドルを軽く左右に動かしながら行ってください。
- 「ACC」から「LOCK」の位置に回すときは、キーを押し付けながら回します。AT車はシフトレバーを「P」に入れ、キーを「LOCK」の位置に回してください。
- 長時間駐車するときは、キーを抜いておいてください。

- エンジンを始動するときは、エンジンが完全に停止している状態で操作してください

エンジンが完全に停止する前にエンジンスイッチを「START」の位置にした場合は、スターターブロック機能によりスターターが作動しない場合があります。

- エンジン始動時、エンジンスイッチを繰り返し「START」位置にした場合

スターターブロック機能によりスターターが作動しない場合があります。3秒以上間隔をあけて操作をしてください。

- エンジンを止めた状態で「ON」や「ACC」の位置のまま長時間放置したり、ラジオなどを長時間使用しないでください。バッテリーあがりを起こし、エンジンが始動できなくなるおそれがあります。

### 警告

- 走行中は、エンジンスイッチを絶対に「ON」の位置以外にしないでください

「ON」の位置以外にするとエンジンが停止し、ハンドル操作やクラッチペダル操作が極端に重くなったり、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

- キーを抜いたままや「LOCK」の位置で絶対に走行しないでください

キーが抜かれた状態になるとハンドルがロックされ操作ができなくなり危険です。

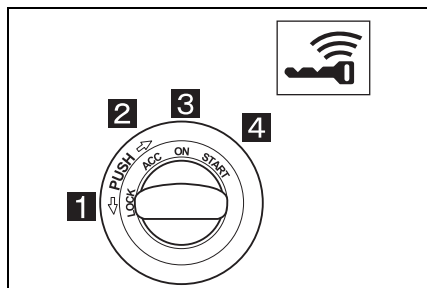
### 注意

- エンジンスイッチの取り扱い
- エンジン始動後、再度「START」の位置に回さないでください。スターターの故障の原因になります。

## エンジンスイッチ（スマートエントリー&スタートシステム付き車）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■メーター内のセキュリティインジケータ表示



- 1 LOCK
- 2 ACC
- 3 ON
- 4 START

### 電源切替

電子キーを携帯してエンジンスイッチを回すと、電源モードを切替えることができます。

#### ■LOCK→ACC

● イモビアンセット状態のとき  
LOCK 位置から、エンジンスイッチを押しながら右に回すと電源状態が IG OFF から ACC に切り替わります。

● イモビセット状態のとき  
エンジンスイッチロックが作動しているため、ACC に回せません。キー照合を実施してください。

#### ■ACC→IG ON

ACC 位置から、エンジンスイッチを右に回すと電源状態が ACC から IG に切り替わります。

#### ■IG ON→START

● IG ON の位置から、エンジンスイッチをさらに右に回すと電源状態が START になり、スタータが回ります。エンジンスイッチから手を放すと、エンジンスイッチが IG ON の位置に戻ります。

● エンジン始動した場合は、IG ON の位置でもエンジンは動き続けます。

#### ■IG ON→ACC

IG ON の位置から、エンジンスイッチを左に回すと電源状態が IG から ACC に切り替わります。エンジン始動中の場合、エンジンが停止します。

#### ■ACC→LOCK

● ACC の位置から、エンジンスイッチを押しながら左に回すと電源状態が ACC から LOCK に切り替わります。

● AT 車は、シフトレバーが「P」位置にあるときのみ、LOCK に切り替えることができます。

## ハンドルロック機能

### ■ ロックのしかた

エンジンスイッチを LOCK 位置にし、ハンドルを少し動かすことでハンドルが固定されます。

### ■ 解除のしかた

正規の電子キーが認証されるとエンジンスイッチのロックが解除され、LOCK 位置から ACC/ON/START 位置へ回せるようになります。この状態でエンジンスイッチを ACC/ON に操作するとハンドルロックが解除されます。

### ■ ハンドルロックが解除できない場合

- エンジンスイッチのロックが解除されていないときは、インジケータが黄色に点滅します。
- ハンドルロックの解除は、シフトレバーが P に入っていることを確認し、ステアリングを左右に動かしながら、エンジンスイッチを回してください。

## 自動イモビセット機能

盗難防止のため、ACC・ON（ただし、エンジンが始動していないか、かつ車速なし）にしたまま数分放置するとエンジンイモビライザーが作動します。

## 注意

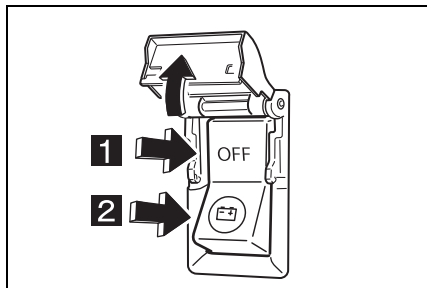
### ■ エンストなどで車両滑走状態になったときは

車両が安全な状態で停止するまでエンジンスイッチを操作しないでください。ハンドルロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

## バッテリーメインスイッチ (消防車)

スイッチを「OFF」にするときは、カバーを開け、スイッチの「OFF」側を押してください。

\* 走行中は、カバーを閉じてください。



**1** OFF

**2** ON

### ■エンジンを始動する

スイッチを「ON」にしてからエンジンスイッチを「ON」の位置にしてください。

### ■エンジンを停止する

エンジンスイッチを「LOCK」の位置にしてからスイッチを「OFF」にしてください。

### アドバイス

■長時間駐車するときは、必ずスイッチを「OFF」にしておいてください

「ON」の状態にしておくとバッテリー／補機バッテリーあがりを起こし、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。

### 警告

■ 走行中はスイッチを「OFF」にしないでください


「OFF」にするとエンジンが停止し危険です。

■ エンジン回転中はスイッチを「OFF」にしないでください

電源が切れ、各電気装置が作動せず危険です。

## エンジンのかけ方

### エンジンをかける前に

1. パーキングブレーキが確実に効いていることを確認する。
2. シフトレバーを「N」または「P」の位置にする。
3. スマートエントリー付き車は、  
 ランプが消灯していることを確認する。

#### ■ クラッチスタートシステム (MT車)

クラッチペダルをいっぱい踏み込まないと、エンジンがかからないようになっています。

### 始動方法

#### ■ 通常またはエンジンが暖まっているとき

エンジンスイッチを「START」の位置に回しエンジンをかける。

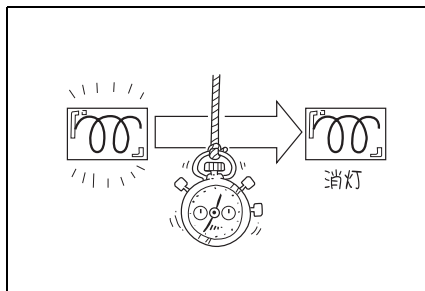
- \* MT車はクラッチペダルをいっぱい踏み込んで行います。このときアクセルペダルは踏まないでください。

#### ■ 寒冷時にエンジンをかけるとき

##### ■ 予熱（始動補助装置）付き車

1. スロットルノブを左いっぱい回す。(→P.5-16)
2. キーを差し込み「ON」の位置にする。

- \* 予熱表示灯が約2秒点灯します。
- \* 冷却水温が0℃以下のとき予熱表示灯が約5秒点灯します。



3. 消灯と同時に、クラッチペダル (AT車を除く) をいっぱい踏み込んでエンジンスイッチを「START」の位置に回し、エンジンをかける。

### 👉 アドバイス

#### ■ バッテリーあがりを防止するために

- 1度でエンジンがかからないときは、バッテリーの機能回復のため「ACC」の位置に戻し、30秒ほど待ってからかけなおしてください。
- 始動時にアクセルペダルを必要以上に踏むと、黒煙の発生につながります。
- 予熱（始動補助装置）\*は消費電力が大きいので、繰り返し作動させると、バッテリーの負担が大きいため、できるだけ避けてください。
- エンジンを始動するときは、エンジンが完全に停止している状態で操作してください

エンジンが完全に停止する前にエンジンスイッチを「START」の位置にした場合は、スターターブロック機能によりスターターが作動しない場合があります。

### ■ エンジン始動時、エンジンスイッチを繰り返し「START」位置にした場合

スターターブロック機能によりスターターが作動しないことがあります。3秒以上間隔をあけて操作をしてください。

### 知識

### ■ エンジンイモビライザー機能付き車について (→P.3-2)

システムにより、エンジンがかからないことがあります。その場合、いったんキーを抜き、10秒以上待ってからエンジンを始動してください。

### ■ エンジン始動を容易にするには

- 予熱表示灯の消灯後ただちにエンジンスイッチを回すと、エンジンが容易に始動します。
- 寒冷地域では大容量バッテリーを使用すると始動性が良好になります。

### 警告

### ■ エンジンの始動

- ドライバーシートに座っていない状態でエンジンをかけないでください。思わぬ急発進にそなえ必ずドライバーシートに座りエンジンをかけてください。必ず「エンジンをかける前に」を行ってください。(→P.5-13)
- 車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

### 注意

### ■ スターターの使用について

スターターは15秒以上連続して使用すると、スターターが故障したり、バッテリーあがりの原因となります。

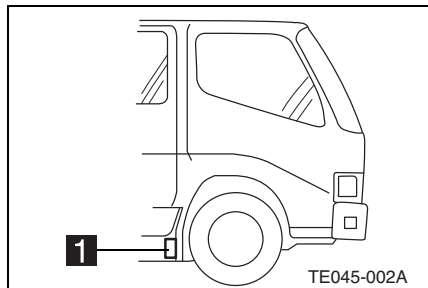
### ■ スマートエントリー付き車のエンジンスイッチ操作について

- エンジンスイッチを操作する際は、1段ずつ確実に回してください。早く回すとスイッチが引かかる場合があります。
- エンジンスイッチ操作時に違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかに最寄りのトヨタ販売店へご連絡ください。
- エンジンが始動しないときは、エンジンイモビライザーが解除されていない可能性があります。

## オイルパンヒーターコンセント★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

寒冷時に、エンジンオイルをあらかじめオイルパンヒーターで暖めて、エンジンの始動を容易にすることができます。



### 1 コンセント

- \* オイルパンヒーターは、寒冷地以外で使用しないでください。
- \* コードのアースは、必ず取り付けてください。
- \* コードはドアにはさまったり、折れ曲がらないようにしてください。
- \* オイルパンヒーターの消費電力は500Wです。
- \* 延長コードを接続するAC100Vコンセントに十分な容量があることを確認してください。

オイルパンヒーターによる  
エンジンオイルの温度

常温約 30 ~ 40 °C

1. エンジンオイル量を点検する。
2. コンセントに車載の専用コードを接続する。
3. コードのプラグを外部電源(AC100V)に接続する。

## ▲ 警告

- プラグや手をぬらしたときは、必ず乾かしてから接続してください

100V交流電源ですので、外部電源を接続すると感電するおそれがあり危険です。

- 延長コードの接続や取りはずしは、正しい順序で行ってください

正しい順序で行わないと感電し、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- コンセント内に水滴などが付いているときは、完全に取除いてください

コンセント内の水気を完全に取除いてから、車両側プラグを挿し込んでください。水気を完全に取除かないと、漏電の原因となり、感電など生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

- コンセントを使用したあとは、すみやかに延長コードを取りはずしてください

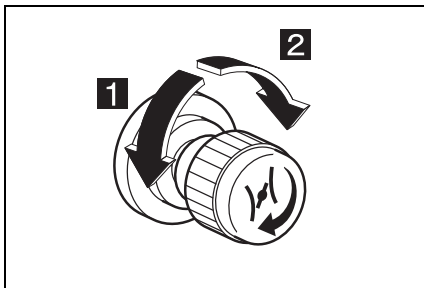
コードをはずし忘れたまま車を発進してしまうなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

## スロットルノブ★

★：グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。

### ■ 暖機運転

\* 寒冷時のエンジン暖機については  
(→P.5-17)



**1** アイドリング自動調整  
(左いっぱいに戻す)

**2** アイドリング手動調整  
(右に回す)

#### ▶ 自動調整

エンジンの冷却水温に応じてアイ  
ドリング回転数が自動的に調整さ  
れます。アイドリング回転数が下  
がったら暖機完了です。

\* 通常は左いっぱいに戻した状態で使用  
してください。

#### ▶ 手動調整

スロットルノブを右に回すとエン  
ジン回転数が上がり、アイドリン  
グ回転数を調整することができます。

1. エンジンがかかったら、スロ  
ットルノブでやや高めのアイド  
リング回転数にします。
2. 暖機運転は水温計の指針が動き  
出すまで行い、水温計の指針が  
動き出したら、左いっぱいに戻  
す。

\* 手動調整時は、不用意にスロットルノ  
ブを右に回すとエンジン回転数が急に  
上がりますので注意してください。

### 👉 アドバイス

#### ■ 寒冷時のエンジン暖機については

→P.5-17

#### ■ 始動直後は、空ぶかしや高速回転を させないでください

- エンジンの不調や故障の原因になり  
ます。
- 燃料の無駄使いにもなります。

### ⚠ 警告

#### ■ 換気の不十分な車庫や屋内での暖機 運転はしないでください

排出ガスにより一酸化炭素中毒になる  
おそれがあり危険です。

#### ■ 走行する前に必ずスロットルノブを 左いっぱいに戻してください

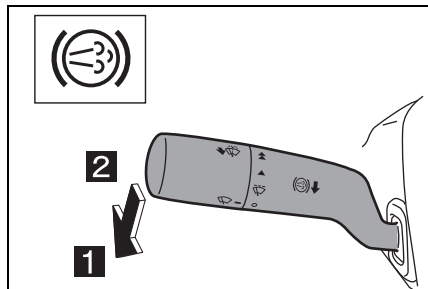
- スロットルノブを作用させたまま走  
行すると急発進の原因になります。
- 燃料の無駄使いになるほか、クラッ  
チの寿命を縮めます。

#### ■ 暖機運転は、排気管やマフラー付近 に枯草や紙くずなどの燃えやすい物 がないことを確認してから行ってく ださい

燃えやすい物が近くにあると火災の原因  
になります。

## 暖機運転

寒いときにエンジンを始動して、早くヒーター（暖房）およびデフロスターを効かせたいときや長時間停車中のヒーター（暖房）効果を高めたいときに使用します。



- 排気ブレーキスイッチを押し下げると、暖機システムが作動し、表示灯が点灯します。
- 排気ブレーキスイッチを元に戻すと、作動が終了し、表示灯が消灯します。
- \* 早くヒーター（暖房）を効かせたいときは、暖機システムが作動状態のまま、スロットルノブでエンジン回転を標準アイドル回転数よりやや高めにします。

### 👉 アドバイス

- シフトレバーを「N」の位置以外にすると、暖機システムは解除されます

再度暖機を行いたい場合は、一度排気ブレーキスイッチを戻し、もう一度押し下げてください。

- 排気ブレーキを押し下げた状態でエンジンを始動した場合、暖機システムは作動しません

再度暖機を行いたい場合は、一度排気ブレーキスイッチを戻し、もう一度押し下げてください。

### ⚠️ 警告

- 換気の不十分な車庫や屋内での暖機運転はしないでください

排出ガスにより一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

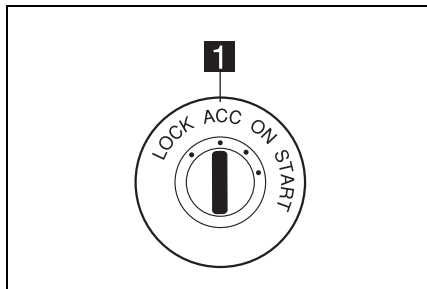
## エンジンの止め方

### 停止前のアイドリング

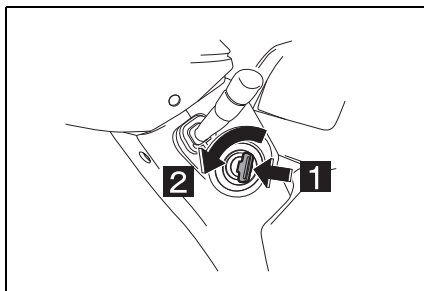
1. パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを「N」または「P」の位置にする。
  - \* AT車は、「P」位置以外でエンジンを停止しないでください。
2. エンジンを停止させる前に、アイドリング状態でエンジンを冷却する。
  - 約2分程
  - \* 登坂や高速走行直後はエンジン各部が高温になっていますので、十分にエンジンを冷却します。


### 停止方法

1. エンジンスイッチを「ACC」の位置にしてエンジンを止める。



- 1 ACC
2. エンジンスイッチを抜き取る時は、キーを「ACC」の位置で押し付けながら「LOCK」の位置に回す。



- 1 押す
- 2 回す
3. スマートエントリー付き車は、ブレーキペダルから足を離れた状態で  ランプが消灯していることを確認する。

### アドバイス

#### ■ ターボチャージャーについて

ターボチャージャー付きエンジンは、エンジン停止前に必ずアイドリング状態にしエンジンを冷却してください。走行直後にエンジンを止めるとターボチャージャーに悪影響をあたえます。

### 警告

#### ■ 駐車するときは

坂道に駐車するときや、長時間の駐車および車両の点検・整備などの作業をするときは、危険防止のため必ずタイヤの前後に輪止めを掛けてください。

#### ■ ギヤ入れ駐車について

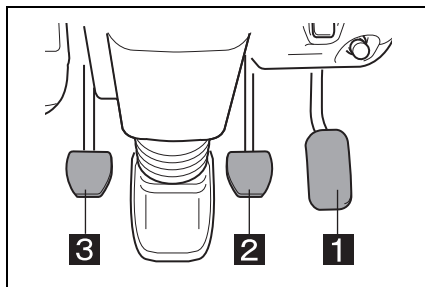
トランスミッションのギヤを入れた状態で駐車する必要があるときは、パーキングブレーキを使用しエンジンが回されても始動しないように、エンジンスイッチを抜き、さらにタイヤに輪止めを掛けてください。

**■ 車両火災の防止**

枯草や紙くずなど燃えやすい物がある場所に車を止めないでください。走行直後は排気管やマフラー付近が高温になっています。燃えやすい物が近くにあると火災の原因になります。

**ペダル類**

各ペダルを確実に操作するため、フロアマットを正しく敷いてください。



**1** アクセルペダル

**2** ブレーキペダル

**3** クラッチペダル（MT車のみ）

**■ ブレーキペダル**

ブレーキペダルの踏みしろに応じて制動力の大小が変化します。

**知識****■ エンジンの空ぶかしはしないでください**

燃料の無駄使いおよび公害（排出ガス・騒音）のもとになります。

**警告****■ 運転席付近の整理整頓**

ブレーキペダルの下に空缶などがはさまると、ブレーキ操作ができなくなるおそれがあり危険です。空缶などがあるときは取り除いてください。

**■ アクセルペダルの異常について**

操作に異常（踏力軽すぎ、戻り不良、しぶりなど）を感じたときは、そのまま運転を続けしないでください。速度のコントロールができなくなるおそれがあり大変危険です。トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

**注意****■ クラッチペダルに足をのせたまま運転しないでください**

力が出ないばかりでなくクラッチの寿命を縮めます。

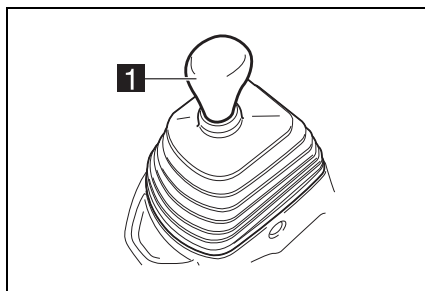
**■ 変速するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んでください**

クラッチペダルの踏み込みが浅いと、クラッチやトランスミッションを損傷させるおそれがあります。

**マニュアルトランスミッション (MT車)**

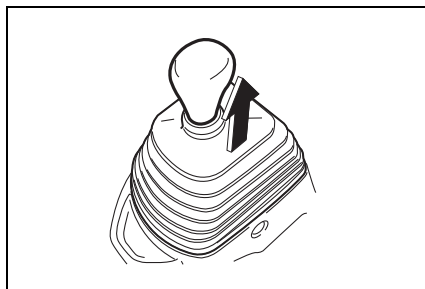
「R」の位置にシフトすると後退灯が点灯し、同時にキャブ内および車外のバックブザーが鳴ります。

- \* バックブザー減音スイッチが操作されている（表示灯が点灯している）ときは、車外のバックブザーは通常より小さい音量で鳴ります。
- \* 後退するときは、車両後方および左右の安全を十分確認してください。

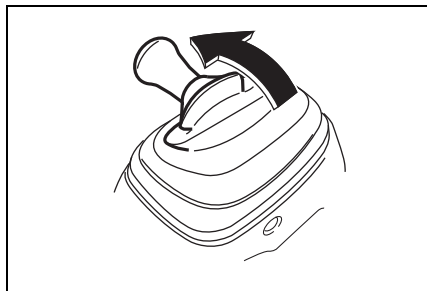
**1 シフトレバー****可倒式シフトレバー**

シフトレバーを、助手席側に倒すことができます。

1. パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを「N」の位置にする。
2. シフトレバーを上方に引き上げる。



3. シフトレバーを引き上げたまま、助手席側へ倒す。



4. 戻すときは、シフトレバーをそのまま起こす。

### 知識

#### ■ オーバーランとは

エンジンを許容最高回転数を超えて回転させることをいい、このような状態にすると各部に無理が生じて、エンジンなどを破損させることになります。

### 警告

#### ■ 可倒式シフトレバーについて

- 倒すときは、必ず停車して、パーキングブレーキを確実にかけ、「N」の位置にシフトしてから行ってください。万一「N」位置以外にギヤが入っていると、車両が動きだし、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジン始動時には、シフトレバーが確実にロックされていることを確認してください。
- シフトレバーを可倒用に上方に引き上げたままシフトチェンジしないでください。レバー内部の可倒機構が破損するおそれがあります。

- 走行中にはシフトレバーを「N」にしないでください

エンジンプレーキが効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

#### ■ 部品の損傷を防ぐために

- 前進から後退、後退から前進に変速するときは、車両を完全に止めてから行ってください。トランスミッションを損傷させるおそれがあります。
- シフトダウンするときは、減速してから1段ずつ行ってください。エンジンがオーバーランを起こし、破損するおそれがあります。

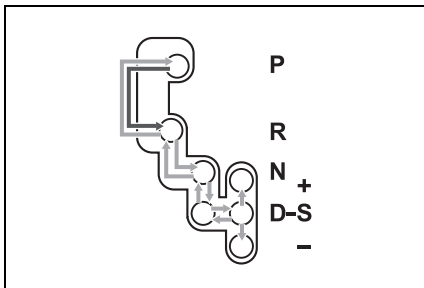
### 注意

- 変速するときは、クラッチペダルをいっぱい踏み込んでください

クラッチペダルの踏み込みが浅いと、トランスミッションを損傷させるおそれがあります。

## オートマチックトランスミッション (AT 車)

### シフトレバーの動かし方



エンジンスイッチを「ON」にし、ブレーキペダルを踏んだまま行ってください。

「P」と「D」のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

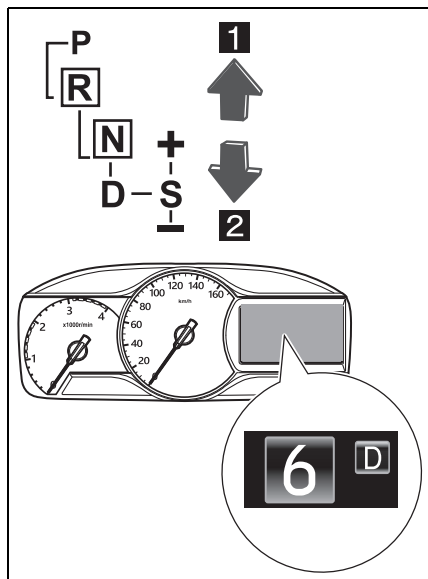
### シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 車輪が固定されます。</li> <li>・ エンジン始動時および駐車時に使用してください。</li> <li>・ PTO ★を操作するときにも使用します。</li> <li>・ 駐車時は、必ず「P」位置にしてください。</li> <li>・ 「P」位置のみエンジンスイッチからキーが抜き取れます。</li> </ul>

R	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 車両を後退させるときに使用します。</li> <li>・ 「R」位置に入れると後退灯が点灯し、キャブ内および車外のバックブザーが鳴り「R」の位置にあることを知らせます。</li> <li>・ バックブザー減音スイッチが操作されている（表示灯が点灯している）ときは、車外のバックブザーは通常より小さい音量で鳴ります。</li> </ul>
N	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動力が伝わらない状態の位置です。</li> <li>・ 「N」位置でもエンジンは始動できますが安全のため「P」位置で行ってください。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通常の走行時に使用します。</li> </ul>
S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シフトレバーを操作し、任意のギアを最高段として設定することができます。</li> <li>・ エンジンブレーキが必要な場合に使用します。</li> </ul>

### S モードでのシフトレンジ切りかえ

シフトレバーがSの位置にあるとき、シフトレバーを次のように操作できます。



**1** シフトアップ

**2** シフトダウン

1～6レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

Sポジションへ操作したときの初期シフトレンジは、その時選択していたレンジになります。

#### ■シフトレンジ機能

- エンジンブレーキ力は、6段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字の小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。


シフトインジケータ表示	自動変速される段数
6	1 ⇄ 2 ⇄ 3 ⇄ 4 ⇄ 5 ⇄ 6
5	1 ⇄ 2 ⇄ 3 ⇄ 4 ⇄ 5

4	1 ⇄ 2 ⇄ 3 ⇄ 4
3	1 ⇄ 2 ⇄ 3
2	1 ⇄ 2
1	1

#### ⚠ 注意

エンジンオーバーランなどでシフト操作ができない場合は、警告音が鳴ります。

#### 油温警告灯

エンジンスイッチを「ON」にすると  ランプが点灯し、エンジンをかけて消灯すれば正常です。

#### ■油温警告灯が点灯したとき

トランスミッションのオイルの温度が高くなると点灯します。


1. ランプが点灯したときは、すみやかに車両を安全な場所に停止して、「P」位置にする。
2. エンジン回転数をアイドリング回転時より若干高めにし、冷却する。

\* ランプが消灯すれば、通常走行ができます。

\* アイドリング回転を続けてもランプが消灯しないとき、または走行中に頻繁に点灯するときは、トヨタ販売店に連絡してください。

\* 通常は数分以内に消灯します。

#### A/T 警告灯

エンジンスイッチが「ON」の位置で  ランプが点灯したまま消灯しないとき、または走行中にランプが点灯したときは、システムの

異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。

ランプが点灯したままのときは、車速 60 km/h 以下で走行してください。

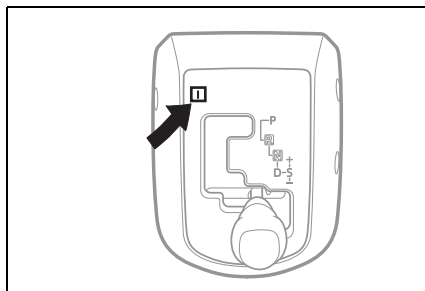
### Pレンジ以外ドア開放ウォーニング

エンジンスイッチが「ON」の位置でシフトレバーが「P」位置以外の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションに「駐車時はPレンジにして下さい」を表示し、ブザーが連続音として「ピッ、ピッ、ピッ」と鳴ります。ドアをしっかりと閉めるか、駐車、離席する際には、シフトレバーを「P」位置にして、マルチインフォメーションのシフトインジケータに「P」が表示されたことを確認してから降車してください。



### シフトロック解除

「P」から「R」位置へシフトする際、ブレーキペダルを踏んでもシフトできない場合に使用してください。



- 安全のため、エンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、ブレーキペダルを踏んだ状態で作業してください。
- 先端が保護されたマイナスドライバなどをシフトロック解除キャップの穴に差し込み、横に傾けて取り外します。
- 内側にあるシフトロック解除リンクを押しながら、シフトレバーを操作します。
- シフトロック解除リンクを押し続けている間、シフトレバーの操作が可能になります。

### ▲ 警告

シフトロック解除リンクを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけ、ブレーキペダルを踏んでください。誤ってアクセルペダルを踏み続けると、シフトロック解除リンクを押した状態でシフトレバーを操作したときに車両が急発進し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

## ⚠ 注意

エンジンスイッチが「ON」の位置でブレーキペダルを踏んでも操作できない場合は、直ちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトロック方式：

この装置は、ブレーキペダルを踏み続けしないと、「P」の位置からシフトレバーを操作できません。正しく理解して使用してください。

- キーが「ACC」または「LOCK」の位置にあると、ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーを操作できません。
- シフトレバーが「P」の位置にないとキーを引き出すことができません。キーを引き出すには、シフトレバーを「P」の位置に移動します。
- シフトレバーが「P」の位置にないとキーを「ACC」から「LOCK」の位置に回すことができません。
- 「P」の位置から操作するとき、車両左側方向にシフトレバーを操作したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。その場合は、先にブレーキペダルを踏んでからシフトレバーを操作してください。

## 運転操作

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルは必ず右足で踏んでください。

### ■ エンジンの始動

1. パーキングブレーキが確実にかかっていることを確認する。
2. レバーが「P」位置に入っていることを確認する。
3. ブレーキペダルを右足で踏む。

4. エンジンスイッチを「START」の位置にしてエンジンをかける。

- \* 「N」の位置でも始動できますが、安全のためタイヤが固定される「P」の位置で行ってください。
- \* 押しがけやけん引によるエンジン始動はできません。

### ■ 発進および通常走行

1. 必ず右足でブレーキペダルを踏む。

- \* レバーを「D」・「S」・「R」位置に入ると、クリーブ現象によりアクセルペダルを踏まなくても車両が動き出します。発進前はブレーキペダルをしっかりと踏み、車両が動かないようにしてください。

2. レバーを「D」または「R」位置にする。

3. パーキングブレーキを解除し、ブレーキペダルを徐々にゆるめる。アクセルペダルをゆっくり踏む。

- \* 車速と負荷に応じて自動的に変速されます。

### ■ キックダウン

- \* 「D」位置で走行中、アクセルペダルをいっぱい踏み込むと、自動的にシフトダウンし、加速力が大きくなります。

### ■ 坂道走行

- \* 上り坂では「S」モードを使用して勾配や積荷に応じた段数を選択すると、変速回数の少ない滑らかな走行ができます。
- \* 下り坂では排気ブレーキを併用し、安全に走行してください。

- \* 「S」モードで勾配に応じた段数を選択し、必要なエンジンブレーキ力を得て走行してください。

## ■ 停車

### ▲ 警告

#### ■ シフトレバーの「P」位置への操作は車両が停止してから

- 車両が完全に停止する前にシフトレバーを「P」位置にしないでください。車両が完全に止まらないうちにシフトレバーを「P」位置にすると、異音、異常振動が発生し、場合によってはトランスミッション部品の破損や重大な事故につながるおそれがあります。シフトレバーを「P」位置にするときは、車両が完全に停止したことを確認してからシフトレバー操作を行ってください。

- 車両が完全に停車しない状態でシフトレバーを「P」位置に操作した場合、ブザーが鳴ります。車両を完全に停車させ、必ずパーキングブレーキを確実にかけてから、シフトレバーを「P」位置に操作して下さい。

- 「D」位置のまま必ず右足でブレーキペダルをしっかりと踏んでおきます。坂道などではパーキングブレーキを確実にかけます。
- 停車時間が長くなるときは「P」または「N」位置にシフトします。
- 停車後、再発進するときは「D」位置にあることをしっかり確認してから発進してください。

## ■ 駐車

### ▲ 警告

#### ■ シフトレバーの「P」位置への操作は車両が停止してから

- 車両が完全に停止する前にシフトレバーを「P」位置にしないでください。車両が完全に止まらないうちにシフトレバーを「P」位置にすると、異音、異常振動が発生し、場合によってはトランスミッション部品の破損や重大な事故につながるおそれがあります。シフトレバーを「P」位置にするときは、車両が完全に停止したことを確認してからシフトレバー操作を行ってください。

- 車両が完全に停車しない状態でシフトレバーを「P」位置に操作した場合、ブザーが鳴ります。車両を完全に停車させ、必ずパーキングブレーキを確実にかけてから、シフトレバーを「P」位置に操作して下さい。

1. 車両を確実に停止させ、ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキを確実にかける。
2. 「P」位置にする。  
ブレーキペダルを離し、エンジンを止める。

- \* 坂道に駐車するときは必ずタイヤの前後に輪止めを掛けてください。

### 👉 アドバイス

#### ■ A/T 警告灯が消灯しないとき

- エンジンスイッチが「ON」の位置でランプが点灯したまま消灯しないとき、または走行中にランプが点灯したときは、システムの異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- ランプが点灯したままのときは、車速 60 km/h 以下で走行してください。

## 知識

### ■ クリープ現象とは

シフトレバーが走行位置にあるとき、エンジンのアイドル回転により、アクセルペダルを踏んでいなくても車両がゆっくり動き出す現象をいいます。

### ■ シフトレバーの操作について

- エンジンスイッチが「ACC」または「LOCK」位置のときに、ブレーキペダルを踏んでも「P」の位置からレバー操作できません。

- ブレーキペダルを踏んだままでないと「P」位置からシフトできません。

### ■ Sモードについて

「D」から「S」へ操作すると、操作時のギヤ段が変速上限ギヤ段となります。その後、「+」もしくは“-”へ操作することで、1操作毎に変速上限ギヤ段を1段変更できます。「S」から「D」に操作すると通常の変速に戻ります。

### ■ シフトレバーをSにしても“S”が点灯しないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

### ■ シフトダウン制限警告ブザー（Sモード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが2回鳴ります）

### ■ 坂道走行について

- 「P」または「N」位置では、排気ブレーキは作動しません。「P」または「N」位置以外でも車速が約10 km/h以下では、排気ブレーキが一時的に解除されます。車速が上がれば（約12 km/h以上）再び作動します。

### ■ オーバーランとは

エンジンの許容最高回転数を超過して回転させることをいい、このような状態にすると各部に無理が生じて、エンジンなどを破損させることとなります。

### ■ オートマチックトランスミッション保護機能

ぬかるみや砂地・雪道などでスタックしてタイヤが空転する状態が続くときや、走行時にアクセルペダルをくり返し踏んだり離したりする状況が続くと、トランスミッションが高温になり損傷するおそれがあります。

このとき、トランスミッションが損傷しないように、ギヤが一時的に固定される場合があります。

トランスミッションの温度が下がるとギヤの固定は解除され、通常作動に戻ります。

## 警告

### ■ 高回転時のレバーの取り扱い

エンジン回転が高いとき（始動直後など）は、ブレーキペダルを踏んでいない状態で「D」または「R」位置に入れないでください。急発進するおそれがあり危険です。

### ■ 発進および通常走行について

シフトレバー操作時は絶対にアクセルペダルを踏み込まないでください。車両が急発進し危険です。

### ■ 坂道走行について

- フットブレーキは使いすぎないでください。長い下り坂でブレーキを使いすぎると過熱して効きが悪くなるおそれがあり危険です。

- 坂道などでは、「D」または「S」位置に入れたまま惰性で後退したり、「R」位置に入れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

#### ■ 停車時エンジンの空ぶかしはしないで

「P」または「N」位置以外に入っていると急発進して危険です。

#### ■ シフトレバーについて

- 発進時には、必ず右足でブレーキペダルを踏んだまま「P」または「N」位置から「D」または「R」位置にシフトしてください。
- ブレーキペダルを踏んでもレバーが動かないときはシフトロック解除キャップを外し、ブレーキペダルを踏んだまま内部のシフトロック解除リンクを押してレバーを操作してください。また、そのまま使用し続けず、ただちにトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- エンジン始動直後などアイドル回転数が高くなるとクリーブ現象が強くなり、車両が動こうとする力が強まります。ブレーキペダルは確実に踏み込んでください。
- 運転席から助手席に移動するときなどレバーにつかまらないでください。

#### ■ 走行中は「N」位置にしないで

エンジンブレーキが効かないため、思わぬ事故の原因になります。

#### ■ キックダウンについて

アクセルペダルをいっぱい踏み込むと自動的にシフトダウンしますので、滑りやすい路面ではアクセルペダルを急激に踏み込まないでください。タイヤが空転し、車の方向性を失うおそれがあります。

#### ■ 上り坂で停車するときは

上り坂でブレーキを使用せずにエンジンの動力を使っての停車はしないでください。右足でしっかりとブレーキペダルを踏み、必ずパーキングブレーキをかけてください。

#### ■ けん引時の注意

- AT 車をけん引するときは必ず後輪を持ち上げて行ってください。
- 後輪を持ち上げずにワイヤーロープなどでけん引するときは、プロペラシャフトを外してください。外さないでけん引するとトランスミッション焼き付きの原因になります。
- AT 車は、車を引いたり押ししたりしてエンジンをかけることはできません。
- 次のときは、必ず 4 輪を持ち上げて運搬してください。
  - ・ 駆動系内部に異常があると思われるとき
  - ・ 4WD 車にて後輪駆動 (2WD) にならない

### ■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除リンクを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除リンクを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

### ⚠ 注意

#### ■油温警告灯が点灯したとき

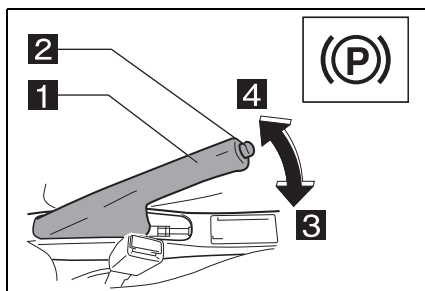
- すぐにエンジンを止めないでください。トランスミッション焼き付きの原因となります。
- ランプが消灯してからエンジンを止めてください。

#### ■シフトレバーの操作

- 前進から後退、または後退から前進へとシフトするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み必ず車両が停止してから行ってください。また、レバー位置を必ず目で確認してください。
- むかみから脱出するときは「D」⇔「N」位置、または「R」⇔「N」位置を交互にシフトしてください。
- 「P」または「N」以外の位置で、ブレーキを踏みながらエンジンを高回転させないでください。

## パーキングブレーキ

### パーキングブレーキレバーの操作



- 1 パーキングブレーキレバー
- 2 解除ボタン
- 3 解除（下げ）
- 4 作動（上げ）

- 解除ボタンを押さずに、レバーをいっぱい引き、最後に「カチッ」というノッチ音がすることを確認してください。同時にパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
- レバーを戻すときは、レバーを少し引き上げ解除ボタンを押しながら戻します。パーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。

## 電動パーキングブレーキ

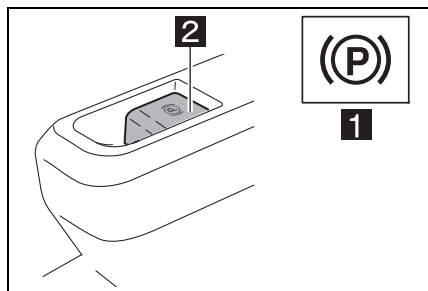
### ■パーキングブレーキスイッチの操作

#### ▶ マニュアルモード

1. パーキングブレーキスイッチを引き、パーキングブレーキをかける。

\* メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- \* 緊急時走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときはパーキングブレーキスイッチを引き続けてください。
- 2. パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを解除する。
- \* ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- \* メーター内のパーキングブレーキ表示灯が消灯します。



**1** パーキングブレーキ表示灯

**2** パーキングブレーキスイッチ

#### ▶ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける。

オートモードを「ON」にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- シフトレバーを「P」から「P」以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。(AT 車)
- シフトレバーを「P」以外から「P」にすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブ

レーキ表示灯が点灯します。(AT 車)

シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

急なシフト操作を行うと、オートモードが作動しない場合があります。その場合は、手でパーキングブレーキを操作してください。

エンジンスイッチを「OFF」にすると、パーキングブレーキがかかりパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

#### ▶ オートモードを OFF にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続けてください。

1 度目の操作では、シフト連動、エンジンスイッチの「OFF」による自動作動が解除されます。

2 度目の操作ですべての自動操作が解除されます。

#### ■ マルチインフォメーション表示について

電動パーキングブレーキの作動について、マルチインフォメーションで表示します。(→ P.6-22)

#### 知識

##### ■ パーキングブレーキの作動

- エンジンスイッチが「ON」の位置以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- エンジンスイッチが「ON」の位置以外では、オートモード（かける・解除する）は作動しません。

### ■ パーキングブレーキの警報について (パーキングブレーキ引きずり防止ブザー)

パーキングブレーキが掛かっている状態で、車速が5 km/h 以上になるとブザーが鳴ります。

- エンジンスイッチが「ON」または「START」位置以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- エンジンスイッチが「ON」または「START」位置以外では、オートモードによる作動(かける・解除)はできません。

### ■ パーキングブレーキスイッチが故障したとき

- 自動的にオートモードが「ON」になります。
- パーキングブレーキ表示灯の消灯を確認してから発進してください。パーキングブレーキスイッチを押してからパーキングブレーキが解除されるまで1秒程度かかるため、スイッチを押してからすぐに発進すると、パーキングブレーキを効かせたまま走行することになり、パーキングブレーキ故障の原因になります。

### ■ パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- シフトポジションが前進もしくは後退の位置にある
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

オートモードではシフトレバーを「P」から「P」以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

### ■ パーキングブレーキ自動作動機能について

下記の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

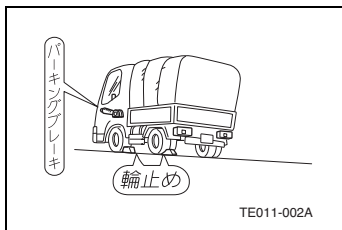
- ブレーキを踏んでいない
- 運転席のドアが開いている
- 運転席のシートベルトを装着していない
- シフトレバーが「R」以外の位置にある
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している。

## ⚠ 警告

### ■ パーキングブレーキを使用するにあたっての注意

- パーキングブレーキは、車両が完全に停止してから操作してください。停止前に使用すると、パーキングブレーキが故障し、車両が動き出し、重大事故に繋がるおそれがあります。
- 緊急時以外は走行中にパーキングブレーキを使用しないでください。走行中にパーキングブレーキを使用すると、後輪がロックして車両が不安定になり事故につながるおそれがあります。

- 走行中にパーキングブレーキを使用したときは、故障していないか必ず点検してください。
- パーキングブレーキの使用状況によって随時点検・整備を行ってください。
- パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキ部品の早期摩耗を招くほか、過熱で効きが悪くなったり火災の原因になります。
- 坂道に駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、タイヤの前後に輪止めをかけてください。



#### ■ パーキングブレーキレバーはしっかりと引いてください（電動パーキングブレーキ車以外）

- パーキングブレーキレバーの引きが不足していると駐車中に車が動き、事故につながるおそれがあります。
- パーキングブレーキレバーを引いた際にレバーが正しく噛み合っていないと、レバーがずれて車が動き事故につながるおそれがあります。レバーをしっかりと引き、最後に「カチッ」というノッチ音がすることを確認してください。

- (P) ランプの点灯は、パーキングブレーキレバーの引きが十分であることを示すものではありません。レバーは常にしっかりと引いてください。

#### ■ 電動パーキングブレーキの注意

- 電動パーキングブレーキの故障ランプが点灯している場合は、速やかに安全な場所に駐車して前後に輪止めをかけてください。停車後エンジンスイッチが「LOCK」位置で1分間放置し、再度スイッチを「ON」にしてください。その後パーキングブレーキをマニュアルモードでかける・解除を行ってください。何度か操作しても警告灯が消えない場合は、システムに異常がある恐れがあります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ウインチ等で車両駐車後に過大な力が車両にかかる場合はタイヤの前後に輪止めをかけてください。また、電動パーキングブレーキの故障ランプ点灯と同時にパーキングブレーキランプが点滅する場合があります。
- 電動パーキングブレーキを作動させたあと、車両姿勢が大きく変化する場合（キャリアカーや船舶での車両移動等）は車両が動き出すおそれがありますのでタイヤの前後に輪止めをかけ、固縛を確実に実施してください。
- パーキングブレーキスイッチの上げ下げを繰り返し20秒以上連続して操作しないでください。回路保護のため、解除禁止モードになる場合があります。（最大荷重引きで保持され故障ランプが点滅し、20秒間解除ができなくなります）

- アウトリガにより車両を地面から浮かせた状態ではパーキングブレーキの操作は行わないでください。アウトリガを格納したときの車両姿勢の変化により車両が動き出すおそれがあります。

#### ■ パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（ウィーンという音）が聞こえることがありますが異常ではありません。

#### ■ パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

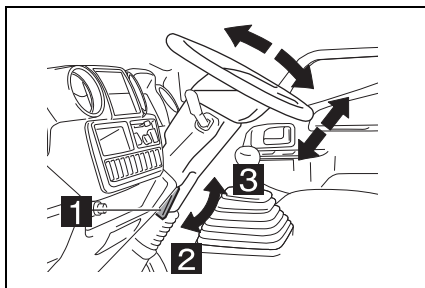
#### ■ パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながる恐れがあります。

## ハンドル

### ハンドル位置の調整方法

ハンドル位置を上下と前後に調整ができます。



#### 1 ロックレバー

#### 2 ロック

#### 3 解除

1. ロックレバーを引き上げて、ハンドル操作のしやすい高さや角度に調整する。
2. 調整後、ロックレバーを押し下げて確実にロックする。
3. ハンドルを上下前後にゆすり、ロックされたことを確認する。

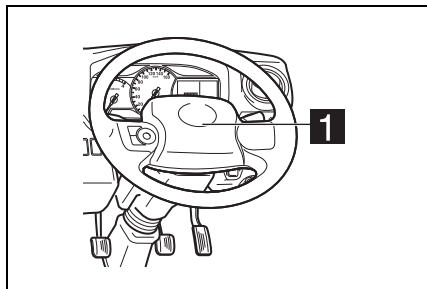
### ▲ 警告

#### ■ ハンドルについて

- ハンドル位置の調整は停車しているときに行ってください。走行中に調整すると運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ハンドルをいっぱい回した状態を長く続けないでください。パワーステアリング装置が故障する原因になります。

## ホーンボタン

ハンドル中央部のホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

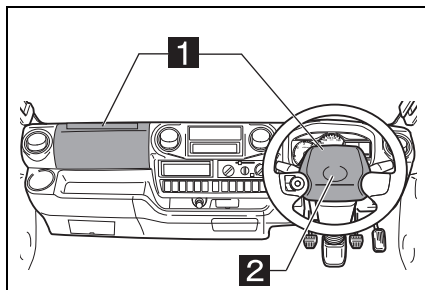


1 ホーンボタン

## SRS エアバッグ（シートベルト補助拘束装置）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

SRS エアバッグは、運転者または乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて、運転者または乗員の頭や顔などに作用する衝撃力を分散、緩和させる機能があります。



1 展開部

2 パッド部

\* シートベルトについて（→P.4-7）

## 知識

### ■ SRS とは

Supplemental Restraint System の略で補助拘束装置の意味です。

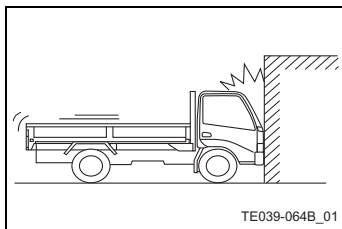
### ■ SRS エアバッグの作動について

- 衝突により車両前部が大きく変形しても、乗員への衝撃は大きくなりません。そのため、車両の変形、損傷と SRS エアバッグの作動とは必ずしも一致しません。

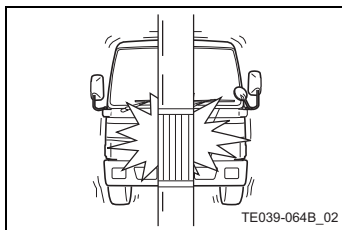
- 強い前面衝突時において、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員の頭や顔などの上体が受ける重大な傷害を軽減する装置です。シートベルトを正しく着用している乗員が重大な傷害を受けるおそれのない衝突では、SRSエアバッグは作動しにくくなっています。

■ 車両前部が受ける衝撃が弱いときには、作動しない場合があります

- 衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても、衝突速度が低い場合。

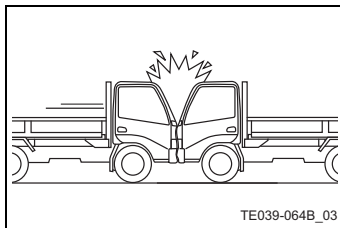


- 衝突時に変形、移動しない電柱や立木などの狭い範囲に正面衝突したときであっても衝突速度が低い場合。

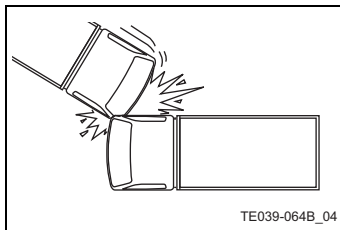


- 衝突したものが変形したり、移動した場合は、衝突による衝撃がゆるめられるため、SRSエアバッグの作動する車速は高くなります

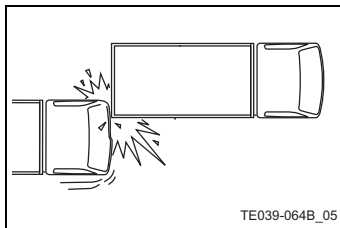
- 停車中の同程度の重さの車へ正面から衝突した場合には、SRSエアバッグは作動しないことがあります。



- 衝突の方向（角度）や片側衝突（オフセット衝突）などによっては、さらに高い速度であってもSRSエアバッグは作動しないことがあります。

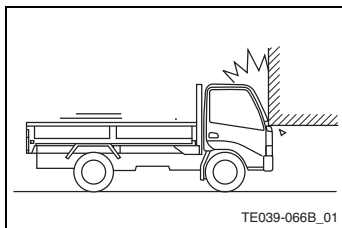


- 片側衝突（オフセット衝突）した場合でも、ラップ量が小さいか、または衝突速度が低い場合には、SRSエアバッグは作動しないことがあります。

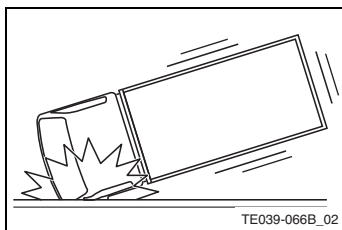


■ 次のような場合も衝突による衝撃が緩められ、作動しないことがあります

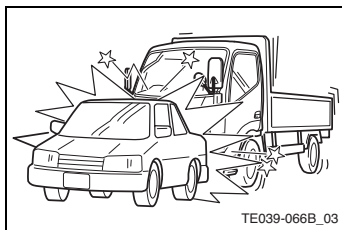
- 障害物の下へもぐりこみ衝突した場合



- 前方の斜めの方向から衝撃を受けた場合

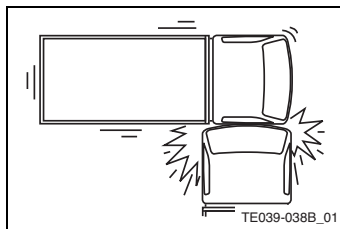


- 乗用車と衝突した場合

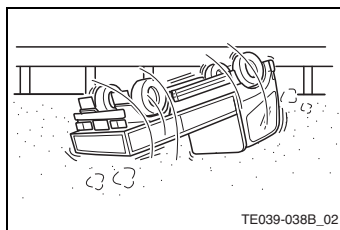


■ 次のような場合は作動する場合がありますが、本来の効果を発揮しません

- 側面や後方から衝撃を受けた場合

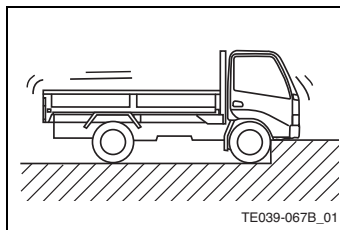


- 車両が横転、転覆した場合

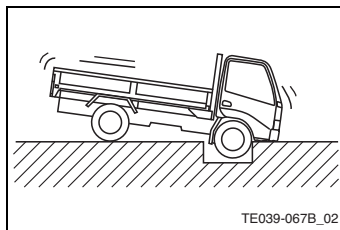


■ 次のような、車両下部に強い衝撃を受けた場合には、作動することがあります

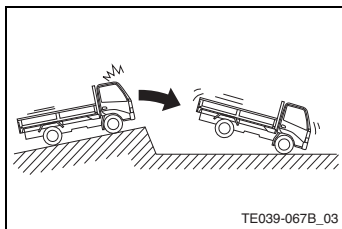
- 縁石などにぶつかった場合



- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えた場合



- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下した場合



### ■ SRS エアバッグの作動について

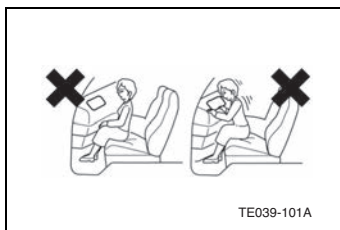
- SRS エアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、SRS エアバッグとの接触により打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 助手席 SRS エアバッグ装着車では、衝突時などに助手席 SRS エアバッグがふくらむことによって、車両のフロントガラスが破損することがあります。

## ▲ 警告

### ■ SRS エアバッグについて

- SRS エアバッグはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。乗車するときには必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどに SRS エアバッグの効果を十分に発揮させることができず、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ・ シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと急ブレーキなどで前方に放り出されると同時に SRS エアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。

- ・ シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢で座ってください。SRS エアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車しているとふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。
- ・ 運転者は正しい運転操作ができる範囲でできるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。
- ・ 助手席乗員は助手席 SRS エアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シート前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。



- ・ シートの調整、正しい運転姿勢については (→P.4-2)
- ・ ひざの上に物をかかえるなど乗員と SRS エアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。SRS エアバッグがふくらんだときに物が飛ばされたり、正常な作動を妨げたりして危険です。
- お子さまを乗せるときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと SRS エアバッグがふくらんだときの強い衝撃でお子さまの生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ・ ダブルキャブなどのリヤシートのある車両ではお子さまはリヤシートに座らせて必ずシートベルトを着用させてください。リヤシートがお子さまにとって最も安全な乗車位置とされています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートなどの子供専用シート（ダブルキャブではリヤシート）を着用してご使用ください。
- 助手席 SRS エアバッグ装着車では、助手席にはベビーシートなど後ろ向き装着の子供専用シートは絶対に取り付けしないでください。また、チャイルドシートなど前後向きとも装着可能な子供専用シートでも後ろ向きには絶対に取り付けしないでください。助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。なお、やむを得ず助手席に前向きで子供専用シートを取り付ける場合には、必ずシートベルトを着用させ、シートに深く腰かけて、背もたれに背中がついた正しい姿勢で座らせてください。



- 助手席 SRS エアバッグ装着車では、お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上にだいたりした状態では走行しないでください。

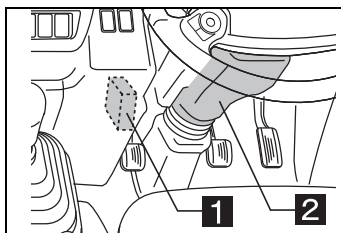
- 車両の整備作業の場合には必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。これらの作業が必要なときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- ・ SRS エアバッグおよびインストルメントパネル（助手席 SRS エアバッグ装着車）の取り外し、取り付け、分解修理などをしないでください。
- ・ サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わると SRS エアバッグの誤作動につながります。
- ・ 車両前部または車両客室部の修理をしないでください。不適切な修理を行うと SRS エアバッグセンサーに伝わる衝撃が変わり、SRS エアバッグが正常に作動しなくなります。
- ・ 車両前部の改造や架装物の取り付けをしないでください。SRS エアバッグセンサーに伝わる衝撃が変わり、SRS エアバッグが正常に作動しなくなります。

#### 〔車両前部の改造や架装物の例〕

バンパー改造（はりだし）、前方格納式クレーン、スノープラウ（雪かき）、消防車（バンパーステップ前出し）、キャンパー（フロントスペアタイヤ）

- カー用品など装着するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ生命にかかわるような重大な障害を受けるおそれがあり危険です。
- ・ SRS エアバッグの展開部をカバーやステッカーなどでおおわないでください。

- ・ 助手席 SRS エアバッグ装着車では、インストルメントパネル上部に芳香剤など物を置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席 SRS エアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。
- ・ 無線機の電波などは、SRS エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- ・ 車両前部にグリルガードやウインチなどを装着するときは、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると SRS エアバッグセンサーに伝わる衝撃が変わり、SRS エアバッグの誤作動につながります。
- ステアリングパッド、インストルメントパネル上部（助手席 SRS エアバッグ装着車）など SRS エアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなるなどして生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は SRS エアバッグ構成部品に触れないでください。構成部品は大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- カバーの奥に SRS エアバッグセンサーが装着されています。次の事項をお守りください。お守りいただかないと SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ・ カバーおよびその取り付け部付近には SRS エアバッグセンサーやそのほかの電気部品があります。強い衝撃を与えたり、水などをかけないでください。



1 センサー

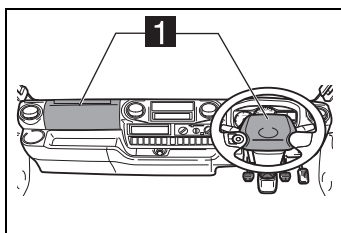
2 カバー

### ■ SRS エアバッグの廃棄について

車や SRS エアバッグを廃棄するときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。SRS エアバッグが思いがけなく作動し、ケガをするおそれがあります。

### ■ SRS エアバッグの交換について

- SRS エアバッグは一度ふくらむと再使用できません。必ずトヨタ販売店で交換してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せずケガをするおそれがあります。



1 パッド部

● SRS エアバッグが作動すると、作動音と共に白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出られない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。また、SRS エアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。

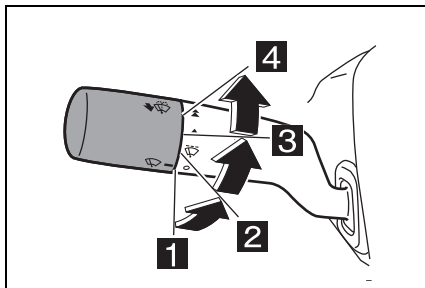
● 一度作動した SRS エアバッグは、2 回目以降の衝突では再作動しません。必ずトヨタ販売店で交換してください。同様に連続して衝突した場合、1 回目の衝突で SRS エアバッグが作動すれば、2 回目の衝突では SRS エアバッグは作動しません。

## ワイパー&ウォッシャースイッチ

### フロントワイパー

#### ■ワイパーの動かしかた

レバーを回すと作動します。

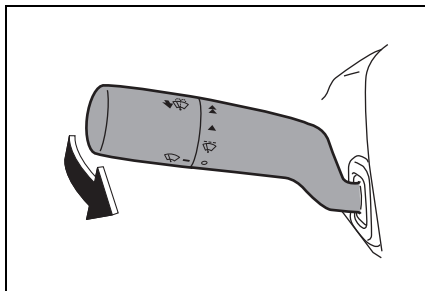


- 1 停止
- 2 間欠作動 (INT)
- 3 低速作動 (LO)
- 4 高速作動 (HI)

#### ■ウォッシャー液の噴射方法

- レバーを引いている間、ウォッシャー液が噴射されます。
- レバーを引き続けると（約 0.5 秒以上）ウォッシャー液が噴射されたあと、ワイパースイッチが「停止」の位置でもワイパーが 2 ～ 3 回作動します。

\* 1 回の噴射は 15 秒以内にしてください。



**▲ 警告****■ 寒冷地では**

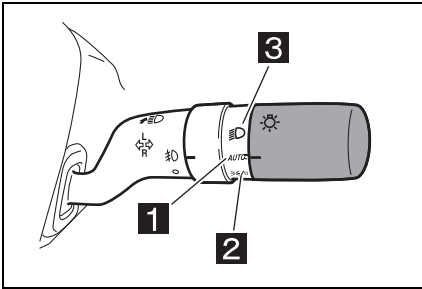
フロントガラスが暖まるまでは、ウォッシャー液を噴射させないでください。ガラスに噴射された液が凍結し、視界不良を起こすおそれがあります。

**▲ 注意****■ ワイパー&ウォッシャースイッチの取り扱い注意**

- ガラスが乾いているときは、ワイパーを作動させないでください。ガラスやワイパーブレードを傷つけるおそれがあります。必ずウォッシャー液を噴射してから作動させてください。
- 凍結などでワイパーブレードのゴムがガラスに張り付いているときは、ワイパーを作動させないでください。ワイパーブレードが損傷したりモーターが故障するおそれがあります。
- ウォッシャー液がないときは、ウォッシャースイッチを操作しないでください。ウォッシャーモーター焼き付きの原因になります。
- ワイパーを長期間使用していなかったときには、ワイパーブレードとガラスの間にほこりや砂などがたまっていることがあります。そのまま作動させるとガラスに傷をつけますので清掃してから使用してください。
- ウォッシャースイッチは周囲の状況をよく確認してから操作してください。使用状況によってはウォッシャー液が周囲に飛散する恐れがあります。

# ランプスイッチ

レバーを回すと、次の各ランプが点灯します。



**1** AUTO

**2** 点灯 / OFF

**3** 点灯

\* レバーを **2** の位置へ操作し手を離すと、自動的に **1** の位置へ戻ります。

スイッチ位置	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
<b>1</b> * 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヘッドランプが消灯</li> <li>・ スモールランプが消灯 *2</li> <li>・ デイタイムランニングランプが点灯 *3</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヘッドランプが点灯</li> <li>・ スモールランプが点灯</li> <li>・ デイタイムランニングランプが消灯</li> </ul>
<b>2</b> * 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヘッドランプが消灯</li> <li>・ スモールランプが点灯</li> <li>・ デイタイムランニングランプが点灯 *4</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヘッドランプが消灯 *5</li> <li>・ スモールランプが点灯</li> <li>・ デイタイムランニングランプが消灯</li> </ul>
<b>3</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヘッドランプが点灯</li> <li>・ スモールランプが点灯</li> <li>・ デイタイムランニングランプが消灯</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヘッドランプが点灯</li> <li>・ スモールランプが点灯</li> <li>・ デイタイムランニングランプが消灯</li> </ul>

上記のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

\* 1 レバーを **2** の位置で 1 秒以上保持すると、**2** による点灯状態に切り替わります。  
 (周囲が暗い時は停車中のみ切り替え可能)  
 その後、レバーを **2** の位置へ操作すると、**1** による点灯状態に切り替わります。

\* 2 尾灯と番号灯については、曇りや影に入ったときなど周囲からの光が弱い時は点灯します。

- \* 3 エンジンスイッチを「LOCK」から「ON」にしてパーキングブレーキを解除すると点灯を開始します。
- \* 4 フォグランプ点灯時はデイトイムランニングランプは消灯します。
- \* 5 停車中のみ可能。車両を発進させると **1** による点灯状態に切り替わります。

### 消灯のしかた

駐車ブレーキをかけた状態でレバーを **2** の位置で 3 秒以上保持すると、次のように作動しヘッドランプ、スモールランプ、デイトイムランニングランプが消灯します。

▶ スイッチ位置 **1** の点灯状態から消灯させる場合

点灯状態	
周囲が明るい時	周囲が暗い時
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1 秒経過時 ヘッドランプ消灯、スモールランプ点灯、デイトイムランニングランプ点灯*6</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1 秒経過時 ヘッドランプ消灯、スモールランプ点灯、デイトイムランニングランプ消灯</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3 秒経過時 ヘッドランプ消灯、スモールランプ消灯、デイトイムランニングランプ消灯</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3 秒経過時 ヘッドランプ消灯、スモールランプ消灯、デイトイムランニングランプ消灯</li> </ul>

- \* 6 フロントフォグランプ点灯時はデイトイムランニングランプは消灯します。

▶ スイッチ位置 **2** の点灯状態から消灯させる場合

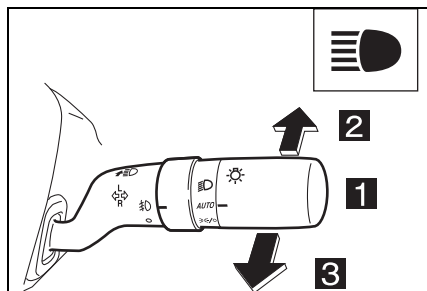
点灯状態	
周囲が明るい時	周囲が暗い時
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1 秒経過時 ヘッドランプ消灯、スモールランプ消灯、デイトイムランニングランプ点灯</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1 秒経過時 ヘッドランプ点灯、スモールランプ点灯、デイトイムランニングランプ消灯</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3 秒経過時 ヘッドランプ消灯、スモールランプ消灯、デイトイムランニングランプ消灯</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3 秒経過時 ヘッドランプ消灯、スモールランプ消灯、デイトイムランニングランプ消灯</li> </ul>

消灯中に以下の操作をすると消灯状態が解除されます。

- ・ 駐車ブレーキを解除（補足：AUTOに戻る）
- ・ レバーを **2** の位置へ操作（補足：1 秒未満操作をすると AUTO に戻る）\* 7


- ・ レバーを **3** の位置へ操作
- \* 7 レバーを **2** の位置で保持し続けた場合、以下のように作動します。
- ・ 周囲が明るい時は、1 秒経過するとスイッチ位置 **2** による点灯状態に切り替わります。  
続けて 3 秒経過した場合、再度消灯状態となります。
- ・ 周囲が暗い時は、1 秒経過するとスイッチ位置 **1** による点灯状態に切り替わります。  
続けて 3 秒経過した場合、再度消灯状態となります。

### ハイビーム、パッシング



- 1** ロービーム (下向き)
  - 2** ハイビーム (上向き)
  - 3** パッシング (上向き)
- ヘッドランプを点灯させた状態でレバーを前方に押すと、ヘッドランプが上向きに切り替わります。
  - ヘッドランプが消灯していても、レバーを手前に引いている間はヘッドランプが点灯し上向きになります。
  - ヘッドランプが上向きのときは、同時に表示灯が点灯します。

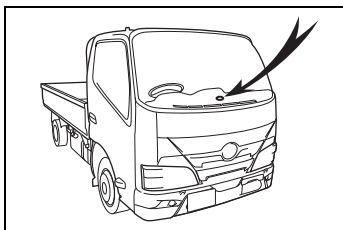
### アドバイス

- ヘッドランプの点灯について
- 不用な点灯、消灯の繰り返しはしないでください。寿命を短くする原因になります。
- エンジンスイッチが「LOCK」または「ACC」の位置の場合は点灯しません。
- トンネル等の多い地域では「AUTO」位置を使用せず、ヘッドランプを点灯させたままにすることを推奨します。
- 故障等により「AUTO」位置で夜間にヘッドランプ、尾灯が点灯しない場合は、位置に変更して走行してください。

## 知識

### ■ ライトセンサーについて

- 本車両には周囲の明るさを検知するライトセンサーが装着されています。このセンサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



## オートハイビーム (AHB) ★

- ★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントガラスに設置された画像センサーにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

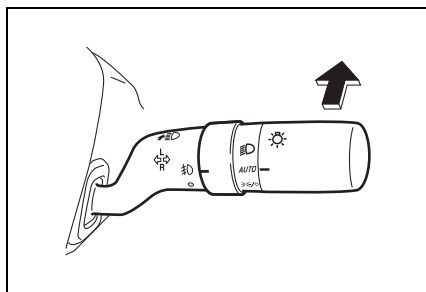
## 警告

### ■ オートハイビームについて

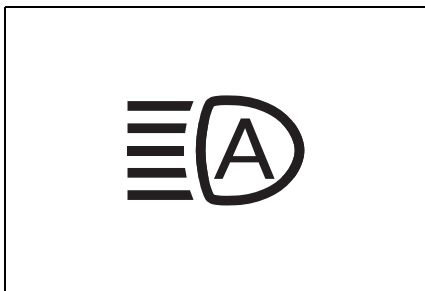
オートハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

## オートハイビームの使い方

1. ライティングスイッチを AUTO にする。
2. レバーを押し下げると、オートハイビーム表示灯が点灯します。



### ■ オートハイビーム表示灯



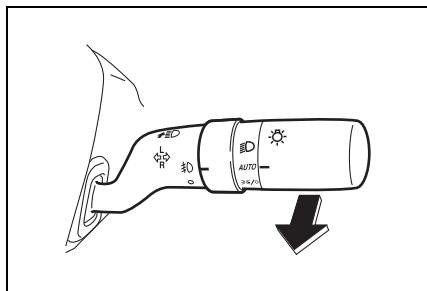
## 知識

### ■ オートハイビームの使い方について

- 手順を間違えると、操作途中でハイビームが点灯し歩行者や前方車両にまぶしさを与える可能性があります。オートハイビームを使用する際は、「オートハイビームの使い方」の手順に従って操作を行ってください。

### 手動制御に切りかえるには

#### ■ ロービームへの切りかえ



レバーをもとの位置にもどします。オートハイビーム表示灯が消灯します。

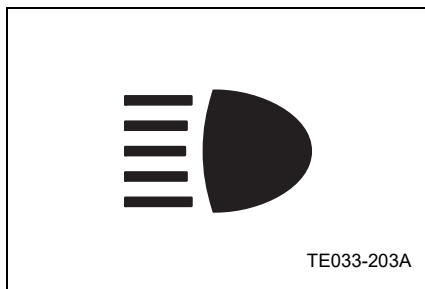
オートハイビームにもどすには、再度レバーを押し下げます。

#### ■ ハイビームへの切りかえ

ライティングスイッチを ≡D にすると、オートハイビーム表示灯が

消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

### ハイビーム表示灯



### 自動制御に切りかえるには

次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- 車速が約 30 km/h 以上
- 画像センサーが車両前方を暗いと判定
- 画像センサーがランプを点灯した対向車または先行車を検出していない

次の条件のいずれかのとき、ハイビームを消灯します。

- 車速が約 30 km/h 以下
- 画像センサーが車両前方を明るいと判定
- 画像センサーが前方にランプを点灯した車両を検出

### オートハイビームが異常と感じたら

オートハイビームに異常が発生した場合、メーター内の ≡A (橙色) が点灯します。

点灯したときは、オートハイビームは使用せず、最寄りのトヨタ販

売店で点検・整備を受けてください。

## 知識

### ■ オートハイビームについて

- オートライティングにより、ヘッドランプが点灯しても周囲が明るい場合は、ロービームが点灯します。
- 次のような状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
  - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
  - ・ 他車が前方を横切ったとき
- 対向車のフォグランプにより、ハイビームからロービームに切り替わる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームからロービームに切り替わる場合があります。
- 次のような要因により、ハイビームとロービームが切り替わるタイミングは、必ずしも毎回同一ではありません。
  - ・ 対向車または先行車のランプの明るさ
  - ・ 対向車または先行車の動きや向き
  - ・ 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
  - ・ 対向車または先行車が二輪車のとき
  - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
  - ・ 乗車人数や荷物の量
- オートハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。

- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されずハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ハイビームとロービームが切り替わらない場合があります。以下の場合にはオートハイビームを使用せず、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。
  - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
  - ・ ワイパーが高速作動しているとき
  - ・ 炎天下に駐車するなど、室内温度が上昇し、画像センサーの周辺温度が非常に高いとき
  - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
  - ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
  - ・ フロントウインドウガラスにフィルムなどを貼っているとき
  - ・ ダッシュボードの上に置いた物などが、フロントウインドウガラスに映り込んでいるとき
  - ・ 画像センサーが変形しているときや、汚れているとき
  - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
  - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
  - ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
  - ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
  - ・ カーブが多い道路を走行しているとき
  - ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
  - ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
  - ・ パンク、過積載やけん引などにより車両が傾いているとき

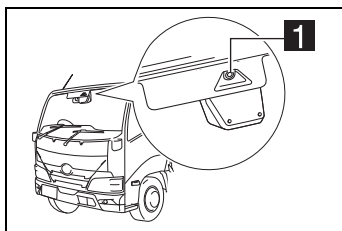
- ・メーターに  $\equiv$  A (橙色) が点灯しているとき
- ・ハイビームとロービームの切り替えが頻繁に繰り返されるなど、違和感を感じる時
- ・ハイビームにより、歩行者や前方車両にまぶしさを与えている可能性があるとき

### ⚠ 注意

#### ■ オートハイビームの取り扱いについて

オートハイビームを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- 画像センサーのレンズにふれない



#### 1 画像センサー

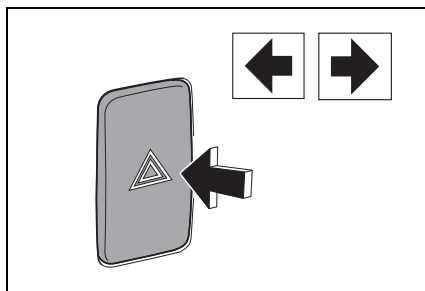
- 画像センサーに強い衝撃を与えない
- 画像センサーを分解しない
- 画像センサーに液体をかけない
- 画像センサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーを貼らない
- 画像センサー周囲にアクセサリーを取り付けない
- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない
- トヨタ純正部品以外のフロントウインドウガラスに交換しない

## 非常点滅灯スイッチ

### 路上で緊急停車するときなどに使用します。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅します。同時に表示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。

- \* このランプはエンジンスイッチの位置に関係なく点滅します。



### 👉 アドバイス

#### ■ 非常点滅灯スイッチについて

路上における緊急停車時以外は使用しないでください。

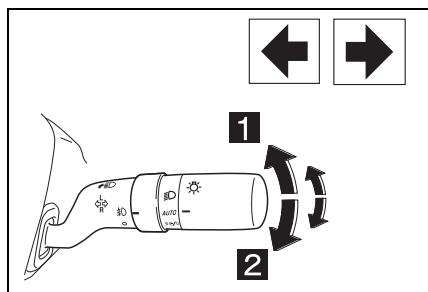
### ⚠ 注意

#### ■ 非常点滅灯スイッチについて

エンジンを止めたまま長時間使用しないでください。バッテリーあがりを起こし、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。

## 方向指示レバー

- レバーを上を押すと左側、下を押すと右側の方向指示灯が点滅します。同時に表示灯が点滅します。
- 車線変更時は、レバーを軽く上または下へ押さえている間、それぞれの方向指示灯が点滅し、表示灯も点滅します。



**1** L（左折）

**2** R（右折）

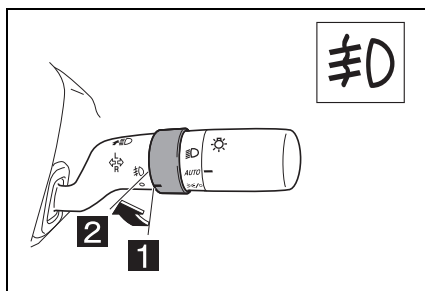
- \* レバーはハンドルを戻すと自動的に戻りますが、ゆるいカーブなどで自動的に戻らないときは手で戻してください。
- \* 方向指示灯はエンジンスイッチの位置に関係なく点滅します。エンジンを止めたまま長時間使用しないでください。

## フォグランプスイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

霧などで見通しが悪いときに使  
用します。

ランプスイッチレバーを **≠0** の位置に回すとフォグランプが点灯し、同時に表示灯が点灯します。

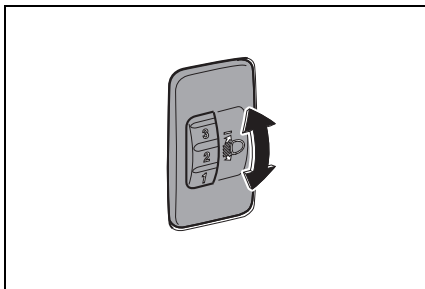


**1** オフ

**2** オン（フロント）

## ヘッドランプ光軸調整スイッチ

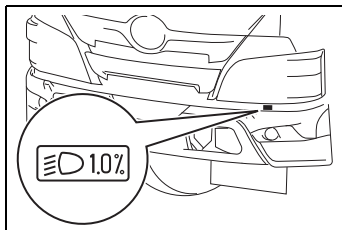
- ヘッドランプの照射角度を、状況に応じて調整できます。
  - ヘッドランプを点灯させ、スイッチを回すとヘッドランプの照射角度を下向き 10 段階（0.5 ～ 5）に切り替えられます。
- \* スイッチは「0」の位置が標準です。
- \* ワイドキャブ車は、「3」以上で使用しないでください。



## 知識

### ■ 光軸調整について

- 車検などで光軸調整するときは、スイッチ位置を「0」（光軸が一番上向き）にしてから行ってください。
- 光軸調整時にスイッチ位置が「0」のときの光軸基準を示す数値が、ヘッドランプ下部に刻印してあります。



## ⚠ 注意

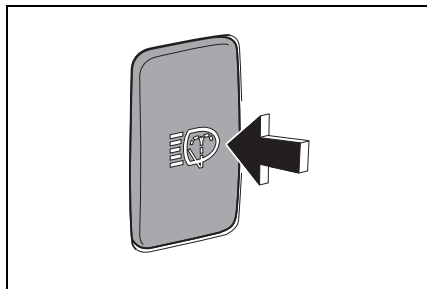
### ■ 照射角度について

必要以上に照射角度を下向きにしないでください。夜間の視界が悪くなります。

## ヘッドランプクリーナースイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドランプクリーナースイッチを押している間、ヘッドランプウォッシャーが噴射されます。

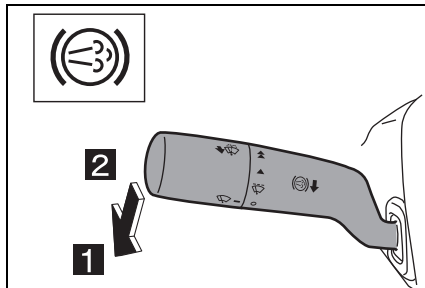


### 👉 アドバイス

1回の噴射は15秒以内にしてください。また、ウォッシャー液がないときは、ヘッドランプクリーナースイッチを操作しないでください。ウォッシャーモーターが故障するおそれがあります。

\* ウィンドウウォッシャー液の補給  
(→P.13-66)

## 排気ブレーキスイッチ



**1** レバーを押し下げる (ON)

- 表示灯が点灯し、排気ブレーキが作動待機状態になります。
- アクセルペダルおよびクラッチペダルから足を離すと、排気ブレーキが作動します。

**2** 元に戻す (OFF)

表示灯が消灯し、作動待機状態が解除されます。

### 📖 知識

#### ■ 排気ブレーキについて

- 排気ブレーキは、エンジンブレーキの効果をさらに高めるものです。下り坂や高速走行時などの補助ブレーキとして使用します。
- スリップしやすい氷雪路や突起を乗り越える時およびカーブ走行時などでは、排気ブレーキが自動的に解除される場合があります。
- DPR付き車は排気ブレーキスイッチが「OFF（解除）」の状態でも排気ブレーキが作動することがありますが、これは排出ガス浄化のために故障ではありません。

■ 作動条件について

- 次の場合は排気ブレーキは作動しません。
  - ・ アクセルペダルまたはクラッチペダルを踏んだとき
  - ・ シフトレバーが「N」(MT車)、「P」または「N」(AT車)の位置にあるとき
  - ・ ABSが作動したとき

**▲ 警告**

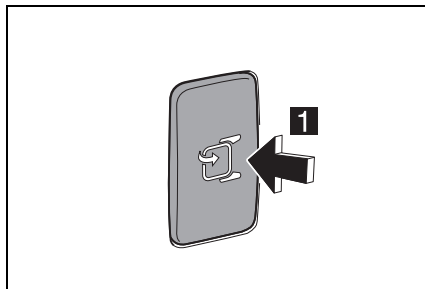
■ 排気ブレーキを作動させるとき

滑りやすい路面状態で排気ブレーキを作動させるとスリップするおそれがありますので十分注意してください。

電動格納式アウターミラー  
スイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

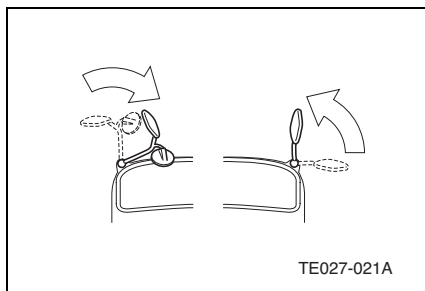
スイッチを1度押すとミラーが格納され、もう一度押すと定位置に復帰します。



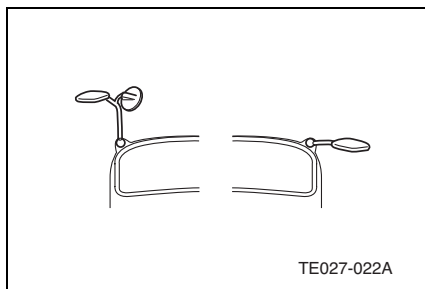
**1** 格納／復帰

■ 運転席・助手席側格納式

▶ オン（格納）

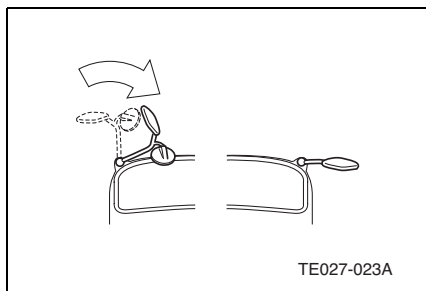


▶ オフ（定位置）

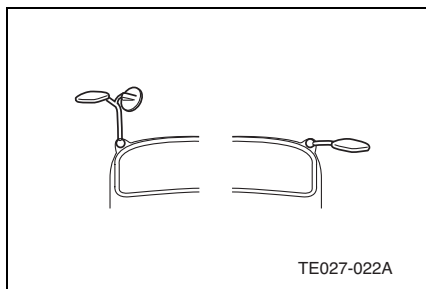


## ■ 助手席側格納式

### ▶ オン（格納）



### ▶ オフ（定位置）



## 📖 知識

### ■ 電動格納式アウターミラースイッチの作動について

- エンジンスイッチが「ACC」または「ON」の位置のとき使用できます。
- エンジンスイッチが「LOCK」の位置でスイッチを「OFF」側にしたままエンジンスイッチを「ACC」または「ON」の位置にするとミラーステーが定位置に戻りますので注意してください。

## ⚠️ 警告

### ■ ミラーの操作について

ミラーを格納したまま走行しないでください。ミラーによる後方視界が確認できず事故につながるおそれがあります。

## ⚠️ 注意

### ■ ミラーの操作について

- 走行中はミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- 電動格納式アウターミラーを操作しているとき、ミラーステーに手で触れたりしないでください。手をはさまれてケガをするおそれがあり、また電動格納式アウターミラーの故障の原因になります。

### ■ 電動格納式アウターミラーの故障について

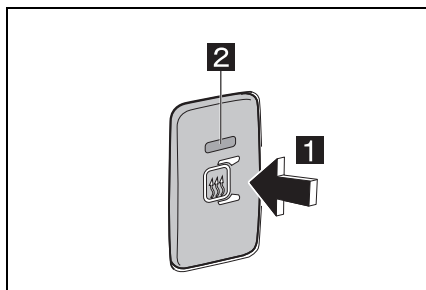
- ミラーステーにはつかまらないでください。故障の原因になります。
- 電動格納式アウターミラーのモーターに無理な力がかかると安全装置が働き、作動が停止することがあります。このとき電動格納式アウターミラースイッチを再度操作し正常に作動することを確認してください。たびたび作動が停止するときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- 電動格納式アウターミラースイッチでミラー操作できないときは、手で調整してください。この場合はトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

## ミラーヒータースイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アウターミラーの鏡面を暖めて、霜やくもりなどを取り除きます。

- スイッチを押すとミラーヒーターが作動し、もう一度押すと停止します。
- 作動中は、内蔵の表示灯が点灯します。



1 押す

2 表示灯

### 👉 アドバイス

#### ■ ミラーヒーターについて

エンジンスイッチが「ON」位置のときに使用できます。

### ⚠️ 注意

#### ■ ミラーヒーターについて

作動中は、アウターミラーの表面が熱くなりますので、手をふれないでください。やけどをするおそれがあり危険です。

#### ■ バッテリーあがりを防止するため

エンジンを止めたときは使用しないでください。バッテリーあがりを起こしエンジンが始動できなくなるおそれがあります。

## 手動式ミラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ミラー角度調整のしかた

アウターミラー全体を手で調整します。調整した後は、運転席に座り、アウターミラーで後方確認が十分できるか確認してください。

### アウターミラーの格納・復帰

ミラーを手で車両前方に倒して格納します。走行前には元の位置に戻し、運転席に座りアウターミラーで後方確認が十分できるか確認してください。

## ▲ 警告

### ■ ミラーの調整について

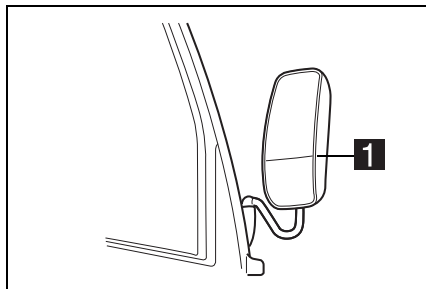
- 走行中はミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ミラーを倒したまま走行しないでください。ミラーによる後方確認ができず事故につながるおそれがあります。

## ワイドビューミラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ▶ タイプⅠ

ワイドビューミラーとは、境界線より上側と下側のミラーの曲率を変えたアウターミラーです。境界線より上側は通常のアウターミラーと同じ範囲の視界ですが、境界線より下側は通常のアウターミラーよりもより広い範囲まで視界が確保できるようになっています。



### 1 境界線

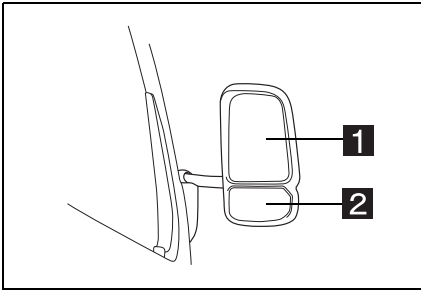
### ▶ タイプⅡ

- ワイドビューミラーとは、メインミラーと補助ミラーの曲率を変えたアウターミラーです。
- メインミラーは通常のアウターミラーと同じ範囲の視界ですが、補助ミラーは通常のアウターミラーよりもより広い範囲まで視界が確保できるようになっています。

 知識

## ■ ミラーの見え方について

境界線より下側に映る物は上側に比べ（タイプⅠ）、補助ミラーに映る物はメインミラーに比べ（タイプⅡ）、実際よりも遠くにあるように見えます。



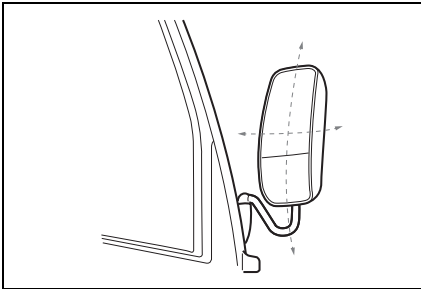
**1** メインミラー

**2** 補助ミラー

### ミラー角度調整のしかた

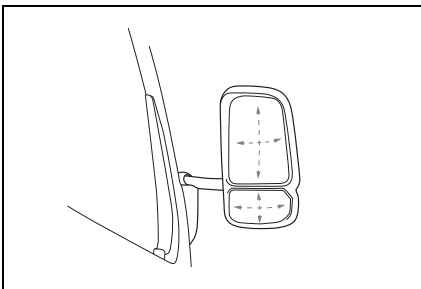
## ▶ タイプⅠ

ワイドビューミラー全体を手で調整します。



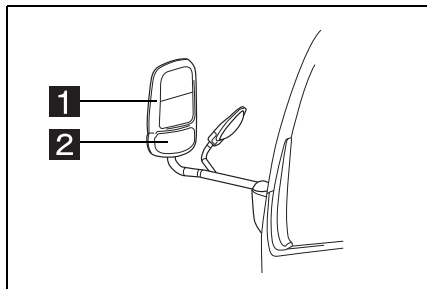
## ▶ タイプⅡ

- メインミラーの鏡面を手で調整します。
- 補助ミラーの鏡面を手で調整します。



## 2面鏡ミラー★

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
- 2面鏡ミラーとは、境界線より上側と下側でミラーの曲率を変えたアウターミラーと、補助ミラーを一体化したアウターミラーです。
  - 境界線より上側は、通常のアウターミラーに比べてより高いなめ上方の位置まで確認ができます。
  - 境界線より下側は、通常のアウターミラーと同じ範囲の視界となります。
  - 補助ミラーは、助手席下方および車両側方を広範囲に確認できます。



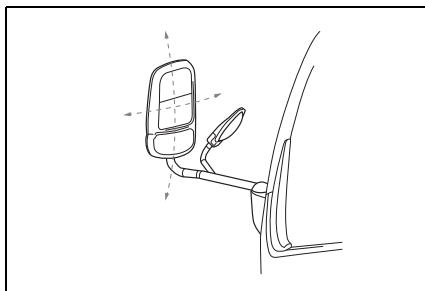
**1** 境界線★

**2** 補助ミラー

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ミラー角度調整のしかた

2面鏡ミラー全体を手で調整します。



### 知識

#### ■ ミラーの見え方について

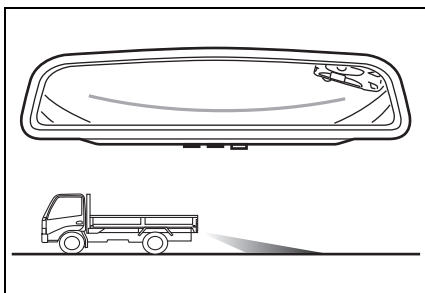
境界線より上側および補助ミラーに映る物は、通常のアウターミラーに比べて、実際よりも遠くにあるように見えます。

## バックガイドモニター

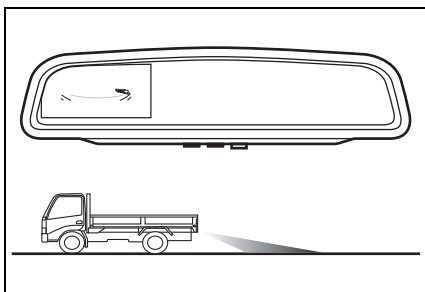
車両後方の映像とガイド線をミラー内のディスプレイに映し出し、駐車時などの後退操作を補助および積荷時などに目視しにくい後方視界を確認する装置です。

\* 本文中で使用されている画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

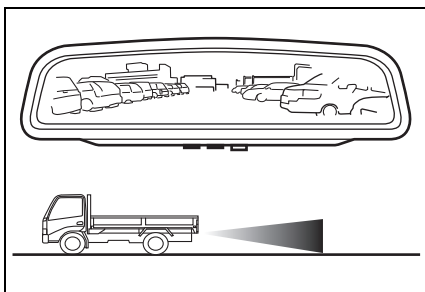
### ▶ 近接後方



### ▶ 近接後方（小画面）



### ▶ 遠方後方



## ▲ 警告

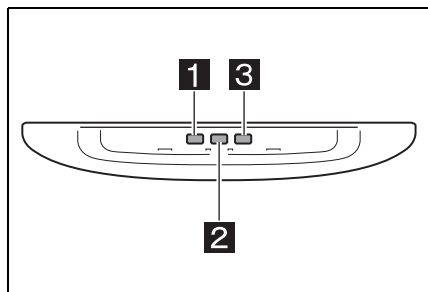
次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

### ■ バックガイドモニターをお使いになる前に

- 走行前に必ずミラーの調整を行ってください。
- 走行前にディスプレイに表示される映像に異常がある場合には、「故障とお考えになる前に」（→ P.5-65）処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ、それぞれの違いを認識した上で安全運転を心がけてください。

### ■ 運転時の注意について

- 後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認してください。
- バックガイドモニターは、後退操作を補助する装置です。バックガイドモニターを過信しないでください。
- シフトレバーを「R」位置に操作しても映像が切り替わらなかったり、ミラーのスイッチで操作ができない場合、配線やミラー本体の故障の恐れがあります。車両後方の映像が表示されず危険なためトヨタ販売店で点検を受けてください。



- 1 電源スイッチ
- 2 輝度スイッチ
- 3 カメラスイッチ

\* デジタルインナーミラー (→P.8-37)

### ■ デジタルミラーモード

#### ▶ 近接後方

エンジンスイッチが ON、電源スイッチが ON のとき、シフトレバーを「R」の位置にすると、近接後方の映像が表示されます。「R」位置以外にすると解除されます。

#### ▶ 近接後方 (小画面)

エンジンスイッチが ON、電源スイッチが OFF のとき、シフトレバーを「R」位置にすると近接後方の映像を小画面で表示します。

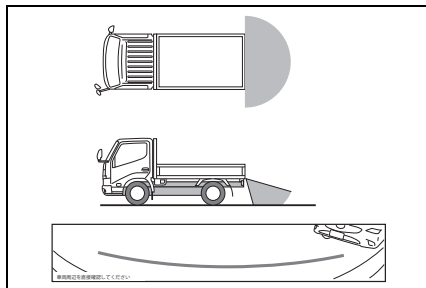
#### ▶ 遠方後方

エンジンスイッチが ON、電源スイッチが ON のときにカメラスイッチを押すと、カメラが起動して遠方後方の映像が表示されます。カメラスイッチをもう一度押すと映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。(シフトレバーを「R」の位置にすると近接後方の映像が表示されます)

### 画面の見方について

近接後方の映像が表示されているとき、警告メッセージとガイド線が画面に表示されます。ガイド線は車両や路面の状況により、誤差を生じることがあります。

表示されるガイド線はバンパー後端から距離目安となります。



\* 画面に映る範囲は、カメラの取付け位置により異なります。

### 知識

- 明るさは尾灯が ON、OFF それぞれの状態では調整できません。
- 明るさは 8 段階で調整することができ、エンジンスイッチを「ON」から「OFF」にしても明るさのレベルは記憶されます。
- 初期設定は、尾灯 ON 時はレベル 3、OFF 時はレベル 8 となります。(デジタルミラーモード「近接後方」)
- 初期設定は、尾灯 ON 時はレベル 2、OFF 時はレベル 7 となります。(デジタルミラーモード「遠方後方」)
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。

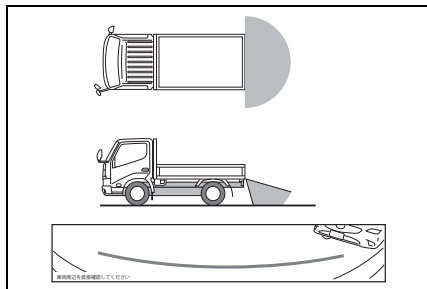
### バックモニターの注意点について

#### ■ 画面に映る範囲について

バックモニターは、車の後方が映ります。

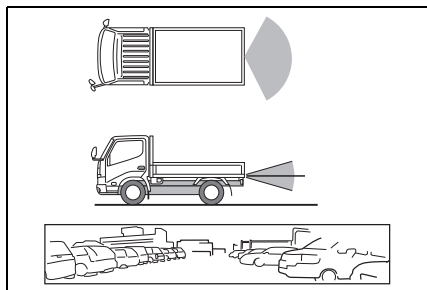
- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- バンパーの下にあるものは映りません。
- カメラのレンズの特性により、路面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- カメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。
- 字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。

#### ▶ 近接後方



- \* 画面に映る範囲は、カメラの取付け位置により異なります。

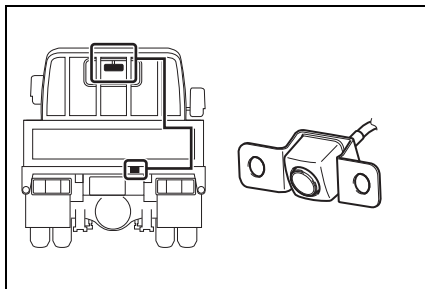
#### ▶ 遠方後方



- \* 画面に映る範囲は、カメラの取付け位置により異なります。

### ■ カメラについて

バックモニターのカメラは、デッキフレームにあります。





- \* イラストは説明のための例であり、お車の種類により、取り付け位置は異なります。

### ■ カメラのお手入れについて


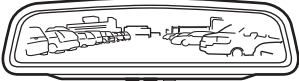


カメラのレンズが汚れていると鮮明な画像を見ることができません。水滴・雪・泥などの汚れが付着したときは水洗いし、やわらかい布でふき取ってください。汚れがひどいときは、大量の水でカメラの汚れを洗い流してください。

### 作動条件一覧表

#### ▶ 電源スイッチ OFF (エンジンスイッチ ON 時)

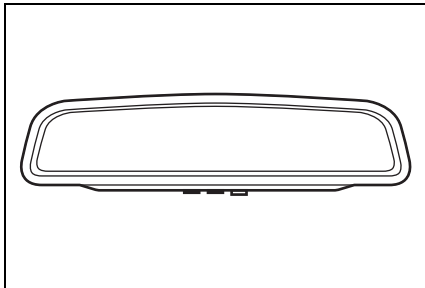
シフト ポジション	モード
「R」以外	 <p>鏡面ミラー カメラスイッチランプ(消灯)</p>
「R」	 <p>近接後方(小画面) カメラスイッチランプ(点灯)</p>

#### ▶ 電源スイッチ ON (エンジンスイッチ ON 時)

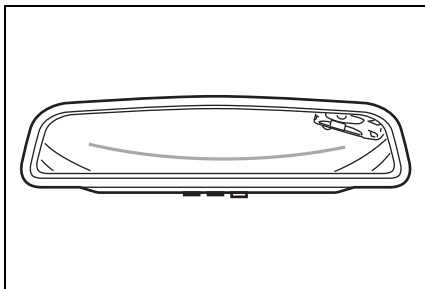
シフト ポジション	モード	
	☐ カメラスイッチ OFF	☑ カメラスイッチ ON
「R」以外	 <p>鏡面ミラー カメラスイッチランプ(点灯)</p>	 <p>遠方後方 カメラスイッチランプ(点灯)</p>
「R」	 <p>近接後方 カメラスイッチランプ(点灯)</p>	 <p>近接後方 カメラスイッチランプ(点灯)</p>

### モードを切り替えるには

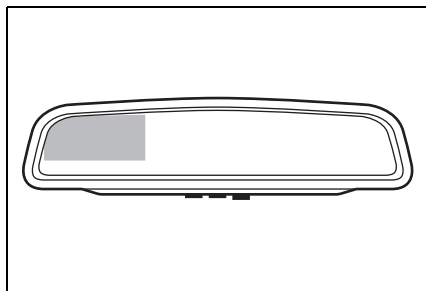
- 鏡面ミラーモード：電源スイッチが「OFF」かつ、シフトレバーが「R」位置以外するとき、映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。



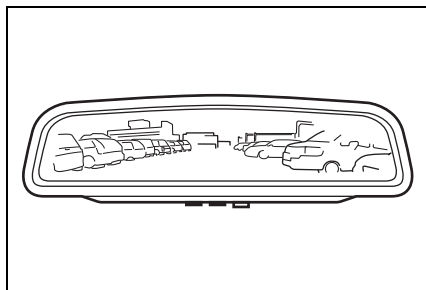
- デジタルミラーモード「近接後方」：電源スイッチが「ON」のとき、シフトレバーを「R」位置にすると「近接後方」が表示されます。



- デジタルミラーモード「近接後方（小画面）」：電源スイッチが「OFF」のとき、シフトレバーを「R」位置にするとインナーミラーの左側に「近接後方」が小さく表示されます。



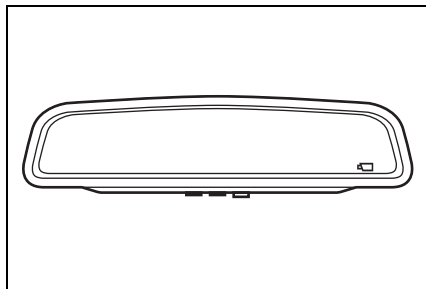
- デジタルミラーモード「遠方後方」：電源スイッチが「ON」、シフトレバーが「R」位置以外、カメラスイッチが「ON」のときに表示されます。



### 画面表示

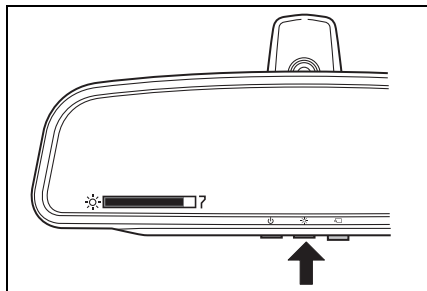
#### ▶ カメラインジケータ

デジタルミラーモード「近接後方」または「遠方後方」が作動しているときに表示します。



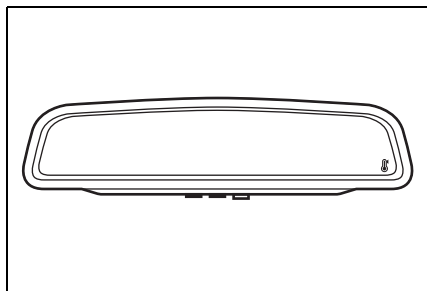
#### ▶ 輝度

輝度スイッチを押して、モニターの明るさを調整します。



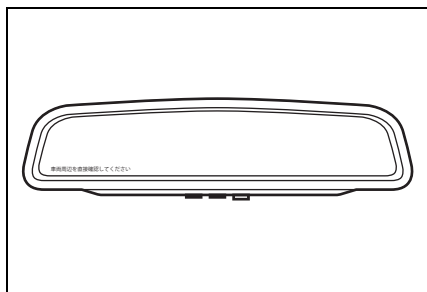
### ▶ 温度異常ウォーニング

デジタルインナーミラーの温度が非常に高いときに表示されます。



### ▶ 警告メッセージ 1

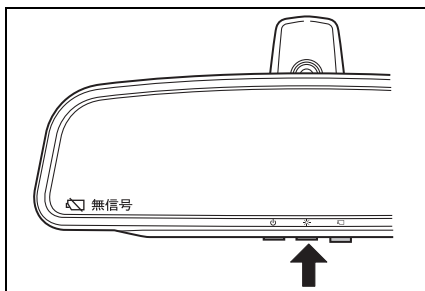
デジタルミラーモード「近接後方」が作動しているときに表示します。



### ▶ 警告メッセージ 2

バックカメラの接続不良や電源供給に不具合が発生したとき、モニターに警告メッセージを表示しま

す。デジタルインナーミラーは不具合を検知して7秒後にシステムをOFFにし、鏡面ミラーへ移行します。



### 自己診断機能について

デジタルインナーミラーは不具合を検知すると、カメラスイッチを点滅させ、運転者に通知します。

#### ■ LCD パネルモジュールのオーバーヒート

- カメラスイッチ部が3回点滅します。
- LCD パネルが非常に高温となり、異常が発生しています。

#### ■ LED ドライバーおよびバックライトエラー

- カメラスイッチ部が4回点滅します。
- LED ドライバーに異常が発生しています。

#### ■ LCD パネルモジュール故障

- カメラスイッチ部が5回点滅します。
- LCD パネルに異常が発生しています。




#### ■ バックカメラ入力信号異常

- カメラスイッチ部が6回点滅します。
- バックカメラからの映像に異常またはケーブルの断線が発生しています。
- **バックカメラ電源供給異常**
- カメラスイッチ部が7回点滅します。
- バックカメラへの電源供給が過負荷またはケーブルのショートが発生しています。
- **システム異常**
- カメラスイッチ部が8回点滅します。
- LCD パネル内部の通信異常が発生しています。

## 故障とお考えになる前に

バックモニターを使用時に下記のような症状で気になったりお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい。	ミラー表面が汚れている。	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光）がデジタルインナーミラーに当たった。	電源スイッチを OFF にして、鏡面ミラーモードに切り替えてください。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夜間暗いところで使用した。</li> <li>・ テレビ局、放送局、発電所、漁港など強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した。</li> <li>・ カメラの付近温度が高いまたは低い。</li> <li>・ 外気温が低い。</li> <li>・ 太陽光やヘッドランプの光が直接カメラレンズに当たった。</li> <li>・ 蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの照明の下で使用した。</li> <li>・ 排気ガスが映りこんでいる。</li> </ul>	電源スイッチを OFF にして、鏡面ミラーモードに切り替えてください。（カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください。
	カメラのレンズに水滴、雪、泥などの異物が付着している。	鏡面ミラーモードに切り替えてください。  大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってから、再びデジタルミラーモードをご使用ください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見えない。	荷台のあおりが下がっている。	荷台のあおりを閉めてください。
	カメラのレンズに水滴、雪、泥などの異物が付着している。	鏡面ミラーモードに切り替えてください。 大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってから、再びデジタルミラーモードをご使用ください。
ディスプレイに表示される映像がずれている。	カメラ部に強い衝撃が与えられた。	鏡面ミラーモードに切り替えて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
カメラスイッチが点滅する。	システムに異常が発生した。	鏡面ミラーモードに切り替えて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイに「  」が表示されている。	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い。	ミラーの温度下げのために車室内の温度を下げることを推奨します。ミラーの温度が下がると「  」が消えます。ミラーの温度が下がっても「  」が消えない場合は、鏡面ミラーモードに切り替えてトヨタ販売店で点検を受けてください。

## 4WD ★

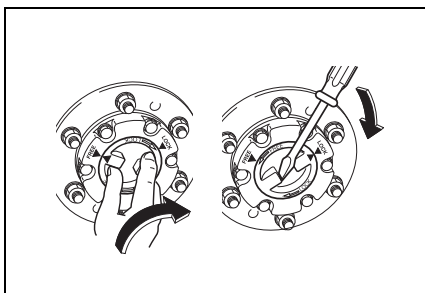
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- この装置は、前後輪の回転数の差が微少なときには、後輪駆動に近いトルク配分で走行し、コーナーリング時や雪路、登坂時、発進時など前後輪の回転数に差が生じたときには、状況に応じて前輪へのトルク配分を自動的にコントロールすることにより、次のような走行で効果を発揮します。
- 雪や雨などで滑りやすい路面や急坂、コーナーリング時に高い走行安定性、操縦性を発揮します。


## 4WD（4輪駆動）の切り替え方


フリーホイールハブと4WD切り替えスイッチを操作して、4WD（4輪駆動）に切り替えることができます。

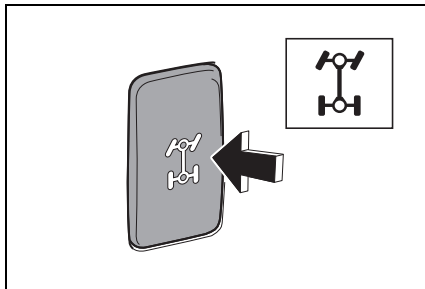
1. フリーホイールハブを前輪の両側とも「LOCK」の状態にする。



2. 車を直進状態にして、4WD切り替えスイッチを押します。

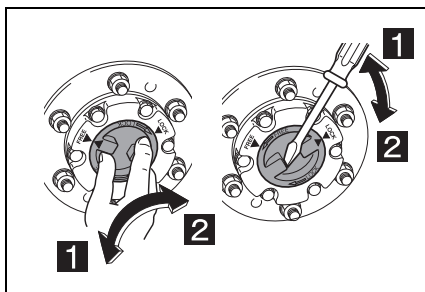
 ランプが点灯したことを確認します。

- \* もう一度スイッチを押すと、2WD（後輪駆動）に戻り、 ランプが消灯します。



## フリーホイールハブ

前輪と前輪駆動系の接続・切り離しをする装置です。



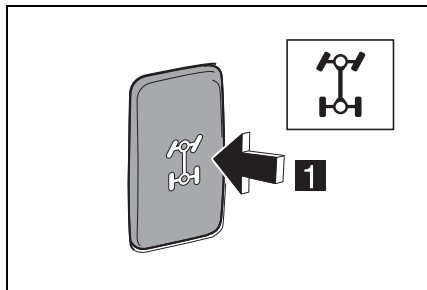
- 1 FREE（後輪駆動時）
- 2 LOCK（4輪駆動時）

\* 「LOCK」⇔「FREE」の切り替えは、手またはドライバーなどで行ってください。

## 4WD 切り替えスイッチ

フリーホイールハブが前輪の両側とも「LOCK」の状態であれば、車内から 2WD（後輪駆動）と 4WD（4 輪駆動）の切り替えを行えます。


スイッチを押すと 4WD（4 輪駆動）に切り替わります。もう一度押すと 2WD（後輪駆動）に戻ります。




### 1 4WD/2WD

\* 4WD（4 輪駆動）に切り替わると、表示灯が点灯します。

## 4WD 表示灯

4WD 切り替えスイッチで 4WD（4 輪駆動）に切り替えると  ランプが点灯します。

## フロントディファレンシャル油温警告灯

4WD（4 輪駆動）で走行中にフロントディファレンシャルに異常が生じるかまたは油温が高温になると  ランプが点灯します。

## アドバイス

### ■フリーホイールハブの操作について


- 2WD（後輪駆動）走行時、フリーホイールハブは、「LOCK」の位置のままでも走行できますが、「FREE」の位置にすれば騒音、摩擦などが減り、経済的な走行ができます。
- 長時間、4WD（4 輪駆動）に切り替えないときは、月に 1 回程度、2WD（後輪駆動）のまま左右のフリーホイールハブを「LOCK」の状態にして走行すると、前輪駆動系が適度に潤滑されます。

## 知識



### ■ 4WD（4 輪駆動）への切り替え操作

停車中または低速走行中（5 km/h 以下）に切り替えることができます。走行中に切り替えるときは、直進状態で行います。

### ■フリーホイールハブの操作について

前輪の両側のフリーホイールハブが「LOCK」されていないと、スイッチを操作して  ランプが点灯した状態でも車両は 4WD（4 輪駆動）になりません。

### ■表示灯について

- 4WD（4 輪駆動）への切り替え操作をしても  ランプが点灯しないときは、ハンドルを直進状態のまま少し走行すると点灯します。
- 2WD（後輪駆動）への切り替え操作をしても  ランプが消灯しないときは、少し加減速または後退を行うと消灯します。周囲の安全を確認して行ってください。

**▲ 警告**

- 乾燥した舗装路面および高速道路では、必ず2WD（後輪駆動）で走行してください

4WD（4輪駆動）で走行すると駆動系部品に悪影響を与え、駆動系のオイルもれや焼きつきなどにより、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、タイヤの早期摩耗や燃費消費量の悪化につながるおそれがあります。

- フリーホイールハブの操作について

- フリーホイールハブを切り替えるときは、必ず左右とも切り替えてください。左右とも切り替えないと故障の原因となったり、走行に悪影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- フリーホイールハブを「FREE」と「LOCK」の中間位置にセットしないでください。

- 走行直後は、左右のフリーホイールハブのノブの部分が熱くなっている場合がありますので触れないでください。やけどをするおそれがあります。

- 4WD 切り替えスイッチの取り扱いについて


- 走行中、直進状態以外で切り替えると、故障の原因となります。

- タイヤが空転しているとき、2WD（後輪駆動）から4WD（4輪駆動）への切り替え操作は行わないでください。空転中に切り替えると、故障や思わぬ事故の原因となります。

- フリーホイールハブが「FREE」の状態から4WD（4輪駆動）への切り替え操作は行わないでください。故障の原因となります。


**▲ 注意**

- 装着タイヤの注意

ランプが点灯したときは、すみ


やかに2WD（後輪駆動）に切り替え、各タイヤサイズ、銘柄、タイヤの摩耗状態を確認してください。異なったサイズや摩耗差の著しいタイヤを使用するとフロントディファレンシャルに過大な負荷がかかるため必ず全輪とも指定サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。

## 排出ガス浄化装置スイッチ

排出ガス浄化装置スイッチ内蔵の表示灯と、ランプが常時点滅し、コンビネーションメーターより音声ガイドとブザーが吹鳴したときは、排出ガス浄化装置スイッチを押して排出ガス浄化装置に捕集されたススを燃焼（再生）させてください。


- \* この操作を行わないまま走行を続けると、“DPR 系統点検”が表示されます。これが表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- \* ススの燃焼（再生）処理中は、アクセルペダルを操作しないでください。ススの燃焼（再生）処理が終了する前に、アクセルペダルを踏み込んだり、空ぶかししたりすると、ススの燃焼（再生）処理が中断されます。処理中に作動が停止してしまった場合は、もう一度操作をやりなおしてください。

## 排出ガス浄化装置表示灯


エンジンを始動したとき、ススが一定量堆積していると、ランプと排出ガス浄化装置スイッチ内蔵の表示灯が点滅します。

同時に、コンビネーションメーターより音声ガイドとブザーが吹鳴します。

- \* 常時点滅しているときは、排出ガス浄化装置スイッチを押してススの燃焼（再生）処理を行う必要があることを示しています。
- \* 常時点滅しているとき、スス堆積量表示の本数が増えるごとにコンビネーションメーターより音声ガイドとブザーが吹鳴します。


エンジンスイッチを「ON」の位置にし、排出ガス浄化装置スイッチを押すと  ランプとスイッチ内蔵の表示灯が点灯します。もう一度スイッチを押すか、エンジンを始動したときにススが一定量堆積していなければランプは消灯します。

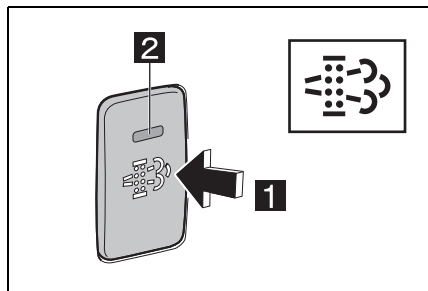
## 後処理システム警告灯

 ランプが点灯したときは、マフラーの点検が必要です。最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

## 操作方法


1. 車両を安全な場所に停車させる。
2. パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを「N」または「P」の位置にする。

- \* エンジンはかけたままにしておきます。
3. 排出ガス浄化装置スイッチを押す。
- \* 内蔵の表示灯と  ランプが点滅から点灯に変わり、アイドル回転数が上がります。



**1** 押す（作動）

**2** 表示灯

4. スイッチの表示灯と  ランプが消灯し、アイドル回転数が元に戻ったらススの燃焼（再生）処理は終了です。
- \* PTO 付き車は、PTO スイッチまたは PTO コントロールレバーが「ON」のとき、排出ガス浄化装置が作動しない場合がありますので PTO スイッチまたは PTO コントロールレバーを「OFF」にしてください。
  - \* アイドルストップシステム装着車は、アイドルストップキャンセルスイッチが「OFF」の場合、アイドルストップします。その際は、エンジンスイッチにてエンジンを再始動させてください。
  - \* クリーニングモード中は車両が信号待ちなどで停車したときにアイドル回転数が上がります。このときに排出ガス浄化装置スイッチを押すとアイドルアップをキャンセルすることができます。この状態で、再びスイッチを押

すとススの燃焼（再生）処理が始まり、アイドル回転数が上がります。


## アドバイス

### ■ ススの燃焼（再生）について

- ススの燃焼（再生）が自動で行われやすくするために、停車時はシフトレバーを「N」または「P」の位置にすることを推奨します。
  - エンジンが冷えているときよりも運転直後に行う方が早く終了します。エンジンが冷えている場合は、暖機を行った後に燃焼（再生）処理を行いますので 30 分以上の時間がかかる場合があります。
  - アイドルストップシステムが機能中に、自動的にクリーニングモードになった場合、アイドルストップシステムは作動しません。
- DPR は次のような特徴があります。
- DPR により、排出ガスを浄化して排出するため、従来のディーゼル車とは排出ガスの臭いが異なります。
  - 始動時に排気管から白い煙が出ることがありますが、これは水蒸気ですので異常ではありません。
  - ススの燃焼（再生）中にマフラーの周辺から白い煙が出ることがありますが、これはマフラー周辺に溜まった水分が水蒸気として排出されているもので異常ではありません。

 知識

### ■ ススの燃焼（再生）について

DPR 付き車は一定距離ごとにススを排出ガス浄化装置に捕集して自動的に燃焼（再生）しますが、運転条件によってはススの燃焼（再生）が完了しない場合があります。そのときは、排出ガス浄化装置スイッチ内蔵の表示灯と  ランプが常時点滅、同時にコンビネーションメーターより音声ガイドとブザーが吹鳴します。これは、排出ガス浄化装置の機能を回復するもので故障ではありません。点滅したときは、排出ガス浄化装置スイッチを押して、ススの燃焼（再生）を行ってください。

DPR は、次の場合、停車中にエンジン回転数が上がり、排気ブレーキを兼用する排気コントロールバルブが作動することがあります。これは排気温度を上昇させて排出ガスを浄化するため、故障ではありません。

- クリーニングモード中
- アイドリング状態が長時間続いたとき
- ・ 走行するためにギヤを入れるなどの操作をするといったん作動は中断しますが、一定処理時間に満たない場合は、停車後再作動することがあります。

### ■ DPR とは

Diesel Particulate active Reduction system の略で DPR-クリーナー内に排出ガス中のススが一定量堆積すると自動的に捕集したススの燃焼（再生）処理を行います。これにより、ススなどが異常に堆積するのを防ぎ、DPR の浄化能力を常に良好に保ちます。また、高性能触媒と電子制御コモンレール式燃料噴射システムの採用により、走行中のススの燃焼（再生）処理を可能としています。

### ■ 排出ガス浄化装置スイッチによるススの燃焼（再生）処理について

- 約 15 分～ 30 分で終了しますが、外気温により異なります。
- マフラー内の温度が高いほど早く終了します。
- 終了するまでは、アクセルペダルを操作しないでください。

### ■ DPR は次のような特徴があります。

DPR ではスス堆積量表示の本数に関わらず、クリーニングモードになっている場合がありますが、これは触媒性能を維持するための機能であり異常ではありません。

**▲ 警告**

- 枯草や紙くずなど燃えやすい物がある場所に車を止めないでください
- 走行直後やクリーニングモード中は排気管やマフラー付近および排出ガスが高温になっています。燃えやすい物が近くにあると火災の原因になります。また、高温の排出ガスによりやけどをするおそれがあります。塗装されている路面に停車している場合、路面が変色するおそれがあります。
- ススの燃焼（再生）処理は、風通しの良い野外の広い場所で行ってください。排出ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排出ガスを吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

**▲ 注意**

- 排出ガス浄化装置スイッチの操作について
- この操作は表示灯が常時点滅をはじめから 150km 走行以内に行ってください。
- ススの燃焼（再生）処理はできるだけ 1 回で完了させるようにしてください。ススの燃焼（再生）処理を頻繁に中断させると、エンジンオイルが燃料により、希釈されるなど、エンジン故障の原因になる場合があります。

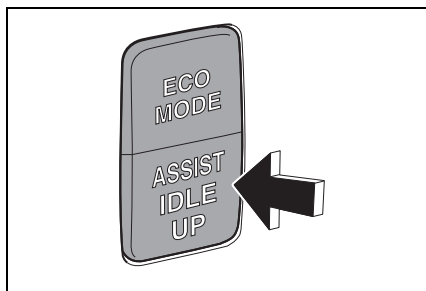
**発進アイドルアップ★**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

坂道や重積載時などの発進を補助します。

**発進アイドルアップスイッチ**

スイッチを「ON」にし、クラッチを踏み込みギヤを入れると、エンジンのアイドル回転数が上がります。


**▲ 警告****■ 発進時の注意**

下り坂や渋滞路では、発進アイドルアップを作動させないでください。作動状態で発進すると、急発進のおそれがあり大変危険です。



## アイドルストップシステム★

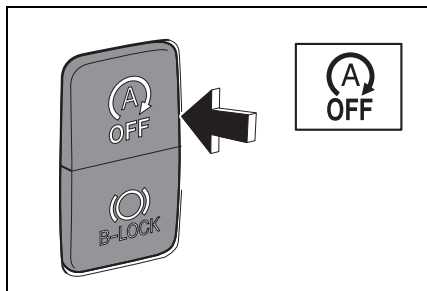
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

信号待ちなどの停車時に自動的にエンジンを停止させ、燃費向上と排出ガス低減を図り、発進時には自動的にエンジンを始動します。

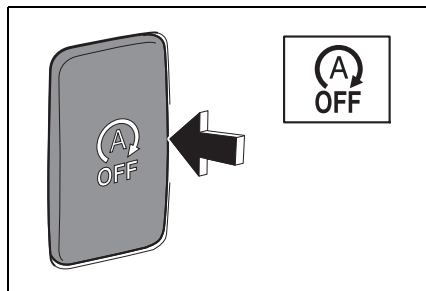
アイドルストップシステムのエンジン自動停止時にアイドルストップ表示灯（）が点灯します。

### アイドルストップキャンセルスイッチ

- エンジンスイッチが「ON」の位置で、スイッチを押すとアイドルストップの作動が停止します。同時に  ランプが点灯します。
  - もう一度押すと作動が復帰し、 ランプが消灯します。
- ▶ ブレーキロック付き車の場合



- ▶ ブレーキロックなし車の場合



### アイドルストップシステムの作動

#### ▶ MT 車

##### ■ 自動停止のしかた

1. クラッチペダルを踏む。
2. シフトレバーを「N」の位置にする。
3. クラッチペダルから足を離す。

##### ■ 自動始動のしかた

クラッチペダルを踏んでください。

- \* なお、ギヤ入れ直後の一定時間内にクラッチを踏んだ場合は自動始動可能です。これにより、素早い操作でも確実にエンジン始動が可能になります。
- \* クラッチペダルを踏んで自動始動したあと再度自動停止するには車速 10km/h 以上の走行経験が必要です。

#### ▶ AT 車

##### ■ 自動停止のしかた

シフトレバーが「D」または「S4、S5、S6」の位置にあるときにブレーキペダルを踏み続けてください。

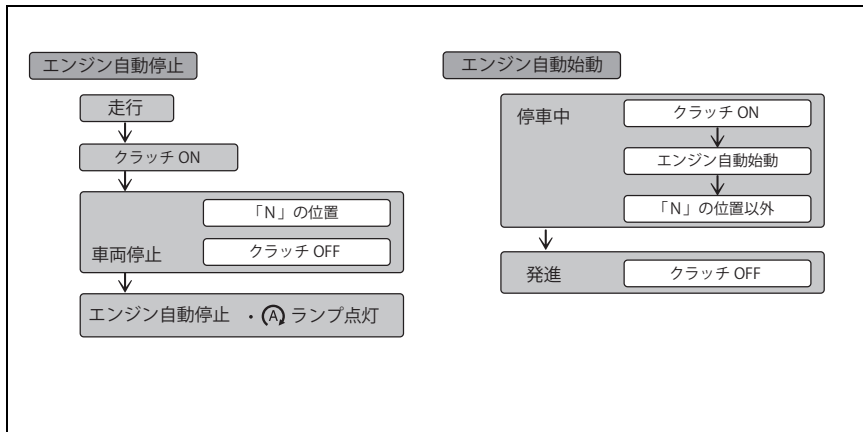
- \* 自動停止時のブレーキ認識は道路勾配の角度によってブレーキペダルを踏む踏力認識を変化させています。

##### ■ 自動始動のしかた（下記のいずれかの条件で自動始動します）

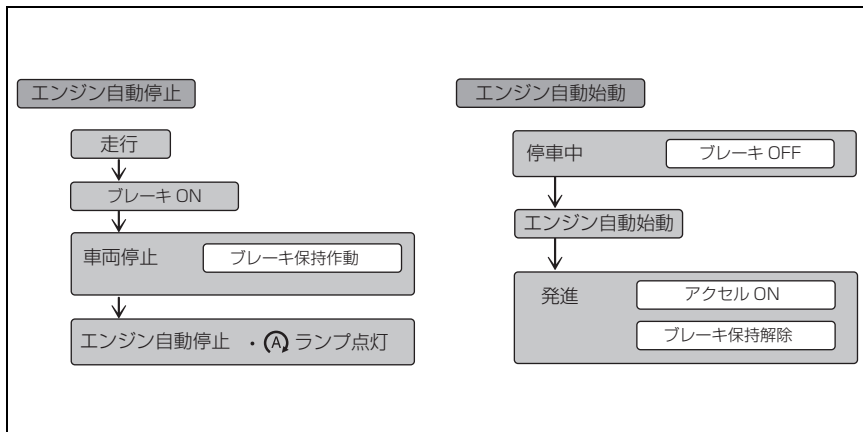
- ブレーキペダルから足を離したとき
  - シフトレバーを「D」位置以外または「S4, S5, S6」の位置以外にしたとき
  - バッテリー低下したとき（自動始動する5秒前から表示及びブザーにて警報します）
- \* ブレーキペダルを離し自動始動したあと再度自動停止するには車速 10 km/h 以上の走行経験が必要です。

## アイドルストップシステムの作動の流れ

### ▶ MT 車



### ▶ AT 車



### 👉 アドバイス

#### ■ クラッチペダルを踏んでもエンジンが始動しないときは (MT 車)

- クラッチペダルを踏んでもエンジンが始動しないときは、もう一度クラッチペダルを踏んでください。(クラッチペダルを踏み続けても自動始動しますが、踏み直すほうが早く自動始動することができます)

- クラッチペダルを踏むより先にギヤを入れてしまうと自動始動はされません。(安全性優先) その場合、一度シフトレバーを「N」の位置に戻してからクラッチペダルを踏みなおせば自動始動します。なお、ギヤ入れ直後の一定時間内にクラッチを踏んだ場合は自動始動可能です。これにより、素早い操作でも確実にエンジン始動が可能になります。

- 「アイドルストップ長時間自動停止中」の表示は、バッテリー状態の低下等で表示しております。エンジン自動始動でエンジンを始動してください。
- クラッチペダルを何度踏んでもエンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを回して手動で始動してください。
- **ブレーキペダルから足を離してもエンジンが始動しないときは (AT 車)**
- ブレーキペダルから足を離してもエンジンが始動しないときは、もう一度ブレーキペダルを踏み続けてください。
- ブレーキペダルを何度踏み直してもエンジンが始動しないときは、シフトレバーを「N」または「P」位置にし、エンジンスイッチを回して手動で始動してください。

## 知識

### ■ 警告灯について

- アイドルストップにおけるエンジン自動停止の場合、エンジン警告灯およびバッテリー充電警告灯は点灯しません。

### ■ ブレーキ保持機能 (AT 車)

- アイドルストップによるエンジン停止後、ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。坂道で発進する際は、駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ油圧（ブレーキの効き）を一時的に保持して、車両が後退するのを抑制します。駆動力が発生すると、保持していたブレーキ油圧（ブレーキの効き）を自動的に解除します。

## 警告

### ■ MT 車の自動停止中について

- 必ずブレーキペダルを踏んだままにしておいてください。車両が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 安全のため、坂道ではパーキングブレーキを作動させ、エンジンが確実に始動するまでパーキングブレーキを解除しないでください。

### ■ 運転席を離れるときは

エンジンスイッチを「OFF」の位置にし、パーキングブレーキを確実にかけてください。車両が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあります。

### ■ エンジン停止中の走行はパワーステアリングが効かない等、非常に危険です

自動停止中はブレーキペダルをしっかり踏んでください。


## 注意

### ■ アイドルストップが作動しないときは

バッテリー低下を検出している可能性があります。一度エンジンスイッチを「OFF」にし、20 秒ほど待ち、再度エンジンを始動してください。

### ■ 以下の条件のとき、アイドルストップを行いません

- 前回のアイドルストップから車速 10 km/h 以上で走行していないとき
- シフトレバーが「N」の位置以外にあるとき (MT 車)
- シフトレバーが「D」または「S4, S5, S6」の位置以外にあるとき (AT 車)

- 方向指示灯または非常点滅灯の点灯時
- 急勾配路での停車時（AT 車）
- 冷凍・冷蔵コンプレッサー作動時
- バッテリーの充電状態が低いとき
- バッテリーが冷えているまたは熱くなっているとき
- バッテリー脱着直後
- 統合電源ユニット警告灯表示時
- PTO 作動時
- DPR 作動時
- エンジンの冷却水温が低いとき
- 停車していない（約 1 km/h 以上の走行）
-  ランプが点灯しているとき
- バッテリーが十分に充電されていないとき
- 外気温度が低いとき
- バッテリーが古くなり十分な電流を流せないとき
- ハンドルを左右 90° より回しているとき

#### ■ 自動停止後、すぐに自動始動をしようとする

始動が若干遅れることがあります、これは機構上、エンジンが完全に停止してから始動するためであり異常ではありません。

#### ■ アイドルストップ作動中について

アイドルストップ中にドアが開くと警報ブザーが鳴ります。

#### ■ アイドルストップ中にアイドルキャンセルスイッチを押しても機能しません

- クラッチペダルを踏み、エンジンが自動始動してからスイッチを操作してください。（MT 車）
- シフトレバーを「D」または「S」以外にし、パーキングブレーキをかけ（ブレーキ保持を解除してから）、エンジンが自動始動してからスイッチを操作してください。（AT 車）

#### ■ アイドルストップキャンセル作動中について

アイドルストップキャンセル中にエンジンスイッチを「OFF」にすると、キャンセルは解除されます。

#### ■ 長時間停車するときは、エンジンスイッチを「OFF」の位置にしてください

エンジン自動停止のまま放置すると、バッテリーあがりの原因になります。

#### ■ クラッチペダルを何度踏んでもエンジンが始動しないときは（MT 車）

シフトレバーを「N」の位置にしてからエンジンスイッチで手動始動してください。


#### ■ ブレーキペダルを何度踏んでもエンジンが始動しないときは（AT 車）


シフトレバーを「N」または「P」の位置にしてからエンジンスイッチで手動始動してください。

#### ■ アイドルストップ作動時の発進について

- エンジンが始動してからアクセルペダルを踏んでください。

## ■ アイドルストップシステムについて

- スターター作動回数が規定値以上に達した場合、エンジンスイッチを「ON」の位置にしたとき、またはアイドルストップキャンセルスイッチを「ON」にしたときに  ランプが点滅し、その後、常灯してアイドルストップシステムが作動なくなります。アイドルストップシステムを作動させるには、スターターとスターターリレーを交換し、スターター作動回数をクリアする必要があります。スターター作動回数のクリア方法はトヨタ販売店へお問い合わせください。

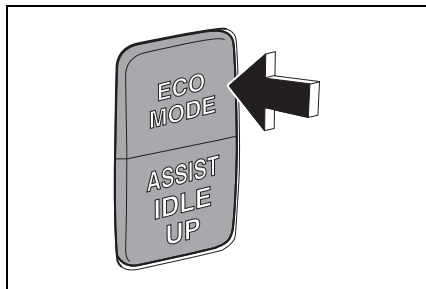
- エンジン始動時にバッテリー電圧が10 V 以下に低下した場合、 ランプが常灯し、エンジンスイッチを「OFF」の位置にするまでアイドルストップシステムが作動しくなります。(AT 車)

## ■ ブレーキ保持機能について (AT 車)

- 勾配が急な上り坂では、ブレーキ保持機能が解除されたあと、車両が後退することがあります。このような場所では、パーキングブレーキをかけたり、ブレーキペダルを操作して発進してください。
- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますが、異常ではありません。
- アイドルストップによるエンジン停止中に、ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、振動が発生したりする場合がありますが、異常ではありません。

## ECO MODE スイッチ (MT 車)

- スイッチを押すごとに ECO モードの「ON」・「OFF」が切り替わります。
- ECO モード作動中は表示灯が点灯します。



## 知識

### ■ ECO モードとは

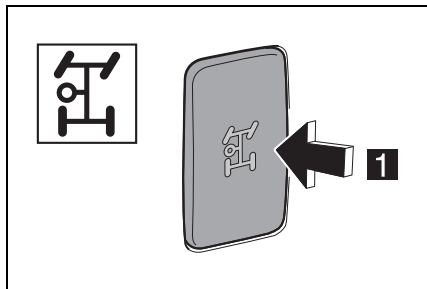
- エンジンに出力制御をかけ、低燃費走行を補助するなど、低燃費性能を優先した走行モードです。
- エンジンスイッチを「OFF」した後、再び「ON」にしたときは、前回走行の走行モードが引き継がれます。

## トランスミッション PTO ★

★：グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。

### PTO スイッチ


トランスミッションからの動力を  
取り出す PTO の「ON」・「OFF」を  
行うスイッチです。




#### 1 ON/OFF

##### ■ 接続


#### ▶ MT 車

1. パーキングブレーキを確実にかけ、クラッチペダルをいっばいに踏み込み、シフトレバーを「N」の位置にする。
2. PTO スイッチを押して「ON」にし、メーター内の  ランプ点灯を確認する。
3. クラッチを静かにつなぎ PTO を接続する。

#### ▶ AT 車（ダンプ・塵芥車を除く）

1. パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを「P」の位置にする。
2. PTO スイッチを押して「ON」にし、メーター内の  ランプ点灯を確認する。


#### ▶ AT 車（ダンプ・塵芥車）

1. パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを「P」、「N」または「S1」の位置にする。
2. PTO スイッチを押して「ON」にし、メーター内の  ランプ点灯を確認する。


\* 「S1」の位置のときは、ブザーが鳴ります。

##### ■ 解除

#### ▶ MT 車

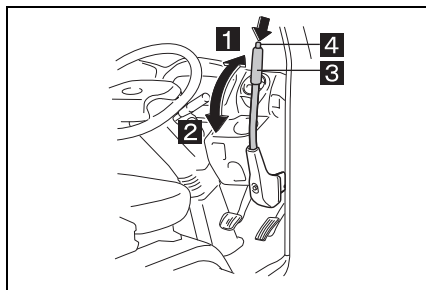
クラッチペダルをいっばいに踏み込み、PTO スイッチを押して「OFF」にし、メーター内の  ランプ消灯を確認後、クラッチペダルから足を離す。

#### ▶ AT 車

PTO スイッチを押して「OFF」にし、メーター内の  ランプ消灯を確認する。

### PTO コントロールレバー

トランスミッションからの動力を取り出す PTO の「ON」・「OFF」を行うレバーです。



1 OFF

2 ON

**3** PTO コントロールレバー**4** ロックボタン

## ■ 接続

## ▶ MT 車

1. パーキングブレーキを確実にかけ、クラッチペダルをいっばいに踏み込み、シフトレバーを「N」の位置にする。
2. PTO コントロールレバーをいっばいに引き「ON」の位置にし、クラッチを静かにつなぎ PTO を接続する。

## ▶ AT 車（ダンプ・塵芥車を除く）

1. パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを「P」の位置にする。
2. PTO コントロールレバーをいっばいに引き「ON」の位置にする。

## ▶ AT 車（ダンプ・塵芥車）

1. パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを「P」、「N」または「S1」の位置にする。
2. PTO コントロールレバーをいっばいに引き「ON」の位置にする。

\* 「S1」の位置のときは、ブザーが鳴ります。

## ■ 解除

## ▶ MT 車

PTO を解除するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込み、ロックボタンを押しながらレバーを「OFF」の位置にする。

## ▶ AT 車

ロックボタンを押しながらレバーを「OFF」の位置にする。

 知識

## ■ アイドルストップについて

PTO 作動中は、アイドルストップを行いません。

 注意

## ■ 部品の損傷について

- 走行前には、PTO を必ず「OFF」にしてください。「ON」のまま走行するとオイルポンプなどを損傷させるおそれがあります。
- 走行中は、PTO を「OFF」から「ON」に切り替えしないでください。トランスミッションのギヤを破損させるおそれがあります。
- PTO 接続するときは、クラッチは急激につなげないでください。クラッチを損傷させるおそれがあります。

## ■ 排出ガス浄化装置スイッチを操作するときは

必ず PTO スイッチまたはコントロールレバーを「OFF」にしてください。排出ガス浄化装置が作動しない場合があります。

## ■ AT 車の PTO 操作（ダンプ・塵芥車）

- PTO 作動中は「P」、「N」、「S1」以外に操作すると PTO は解除されます。
- 「S1」位置のとき、車速が約 6 km/h を超えると PTO スイッチを「ON」にしても PTO は作動しません。

## ■ PTO 作業時の注意点

「P」「N」位置の時は停車中のみ PTO を使用可能です。

- PTO 作業実施前に上物アクセルの動作確認を行い、意図した車両挙動となることを確認してください。  
上物アクセル操作時に意図しない車両挙動が発生した場合、トヨタ販売店もしくは架装メーカへ入庫し、点検整備を実施してください。
- PTO 作業実施前にエンジン停止スイッチの動作確認を行い、正常作動することを確認してください。  
正常作動しない場合、トヨタ販売店もしくは架装メーカへ入庫し、点検整備を実施してください。

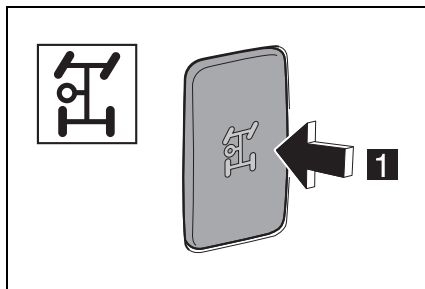
## ダンプレバー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### 電気式 PTO

#### ■ PTO スイッチ

トランスミッションからの動力を取り出す PTO の「ON」・「OFF」を行うスイッチです。

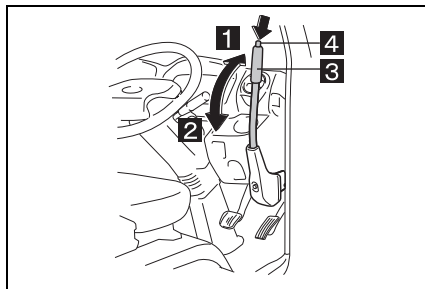


#### 1 ON/OFF

#### ▶ ダンプレバー

荷台を上昇または下降させるレバーです。

ロックボタンを押しながら「荷台上げ」位置へ引くと、荷台が上昇します。「荷台下げ」位置へ戻すと荷台が下降します。



- 1 「荷台下げ」
- 2 「荷台上げ」
- 3 ダンプレバー


#### 4 ロックボタン

- \* ダンプ操作および取り扱いの詳細については、架装メーカーの「取扱説明書」をご覧ください。


### ダンプ操作

#### ■ ダンプ荷台を上げるとき

##### ▶ MT 車

1. パーキングブレーキを確実にかけ、クラッチペダルをいっばいに踏み込み、シフトレバーを「N」の位置にする。
2. PTO スイッチを押して「ON」にし、メーター内の  ランプ点灯を確認して、クラッチをつなぐ。
3. ロックボタンを押しながらダンプレバーを「荷台上げ」の位置に引く。(荷台上昇)


##### ▶ AT 車

1. パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを「P」、「N」または「S1」の位置にする。
- \* 「S1」の位置のときは、ブザーが鳴ります。
2. PTO スイッチを押して「ON」にし、メーター内の  ランプ点灯を確認する。
3. ロックボタンを押しながらダンプレバーを「荷台上げ」の位置に引く。(荷台上昇)


#### ■ ダンプ荷台を下げるとき

##### ▶ MT 車

1. ロックボタンを押したままダンプレバーを「荷台下げ」位置へ戻す。(荷台下降)

2. クラッチペダルをいっばいに踏み込んだまま、PTO スイッチを押して「OFF」にし、メーター内の  ランプ消灯を確認する。
3. クラッチペダルから足を離す。

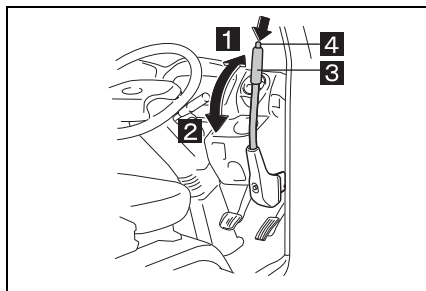
##### ▶ AT 車

1. ロックボタンを押したままダンプレバーを「荷台下げ」位置へ戻す。(荷台下降)
2. PTO スイッチを押して「OFF」にし、メーター内の  ランプ消灯を確認する。

### ワイヤー式 PTO

荷台を上昇または下降させるレバーです。

ロックボタンを押しながら「荷台上げ」位置へ引くと、荷台が上昇します。「荷台下げ」位置へ戻すと荷台が下降します。




- 1 「荷台下げ」
- 2 「荷台上げ」
- 3 ダンプレバー
- 4 ロックボタン

- \* ダンプ操作および取り扱いの詳細については、架装メーカーの「取扱説明書」をご覧ください。

## ダンブ操作


### ■ダンブ荷台を上げるとき

#### ▶ MT 車

1. パーキングブレーキを確実にかけ、クラッチペダルをいっばいに踏み込み、シフトレバーを「N」の位置にする。
2. ロックボタンを押しながらダンプレバーを「荷台上げ」の位置に引く。
3. メーター内の  ランプ点灯を確認後、クラッチを徐々につなぐ。(荷台上昇)


#### ▶ AT 車

1. パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを「P」、「N」または「S1」の位置にする。
- \* 「S1」の位置のときは、ブザーが鳴ります。
2. ロックボタンを押しながらダンプレバーを「荷台上げ」の位置に引く。(荷台上昇)


3. メーター内の  ランプが点灯する。

### ■ダンブ荷台を下げるとき

#### ▶ MT 車

1. クラッチペダルをいっばいに踏み込み、ロックボタンを押したままダンプレバーを「荷台下げ」位置へ戻す。(荷台下降)
2. メーター内の  ランプ消灯を確認後、クラッチペダルから足を離す。

#### ▶ AT 車

1. ロックボタンを押したままダンプレバーを「荷台下げ」位置へ戻す。(荷台下降)
2. メーター内の  ランプ消灯を確認する。

### アドバイス

#### ■ダンプレバーを操作するときは

- ダンプレバーは「上げ」または「下げ」の位置でロックボタンを離すとロックされます。
- ダンプレバーを「下げ」位置へ戻すとエンジンの回転・停止にかかわらず荷台は下降します。
- ダンブ操作はゆっくり行ってください。
- 上昇速度はダンプレバーを「上げ」位置の方向に引くほど早くなります。

### 危険

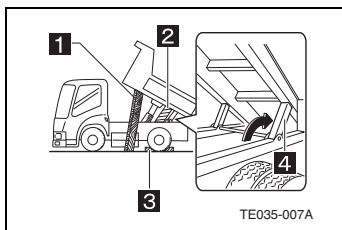
上がったままの荷台の下には、以下の操作を完了するまで絶対に入らないでください

荷台が下がり、はさまれるおそれがあり大変危険です。

やむを得ず点検・整備などで荷台の下に入るときは、

- 必ず水平な場所で、空荷状態で行ってください。
- 必ずエンジンを停止し、室内のダンプレバーを「上げ」の位置で確実にロックし、サブフレームに付けてある安全ブロックを起こし、サブフレームと荷台の間にはさむとともに安全棒を使用してください。

- 重整備のときは、必ず安全支柱と輪止めを併用してください。



**1** 安全支柱（木材）

**2** 安全棒

**3** 輪留め

**4** 安全ブロック

点検・整備中は、エンジンの停止、回転にかかわらずダンプレバーには絶対に触れないでください

荷台が下がるおそれがあり大変危険です。

## ▲ 警告

### ■ 安全の処置

荷台を上げた状態で止めるときは、必ず「上げ」の位置でロックボタンを離してダンプレバーを確実にロックしてください。

さらにサブフレームに設けてある安全ブロックを起こし、サブフレームと荷台との間にはさんでください。

### ■ 操作中の事故やけがを防ぐために

- 荷台が完全に下がったら、ダンプレバーが「下げ」の位置にありロックピンが確実に掛かっていることを確認してください。

- 走行するときは、必ず PTO スイッチが「OFF」になっていることおよびダンプレバーが「下げ」の位置でロックされていることを確認してください。

### ■ 操作時の安全確認

ダンプ操作を行う前に周囲の安全を確認してください。荷台を下げるときは、荷台の下・荷台および荷台周囲の安全を確認してからダンプレバーを「下げ」の位置に戻してください。

### ■ ダンプレバーの操作

走行時は、必ずレバーを「下げ」の位置にしてください。

### ■ 部品の損傷防止

荷台を上げた状態で点検・清掃するときは、シャシ側のパイプ類や補機類には絶対に乗らないでください。破損や故障の原因になります。

## 消防 PTO ★

★：グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。

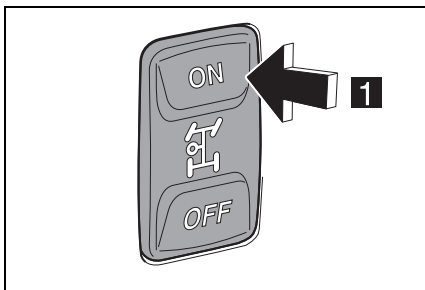
### 消防 PTO の操作

#### ■ 準備

パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトレバーを「N」（MT車）または「P」（AT車）の位置にする。

#### ■ 操作方法

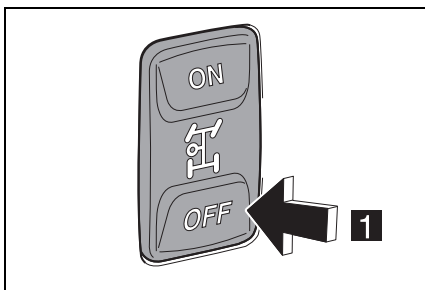
PTO スwitchの「ON」側を押す。  
同時に表示灯が点灯する。



#### 1 ON

#### ■ 解錠方法

PTO スwitchの「OFF」側を押す。  
同時に表示灯が消灯する。



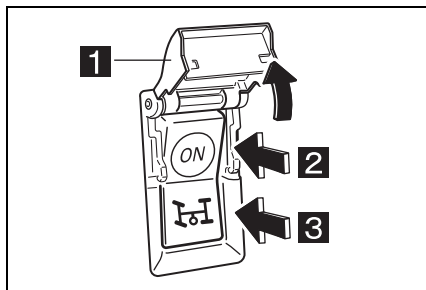
#### 1 OFF

#### ■ 警報ブザーが鳴るとき

- 下記の操作を行うと、警報ブザーが鳴り、作動が停止します。
- ・ シフトレバーを「N」（MT車）または「P」（AT車）の位置以外にしたとき
- ・ パーキングブレーキを解除したとき
- 警報ブザーを止めるには、前記の操作を元に戻し、PTO スwitchの「OFF」側を押してください。

#### ■ 非常 PTO スwitch

- 通常の PTO スwitchの電気回路に断線や故障があったときに、PTO の「ON」・「OFF」を行うス switchです。
- スwitchカバーを開け、ス switchの「ON」側を押すと、PTO が作動します。同時に内蔵の表示灯が点灯します。



#### 1 スwitchカバー

#### 2 ON

#### 3 OFF

- PTO スwitchの「OFF」側を押します。同時に表示灯が消灯します。

\* 通常の表示灯は点灯しません。また、ポンプ系統表示システムも使用できません。

- \* スイッチの「OFF」を押すと、PTOの作動が停止します。

## 知識

### ■ PTOの作動について

油圧多板クラッチの構造上、PTOスイッチを「ON」、「OFF」してから出力軸が開始、停止するまでに多少の時間差がありますが、異常ではありません。なお、時間差の長短は架装側の慣性マスや抵抗の大小、エンジンの暖機状態によって異なります。

## アドバイス

### ■ 再作動について

PTOを再度作動させるためには、次のいずれかの操作を行ってください。

- スイッチをいったん「OFF」にした後、再び「ON」にします。
- エンジンスイッチをいったん「ACC」または「LOCK」の位置にした後、再びエンジンを始動させます。

## 注意

### ■ エンジン始動直後について

急激な高速回転、高負荷運転は、PTOおよびエンジンの不調や故障の原因となります。エンジン冷間時には必ず暖機運転を行ってください。

### ■ PTOの断続操作について

必ずアイドル回転で、架装側の負荷を下げた状態で行ってください。またPTO接続後は、徐々に負荷を上げるようにしてください。高回転、高負荷での断続や急激な負荷上げ操作はPTOやエンジンへの負担となるばかりでなく、放水などの作業時は操作員に過大な衝撃を与えることになるため、必ず適正な操作方法を守ってください。

### ■ PTOを使用しないときは

必ずスイッチを「OFF」にしてください。「ON」のままでの長時間のアイドルリング運転は、排出ガス浄化装置に悪影響を与えます。

### ■ 非常PTOスイッチについて

- 緊急時以外は使用しないでください。
- 作業後は、必ずスイッチを「OFF」にしてください。「ON」のままで行走すると、車両の破損や故障の原因になります。
- 車両の点検時は、スイッチが「OFF」になっていることを確認してください。

### ■ 排出ガス浄化装置スイッチを操作するときは

必ずPTOスイッチを「OFF」にしてください。排出ガス浄化装置が作動しない場合があります。

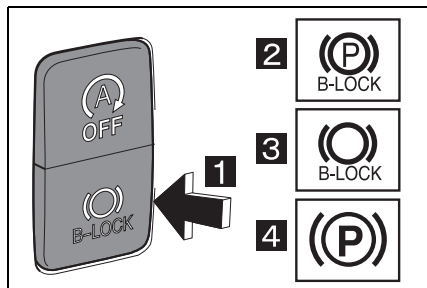
## ブレーキロック（作業用補助制動装置）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

この装置は、エンジンをかけたままで一時的に停車して各種作業を行うときに、パーキングブレーキと併用して使用するものです。パーキングブレーキをかけ、ブレーキロックを作動させることにより直接ホイールブレーキに制動力を発生させます。

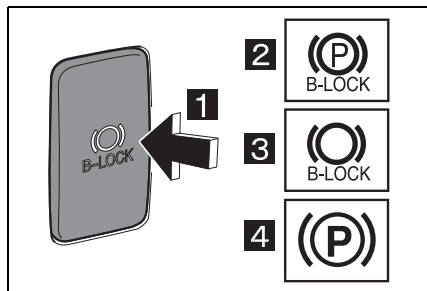
### ブレーキロックスイッチと表示灯

▶ アイドルストップ付き車の場合



- 1 ブレーキロックスイッチ
- 2 作動準備
- 3 圧力保持
- 4 パーキングブレーキ

▶ アイドルストップなし車の場合



- 1 ブレーキロックスイッチ
- 2 作動準備
- 3 圧力保持
- 4 パーキングブレーキ

### 操作方法

1. エンジンが回転し、(P)ランプが消灯（パーキングブレーキ解除状態）していることを確認する。
2. パーキングブレーキレバー★の解除ボタンを押さずにパーキングブレーキをかける。


\* (P)ランプと (P)ランプが点灯することを確認してください。

3. ブレーキペダルを踏んだ状態で、ブレーキロックスイッチを押して「ON」にし、(B-LOCK)ランプが点灯することを確認する。



\* (B-LOCK)ランプが点灯せずにブザーが鳴ったときは、点灯するまでブレーキペダルを踏み込んでください。

### 解除方法

1. ブレーキロックスイッチをもう一度押して「OFF」にするとブ

レーキロックは解除される。同時に、 ランプが消灯する。

\* 坂道で解除する場合は必ずブレーキペダルを踏み込んだまま解除してください。

2. パーキングブレーキを解除すると  ランプと  ランプが消灯する。

### 警告

#### ■ ブレーキロックの使用について

ブレーキロックは、パーキングブレーキではありません。パーキングブレーキとは使用目的が異なりますので、次の事項を厳守し使用してください。

- 手順を守らないと、ブレーキロックが作動しません。
- パーキングブレーキを確実にかけから使用してください。
- パーキングブレーキのみで停止できない急な坂道では、使用しないでください。
- エンジンをかけたまま使用してください。使用中はエンジンを止めないでください。
- 必ずタイヤの前後に輪止めを掛けてください。
- 使用しているときは、車の近くから離れないでください。
- 作業時以外はブレーキロックを使用しないでください。
- 連続1時間以上は使用しないでください。ブレーキ装置のゴム部品の劣化を早め、ブレーキ力を低下させる原因になります。

● 使用中に警報ブザーが鳴ったときは、すぐに使用を中止して車を安全な場所に移動してから、トヨタ販売店に連絡してください。

● この装置はブレーキ装置の各部品に大きな負担がかかりますので、安全のため定期点検時、必ず定期交換部品（別冊の「メンテナンスノート」を参照してください）の交換をしてください。

#### ■ ブレーキロックを解除するときは

先にブレーキロックスイッチを「OFF」にしてからパーキングブレーキを解除してください。逆の順序で解除すると車が動き出すおそれがあります。

#### ■ 電動パーキングブレーキ付ブレーキロックについて

ブレーキロック自動増し付き機能が付いています。



電動パーキングブレーキ作動時にブレーキペダルを踏みながらブレーキロックスイッチを押すと自動的に増し引きを行い、ブレーキロックが作動します。

## VSC・TRC


### VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、旋回時に発生する車両の横滑りやロール現象を抑えるため、自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

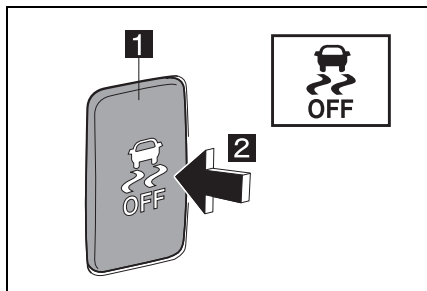
#### ■ 作動時

- 車両が横滑りしそうになったときはVSCが作動し、スリップ表示灯  が点滅し、同時にブザー（断続音）が鳴ります。
- 通常走行時は、必ずVSC OFFスイッチをVSCの作動状態（ ランプ消灯）にしてください。エンジンスイッチを「ON」の位置にした初期状態ではVSCは作動状態になります。

#### ■ 解除方法

停車時にVSC OFFスイッチを3秒以上押し、 ランプが点灯し、作動が解除されます。

- \* スイッチをもう一度押し、作動状態に戻ります。




#### 1 VSC OFF スイッチ

#### 2 押す（作動停止）

### TRC（トラクションコントロール）

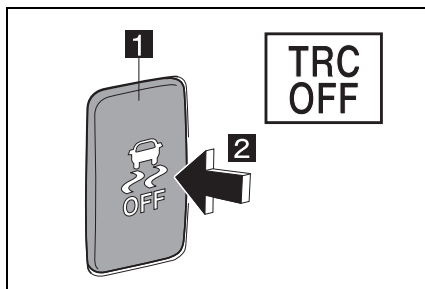
雪路など滑りやすい路面での発進および加速時にタイヤの空転を抑え、走行の安定性を高めます。

- 駆動輪が空転したときはTRCが作動し、スリップ表示灯  が点滅します。

#### ■ 解除方法

VSC OFFスイッチを押し、TRC OFFランプが点灯し、TRCの作動が解除されます。

- \* スイッチをもう一度押し、作動状態に戻ります。



#### 1 VSC OFF スイッチ

#### 2 押す（作動停止）

### 👉 アドバイス

#### ■ 解除について

ぬかるみや新雪などから脱出するとき、VSCやTRCが作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときにVSC OFFスイッチを押し、脱出しやすくなります。

## 知識

### ■ ロール現象とは

走行中の車両が旋回したり横風を受けたとき、車両が横方向に傾く現象です。

### ■ TRC 付き車の運転上の注意

TRC を装着していてもアクセル、クラッチ、ハンドルの急な操作は避けてください。特に滑りやすい路面での発進は、半クラッチを効果的に使い、静かに発進してください。

### ■ VSC や TRC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- ・ エンジンスイッチを「OFF」にしたとき
- ・ (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき。

ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

### ■ ランプが点灯しているとき

VSC・TRC いずれかのシステムに異常があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

## 警告

### ■ VSC を過信しないでください

VSC が作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、スリップ表示灯が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

### ■ TRC を過信しないでください

TRC が作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、スリップ表示灯が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

### ■ TRC の効果を発揮できないとき

滑りやすい路面では、TRC が作動していても車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。慎重に運転してください。


### ■ VSC・TRC の作動停止について

必要なときを除いて、VSC と TRC の作動を停止しないでください。作動させているときも路面状況に応じた速度で、慎重に運転してください。

### ■ ランプが点滅し、作動警報ブザーが鳴っているとき

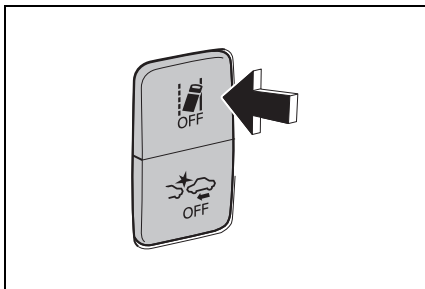
VSC 作動中を示しています。慎重に運転してください。

### 車線逸脱警報装置


車両が通行区分帯を外れると、警報音「ピッピッピ」を発するとともに、マルチインフォメーションに“車線注意”を表示すると同時に  ランプが点滅しドライバーに注意を促します。

### 車線逸脱警報 OFF スイッチ

スイッチを押すごとに車線逸脱警報装置の ON と OFF が切り替わります。



### 表示灯・警告灯

ランプ	詳細
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 車線逸脱警報装置に異常が発生すると点灯します。</li> <li>● 画像センサーの動作保証温度外のときに点灯します。室内が適温になれば消灯します。</li> <li>● フロントガラスが汚れていたり曇っていると点灯します。フロントガラスの汚れや、曇りが取れると消灯します。</li> </ul>



車線逸脱警報装置の OFF 時に点灯します。

### マルチインフォメーション

- システムの故障を検出しています。トヨタ販売店にて点検・整備を受けてください。

前方カメラ  
システム異常  
販売店で  
点検して下さい

- 画像センサー周辺が熱くなっているため、機能が一時停止しています。画像センサー周辺が冷えるのを待ってください。
- 画像センサー前方が遮蔽されています。遮蔽物を取り除いてください。
- 画像センサーの電圧値が異常になっています。バッテリーの電圧値を確認し、充電等を行ってください。

前方  
カメラシステム  
一時使用不可  
少々お待ち下さい

- 画像センサーの前のフロントガラスに汚れ、雨滴、結露、氷雪などが付着しています。画像セ

センサー前のフロントガラスの汚れなどを落としてください。

前方カメラ  
システム利用不可  
フロントガラス  
汚れを  
取って下さい

### 操作方法

エンジンスイッチを「ON」の位置にします。車線逸脱警報 OFF スイッチを押すことで、機能の ON/OFF を設定します。

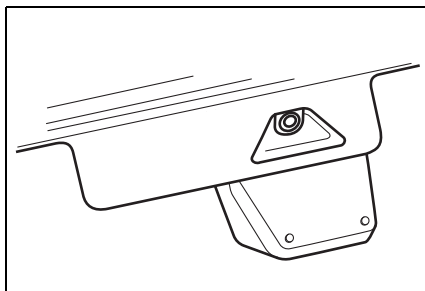
\* エンジンスイッチを「ON」の位置にした後は、車線逸脱警報 OFF スイッチを操作しない限り車線逸脱警報装置は常に ON 状態となります。

### 機能の一時解除

- 方向指示レバー作動中
- 車速が約 60 km/h 以下のとき
- 走行中、車線が認識できなくなったとき
- 車線逸脱警報が作動したとき  
(車線逸脱警報装置の作動を解除後に再作動させたときは、数秒間経過するまで作動は再開しません)

### 画像センサーについて

- 画像センサーは、インナーミラー付近に取り付けられています。
- ▶ 標準キャブ車・ワイドキャブ車



### 車線逸脱警報装置が正しく動作するために

- フロントガラスはいつもきれいにしておいてください。
- 雨露、結露、氷雪などの付着によって機能低下することがあります。
- 画像センサーに強い衝撃を加えたり、分解しないでください。
- 画像センサーの取り付けを変更したり、取り外したりしないでください。もし、取り外した場合は、トヨタ販売店にて画像センサーの調整を受けてください。
- 寒冷時などフロントガラスが曇っていると映像に影響を与えるのでデフロスタでフロントガラスの曇りを取ってください。
- 室内灯をつけたまま走行しないでください。
- 画像センサーのレンズを触ったり傷付けたりしないでください。
- 画像センサーのレンズの前のフロントガラスにシールなどを貼らないでください。
- ワイパーはトヨタ純正部品をご使用ください。

 知識

## ■ 炎天下に駐車したとき

走行開始後、しばらく作動しないことがあります。室内温度が低下し画像センサーの周辺温度が適温になると作動開始します。

 警告

## ■ 次のいずれかの場合は、車線を正確に検知できず、警報機能が正常に作動しないことがあります

- 車線が無い道路またはセンターラインのみの道路を走行するとき
- 車線がかすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 雨、雪、霧、逆光などで車線が見えにくいとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 路面補修の消し残り線・影・残雪・雨のたまったわだちなど、車線と紛らわしい線が見えるとき
- 太陽光や水たまりなどで路面が光っているとき
- 高速道路などの本線（走行車線、追い越し車線）以外の車線を走行するとき
- 分岐路やインター出入り口、急なカーブ路などを走行するとき
- 工事による車線規制や仮設の車線を走行するとき
- 車線の幅が狭いときや広いとき
- うねった道路や荒れた道路を走行するとき

- 荷物が偏って積載された状態のとき

## ■ 車線逸脱警報装置を過信しないでください

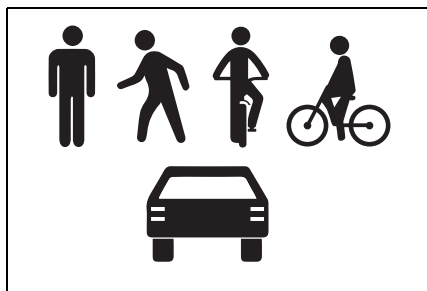
車線逸脱警報装置の認識性能、制御性能には限界があります。事故につながるおそれがありますので車線逸脱警報装置を過信せず、常に周囲の状況に注意し安全運転を心掛けてください。

## PCS（プリクラッシュセーフティ）

この装置は、進路上の車両や歩行者・自転車運転者を前方センサーで検出し、衝突の危険性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の危険性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

システムは次のものを作動対象として検出します。

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者
- 停止障害物



### システムの作動対象

対象の大きさ、輪郭、動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き、姿勢、角度などによっては作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

## 知識

### ■ PCS とは

- Pre-Crash Safety の略です。（衝突被害軽減ブレーキシステム）
- 運転者が衝突回避操作を行うことによって PCS が作動しないことや、解除することがあります。

### 車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- 車速
- プリクラッシュセーフティシステムの各機能の作動状況
- 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
- 画像センサの画像情報

### ■ データの取り扱いについて

トヨタ自動車はコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

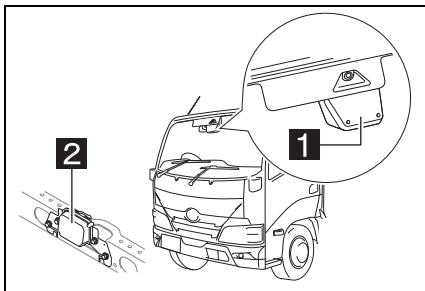
なお、次の場合を除き、トヨタ自動車は取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合

- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

**前方センサー**

フロントバンパーとフロントウインドウガラスにある2種類のセンサーにより、必要な情報を認識します。

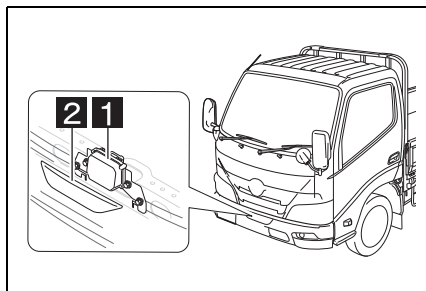


- 1** 画像センサー
- 2** 前方レーダーセンサー

**PCS が正しく作動するために**

前方レーダーセンサーの前面や前方レーダーセンサーカバーに著しく泥、雪、または氷などが付着した場合は、取り除いてください。


お手入れをする際は、前方レーダーセンサーや前方レーダーセンサーカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。



- 1** 前方レーダーセンサー
- 2** 前方レーダーセンサーカバー

**表示灯・マルチインフォメーション**

■ 表示灯

ランプ	内容と対処方法
 <p>OFF (点灯)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PCS システムに異常が発生すると点灯します。</li> <li>・ PCS システムが「OFF」のときに点灯します。</li> <li>・ PCS システムが作動を停止しているとき点灯します。</li> <li>・ バッテリーの脱着により、一時的に使用できない状態となっています。しばらく走行することで正常に復帰します。</li> </ul>

■ マルチインフォメーション

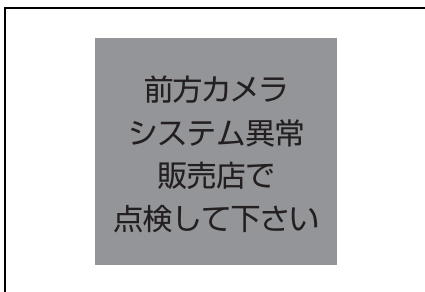
- PCS が作動すると表示します。



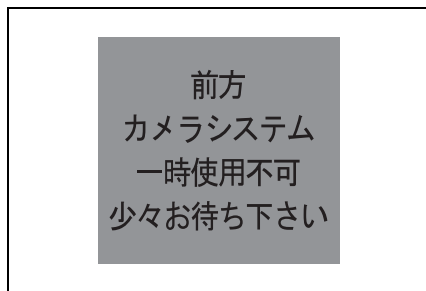
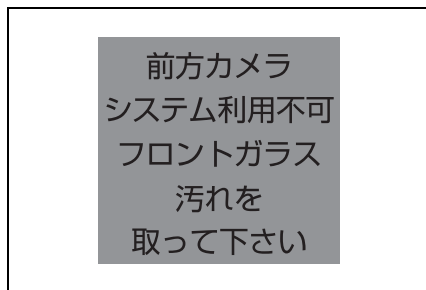
- PCS が作動すると表示します。



- PCS の故障を検出しています。  
トヨタ販売店にて点検・整備を受けてください。



- センサーの異常を検出しています。詳しくは (→P.5-110)



- PCS が、PCS OFF 設定から自動的に復帰した時に表示します。OFF 操作については「PCS を OFF するには」(→ P.5-110)

PCSが  
復帰しました

## 警告

### ■プリクラッシュセーフティについて

プリクラッシュセーフティは、運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害の軽減に寄与することを目的としています。

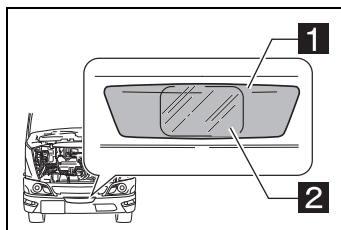
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

### ■前方レーダーセンサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、前方レーダーセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 前方レーダーセンサーと前方レーダーセンサーカバーは常にきれいにしておく
- 前方レーダーセンサーや前方レーダーセンサーカバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない。

- 前方レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける。前方レーダーセンサー・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- 前方レーダーセンサーを分解しない
- 前方レーダーセンサーや前方レーダーセンサーカバーを改造したり、塗装したりしない
- 前方レーダーセンサー・前方レーダーセンサーカバー・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用ください。
- 前方レーダーセンサーカバーは常に付けられている状態でご使用ください。（飛び石等が直接接触することでレーダーが破損する恐れがあります）

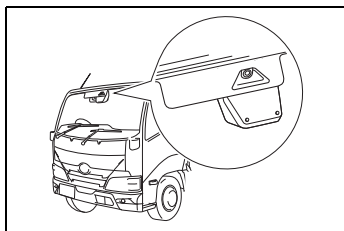


- 1 前方レーダーセンサーカバー
- 2 前方レーダーセンサー

### ■ 画像センサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、画像センサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウィンドウは常にきれいにしておく
- ・ フロントウィンドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・ フロントウィンドウガラスにガラスコーティング剤を使用しているも、画像センサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・ フロントウィンドウガラス内側の画像センサー取り付け部が汚れた場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- ・ フロントウィンドウガラスの画像センサー前部にアンテナを取り付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない。



- フロントウィンドウガラスの画像センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、フロントデフロスターで取り除く

- フロントウィンドウガラスの画像センサー前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーブレードのゴムまたはワイパーブレードを交換する  
ワイパーブレードの交換（→ P.13-64）
- フロントウィンドウガラスにフィルムを貼らない
- トヨタ純正部品以外のフロントウィンドウガラスに交換しない
- フロントウィンドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する。フロントウィンドウガラスの交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 画像センサーに液体をかけない
- 画像センサーに強い光を照射しない
- 画像センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
- フロントウィンドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。レンズに汚れ・傷がある場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 画像センサーに強い衝撃を加えない
- 画像センサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 画像センサーを分解しない
- 画像センサー付近に電子機器や、強い電波を発信する機器を取り付けない
- インナーミラーなどの画像センサー周辺部品や天井を改造しない

- ルーフ・フロントバンパーに、画像センサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- 全長の長い荷物を積むときは、画像センサーの視界をさえぎらないようにする

- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

#### ■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- プリクラッシュセーフティシステムは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがある場合の例 (→ P.5-105)
- ・ システムが正常に作動しないおそれがある場合の例 (→ P.5-107)

- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティシステムの作動テストを行わないでください。状況によってシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

#### ■ プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

- プリクラッシュブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。プリクラッシュブレーキは車両が停止してから約2秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

#### ■ プリクラッシュセーフティシステムを OFF にする必要があるケース



- 次のときは、システムを OFF にしてください。システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・ けん引されるとき

- ・けん引するとき
- ・トラック・船舶・列車などに積載するとき
- ・車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- ・点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- ・事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- ・事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ・タイヤの空気圧が適正でないとき
- ・著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- ・メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- ・タイヤチェーンを装着しているとき

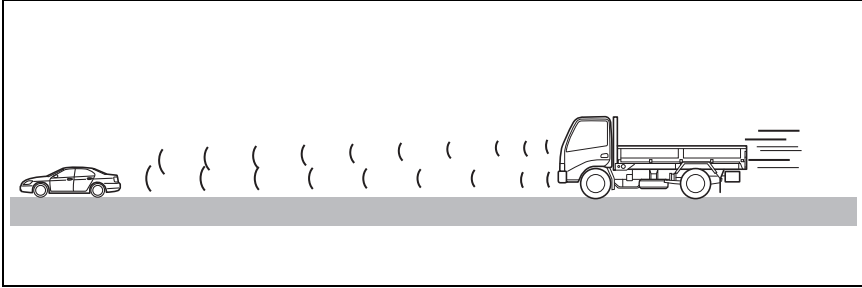
なお、作動対象を検出した時点で、作動対象との相対距離が短い場合には、衝突が避けられないとコンピュータが判断し、作動対象の検出後すぐに警報音・警報表示と同時に強いブレーキが作動することがあります。

## 作動

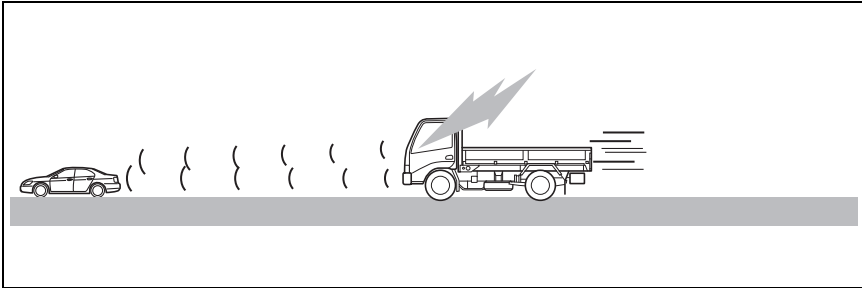
前方センサーで自車線上の作動対象との相対距離や相対速度を検出・分析し、相対距離が近づきすぎなどの衝突の恐れが高いとコンピュータが判断した場合、マルチインフォメーションへの警報表示（または)とブザー警報により、運転者に注意を促します。さらに衝突の可能性が高いと判断すると、強いブレーキを作動させ、衝突時の被害を軽減させます。万一、回避操作が無い場合はブレーキが作動して衝突速度を低減します。{ブレーキ作動中は制動灯が自動点灯し、強いブレーキ作動中は自動点滅（緊急制動灯）に切り替わり、衝突した場合は自車が停止するまでハザードランプが点滅します。}

## 機能一覧

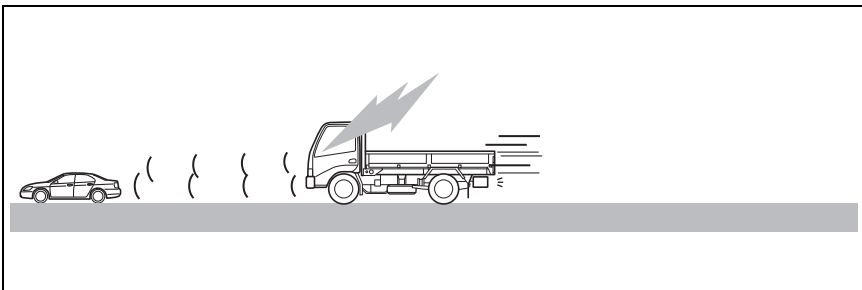
1. 前方センサーが前方の作動対象を検出する。



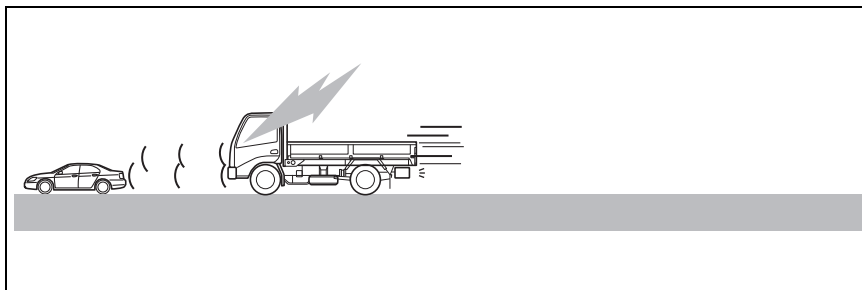
2. 作動対象を検出後、ブザーとマルチインフォメーションへの警告表示で危険を知らせる。



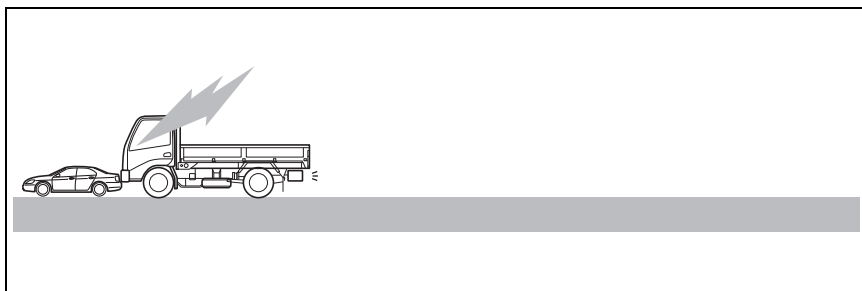
3. 衝突の可能性が高いとコンピューターが判断すると、ブザーとマルチインフォメーションへの警告表示に加え、弱いブレーキを作動させて運転者に注意を促すとともに、制動灯を点灯させて後続車にも注意を促す。



4. 衝突が避けられないとコンピューターが判断すると、ブザーとマルチインフォメーションへの警告表示に加え、さらに強いブレーキを作動させる。



5. 衝突を検知した場合、車両が停止するまでブザーとマルチインフォメーションへの警告表示、強いブレーキを作動させる。  
衝突検知時の自車 40km/h 以上、相対速度 15km/h 以上の場合は、制動灯の点灯に加えハザードランプが点滅する。



### システムの作動条件

エンジンスイッチが「ON」のとき、プリクラッシュセーフティシステムが「ON」で、前方の車両や歩行者・自転車運転者との衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。各機能の作動速度は次のとおりです。

#### ■ 衝突警報

- 自車速度約 10 km/h 以上（検出対象が歩行者・自転車運転者のときは、自車速度約 10 ~ 80 km/h)


- 自車から見た前方の車両や歩行者・自転車運転者との相対速度約 10 km/h 以上

#### ■ プリクラッシュブレーキ

- 自車速度約 10 km/h 以上（検出対象が歩行者・自転車運転者のときは、自車速度約 10 ~ 80 km/h)
- 自車から見た前方の車両や歩行者・自転車運転者との相対速度約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

- 障害物が対向車のとき

- バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーが「R」位置のとき
-  ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“前方カメラシステム異常販売店で点検して下さい”、“前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを取って下さい”、“前方カメラシステム一時使用不可少々お待ち下さい”、“前方レーダー一時使用不可”、“前方レーダー異常”が表示されているとき

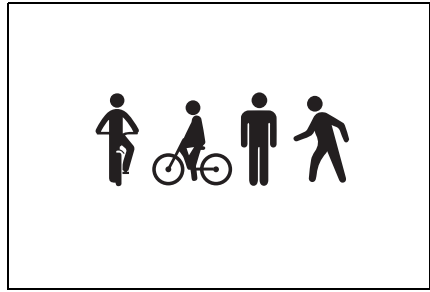
PCS 作動開始タイミングは自転車速度が遅い場合、または運転者の運転操作（一定以上のハンドル操作、ターンシグナルスイッチ操作、ブレーキ操作、アクセル操作）が行われている場合、遅くなります。

前記の作動条件以外で、路面や周囲の環境によってはPCSが作動する場合としない場合があります。「作動条件以外で作動する場合、しない場合」（→ P.5-105）

#### ■ 歩行者および自転車運転者検出について

対象の大きさ、輪郭、動きなどから検出します。

周囲の明るさや、歩行者・自転車運転者の動き、姿勢、角度などによっては歩行者・自転車運転者を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。



#### ■ プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、車両が停止してから約2秒後にプリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

「作動解除条件」および「PCSを“OFF”にするには」（→ P.5-110）

#### ■ 緊急制動灯

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意を促し、追突される可能性を低減させます。

 知識

■ システムの作動条件

- 車速 50 km/h 以上
- システムが車両の減速度から急ブレーキだと判断したとき

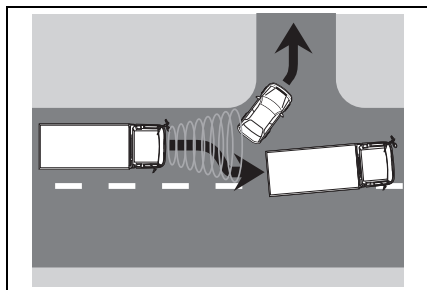
■ 緊急制動灯の作動解除

緊急制動灯が作動した場合、次のときにシステムが自動解除されます。  
システムが車両の減速度から急ブレーキではないと判断したとき

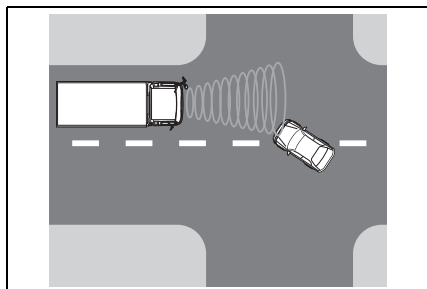
■ 作動条件以外で作動する場合、しない場合

衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがある場合の例

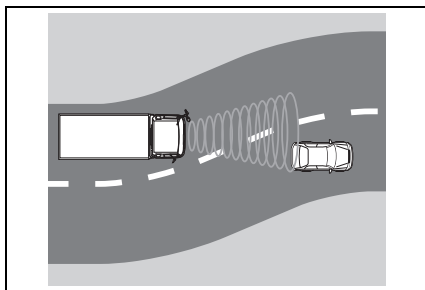
- 右左折する先行車を追い越すとき



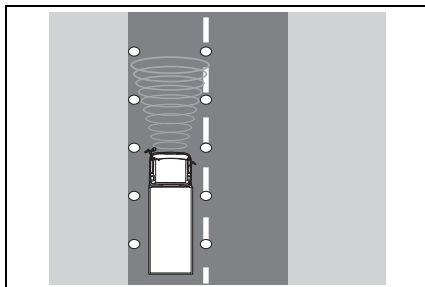
- 右左折待ちの対向車とすれ違うとき



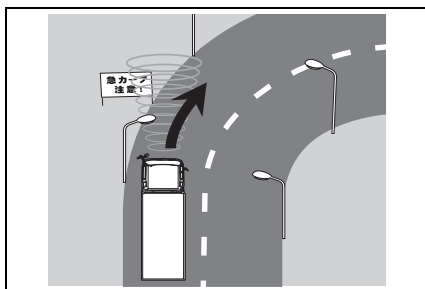
- 隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道（曲がりくねった道など）を走行するとき



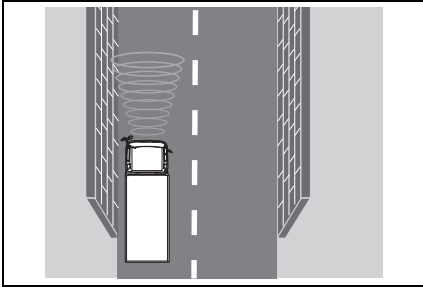
- 道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁など）に近づくとき



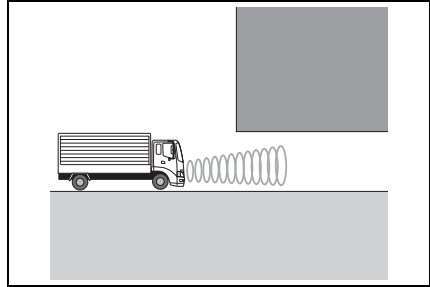
- カーブ入り口の道路脇に車両・歩行者・自転車運転者・構造物が存在するとき



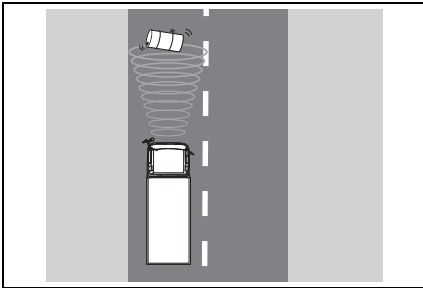
- 道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋）を走行するとき



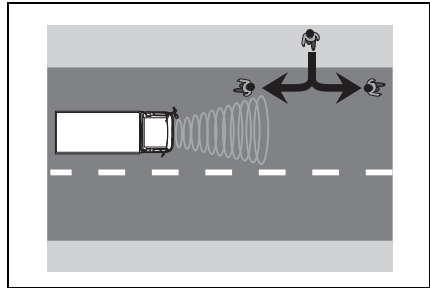
- 道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識）がある場所を走行するとき



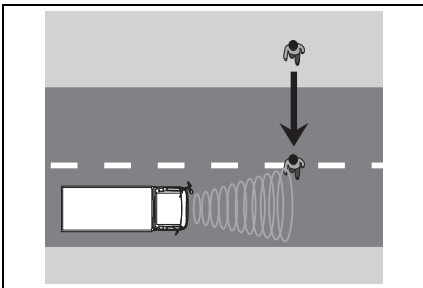
- 路上または道路脇に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき



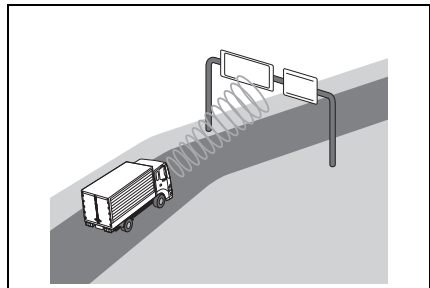
- 歩行者や自転車運転者が歩道上から車道に向かって移動した場合



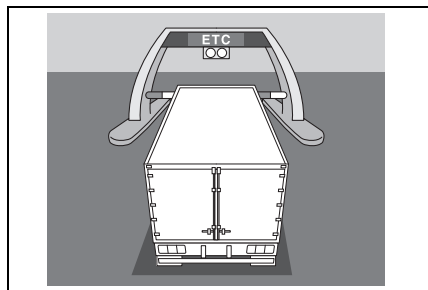
- 横断する歩行者・自転車運転者が車両のすぐそばに近づいたとき



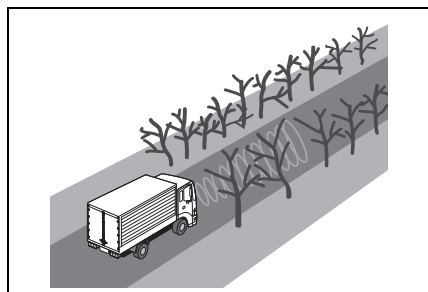
- 上り坂で道路上に構造物（看板など）がある場所を走行するとき



- ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき



- 車両に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



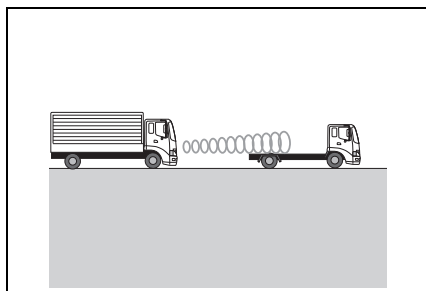
- 車両や歩行者のすぐそばを通過するとき
- 車線変更して先行車を追い越すとき
- 車線変更している先行車を追い越すとき
- 先行車が急減速したとき
- 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- 洗車機を使用するとき
- 周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルや

トラス橋、砂利道、轍のある雪道など）

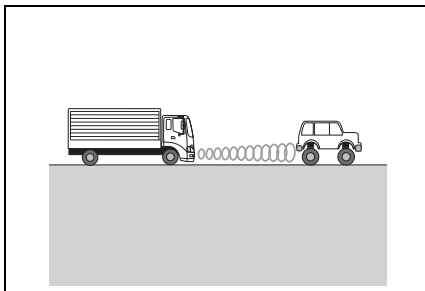
- 料金所等で係員に急接近したとき
- 前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- 車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- 電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- テレビ塔・発電所・放送局など、強い電波やノイズが発生する近くを走行するとき
- 路面または壁などに車両・歩行者との区別がつきにくい模様やペイントがあるとき
- 他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき
- 前方センサーの向きがずれているとき

システムが正常に作動しないおそれがある場合の例

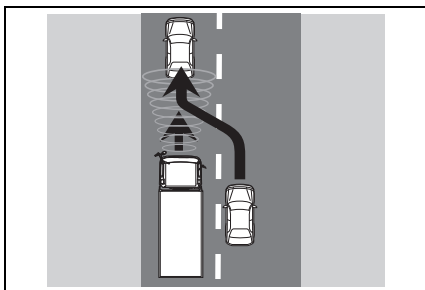
- 先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



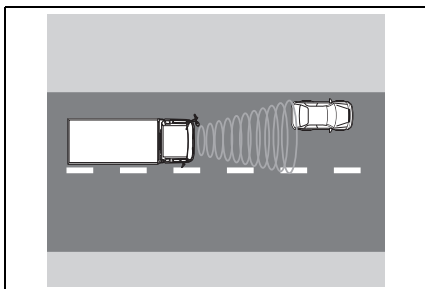
- 前方車両の最低地上高が極端に高いとき



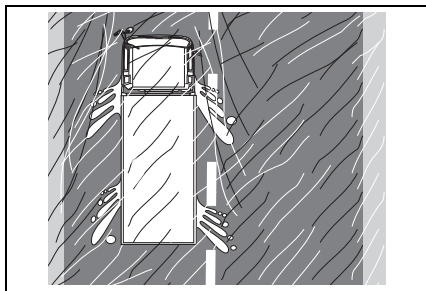
- 車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたとき



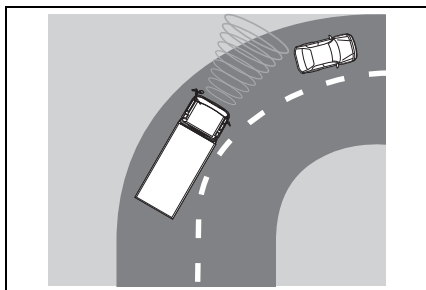
- 前方車両と自車の中心がずれているとき



- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき



- カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間



- 前方から自車に向かって車両が近づいてくるとき
- 前方車両がオートバイのとき
- 前方車両が横向きのとき
- 前方車両の後端面積が小さいとき（低床トレーラーなど）
- 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- 前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
- 前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）

- 自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき
- 前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- 車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が画像センサーに直接あたっているとき
- 薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内
- エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 自車が横滑りしているとき
- 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ホイールアライメントがずれているとき
- ワイパーブレードが画像センサーの視界をさえぎっているとき
- ふらつき運転をしているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- 坂道を走行しているとき
- 前方センサーの向きがずれているとき

次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります

- ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・加熱している・濡れているなど）
- 車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
- 砂利道や滑りやすい路面を走行しているとき

次のような歩行者・自転車運転者は、前方センサーが検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります

- 大きな荷物を抱えていたり、傘をさしたりしていて、体の一部が隠れている歩行者・自転車運転者
- ベビーカー・車いす・自転車などを押している歩行者
- 集団でいる歩行者・自転車運転者
- 白っぽい服に日差しが反射している歩行者・自転車運転者
- 夜間やトンネル内など暗闇にいる歩行者・自転車運転者
- 服装の色合いや明るさなどが背景に溶け込んでいる歩行者・自転車運転者
- 壁際や車両・フェンス・ガードレールなどのそばにいる歩行者・自転車運転者
- 路面金属物（マンホール・鉄板など）上にいる歩行者・自転車運転者
- 速度を急激に変化させている歩行者・自転車運転者

- 物陰から飛び出してきた歩行者・自転車運転者
- 車両の側端（ドアミラーなど）すれすれの位置にいる歩行者・自転車運転者
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）の自転車運転者
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または2m以上のとき
- 歩行者・自転車の輪郭があいまいな時（レインコート・ロングスカートを着ている場合など）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 上方構造物（天井の低いトンネル、低い道路標識など）の下にいる歩行者、自転車運転者

マルチインフォメーションに“前方レーダー時使用不可”、“前方カメラシステム一時使用不可少々お待ち下さい”、“前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを取って下さい”が表示されたとき

- システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

次のときは、状況が改善されると“前方レーダー時使用不可”、“前方カメラシステム利用不可 フロン

トガラス汚れを取って下さい”が消え、作動可能状態になります。

- 炎天下などで、画像センサーや画像センサー周辺の温度が高いとき
- 極寒の環境などで、画像センサーや画像センサー周辺の温度が低いとき
- 前方レーダーセンサーや前方レーダーセンサーカバー周辺に著しく泥、雪、または氷などが付着しているとき
- フロントウインドウガラスの画像センサー付近にシールが貼られているときなど、画像センサー前方がさえぎられているとき

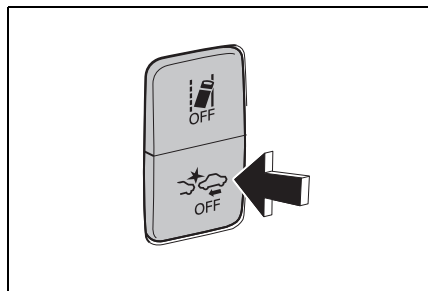
上記のような状況が改善されたり、上記のような状況になっても“前方レーダー時使用不可”、“前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを取って下さい”が表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。






#### ■ 作動解除条件


PCS 作動中（警報またはブレーキ）に、下記操作を行うとシステムは解除します。

- アクセルペダルを強く踏み込む
- PCS OFF スイッチを長押しする


#### ■ PCS を“OFF”にするには





- PCS OFF スイッチを長押しすると PCS が解除され作動しなくなります。同時に  ランプが点灯します。もう一度押しこむと PCS が復帰（作動状態）し、 ランプが消灯します。
- 通常走行時は、必ず PCS OFF スイッチを PCS の作動状態（ ランプ消灯）にしておいてください。エンジンスイッチを「ON」の位置にした初期状態では PCS は作動状態となります。
- PCS OFF スイッチで PCS を解除（ ランプ点灯）した場合、約 15 分後にマルチインフォメーションへの表示“PCS が復帰しました”と表示されてブザー音が鳴り、PCS が自動復帰します。
- 故障車等をけん引する時、または故障によりけん引されるときは、予期しない作動をするおそれがあるので下記の操作で PCS システムを解除（ ランプ点灯）してください。（→ P.6-14）

- 事故にあった場合など、強い衝撃を受けてシステムが正常に作動しない恐れがある場合には、下記の操作により PCS システムを解除（ ランプ点灯）して、最寄りのトヨタ販売店で点検を受けて下さい。（→ P.6-14）

以下の操作はエンジンスイッチを「ON」の位置にして 2 分以上停車していないと操作できません。（→ P.6-14）

以下の操作で PCS システムを解除（ ランプ点灯）した場合は、エンジンスイッチを「ON」にするまで自動復帰を行いません。（→ P.6-14）

#### ■ システムの異常

システムに異常が発生した場合には、 ランプが点灯し、さらにマルチインフォメーションに次のような表示をします。 ランプが点灯したときは、PCS は作動を停止します。

“前方カメラシステム異常販売店で点検して下さい”、“前方レーダ異常”が表示された場合は、最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

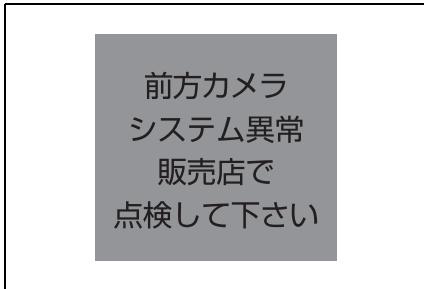
“前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを取って下さい”、“前方カメラシステム一時使用不可少々お待ち下さい”、“前方レーダ一時使用不可”が表示された場合は、システムが一時的に使用できなくなっている可能性があります。（→P.5-110）


**▲ 警告**

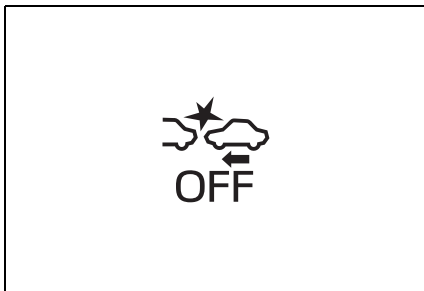
■ PCS（プリクラッシュセーフティ）システムの異常

PCS システムが故障したまま走行を継続すると、PCS システムが正常に機能しなくなるばかりか、意図せず PCS が作動し、事故につながるおそれがあります。PCS システムが故障した場合は、必ず最寄りのトヨタ販売店にご連絡ください。

PCS（プリクラッシュセーフティ）システムに異常がある場合、マルチインフォメーションに“前方カメラシステム異常 販売店で点検して下さい”を表示し、同時に警報ブザーが鳴ります。



PCS OFF スイッチを押していなくても  ランプが点灯します。




**▲ 警告**

■ 画像センサーについて

汚れをふき取ってもマルチインフォメーションに“前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを取って下さい”が表示されたときは、すみやかに画像センサー前部のフロントガラスに割れ、ひびおよびガタツキがないことを確認してください。これらがある場合には、PCS および車線逸脱警報が正しく作動せず事故につながるおそれがあります。なお、画像センサー前部のフロントガラスに割れ、ひびおよびガタツキがあった場合は、運転を継続せず、最寄りのトヨタ販売店に連絡してください。

● ブレーキ制御（ABS）システムの異常

マルチインフォメーションに“ABS 異常”を表示、およびメーターパネル内の  ランプが点灯します。





● 車線逸脱警報装置制御系統の異常

車線逸脱警報装置制御系統に異常が発生した場合にはマルチインフォメーションに“前方カメラシステム異常 販売店で点検して下さい”または“前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを取って下さい”を表示します。

前方カメラ  
システム異常  
販売店で  
点検して下さい

前方カメラ  
システム利用不可  
フロントガラス  
汚れを  
取って下さい

● レーダー異常

前方レーダーセンサーに異常がある場合、マルチインフォメーションに“前方レーダ異常”を表示し、同時に警報ブザーが鳴ります。

前方レーダ異常


● レーダー汚れ

前方レーダーセンサーまたは前方レーダーセンサーカバーに著しく泥、雪または氷などの付着があると“前方レーダー一時使用不可”を表示し、同時に警報ブザーが鳴ります。

前方レーダ  
一時使用不可

### ● レーダー未調整

前方レーダーセンサーが未調整の場合は、マルチインフォメーションに“前方レーダー一時使用不可”を表示し、同時に警報ブザーが鳴ります。



前方レーダ  
一時使用不可

### ▲ 警告

#### ■ 前方レーダーセンサーについて

汚れをふき取ってもマルチインフォメーションに“前方レーダー一時使用不可”が表示されたときは、すみやかに前方レーダーセンサーおよび前方レーダーセンサーカバーの前面に割れ、ひびおよびガタツキがないことを確認してください。これらがある場合には、PCSシステムが正しく作動せず事故につながるおそれがあります。なお、前方レーダーセンサーの前面に割れ、ひびおよびガタツキがあった場合は、運転を継続せず、最寄りのトヨタ販売店に連絡してください。

前方レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用ください。

## 誤発進抑制機能システム★

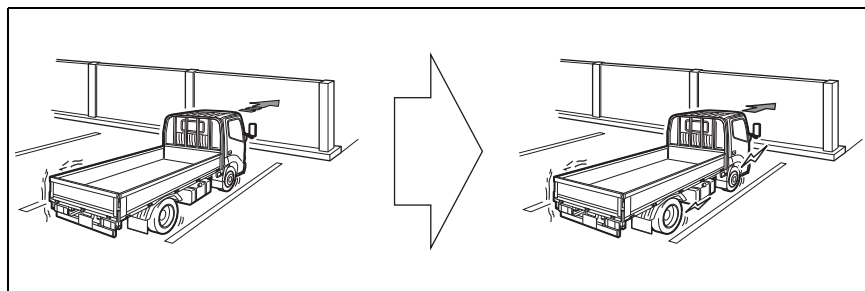
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

この装置は、駐車時や低速走行時における障害物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進およびシフトポジション選択を誤っての発進時に、前後のソナーセンサーが道路上の障害物を検知するとシステムが作動し、エンジン出力抑制により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の危険性がさらに高まったと判断した時は、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

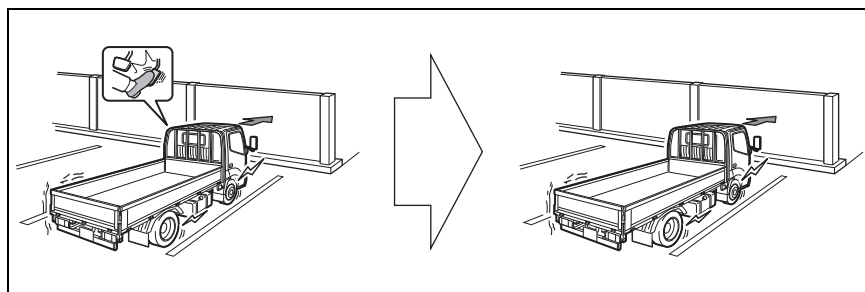
### システム作動例

次のようなときに進行方向の障害物を感知してシステムが作動します。

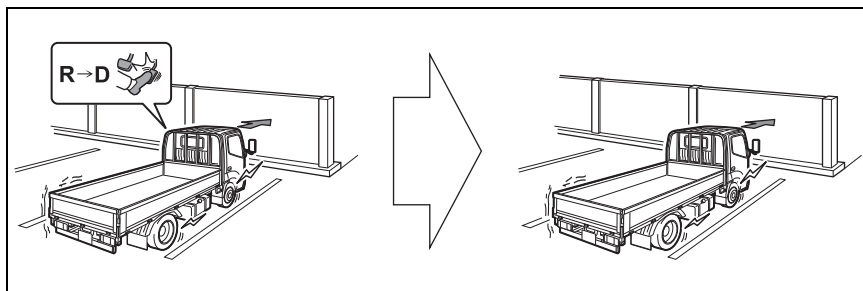
- 低速走行中にブレーキペダルを踏み忘れてしまった、または踏み遅れてしまったとき



- アクセルペダルを踏みすぎてしまった、または踏み間違えてしまったとき



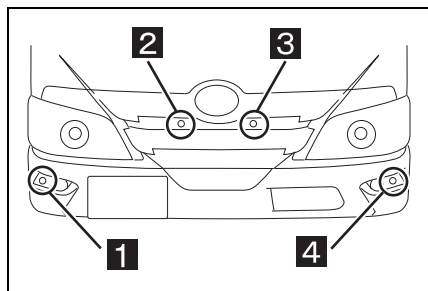
● シフトポジションの選択を誤って発車してしまったとき



センサーの位置・種類

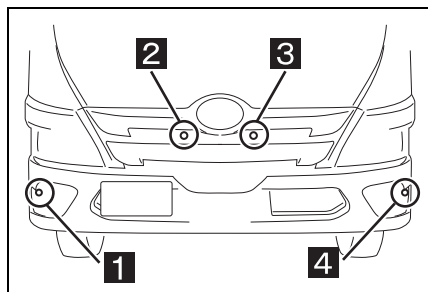
▶ フロント

● 標準キャブ車



- 1 コーナーセンサー R
- 2 センターセンサー R
- 3 センターセンサー L
- 4 コーナーセンサー L

● ワイドキャブ車



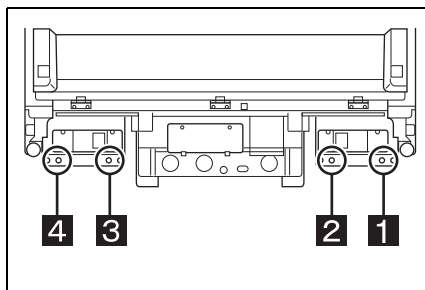
- 1 コーナーセンサー R
- 2 センターセンサー R

3 センターセンサー L

4 コーナーセンサー L

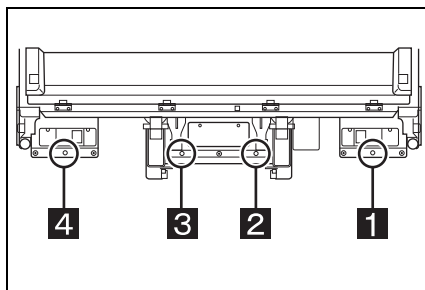
▶ リア★

● 標準キャブ車



- 1 コーナーセンサー R
- 2 センターセンサー R
- 3 センターセンサー L
- 4 コーナーセンサー L

● ワイドキャブ車



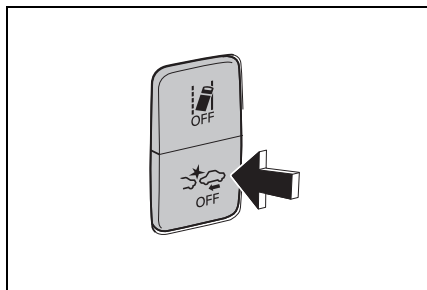
- 1 コーナーセンサー R
- 2 センターセンサー R

3 センターセンサーL

4 コーナーセンサーL

誤発進抑制機能の設定変更

- PCS OFF スイッチを長押しすると誤発進抑制機能が「OFF」になります。もう1度押しこむと「ON」になります。このとき、PCSの「ON/OFF」も同時に切り替わります。

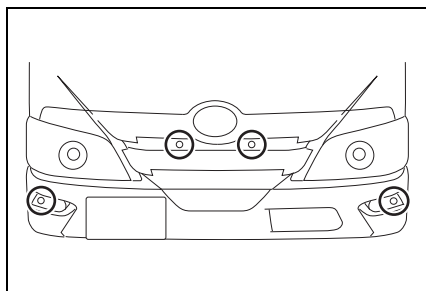


- 誤発進抑制機能が「ON」の時は、表示灯が消灯します。
- エンジンスイッチを「ON」にしたとき、自動的に誤発進抑制機能は「ON」になります。
- マルチインフォメーションでもPCS（および誤発進抑制機能）の「ON/OFF」状態を変更することができます。
- PCS OFF スイッチでPCS（および誤発進抑制機能）を解除した場合、約15分後にマルチインフォメーションへの表示“PCSが復帰しました”と表示されてブザー音が鳴り、PCS（および誤発進抑制機能）が自動復帰します。

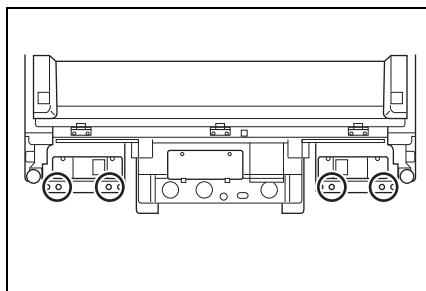
誤発進抑制機能が正しく動作するために

ソナーセンサーに著しく汚れ、水滴、雪などが付着した場合は、取り除いてください。お手入れをする際は、ソナーセンサーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。汚れが落ちにくい場合は、ホース洗車などで付着物を取り除いてください。

▶ フロント

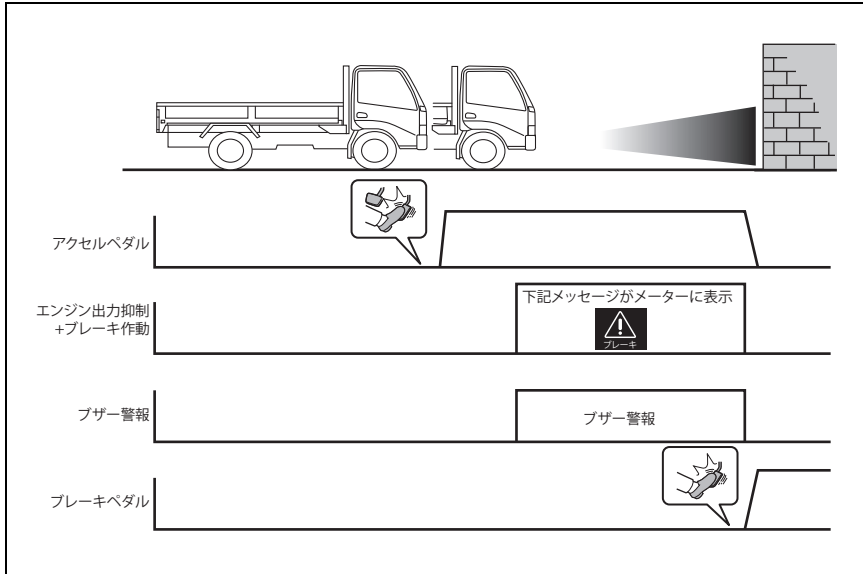


▶ リア★



## 作動について

前方または、後方ソナーセンサーで壁などの障害物を感知・分析し、相対距離が近すぎるなどの衝突のおそれが高いとコンピューターが判断した場合、警報ブザーと注意喚起およびエンジン出力抑制により衝突回避操作を補助します。さらに衝突の可能性が高いと判断すると、強いブレーキを作動させ、衝突時の被害を軽減させます。



### 作動条件

- PCS OFF スイッチによりシステムが「ON」の状態
- 自車速度約 10 km/h 以下のとき
- 自車の進行方向に障害物があるとき
- シフトレバー位置が「P」位置以外のとき（AT 車）
- パーキングブレーキが「OFF」のとき（MT 車）
- エンジンスイッチが「ON」の状態

### 作動解除条件

- PCS OFF スイッチによりシステムが「OFF」の状態
- ブレーキ制御により車両停止後、約 5 秒が経過
- 車両停止後にブレーキ操作
- 自車の進行方向にあった障害物が消失したとき
- シフトレバー位置が「P」位置のとき（AT 車）
- パーキングブレーキが「ON」かつ車両停止状態（MT 車）

**作動条件以外で作動する場合、しない場合**

■ **衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき**

- 狭い道路を走行するとき
- 砂利や草むらなどを走行するとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー、ETCレーンのバー、駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 道路脇に障害物があったとき（狭いトンネル、狭い鉄橋、狭い道路などを走行するとき）
- 縦列駐車をしたとき
- 地面にわだちや穴がある場合
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）を走行したとき
- 急な登坂路を走行するとき
- 冠水している道路でソナーセンサーに水が被ったとき
- ソナーセンサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば正常に復帰します）
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナーセンサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート<特に蛍光灯タイプ>、フォグランプ、フェンダーポール、

無線アンテナなど）を取り付けたとき

- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 衝突など、ソナーセンサーの方向ズレが発生したとき
- 霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況
- リヤ側フックを使用してソナーセンサー前面が遮蔽されたとき
- リヤ側テールゲートを開いたまま（全開状態または、水平半開状態）にしているとき
- 荷物が荷台からはみ出しているとき

■ **システムが正常に作動しないおそれがあるとき**

- 感知できる障害物と車両のあいだに、感知できない障害物がある場合
- 車、二輪車、自動車、歩行者などの障害物が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 炎天下や寒冷時でソナーセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合
- 風が強いとき
- ソナーセンサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば正常に復帰します）
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況

- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナーセンサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞、フォグランプ、フェンダーポール、無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 衝突など、ソナーセンサーの方向ズレが発生したとき
- リヤ側フックを使用してソナーセンサー前面が遮蔽されたとき
- リヤ側テールゲートを開いたまま（全開状態または、水平半開状態）にしているとき
- 荷物が荷台からはみ出しているとき
- **マルチインフォメーションディスプレイに以下の表示がされ、表示灯が以下の状態のとき**
- “誤発進抑制機能 現在使用出来ません”が表示、表示灯が点灯
- ・ バッテリーの脱着により、一時的に使用できない状態となっています。しばらく走行することで正常に復帰します。
- ・ ソナーセンサーに氷、雪、泥などが付着していることが考えられます。この場合はソナーセンサーの氷、雪、泥などを取り除

けば正常に復帰します。また、低温時にはソナーセンサーの凍結などにより、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ正常に復帰します。

- “誤発進抑制機能故障 販売店で点検して下さい”が表示、表示灯が点灯

・ ソナーセンサーの異常などにより装置が正常に作動なくなっているおそれがあります。最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

#### ■ バッテリー脱着後に表示灯が点灯したとき

・ バッテリー脱着により、一時的に使用できない状態となっています。しばらく走行することで正常に復帰します。

#### 万一、踏切などで誤発進抑制機能が誤って作動したとき

万一、踏切などで誤発進抑制機能が誤って作動しても、ブレーキ制御は約5秒で解除されるため、そのまま前進することで脱出できます。また、ブレーキペダルを踏んでもブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し脱出できます。

## 知識

### ■ センサーの感知範囲について

誤発進抑制機能の感知範囲は、クリアランスソナーの感知範囲とは異なります。そのため、クリアランスソナーが障害物と接近をお知らせしても、誤発進抑制機能は作動しない場合があります。

### ■ システムが作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、誤発進抑制機能が停止して表示灯が点灯します。

### ■ システムの復帰について

システムの作動により誤発進抑制機能が停止したときに、誤発進抑制機能を復帰させたい場合は、再度、PCSシステムを「ON」にして停止を解除するか、エンジンスイッチを一旦「OFF」にしてから再度「ON」にしてください。進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れかわった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）とき、もしくはシフトを駐車レンジ「P」位置のとき、システムが自動的に復帰します。

### ■ センサーが感知しない障害物について

次のような障害物はソナーセンサーが感知しない恐れがあります。

- 人や綿、雪などの音波を反射しにくいもの（特に人は衣類の種類によって感知できない場合があります）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打ってるもの
- 背の低いもの
- 針金、フェンス、ロープ、標識の支柱などの細いもの

- バンパー、リヤテールゲートに非常に近いもの

## 警告

### ■ 安全にお使いいただくために

誤発進抑制機能システムは認識性能、制御性能に限界があります。システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。誤発進抑制機能は衝突緩和という支援ができる場合がありますが、状況によっては作動しない場合があります。
- 誤発進抑制機能は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることが出来たとしても、ブレーキ制御は約5秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- お客様ご自身で誤発進抑制機能の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- システムが故障したまま走行を継続するとシステムが正常に機能しなくなるばかりか、意図せず誤発進抑制機能が作動し、事故につながるおそれがあります。誤発進抑制機能システムが故障した場合は、必ず最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

### ■ システムを正しく作動させるために

ソナーセンサーの故障や誤作動を防ぐために次のことをお守りください。お守りいただかないと、ソナーセンサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 改造、分解、塗装などを行わないでください。
- 純正品以外に交換しないでください。
- ソナーセンサー周辺へ衝撃を与えないでください。ソナーセンサー、フロントバンパー、フロントグリル、リヤデッキに衝撃を受けた際は、必ず最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- ソナーセンサーに傷をつけたりせず、常にきれいにしてください。
- ソナーセンサー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。

ソナーセンサー、フロントバンパー、フロントグリル、リヤコンビランプの脱着や交換が必要な場合は、最寄りのトヨタ販売店にご相談ください。

### ■ サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、ソナーセンサーが障害物を正しく感知できなくなり、システムが作動しなくなったり、不要に作動してしまう場合があるため、サスペンションの改造はしないでください。

### ⚠ 注意

#### ■ ソナーセンサーの故障を防ぐために

- 高圧洗浄機を使用して洗車するときは、ソナーセンサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナーセンサー部に近づけすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

#### ■ 不要な作動を防ぐために

次のときは、誤発進抑制機能システムを OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。



- 点検などで、シャシローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションを取り付けた場合
- けん引フックを取り付けた場合
- 洗車機を使用する場合

■ マニュアル車でのクラッチ接続状態によっては、誤発進抑制機能によるブレーキ作動では障害物を回避できない可能性があります。

#### ■ エンストの可能性

MT 車において、クラッチの踏み込みの有無にかかわらず誤発進抑制機能が作動し、エンストするおそれがあります。

## 表示灯

ランプ	詳細
 (点灯)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 誤発進抑制機能が「OFF」のときに点灯します。</li> <li>● 誤発進抑制機能に異常が発生すると点灯します。</li> <li>● 誤発進抑制機能が作動を一時停止しているとき点灯します。</li> <li>● 誤発進抑制機能が作動し車両停止すると点灯します。</li> </ul>
 (消灯)	誤発進抑制機能が「ON」のときに消灯します。

## マルチインフォメーション

- 誤発進抑制機能システムによるブレーキ作動時に表示されます。



- 誤発進抑制機能システムによる車両停止後、アクセルペダルを踏み込んでいる時に表示されます。

アクセルが  
踏まれています  
ブレーキを  
踏みなおして  
下さい

- 誤発進抑制機能システムの故障時に表示されます。

誤発進抑制機能  
故障  
販売店で  
点検して下さい

- 誤発進抑制機能システムが一時使用不可の時に表示されます。

誤発進抑制機能  
現在使用  
出来ません

## クリアランスソナーシステム★

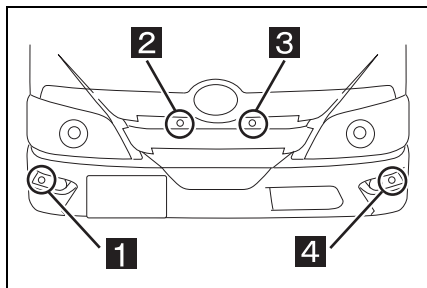
★：グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。

この装置はマルチディスプレイ  
に障害物との距離を表示して、  
ブザー音と共に障害物との接近  
を運転者に通知します。

### センサーの位置・種類

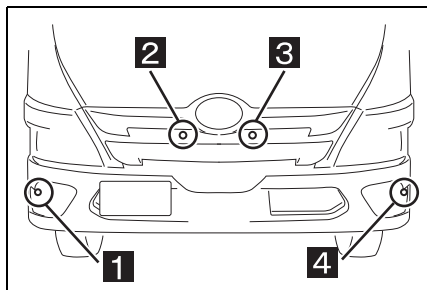
#### ▶ フロント

##### ● 標準キャブ車



- 1 コーナーセンサー R
- 2 センターセンサー R
- 3 センターセンサー L
- 4 コーナーセンサー L

##### ● ワイドキャブ車



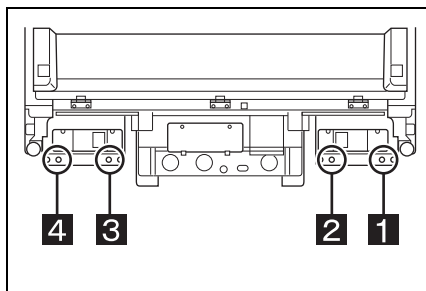
- 1 コーナーセンサー R
- 2 センターセンサー R

##### 3 センターセンサー L

##### 4 コーナーセンサー L

#### ▶ リア★

##### ● 標準キャブ車



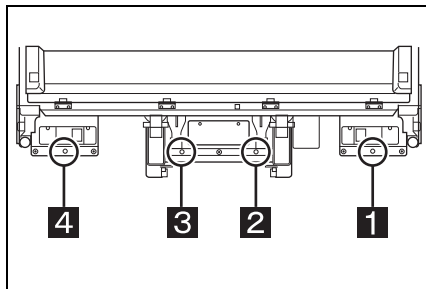
##### 1 コーナーセンサー R

##### 2 センターセンサー R

##### 3 センターセンサー L

##### 4 コーナーセンサー L

##### ● ワイドキャブ車



##### 1 コーナーセンサー R

##### 2 センターセンサー R

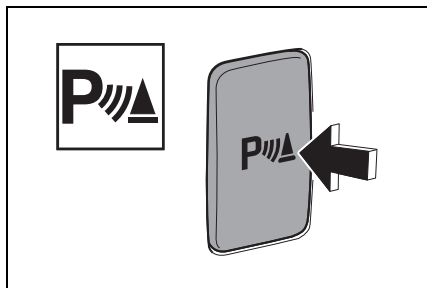
##### 3 センターセンサー L

##### 4 コーナーセンサー L

### クリアランスソナーの設定変更

- クリアランスソナースイッチを  
押すごとにクリアランスソナー  
の「ON」と「OFF」が切り替わ  
ります。

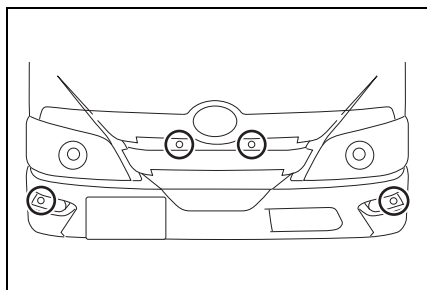
- クリアランスソナーが「ON」のときは、表示灯が点灯します。
- \* エンジンスイッチを「ON」にした時、自動的にクリアランスソナーは「ON」になります。



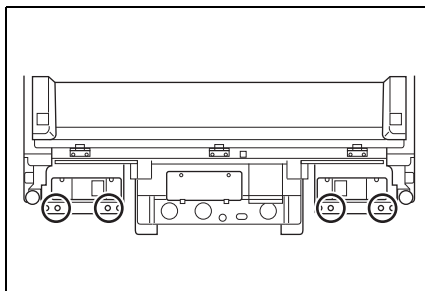
**クリアランスソナーが正しく作動するために**

ソナーセンサーに著しく汚れ、水滴、雪などが付着した場合は、取り除いてください。お手入れをする際は、ソナーセンサーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。汚れが落ちにくい場合は、ホース洗車などで付着物を取り除いてください。

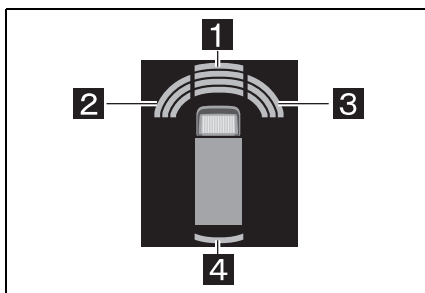
▶ フロント



▶ リア★







**クリアランスソナーの表示のしかた**



- 1** センターセンサー作動表示
- 2** コーナーセンサー L 作動表示
- 3** コーナーセンサー R 作動表示
- 4** リヤセンサー作動表示★

## 距離表示について

表示	障害物までのおおよその距離		
	センター センサー	コーナー センサー	リヤセンサー★
	約 100 ～ 60 cm	—	約 100 ～ 60 cm
	約 60 ～ 45 cm	約 60 ～ 45 cm	約 60 ～ 45 cm
	約 45 ～ 35 cm	約 45 ～ 35 cm	約 45 ～ 35 cm
	約 35 cm 以下	約 35 cm 以下	約 35 cm 以下

\* イラストは説明のための例であり、センサーの検知状態により表示は異なります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ブザーについて

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

- 障害物との距離が近づくと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が約 35 cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、最も近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

## 作動条件

- クリアランスソナースイッチによりシステムが「ON」の状態
- パーキングブレーキが「OFF」のとき
- 自車速度約 10 km/h 以下のとき
- 自車の進行方向に障害物があるとき
- フロントセンサー：
  - ・ シフト位置が「P」「R」位置以外のとき（AT車）
  - ・ シフト位置が「R」位置以外のとき（MT車）
- フロントコーナーセンサー：
  - ・ シフト位置が「P」位置以外のとき（AT車）
- リヤセンサー：
  - ・ シフト位置が「R」位置のとき
- エンジンスイッチが「ON」の状態

## 作動解除条件

- クリアランスソナースイッチによりシステムが「OFF」の状態
- パーキングブレーキが「ON」のとき
- 車両の進行方向にあった障害物が消失したとき
- フロントセンサー：
  - ・ シフト位置が「P」「R」位置のとき（AT車）
  - ・ シフト位置が「R」位置のとき（MT車）
- フロントコーナーセンサー：
  - ・ シフト位置が「P」位置のとき（AT車）
- リヤセンサー：
  - ・ シフト位置が「R」位置以外のとき

## 作動条件以外で作動する場合、しない場合

衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき。

- 狭い道路を走行するとき
- 砂利道や草むらなどを走行するとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー、ETCレーンのバー、駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 道路脇に障害物があったとき（狭いトンネル、狭い鉄橋、狭い道路などを走行するとき）
- 縦列駐車をしたとき
- 地面にわだちや穴がある場合
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）を走行したとき
- 急な登坂路を走行するとき

- 冠水している道路でソナーセンサーに水が被ったとき
- ソナーセンサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば正常に復帰します）
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナーセンサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート<特に蛍光灯タイプ>、フォグランプ、フェンダーポール、無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 衝突など、ソナーセンサーの方向ズレが発生したとき
- 霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況
- リヤ側フックを使用してソナーセンサー前面が遮蔽されたとき
- リヤ側テールゲートを開いたまま（全開状態または、水平半開状態）にしているとき
- 荷物が荷台からはみ出しているとき
- システムが正常に作動しないおそれがあるとき
- 感知できる障害物と車両のあいだに、感知できない障害物がある場合
- 車、二輪車、自動車、歩行者などの障害物が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 炎天下や寒冷時でソナーセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合
- 風が強いとき
- ソナーセンサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば復帰します）
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナーセンサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート<特に蛍光灯タイプ>、フォグランプ、フェンダーポール、無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 衝突など、ソナーセンサーの方向ズレが発生したとき
- リヤ側フックを使用してソナーセンサー前面が遮蔽されたとき

- リヤ側テールゲートを開いたまま（全開状態または、水平半開状態）にしているとき

- 荷物が荷台からはみ出しているとき

### ■ ソナーセンサーが感知しない障害物について

次のような障害物はソナーセンサーが感知しないおそれがあります。

- 人や綿、雪などの音波を反射しにくいもの（特に人は衣類の種類によって感知できない場合があります）

- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの

- 背の低いもの

- 針金、フェンス、ロープ、標識の支柱などの細いもの

- バンパー、リヤテールゲートに非常に近いもの

### ■ マルチインフォメーションディスプレイに以下の表示がされ、表示灯が以下の状態のとき

- “クリアランスソナー現在使用出来ません ソナーの汚れをとって下さい” または “クリアランスソナー現在使用出来ません” が表示、表示灯が消灯

- ソナーセンサーに氷、雪、泥などが付着していることが考えられます。この場合はソナーセンサーの氷、雪、泥などを取り除けば正常に復帰します。また、低温時にはソナーセンサーの凍

結などにより異常表示がでたり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ正常に復帰します。

- “クリアランスソナー故障 販売店で点検して下さい” が表示、表示灯が消灯

- ソナーセンサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

### ▲ 警告

#### ■ 安全にお使いいただくために

クリアランスソナーシステムは認識性能、制御性能に限界があります。システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。クリアランスソナーシステムは、状況によっては作動しない場合があります。

- お客様ご自身でクリアランスソナーシステムの作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- システムが故障したまま走行を継続するとシステムが正常に機能しなくなるばかりか、意図せずクリアランスソナーシステムが作動し、事故につながるおそれがあります。クリアランスソナーシステムが故障した場合は、必ず最寄りのトヨタ販売店にご連絡ください。

### ■ システムを正しく作動させるために

ソナーセンサーの故障や誤作動を防ぐために次のことをお守りください。お守りいただかないと、ソナーセンサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



- 改造、分解、塗装などを行わないでください。
  - 純正品以外に交換しないでください。
  - ソナーセンサー周辺へ衝撃を与えないでください。ソナーセンサー、フロントバンパー、フロントグリル、リヤデッキに衝撃を受けた際は、必ず最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
  - ソナーセンサーに傷をつけたりせず、常にきれいにしてください。
  - ソナーセンサー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。
  - ソナーセンサー、フロントバンパー、フロントグリル、リヤコンビランプの脱着や交換がある場合は、最寄りのトヨタ販売店にご相談ください。
- **サスペンションの取り扱いについて**
- 車高や車の傾きが変化すると、ソナーセンサーが障害物を正しく感知できなくなり、システムが作動しなくなったり、不要に作動してしまう場合があるため、サスペンションの改造はしないでください。

### ⚠ 注意

#### ■ ソナーセンサーの故障を防ぐために

- 高圧洗浄機を使用して洗車するときは、ソナーセンサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナーセンサー部に近づけすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

### 表示灯

ランプ	詳細
 (点灯)	クリアランスソナーが「ON」のときに点灯します。
 (消灯)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● クリアランスソナーが「OFF」のときに消灯します。</li> <li>● クリアランスソナーシステムに異常が発生すると消灯します。</li> <li>● クリアランスソナーが作動を一時停止しているとき消灯します。</li> </ul>

### マルチインフォメーション

- クリアランスソナーシステムが一時使用不可（汚れなどが原因）の時に表示されます。

クリアランス  
ソナー現在使用  
出来ません  
ソナーの汚れを  
とって下さい

- クリアランスソナーシステムが一時使用不可の時に表示されます。

クリアランス  
ソナー現在使用  
出来ません

- クリアランスソナーシステムの故障時に表示されます。

クリアランス  
ソナー故障  
販売店で  
点検して下さい

## サイトアラウンドモニターシステム

この装置は、進路上を交差する車両や自転車、歩行者を前側方センサーで検出し、車両前面部に衝突の危険性が高いとシステムが判断した時に音と表示でドライバーに注意を促します。

### ▲ 警告

#### ■ サイトアラウンドモニターシステムについて

サイトアラウンドモニターシステムは、運転者の安全運転を前提としたシステムであり、注意喚起により運転者の衝突回避動作を補助することを目的としています。本システム性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

#### ■ レーダーセンサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、レーダーセンサーが正常に作動せず、思わぬ衝突につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レーダーセンサーとセンサーカバーは常にきれいにしておく
- レーダーセンサーやセンサーカバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない。

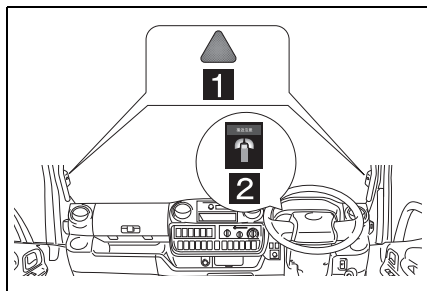
- レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける  
レーダーセンサー・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- レーダーセンサーを分解しない
- レーダーセンサーやセンサーカバーを改造したり、塗装したりしない
- レーダーセンサー・センサーカバーを外さないでください。
- 事故などでレーダーセンサー・センサーカバーが変形した場合は、最寄りのトヨタ販売店にご相談ください。
- レーダー前面に物を設置しないでください。
- レーダーセンサー・センサーカバー・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用ください。

### ■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。サイトアラウンドモニターシステムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。居眠り運転やわき見運転を回避するシステムではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ衝突につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- サイトアラウンドモニターシステムは、注意喚起により運転者の衝突回避動作を補助することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
  - ・ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき (→P.5-135)
  - ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき (→P.5-137)
- お客様ご自身でサイトアラウンドモニターシステムの作動テストを行わないでください。状況によってシステムが正常に作動せず、思わぬ衝突につながるおそれがあります。

## 関連装置

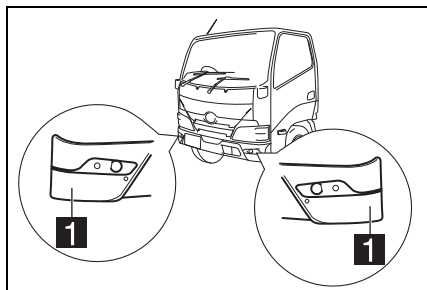
### ■ 表示灯・インジケータランプ



**1** サイトアラウンドモニターシステム表示灯

**2** 警告表示

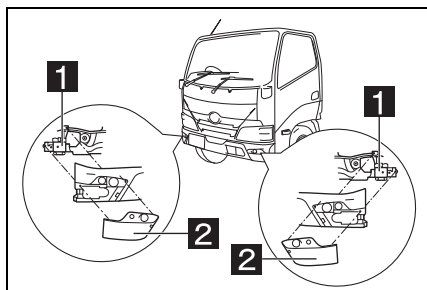
■ レーダーセンサー



**1** コーナーレーダーセンサー

フロントバンパー両端にあるセンサーにより、必要な情報を認識します。

サイトアラウンドモニターシステムが正しく作動するために



**1** コーナーレーダーセンサー

**2** センサーカバー

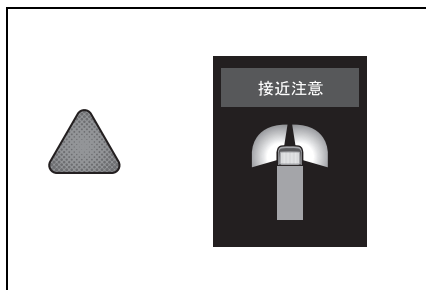
レーダーセンサー前面やカバーに著しい汚れ、雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーセンサーやセンサーカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

表示灯・マルチインフォメーション

■ サイトアラウンドモニターシステム表示灯

● サイトアラウンドモニターシステムが作動すると点灯します。



■ マルチインフォメーション

● サイトアラウンドモニターシステムのシステム異常が発生すると表示します。

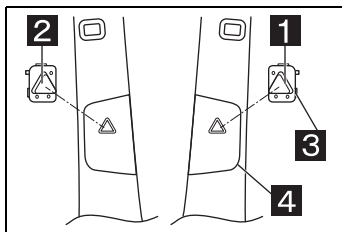


ドライビング  
サポート異常

コーナーレーダ  
一時使用不可

**注意**

■ サイトアラウンドモニターシステム表示灯について



- 1 サイトアラウンドモニターシステム表示灯(右)
- 2 サイトアラウンドモニターシステム表示灯(左)
- 3 インジケーター
- 4 Aピラーカバー

次のような場合は、サイトアラウンドモニターシステム表示灯が見えづらくなる場合があります。

- 日差しが強いとき

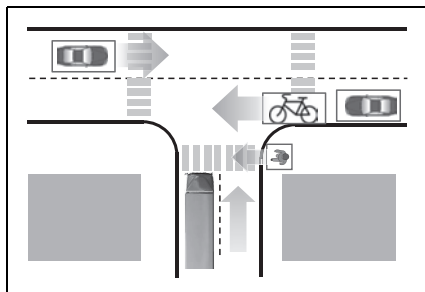
- 後方車両のヘッドライトが当たっているとき

**作動**

■ システムの作動条件

エンジンスイッチが「ON」でサイトアラウンドモニターシステムが「ON」のときに以下の条件で作動します。

■ 出会い頭警報



交差する車両や自転車等の移動物を検知し、車両前面に衝突の可能性があると判断した場合にブザー音とサイトアラウンドモニターシステム表示灯の点滅(赤色)で運転者に注意を促します。

- 自車速度が約 3 ~ 10km/h の時  
車両：対象外  
自転車：対象外  
歩行者：約 3 ~ 8km/h
- 自車速度が約 3 ~ 20km/h の時  
車両：約 5 ~ 60km/h  
自転車：約 5 ~ 20km/h  
歩行者：対象外
- 自車速度が約 20 ~ 40km/h の時  
車両：約 10 ~ 60km/h  
自転車：約 10 ~ 20km/h

歩行者：対象外

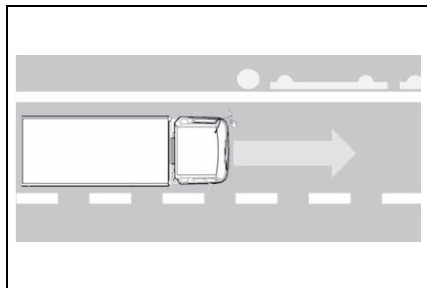
ただし、次のときシステムは作動しません。

- シフトレバーが「R」位置のとき
- マルチインフォメーションに“コーナーレーダ異常”、“ドライビングサポート異常”、“コーナーレーダ一時使用不可”が表示されているとき

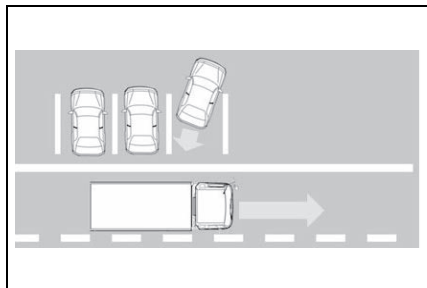
■ 作動条件以外で作動する場合、しない場合

衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがある場合の例

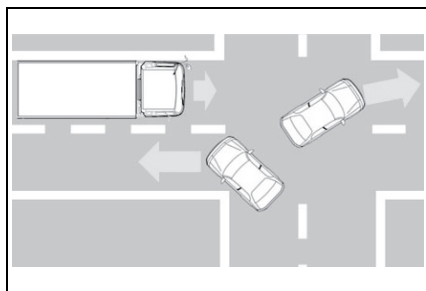
- 道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁・トンネルなど）に近づいたとき



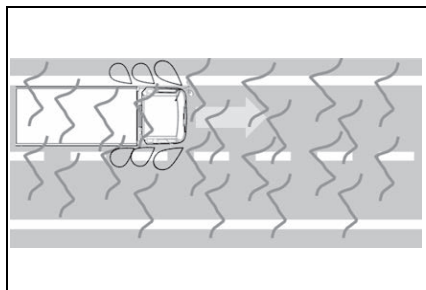
- 移動物が自転車線脇の駐車場などを移動しているとき



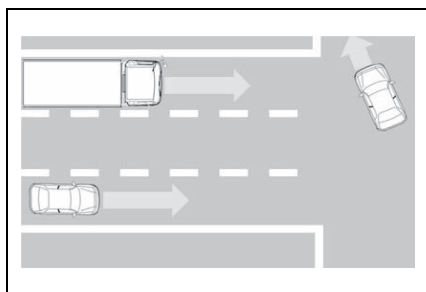
- 自車直前で交差する移動物が右左折するとき



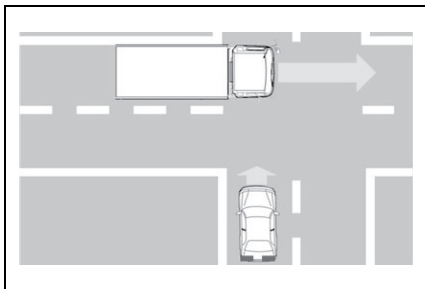
- 悪天候のとき、水、雪、泥などを巻き上げたとき



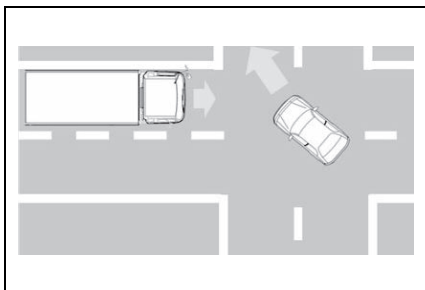
- 移動物が自車から遠方の位置で交差・並走（2車線隣車両）するとき



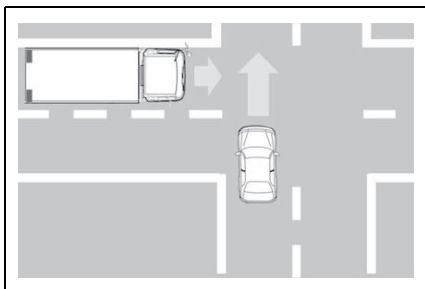
- 交差する移動物が減速し停止するとき



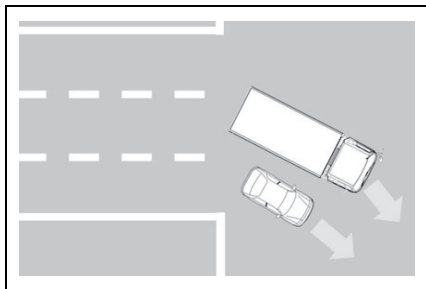
- 対向する移動物が右左折するとき



- 移動物が交差する前に自車が減速するとき



- 自車が移動物と並走したまま交差点を右左折したとき



- テレビ塔・発電所・放送局など、強い電波やノイズが発生する近くを走行するとき
- 車両や歩行者のすぐそばを通過するとき
- 移動物が前方から接近し、すれちがうとき
- 自車から移動物が遠ざかるとき
- 自車が交差する移動物より先に交差点などを通過するとき
- 電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- 行き止まりなどのガードレールやフェンスなどの障害物の奥を移動物が通過するとき
- シフトレバーが「R」位置ではなく、後退しているとき
- 自車が交差点を右折通過時の対向車がすれ違うとき
- 自車と対向車がお互いに右折するとき
- マルチインフォメーションに“コーナーレーダー一時使用不可”が表示されたとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

次のときは、状況が改善されると“コーナーレーダー時使用不可”が消え、作動可能状態になります。

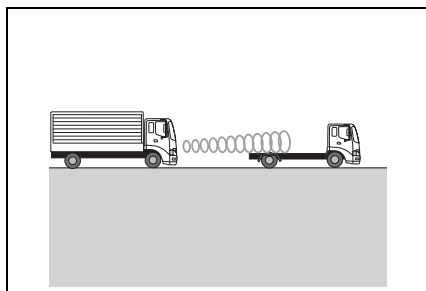
- レーダーセンサーやセンサーカバー周辺に著しく雪や汚れなどが付着しているとき

上記のような状況が改善されたり、上記のような状況になっていなくても“コーナーレーダー時使用不可”が表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

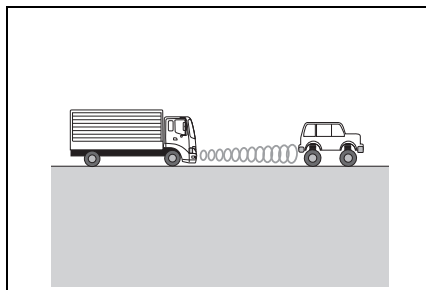
■ サイトアラウンドモニターシステムを“OFF”にするには

- ステアリングスイッチの操作により機能をオフにします。サイトアラウンドモニターシステムが解除され作動しなくなります。
- エンジンスイッチを「ON」の位置にした初期状態ではサイトアラウンドモニターシステムはオン状態となります。操作については（→P.6-13）
- システムが正常に作動しないおそれがある場合の例

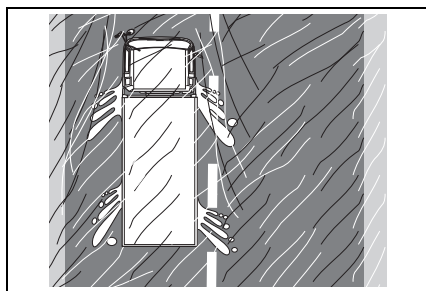
- 移動物の後端が低い位置にあるとき



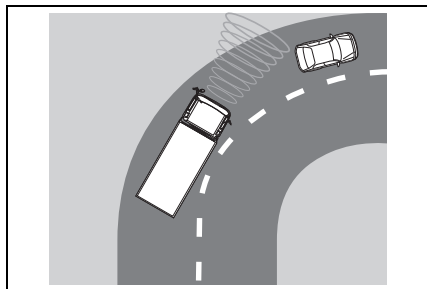
- 移動物の最低地上高が極端に高いとき



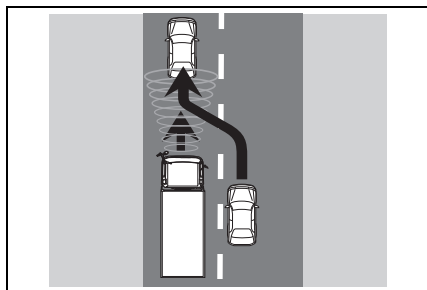
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき  
水、雪、泥などを巻き上げたとき



- カーブ走行中およびカーブを曲がり切ったからの数秒間



- 車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたとき



- 交差する移動物の側面面積が大きいとき（全長の長いトラックなど）
- 交差する移動物が物陰などから急に現れたとき
- 交差する移動物が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- 交差する移動物が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- 坂道を走行しているとき
- きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
- 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき

- 自車進行方向に対し、交差する移動物が斜めに接近するとき
- 障害物が交差する移動物との間にあるとき
- 周辺に金属物などの電波を反射しやすい障害物（駐車車両、ガードレール、壁など）が存在するとき
- コーナーレーダーセンサーの向きがずれているとき
- 旋回中および旋回後
- 自車が横滑りしているとき

### ■ システムの異常

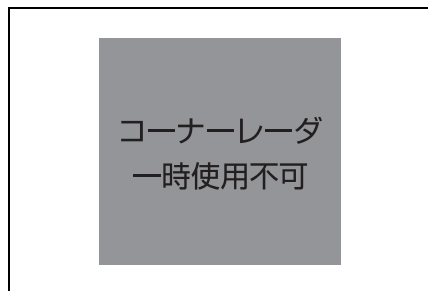
システムに異常が発生した場合には、マルチインフォメーションに次のような表示をします。“コーナーレーダ異常”、“ドライビングサポート異常”が表示された場合は、最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

### ▲ 警告

#### ■ サイトアラウンドモニターシステムが故障した時

サイトアラウンドモニターシステムが故障したまま走行を継続すると、サイトアラウンドモニターシステムが正常に機能しなくなるばかりか、意図せずサイトアラウンドモニターシステムが作動し、衝突につながるおそれがあります。サイトアラウンドモニターシステムが故障した場合は、必ず最寄りのトヨタ販売店にご連絡ください。

● レーダー一時使用不可



レーダーセンサーまたはセンサーカバーに著しく泥、雪または氷などの付着があるときや、周辺に金属物などの電波を反射しやすい障害物（駐車車両、ガードレール、壁など）が存在するとき“コーナーレーダー一時使用不可”を表示し、同時に警報ブザーが鳴ります。

● レーダ異常



レーダーセンサーに異常が発生した場合は、マルチインフォメーションに“コーナーレーダ異常”を表示し、同時に警報ブザーが鳴ります。

● サイトアラウンドモニターシステムインジケータランプ異常



サイトアラウンドモニターシステムインジケータランプに異常が発生した場合は、マルチインフォメーションに“ドライビングサポート異常”を表示し、同時に警報ブザーが鳴ります。

**▲ 警告**

■ コーナーレーダー一時使用不可が表示されたとき

汚れをふき取ってもマルチインフォメーションに“コーナーレーダー一時使用不可”が表示されたときは、すみやかにレーダーセンサーの前面に割れ、ひびおよびガタツキがないことを確認してください。これらがある場合には、サイトアラウンドモニターシステムが正しく作動せず衝突につながるおそれがあります。なお、レーダーセンサーの前面に割れ、ひびおよびガタツキがあった場合は、最寄りのトヨタ販売店に連絡してください。また、ひびおよび割れが確認できず、一時使用不可が頻繁に表示される場合は、最寄りのトヨタ販売店に連絡してください。

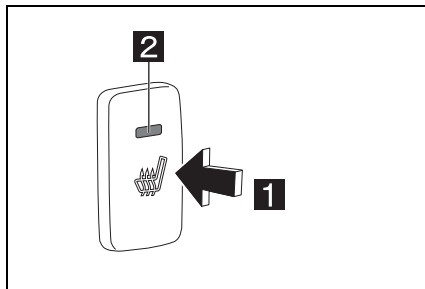
## 知識

### ■ マルチインフォメーションにメッセージが表示されたとき

路面や周辺の環境によって、一時的に“コーナーレーダー時使用不可”が表示されることがあります。その後、レーダーセンサーが正常に検知できるようになると、“コーナーレーダー時使用不可”が消え、システムは自動的に復帰します。

## シートヒータースイッチ

エンジンスイッチが「ON」の位置のとき、スイッチを押すとスイッチ内の表示灯が点灯し、ドライバーシートを暖めることができます。



**1** 押す（作動）

**2** 表示灯

### アドバイス

- シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。
- エンジンスイッチが「ON」の位置でエンジンを始動した状態で使用してください。エンジンスイッチが「ACC」の位置では、バッテリーあがり防止のため作動しません。

### 警告

- 下記に相当される方がご使用になる場合は、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので十分注意してください。
- ・ 皮ふの弱い方
- ・ 疲労の激しい方

- 毛布や座ぶとんなど保温性のよい物をかけた状態で使用しないでください。シートが異常過熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあります。

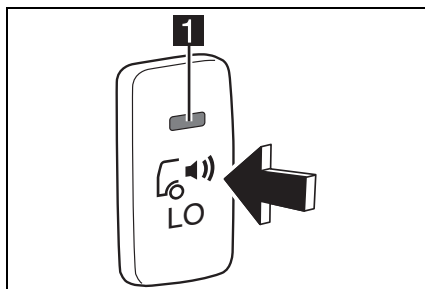
**注意**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利なものを突きさしたりしないでください。故障の原因になります。

**バックブザー減音スイッチ**

エンジンスイッチが「ON」の位置のとき、スイッチを1度押すとスイッチ内の表示灯が点灯し、車外のバックブザーを小さい音量で鳴らすことができます。

もう1度押すと表示灯が消灯し、通常の音量に戻ります。



**1** 表示灯

**知識**

■ バックブザー減音スイッチについて

エンジンスイッチが「OFF」から「ON」にしたとき、スイッチは表示灯消灯の状態となり、車外のバックブザーは通常の音量になっています。

**注意**

■ バックブザー減音スイッチの操作について

- バックブザーは車両の後退を周囲に知らせるための装置です。車両後方の安全を十分に確認できる状況で、かつ、小さい音量でも周囲にブザーが鳴っていることを周知できる静かな環境下でのみ小さな音量で使用してください。
- 安全が確認できない状況では必ず通常音にて使用してください。

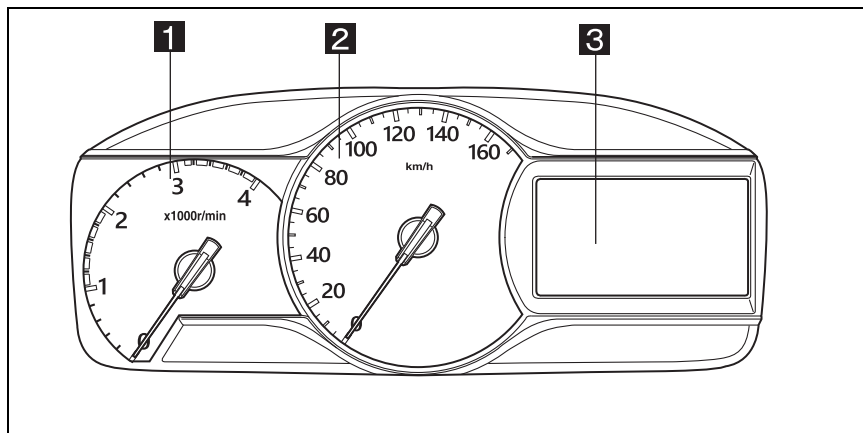
# メーター・警告灯・表示灯 の見方

## 6

メーター類の配置 .....	P.6-2	尿素 SCR システム	
スピードメーター .....	P.6-3	警告灯 .....	P.6-56
タコグラフ .....	P.6-3	予熱装置異常警告灯 .....	P.6-57
タコメーター .....	P.6-4	スターター過熱	
マルチインフォメーション		警告灯 .....	P.6-57
.....	P.6-4	キャブチルト警告灯 .....	P.6-58
警告灯・表示灯 .....	P.6-34	DC/DC コンバーター	
オーバーヒート		警告灯 .....	P.6-58
警告灯 .....	P.6-39	統合電源ユニット	
ブレーキ警告灯・		警告灯 .....	P.6-59
バキューム警告灯 .....	P.6-40		
電動パーキングブレーキ			
警告灯 .....	P.6-41		
バキューム			
警告灯・ブザー .....	P.6-41		
油圧警告灯 .....	P.6-42		
燃料・水分離器水位			
警告灯 .....	P.6-43		
ABS 警告灯 .....	P.6-43		
ABS 表示停止警告灯 .....	P.6-45		
エンジン表示停止			
警告灯 .....	P.6-45		
充電警告灯 .....	P.6-46		
シートベルト非着用			
警告灯 .....	P.6-46		
SRS エアバッグ			
警告灯 .....	P.6-47		
エンジン警告灯 .....	P.6-47		
MIL .....	P.6-49		
DPR（排出ガス浄化装置）			
警告灯 .....	P.6-51		
尿素水			
残量警告灯 .....	P.6-52		
尿素水			
品質警告灯 .....	P.6-54		

## メーター類の配置

本書の内容はお車の仕様により装着されていない場合があります。



**1** タコメーター (→P.6-4)

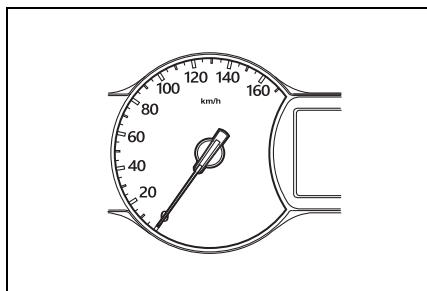
**2** スピードメーター (→P.6-3)

**3** マルチインフォメーションディスプレイ (→P.6-4)

- 燃料計
- 水温計
- 尿素水残量計
- オドメーター
- トリップメーター
- 燃費表示
- シフトインジケーター
- スス堆積量計
- 電圧計

## スピードメーター

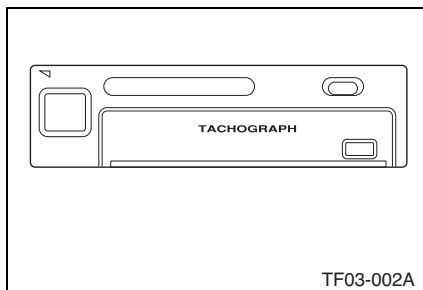
走行中の速度 (km/h) を示します。



## タコグラフ★

★: グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。

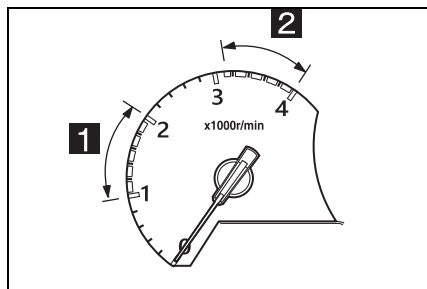
運転中の車速・時間・走行距離・  
運転手の交替などを記録できま  
す。



\* 詳しくは別冊の「タコグラフ取扱説明  
書」をご覧ください。

## タコメーター

1分間あたりのエンジン回転数を示します。



### 1 エコノミーゾーン

経済運転時の目安です。

### 2 レッドゾーン

オーバーランを示しています。

- \* エンジン許容最高回転数を超えた場合、警報ブザーが鳴り、オーバーランであることを知らせます。
- \* 車型によりエコノミーゾーン、レッドゾーンの範囲が異なります。

## 知識

### ■ オーバーランとは

エンジンの許容最高回転数を超えて回転させることをいい、このような状態にすると各部に無理が生じて、エンジンなどを破損させることがあります。

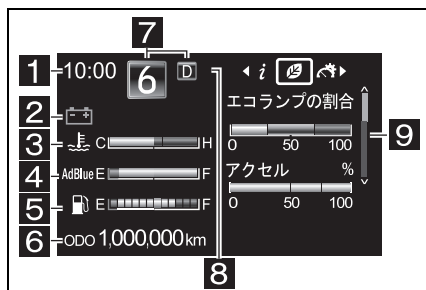
## △ 注意

- 下り坂やシフトダウン時、レッドゾーンに入らないように注意してください

エンジンが破損するおそれがあります。

## マルチインフォメーション

車両の状態や情報を表示されることができます。また、表示させる内容を切り替えたり、設定をドライバーの任意で変更することができます。設定をしなくても車両の運行に問題はありません。



### 1 時計表示部

### 2 警告灯・表示灯表示部

### 3 水温計

### 4 尿素水計

### 5 燃料計

### 6 オドメーター

### 7 シフトインジケーター★

### 8 アイドルストップ ON/OFF 表示部★

### 9 メイン表示部

- ★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 時計表示部

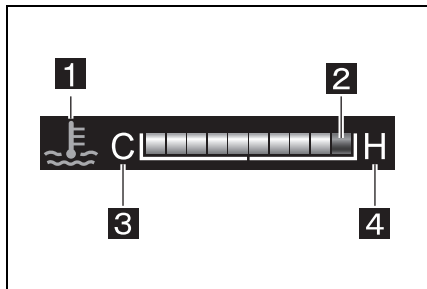
現在時刻を表示します。

## 警告灯・表示灯表示部

警告灯や各システム作動時などに表示灯を表示します。

## 水温計

エンジンの冷却水温度を示します。






**1** 水温計アイコン

**2** 赤色ゾーン

**3** 冷却水「低」(C)

**4** 冷却水「高」(H)

- 赤色ゾーンを示したときは、オーバーヒート状態を示します。オーバーヒートになると、が赤色に変化およびマルチインフォメーションに“  安全な場所に停車エンジンオーバーヒート”を表示します。
- 赤色ゾーンを示したときは、ただちに安全な場所に停車させ、エンジン回転数をアイドル回転数より高めにし、目盛りが中央付近を示したらエンジンを止めます。
- オーバーヒートしたとき (→P.15-17)

## ▲ 警告

### ■ 冷却水が高温のときは

冷却水が高温のときは絶対にラジエーターキャップを開けないでください。熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをするおそれがあり危険です。

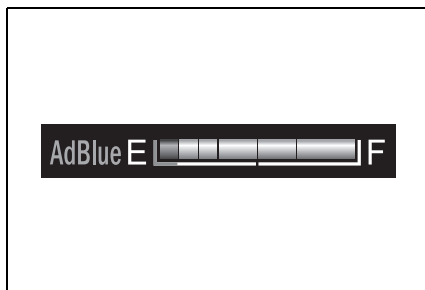
### 👉 アドバイス

目盛りが赤色ゾーンを示したときは、すぐにエンジンを止めないでください。エンジン焼き付きの原因になります。

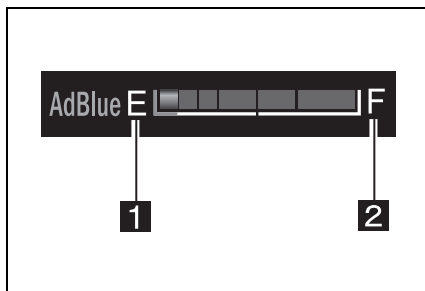
## 尿素水計

尿素水タンク内の AdBlue<sup>®</sup> (尿素水) の量を示します。

### ▶ 満量時



### ▶ 残り少ない時



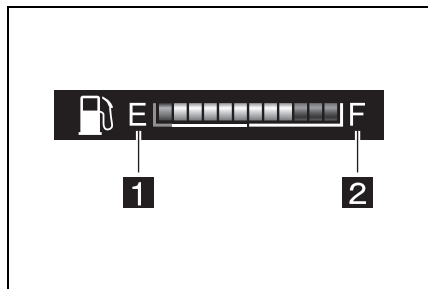
**1** 残り少ない (E)

**2** 満量 (F)

尿素水計が E に近づいたら、早めに AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）を補給してください。AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）切れを起こした場合などに関しては（→ P.6-52）

### 燃料計（フューエルゲージ）

燃料タンク内の燃料の量を示します。



**1** 残り少ない（E）

**2** 満量（F）

- タンク内の燃料が少なくなると燃料計アイコンが橙色に変化します。更に少なくなると最後の1目盛りが点滅します。
- 目盛りが E に近づいたら、早めに燃料（軽油）を補給してください。
- 燃料切れを起こしたときは、燃料系統のエア抜きが必要です。（→ P.15-40）

### 👉 アドバイス

- 軽油以外の燃料は使用しないでください

軽油以外の燃料は使用しないでください。エンジントラブルの原因になります。（→P.1-2）

### オドメーター

走行した総距離を km の単位で表示します。

### シフトインジケーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

現在のシフトレバー位置とギヤ段を表示します。

### アイドルストップ ON/OFF 表示部★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アイドルストップ作動中またはシステムが OFF されているとき、表示灯を表示します。

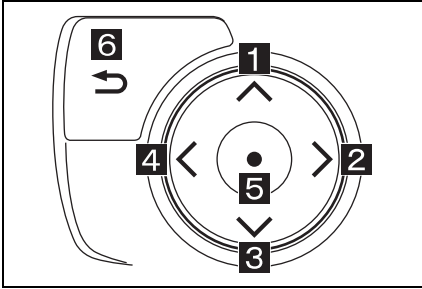
### メイン表示

車両情報、走行支援情報、メーター設定、車両システム設定およびメンテナンスメニューなどを表示します。

\* オーバーヒートしたとき（→ P.15-17）

**ステアリングスイッチ**

スイッチを操作することで表示の切り替えや機能の選択などができます。



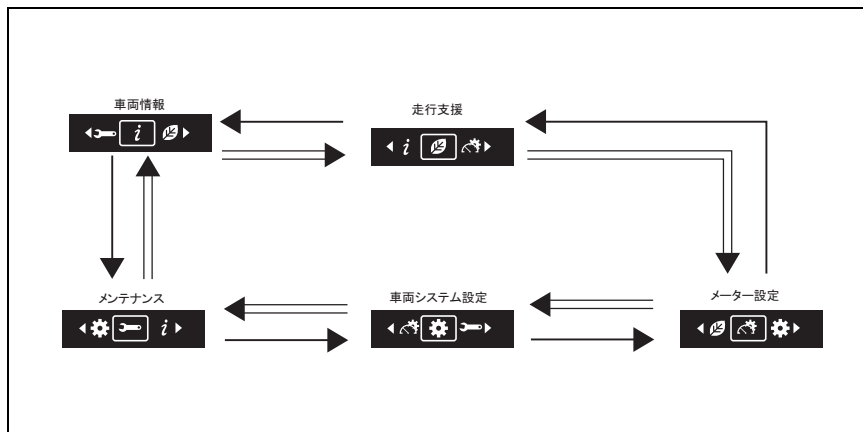
- 1** 上へ移動
- 2** 右へ移動
- 3** 下へ移動
- 4** 左へ移動
- 5** 決定
- 6** 戻る

スイッチ	操作	作動
	短く押す	上移動
		←=====
	長く押す	上連続移動
	短く押す	下移動
		◀.....
	長く押す	下連続移動
		◀.....

スイッチ	操作	作動
	短く押す	左移動
		←
	長く押す	左連続移動
	短く押す	右移動
		←←
	長く押す	右連続移動
	短く押す	決定
		←---
	長く押す	リセット
	短く押す	戻る
		◀.....
	その他の条件	
		◀-----

## マルチインフォメーション表示画面切り替えイメージ

## タブの切り替え



## ● 車両情報

DPR すず堆積量、電圧計、油温計、平均燃費、平均車速、運行時間、アイドル時間およびアワーメーターおよびトリップメーターを表示します。

## ● 走行支援

エコランプの割合・アクセル、平均燃費・瞬間燃費を表示します。

## ● メーター設定

画面調整、日時設定およびブザー音視聴ができます。

## ● 車両システム設定

安全運転支援および省エネ運転支援の設定ができます。

## ● メンテナンス

システムチェック、現在故障、過去故障および点検整備メモの表示ができます。

## 車両情報タブ

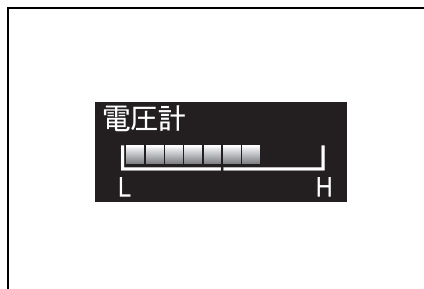
## ■ DPR すず堆積量表示

現在の DPR クリーナー内のすずの堆積量を表示します。



## ■ 電圧計表示




現在の車両電源電圧を表示します。




- \* 電圧計はマルチインフォメーションのメイン表示部に表示されます。  
(→P.6-4)


### ■ 過電圧 / 低電圧表示




- エンジン回転中、適正範囲を示していれば正常です。
- マルチインフォメーションに“ 低電圧”を示したときは、バッテリーが放電状態にあることを示します。また、マルチインフォメーションに ランプも点灯しているときは、発電不良によりバッテリーが充電されていないことを示します。
- マルチインフォメーションに“ 過電圧”を示したときは、過電圧状態にあることを示します。

### ⚠ 注意

マルチインフォメーションに“ 過電圧”を表示したときは、走行しないでください。過電圧による電子機器類の損傷やバッテリーあがりの原因になります。

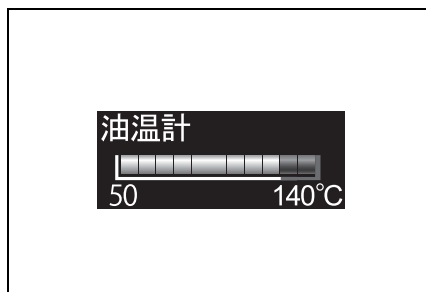
過電圧の場合、マルチインフォメーションの ランプは、お車の仕様により点灯する場合としない場合があります。

-  ランプが点灯したときは、ただちに安全な場所に停車させ、エンジンを止め、オルタネーターのベルトの張り具合や損傷がないかを点検してください。
- ベルトに異常がないときは最寄りのトヨタ販売店に連絡してください。

### ■ 油温計表示

#### ● 油温計★

エンジンオイルの温度を表示します。



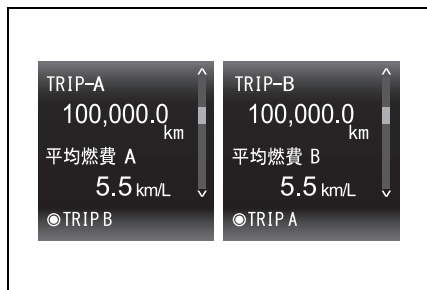
#### ■ トリップメーター・平均燃費表示

- トリップメーター
  - ・ 区間走行距離を km で表示します。

- ・ 0.0 ~ 999,999.9 km まで表示され、999,999.9km を越えると 0.0 km に戻り、積算を続けます。

### ● トリップ間平均燃費

区間平均燃費を km/L で表示します。



- \* ステアリングスイッチの決定ボタンを短押しすると、トリップメーター A 表示とトリップメーター B 表示を切り替えることができます。このとき、平均燃費も連動して切り替わります。
- \* ステアリングスイッチの決定ボタンを長押しすると、トリップメーターおよび平均燃費表示をリセットすることができます。

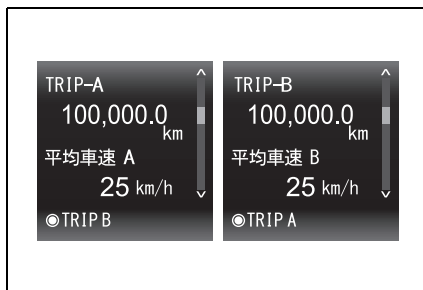
### ■ トリップメーター・平均車速表示

#### ● トリップメーター

- ・ 区間走行距離を km で表示します。
- ・ 0.0 ~ 999,999.9 km まで表示され、999,999.9km を越えると 0.0 km に戻り、積算を続けます。

#### ● トリップ間平均車速

区間平均車速を km/h で表示します。



- \* ステアリングスイッチの決定ボタンを短押しすると、トリップメーター A 表示とトリップメーター B 表示を切り替えることができます。このとき、平均車速も連動して切り替わります。
- \* ステアリングスイッチの決定ボタンを長押しすると、トリップメーターおよび平均車速表示をリセットすることができます。

### ■ 運行時間・アイドル時間表示

#### ● 運行時間

- ・ エンジン始動からエンジン停止までの時間を表示します。
- ・ 0 時間 00 分 ~ 999 時間 59 分まで表示されます。

#### ● アイドル時間

- ・ エンジン始動からエンジン停止までの車両が停車している時間を表示します。
- ・ 0 時間 00 分 ~ 999 時間 59 分まで表示されます。



- \* ステアリングスイッチの決定ボタンを短押しすると、運行時間 A 表示と運行時間 B 表示を切り替えることができます。このとき、アイドル時間も連動して切り替わります。
- \* ステアリングスイッチの決定ボタンを長押しすると、運行時間およびアイドル時間をリセットすることができます。

■ **アワーメーター表示**

● **アワーメーター**

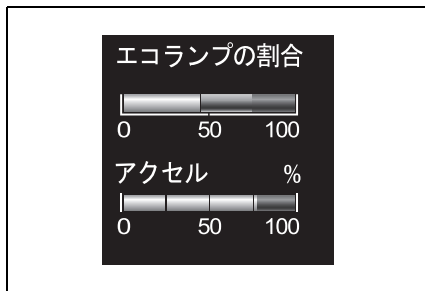
- ・ エンジン停止（アイドルストップを除く）までの時間を表示します。
- ・ 0.0 時間～ 99,999.9 時間まで表示されます。



**走行支援タブ**

■ **エコランプの割合・アクセル開度表示**

- **エコランプの割合**
  - ・ マルチインフォメーション上段に表示される色の割合をバーグラフで表示します。
  - ・ 低燃費走行の度合いによって青色から黄緑色が表示されます。
- **アクセル開度**
  - ・ 走行中のアクセル開度をバーグラフで表示します。



- \* ステアリングスイッチの決定ボタンを長押しすると、エコランプの割合表示をリセットすることができます。

■ **平均燃費・瞬間燃費表示**

● **平均燃費**

- ・ エンジン始動からエンジン停止までの平均燃費を km で表示します。
- ・ 0.0 ～ 99.9 km/L まで表示されます。

● **瞬間燃費**

走行中の瞬間燃料消費量をバーグラフで表示します。

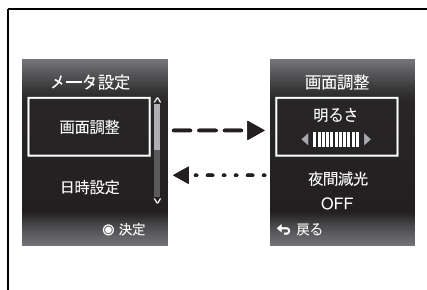


**メーター設定タブ**

■ **画面調整表示**

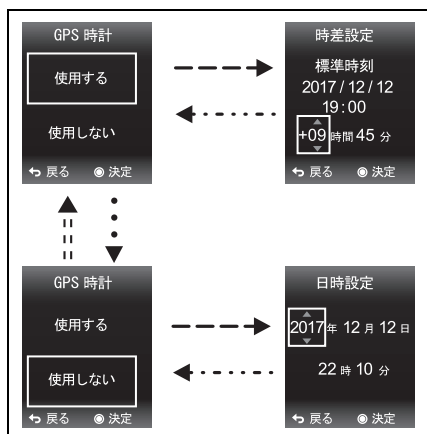
ステアリングスイッチを操作し、メーター設定画面から画面調整を選択すると、以下の項目を調整することができます。

- 明るさ
  - ・ 画面調整表示中にステアリングスイッチの決定ボタンで「明るさ」を選択します。
  - ・ ステアリングスイッチの左右ボタンで明るさを調整できます。
- 夜間減光
  - ・ 画面調整表示中にステアリングスイッチの決定ボタンで「夜間減光」を選択します。
  - ・ ステアリングスイッチの決定ボタンで夜間減光の ON/OFF 切り替えることができます。



## ■ 日時設定

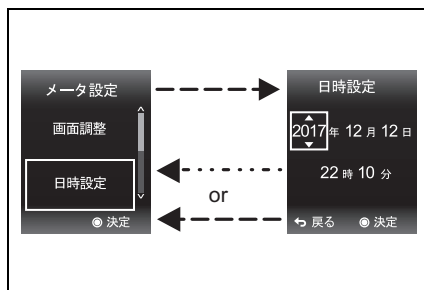
### ▶ GPS 時計付き車



- ステアリングスイッチを操作し、メーター設定画面から日時設定を選択すると、GPS 時計画面に切り替わります。
- GPS 時計画面で「使用する」を選択すると、時差設定画面に切り替わり、現在の標準時間に対しての時差を設定できます。
  - \* 時差設定を行うとマルチインフォメーションに表示される日時は、標準時間に対して設定した時差を考慮した日時になります。
- ステアリングスイッチの上ボタン、下ボタン、左ボタン、および右ボタンを操作し表示を任意の時差に合わせ、決定ボタンを押し設定します。
- 時差設定を行わず、GPS 時計画面に戻る場合はステアリングスイッチの戻るボタンを押します。
- GPS 時計画面で「使用しない」を選択すると、標準時計の日時設定画面に切り替わります。

- \* 車両走行中のとき、日時設定を選択することはできません。車両を停車させてから行ってください。

### ▶ GPS 時計付き車を除く



- ステアリングスイッチを操作し、メーター設定画面から日時設定

を選択すると、日時設定画面に切り替わります。

- ステアリングスイッチの上ボタン、下ボタン、左ボタン、および右ボタンを操作し表示を任意の日時に合わせ、決定ボタンを押し設定します。
- 日時を変更せずにメーター設定画面に戻る場合はステアリングスイッチの戻るボタンを押します。
- \* 車両走行中のとき、日時設定を選択することはできません。車両を停車させてから行ってください。

### ■ ブザー音試験表示

ステアリングスイッチを操作し、メーター設定画面からブザー音試験を選択すると、以下のブザー音を試験することができます。

- PCS
- 車線注意
- 警報
- 装置異常（重度）
- 装置異常（軽度）
- \* 車両走行中のとき、ブザー音試験を選択することはできません。車両を停車させてから行ってください。



車両システム設定タブ

### ■ 安全運転支援

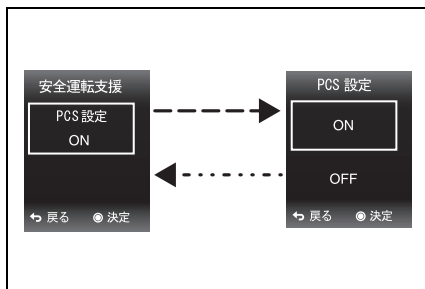
ステアリングスイッチを操作し車両システム設定画面から安全運転支援を選択すると、安全運転支援機能の各機能の設定を行うことができます。

- \* 設定を行うことができる機能は車両によって異なります。
- \* 車両走行中のとき、安全運転支援を選択することはできません。車両を停車させてから行ってください。



### ● 設定方法

- \* 例：PCS



- ・ ステアリングスイッチを操作し設定を行いたい機能を選択すると、画面表示が機能の「ON」、「OFF」設定画面に切り替わります。
- ・ ステアリングスイッチを操作し機能の変更内容を選択し決定ボタンを押すと、画面に「しばら

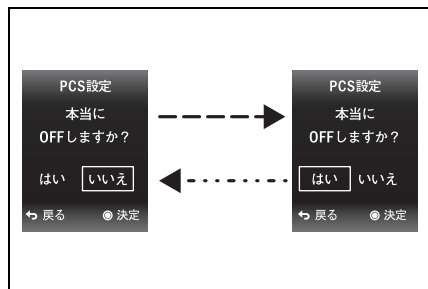
くお待ちください」が表示されます。

- ・ 設定が完了すると画面に「設定を完了しました」が表示され、設定を行った機能の作動が変更されます。
- ・ システムの不具合などで設定が完了できなかった場合、画面に「現在設定できません」が表示されます。このとき機能の作動は変更されません。
- ・ 設定を変更せずに機能選択画面に戻るときは、戻るボタンを押します。

### ● PCS

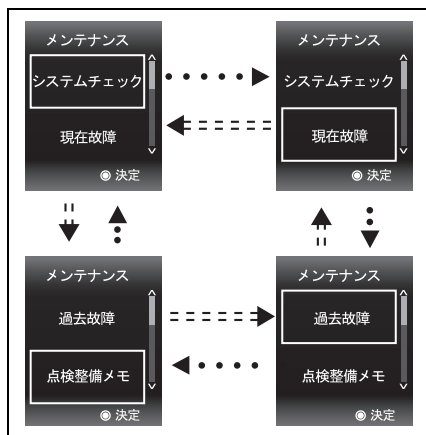


- ・ PCS機能の「ON」、「OFF」を設定することができます。
- ・ 「ON」、「OFF」の選択はステアリングスイッチの上ボタン、下ボタンで行います。



- ・ 画面表示が機能の「ON」、「OFF」設定画面に切り替わった後、決定ボタンを長押しすると、画面に再度確認の文字が表示されます。
- ・ エンジンスイッチを「ON」の位置にして2分以上停車していないと操作できません。

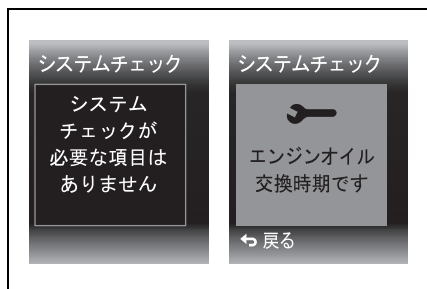
## メンテナンスタブ



- メンテナンス画面には「システムチェック」、「現在故障」、「過去故障」および「点検整備メモ」のメニューがあります。
- 走行中は「システムチェック」のみ表示され、「現在故障」、「過去故障」および「点検整備メモ」の項目はグレーアウト表示になり選択できません。
- 「現在故障」、「過去故障」および「点検整備メモ」の項目を表示、操作を行うときは必ず車両を安全な場所に停車して行ってください。

## ■ システムチェック

- 現在発生中のウォーニング表示やお知らせが存在しない場合、メンテナンスを選択すると、画面に「システムチェックが必要な項目はありません」が表示されます。
- ウォーニング表示やお知らせが複数発生しているとき、ステアリングスイッチの上ボタン、下ボタンを操作すると表示が切り替わります。



## ■ 現在故障

- ステアリングスイッチを操作して「現在故障」を選択すると、現在発生中の故障の装置名とダイアグノーシスコードが表示されます。
- 現在発生中の故障で点検・整備などにより解消された故障の装置名、ダイアグノーシスコードおよび発生日時が最大 20 件まで表示されます。
- 20 件を超えた場合、それ以上は表示されません。
- \* 走行中は「現在故障」の項目は表示されません。



## ■ 過去故障

- ステアリングスイッチを操作して「過去故障」を選択すると、過去に発生した故障で点検・整備などにより解消された故障の装置名、ダイアグノーシスコードおよび発生日時が最大 10 件まで表示されます。
- 10 件を超えた場合、発生日時の古いものから順に上書きされます。
- \* 走行中は「過去故障」の項目は表示されません。
- \* ステアリングスイッチの決定ボタンを長押しすると、解消された故障の装置名、ダイアグノーシスコードおよび発生日時をリセットすることができます。



## ■ 点検整備メモ

- ステアリングスイッチを操作して「点検整備メモ」を選択し、

表示させたい項目を選ぶことで、整備項目ごとに任意に設定された距離、期間または時間が来ると点検・整備を促す表示を行うことができます。

- ステアリングスイッチを操作して「点検整備メモ」を選択すると、現在選択されている整備項目および設定条件が表示されます。
  - 整備項目の選択は、登録されている13種類の整備項目と任意に使用できるユーザー設定項目の全14項目から、表示させたい項目を最大6項目選ぶことができます。初期設定として4項目が設定された状態になっています。
- \* 走行中は「点検整備メモ」の項目は表示されません。



### ■ 整備項目一覧

- エンジンオイル交換時期



- T/M オイル交換時期



- ディファレンシャルオイル交換時期



- 冷却水交換時期



- 燃料フィルタ交換時期



## ● ベルト点検時期



## ● ラジエータ点検時期



## ● DPR 洗浄時期



## ● バッテリー点検時期



## ● ターボ点検時期



## ● タイヤローテーション交換時期



## ● オルタネータ分解点検時期



## ● 車検満了時期



- ユーザ設定点検時期



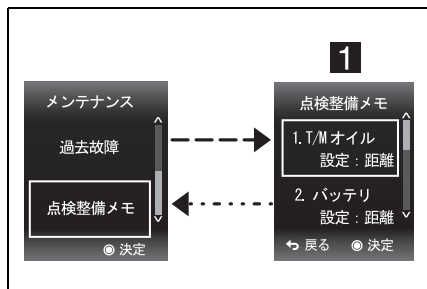
## ■ デフォルト設定

No.	表示項目	設定条件	設定値
1	エンジンオイル交換時期	距離	15,000 km
2	T/M オイル交換時期	距離	40,000 km
3	ディファレンシャルオイル交換時期	距離	40,000 km
4	燃料フィルタ交換時期	距離	60,000 km
5	未設定	設定無し	—
6	未設定	設定無し	—

## ■ 点検整備メモの設定方法

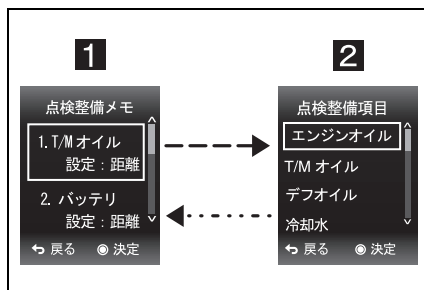
メンテナンス画面から「点検整備メモ」を選択し、現在選択中の整備項目を表示します。

1. メンテナンス画面から「点検整備メモ」を選択し、現在選択中の整備項目を表示します。



### 1 選択中の整備項目

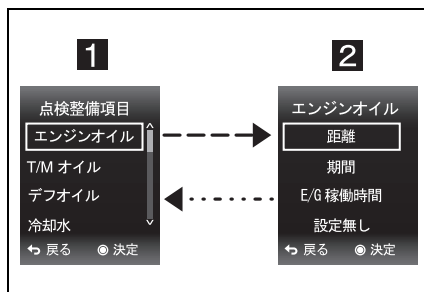
2. 現在選択中の整備項目から変更を行う項目を選び、ステアリングスイッチの決定ボタンを押すと選択が可能な整備項目が表示されます。



### 1 選択中の整備項目

### 2 選択可能な整備項目

3. 選択可能な整備項目から設定したい項目を選択しステアリングスイッチの決定ボタンを押すと、選択可能な設定条件が表示されます。

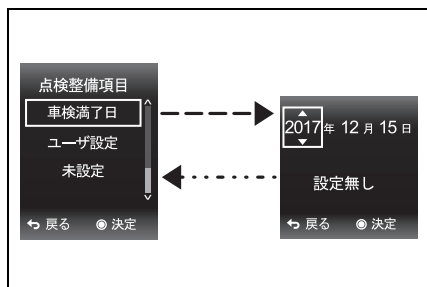


### 1 選択可能な整備項目

### 2 選択中の設定条件

- \* 「車検満了日」の項目を選択したときは下記の画面が表示され、設定したい

日時にセットするか「設定無し」を選択し、ステアリングスイッチの決定ボタンを押すと、点検整備メモの設定が完了します。



4. 選択可能な設定条件を選択します。「距離」「期間」「E/G稼働時間」を選択すると、それぞれ選択した設定条件の内容の設定画面に切り替わります。また、「設定無し」を選択すると現在選択中の整備項目に整備項目は残りますが、「距離」または「時間」の積算が止まります。

● 距離を選択したとき



● 期間を選択したとき



● 「E/G稼働時間」を選択したとき  
(エンジンオイルのみ)



\* 各項目を表示中にステアリングスイッチの決定ボタンを1秒以上長押しすると、使用期間の積算をリセットできます。

5. 選択した設定条件の内容の設定を行い、ステアリングスイッチの決定ボタンを押すと、点検整備メモの設定が完了し現在選択中の整備項目の表示画面に戻ります。

■ 点検整備メモ

設定した整備勧告時期、距離または時間に到達すると、エンジンスイッチを「ON」位置にしたとき、マルチインフォメーションのオープニング画面を表示した後、整備勧告を表示します。(走行を開始(車両が20 km/hを上回る速度で走行)するまで表示)

 知識

## ■ 整備勧告の表示タイミング

整備勧告の表示タイミングは、距離表示の場合は設定距離より 1,000 km 前、時期表示の場合は設定時期よりも 1 カ月前、時間表示の場合は設定時間よりも 100 時間前から表示します。






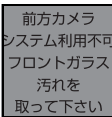
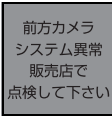
## 警告・作動表示

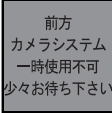

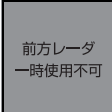



## ■ 警告表示








表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容	参照ページ
	ブレーキ（PCS 作動 または誤発進抑制機能 作動）	赤	白	PCS または誤発進抑制 機能が作動しているとき	5-95 5-115
	ブレーキ（PCS 作動）	赤	白	PCS が作動しているとき	5-95
					
	車線注意	橙	黒	車線逸脱警報装置が作動 したときに表示。 また、逸脱した方向の車 線表示が橙色に変化し、 警報ブザーが吹鳴（右方 向に逸脱したときは、右 側車線表示が橙色に変化 し、警報ブザーが吹鳴）	5-92
	クリアランスソナー作 動中	黒	—	クリアランスソナーが作 動しているとき表示（セ ンサーの検知状態により 表示が異なります）	5-124
	ブレーキ優先制御作動 中	橙	黒	アクセルとブレーキが両 方踏まれていると表示さ れます	—
	エンジン系統異常（重 度）	赤	白	エンジン制御システムに 故障発生、走行できない 重大故障	6-47

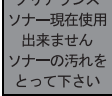

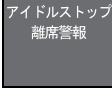
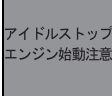
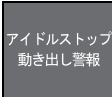
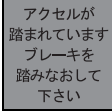
表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容	参照ページ
	エンジン系統異常（重度）	赤	白	エンジン制御システムに故障発生、走行できない重大故障	6-47
	エンジン油圧低下	赤	白	エンジンの油圧が異常に低下したときに表示	6-42
	エンジンオーバーヒート	赤	白	エンジンのオーバーヒート時	6-39
	ABS 異常	橙	黒	ABS の異常時	6-43
	AdBlue 残量少補給して下さい	橙	黒	AdBlue <sup>®</sup> （尿素水）残量が少なくなると表示	6-52
	AdBlue 残量少	橙	黒	AdBlue <sup>®</sup> （尿素水）残量が少なくなると表示	6-52
	尿素 SCR システム異常	橙	黒	尿素 SCR システムの異常時	6-56
	AdBlue 異常交換してください	橙	黒	AdBlue <sup>®</sup> （尿素水）品質の異常を検出したときに表示	6-54
	エンジン停止させキーON状態で正常な AdBlue に交換して下さい	橙	黒	AdBlue <sup>®</sup> （尿素水）品質の異常を検出したときに表示	6-54

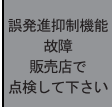
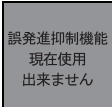
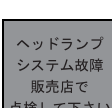

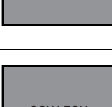


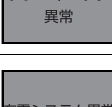
表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容	参照ページ
 過電圧	過電圧	赤	白	過電圧	6-8
 低電圧	低電圧	赤	白	電圧低下	6-8
 DPR系統点検	DPR 系統点検	橙	黒	排出ガス浄化装置の異常時	6-51
 スタータ過熱注意	スタータ過熱注意	橙	黒	スターターの過熱時	6-57
 予熱装置異常	予熱装置異常	橙	黒	予熱（始動補助装置）の異常時	6-57
 DPR 手動再生 必要です	DPR 手動再生 必要です	橙	黒	排出ガス浄化装置の手動による再生が必要なとき	5-70
 燃料残量少	燃料残量少	橙	黒	燃料残量が少なくなると表示	—
 エンジン系統異常	エンジン系統異常	橙	黒	エンジン制御システムの異常時	6-47
 エンジン系統異常	エンジン系統異常	橙	黒	エンジン制御システムの異常時	6-47

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容	参照ページ
	車両制御 ECU 異常	橙	黒	車両制御 ECU 異常	—
	ドライビングサポート異常	橙	黒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドライビングサポート関連装置の異常時</li> <li>・ドライビングサポート関連装置との通信途絶時</li> </ul>	5-135
	接近注意	黒	—	サイトアラウンドモニタシステムが作動する時	—
	コーナーレーダ異常	橙	黒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーナーレーダセンサーに異常があるとき</li> <li>・DSS ECU とコーナーレーダセンサー間の通信途絶時</li> </ul>	5-139
	コーナーレーダ一時使用不可	橙	黒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーナーレーダセンサーまたはセンサーカバーに汚れがあるとき</li> <li>・コーナーレーダセンサーまたはセンサーカバーに割れやひびがあるとき</li> <li>・コーナーレーダセンサーの電圧が異常なとき</li> </ul>	5-139
	前方カメラシステム利用不可	橙	黒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画像センサーまたはセンサー前部のガラスが汚れているとき</li> <li>・画像センサー前部のガラスに割れやひび、ガタツキがあるとき</li> </ul>	5-113
	前方カメラシステム異常	橙	黒	システムの故障を検出したとき	5-113

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容	参照ページ
 <p>前方カメラシステム 一時使用不可 少々お待ち下さい</p>	前方カメラシステム 一時利用不可	橙	黒	<ul style="list-style-type: none"> <li>画像センサー周囲が熱くなっているとき</li> <li>画像センサー前方が遮蔽されているとき</li> <li>画像センサーの電源電圧が異常になっているとき</li> </ul>	5-92
 <p>前方レーダ異常</p>	前方レーダ異常	橙	黒	前方レーダーセンサーに故障等の異常が発生しているとき	5-113
 <p>前方レーダ 一時使用不可</p>	前方レーダー一時使用不可	橙	黒	<ul style="list-style-type: none"> <li>前方レーダーセンサーまたは前方レーダーセンサーカバーが汚れているとき</li> <li>前方レーダーセンサーまたは前方レーダーセンサーカバーに割れやひび、ガタツキがあるとき</li> <li>前方レーダーセンサー周辺の温度が異常に高くなっているとき</li> <li>前方レーダーセンサーの電圧が異常のとき</li> <li>前方レーダーセンサーが未調整のとき</li> </ul>	5-113
 <p>ブレーキスイッチ異常</p>	ブレーキスイッチ異常	橙	黒	ブレーキスイッチの異常	—
 <p>エンジン系統 表示停止</p>	エンジン系統表示停止	橙	黒	エンジン制御システムとメーター間の通信途絶時	6-45
 <p>ABS 表示停止</p>	ABS 表示停止	橙	黒	ABS ECU とメーター間の通信途絶時	6-45





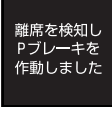
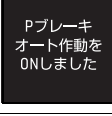
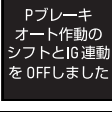
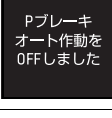
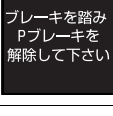
表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容	参照ページ
 運行後 エンジン点検	運行後エンジン点検	橙	黒	エンジン制御システムに軽度の異常発生	—
 運行後 エンジン点検	運行後エンジン点検	橙	黒	エンジン制御システムに軽度の異常発生	—
 エンジン O/R運行後 エンジン点検	エンジンオーバーラン	橙	黒	エンジンがオーバーランしたとき	—
 アイドルストップ システム点検	アイドルストップシステム点検	橙	黒	アイドルストップシステムに軽度の異常発生	—
 燃料フィルタ 水抜き	燃料フィルタ水抜き	橙	黒	燃料フィルタに一定以上の水がたまったときに表示	6-43
 チェックA/T	A/T 異常	橙	黒	エンジンスイッチが「ON」の位置でランプが点灯したまま消灯しないとき、または走行中にランプが点灯したときは、システムの異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。 ランプが点灯したままのときは、車速 60 km/h 以下で走行してください。	—
 A/T油温上昇	A/T 油温上昇	橙	黒	オートマチックトランスミッションの油温が規定以上（約 121 °C）に上昇したとき	—

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容	参照ページ
	ブレーキ優先制御システム故障	橙	黒	ブレーキ優先制御システムが故障したとき表示。最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください	—
	クリアランスソナー一時使用不可	橙	黒	ソナーセンサー流水継続およびコンピューターの低電圧によるクリアランスソナーの一時使用不可時に表示	5-124
	クリアランスソナー一時使用不可	橙	黒	クリアランスソナーに汚れなどが付着すると表示	5-124
	クリアランスソナー故障	橙	黒	クリアランスソナーが故障したときに表示。最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください	5-124
	キーリマインダー警報	橙	黒	キーリマインダーが作動中のとき表示	5-8
	アイドルストップ離席警報	赤	白	アイドルストップシステムのエンジン自動停止時に運転席ドアを開けたときに表示	5-74
	アイドルストップ警報	橙	黒	アイドルストップ時に表示	5-74
	アイドルストップ警報	赤	白	アイドルストップシステムのエンジン自動停止時に車両が動き出したときに表示	5-74
	アクセル → ブレーキ踏替指示	橙	黒	誤発進抑制機能による車両停止後にアクセルを踏み込んでいると表示	5-115

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容	参照ページ
	誤発進抑制機能故障	橙	黒	誤発進抑制機能が故障したとき表示	5-115
	誤発進抑制機能一時使用不可	橙	黒	誤発進抑制機能が一時的に使用不可のとき表示	5-115
	ヘッドランプシステム故障	橙	黒	照度センサーに異常が発生したとき (照度センサーとボデーECU間の接続異常を含む)	—
	アイドルストップ長時間自動停止中	橙	黒	・ バッテリー状態が低下したとき ・ エンジン自動始動操作でエンジン始動してください	—
	CGW ECU 異常	橙	黒	CGW-ECU の異常時	—
	ボデー ECU 異常	橙	黒	BCM とメーター間の通信途絶時、または BCM 故障時	—
	ブレーキロック異常	橙	黒	ブレーキロックバルブおよびブレーキロックプザーに異常が発生した場合に表示	5-88
	充電システム異常キーOFF後再始動	橙	黒	統合電源ユニット、または充電システムの異常時	6-59

## ■ 作動表示

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容	参照ページ
 VSC作動	VSC 作動	橙	黒	VSC の作動時	5-90
 TRC作動	TRC 作動	橙	黒	TRC の作動時	5-90
 PTO作動	PTO 作動	黒	白	PTO の作動時	—
 PTOプリセット	PTO プリセット	黒	白	PTO の準備時	—
 ブレーキロック準備	ブレーキロック準備	黒	白	ブレーキロックの準備時	—
 ブレーキロック作動	ブレーキロック作動	黒	白	ブレーキロックの作動時	—
 キーが見つかりません	キー無し始動警報	橙	黒	車室内にキーが無い状態でエンジンスイッチをACCまたはONの位置にしたとき表示	5-3
 キーバッテリー残りわずか	電池残量低下警報	橙	黒	キーの電池残量が低下すると表示	5-3
 車室内にキーがあります	キー閉じ込み警報	橙	黒	車室内にキーを閉じ込むと表示	5-3

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容	参照ページ
 DPR再生完了	DPR 再生完了	黒	白	排出ガス浄化装置の燃焼が完了したとき表示	5-70
 駐車時は Pレンジにしてください	駐車時は Pレンジにしてください	橙	黒	エンジンスイッチが「ON」の位置でシフトレバーが「P」位置以外の状態でドアが開いているときに表示	5-24
 駐車時は Pレンジに入れてください	駐車時は Pレンジにしてください	橙	黒	ギヤが「P」の位置以外でドアが解放されたときに表示	5-24
 PCS が復帰しました	PCS 復帰	黒	白	PCS が OFF 設定から自動的に復帰した時に表示	5-97
 離席を検知し Pブレーキを自動作動しました	離席を検知し Pブレーキを自動作動	黒	白	離席を検知しパーキングブレーキが自動作動した場合	5-29
 Pブレーキオート作動を ONしました	P ブレーキオート作動を ON	黒	白	パーキングブレーキのオート作動を ON した場合	5-29
 Pブレーキオート作動のシフトとIG連動を OFFしました	P ブレーキオート作動のシフトとIG 連動を OFF	黒	白	パーキングブレーキのオート作動を OFF した場合	5-29
 Pブレーキオート作動を OFFしました	P ブレーキオート作動を OFF	黒	白	パーキングブレーキのオート作動を OFF した場合 (2 回目)	5-29
 ブレーキを踏み Pブレーキを解除して下さい	ブレーキを踏み Pブレーキを解除	黒	白	ブレーキを踏まずにパーキングブレーキを解除した場合	5-29

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容	参照ページ
	ドアを閉めシートベルトをしてPブレーキを解除してください	黒	白	ドアやシートベルトの条件が不成立状態でパーキングブレーキを解除した場合	5-29

### ■ メンテナンス表示

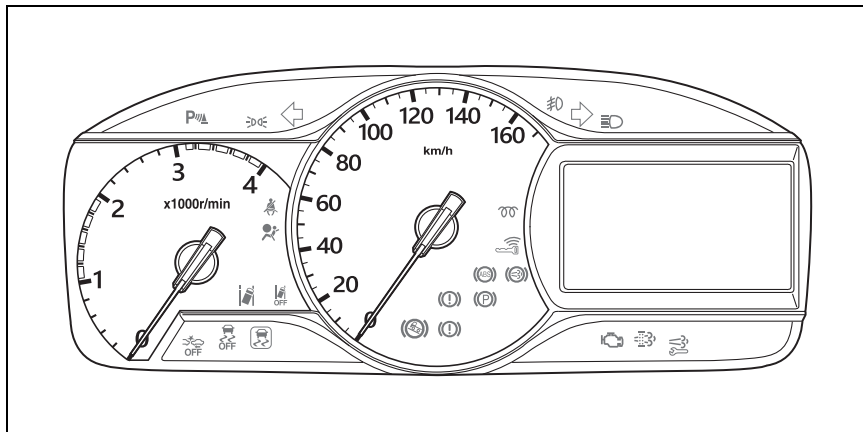
表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容	参照ページ
	エアクリナーの点検時期	橙	黒	エアクリナーの点検時期	—
	エンジンオイル交換時期	橙	黒	エンジンオイルおよびフィルター交換時期	—
	トランスミッションオイル交換時期	橙	黒	(MT車) トランスミッションオイルの交換時期 (AT車) トランスミッションフルードの交換時期	—
	デフオイル交換時期	橙	黒	デフオイルの交換時期	—
	冷却水交換時期	橙	黒	冷却水交換時期	—
	燃料フィルター交換時期	橙	黒	燃料フィルターの交換時期	—

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容	参照ページ
 ベルト 点検時期です	ベルト点検時期	橙	黒	Vベルトの点検時期	—
 DPR 洗浄時期です	DPR 洗浄時期	橙	黒	DPR-クリーナーの洗浄時期	—
 ターボ 点検時期です	ターボチャージャー点検時期	橙	黒	ターボチャージャーの点検時期	—
 オルタネーター 分解点検時期です	オルタネーターオーバーホール	橙	黒	オルタネーターの分解・点検整備時期	—
 ラジエーター 点検時期です	ラジエーター点検時	橙	黒	ラジエーターの点検時期	—
 バッテリー 点検時期です	バッテリー点検時期	橙	黒	バッテリーの点検時期	—
 タイヤ 交換時期です	タイヤローテーション	橙	黒	タイヤローテーション時期	—
 車検満了時期です	車検満了時期	橙	黒	車検満了時期	—
 ユーザ設定 点検時期です	ユーザ設定点検時期	橙	黒	ユーザ設定の点検時期	—

## 警告灯・表示灯

本書の内容はお車の仕様により装着されていない場合があります。

## 警告灯




\* イラストは説明のために表示したものです。実際の表示とは異なります。









## ■警告灯一覧表

表示	名称	地色	警報内容・表示内容	参照ページ
	A/T 油温	橙	オートマチックトランスミッションフルードの油温が高くなったとき	5-22
	A/T	橙	オートマチックトランスミッションの電子制御系統に異常が発生したとき	5-22
	メンテナンス要求	橙	メンテナンス項目があるとき	—
	アイドルストップ始動回路異常		アイドルストップ機能が正常に作動できないとき	
	エンジンオーバーラン		エンジンがオーバーランしたとき	
	フロントディファレンシャルオイル油温	赤	フロントディファレンシャルオイルの油温が高くなったとき	5-68


表示	名称	地色	警報内容・表示内容	参照ページ
	ブレーキ	赤	<ul style="list-style-type: none"> <li>リザーバータンク内のブレーキフルードが規定量以下になったとき</li> <li>ブレーキシステムに異常があるとき</li> </ul>	6-40
	バキューム	赤	バキュームタンク内の負圧が低下したとき	6-40
	パーキングブレーキ	赤	パーキングブレーキ作動時	5-29
	油圧	赤	エンジンの油圧が異常に低下したとき	6-42
	燃料・水分離器水位	橙	燃料フィルターに規定レベル以上の水がたまったとき	6-43
	ABS	橙	ABS の異常	6-43
	充電	赤	充電システムの故障	6-46
	シートベルト非着用 (運転席・助手席)	赤	シートベルト（運転席側・助手席側）が非着用するとき	6-46
	SRS エアバッグ	赤	SRS エアバッグのシステムおよびプリテンショナー付きシートベルトシステムの異常	6-47
	エンジン警告	橙	システムの異常	6-47
	MIL	橙	排気ガス浄化性能に影響を与える部品システム異常時	6-49
	キャブチルト	赤	キャブチルトロックの異常	6-58
	DC/DC コンバーター	橙	システムの異常	6-58
	出力制限中	橙	出力が制限されているとき	—

表示	名称	地色	警報内容・表示内容	参照ページ
	燃料残量少	橙	ガソリンの残量が少なくなっているとき	—
	オーバーヒート	赤	冷却水の温度が高くなったとき	6-39
	排気温度高温	橙	排出ガスの温度が高くなっているとき	—
	予熱	橙	予熱（始動補助装置）作動時	6-57
	PTO	緑	PTO の作動時	5-80 5-82
	ハイビーム	青	ヘッドランプ上向き点灯時	5-42
	パッシング		ヘッドランプ上向き点灯時	5-42
	AHB 作動	緑	AHB システムの作動時	5-45
	AHB 故障	橙	AHB システムの異常時	5-45
	非常点滅灯	緑	全方向指示灯の点滅時	5-48
	方向指示灯		方向指示灯の点滅時	5-49
	フロントフォグランプ	緑	フォグランプ点灯時	5-49
	排気ブレーキ	緑	暖機システム作動時および排気ブレーキ作動時	5-51
	4WD	緑	4WD 切り替えスイッチが「4WD」のとき	5-67
	排出ガス浄化装置	橙	[点滅] 排出ガス浄化装置の手動による再生が必要なとき  [点灯] 排出ガス浄化装置が再生中のとき	5-70

表示	名称	地色	警報内容・表示内容	参照ページ
	スリップ	橙	VSC、TRC の作動、および異常表示	5-90
	VSC OFF	橙	VSC 作動停止時	5-90
	PCS OFF	橙	PCS OFF 時およびシステム作動停止時	5-95
	車線逸脱警報装置	橙	車線逸脱警報装置が ON 時に車線を越えたときおよび車線逸脱警報装置に異常が発生したとき	5-92
	車線逸脱警報装置 OFF	橙	車線逸脱警報装置の OFF 時	5-92
	スマートシステム	橙	セキュリティ作動時	—
	TRC OFF	橙	TRC 作動停止時	5-90
	アイドルストップ中	緑	アイドルストップ自動停止中	5-74
	アイドルストップキャンセル	橙	アイドルストップの作動解除時	5-74
	ECO モード	緑	ECO モード作動時	5-79
	ブレーキロック作動準備（電動パーキングブレーキ無し車）	緑	ブレーキロックの作動準備時	5-88
	ブレーキロック圧力保持	緑	ブレーキロックの作動時	5-88
	電動パーキングブレーキ	橙	電動パーキングブレーキ故障時	—
	ブーストアラーム	橙	ブーストアラームの作動時	—

表示	名称	地色	警報内容・表示内容	参照ページ
	クリアランスソナー	緑	クリアランスソナーが ON の状態	5-124
	尿素水補給要求	橙	AdBlue <sup>®</sup> （尿素水）の残量が少なくなっているとき	6-52
	尿素水品質ウォーニング	橙	AdBlue <sup>®</sup> （尿素水）の品質が低下しているとき	6-54
	後処理システムウォーニング	橙	排出ガス浄化装置または尿素 SCR のシステム異常時	6-56
	後処理システムメンテナンス	橙	排出ガス浄化システムのメンテナンスが必要なとき	—
	誤発進抑制機能 OFF	橙	誤発進抑制機能が OFF のとき	5-115
	車幅灯	緑	車幅灯点灯時	5-42
	ライトセンサー系異常	橙	照度センサーに異常が発生しております。（照度センサーとボデー ECU 間の接続異常を含みます）。最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。	—

## オーバーヒート警告灯

- エンジンがオーバーヒートした場合、警告灯（) が点灯およびマルチインフォメーションに“安全な場所に停車エンジンオーバーヒート”を表示し、同時にブザーが鳴り、また音声アナウンスが再生されます。なお、ブザーと音声アナウンスは車両を停止し、パーキングブレーキを効かせると鳴りやみます。



- 水温計が赤色ゾーンを示したときは、ただちに安全な場所に車両を停車させ、エンジン回転数をアイドリング回転数より高めにし、目盛りが中央付近を示したらエンジンを止めてください。
- 冷却水量および冷却系統の水漏れがないかまた、Vベルトの張り具合を点検してください。なお、冷却水量が適量で、水漏れがないときには、最寄りのトヨタ販売店に連絡してください。

## アドバイス

### ■ オーバーヒートした場合

すぐにエンジンを止めないでください。エンジン焼き付きの原因になります。

### ▲ 警告

#### ■ 冷却水が高温のときは

冷却水が高温のときは絶対にラジエーターキャップを開けないでください。熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをすおそれがあり危険です。

- \* オーバーヒートしたときは、「オーバーヒートしたとき」を参照ください。(→P.15-17)

## ブレーキ警告灯・バキューム警告灯

### ■ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを「ON」の位置にすると(ⓘ)ランプが点灯し、ABSが正常であれば数秒後に消灯します。

エンジンスイッチが「ON」の位置で次のような場合に点灯します。

- リザーバタンク内のブレーキフルードが規定量以下になったとき
- ブレーキシステムの異常があるとき（ブレーキ油圧加圧機能付き車）

### ■バキューム警告灯

バキュームタンク内の負圧が低下したとき(ⓘ)ランプが点灯します。

## 知識

### ■ブレーキ油圧加圧機能とは

ブレーキブースターの助勢効果が低下したとき、ブレーキ油圧を加圧し必要なブレーキ性能を確保する機能です。

### ■バキューム警告灯

- くり返しブレーキペダルを踏むとランプが点灯し、ブザーが鳴ることがありますが数秒後に消えれば異常ではありません。
- ABS装着車は、エンジン始動時やくり返しブレーキペダルを踏むと、キャブ後方または足元から“ウィーン”、“トン”などの音がすることがありますが、これはブレーキ装置のポンプなどの作動音であり、異常ではありません。

## ▲警告

### ■ブレーキ警告灯が消えないときは

- ブレーキ液を補給しても点灯したままのときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。
- ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。

## 電動パーキングブレーキ警告灯

電動パーキングブレーキの警告灯が点灯している場合は、速やかに安全な場所に駐車して、前後に輪留めをかけてください。

停車後エンジンスイッチが「LOCK」位置で1分間放置し、再度エンジンスイッチを「ON」にしてください。その後パーキングブレーキをマニュアルモードでかける・解除を行ってください。何度か操作しても警告灯が消えない場合はシステムに異常がある恐れがあります。直ちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

## バキューム警告灯・ブザー

ブレーキブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下すると、警告ブザーが鳴ります。なお、ブザーは車両を停止してパーキングブレーキを効かせると鳴りやみません。

### 知識

#### ■ ブザーについて



エンジンスイッチが「ON」の位置で次のような場合は、ブザーが鳴ることがありますが異常ではありません。この場合、エンジンをかけると鳴りやみません。

- エンジン停止状態が続いたとき
- エンストしたとき

### 警告

- **ブザーが鳴ったときは絶対に走行しないでください**
- ブレーキが十分に効かないため危険です。
- エンジン回転中にブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、パーキングブレーキを確実にかけ、エンジンをアイドリング回転にしてください。
- パーキングブレーキ解除時にブザーが鳴らなくなるまで負圧を上昇させてください。この場合、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。
- アイドリング回転をしてもブザーが鳴るときはトヨタ販売店に連絡してください。

## 油圧警告灯

- エンジンの油圧が異常に低下したとき、警告灯（) が点灯およびマルチインフォメーションに“安全な場所に停車エンジン油圧低下”と表示され、同時にブザーが鳴り、また音声アナウンスが再生されます。なお、ブザーと音声アナウンスは車両を停止し、パーキングブレーキを効かせると鳴りやみます。
- 警告灯（) が点灯およびマルチインフォメーションに“安全な場所に停車エンジン油圧低下”と表示されたときは、ただちに安全な場所に停車させエンジンを止め、エンジンオイル量およびオイル漏れがないかを点検します。オイル漏れが認められたときは、最寄りのトヨタ販売店に連絡してください。




安全な場所に停車  
エンジン油圧低下

## 注意

### ■ 警告灯が点灯したときは

警告灯が点灯およびマルチインフォメーションに“安全な場所に停車エンジン油圧低下”と表示されたときは、走行しないでください。エンジン焼き付きの原因になります。

## 燃料・水分離器水位警告灯


- 燃料中に含まれている水が規定レベル以上フューエルフィルター内にたまると、警告灯（）が点灯およびマルチインフォメーションに“燃料フィルタ水抜き”が表示されます。
- マルチインフォメーションに“燃料フィルタ水抜き”が表示されたときは、すみやかに安全な場所に停車させ、エンジンを止めた後、フューエルフィルターの水抜きを行ってください。




\* 水抜き要領について（→P.13-14）

### ⚠ 注意

#### ■ 警告灯（）が点灯したときは

警告灯（）を点灯させたまま走行を続けしないでください。噴射系部品が焼き付き、エンジンが損傷するおそれがあります。点灯したときは、すみやかに排水してください。

## ABS 警告灯

エンジンスイッチを「ON」の位置にすると警告灯（）が点灯し、ABS が正常であれば数秒後に消灯します。



### 📖 知識


#### ■ ABS（アンチロックブレーキシステム）とは

- 雪路などの滑りやすい路面で急ブレーキをかけても車輪がロックしないようにし、車両の尻ふりなどを抑え車両を安定した状態で停止しやすくする装置です。
- 滑りやすい路面では乾いた路面よりも制動距離が長くなります。

### ⚠ 警告

#### ■ ABS 警告灯について

警告灯が点灯中に次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車させ、トヨタ販売店に連絡してください。

-  ランプも点灯したままのとき

- (ⓘ) ランプの点灯と同時にバキューム警告灯・ブザーも鳴ったとき

この場合、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。

### ⚠ 注意

#### ■ ABS 警告灯について

- エンジンスイッチを「ON」の位置にしても警告灯が点灯しないときは、すみやかに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- 走行中、ABS に異常があると警告灯が点灯およびマルチインフォメーションに“ABS 異常”を表示し運転者に警報します。
- 警告灯が点灯したときは、すみやかに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- スピードメーターテスターを使用しているときやエンジンを空ぶかしのままにしたときに、まれに警告灯が点灯およびマルチインフォメーションに“ABS 異常”を表示することがありますが、異常ではありません。いったんエンジンを停止させ、リセットしてください。
- 警告灯が点灯しているときは、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキは、タイヤがロックすることがあります。

## ABS 表示停止警告灯

ABS 故障時にマルチインフォメーションに“ABS 異常”を表示できないとき、“ABS 表示停止”を表示します。



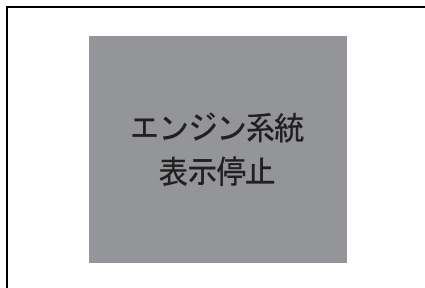
### ▲ 警告

#### ■ ABS 表示停止警告灯について

マルチインフォメーションに“ABS 表示停止”を表示したときは、最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

## エンジン表示停止警告灯

エンジン故障時にマルチインフォメーションに“エンジン系統異常”を表示できないとき、“エンジン系統表示停止”を表示します。





### ▲ 警告

#### ■ エンジン表示停止警告灯について

マルチインフォメーションに“エンジン系統表示停止”を表示したときは、最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

## 充電警告灯

- 充電系統に故障が起きたとき、警告灯（）が点灯し運転者に警報します。
- エンジンスイッチを「ON」の位置にすると警告灯（）点灯し、オルタネーターが発電を始めると消灯します。
- \* オルタネーターのベルトの点検および調整要領（→ P.13-29）


### 注意

#### ■ 警告灯が点灯したとき

ただちに安全な場所に停車させ、エンジンを止めて、オルタネーターのベルトの張り具合や損傷がないかを点検してください。異常があるときはトヨタ販売店に連絡してください。

## シートベルト非着用警告灯

### ▶ 運転席側・助手席側


シートベルトを着用せずに、エンジンスイッチを「ON」の位置にすると  ランプが点灯します。

- \* シートベルトを着用すれば消灯します。
- \* 荷物などをおいた場合にも点滅する場合があります。

## SRS エアバッグ警告灯★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジンスイッチを「ON」の位置にするとSRSエアバッグおよびプリテンショナー付きシートベルトのシステム作動確認を行うため、

 ランプが約6秒間点灯し異常がないときは消灯します。




### 警告

#### ■ 警告灯が次のようなときはシステムの異常が考えられます

衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。次の場合は、ただちにトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

- エンジンスイッチを「ON」の位置にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき
- 走行中に点灯したとき

## エンジン警告灯

- システムに異常や故障が発生すると、警告灯 () が点灯およびマルチインフォメーションに“安全な場所に停車エンジン系統異常”を表示し、同時にブザー（連続音）が鳴り、音声アナウンスが再生されます。なおブザーと音声アナウンスは車両を停止し、パーキングブレーキを効かせると鳴りやみます。または、マルチインフォメーションに“エンジン系統異常”を表示し、同時にブザーが2回鳴ります。
- エンジン回転中にエンジン電子制御システムまたは電子制御スロットルに異常があるときに () 点灯します。
- 異常・故障時の状態により故障の度合いを判断することができません。
- 継続走行が不可能な場合
- 警告灯 () が点灯およびマルチインフォメーションに“安全な場所に停車エンジン系統異常”を表示します。



- エンジンが停止し、その後エンジンスイッチをいったん「LOCK」の位置にした後、再度「START」の位置にしてもエンジンが再始動しない場合は、エンジン始動不能状態です。この場合、けん引などにより安全な場所へ移動し、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。


#### ■ 継続走行が可能な場合

- マルチインフォメーションに“エンジン系統異常”を表示します。



- エンジンの力不足やエンジンの異常振動などの状態になっている場合は、システムに異常や故障が発生しています。このまま走行を続けることができますが、すみやかに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。





## MIL

排気ガス浄化性能に影響を与える部品システム異常時にを表示します。

### ■ エンジンスイッチ「ON」、エンジン非稼働時



エンジンスイッチ「ON」後、5 秒間 MIL が点灯 → 10 秒間消灯 → 5 秒間 MIL 点灯 / 点滅しますが、故障ではありません。エンジンスイッチ「ON」後、25 秒間経過以降は下記の表示に移行します。

MIL の点灯、点滅状態を確認し、適切な処置を行ってください。

故障レベル	MIL 表示	処置
重大な故障	 常灯	ただちに最寄りのトヨタ販売店に連絡してください。
機能・性能低下	 5 秒毎に 3 回点滅	すみやかに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
軽微な故障	 5 秒毎に 2 回点滅	すみやかに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
MIL 故障	消灯	すみやかに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
正常	 5 秒毎に 1 回点滅	—

### ■ エンジンスイッチ「ON」、エンジン稼働時

エンジン稼働時は MIL は消灯する場合がありますが、MIL の点灯状態を確認し、適切な処置を行ってください。

故障レベル	MIL 表示	処置
重大な故障	 常灯	ただちに最寄りのトヨタ販売店に連絡してください。
機能・性能低下	 エンジン始動後 15 秒点灯し消灯	すみやかに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
軽微な故障*	消灯	すみやかに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
正常*	消灯	—

\* エンジンスイッチ「ON」、エンジン非稼働時の MIL の点灯、点滅パターンを確認してください。(→ P.6-49)










## DPR（排出ガス浄化装置） 警告灯

- DPR システムに異常や故障が発生すると、マルチインフォメーションに“ DPR 系統点検 ”を表示します。

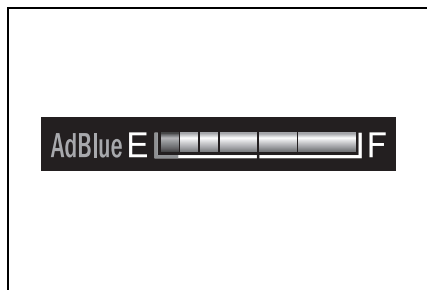


- 排出ガス浄化装置再生スイッチを操作しすすの燃焼（再生）を開始すれば復帰する場合があります。
- すすの燃焼（再生）を開始しなくても、そのまま走行を続けることができますが、すみやかに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。




## 尿素水残量警告灯

段階	AdBlue® (尿素水) 残量	警告表示	インジケータ
第1段階 (注意喚起) 残り 15%		 AdBlue AdBlue残量少	 AdBlue
第2段階 (注意喚起) 残り 5%		 AdBlue AdBlue残量少 補給して下さい	 AdBlue
第3段階 (警報および 使用制限) 残り 0%		 AdBlue AdBlue残量少 補給して下さい	 AdBlue


## 尿素水計






タンク内の AdBlue® (尿素水) の残量が 15% 以下になると、マルチインフォメーションに“

 AdBlue 残量少”を表示します。残量が 5% 以下になると表示が“ AdBlue 残量少補給して下さい”に変わります。また、残量が 0 になると、尿素計の AdBlue が  に変わり、ブザーが鳴り運転手に警報します。


 **注意****■ エンジン再始動について**

AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）残量が0の状態、エンジンスイッチを「ON」以外の位置にすると、エンジンの再始動ができなくなります。 ランプが点灯したら、早めに AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）を補給してください。




他の故障が発生するとマルチインフォメーションの“ AdBlue 残量少補給して下さい”は消灯する場合があります。マルチインフォメーションの“ AdBlue 残量少補給して下さい”が消えても、 ランプが点灯している場合は、AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）の補給が必要です。


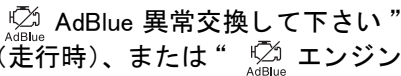

**● AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）残量が0になった場合の処置**




AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）残量が0になると警報ブザーが鳴ります。この状態でエンジンスイッチを「ON」以外の位置にするとエンジンの再始動ができなくなります。エンジンが再始動できなくなってしまった場合、次の手順に従って再始動してください。

1. AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）を4L以上補給してください。
2. エンジンスイッチを「ON」の位置にして、尿素水計の目盛りが表示され、 ランプが AdBlueランプに切り替わっていることを確認してください。
3. エンジンを再始動させてください。

## 尿素水品質警告灯

段階	インジケーター	警告表示	警告音	車両制限
第1段階 「異常検出時」 (注意喚起)	 AdBlue	走行時 	—	—
第2段階 「異常検出 300 km 走行後」 (警報および使用 制限)		停車時 	ブザー (常時吹 鳴)	エンジンス イッチを 「ON」以外 の位置にす ると、再始 動不可

AdBlue<sup>®</sup> (尿素水) の品質異常を検出すると、 ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“ AdBlue 異常交換して下さい” (走行時)、または“ エンジン停止させキー ON 状態で正常な AdBlue に交換して下さい” (停車時) が表示されます。検出後そのまま 300 km 走行を続けると、ブザーが鳴り運転手に警報します。

 ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“ AdBlue 異常交換して下さい” (走行時)、または“ エンジン停止させキー ON 状態で正常な AdBlue に交換して下さい” (停車時) が表示された場合は、すみやかに最寄りのト

ヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

 **注意**

■ エンジン再始動について

異常検出後、そのまま 300km 走行後エンジンスイッチを「ON」以外の位置にするとエンジンの再始動ができなくなります。

- ▶ すぐに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けられない場合
1. AdBlue<sup>®</sup> (尿素水) を補給できる場所へすみやかに移動してください。
  2. AdBlue<sup>®</sup> (尿素水) を補給できる場所に到達したら、以下の 4 ~ 6 の作業ができることを確認

してからエンジンを停止してください。(注意喚起後の走行距離が長い場合、エンジンが再始動できなくなります)

下記の条件でエンジンスイッチを「ON」以外の位置にすると、エンジンの再始動ができません。



- 検出後、300 km 走行している場合
  - 警告ブザーが鳴っている場合
3. AdBlue<sup>®</sup> (尿素水) を給水する準備ができたなら、エンジンスイッチを「ON」の位置にしてください。
  4. 尿素水タンク下部にあるドレインプラグを取り外し、タンク内の液体を全て排水してください。
  5. 排水後、ドレインプラグを締め付け、規格に適合した AdBlue<sup>®</sup> (尿素水) を少なくとも 4 L 以上給水してください。





### ⚠ 注意

#### ■ AdBlue<sup>®</sup>(尿素水について)

尿素水タンクに AdBlue<sup>®</sup> (尿素水) 以外のものを給水しないでください。エンジンが再始動できない状況を解除できません。

AdBlue<sup>®</sup> が正常であることをシステムが確認すると全ての警告が解除されます。手順を間違えると、警告や車両制限 (→ P.6-52) が解除できないこともありますので、やむを得ない場合を除き、すみやかに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

他の故障が発生すると、マルチインフォメーションの“ AdBlue 異常交換して下さい” (走行時)、または“ エンジン停止させキー ON 状態で正常な AdBlue に交換して下さい” (停車時) は消灯する場合があります。

マルチインフォメーションの“ AdBlue 異常交換して下さい” (走行時)、または“ エンジン停止させキー ON 状態で正常な  AdBlue に交換して下さい” (停車時) が消えても  ランプが点灯している場合は、AdBlue<sup>®</sup> (尿素水) の交換が必要になりますので、すみやかに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

## 尿素 SCR システム警告灯



点灯している場合は、すみやかに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

第1段階（注意喚起）異常検出時：  
警告音なし

第2段階（警報）異常検出後、  
300km 走行：警告音ブザー

⚠️ ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“⚠️ 尿素 SCR システム異常”と“🚗 エンジンシステム異常”が交互に表示した場合は、尿素水噴射装置に故障が発生しています。すみやかに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

他の故障が発生するとマルチインフォメーションの“⚠️ 尿素 SCR システム異常”は消灯する場合があります。マルチインフォメーションの“⚠️ 尿素 SCR システム異常”が消えても、⚠️ ランプが

## 予熱装置異常警告灯

### ■ 予熱装置異常警告灯

エンジン始動時の自動予熱中に、システムに異常が発生するとマルチインフォメーションに“予熱装置異常”を表示します。なお、この場合には、すみやかに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。



### ■ 予熱中

エンジン始動時、自動予熱が正常に行われている場合、表示灯

() が点灯します。

- \* 再予熱をする際は、エンジンスイッチを「LOCK」の位置に戻してから「ON」の位置にしてください。「START」の位置から「ON」の位置にしただけでは再予熱されません。



## スターター過熱警告灯★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- スターターの過熱を防止するため、マルチインフォメーションに“スタータ過熱注意”を表示し、警報を発します。
- マルチインフォメーションに“スタータ過熱注意”を表示したときは、表示が消えてからエンジンをかけてください。



## キャブチルト警告灯★


- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
- エンジンスイッチが「ON」の位置にあるとき、キャブのチルトロックに異常があると  ランプが点灯し、ブザーが鳴ります。
  -  ランプが点灯したときは、ただちに安全な場所に停車させキャブを確実にロックしなおしてください。
- \* 警告灯が消灯すればそのまま走行できます。
- \* 消灯しない場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

### 警告

#### ■ 走行する前に警告灯が消灯していることを必ず確認してください

点灯したままだとキャブがロックされていないため、走行中にキャブが上がるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

## DC/DC コンバーター警告灯

- エンジンスイッチを「ON」の位置にすると  ランプが点灯し、3秒後に消灯します。
- エンジン回転中に DC/DC コンバーター本体に異常があると点灯します。エンジン回転中に点灯したときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

### 注意

#### ■ 警告灯が点灯したときは

一度エンジンスイッチを「ACC」または「LOCK」にしてください。走行中に点灯した場合は、安全な場所に停車させ操作を行ってください。再度エンジンスイッチを「ON」にします。そのとき、警告灯が常時点灯しなければ正常です。警告灯が点灯したまま消灯しない場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

#### ■ 警告灯が点灯したままのときは走行を続けしないでください

バッテリーがあがるおそれがあります。

## 統合電源ユニット警告灯

- 統合電源ユニットや充電システムに異常や故障が発生すると、マルチインフォメーションに“充電システム異常 キー OFF 後 再始動”を表示し、警報を発します。

充電システム異常  
キーOFF後  
再始動

### 注意

#### ■ 警告灯が点灯したときは

一度エンジンスイッチを「LOCK」にしてください。走行中に点灯した場合は、安全な場所に停車させ操作を行ってください。再度エンジンスイッチを「ON」にします。そのとき、警告灯が常時点灯しなければ正常です。警告灯が点灯したまま消灯しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- ・ アイドルストップ機能を停止します。
- ・ アイドルストップ中の場合、エンジン再始動を行います。
- ・ 24V → 12V の降圧機能を停止します。

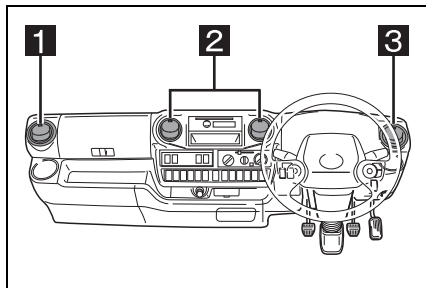
#### ■ 警告灯が点灯したままのときは走行を続けしないでください

バッテリーがあがるおそれがあります。



吹き出し口の調整 .....	P.7-2
エアコン .....	P.7-3
リヤクーラー .....	P.7-8
リヤヒーター .....	P.7-3

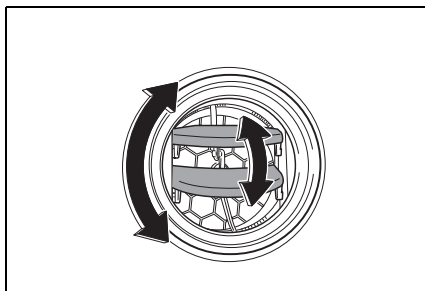
## 吹き出し口の調整



**1** 助手席側吹き出し口

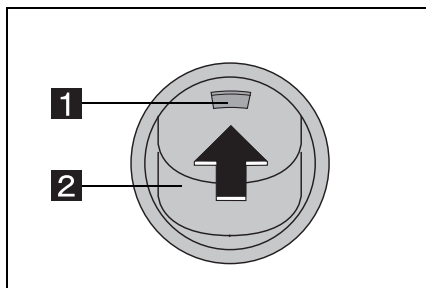
**2** 中央吹き出し口

**3** 運転席側吹き出し口



### 調整方法

1. フィンのくぼみを押して、吹き出し口を開ける。



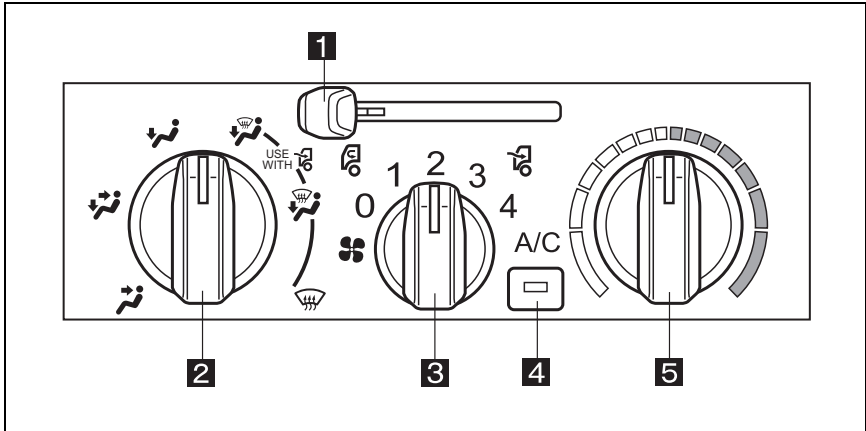
**1** くぼみ

**2** フィン

2. フィンを動かして、風向きを調整する。

\* 閉めるときはフィンを押し下げます。

## エアコン



- 1 内外気切り替えレバー
- 2 吹き出し口切り替えダイヤル
- 3 風量切り替えダイヤル
- 4 エアコンスイッチ
- 5 温度コントロールダイヤル

## 基本設定

## ■ 風量の調節

**3**を右(増)または左(減)へ回します。

\* 「0」に回すと送風が止まります。

## ■ エアコンの ON/OFF

**4**を押すたびにエアコンの作動・停止が切り替わります。

\* エアコン作動中は、スイッチ内蔵の表示灯が点灯します。

\* **3**が「0」のときは、**4**が「ON」でもエアコンは作動しません。

## ■ 温度の調節

**5**を右(暖)または左(冷)へ回します。

\* **4**が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

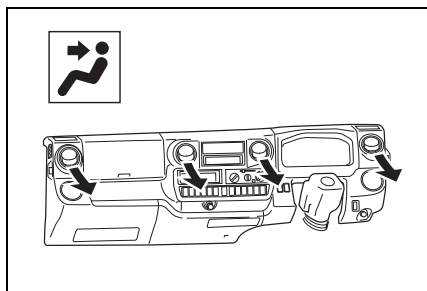
## 吹き出し口の切り替え

**2**のダイヤルを回して吹き出し口を切り替えます。

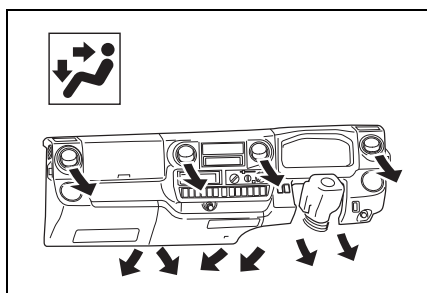
\* ダイヤルの位置を各吹き出し口の間に合わせて、吹き出し口を細かく選択できます。

\* 矢印の大きさは風量を現しています。

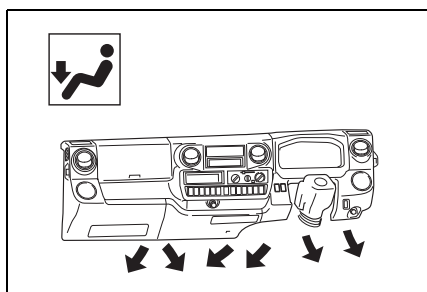
## ■上半身へ送風




## ■上半身と足元へ送風



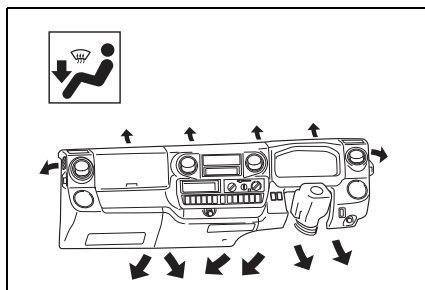
## ■足元へ送風



## ■足元へ送風、窓ガラスのくもりを取る

**1**のレバーを  の位置にして使  
用します。

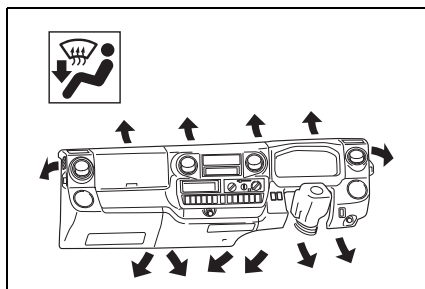
\* **4**を押してエアコンを ON にすると、  
曇りが早く取れます。




## ■足元へ送風、窓ガラスのくもりを取る

**1**のレバーを  の位置にして使  
用します。

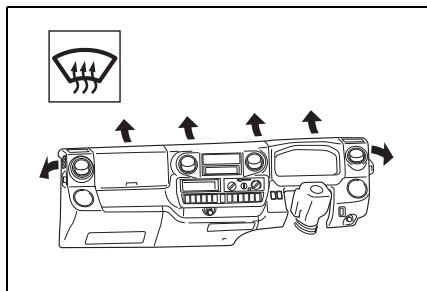
\* **4**を押してエアコンを ON にすると、  
曇りが早く取れます。



## ■窓ガラスのくもりを取る

**1**のレバーを  の位置にして使  
用します。

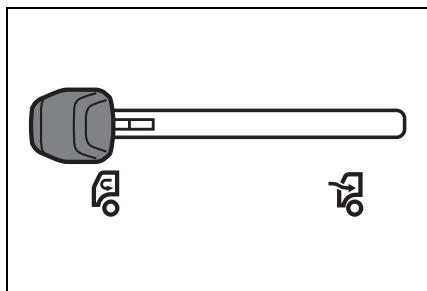
\* **4**を押してエアコンを ON にすると、  
曇りが早く取れます。





### 吸入口の切り替え

#### ■ 外気導入・内気循環の切り替え


**1** のレバーをを左右に動かします。





- 外気導入にするには  の位置にします。
- 内気循環にするには  の位置にします。

### 冷房・除湿


#### ■ 普通冷房およびおだやかな冷房

1. **2** を  の位置にする。
2. **4** を押す。
3. **3** および **5** で風量と温度を調整する。

#### ■ 強力冷房（急速に冷房したいとき）および外気温が高いとき


1. **2** を  の位置にする。
2. **1** を  の位置（内気循環）にする。
3. **4** を押す。
4. **3** を一番右に **5** を一番左にする。

### 暖房





1. **2** を  の位置にする。
2. **3** および **5** で風量と温度を調整する。

### 換気

走行中の自然換気および **3** による強制換気することができます。

- **1** を  の位置（外気導入）にする。
- 強制換気するときは **3** を操作して送風量を調整します。



### くもり取り

1. **2** を  の位置にする。  
足元への暖房も同時に行いたいときは、**2** を  または  の位置にする。
2. **1** を  の位置（外気導入）にする。



3. **4**を押す。
4. **3**および**5**で風量と温度を調整する。

### バイレベル

暖房時、顔がほてるときなど、暖かい風を足元へ、比較的温度の低い風を上半身に送風します。


1. **2**をの位置にする。
2. **1**をの位置（外気導入）にする。
3. **3**でお好みの風量に調整する。
4. **5**を中間の位置にする。

### エンジンを暖機運転しながらの暖房

1. **2**をの位置にする。
2. **1**をの位置（内気循環）にする。
3. **5**を右端の位置にする。
4. **3**を右端または右から2番目の位置にする。

### アドバイス

#### ■冷房・除湿について

- 炎天下、アイドリング状態でエアコンを使用する場合は、**1**をの位置（内気循環）にして使用してください。

- ドアガラスが凍るようなときは、

**2**をまたはし、運転席


側および助手席側の吹き出し口がドアガラスに当たるように操作してください。

### 知識

#### ■内外気切り替えについて

- トンネル内や渋滞などで汚れた外気を車内に入れたくないときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときに、  
**1**で内気循環にすると効果的です。
- 長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

#### ■吹き出し口について

**2**をの位置にし、**5**を中間位置で使用すれば、暖められた風が足元から、比較的温度の低い風が中央および運転席側、助手席側吹き出し口から送風されます。


#### ■より早くガラスの曇りを取るには

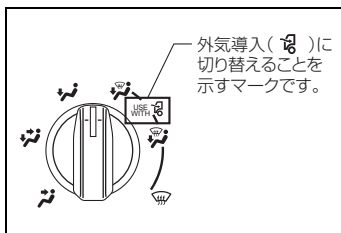
ガラスの曇りを取る（前ページ参照）の操作と併せて、次の操作を行います。

- 風量を増す（**3**を操作する）
- 設定温度を上げる（**5**を操作する）

#### ■窓ガラスの曇りを取るときに

吹き出し口を、または

にして窓ガラスの曇りを取るときは内外切り替えダイヤルで外気導入にして使用してください。



### ■ エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

### ■ 車内の温度が高いときは

駐車のと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

### ■ 内気循環の状態が長時間使用する

室内の空気が汚れたりガラスがくもることがありますので、外気導入にするか窓を開けるなどして空気を入れ替えてください。

### ■ 冷房・除湿について

- 外気温が0℃以下のときは、**4**を「ON」にしても、エアコンの圧力スイッチが働きコンプレッサーが停止しますので**1**を外気導入にして使用してください。
- 炎天下に長時間駐車したときは、**3**を「4」の位置にして窓を開け、換気を行った後に、エアコンを作動させると効果的です。

- 冷房時湿った空気が急に冷やされて、吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、異常ではありません。


### ■ 暖房について

暖機運転中や長時間停車中に暖機スイッチを「ON」にすると暖房の効果を高められます。

\* 暖機スイッチの取り扱い。(→P.5-17)

## ▲ 警告

### ■ 吹き出し口の切り替えについて

温度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、**2**をの位置にしないでください。外気と窓の温度差で窓外側表面が曇り視界をさまたげる場合があります。

### ■ 運転席での仮眠について

運転席での仮眠はしないでください。眠っているときに無意識にアクセルペダルを踏み込んだりシフトレバーを動かしたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

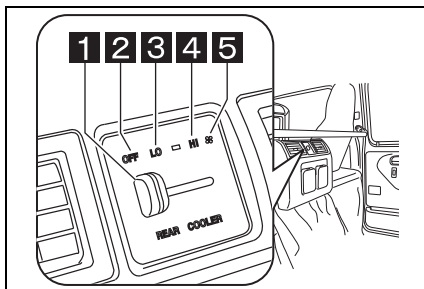
**△ 注意****■ エアコンの作動について**

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に作動させないでください。

**リヤクーラー★**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントエアコンが「OFF」のときは、冷房、除湿機能は作動せず送風のみとなります。スイッチでクーラーの「ON」、「OFF」および風量の調整ができます。



**1** ファンスイッチ

**2** 停止

**3** 微風

**4** 弱風

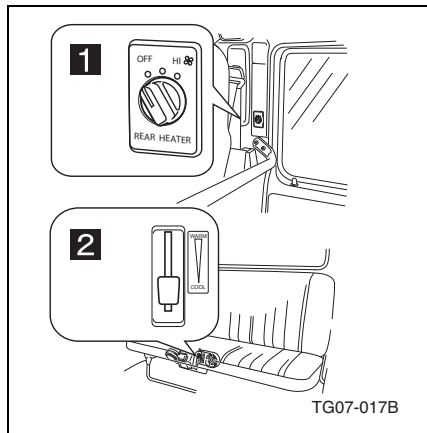
**5** 強風

## リヤヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。

リヤシート下にリヤシート専用  
ヒーターが装備されています。

### ▶ ダブルキャブ車



#### 1 ファンスイッチ

スイッチを押すごとにヒーターの作動と  
停止の切り替えができます。

#### 2 温度調整レバー

低めから高めまで無段階に暖房温度を調  
整できます。



アクセサリ・装備品  
の取り扱い

## 8

オーディオを上手にお使い いただくために .....	P.8-2
アンテナ .....	P.8-2
ステアリングスイッチ .....	P.8-4
オーディオの種類 .....	P.8-5
ラジオの使い方 .....	P.8-7
機能設定モード .....	P.8-9
Bluetooth <sup>®</sup> 対応機器登録の しかた .....	P.8-11
選局操作 .....	P.8-13
USB の操作 .....	P.8-14
エラー表示について .....	P.8-19
Bluetooth <sup>®</sup> オーディオ の操作 .....	P.8-20
AUX 端子の使い方 .....	P.8-24
Bluetooth <sup>®</sup> 電話の 使い方 .....	P.8-26
オーディオシステムに ついて .....	P.8-31
フロントルームランプ .....	P.8-34
リヤルームランプ .....	P.8-35
室内 LED 灯 .....	P.8-36
デジタルインナー ミラー .....	P.8-37
インナーミラー .....	P.8-43
サンバイザー .....	P.8-44
アクセサリソケット .....	P.8-44
灰皿 .....	P.8-45
コンソールボックス類 .....	P.8-47

## オーディオを上手にお使い いただくために

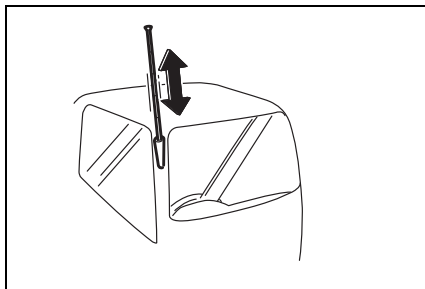
### ラジオの受信について

車両の移動にともないアンテナの位置も変わるため電波の強さが変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することができないことがあります。

## アンテナ

### 伸縮タイプ

ラジオを聞くときに、いっばいに引き出します。

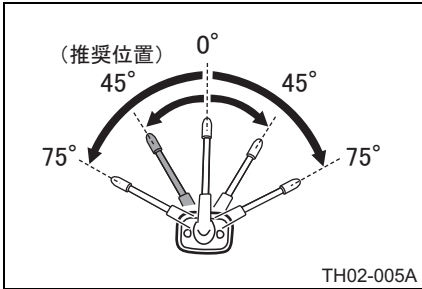


### ねじ式脱着タイプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- ラジオを聞くときに、立てて使用します。
- アンテナは、運転席側ドアの上部にあります。
- アンテナは5段階に角度を変えることができます。傾ける際は根本に近い所を持って操作してください。
- 洗車機に入れるときなど、アンテナを取り外すことができます。その際は添付のキャップを取り付けてください。

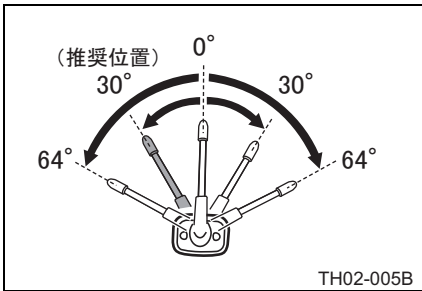
▶ 標準キャブ・ハイルーフ・クリ  
アビュー車両



\* 45°（推奨位置）にすると、風切り音にいちばん有利です。

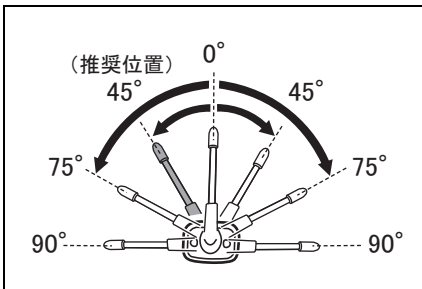
▶ 標準キャブ・標準ルーフ・クリ  
アビュー車両

（タイプ A）



\* 30°（推奨位置）にすると、風切り音にいちばん有利です。

（タイプ B）



\* 45°（推奨位置）にすると、風切り音にいちばん有利です。

知識

■ アンテナについて

- 伸縮タイプはアンテナをいっぱい引き出さないと、ラジオの性能が十分に発揮されません。
- ねじ式脱着タイプはアンテナを立てた状態にしないと、ラジオの性能が十分に発揮されません。

■ アンテナ（タイプ B）について

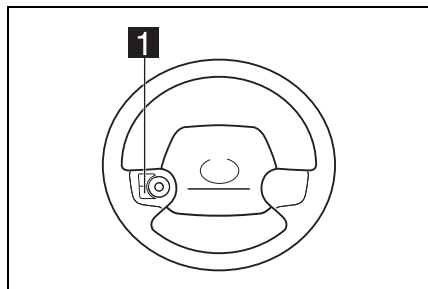
可動範囲は 90° ですが、90° 位置は一時的にアンテナを下げる場合などを想定しており、固定はされません。

## ステアリングスイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。

スイッチを操作することで表示の  
切り替えや機能の選択ができます。

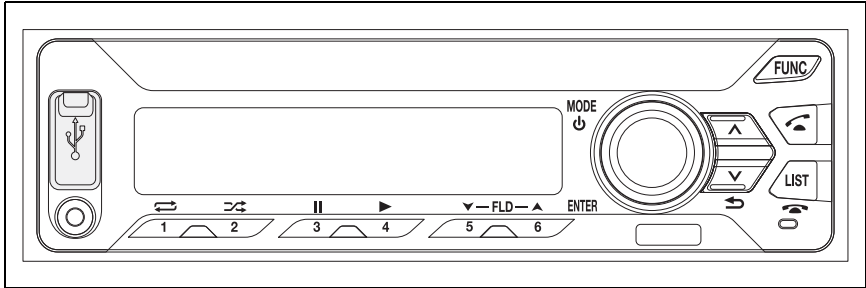
Bluetooth<sup>®</sup> 対応電話のペアリング  
成功後、電話を受ける、もしくは  
通話を終了するときに使います。



**1** ☎ ボタン

## オーディオの種類

### ▶ Bluetooth® 対応のラジオ / USB プレーヤー



### 基本的な使い方

オーディオシステムの基本的な機能について説明します。お使いのシステムには当てはまらない場合があります。

- キーを「ACC」または「ON」にすると、オーディオシステムが動作します。
- システムのオン/オフを切り替える場合

ロータリーノブを押すと、オーディオシステムのオン/オフが切り替わります。以前に別の機能が有効になっていた場合は、元の機能に戻ります。

- 機能を切り替える場合

電源が入っている状態で機能を切り替える場合は、ロータリーノブを押します。

### ■ 音色とバランス

音色とバランスについて、詳しくはお使いのオーディオシステムの説明書をご覧ください。

- 音色

オーディオプログラムの音質は、主に高音部と低音部の調整によって決まります。

- バランス

左右のステレオチャンネルのバランスも音質にとって重要です。ステレオ録音した音楽や放送を聴く場合は、左右のバランスを変えると片方の音量が大きくなり、もう片方の音量が小さくなります。

 知識

## ■ 携帯電話の使用について

オーディオを聴いているときに、車内または車外の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。

## ■ USB スロットの使用について

充電用の USB スロットではありません。

 警告

- プレーヤーは、必ず車両の停止中に操作してください。走行中に操作すると事故の原因になります。
- 音量は、車外の音が聞こえるように調節してください。車外の音が聞こえないと、事故を防ぐことが難しくなります。
- 車の無線アンテナの近くに無線機のアンテナを設置しないでください。ラジオに不要なノイズが発生する可能性があります。

 注意

プレーヤーに水がかからないようにしてください。プレーヤーが損傷する可能性があります。

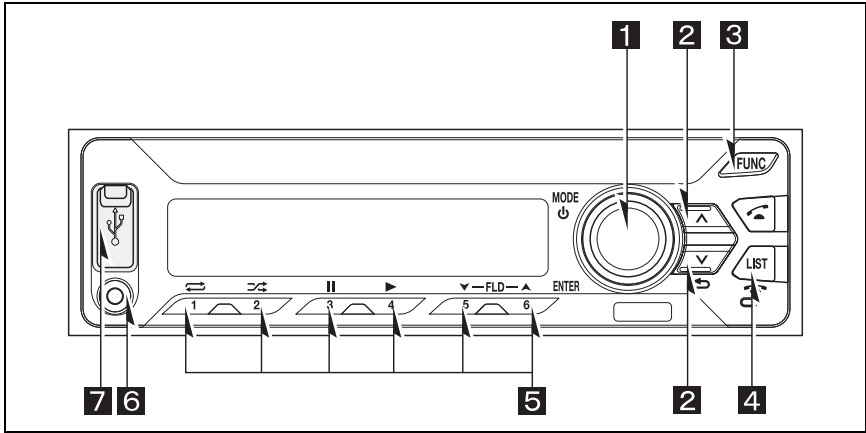
## ■ バッテリー上がりを防止するために

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

## ■ オーディオの取り扱いについて

オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

## ラジオの使い方



### 1 ロータリーノブ

- ・ MODE スイッチ
- ・ POWER/ENTER ボタン
- ・ 音量調節ノブ

### 2 Tune/Track ボタン

Back ボタン

### 3 FUNC ボタン

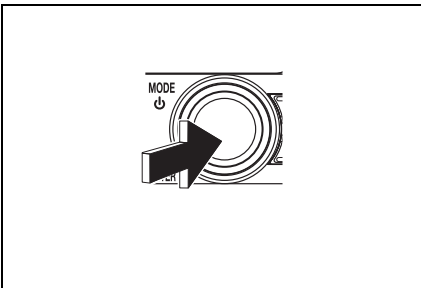
### 4 LIST ボタン

### 5 Preset ボタン

### 6 ミニジャック

### 7 USB 端子

## 電源を入れる



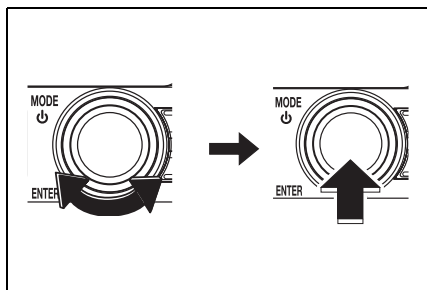
ロータリーノブを押して電源を入れます。1秒以上押すと電源が切れます。

### ⚠ 注意

オーディオモードで音楽を聴いているときにロータリーノブを押すと、電源が切れます。もう一度ロータリーノブを押すと、直前のオーディオモードに戻ります。

## オーディオモードを切り替える

1. ロータリーノブを押します。



2. ロータリーノブを回してオーディオモードを選択し、ロータリーノブを押します。オーディオモードは次の順序で切り替わります。

FM1 → FM2 → FM3 → USB ※1 →  
BT-AUDIO → AUX ※2 → AM1 →  
AM2 → FM1 …

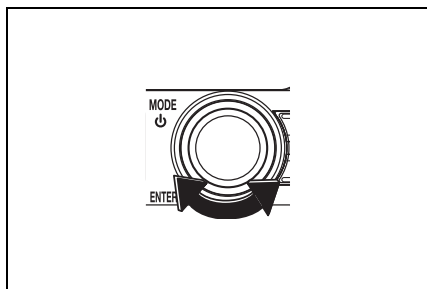
※1 USB 未接続時はスキップします。

※2 AUX プレーヤー未接続時はスキップします。

 注意

- ロータリーノブは止まるまで回り続けます。ただし、音量自体には制限があり、ロータリーノブを右回りまたは左回りに回し続けても音量は一定に保たれます。
- 音量が最大の状態で電源を入れたり切ったりすると、機器や聴覚を損なうおそれがあります。適度な音量に設定してください。

## 音量の調節



ロータリーノブを右または左に回して音量を調節します。

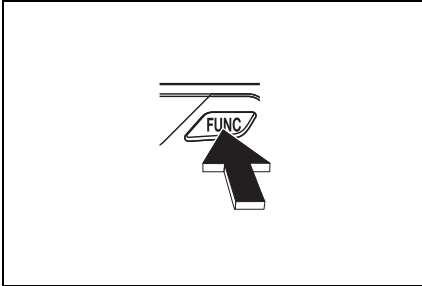
右に回す：音量を上げます。

左に回す：音量を下げます。

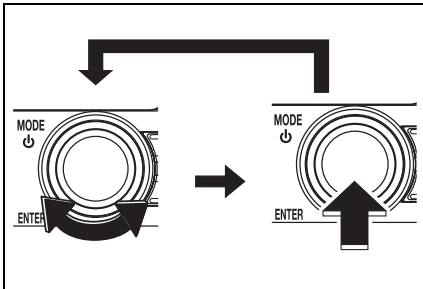
## 機能設定モード

操作により、サウンドを微調整  
できます。

### 低音の調整



1. 「FUNC」 ボタンを押します。



2. ロータリーノブを回して「SOUND」を選択し、ロータリーノブを押します。
3. ロータリーノブを回して「BASS」を選択し、ロータリーノブを押します。
4. ロータリーノブを回してレベルを調整し、ロータリーノブのスイッチを押します。

右に回す：低音域が強調されます。

左に回す：低音域が弱くなります。

### 高音の調整

1. 「FUNC」 ボタンを押します。
2. ロータリーノブを回して「SOUND」を選択し、ロータリーノブを押します。
3. ロータリーノブを回して「TREBLE」を選択し、ロータリーノブを押します。
4. ロータリーノブを回してレベルを調整し、ロータリーノブのスイッチを押します。

右に回す：高音域が強調されます。

左に回す：高音域が弱くなります。

### フェーダーの調整

1. 「FUNC」 ボタンを押します。
2. ロータリーノブを回して「SOUND」を選択し、ロータリーノブを押します。
3. ロータリーノブを回して「FADER」を選択し、ロータリーノブを押します。
4. ロータリーノブを回してレベルを調整し、ロータリーノブのスイッチを押します。

右回り：フロントスピーカーが強調されます。

左回り：リアスピーカーが強調されます。

### バランスの調整

1. 「FUNC」 ボタンを押します。
2. ロータリーノブを回して「SOUND」を選択し、ロータリーノブを押します。

3. ロータリーノブを回して「BALANCE」を選択し、ロータリーノブを押します。
4. ロータリーノブを回してレベルを調整し、ロータリーノブのスイッチを押します。

右に回す: 右スピーカーを強調します。

左に回す: 左スピーカーを強調します。

### 時計モード

1. 「FUNC」ボタンを押します。
2. ロータリーノブを回して「CLOCK」を選択し、ロータリーノブを押します。
3. ロータリーノブを右または左に回して下記からモードを選択し、ロータリーノブを押します。

選択できるモード:

OFF (時計表示 OFF) ⇔ ON (時計表示 ON) ⇔ SET (時刻設定)

### ⚠ 注意

時計モードをオフにすると、時刻はリセットされません。

### 時刻を設定する

1. 時計モードの時に「SET」を選択します。
2. ロータリーノブを回して時刻(時)を設定し、ロータリーノブを押します。
3. ロータリーノブを回して時刻(分)を設定し、ロータリーノブを押します。

右に回す: 1時間進みます。

左に回す: 1時間戻ります。

右に回す: 1分進めます。

左に回す: 1分戻します。

### ⚠ 注意

時計(分)を設定中に「Back」ボタンを押すと、時計(時)設定モードに戻りません。

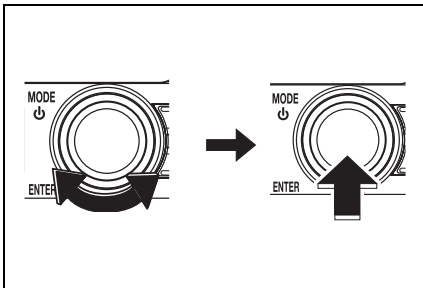
## Bluetooth® 対応機器登録のしかた

はじめて Bluetooth® 対応機器を利用するときは、オーディオに登録（ペアリング）する必要があります。Bluetooth® 機器（携帯電話や Bluetooth® 対応オーディオプレーヤー）を本機に接続すると、Bluetooth® 機器の操作や、ハンズフリーでの通話、音楽を聴くことができます。Bluetooth® 接続が確立すると、ディスプレイに「

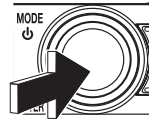
### Bluetooth® 対応機器を登録する



1. 「FUNC」ボタンを押します。



2. ロータリーノブを回して「BLUETOOTH」を選択し、ロータリーノブを押します。



3. ディスプレイに「PAIRING」が表示されているときは、ロータリーノブを押します。  
すでに Bluetooth® 機器が本機に登録されている場合は、ロータリーノブを回して「PAIRING」を選択してください。

4. 「CAR AUDIO」と表示された後、ディスプレイに4桁のパスキーが表示されたら、Bluetooth® 機器を操作してパスキーを入力します。  
操作方法については、携帯機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

Bluetooth® 機器の登録が完了すると、ディスプレイに「CONNECTED」と表示されます。パスキーを入力してもディスプレイに「FAILED」と表示された場合は、再度登録してください。

### 注意

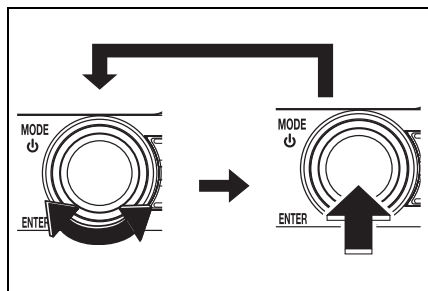
運転中に Bluetooth® 機器を登録しないでください。安全な場所に駐車してから登録してください。

## 知識

本機に登録できる Bluetooth<sup>®</sup> 機器は 5 台までです。登録数を越えた場合は「DEL DEVICE?」と表示されますので、登録した Bluetooth<sup>®</sup> 機器を削除してください。

### Bluetooth<sup>®</sup> 機器と自動接続する

1. 「FUNC」 ボタンを押します。



2. ロータリーノブを回して「BLUETOOTH」を選択し、ロータリーノブを押します。
3. ロータリーノブを回して「A.CONNECT」を選択し、ロータリーノブを押します。
4. ロータリーノブを回して ON/OFF を切り替え、ロータリーノブを押します。

CONNECT ON: 自動接続をオンにします。

CONNECT OFF: 自動接続をオフにします。

### Bluetooth<sup>®</sup> 設定の初期化

本機に保存されている Bluetooth<sup>®</sup> 設定や履歴を初期化できます。

1. 「FUNC」 ボタンを押します。

2. ロータリーノブを回して「BLUETOOTH」を選択し、ロータリーノブを押します。
3. ロータリーノブを回して「RESET DATA」を選択し、ロータリーノブを押します。
4. ディスプレイに「RESET DATA?」と表示されたら、ロータリーノブを押します。初期化が始まると、ディスプレイに「PLEASE WAIT」と表示されます。初期化が完了すると、ディスプレイに「COMPLETED」と表示されます。

### 注意

運転中に Bluetooth<sup>®</sup> 機器を登録しないでください。安全な場所に駐車してから登録してください。

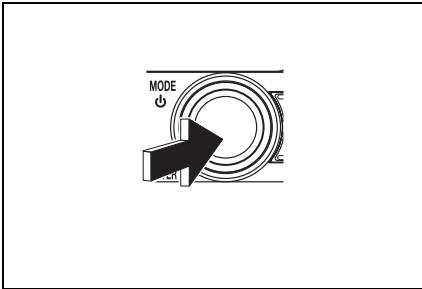
## 知識

- 初期化した Bluetooth<sup>®</sup> の設定や履歴は復元できません。初期化の際はご注意ください。
- 廃車の際は、オーディオシステムに登録されている個人情報をすべて削除してください。次のハンズフリー / Bluetooth<sup>®</sup> オーディオデータを削除してください。

- 発信 / 着信 / 不在着信の履歴
- ハンズフリー設定
- Bluetooth<sup>®</sup> 電話
- 携帯機器
- 携帯機器の接続設定

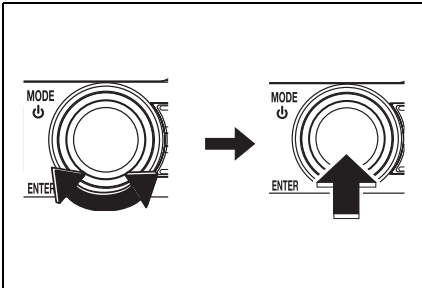
## 選局操作

## 選局

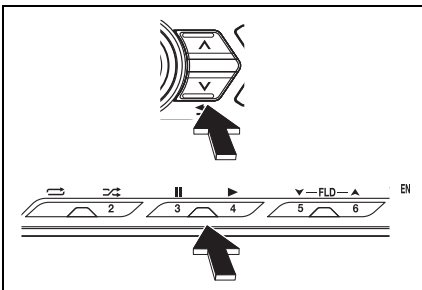


ラジオの電源を入れる。

1. ロータリーノブを押します。



2. ロータリーノブを回して「FM1」、「FM2」、「FM3」、「AM1」、「AM2」のいずれかを選択し、ロータリーノブを押します。



3. 次のいずれかの方法で選局します。

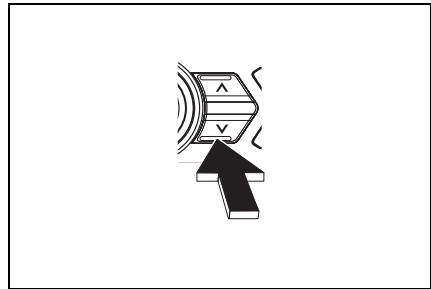
「Tune/Track」ボタンを押します。

「Preset」ボタンを押します。

ラジオの電源を入れる。

ロータリーノブを1秒以上押します。ラジオの電源を入れるには、もう一度ロータリーノブを押します。

## ▶ 手動選局



「Tune/Track」ボタンを1秒未満押しします。

ボタンを押すたびに周波数が上がり(または下がり)、お好みの放送局が選択されます。

## ▶ 自動選局

「Tune/Track」ボタンを2秒未満1秒以上押しします。

ラジオ局の検索が始まり、ラジオ局が見つかると停止します。

「Tune/Track」ボタンを2秒以上押しします。ラジオ局は周波数帯域内のラジオ局を検索し続けます。キャンセルする場合は、もう一度ボタンを押してください。

## 知識

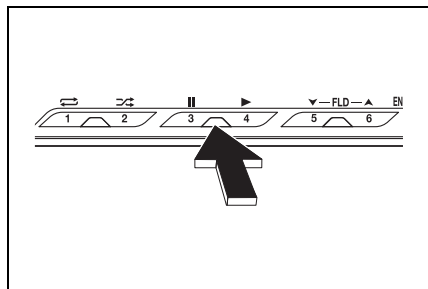
- 「Tune/Track」 ボタン (▲) を押すと高い周波数に、「Tune/Track」 ボタン (▼) を押すと低い周波数に選択されます。
- いずれの場合も、ラジオ局が見つからない場合は検索を続けます。

### ラジオ局を登録する (PRESET)

お気に入りのラジオ局を「Preset」ボタンに登録すると、ワンタッチでラジオ局を登録できます。

最大 30 局まで登録できます。

AM:12 局 (AM1 と AM2 に 6 個ずつ)、FM:18 局 (FM1、FM2、FM3 に各 6 個)



1. 登録するラジオモードを「FM1」、「FM2」、「FM3」、「AM1」、「AM2」から選択します。
2. お好みのラジオ局に合わせてください。
3. 登録したい「Preset」ボタンを 2 秒以上押し続けます。ステーションが登録されると、ディスプレイに「Preset」ボタン番号と登録された周波数が表示されます。

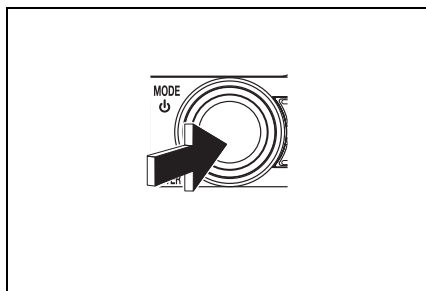
## USB の操作

音楽データ (MP3/WMA ファイル) が収録されている USB 機器を接続すると音楽を再生できます。

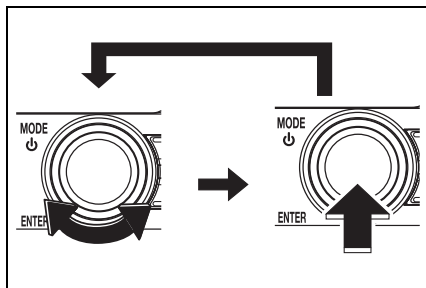
### USB メモリー内の音楽ファイルを再生する (USB メモリーを接続していない場合)

USB メモリーを USB 端子に接続すると、USB メモリー内の音楽を聴くことができます。

1. USB メモリーを USB 端子に接続します。



2. ロータリーノブを押します。



3. ロータリーノブを回して「USB」を選択し、ロータリーノブを押します。音楽ファイルが再生されます。

### USB メモリー内の音楽ファイルを再生する (USB メモリーを接続している場合)

1. ロータリーノブを押します。
2. ロータリーノブを回して「USB」を選択し、ロータリーノブを押します。  
音楽ファイルの再生が始まります。

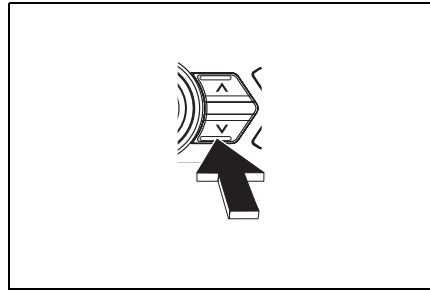
#### ⚠ 注意

運転中に USB メモリーを抜き差ししないでください。安全な場所に駐車してから登録してください。

#### 📖 知識

- USB メモリーにアクセス中 (再生中) は、USB メモリーを抜いたり、エンジンスイッチを「LOCK」にしたりしないでください。データが破損するおそれがあります。誤って消去してしまった場合に備えて、データのバックアップをお勧めします。
- USB メモリーの種類 (ノーブランド製品、外部要因により破損した USB メモリー) によっては、接続できない場合や動作が不安定になる場合があります。
- USB モードを他のモードに切り替えてから再度切り替えると、本体は最後に再生した音楽ファイルに戻ります。

### ファイル選択



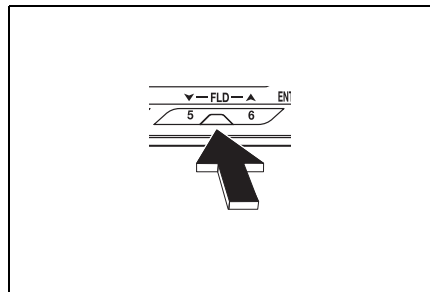
「Tune/Track」ボタン (▲、▼) を押して、好きな音楽ファイルを選びます。

▲: 次のファイルに進みます。

▼: 再生中のファイルの先頭に戻ります。

前のファイルに戻るには、もう一度ボタンを押します。

### フォルダ選択

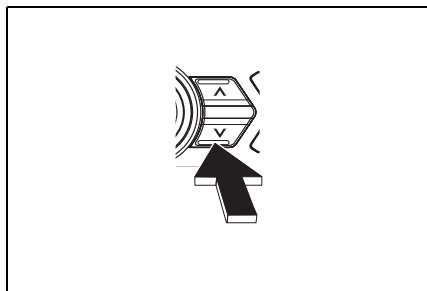


「5」または「6」ボタンを押して、MP3/WMA フォルダを選択します。

▲: 次のフォルダに進みます。

▼: 前のフォルダに戻ります。

### 早送り / 早戻しする



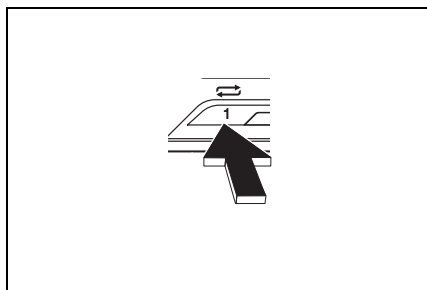
「Tune/Track」ボタン(▲、▼)を押し続けると、早送り/早戻しができます。

▲: 早送ります。

▼: 早戻します。

早送り/早戻しを止めるときは、ボタンから指を離します。

### 繰り返し再生



「1」ボタンを押すと、同じファイルを繰り返し再生します。

ディスプレイに「☺」が表示されます。

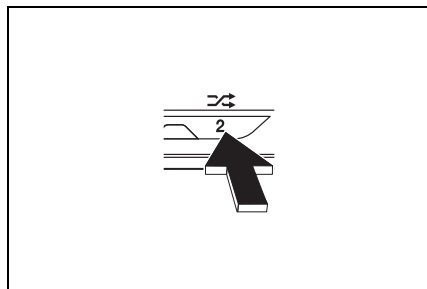
キャンセルする場合はボタンを2回押しすると「☺」が消えます。

「1」ボタンを2回押しすると、同じフォルダを繰り返し再生します。最後のファイルを再生すると、同

じフォルダの最初のファイルを再生します。

ディスプレイに「FLD ☺」と表示されます。キャンセルする場合は、もう一度ボタンを押します。「FLD ☺」が消えます。

### ランダム再生



「2」ボタンを押すと、USBメモリー内のすべてのファイルがランダムに再生されます。

「☼」が表示されます。

キャンセルする場合は、ボタンを2回押しします。「☼」が消えます。

「2」ボタンを2回押しすると、USBメモリー内の再生中のフォルダのファイルがランダムに再生されません。

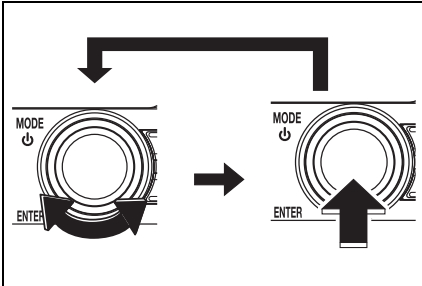
最後のファイルが再生されると、同じフォルダの最初のファイルが再生されます。

ディスプレイに「FLD ☼」が表示されます。キャンセルする場合は、もう一度ボタンを押します。「FLD ☼」が消えます。

## カテゴリー一覧から音楽ファイルを選ぶ



1. 「LIST」ボタンを1秒未満押しします。ディスプレイに「LIST」が表示されます。カテゴリー選択を解除するには、もう一度「LIST」ボタンを押すか、「Back」ボタンを押します。

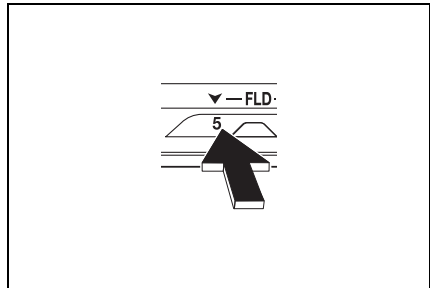


2. ロータリーノブを回してカテゴリーを選択し、ロータリーノブを押します。カテゴリーは次の順で切り替わります。  
PLAYING ⇄ FOLDER ⇄ FILE ⇄ PLAYING ...
3. ロータリーノブを回して、リストからフォルダーまたはファイルを選択し、ロータリーノブを押します。ファイルが選択されると、プレーヤーはファイルの再生を開始

します。

「FOLDER」が選択されている場合は、フォルダー内のファイルを選択して再生を開始します。リストまたはカテゴリー選択モードに戻るには、「Back」ボタンを1秒未満押しします。カテゴリー選択モードを解除するには、「Back」ボタンを1秒以上押しします。

## 最初の位置に戻る（ホームジャンプ）



USBメモリーのどの位置からでも、再生中の最初のフォルダーの最初のファイルに戻ることができます。この機能を「ホームジャンプ」と呼びます。

例：フォルダー4のファイル5を再生中に「ホームジャンプ」を使うと、フォルダー1のファイル1に戻って再生を開始します。

「5」ボタンを1秒以上押しします。

## 文字情報を表示する

1. 「LIST」ボタンを1秒以上押し続けます。
2. ロータリーノブを回して表示項目を選び、ロータリーノブを押します。

表示項目は次の順序で切り替わります。

FL/TR NO (フォルダー番号 /  
ファイル番号) ⇔ TIME (再生時間)  
⇔ FOLDER (フォルダー名)  
⇔ FILE (ファイル名) ⇔ ALBUM  
(アルバムタイトル) ⇔ \*TRACK  
(トラックタイトル) ⇔ ARTIST  
(アーティスト名) ⇔ FL/TR NO

...

- \* WMA ファイル再生中は表示されません。

## 知識

- 文字情報が大きすぎてディスプレイに収まらない場合は、「FUNC」ボタンを1秒以上押して次のページに切り替えてください。
- 英数字と記号以外の文字が録音されている場合は、「\*」が表示されます。
- 文字情報が保存されていない場合は、「NO TITLE」と表示されます。

## エラー表示について

オーディオには、システム保護のため、各種の自己診断機能を備えています。障害が発生したときは、各種のエラーが表示されますので、対処方法にしたがって障害を取り除いてください。

## エラーが表示された場合

状態に応じて以下のメッセージが表示（点滅）されます。

エラー表示	説明
READING	USB 機器のファイルフォーマットを読み込み中に表示されま す。
USB ERROR 1	プレーヤーが何らかの理由で操作できない場合に表示されま す。オーディオシステムから USB 機器を外してください。
USB ERROR 2	接続した USB 機器が無効の場合に表示されます。別の USB 機 器を接続してください。
USB ERROR 3	USB ハブが接続されている場合に表示されます。オーディオシ ステムから USB ハブを取り外します。
NO MUSIC (音楽なし)	何も入っていない USB 機器や拡張子の付いたファイルが入って いない USB 機器を接続したときに表示されます。
READ ERROR (読み込みエラー)	USB 機器に異常が検出されたときに表示されます。USB 機器を 取り外し、USB 機器を確認してください。
NO SUPPORT (サポートなし)	USB 機器に MP3/WMA データ（拡張子 MP3/WMA を含む）がな い場合、または SKIP FILE のみの場合に表示されます。

上記以外のエラーが表示されたときは、本体の電源を切り、トヨタ販売店にご相談ください。

## Bluetooth® オーディオの操作

Bluetooth® 対応のオーディオプレーヤーや携帯電話（以下、携帯機器）を本機に接続すると、本機での操作や音楽を聴くことができます。

また、本機と携帯機器は無線接続のため、ケーブル接続の必要はありません。

本機は Bluetooth® に対応しています。Bluetooth® とは、携帯機器を有線接続せずに音楽を聴くことができる無線通信のことです。

携帯機器が Bluetooth® に対応していない場合は、この機能を利用できません。

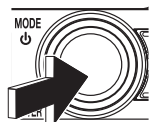
### ⚠ 注意

運転中は携帯機器を接続しないでください。安全な場所に駐車してから接続してください。

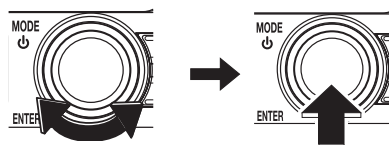
### 📖 知識

- 携帯機器を車内に放置しないでください。（猛暑の場合、車内が高温になることがあります）
- 機器を本機に近づけすぎないでください。機器と本機が近づくと、音質の劣化や接続不良の原因となります。

## 音楽を再生する



1. ロータリーノブを押します。



2. ロータリーノブを回して「BT-AUDIO」を選択し、ロータリーノブを押します。

接続している Bluetooth® 対応機器の音楽が再生されます。登録した機器が接続されていない場合は、ディスプレイに「NO CONNECT」と表示されます。

### ⚠ 注意

以下の操作を行う前に、携帯機器を本機に接続してください。

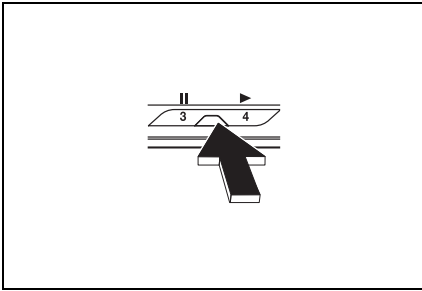
- 「Bluetooth® 機器を登録する」（→ P.8-11）
- Bluetooth® オーディオの操作は、携帯機器の対応状況によります。
- 本機を介した携帯機器の操作は、携帯機器の仕様によって異なります。

- 本機に接続した Bluetooth<sup>®</sup> 対応携帯機器によっては、音楽が再生されず、一時停止することがあります。
- AVRCP Ver.1.0 対応携帯機器と接続した場合、ディスプレイに「STREAMING」と表示され、一部機能が制限されることがあります。

### 再生を停止する

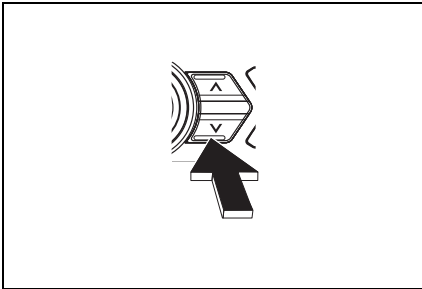
他のオーディオモードに切り替える。

### 音楽を一時停止する



「3」ボタンを押して音楽を一時停止します。

### トラック選択



「Tune/Track」ボタン（▲、▼）を押して、好きなトラックを選びます。

▲: 次のトラックに進みます。

▼: 再生中のトラックの先頭に戻ります。

前のトラックに戻るには、もう一度ボタンを押します。

### 知識

本機での操作は、携帯機器の仕様によって異なります。

### 早送り / 早戻しする

「Tune/Track」ボタン（▲、▼）を押し続けると、早送り / 早戻しができます。

▲: 早送りします。

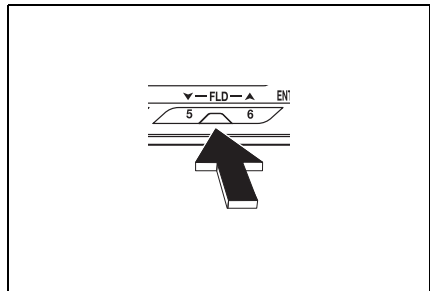
▼: 早戻しします。

早送り / 早戻しを止めるときは、ボタンから指を離します。

### 知識

本機での操作は、携帯機器の仕様によって異なります。

### アルバムの選択



「5」または「6」ボタンを押して、アルバムを選択します。

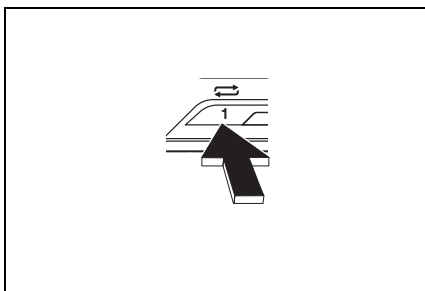
▲: 次のアルバムに進みます。

▼: 前のアルバムに戻ります。

## 知識

本機を介した携帯機器の操作は、携帯機器の仕様によって異なります。

### 繰り返し再生



「1」ボタンを押すと、同じファイルを繰り返し再生します。

ディスプレイに「⇄」が表示されます。

キャンセルする場合はボタンを2回押しすると「⇄」が消えます。

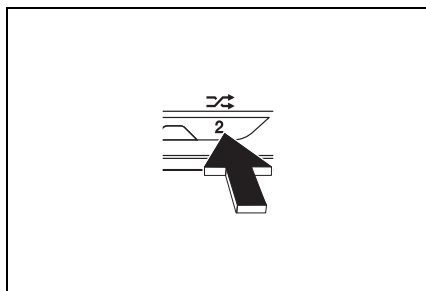
「1」ボタンを2回押しすると、同じアルバムを繰り返し再生します。最後のファイルを再生すると、同じアルバムの最初のファイルを再生します。

ディスプレイに「FLD ⇄」と表示されます。キャンセルする場合は、もう一度ボタンを押します。「FLD ⇄」が消えます。

## 知識

本機を介した携帯機器の操作は、携帯機器の仕様によって異なります。

### ランダム再生



「2」ボタンを押すと、Bluetooth® オーディオの全トラックがランダム再生されます。

ディスプレイに「⇄」が表示されます。

キャンセルする場合は、ボタンを2回押しします。「⇄」が消えます。

「2」ボタンを2回押しすると、再生中のアルバムの曲がランダムに再生されます。

最後の曲を再生すると、同じアルバムの最初の曲が再生されます。

ディスプレイに「FLD ⇄」と表示されます。

キャンセルする場合は、もう一度ボタンを押します。「FLD ⇄」が消えます。

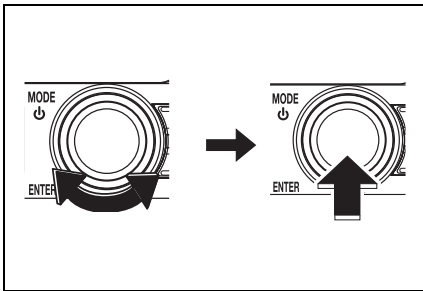
## 知識

本機を介した携帯機器の操作は、携帯機器の仕様によって異なります。

### 文字情報を表示する



1. 「LIST」ボタンを1秒以上押し続けます。



2. ロータリーノブを回して表示項目を選び、ロータリーノブを押します。  
表示項目は次の順序で切り替わります。  
TR NO/TIME (トラック番号 / 再生時間) ⇔ ALBUM (アルバムタイトル) ⇔ TRACK (トラックタイトル) ⇔ ARTIST (アーティスト名) ⇔ TR NO/TIME ...

## 知識

- 文字情報が大きすぎてディスプレイに収まらない場合は、「FUNC」ボタンを1秒以上押し続けて次のページに切り替えてください。
- 英数字と記号以外の文字を録音した場合は、「\*」（アスタリスク）が表示されます。
- 文字情報が保存されていない場合は、「NO TITLE」と表示されます。

### 登録した携帯機器を表示する



1. 「FUNC」ボタンを押します。
  2. ロータリーノブを回して「BLUETOOTH」を選択し、ロータリーノブを押します。
  3. ロータリーノブを回して「LIST AUDIO」を選択し、ロータリーノブを押します。
  4. ロータリーノブを回して機器名を選択し、ロータリーノブを押します。
  5. ロータリーノブを回して任意の表示項目を選択し、ロータリーノブを押します。
- 選択：  
登録した携帯機器を接続します。ディスプレイに「SEARCHING」が表示されます。

- 切断：  
登録した携帯機器の接続を解除します。  
ディスプレイに「DISCONNECT?」と表示されたら、ロータリーノブを押します。
- 削除：  
登録した携帯機器を削除します。  
ディスプレイに「Delete?」と表示されたら、ロータリーノブを押します。
- 方法：  
接続方法を切り替えます。本機から操作して接続する場合は、「FROM VEHICLE」を選びます。本機から接続する場合は、「FROM AUDIO」を選びます。

### ディスプレイに「ERROR」と表示された場合

ディスプレイには、状態に応じて以下のメッセージが表示（点滅）されます。

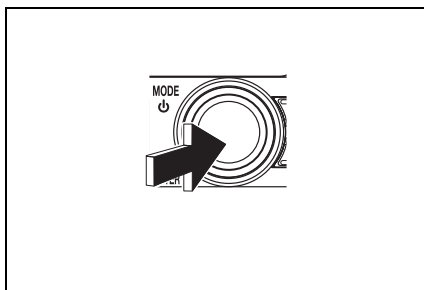
メッセージ	説明
NO CONNECT	本機と携帯機器が接続されていないときに表示されます。

## AUX 端子の使い方

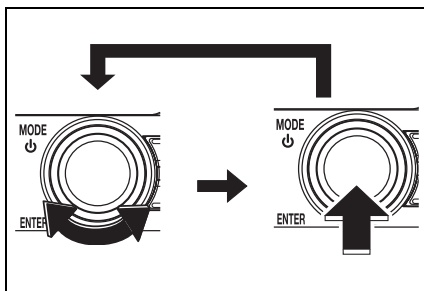
お手持ちのポータブルオーディオ機器の 3.5 mm ヘッドホンジャックをミニジャックに接続して、お手持ちの音楽を聴くことができます。

### AUX の操作

1. ミニプラグケーブルを使って、ポータブルオーディオ機器を「ミニジャック」に接続します。



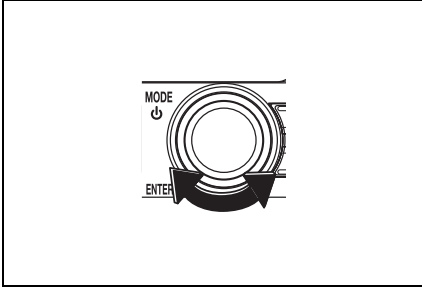
2. ロータリーノブを押します。



3. ロータリーノブを回して「AUX」を選択し、ロータリーノブを押します。  
ミニプラグケーブルを「ミニジャック」に接続すると、AUXモードになり、ポータブルオーディオ機器が使用できるようになります。

ミニプラグケーブルを本体から抜くと、AUXモードは解除されます。

## 音量の調節



ロータリーノブを右または左に回して音量を調節します。

右に回す：音量を上げます。

左に回す：音量を下げます。

## ⚠ 注意

- ポータブルオーディオ機器とミニプラグケーブルは、運転の妨げにならない場所に置くか、一時的に固定してください。運転の妨げとなり、交通事故の原因となります。
- ミニプラグケーブルの端子には触れないでください。
- 運転中にポータブルオーディオ機器を接続、操作、取り外しをしないでください。

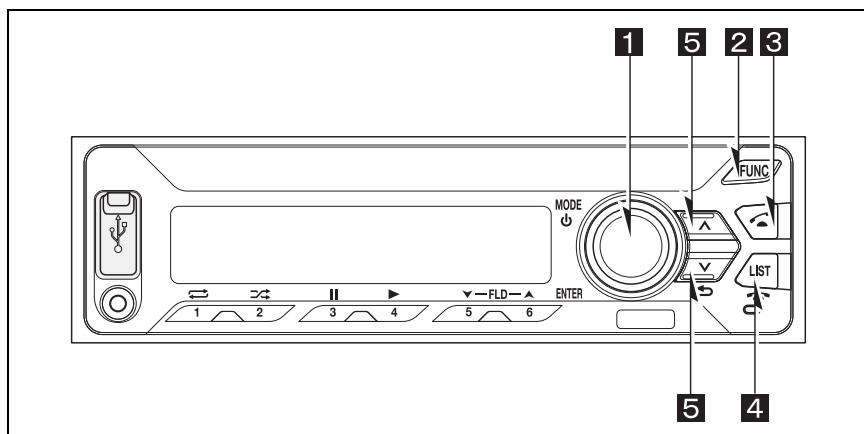
## 📖 知識

- AUXモードで調整した音量は、AUXモードでのみ有効です。
- 本体からAUX機器をコントロールすることはできません。
- スピーカーの損傷を防ぐため、AUXの音量を下げてください。

## Bluetooth® 電話の使い方

本機は Bluetooth® に対応しています。Bluetooth® とは、携帯電話を接続しなくても電話をかけることができる無線通信システムです。

お使いの携帯電話が Bluetooth® に対応していない場合、本機は動作しません。



### 1 ロータリーノブ

- ・ MODE スイッチ
- ・ POWER/ENTER ボタン
- ・ 音量調節ノブ

### 2 FUNC ボタン

### 3 オフフックボタン

### 4 オンフックボタン

### 5 レベル調整ボタン

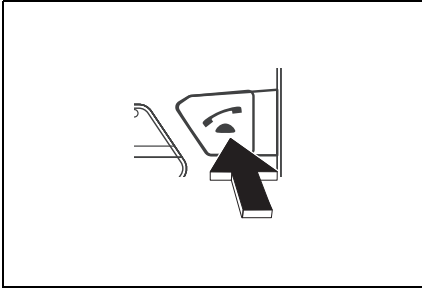
### △ 注意

- 以下の操作を行う前に、携帯機器を本機に接続してください。  
「Bluetooth® 機器を登録する」  
(→ P.8-11)
- 携帯電話を車内に放置しないでください。車内が高温になると、携帯電話が故障するおそれがあります。

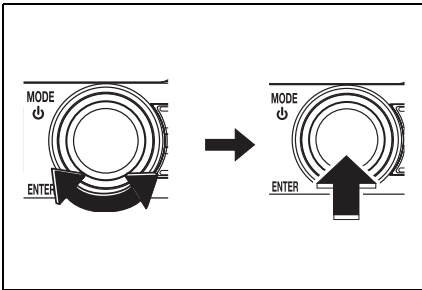
● 次のような場合は、正常に動作しないことがあります。

- ・ 携帯電話の電源が入っていない。
- ・ 通信エリア外である。
- ・ 携帯電話が接続されていない。

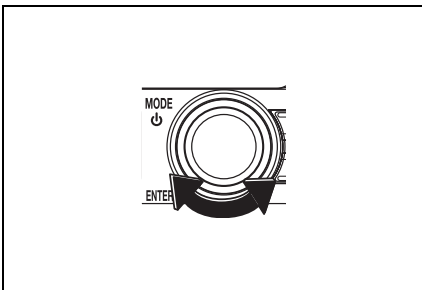
**電話番号を入力して電話をかける**



1. 「オフフック」ボタンを押します。



2. ロータリーノブを回して「ENTER NUMBER」を選択し、ロータリーノブを押します。ディスプレイに「INPUT NUMBER」が表示されます。

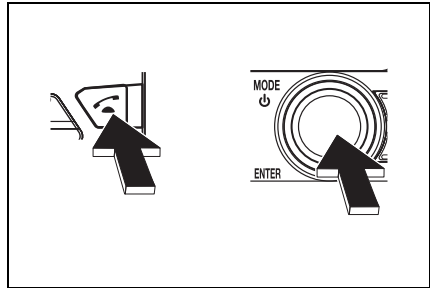


3. ロータリーノブを回して電話番号を選択します。電話番号は1桁ずつ入力できます。

数字(0～9)と記号(\*、#、+)が使用できます。記号(+)は1桁目にもみ使用できます。

「レベル調整」ボタン(▲): 次の桁に進みます。

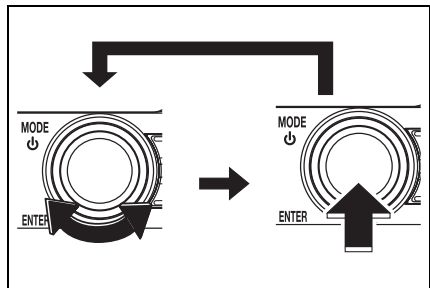
「レベル調整」ボタン(▼): 入力した桁を削除します。



4. 電話番号を入力したら、「オフフック」ボタンまたはロータリーノブを押します。ディスプレイに「CALLING」と表示され、選択した電話番号に電話がかかります。相手が電話を受けると、ハンズフリーで通話できます。

**不在着信履歴を使って電話をかける**

1. 「オフフック」ボタンを押します。



2. ロータリーノブを回して「MISSED」を選択し、ロータリーノブを押します。  
直前の不在着信の電話番号が表示されます。
3. ロータリーノブを回して電話番号を選び、ロータリーノブを押します。  
ディスプレイに「CALLING」と表示され、選んだ電話番号に電話がかかります。  
「オフフック」ボタンを押して電話をかけることもできます。  
相手が電話を受けると、ハンズフリーで通話できます。
2. ロータリーノブを回して「OUTGOING」を選択し、ロータリーノブを押します。  
呼び出した相手（電話番号）が表示されます。
3. ロータリーノブを回して相手（電話番号）を選び、ロータリーノブを押します。  
ディスプレイに「CALLING」と表示され、選んだ電話番号に電話がかかります。  
「オフフック」ボタンを押して電話をかけることもできます。  
相手が電話を受けると、ハンズフリーで通話できます。

### 着信履歴を使って電話をかける

1. 「オフフック」ボタンを押します。
2. ロータリーノブを回して「INCOMING」を選択し、ロータリーノブを押します。  
前回の着信者（電話番号）が表示されます。
3. ロータリーノブを回して相手（電話番号）を選び、ロータリーノブを押します。  
ディスプレイに「CALLING」と表示され、選択した電話番号に電話がかかります。  
「オフフック」ボタンを押して電話をかけることもできます。  
相手が電話を受けると、ハンズフリーで通話できます。

### 発信履歴を使って電話をかける

1. 「オフフック」ボタンを押します。

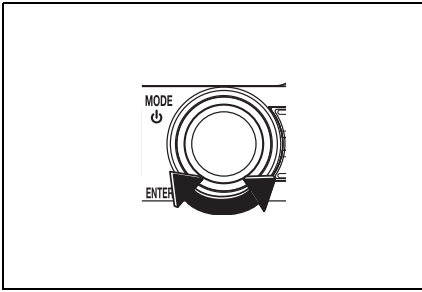
### 電話に出る

本機に電話がかかってくると、ディスプレイに「INCOMING」に続いて相手（電話番号）が表示されます。

- プライベートコールの場合は、ディスプレイに「UNAVAILABLE」が表示されます。
- 着信中に「オンフック」ボタンを押すと、着信を拒否できます。  
「オフフック」ボタンを押し、ハンズフリーで通話します。  
通話が終わったら、「オンフック」ボタンを押します。

### 音量を調整する

#### ■ 通話音量



通話中にロータリーノブを回します。

右に回す：音量を上げます。

左に回す：音量を下げます。

調整した音量値が保存されます。

### ■ 着信音の音量

通話中にロータリーノブを回します。

右に回す：音量を上げます。

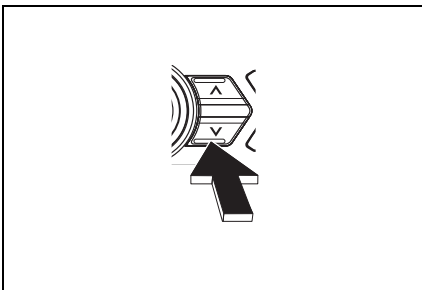
左に回す：音量を下げます。

調整した音量値が保存されます。

### 知識

携帯電話の仕様により、音量やマイクのゲインの設定が異なります。

### 内蔵マイクの感度を設定する



自分の声が小さすぎたり、相手に聞こえにくかったり、エコーやハ

ウリングがあったりする場合は、マイクの感度で調整できます。

通話中に「レベル調整」ボタンを押します。

「レベル調整」ボタン(▲)：感度を上げます。(音の伝わりが良くなります)

「レベル調整」ボタン(▼)：感度を下げます。(音の伝わりが悪くなります)

0～MAX(10)の範囲で調整できます。(デフォルト :5)

### 注意

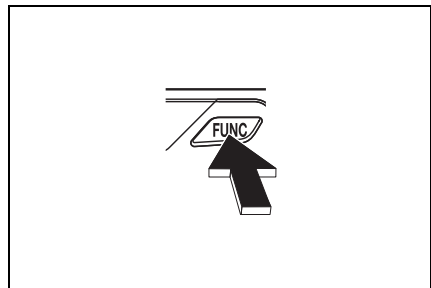
ボタン操作中は、「MIC LEVEL」が表示されます。操作終了後、2秒で「MIC LEVEL」の表示が消え、元の表示に戻ります。

### 携帯電話で通話中(プライベートモード)

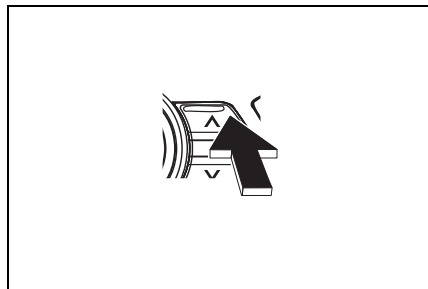
本機(ハンズフリーモード)から携帯電話への通話を切り替えることができます。

通話中に「オフフック」ボタンを1秒以上押します。

### 電話番号を入力する



1. 通話中に「FUNC」ボタンを押します。
2. ロータリーノブを回して、電話番号を選択します。電話番号は1桁ずつ入力できます。数字(0～9)と記号(\*、#、+)が使用できます。記号(+)は1桁目にのみ使用できます。



3. 「レベル調整」ボタン(▲)を押します。選択した音色番号が送信されます。次の手順に進み、必要に応じて音色番号を選び直します。

### 通話中着信時の通話

ディスプレイに通話中と表示されているときは、最初の通話を保留にしたまま次の通話を受けることや応答ができます。

通話中に着信音が鳴ったら、「オフフック」ボタンを押します。

- 通話中の通話を保留にしている間は、次の通話相手に接続されます。
- 通話中着信をオフにしたいときは、「オンフック」ボタンを押します。
- 通話中着信をオフにすると、保留中の最初の通話相手に接続されます。
- もう一度「オフフック」ボタンを押すと、通話中着信の通話相手を切り替えることができます。

### 知識

この機能は、電話機が通話中着信機能に対応している場合のみ使用できます。

### 登録済み携帯電話の接続状態の切り替え

1. 「FUNC」ボタンを押します。
  2. ロータリーノブを回して「BLUETOOTH」を選択し、ロータリーノブを押します。
  3. ロータリーノブを回して「LIST PHONE」を選択し、ロータリーノブを押します。
  4. ロータリーノブを回して携帯電話名を選び、ロータリーノブを押します。
  5. ロータリーノブを回して表示項目を選び、ロータリーノブを押します。
- 選択:登録した携帯電話を接続します。ディスプレイに「SEARCHING」が表示されます。
  - 切断:登録した携帯電話を切断します。ディスプレイに「DISCONNECT?」と表示されたら、ロータリーノブを押します。
  - 削除:登録した携帯電話を削除します。ディスプレイに「DELETE?」と

表示されたら、ロータリーノブを押します。

### ハンズフリー音量を調節する

1. 「FUNC」 ボタンを押します。
2. ロータリーノブを回して「BLUETOOTH」を選択し、ロータリーノブを押します。
3. ロータリーノブを回して「HF SOUND」を選択し、ロータリーノブを押します。
4. ロータリーノブを回して調整項目を選択し、ロータリーノブを押します。
5. ロータリーノブを回します。

右に回す：音量を上げます。

左に回す：音量を下げます。調節した音量が保存されます。

着信中や通話中に音量を調節する場合は、「音量を設定する」(→ P.8-8)

## オーディオシステムについて

### USB メモリの規格

- 対応ファイルシステム:FAT16/32
- 再生可能なオーディオフォーマット:MP3/WMA
- 対応機器:USB2.0(フルスピード)
- 対応機器:USB マスストレージクラス
- 本機は外付けハードディスク(ポケットハードディスクドライブ)には対応していません。
- HUB などを使った接続には対応していません。

### 再生可能な MP3 ファイルの規格

- 対応規格:MPEG-1 Audio Layer III、MPEG-2 Audio Layer III
- 対応サンプリング周波数:MPEG-1:32, 44.1, 48 (kHz)、MPEG-2:16, 22.05, 24 (kHz)
- 対応ビットレート:  
MPEG1:32, 40, 48, 56, 64, 80, 96,112,128,160,192,224,256,320 (kbps)  
MPEG2:8, 16, 24, 32, 40, 48, 56, 64, 80, 96,112,128,160 (kbps)
- 可変ビットレート (VBR) がサポートされています。
- フリーフォーマットはサポートしていません。
- デジタル著作権管理 (DRM) はサポートしていません。

- 対応チャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

### 再生可能な WMA ファイル規格

- 対応チャンネルモード：  
WMA Ver. 7, WMA Ver. 8, WMA Ver. 9
- 対応サンプリング周波数：  
32, 44.1, 48 (kHz)
- 対応ビットレート：  
Ver. 7, 8: CBR 48, 64, 80, 96,  
128, 160, 192 (kbps)  
Ver. 9 (9.1/9.2): CBR 48, 64, 80,  
96, 128, 160, 192, 256, 320 (kbps)  
2チャンネル再生のみ対応
- 可変ビットレート (VBR) に対応しています。
- 可逆圧縮には対応していません。

### ID3 タグ / WMA タグ

- MP3/WMA ファイルには、曲名やアーティストなどのデータを保存するための情報を入力できる「ID3 タグ / WMA タグ」があります。
- 本デッキは ID3 Ver.1.0、1.1、2.2、2.3、WMA タグに対応していません。

### MP3/WMA ファイル / フォルダ名 の表示順序

同階層内の MP3/WMA フォルダー / ファイル名は以下の順序で表示されます。

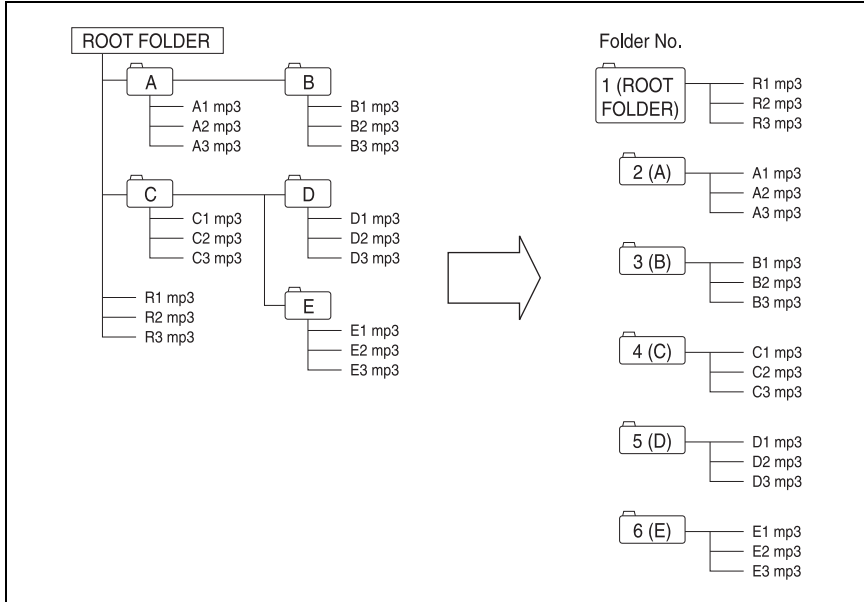
1. 「MP3/WMA」フォルダを数字、アルファベットの昇順で表示し

ます。USB メディアのルート直下に保存されているファイルは「ROOT FOLDER」に保存されません。

2. 次にファイルを数字、アルファベットの昇順で表示します。USB メディアはすでに本機にセットされているものとしません。

## MP3/WMA ファイル構成例

ユーザーが作成したフォルダを以下のように再構成します。



### 知識

- ここでは、上記の MP3/WMA ファイルの構成例に基づいて説明します。
- 通常は、ファイルの先頭から順に再生されます。

### Bluetooth® について



Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、株式会社デ

ンソーテンはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商号は、それぞれの所有者に帰属します。

対応する Bluetooth® の仕様  
:Bluetooth® 仕様 Ver.5.1+EDR

対応プロファイル：

- ハンズフリープロファイル (HFP) Ver.1.5
- Advanced Audio Distribution Profile (A2DP) Ver.1.2
- オーディオ/ビデオリモートコントロールプロファイル (AVRCP) Ver.1.3

Bluetooth® ハンズフリー / オーディオの動作は、携帯電話との互換性に依存します。

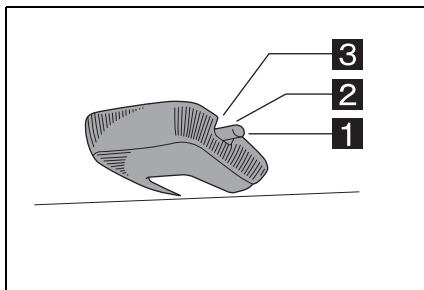
Bluetooth<sup>®</sup> ハンズフリーの動作は、携帯電話のネットワークや端末、運転状況によって影響を受ける場合があります。

携帯電話の機種によっては、システムの機能が一部制限される場合があります。

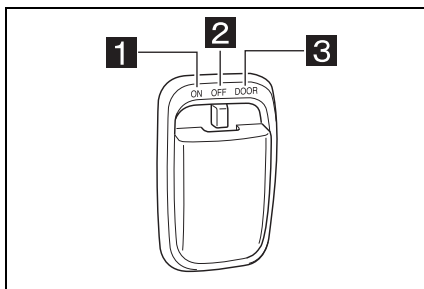
本機を介した携帯機器の動作は、携帯機器の仕様によって異なります。

## フロントルームランプ

### ▶ 標準キャブ車



### ▶ ワイドキャブ車



#### 1 ON

ドアの開閉にかかわらずランプが点灯します。

#### 2 OFF

ドアの開閉にかかわらずランプが消灯します。

#### 3 DOOR

ドアを開けると点灯し、閉じると消灯します。

### 👉 アドバイス

#### ■ フロントルームランプについて

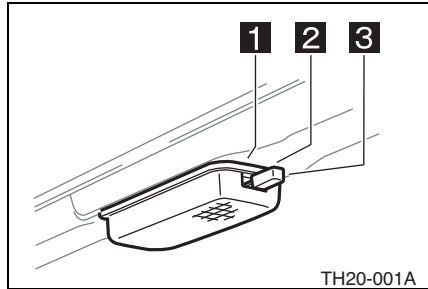
- エンジンを止めた状態で長時間点灯させると、バッテリーあがりを起こす原因になります。

- ダブルキャブ車（標準キャブ）は、リヤドアの開閉によるランプ点灯消灯切り替えは行えません。

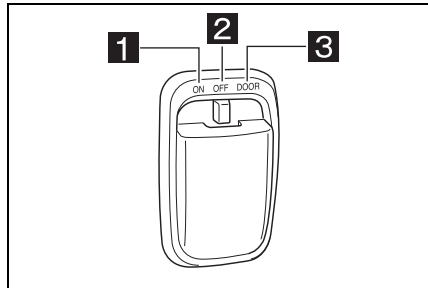
## リヤルームランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ▶ 標準キャブ車



### ▶ ワイドキャブ車



#### 1 ON

ドアの開閉にかかわらずランプが点灯します。

#### 2 OFF

ドアの開閉にかかわらずランプが消灯します。

#### 3 DOOR

ドアを開けると点灯し、閉じると消灯します。

### 👉 アドバイス

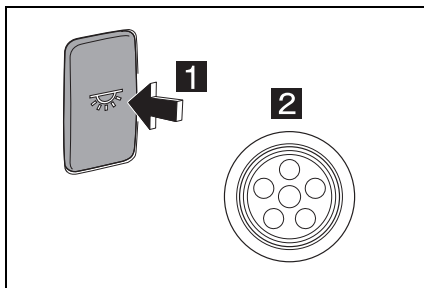
#### ■ リヤルームランプについて

- エンジンを止めた状態で長時間点灯させると、バッテリーあがりを起こす原因になります。

- ダブルキャブ車（標準キャブ）は、リヤドアの開閉によるランプ点灯消灯切り替えは行えません。

## 室内 LED 灯★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



**1** ON/OFF

**2** 室内 LED 灯

\* エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。

### アドバイス

#### ■ 室内 LED 灯について

エンジンを止めた状態で長時間点灯させると、バッテリーあがりを起こす原因になります。

### 警告

#### ■ 室内 LED 灯について

走行中使用しないでください。明るくなった室内がガラスに写るため、外の道路状況が判断しにくくなり事故の原因になります。

## デジタルインナーミラー

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する運転補助装置です。切り替えスイッチを操作することで鏡面ミラーからデジタルインナーミラーに切り替えることができます。

荷物や架装などで視界をさえぎられずに後方を確認することができるため、優れた後方視認性を確保できます。

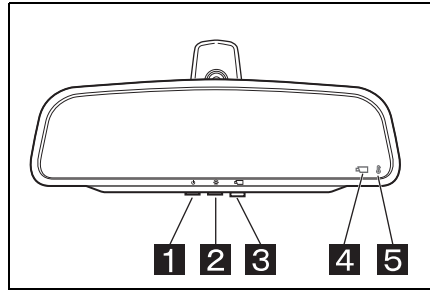
### ▲ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

#### ■ デジタルインナーミラーをお使いになる前に

- 走行前に必ずミラーの調整を行ってください。
- 走行前にディスプレイに表示される映像に異常がある場合には、「故障とお考えになる前に」を確認してください。(→ P.8-41)  
処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ、それぞれの違いを認識した上で安全運転を心がけてください。

### 各部の名称



#### 1 電源スイッチ

- デジタルインナーミラーの電源を ON/OFF します。
- 電源が ON のとき、シフトレバーを「R」にするとデジタルミラーモード「近接後方」が表示されます。

#### 2 輝度スイッチ

ディスプレイの明るさを調整します。

#### 3 カメラスイッチ

- デジタルミラーモード「遠方後方」と鏡面ミラーモードの切り替えを行います。
- 電源が ON のとき、橙色に点灯します。

#### 4 カメラインジケータ


カメラが正常に作動していることを示します。

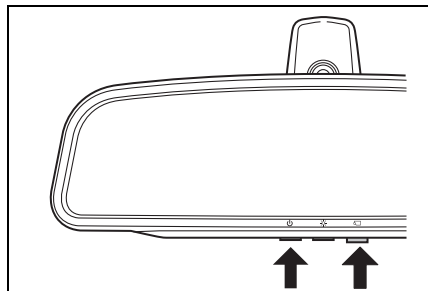
#### 5 温度異常ウォーニング

デジタルインナーミラーの温度が非常に高いときに表示されます。

### モードを切り替えるには

- 電源スイッチとカメラスイッチを押すごとにデジタルミラーモードと鏡面ミラーモードの切り替えを行います

- **デジタルミラーモード**：車両後方の映像を表示します。デジタルミラーモードは、「近接後方」と「遠方後方」の2つがあります。(→P.5-58)
- \* ディスプレイに「」が表示されます。
- **鏡面ミラーモード**：電源スイッチがOFFかつ、シフトレバーが「R」位置以外るとき、映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。



## 知識

### ■ デジタルミラーモードの作動条件

エンジンスイッチが「ON」のとき  
エンジンスイッチが「ON」から  
「OFF」または「ACC」にすると数秒後に表示が消えます。

### ■ デジタルミラーモード「近接後方」

電源スイッチが「ON」のとき、シフトレバーを「R」の位置にすると「近接後方」が表示されます。

### ■ デジタルミラーモード「近接後方 (小画面)」

電源スイッチが「OFF」のとき、シフトレバーを「R」位置にするとインナーミラーの左側に「近接後方」が小さく表示されます。

### ■ デジタルミラーモード「遠方後方」

- 電源スイッチが「ON」のときにカメラスイッチを押すと「遠方後方」が表示されます。
- 「遠方後方」はシフトレバーが「R」の位置以外るときに表示されます。シフトレバーを「R」にすると「近接後方」が表示されます。

### ■ デジタルミラーモードについて

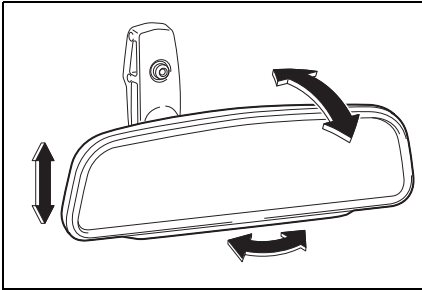
- ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴やほこりが付いているなどでディスプレイに表示される映像が見にくい場合や、後続車のライトのちらつきや圧迫感が気になる場合は鏡面ミラーモードに切り替えてください。
- 夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - ・ 映像の色と実際の色が異なって見える。
  - ・ 後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える。
  - ・ 周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する。
  - ・ 映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、鏡面ミラーモードに切り替えてください。
- デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。
- 体調、年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間が掛かる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、鏡面ミラーモードに切り替えてください。

- 主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

## 調整をするには

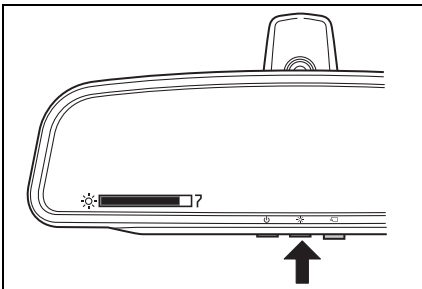
### ■ ミラー本体の調整

インナーミラー本体を持ち、運転姿勢にあわせてインナーミラーを調整します。



### ■ モニターの調整（デジタルミラーモード）

輝度スイッチを押して、モニターの明るさを調整します。



## 知識

- 明るさは尾灯が ON、OFF それぞれの状態ですべて調整できます。
- 明るさは 8 段階で調整することができ、エンジンスイッチを「ON」から「OFF」にしても明るさのレベルは記憶されます。
- 初期設定は、尾灯 ON 時はレベル 3、OFF 時はレベル 8 となります。（デジタルミラーモード「近接後方」）
- 初期設定は、尾灯 ON 時はレベル 2、OFF 時はレベル 7 となります。（デジタルミラーモード「遠方後方」）
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。目が疲れた場合には、鏡面ミラーモードに切り替えてご使用ください。

## ▲ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な障害に及ぶか、最悪の場合、死亡事故につながるおそれがあります。

### ■ デジタルインナーミラーをお使いになる前に

- 走行前にミラーの調整を行ってください。
- モニターに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。
- 走行前にディスプレイに表示される映像に異常がある場合には、「故障とお考えになる前に」を確認してください。（→ P.8-41）  
処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

### ■ 走行中の注意事項

- 走行中はミラーの位置やスイッチ操作をしないでください。デジタルインナーミラーの操作スイッチは安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作するとハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 必ず車両周辺の状況を直接確認してください。デジタルミラーモード使用時は、モニター上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。夜間など暗いところで後続車が接近した場合は、周囲が暗く映る場合があります。
- シフトレバーを「R」位置に操作しても映像が切り替わらなかったり、ミラーのスイッチで操作ができない場合、配線やミラー本体の故障の恐れがあります。車両後方の映像が表示されず危険なためトヨタ販売店で点検を受けてください。

## お手入れについて

### ■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見にくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

### ■ カメラのお手入れについて

カメラのレンズが汚れていると、鮮明な画像が得られません。水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着したときは、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズを清掃してください。

## △ 注意

### ■ デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

ミラー本体の取り外し・分解・改造はしないでください。

■ **カメラの故障や誤作動を防ぐために**  
デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。




- カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
- カメラ部は取り外し・分解・改造をしないでください。
- カメラレンズを水で洗うときは大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせたやわらかい布をふき取ってください。カメラレンズを強くこするとレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
- カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
- 寒いときにお湯をかけるなど、急激な温度変化を与えないでください。
- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

## 故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に下記のような症状で気になったりお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

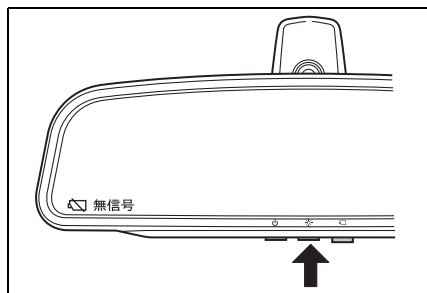
処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい。	ミラー表面が汚れている。	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光）がデジタルインナーミラーに当たった。	電源スイッチを OFF にして、鏡面ミラーモードに切り替えてください。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夜間暗いところで使用した。</li> <li>・ テレビ局、放送局、発電所、漁港など強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した。</li> <li>・ カメラの付近温度が高いまたは低い。</li> <li>・ 外気温が低い。</li> <li>・ 太陽光やヘッドランプの光が直接カメラレンズに当たった。</li> <li>・ 蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの照明の下で使用した。</li> <li>・ 排気ガスが映りこんでいる。</li> </ul>	電源スイッチを OFF にして、鏡面ミラーモードに切り替えてください。（カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください。
	カメラのレンズに水滴、雪、泥などの異物が付着している。	鏡面ミラーモードに切り替えてください。 大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってから、再びデジタルミラーモードをご使用ください。
ディスプレイに表示される映像が見えない。	荷台のあおりが下がっている。	荷台のあおりを閉めてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像がずれている。	カメラ部に強い衝撃が与えられた。	鏡面ミラーモードに切り替えて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
カメラスイッチが点滅する。	システムに異常が発生した。	鏡面ミラーモードに切り替えて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイに「  」が表示されている。	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い。	ミラーの温度下げるために車室内の温度を下げることを推奨します。ミラーの温度が下がると「  」が消えます。ミラーの温度が下がっても「  」が消えない場合は、鏡面ミラーモードに切り替えてトヨタ販売店で点検を受けてください。

### 警告メッセージについて

バックカメラの接続不良や電源供給に不具合が発生したとき、モニターに警告メッセージを表示します。デジタルインナーミラーは不具合を検知して7秒後にシステムをOFFにし、鏡面ミラーへ移行します。



### 自己診断機能について

デジタルインナーミラーは不具合を検知すると、カメラスイッチを点滅させ、運転者に通知します。

#### ■LCD パネルモジュールのオーバーヒート

- カメラスイッチ部が3回点滅します。
- LCD パネルが非常に高温となり、異常が発生しています。

#### ■LED ドライバーおよびバックライトエラー

- カメラスイッチ部が4回点滅します。
- LED ドライバーに異常が発生しています。

#### ■LCD パネルモジュール故障

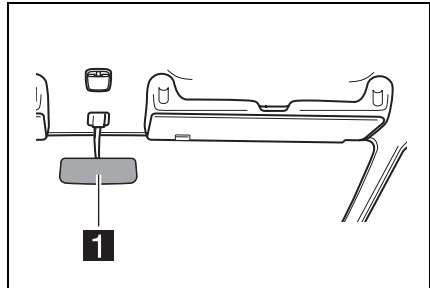
- カメラスイッチ部が5回点滅します。

- LCD パネルに異常が発生しています。
- **バックカメラ入力信号異常**
- カメラスイッチ部が6回点滅します。
- バックカメラからの映像に異常またはケーブルの断線が発生しています。
- **バックカメラ電源供給異常**
- カメラスイッチ部が7回点滅します。
- バックカメラへの電源供給が過負荷またはケーブルのショートが発生しています。
- **システム異常**
- カメラスイッチ部が8回点滅します。
- LCD パネル内部の通信異常が発生しています。

## インナーミラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

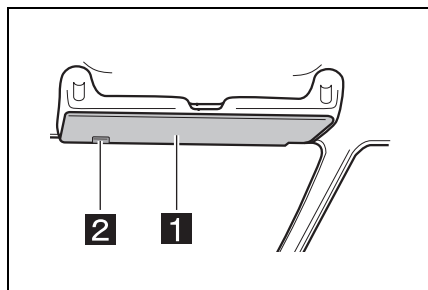
後方の確認がしやすいように調整します。



1 インナーミラー

## サンバイザー

直射日光から目を保護します。角度を自由に変えて使用します。ドアガラス側に回すことによりサイドバイザーとしても使用できます。



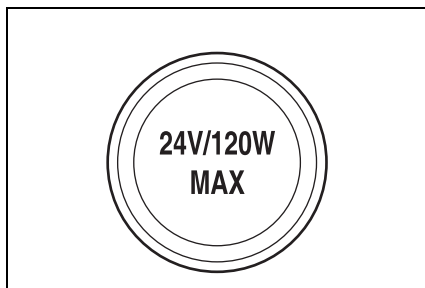
**1** サンバイザー

**2** フック

\* フロントガラスでサンバイザーを使用するときは、必ずフックに掛けてください。

## アクセサリソケット

エンジンスイッチが「ACC」または「ON」位置のとき、市販されている 24V の電気器具を接続し使用することができます。



- 24 V 電気器具のプラグを接続し使用することができます。
- 使用するときには 24 V ソケットのキャップを開けて、電気器具のプラグを接続します。
- \* 乗用車用 12 V 電気器具は使用しないでください。

### ⚠ 警告

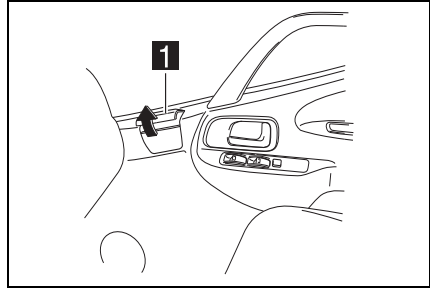
- 許容負荷は 24 V ソケットが 5 A (24 V-120 W) です。許容負荷以上で使用するとヒューズの早期切れまたはソケットおよび配線が過熱して火災の原因になります。
- ソケット、コネクターの電源は 24 V です。電源の合っていない電気器具を使用すると器具が過熱し、故障や火災の原因になります。
- ソケットの金属部分に触れないでください。過熱し、やけどをするおそれがあります。

- ヒューズ類は必ず既定のアンペア（15 A）のものを使用してください。また、ヒューズの代わりに針金や銅線を使わないでください。規定アンペア以上のものを使用すると、配線の過熱などによる火災の原因になります。
- 故障やショートの原因となりますのでソケット部に異物をいれたり、水や液体をかけないでください。また、使用しないときはフタを必ず閉じてください。
- エンジン停止した状態で電気器具を使用するとバッテリーあがりを起こす原因となります。

## 灰皿★

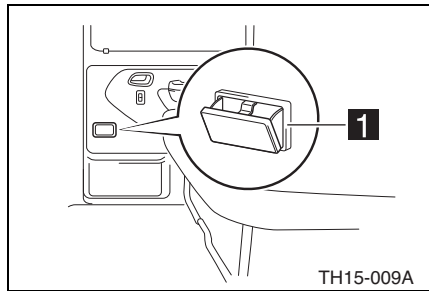
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ▶ 前部席のドア側



### 1 灰皿

### ▶ 後部席ドア側（ダブルキャブ車）



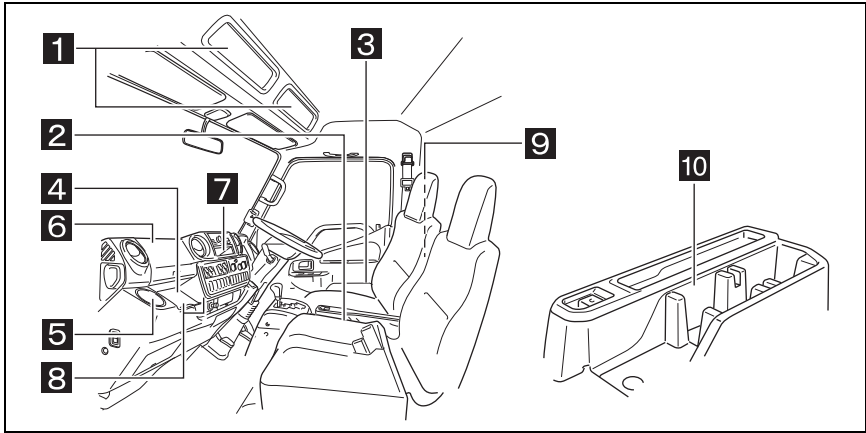
### 1 灰皿

## ▲ 警告

- 火災を防ぐために以下のことを必ず守ってください。
- マッチ・タバコなどの火は完全に消してから灰皿に入れてください。吸いながら延焼して火災の原因になります。
- 使用後は必ずふたを閉めてください。
- 灰皿の中には吸いがら以外の物（特に紙くずや空箱などの燃えやすいもの）を入れないでください。

- 灰皿の中には吸いがらをためすぎないでください。
- 火のついたタバコや吸いがらなどは絶対に窓の外に投げ捨てないでください。道路を汚すばかりでなく、火災の原因になります。

## コンソールボックス類



- 1** オーバーヘッドコンソール★
- 2** シートバックトレイ★
- 3** ドアポケット
- 4** オープントレイ
- 5** ボトルホルダー
- 6** アッパーボックス
- 7** 物入れ
- 8** 買い物フック
- 9** シートバックポケット★
- 10** センターコンソール★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

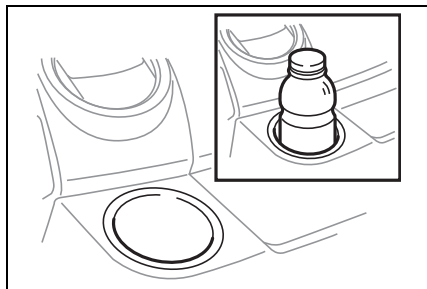
\* コンソールボックス類はお車の仕様により異なります。

\* ボックス類のドアを開けた状態で走行しないでください。

\* ボックス類の中に高温で危険になるもの（ライター、強燃性スプレー缶、ペットボトルなど）や、変形するおそれがあるものは入れないでください。

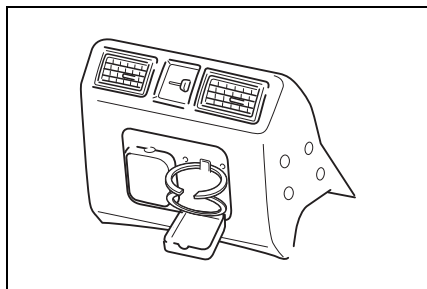
### ボトルホルダー

- ペットボトルなどのボトル類を入れて使します。
- キャップ付きボトル以外は置かないでください。



#### ▶ リヤクーラー付き車（ダブルキャブ車）

ボタンを押すと、ボトルホルダーが展開します。使用しないときは収納してください。

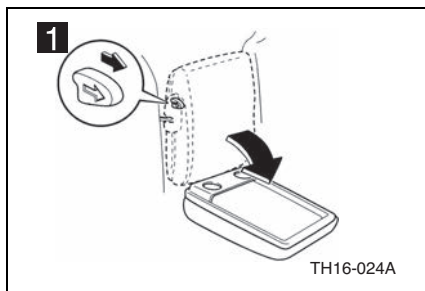


### シートバックトレイ★

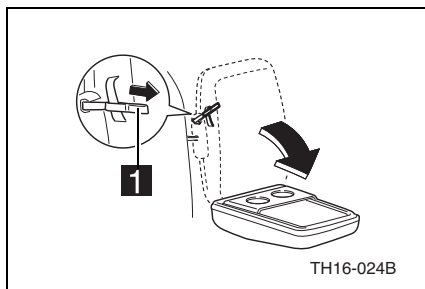
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

使用するときは、ロック解除レバーまたはロック解除ストラップを引いて、背もたれを前に倒します。

#### ▶ 標準キャブ車



#### 1 ロック解除レバー

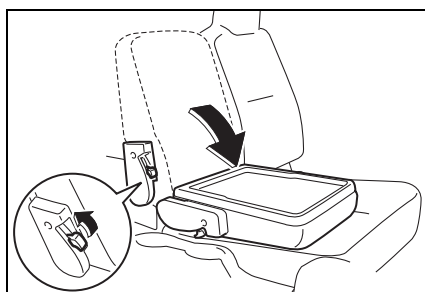


#### 1 ロック解除ストラップ

#### ▶ ワイドキャブ車

- 使用するときは、ロック解除レバーを引いて、背もたれを前に倒します。

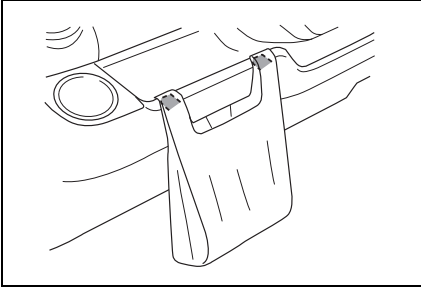
\* トレイとして使用できます。



### 買い物フック

コンビニ袋やゴミ袋などをかけて使します。

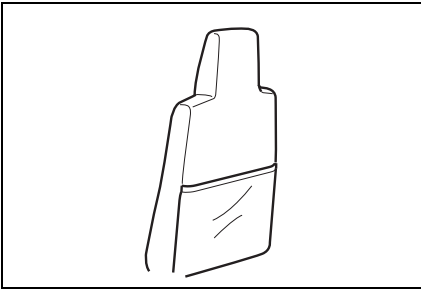
- \* 買い物フック（2カ所）の耐荷重は各1kg以下です。



### シートバックポケット★

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

雑誌などを入れて使用します。



### ⚠ 警告

#### ■ コンソールボックスについて

- オーバーヘッドコンソールに重いもの（3kg以上）や工具等の落ちやすいものを載せないでください。走行中落下して、運転のさまたげになるおそれがあります。
- 走行する前にシートバックトレイが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定していないと急ブレーキをかけたときなどにシートバックトレイが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

#### ■ ボトルホルダーについて

- ボトルホルダーには、キャップ付きボトル以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。
- 急ブレーキをかけたときや衝突時に、ボトルホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。ボトルホルダーを使用しないときは収納しておいてください。
- キャブチルト操作をするときは、ボトルホルダーに飲料などが無いことを確認してください。電気部品などにかかる故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

### ⚠ 注意

#### ■ シートバックトレイについて

シートバックトレイの上に乗ったり、大きな力を加えないでください。損傷するおそれがあります。

#### ■ ボトルホルダーについて

破損するおそれがあるため、ボトルホルダーに手をついたり、足で踏んだりしないでください。



## 正しい運転操作

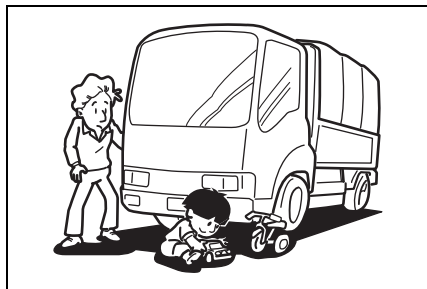
## 9

発進前の準備 .....	P.9-2
走行時の注意 .....	P.9-4
駐・停車時の注意 .....	P.9-11
積荷 .....	P.9-13

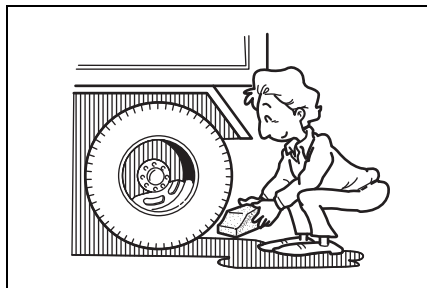
## 発進前の準備

### エンジン始動前の準備

1. 乗車する前に、車の周りに人や障害物がないことを確認する。



2. パーキングブレーキが確実に効いていることを確認する。
3. タイヤの前後に輪止めが掛けてある場合には外す。



4. 正しい運転姿勢がとれるようにドライバーシート、ハンドルを調整する。



5. 後方や側方および直前・直左の状況が十分に確認できるように、各ミラーを調整する。



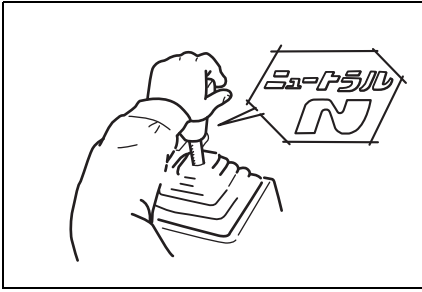
6. シートベルトを正しく着用する。



7. 不要なランプやアクセサリ類のスイッチを切る。



8. シフトレバーを「N」（AT車は「P」）の位置にあることを確認する。



### エンジンの始動・暖機

- \* エンジンの始動方法には、「通常またはエンジンが暖まっているとき」と「寒冷時にエンジンをかけるとき」があります。(→P.5-13)
- \* エンジンの暖機運転 (→P.5-17)

### メーターパネル内の確認、レバー操作

以下の条件で発進してください。

1. 水温計の針が適正温度域内を指示
2. 警告灯消灯
3. パーキングブレーキを解除する。
4. 発進は、1速または2速から静かに

### ▲警告

#### ■ エンジンスイッチについて

エンジンスイッチを抜いたまま、または「LOCK」の位置にしたまま絶対に走行しないでください。ハンドルがロックされ操作ができなくなり危険です。

#### ■ エンジン始動について

万一の急発進にそなえ必ずドライバーシートに座りエンジンをかけてください。(→P.9-2)

## 走行時の注意

走行中は次の点に注意するほか、異常が認められたら、ただちに安全な場所に停車させて、点検してください。なお、原因が不明なときや整備が困難なときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

### 走行中の注意

- エンジンスイッチは「ON」の位置以外にしないでください

警告灯類・メーター類の電気回路が作動しないだけでなく、電気部品をこわすおそれがあります。

- 各警告灯（赤ランプ）が消えているのが正常です

点灯またはブザーが鳴ったら、ただちに安全な場所に停車させて、点検してください。

- シフトレバーの操作は、ゆっくり行ってください

急発進・急停車は、緊急のとき以外ではできるだけ避けてください。

- 各ミラーは、常に車両の直前・直左・側方・後方の状況が十分に確認できる位置に調整しておいてください

- 異音・異常振動・異臭に注意してください

異常を認めたときはただちに安全な場所に停車させて点検してください。

- 過負荷運転はしないでください

過負荷状態で長時間運転すると、車両各部に悪影響をおよぼします。

- ブレーキ優先制御

アクセルペダルを踏んでいる状態でブレーキペダルを踏むと、エンジン出力が抑制され、ブレーキ力を優先します。

- 最大積載量を守ってください

過積載は法律で禁じられているだけでなく、車両各部に悪影響をおよぼしたり、事故の原因にもなります。

- 走行中は絶対にエンジンを止めないでください

・ ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

・ パワーステアリングが作動しない状態となり、ハンドルが急に重くなります。

- クラッチペダルを踏んだまま、またニュートラルのまま走行しないでください

・ エンジンブレーキ、排気ブレーキが効かなくなります。

・ クラッチペダルに足を乗せたまま運転しないでください。

- 半クラッチは、できるだけ使わないでください

クラッチを摩耗させる大きな原因になります。

- カーブを曲がるときは、あらかじめ減速してください

・ 内輪差に注意し、狭い街中などではアウターミラーにより十分後方・側方を確認してください。

・ ハンドルを切りながら強くブレーキをかけると、タイヤがスリップし、車両の最後部が流れたりすることがあります。

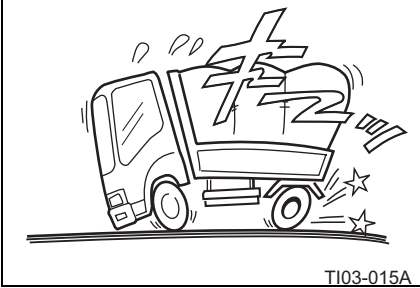
・ 滑りやすい路面（ぬれた路面・凍結路面・雪路など）では、スリップして方向を失いやすくなりますので、ブレーキのかけ方には注意してください。

・ 急ハンドルはタイヤを摩耗させるばかりでなく、車両の横転やスピンの原因になることがあります。

- ・ ハンドルが急に重くなるなど、異常を認めたときは、ただちに安全な場所に停車させて、点検してください。

### ■ 急ブレーキ

- \* 緊急時はブレーキペダルをいっぱい踏み込んでください。急ブレーキがかなり急停車します。



### 上り坂・下り坂の走行

#### ■ 上り坂

#### ■ 下り坂

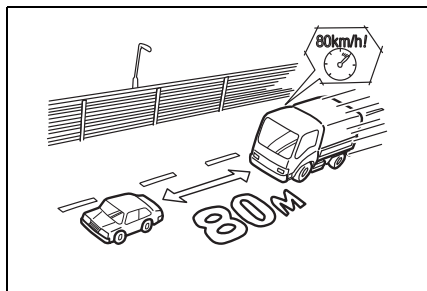
- 急勾配や長い坂道を下るときは、あらかじめブレーキをかけ、ブレーキが正常に作動することを確認してください。
- 下り坂では上り坂と同じ変速段を使用し、エンジンブレーキ、排気ブレーキを有効活用し、必要に応じてフットブレーキを併用して、スピードの出しすぎに注意してください。また、これによりフットブレーキの負担を少なくすることができます。
- 下り坂ではエンジンをオーバーランさせないように注意してください。
- シフトダウンするときは、十分減速してからギヤチェンジを行ってください。

### 高速道路の走行

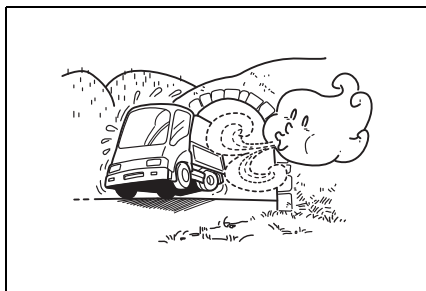
高速道路では、一般道路と比較して、ほとんど支障のないような小さな原因でも大事にいたるおそれがあります。

安全運転を心掛けるとともに、次のことを守って走行してください。

- 日常（運行前）点検を確実に行ってください。燃料、冷却水、エンジンオイル、Vベルト、タイヤは念入りに点検してください。（→P.12-1）
- シートベルトは必ず着用してください。
- 本線へ進入するときは、方向指示灯で早めに合図し、加速車線で十分加速しながら、後方および本線上の車の流れを十分確認してください。
- 高速走行は、速度に対するスピード感が大幅に鈍くなります。速度は常にスピードメーターにより確認してください。
- 高速では、わずかなハンドル操作でも車は大きく移動します。ハンドルは徐々に操作してください。
- 車間距離は十分とってください。
- 車間距離は少なくとも速度（km/h）を距離（m）におきかえた数値をあげてください。80 km/h で走行しているときは 80 m の車間距離をとるようにします。また、レーンを変更するときは、特に後続車に注意し早めに合図してください。



- 雨天時はスピードを控えめにしてください。スリップを起こしたりタイヤが浮いてハンドルやブレーキがきかなくなるハイドロプレーニング現象が発生することがあります。
- 急ブレーキはスピンやスリップを起こしやすく非常に危険です。
- 急ブレーキをかける必要のない運転を心掛けてください。
- フットブレーキを使いすぎるとブレーキが過熱し、フェード現象、ベーパーロック現象の発生やブレーキドラムまたはディスクローターおよびライニングまたはパッドそのほかの部品の早期摩耗・寿命短縮を招きます。
- エンジンブレーキ、排気ブレーキを効果的に使い、必要に応じてフットブレーキを使用するように心掛けてください。
- 横風に注意してください。特にトンネルの出口付近や切り通しを出たとき、横風を受けて車体が流されることがありますが、あわてずに速度を下げながら徐々に進路を修正してください。



- 本線から出るときは、合図を早めに行いエンジンブレーキ、排気ブレーキを有効活用し、必要に応じてフットブレーキなどを併用し、適切にシフトダウンをしながら減速して、減速車線に移動してください。

### 悪路の走行

砂利道、泥道などは低速ギヤでゆっくり走行してください。



### 悪天候時の走行

- 雨の降りはじめは、特にスリップしやすく危険です。車速を落とし、急ブレーキを避けて、十分注意しながら走行してください。



- 水たまりを走行すると、ブレーキの効きが低下することがありますので、注意してください。
- 霧のときは、フォグランプを点灯させ、センターラインや前方をよく確認し、低速で走行してください。
- 雪路または凍結路を走行するときは、タイヤチェーン、スノータイヤ、スタッドレスタイヤなどを装着し、スピードを控えめにしてください。



- 雪路または凍結路では、スリップしやすく危険です。急ブレーキや急ハンドル操作は避け、車間距離を大きくとり、十分注意しながら走行してください。

## ABS 付き車の運転上の注意

ABS は決して万能な装置ではなく、限界を超えた走行・停止を可能とするものではありません。

運転する場合は、次の注意事項に留意の上、安全運転を行ってください。

- ABS 付き車であっても滑りやすい路面上での制動距離は、通常の乾燥舗装路に比べ長くなります。深い雪・砂利道などでは ABS が作動すると、制動距離が若干延びることもあります。
- 路面の状態とタイヤの状態（タイヤの種類・摩耗状態など）を常に考慮し、安全運転を守り、車間距離を適正に保って走行してください。
- ABS は車両の発進、加速、旋回など制動時以外で生じる車輪のスリップには働きません。また、非常に滑りやすい凍結した路面などでは、タイヤのグリップ力が低下し、ハンドルが適正に切れず、車両が不安定となることがあります。常に、路面およびタイヤの状態に合った安全速度を守って走行し、急ブレーキを避けるようにしてください。
- 非常に滑りやすい凍結した路面などでは、強いエンブレキを働かせると、駆動輪がロックし、車両が不安定となることがあります。（この場合には、ABS は作動しません）このようなときは、クラッチを切るか、シフトレバーを「N」の位置にし、駆動輪へのエンブレキ

キの作用を一度断った後、適正なレバー位置にして走行してください。

- ABS が作動すると、ハンドルに若干の振動（特に、左右輪の路面状態が異なる場合）および取られを感じる場合があります。また、ABS 機器から作動音が発生します。これらは、異常ではありません。あわてずに、適切なハンドル操作を行ってください。
- ブレーキペダルを踏んだとき、作動音とともにペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS が正常に作動しているときの現象で異常ではありません。さらにブレーキペダルを強く踏み続けてください。
- ABS が装着されていない車両と同様、タイヤの状態と路面の状態を常に考慮し、安全速度を守り、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、安全運転を心掛けてください。
- 指定サイズ以外のタイヤを装着するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

### ブレーキ油圧加圧機能付き車の運転上の注意

決して万能な装置ではなく、限界を超えた走行からの安定した停止を可能とするものではありません。

### TRC 付き車の運転上の注意

TRC は決して万能な装置ではなく、限界を超えた走行を可能とするものではありません。

運転する場合は、次の注意事項に留意の上、安全運転を行ってください。

- TRC 付き車は、滑りやすい路面において発進・加速時のタイヤの空転を抑え、駆動の確保を補助しますが、タイヤのグリップ力が上がるわけではありません。
- TRC が作動すると、アクセルペダルを踏み込んでいてもエンジン回転数が低下することがありますが、TRC のエンジンコントロールが作動するため、異常ではありません。
- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。
- 指定サイズ以外のタイヤを装着するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

### アドバイス

- TRC を装着していてもアクセル、クラッチの急な操作は避けてください

特に、滑りやすい路面での発進は TRC を装着していない車と同様に半クラッチを効果的に使い、静かに発進してください。

## ヒルスタートアシストコントロール付き車の運転上の注意★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときにシステムが作動します。

- オートマチック車：シフトレバーの位置がPまたはN以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない
- エンジンスイッチがON

### ■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- オートマチック車：シフトレバーをPまたはNの位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した
- エンジンスイッチをOFFにした

## 知識

### ■エンジンプレーキとは

走行中、アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ力です。

\* 低速ギヤほどよく効きます。

### ■フェード現象とは

ブレーキの摩擦面が過熱すると摩擦力が減少するため、同じ力でブレーキペダルを踏んでもブレーキの効が悪くなる現象です。

### ■ペーパーロック現象とは

ブレーキの摩擦熱によりブレーキ液が過熱されて沸騰し、気泡が発生して、ブレーキペダルを踏み込んでも気泡を圧縮するだけでブレーキ力にならない現象です。

### ■オーバーランとは

エンジンの許容最高回転数を超えて回転させることです。

\* 各部に無理が生じてエンジンなどを破損させることとなります。

### ■ハイドロプレーニング現象とは

路面が水でおおわれているときに高速で走行すると、ある速度以上になると水上スキーのようにタイヤが水の膜の上を滑走する状態になり、操縦不能になることをいいます。

### ■ABS（アンチロックブレーキシステム）とは

雪路などの滑りやすい路面で急ブレーキをかけても車輪がロックしないようにし、車両の尻ふりなどを抑え車両を安定した状態で停止しやすくする装置です。

### ■ブレーキ油圧加圧機能とは

ブレーキブースターの助勢効果が低下したとき、ブレーキ油圧を加圧し必要なブレーキ性能を確保する機能です。

### ■ TRC (トラクションコントロール) とは

雪路・氷結路などの滑りやすい路面で、駆動輪の空転を減少させ、発進・加速性、直進性、登坂性の向上によりドライバーの負担を減らし、走行安定性を確保しようとする装置です。

### ■ VSC (ビークルスタビリティコントロール) とは

急なハンドル操作や旋回時に発生する車両の横滑りやロール現象を軽減する装置です。

### ■ ヒルスタートアシストコントロールとは

上り坂で発進するとき、車が後退するのを緩和します。

## ▲ 警告

### ■ エンジンブレーキ、排気ブレーキを併用してください

フットブレーキを使いすぎるとブレーキが過熱して「フェード現象」や「ペーパーロック現象」を起こし、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

### ■ シフトレバーを「N」位置で走行しないでください

エンジンブレーキが働かないのでフットブレーキの効きが悪くなります。

### ■ 急ブレーキをかけるときは十分注意してください

停車時強いショックを伴います。

### ■ 緊急時以外は急ブレーキをかけないように心掛けてください

急ブレーキを使いすぎると、タイヤ、ブレーキドラム、ディスクローター、ライニング、パッド等の部品の早期摩耗を起こし、寿命を非常に短くします。

### ■ ハンドルの切り方に応じたブレーキをかけるようにしてください

旋回中の急ブレーキはスピンなどの原因になります。


### ■ ペダルを踏み続けてください

ブレーキ油圧加圧機能が作動してブレーキペダルが大きく動いて床まで達することがありますが、そのままペダルを踏み続けてください。

### ■ オーバーランを起こさないように注意してください

下り坂を走行するときは、シフトダウンを1段ずつ行ってください。

### ■ TRC を過信しないでください

TRC が作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、 ランプが点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

### ■ ABS を過信しないでください

● ABS が作動した状態でも、スリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ABS は過信せず速度を抑え、車間距離を十分にとって安全運転に心がけてください。

● ABS はタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象が起こった場合は効果を発揮できません。

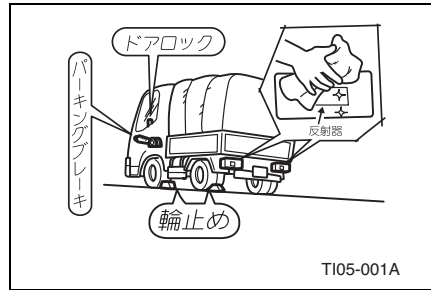
### ■ ABS は制動距離を短くするための装置ではありません

次の場合などは ABS の付いていない車両に比べて制動距離が長くなる場合があります。速度を控えめにして車間距離を十分とってください。

- ・ 砂利道、新雪路を走行しているとき
- ・ タイヤチェーンを装着しているとき
- ・ 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
- ・ 凸凹のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

## 駐・停車時の注意

- 駐停車が許されている場所で、かつほかの交通に迷惑をかけない安全な場所を選んでください。
- 坂道の駐車は避け、平らな場所を選んでください。坂道に駐車すると、駐車中に車が動き、事故につながるおそれがあります。
- やむを得ず、坂道で駐車するときはパーキングブレーキを確実にかけ、車が動かないことを確認してからタイヤの前後に輪止めをかけてください。



- 盗難防止とサイバーセキュリティ対策のため、車内には貴重品を置かず、窓を確実に閉め、キーを抜き取り、ドアロックしてください。
- ほかの交通から駐停車していることが良く分かるように、各ランプのレンズや反射器の汚れを良く拭き取ってください。
- パーキングブレーキレバー★をいっぱいに引いた際、最後に「カチッ」というノッチ音を確認してください。
- フラットスポットを少なくするために駐車時は次の点に注意してください。

- ・ 適正空気圧、適正荷重の励行
- ・ 荷物を積んだままでの長時間駐車を避ける

フラットスポットが発生しやすい	フラットスポットが発生しにくい
バイアスタイヤ	ラジアルタイヤ
新品のタイヤ	摩耗したタイヤ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



## アドバイス

### ■ 万ーのために

縁石など障害物のある方にハンドルを回しておくより安全です。



## 知識

### ■ フラットスポットとは

特に冬期、長時間駐車して、タイヤ接地部の変形がしばらく元に戻らない現象をいいます。走り始めはゴトゴト振動しますが、5～30分の走行で元の状態に戻ります。

## ▲ 警告

### ■ 仮眠するときは必ずエンジンを止めてください

眠っているときに無意識にアクセルペダルを踏み込んだり、シフトレバーを動かしたりすると事故やエンジン・排気管などの異常過熱による火災の原因になり危険です。

### ■ 風通しの悪い所で駐停車しないでください

周囲の状況によっては、排出ガスが車内に侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

### ■ パーキングブレーキはいっばいに引いてください（手動パーキングブレーキ車）

- パーキングブレーキレバーの引きが不足していると駐車中に車が動き、事故につながるおそれがあります。
- パーキングブレーキレバーを引いた際にレバーが正しく噛み合っていないと、レバーがずれて車が動き事故につながるおそれがあります。レバーをいっばいに引き、最後に「カチッ」というノッチ音がすることを確認してください。

- (P) ランプの点灯は、パーキングブレーキレバーの引きが十分であることを示すものではありません。レバーは常にいっばいに引いてください。

### ■ 駐車するときは

坂道に駐車するときや、長時間の駐車および車両の点検・整備などの作業をするときは、危険防止のため必ずタイヤの前後に輪止めを掛けてください。

### ■ ギヤ入れ駐車について

トランスミッションのギヤを入れた状態で駐車する必要があるときは、パーキングブレーキを使用しエンジンが回されても始動しないように、キーを抜き、さらにタイヤの前後に輪止めを掛けてください。

### ■ 枯草や紙くずなど燃えやすい物がある場所に車を止めないでください

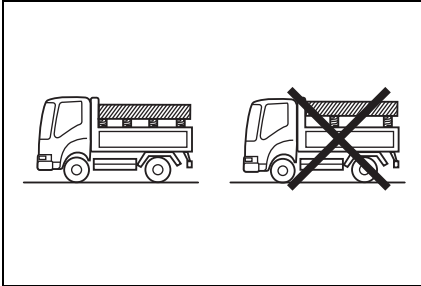
走行直後は排気管やマフラー付近が高温になっています。燃えやすい物が近くにあると火災の原因になります。

## 積荷

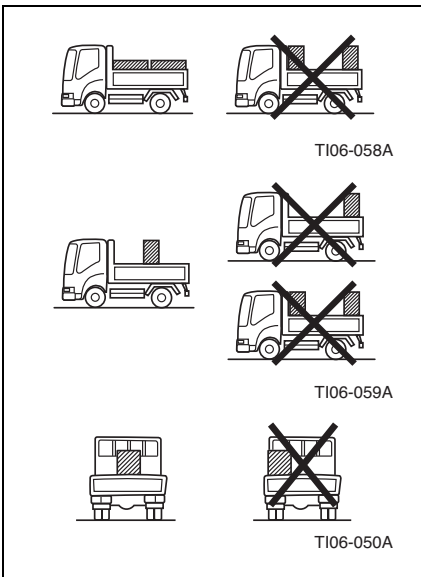
積荷は最大積載量以上に積まないでください。

### 荷の積み方

- 積荷の下にウマを用いるときは、ウマの位置に注意し均等に支えてください。

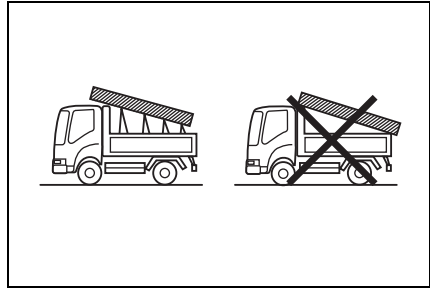


- 積荷は均等に積んでください。均等に積めない場合は極力荷台の中心付近に積んでください。

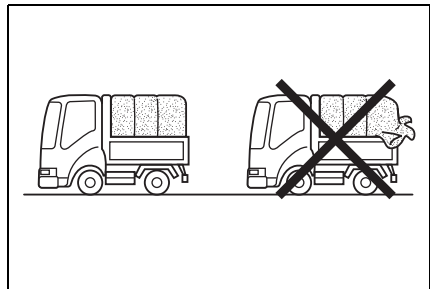


- 長尺物は極力荷台後端より出さずウマを使用してください。な

お、鳥居と荷台後端部の2点で支持するのは危険ですので避けてください。



- ロープ・シート掛けは確実に行ってください。
- \* 積荷が重量物の場合は荷台に確実に固定してください。
- シート、幌などは、バタつかないようにロープなどで確実に固定してください。
- \* 排気管に接触しないように気をつけてください。
- \* 空気取り入れ口をふさがないように気をつけてください。シート、幌などが空気取り入れ口で吸われたときは、出力不足などが発生し、エンジン不調の原因になります。



**▲ 警告****■ 過積載は法律で禁止されています**

過積載をすると、通常より制動距離が延びるなど、思わぬ事故や故障の原因になります。また車両各部の損傷を早めます。

**■ 積荷が滑りやすく、あるいはバランスをくずしやすいときは**

積荷の滑り止めを行い、その上にワイヤーやロープで確実に荷台に固定してください。固定しないと制動時・旋回時に荷くずれを起こすおそれがあります。

**■ シート端やロープをキャブと荷台の間に垂れ下げないでください**

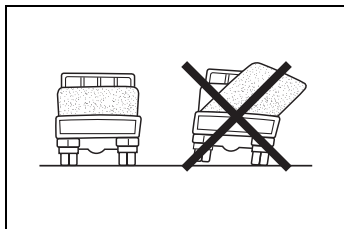
走行中、キャブと荷台の間に燃えやすいものがあると、エンジンの熱により火災の原因になります。

**■ シートやロープを排気管に接触しないようにしてください**

排気管の熱により火災の原因になります。

**■ 荷は高く積まないでください**

横風を受けたときや旋回時に車両が横転するおそれがあります。

**▲ 注意****■ 荷を積むときは誤った積み方をしないでください**

積荷が不安定となり、荷くずれによる重大な事故の原因となるばかりでなく、集中的に荷重がかかり、荷台やフレーム周りを傷めるおそれがあります。

冬期の取り扱い ..... P.10-2

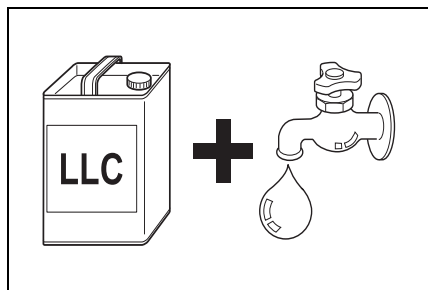
夏期の取り扱い ..... P.10-6

## 冬期の取り扱い

### 冷却水

冷却水の濃度を予想される最低外気温に合った混合割合に調整します。

\* 冷却水の混合割合 (→P.13-22)

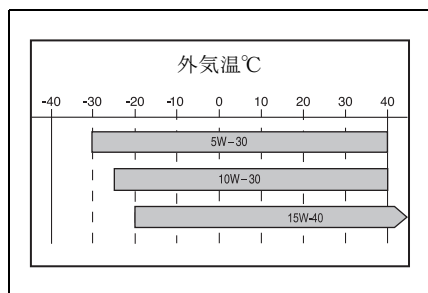


### エンジンオイル

外気温が低下するとエンジンオイルの粘度が高く（硬く）なり、エンジンがまわりにくくなります。冬期に入る前に外気温に合ったオイルに交換します。

\* エンジンオイルの交換 (→P.14-5)


#### ■ エンジンオイルの粘度 (SAE 粘度)



## 燃料

### ■ 軽油の凍結温度

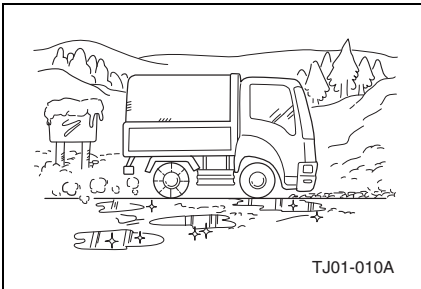
燃料	凍結温度の目安
JIS 特1号軽油	+5℃以下
JIS 1号軽油	-2.5℃以下
JIS 2号軽油	-7.5℃以下
JIS 3号軽油	-20℃以下
JIS 特3号軽油	-30℃以下

- 冬期や寒冷地では燃料が凍結してエンジンが始動しにくくなることがあります。
- 通常の軽油（JIS 2号軽油）では約-7.5℃以下になると凍結します。
- 寒冷地でかけるときは、あらかじめ現地の外気温に合ったものを補給してください。
- 上記の表は一つの目安です。バラツキもありますので、表にある温度より高い温度でも凍結することがあります。
- 特1号、1号、2号軽油を使用して冬期に寒冷地に行くと、燃料タンク内や燃料パイプ内で軽油が凍結する場合があります、エンジンの始動が困難になったり停止したりするなどの異常を生じます。
- 寒波に襲われタンクの燃料がそれに対処できるかどうか不明である場合、暖かいガレージに駐車してください。緊急用対策としてはエンジンを切らないこと。
- 適切な燃料を使用しなかった場合は、ランプが点灯、また

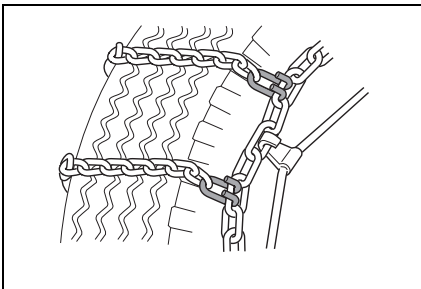
はマルチインフォメーションに“エンジン系統異常”を表示することがあります。

### タイヤチェーンを取り付けるとき

雪路や凍結した路面またはぬかるみでは、安全に走行するためにタイヤチェーンを装着します。

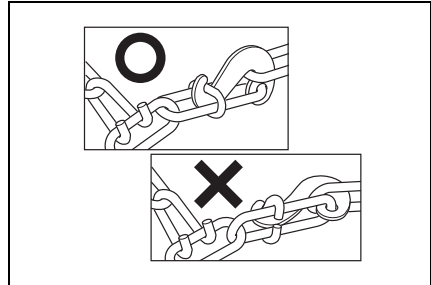


1. タイヤチェーンを取り付ける前にチェーンの傷・摩耗を点検する。
2. タイヤチェーンを駆動輪に装着する。
  - \* タイヤチェーンは必ずタイヤと同じサイズのものを使用してください。
  - \* フロントタイヤにはタイヤチェーンを使用しないでください。
  - \* タイヤチェーンは、コネクターの折り曲げ部がタイヤの外側に向くよう取り付けます。



3. 内側フックはチェーンの輪があまりないように掛け、外側に引っ張り内側チェーンのたるみをなくしてから外側フックを掛ける。

\* フックはタイヤ側面に対し平らになるように掛け、また、チェーンのねじれや曲がりがないことを確認してください。



4. チェーンがあまったときは、末端をワイヤーなどで固定し、ほかの部位と接触するのを防ぐ。
5. スプリングバンドは、外側チェーンに対し3カ所以上バランスが取れるように掛ける。

\* ダブルタイヤに使用する場合は、ダブルタイヤ用のタイヤチェーンを使用してください。

\* タイヤチェーンはゆるみのないように取り付け、5～10分走行後に点検し、その後も常にタイヤチェーンの取り付け状態に注意してください。

\* タイヤチェーンを着脱するときは、タイヤ内側のハーネス・ホース・配管類に損傷を与えないように注意してください。

### アドバイス

#### ■ 燃料について

軽油を補給するときは、燃料タンクいっぱい給油してください。

## ▲ 警告

### ■ 雪路・凍結路ではスリップに注意してください

- スタートはゆっくりスタートし、走行中は速度をひかえてください。
- 急ブレーキ・急ハンドルなど急のつく動作は厳禁です。
- 橋の上や日陰など路面が凍結しやすい場所では手前で十分に減速して通過するよう心掛けてください。
- シフトアップ、シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横滑りするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけたままの状態では車の周りに雪が積もると排出ガスが車内に侵入して、重大な健康障害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

### ■ 駐車するときは、風や雪がかからない場所を選んでください

- 車両前側がなるべく風下を向くように駐車してください。
- ブレーキ装置が凍結し、パーキングブレーキが解放できなくなるおそれがあるときは、次の順序で駐車してください。

1. 平坦な場所に停車する。
2. パーキングブレーキを確実にかける。
3. エンジンを止め、シフトレバーを「1」または「R」の位置にする。

(AT車は「P」の位置にします)

4. 車両が動かないようにタイヤの前後に輪止めを掛ける。

5. パーキングブレーキレバー★を戻す。

- 電動パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。電動パーキングブレーキが自動的に作動し、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。

### ■ タイヤチェーン装着時は必ず慎重に運転してください

- タイヤチェーン装着時は、30 km/h またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。タイヤチェーンにかかる負荷が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。また、走行性に影響を与えるため必ず慎重に走行してください。
- タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗り越えたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。また、ABS 作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので慎重に運転してください。
- ダブルタイヤの外側タイヤのみシングルチェーンを取り付けしないでください。チェーンが車体側にあたり走行に悪影響をおよぼし危険です。

## ▲ 注意

### ■ 冷却水

冷却水の混合割合を誤ると、冷却水が凍結してエンジンやラジエーターなどを破損させるおそれがあります。

**■ 燃料について**

燃料タンクに雪や水が入らないようにキャップを確実に締めてください。燃料に水が混じるとエンジン故障の原因になります。

**■ タイヤチェーンの装着は確実に行ってください**

確実に装着しないと機能低下はもとより走行中に接触・脱落して思わぬ事故につながるおそれがあります。

**■ タイヤチェーンを取り付けるときは、タイヤサイズに合ったものを使用してください**

● タイヤサイズに合っていないタイヤチェーンを使用すると、車体側にあたり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

● トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

**■ 外気温が低下するとバッテリーの性能が低下します**

● バッテリー液量を点検し、完全に充電した状態で使用してください。

● バッテリーの点検 (→P.13-68)

**■ バッテリー液の比重が低くなるとバッテリー液が凍結しやすくなります**

● バッテリー液の比重を点検し、完全に充電した状態で使用してください。

● バッテリーの点検 (→P.13-68)

**■ バッテリー液を補充したときは、必ず充電（走行）してください**

● バッテリー液が凍結し、ケースを破損させるおそれがあります。

**■ ウィンドウウォッシャー液の濃度を冬用にしてください**

● ウォッシャー液の凍結は、ポンプの作動不良や故障を起こします。

● ウォッシャー液の混合割合 (→P.13-66)

**■ ドアが凍結したときは、お湯をかけ、氷をとかしてください**

● 無理に開けようとするとうまわりのゴムがはがれたり損傷したりするおそれがあります。

● ドアが開いたらすぐに水分を十分拭いてください。

**■ ワイパー、電動格納式アウターミラーなどが凍結したときは、お湯をかけ、氷をとかしてください**

● 無理に動かそうとスイッチを押し続けると装置を損傷したりバッテリーあがりを起こす原因になります。

**■ 予熱付き車のエンジンを始動するときは、予熱を行ってください**

● 寒冷時のエンジンのかけ方 (→P.5-13)

**■ 走行中にはね上げた雪や水は、車に付着し氷になります**

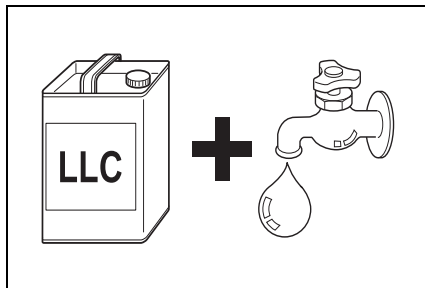
● タイヤハウスおよびリンク部やホース・パイプ類に付着した雪や氷で部品を傷つけないように取り除いてください。

- ブレーキ装置に付着するとブレーキの効きが悪くなる場合がありますので、時々直線路で軽くブレーキペダルを踏んで、ブレーキの効き具合を確認してください。

## 夏期の取り扱い

### 冷却水

- 夏期は特に冷却水の不足やラジエーターの汚れなどによるオーバーヒートを起こしやすくなります。
  - 井戸水や河川の水などの硬水は水あかが生じやすく、冷却水路を詰まらせて冷却効率を低下させるので使用しないでください。
- \* 使用する冷却水 (→P.13-22)



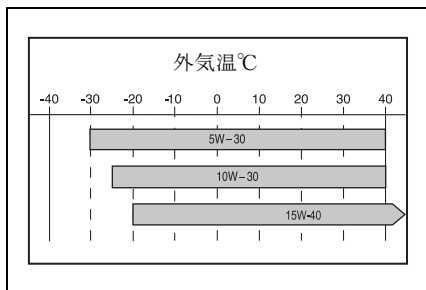
- ラジエーター前面が泥やほこりで詰まっていると冷却効率が低下するので点検・洗浄します。
- \* 冷却水の混合割合 (→P.13-22)
- \* ラジエーターコアの洗浄 (→P.13-24)

### エンジンオイル

外気温が上昇すると、エンジンオイルの粘度が低く（やわらかく）なり、エンジンを十分に潤滑しなくなります。夏期に入る前に外気温に合ったオイルに交換してください。

- \* エンジンオイルの交換 (→P.14-5)

## ■ エンジンオイルの粘度 (SAE 粘度)



### ⚠ 注意

#### ■ 外気温度が上昇するとバッテリー液の水分蒸発が多くなります

- バッテリーの液量が減少しやすくなりますので、液量を点検してください。
- バッテリーの点検 (→P.13-68)

#### ■ エアコン用コンプレッサーベルトのゆるみ

- 滑りが生じて冷房能力が低下しますので、ゆるみがないように調整してください。
- エアコン用コンプレッサーベルトの調整 (→P.13-32)

#### ■ 冷媒 (ガス) が不足していると冷房能力が低下するだけでなく、エアコン故障の原因となります

- 不足していないか点検してください。
- 冷媒 (ガス) 充てん量の点検 (→P.13-64)

#### ■ 冷媒 (ガス) は HFC134a を使用しています

地球環境を守るため、大気放ししないよう修理・廃車時の処理はトヨタ販売店にご相談ください。

#### ■ エアコン用コンデンサーユニット前面の泥やほこり

- ユニット前面が詰まっていると冷却効率が低下しますので点検・洗浄してください。
- コンデンサーユニットの洗浄 (→P.13-65)



キャブを上げる前の 準備 .....	P.11-2
手動キャブチルト .....	P.11-2
電動キャブチルト .....	P.11-5

## キャブを上げる前の準備

### ▲ 警告

- 死亡、重大な傷害または財産損害につながるおそれがありますので、キャブを上げ下げするときは、必ず以下の内容を守ってください
- 平坦でキャブの周りに十分なスペースがある場所に停車してください。
- シフトレバーを「N」（AT車は「P」）の位置にし、パーキングブレーキを確実にかけてからエンジンを止め、タイヤの前後に輪止めをかけてください。
- 走行直後は、ロック、ストッパー、ステアや、ラジエーター、エキゾーストパイプ、その他エンジン周辺部品が熱くなっている可能性があります。これらの部分が冷めたことを確認してから作業を行ってください。
- キャブ内やルーフ上の物品を取り除き、ドアを確実に閉めてください。
- ルーフ上に重量物が取り付けられている場合は、一人で作業を行わないでください。（手動キャブチルト）
- キャブ内やキャブ周りに人や障害物がないことを確認してください。
- キャブ内に缶飲料、カップ飲料、ボトル飲料がないことを確認してください。

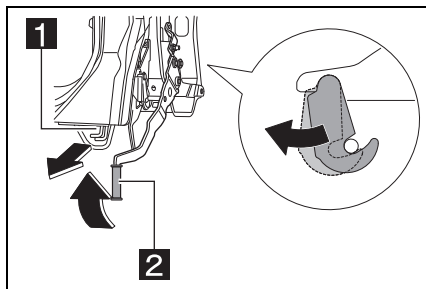
## 手動キャブチルト★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### キャブの上げ方

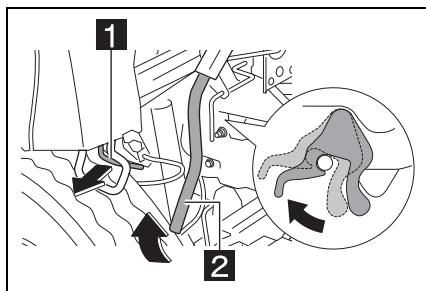
1. レバーを手前に引いたままでハンドルを上げる。

#### ▶ 標準キャブ車



- 1 レバー
- 2 ハンドル

#### ▶ ワイドキャブ車

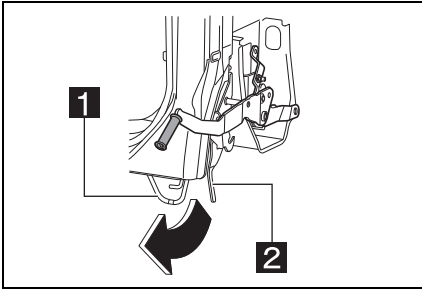


- 1 レバー
- 2 ハンドル

2. グリップを持ってキャブを保持し、ラッチまたはロッドを手前に引く。

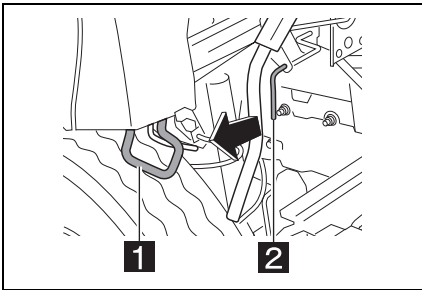
\* キャブが少し浮き上がります。

▶ 標準キャブ車



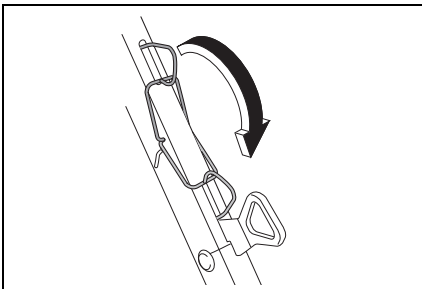
- 1 グリップ
- 2 ラッチ

▶ ワイドキャブ車

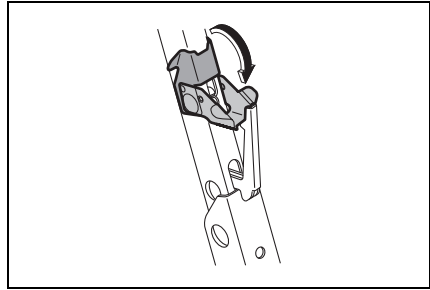


- 1 グリップ
  - 2 ロッド
3. ロックが確実にかかるまで、グリップを持ってキャブを上げる。
  4. ステアにストッパーを確実にかける。

▶ 標準キャブ車



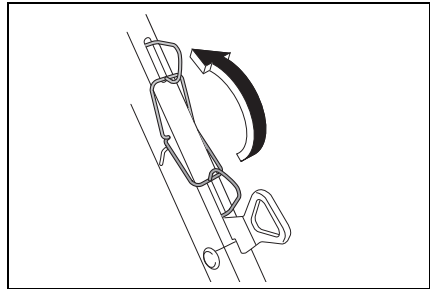
▶ ワイドキャブ車



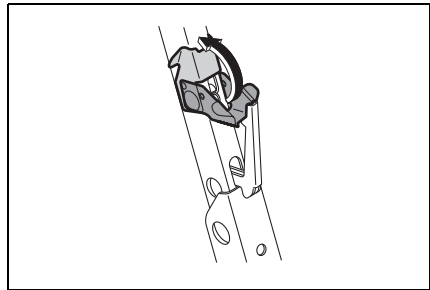
キャブの降ろし方

1. ストッパーを外す。

▶ 標準キャブ車

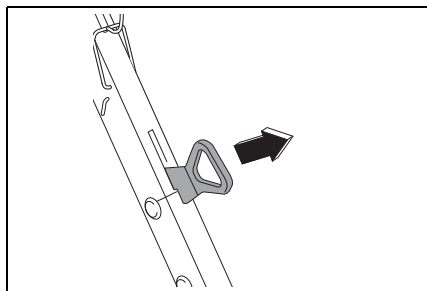


▶ ワイドキャブ車

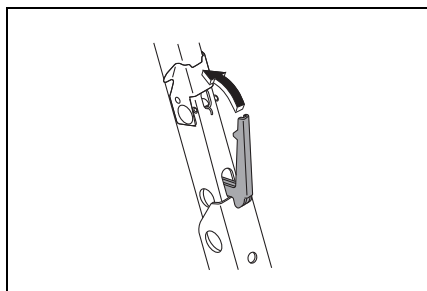


2. ロックを外す。

▶ 標準キャブ車

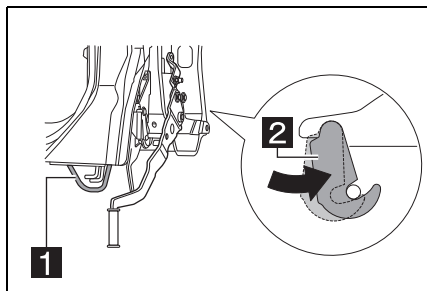


▶ ワイドキャブ車



3. ラッチが確実にかかるまで、グリップを持ってゆっくりとキャブを下げる。

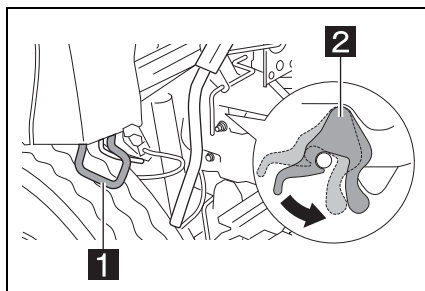
▶ 標準キャブ車



1 グリップ

2 ラッチ

▶ ワイドキャブ車



1 グリップ

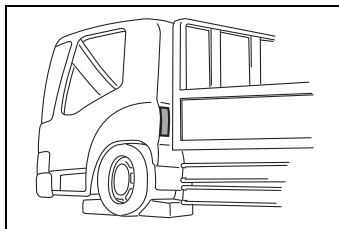
2 ラッチ

4. ハンドルを確実にロックするまで下げる。

👉 アドバイス

■ ラベルが貼ってあります

記載事項をよく理解してから操作してください。



⚠ 警告

- 死亡、重大な傷害または財産損害につながるおそれがありますので、キャブを上げ下げする際には、必ず下記を守ってください
- 走行直後は、ロック、ストッパー、ステアーや、ラジエーター、エキゾーストパイプ、その他エンジン周辺部品が熱くなっている可能性があります。これらの部分が冷めたことを確認してから作業を行ってください。

- ルーフ上に重量物が取り付けられている場合は、一人でキャブの上げ下げを行わないでください。
- キャブを上げ下げしている最中は、キャブの下に体を入れないでください。
- キャブを上げたあとは、ロックが確実にかかっていることを確認し、ストッパーを倒し、ロックに必ずかけてください。
- キャブチルトした状態でキャブのドアを開けないでください。
- キャブチルトした状態でキャブ内に乗り込まないでください。
- ハンドルを持ってキャブを下げないでください。
- キャブを下げる前に、キャブの下に工具やグローブなどの置き忘れがないことを確認してください。
- キャブを下げたあとは、ハンドルを確実にロックするまで下げてください。
- キャブチルト警告灯が点灯した場合は、ただちに車を安全な場所に止めてから、キャブを確実にロックしなおしてください。
- キャブをロックして消灯すればそのまま走行できます。消灯しない場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店へご連絡ください。

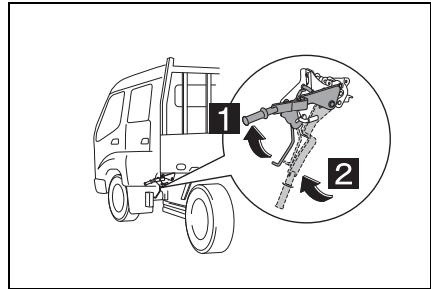
## 電動キャブチルト★

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### キャブの上げ方


1. エンジンスイッチを「ACC」の位置にする。
2. レバーを引き上げたままハンドルを持ち上げ、キャブロックを解除する。

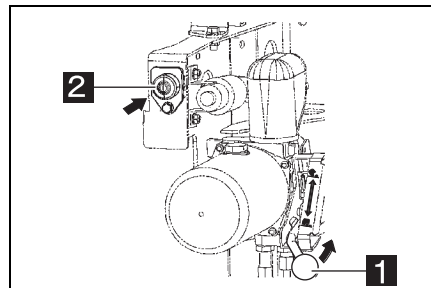
\* 警報ブザーが鳴り、キャブチルト操作中であることを知らせます。



**1** レバー

**2** ハンドル

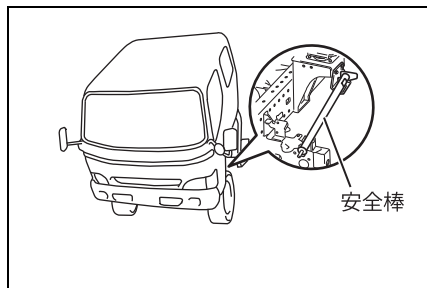
3. 切り替えレバーを、保持されるまで  (上げ) の位置に動かして、キャブが上がりきるまでモーター作動スイッチを押し続けます。



**1** 切り替えレバー

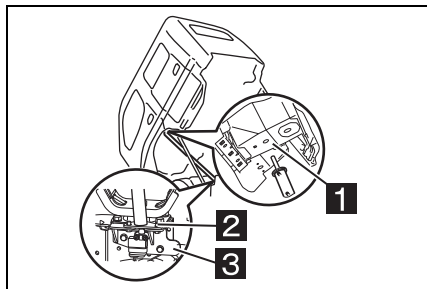
**2** モーター作動スイッチ

4. 格納されている安全棒を取り出します。



5. 安全棒の上端をブラケットにセットし、下端を2箇所ガイドに合わせて設置する。


- \* 安全棒で固定するまで、キャブの下に体を入れないでください。
- \* 安全棒をセットするとブザーが鳴りやみます。
- \* 長時間チルトしたままにしておくときは、あらかじめエンジンスイッチを「LOCK」の位置にしてください。

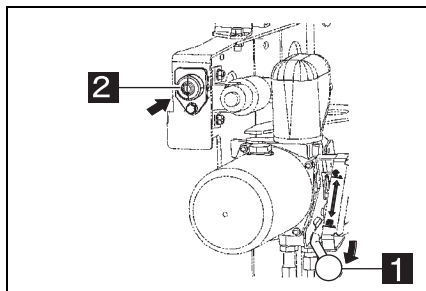


- 1** ブラケット  
**2** ガイド  
**3** 安全棒ブラケット

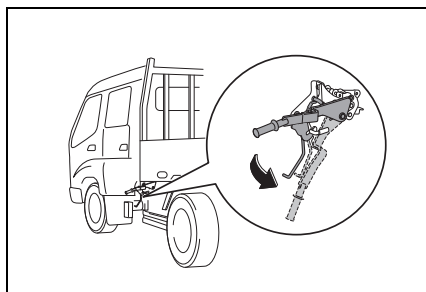
**キャブの降ろし方**

1. 安全棒を取り外して格納する。
- \* 警報ブザーが鳴ります。

2. 切り替えレバーを保持されるまで  (下げ) の位置に動かしてキャブを下げます。キャブが車体に完全に収まり、3秒間スイッチを押し続けてから手を放します。



- 1** 切り替えレバー  
**2** モーター作動スイッチ
3. ハンドルを押し下げキャブを確実にロックする。

**バッテリーあがり時の電動キャブチルトの処置**

バッテリーあがりのときは電動キャブチルトできません。

- \* 故障のときは、すみやかにトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

## 👉 アドバイス

### ■「キャブ上げ下げ操作手順」のラベルが貼ってあります

記載事項をよく理解してから操作してください。(→ 警告ラベル-4)

## ⚠ 警告

- 死亡、重大な傷害または財産損害につながるおそれがありますので、キャブを上げ下げする際には、必ず下記を守ってください
- 走行直後は、ラジエーター、エキゾーストパイプ、その他エンジン周辺部品が熱くなっている可能性があります。これらの部分が冷めたことを確認してから作業を行ってください。
- 全てのドアを確実に閉めてから行ってください。ドアが確実に閉まっていないとチルト操作中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- キャブを上げ下げしている最中は、キャブの下に体を入れないでください。
- 安全棒が確実にセットされていることを確認してください。セットされていないと、キャブが降下するおそれがあり危険です。



- キャブを下げる前に、キャブの下に工具やグローブなどの置き忘れがないことを確認してください。
- キャブを下げたあとは、ハンドルを確実にロックするまで下げてください。

- キャブチルト警告灯が点灯した場合は、ただちに車を安全な場所に止めてから、キャブを確実にロックしておしてください。
- キャブをロックして消灯すればそのまま走行できます。消灯しない場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店へご連絡ください。

 **注意**

■ **エンジンを止めてください**

キャブを降ろすときは、エンジンを止めてください。

点検にあたっての注意 ...P.12-2
前日または前回運行中の 異状箇所 .....P.12-3
ランプの汚れ・損傷 .....P.12-3
※ エンジンオイルの量 ..P.12-4
※ 冷却水の量 .....P.12-6
※V ベルトの 緩み・損傷 .....P.12-7
※ バッテリー液の量 .....P.12-8
タイヤの空気圧 .....P.12-9
タイヤの亀裂・損傷 .....P.12-10
タイヤの異常な摩耗 .....P.12-10
タイヤの溝の深さ .....P.12-11
ブレーキ液の量 .....P.12-12
パーキングブレーキの 引きしろ .....P.12-13
※ エンジンの かかり具合・異音 .....P.12-14
※ ウィンドウウォッシャーの 液量・噴射状態 .....P.12-15
※ ワイパーの 拭き取り状態 .....P.12-16
ランプ類の作用点検 .....P.12-17
ブレーキペダルの 踏みしろ .....P.12-18
ブレーキのきき具合 .....P.12-19
※ 低速・加速の状態 .....P.12-20

いつも安全で快適にご使用していただくため、運転する前に必ず日常（運行前）点検を行い、異状がないことを確認してください。

点検時、異状があるときはご自身で整備するか、あるいはトヨタ販売店で整備を受けてからご使用ください。

なお、道路運送車両法により使用者または運行する人は、この日常（運行前）点検が義務づけられています。

※ の点検項目は、走行距離、運行時の状態から判断した適切な時期に行ってください。

## 点検にあたっての注意

### 知識

#### ■ 交換後のオイル・冷却水・各種部品類の廃棄処理は

環境に留意した方法で行ってください。処理方法を誤ると法律違反になります。

### 危険

#### ■ 点検にあたって

- バッテリーの点検取り扱い時には、端子部との接触によるショートが起きないように十分注意してください。感電、爆発などのおそれがあり危険です。
- バッテリーからは引火性の水素ガスが発生していますので、バッテリーの近くで火花を飛ばしたりタバコの火などの火気を近づけたりしないでください。引火すると爆発するおそれがあり危険です。

### 警告

#### ■ 点検にあたって

- 人や交通のさまたげとなる場所や傾斜地での点検は行わないでください。
- パーキングブレーキは確実にかけ、シフトレバーを「N」（AT車は「P」）の位置にし、さらにタイヤの前後に輪止めを掛けてください。パーキングブレーキを確実にかけていなかったり、タイヤの前後に輪止めをしていないと車両が動き出し思わぬ事故の原因になります。
- ボデーの端部などでケガなどしないように軍手などを使用してください。

- キャブチルトやエンジン点検口を開けて点検するときは、安全に十分注意してください。（→P.11-1、3-17）

- 車をジャッキアップするときは、適切なジャッキを使用してください。

- 搭載工具のジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外に使用しないでください。

- 換気の不十分な車庫や屋内ではエンジンをかけたままにしないでください。排出ガスにより、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

- エンジン停止直後は、排気管・ラジエーターなど高温部に触れないでください。やけどをするおそれがあります。

#### ■ キャブチルトやエンジン点検口を開けて点検するときは

- 必ずエンジンを止めてください。エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分に触れたり近づいたりすると手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬケガをするおそれがあります。

- エンジンルーム内に布や手袋、工具類などの置き忘れがないことを確認してください。布などの燃えやすい物は火災の原因になります。また工具類は振動などで飛びはね、部品を損傷させるおそれがあります。

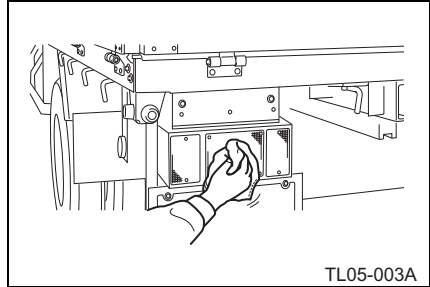
- キャブチルトした状態でキャブ内に乗り込まないでください。

## 前日または前回運行中の異状箇所

前日までの異状が使用時に引き続きあり、ご自分で整備できないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

## ランプの汚れ・損傷

- 各ランプ類、レンズ、および反射器（リフレクター）に汚れや変色または損傷などがなければ点検します。
- 汚れているときは清掃し、損傷しているときは交換してください。（→P.15-19）

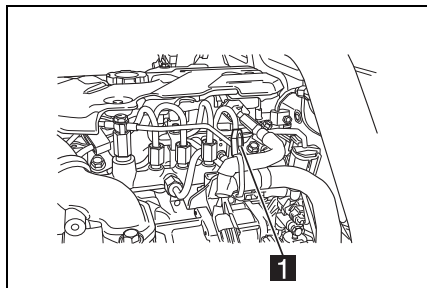


TL05-003A

## エンジンオイルの量

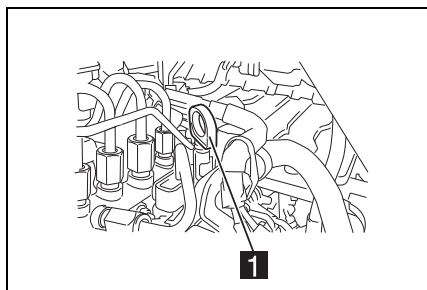
1. オイルレベルゲージを抜き取り、付着しているオイルを布で拭き取る。

### ▶ シングルキャブ車



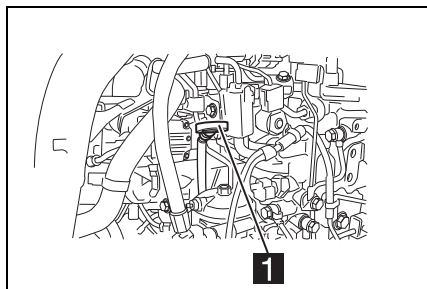
### 1 オイルレベルゲージ

### ▶ ダブルキャブ車（標準キャブ）



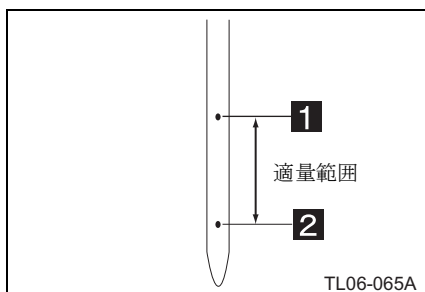
### 1 オイルレベルゲージ

### ▶ ダブルキャブ車（ワイドキャブ）



### 1 オイルレベルゲージ

2. 再びいっぱい差し込み、静かに抜き取り、油量を点検する。



### 1 フルレベル

### 2 ローレベル

- \* フルレベルとローレベルの範囲内に付着すれば良好です。
  - \* 不足しているときは、補給します。（→P.14-5）
  - \* オイルが著しく汚れている場合は、オイル交換してください。
  - \* オイルレベルゲージが差し込みづらい場合は、グリップを回しながらねじ込むように差し込んでください。
  - \* 差し込み後は、ゲージが浮いていないことを確認してください。（浮いている場合は、少し引き抜き、再びいっぱいに差し込んでください）
3. 点検後は、オイルレベルゲージをいっぱいに差し込む。

## 知識

- 点検は、エンジン始動前に行ってください

始動したときは、エンジンを停止させて30分以上たってからオイル量を測ってください。

### ■ エンジンオイルが注入時よりも増えることがあります

DPRの再生（燃焼）を行うために、エンジン燃焼室内に微量の燃料噴射を行います。このため、オイルに燃料が混ざり、注入時よりもオイルが増えることがあります。ただし、「フルレベル」を超えている場合は、オイルを交換してください。

エンジンオイル注入口やそのキャップ裏面、およびオイルレベルゲージに白濁した物質が付着していることがあります。この白濁物質は、ブローバイガス中の水分がエンジン内部で結露してエンジンオイルと混合してクリーム状になったものです。短時間の走行や冬期などエンジンの温度が上がらないときに発生しますが、エンジンが温まって水温計が安定する程度の走行によりオイルと水分が分離して元に戻ります。

### ▲ 警告

#### ■ 補給時にオイルをこぼさないようにしてください

- 排気管などにオイルが付着すると、火災の原因になります。こぼしたときは、完全に拭き取ってください。
- オイル点検の際に、エンジンルーム内に布などの置き忘れがないことを確認してください。布などの燃えやすい物は火災の原因になります。

#### ■ 運転直後はエンジンが高温になっています

やけどをしないように注意してください。

### ▲ 注意

#### ■ オイルレベルゲージの「フルレベル」の位置以上にエンジンオイルを入れしないでください

エンジン故障の原因になります。

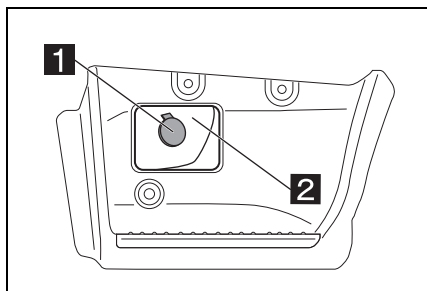
#### ■ オイル量がオイルレベルゲージの「ローレベル」の位置以下の場合、必ずエンジンオイルを補給してください

エンジンオイルが少ないと、潤滑不良となりエンジンが故障するおそれがあります。

## 冷却水の量

- 点検はエンジン始動前の冷却水が冷えているときに行います。
- リザーバータンク内の水量が規定の範囲内にあるかを点検します。
- ・ 「FULL」と「LOW」の線の間であれば良好です。
- ・ 「LOW」より下の場合は、「FULL」の線まで補給してください。（→P.13-22）

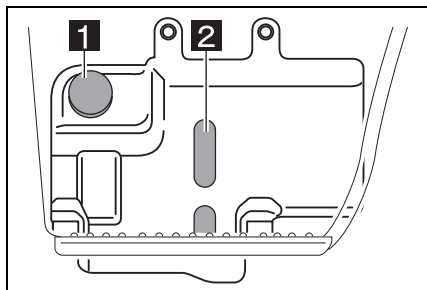
### ▶ 標準キャブ車



**1** キャップ

**2** リザーバータンク

### ▶ ワイドキャブ車



**1** キャップ

**2** リザーバータンク

## 👉 アドバイス

- 水温が高いときは正確な水量が測れません

水温が高いときに冷却水の点検を行うと温度による水の膨張で水量が正確に測れません。

- リザーバータンク内が空のときは、ラジエーター本体の水量が不足しています

ラジエーターキャップを開けて給水してください。

## ⚠ 危険

- 高温時は絶対にラジエーターキャップを外さないでください

熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをすおそれがあり危険です。

## ⚠ 注意

- 冷却水が異常に減少しているときは冷却水が異常に減少していたり、補給しても短期間で再び減少するときは、水漏れのおそれがありますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

## Vベルトの緩み・損傷

### たわみ量の測定方法

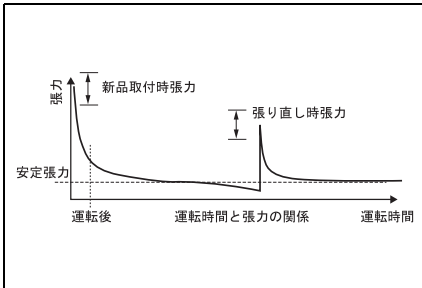
たわみ量の測定方法

→P.13-29

### ベルトの特性

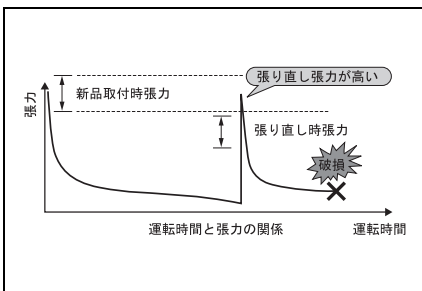
#### ■正しいメンテナンスを行った場合

ベルト張力は、運転後に低下しますが、初期馴染みによる減少で異常ではありません。（再調整は不要）その後、張力は安定します。



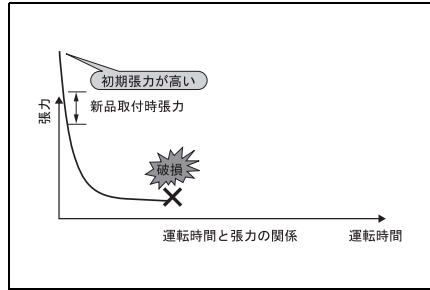
#### ■張り直し張力が高い場合

張り直し張力が高いと寿命が短くなります。



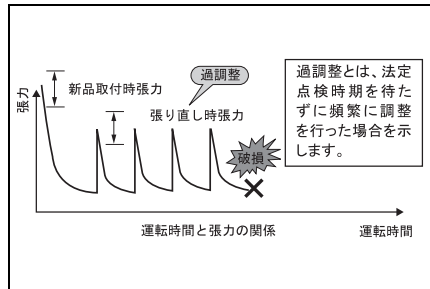
#### ■初期値が高い場合

張り直し張力が高いと寿命が短くなります。



#### ■過調整を行った場合

過剰な再調整は寿命が短くなります。



### ⚠ 警告

#### ■Vベルトの点検は必ずエンジンを停止してください

エンジン回転中は回転部分に触れたり近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬケガをするおそれがあります。

### ⚠ 注意

#### ■ベルトの張りの調整を行う場合

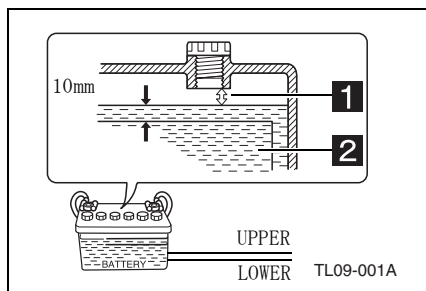
- ベルトの張り過ぎは寿命の低下につながるため、指定張力を超えないよう注意してください。
- ベルト張力は運転後に低下しますが、初期なじみにより発生する現象で異常ではありません。

- 正確な張力に調整されているか確認する方法として、音波式張力計を使用してください。（→P.13-29）

## バッテリー液の量

- バッテリーカバーを外し、バッテリーケース内の液面が適正範囲内にあるかを点検します。
- 液面がケース側面の「UPPER」と「LOWER」の線の間であれば良好です。
- 液面が「LOWER」の線より下の場合、補充液または蒸留水を補充してください。

\* レベルライン表示のないものは、液面が極板上 10 mm あれば良好です。



**1** 適正範囲

**2** 極版

### 👉 アドバイス

- 「UPPER」を超えないように補充してください

「UPPER」以上に入れるとバッテリー液があふれ、バッテリー端子などの腐食の原因になります。

- 補充したときは、必ず充電（走行）してください

冬期はバッテリー液が凍結し、バッテリーケースが破損するおそれがあります。

**▲危険****■ 水素ガスに引火すると爆発するおそれがあり危険です**

バッテリーから引火性の水素ガスが発生していますので、バッテリーの近くで火気を近づけないでください。

**■ バッテリー液は皮膚や衣服に付着しないように注意してください**

● バッテリー液は希硫酸ですから、皮膚や衣服に付着するとその部分が侵されますので、十分注意してください。もし、衣服に付着したときは石けんで十分洗い、また、万一皮膚に付着したり眼に入ったときはただちに清水で十分洗い流し医師の治療を受けてください。

● 誤ってバッテリー液を飲んだ場合は、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受けてください。

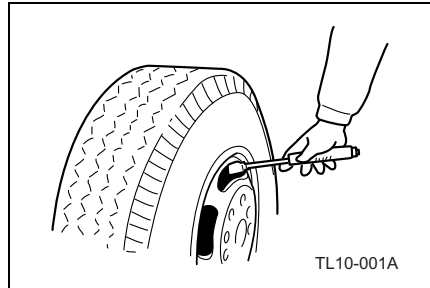
**■ バッテリー液量が「LOWER」レベル以下のまま使わないでください**

劣化を早めたり、発熱や爆発するおそれがあります。

**タイヤの空気圧**

エアゲージでタイヤの空気圧を点検します。

- \* 空気圧が不良のときは、標準空気圧に調整してください。
- \* タイヤ標準空気圧を示したラベルがキャブの右側ドア部にあります。
- \* 外したバルブキャップは、必ず取り付けてください。
- \* 点検は、必ずタイヤが冷えているときに行ってください。

**👉アドバイス**

ダブルタイヤの場合、特にアルミホイールでは、適合するバルブキャップレンチやエアゲージを使用すると点検が容易に行えます。

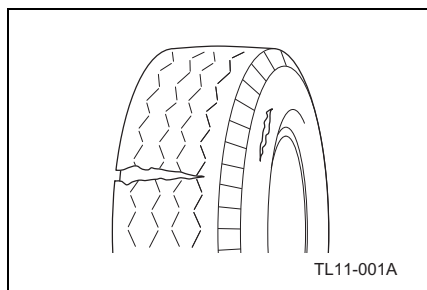
**▲警告****■ 標準空気圧にしてください**

- 空気圧が低すぎるとフラットスポットが発生したり過熱しやすく、バーストの原因になります。
- 空気圧が低すぎたり高すぎたりすると、乗り心地が悪くなったり、積荷が傷みやすくなります。また、タイヤの異状摩耗の原因になります。

## タイヤの亀裂・損傷

タイヤの接地面全周や側面に亀裂や損傷がないかを点検します。また釘・石などの異物が刺さったりかみ込んだりしていないかをタイヤ全周にわたり点検します。

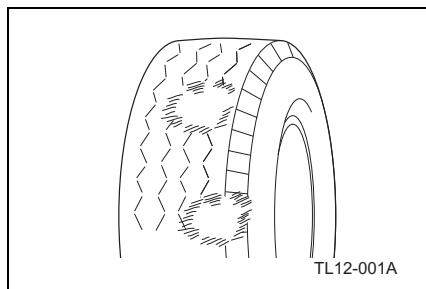
- \* タイヤに亀裂・損傷などがあるときは、新品のタイヤに交換してください。（→P.13-47）



## タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面に異常な摩耗がないかを点検します。

- \* 異常な摩耗があるときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。



### ▲ 警告

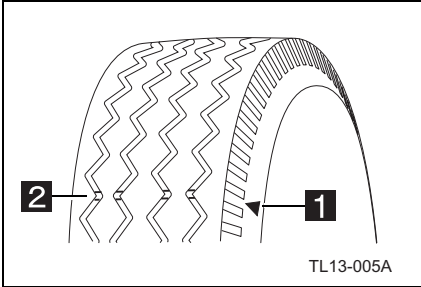
- 傷がコードに達したり、コードが露出したときは使用しないでください

本来のタイヤ強度がたもたれず破損し、事故につながるおそれがあり危険です。

## タイヤの溝の深さ

タイヤの溝が十分に残っているかを点検します。

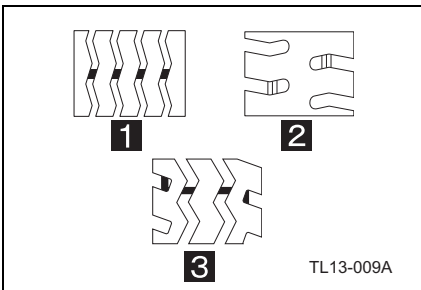
- \* 残り溝が1.6 mmになると、タイヤの▲位置にスリップサインが現れますので、新品のタイヤに交換してください。（→P.13-47）



**1** スリップサイン表示位置マーク

**2** スリップサイン

### ■ タイヤパターン別スリップサイン



**1** リブパターン

**2** ラグパターン

**3** リブラグパターン

タイヤサイズ	溝の深さ限度	
	高速道路	一般道
185/65R15 101/99N	2.4 mm	1.6 mm
185/75R15 106/104N		
195/75R15 109/107N		
205/70R16 111/109N		
225/70R16 117/115N		
205/75R16 113/111N		
205/80R16 115/113N		
185/85R16 111/109N		
195/85R16 114/112N		
205/85R16 117/115N		
215/85R16 120/118N		
205/60R17.5 111/109N		
215/70R17.5 118/116N		
205/80R17.5 120/118N		
215/70R17.5 123/121N	3.2 mm	
225/80R17.5 123/122N		

### ▲ 警告

- スリップサイン（摩耗限度表示）が現れたときは、走行しないでください

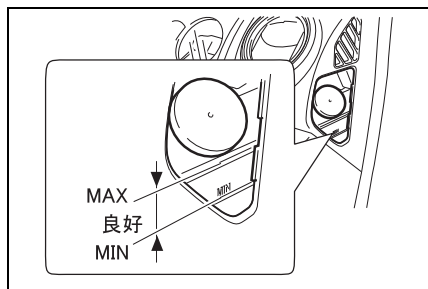
スリップし、制動距離が長くなったり、タイヤがバーストしたりしやすくなり非常に危険です。

- 高速道路を走行するときは、溝の深さを確認してください

溝の深さが規定以下のときは、危険なため走行しないでください。

## ブレーキ液の量

リザーバータンク内の液量が規定の範囲内にあるかを点検します。



- \* 液面が「MAX」と「MIN」の線の間にあれば良好です。
- \* 「MIN」の線より下の場合、配管系に液漏れのないことを確認し、ブレーキフルードを「MAX」の線まで補給してください。（→P.14-20）

### アドバイス

- ブレーキ液の量を点検するときは、キャップを開けないでください

吸湿性が強いいため、空気に触れると水分を吸収し性能が低下します。

### 知識

- パッドの摩耗に伴いブレーキ液面が低下します
- 液漏れではありません。
- 必要に応じてブレーキフルードの補給を行ってください。

### 警告

- 液面が異常に低下しているときは、液漏れのおそれがあります

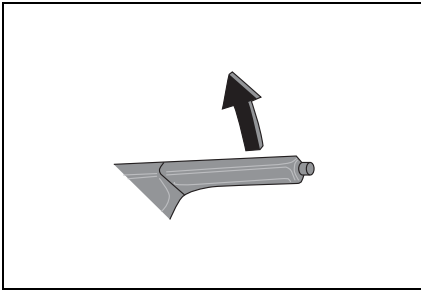
ブレーキが効かなくなるおそれがありますので、ただちにトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

## パーキングブレーキの引きしろ

### ▶ 手動パーキングブレーキ車

引きしろが多すぎたり少なすぎたりしないかを、ノッチ音を聞いて点検します。

- \* パーキングブレーキレバーを戻した状態から約 250 N [25 kgf] の操作力で静かに引きます。
- \* レバーの引きしろが規定範囲外の場合は、調整してください。（→P.13-41）



レバーの引きしろ

6 ~ 10 ノッチ

- レバーを引いたときに、ラチェットが確実にかんでいるかも点検してください。
- レバーを引いた後、エンジンスイッチを「ON」の位置にし、パーキングブレーキ表示灯が点灯するかを点検してください。

### ▶ 電動パーキングブレーキ車

パーキングブレーキスイッチを操作し、電動パーキングブレーキがきちんと作動しているか点検します。

- 右足でブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを「ON」位置にして、パーキ

ングブレーキスイッチを引き、メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯するかを点検する。

### ▲ 警告

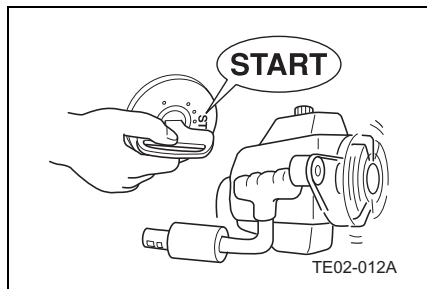
- 点検は、ブレーキペダルを踏んだ状態で行ってください

車両が動き出すおそれがあります。

## エンジンのかかり具合・異音

エンジンのかかり具合に異常はないか、またアイドル回転で異音がないか点検します。

- \* エンジンが正常にかからなかったり、異音が発生しているときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- \* 寒冷時のエンジンのかけ方（→P.5-13）



### 👉 アドバイス

- 始動時にアクセルペダルを必要以上に踏まないでください

黒煙の発生につながります。

- エンジンを始動するときは、エンジンが完全に停止している状態でエンジンスイッチの操作をしてください

エンジンが完全に停止する前にエンジンスイッチを「START」の位置にした場合は、スターターブロック機能によりスターターが作動しない場合があります。

- エンジン始動時にエンジンスイッチを繰り返し「START」の位置にした場合、スターターブロック機能によりスターターが作動しない場合があります

3秒以上間隔をあけて操作してください。

- 日常点検を運行開始前に実施し、異常がない事を確認してください。エンジンのかかり具合・異音がないか確認し、異常があればトヨタ販売店で点検、整備を受けてください。

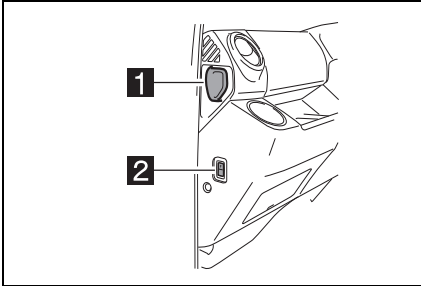
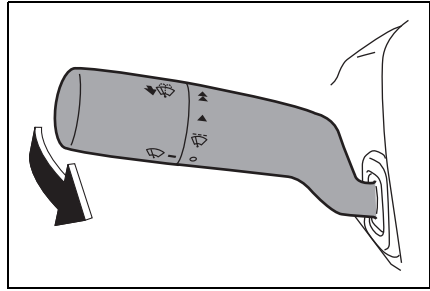
### ⚠️ 注意

- スターターを15秒以上連続して回さないでください
- スターターが故障したり、バッテリーあがりを起こす原因になります。
- 1度でエンジンがかからないときは、バッテリーの機能回復のためエンジンスイッチを「ACC」の位置に戻し、30秒ほど待ってからかけなおしてください。

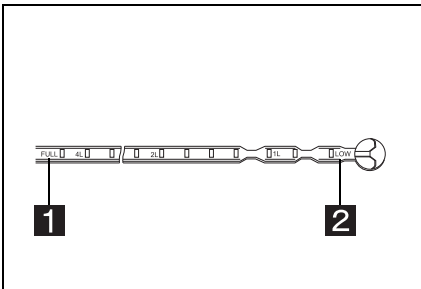
## ウインドウウォッシャーの 液量・噴射状態

- ウインドウウォッシャーの液量が不足していないかをキャップに付いているレベルゲージで点検します。

\* ウォッシャー液の補給（→P.13-66）



- 1 キャップ
- 2 満水確認窓

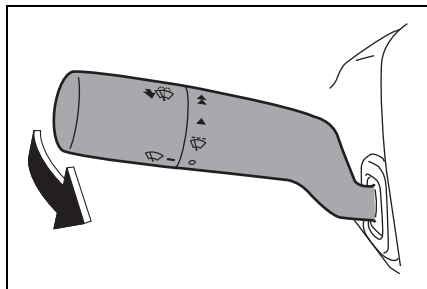


- 1 FULL
- 2 LOW

- ウォッシャー液が窓ガラスに噴射するかを点検します。
- \* ノズルが詰まって噴射しないときは、細い針で清掃してください。
- \* 清掃後も噴射しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

## ワイパーの拭き取り状態

- ウィンドウウォッシャーを噴射させてからワイパーの払拭状態を点検します。
- 「INT」・「LO」・「HI」各位置にして正しく作動するか点検します。



- 払拭動作にむらやビビリがあるときはワイパーブレードを点検し、劣化している場合は新品と交換してください。
- \* ワイパーのから拭きはガラス面を傷つけますので、必ずウォッシャー液を噴射してから動かしてください。
- \* 作動状態が悪いときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- \* ワイパーの交換（→P.13-67）

## ⚠ 警告

- ウォッシャー液に、冷却液を使用しないでください

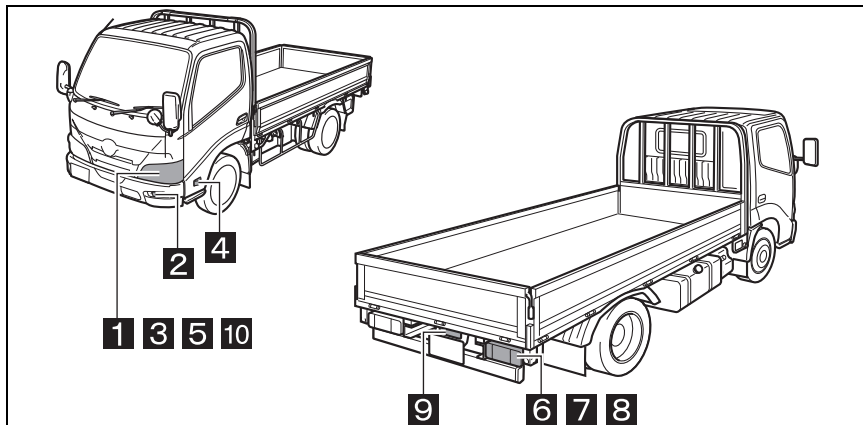
ガラス面に冷却液をかけると視界が大幅に妨げられ大変危険です。

## ⚠ 注意

- ワイパーブレードのゴムがガラスに張り付いていることがあります
- 寒冷時や長期間使用していなかったときは、点検または作動前に確認してください。
- 凍結したときは、お湯をかけ氷をとかします。
- ガラスに張り付いたまま作動させるとワイパーブレードの損傷やモーター故障のおそれがあります。

## ランプ類の作用点検

- 各スイッチを「ON」にして各ランプが点灯または点滅するかを点検します。
- ブレーキペダルを踏んだとき、制動灯が点灯するかを点検します。
- 照射方向や明るさに異常がないかを点検します。



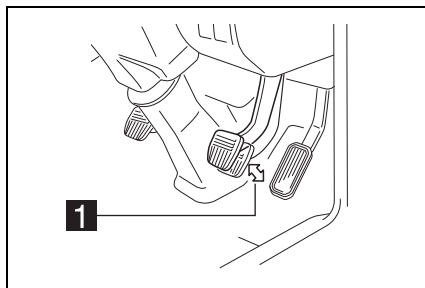
- 1 ヘッドランプ
- 2 フォグランプ
- 3 車幅灯
- 4 方向指示灯（フロントサイド）
- 5 方向指示灯（フロント）
- 6 後退灯
- 7 制動灯 / 尾灯
- 8 方向指示灯（リヤ）
- 9 番号灯
- 10 デイタイムランニングランプ

- シフトレバーを「R」の位置にしたとき、後退灯が点灯しブザーが鳴るかを点検します。
- \* バックブザー減音スイッチが操作されている（表示灯が点灯している）ときは、車外のバックブザーは通常より小さい音量で鳴ります。
- 各警告灯および表示灯の作動は正常かを点検します。エンジン始動後、各警告灯が消えていれば正常です。
- \* 点検時、点灯や点滅しないときは、球切れやヒューズ切れなどが考えられますので、点検し、不具合部品を交換してください。

- \* 交換後も点灯や点滅しないときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- \* 交換は下記を参照してください。
- ・ ランプ（→P.15-19）
- ・ ヒューズ（→P.15-26）

## ブレーキペダルの踏みしろ

ブレーキペダルをいっぱい踏み込んで、床板とのすきまが基準値より少なくなっていないかを点検します。



### 1 すきま

車型	基準値
標準キャブ 車両総重量 5 t 以下車 (シングルタイヤ車、4 輪駆動車を除く)	50 mm
上記以外	30 mm

- \* 点検時、異常が認められたときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

## ▲ 警告

### ■ ブレーキの点検時は

- 坂道での点検は行わないでください。車両が動き出すおそれがあり危険です。必ず車を平坦な場所に停車し、タイヤの前後に輪止めを掛けてから点検してください。
- 周囲の交通状況に十分注意し、安全な場所で点検してください。

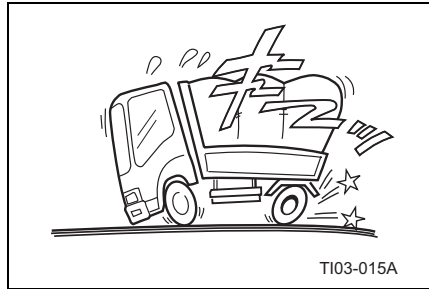
### ■ 踏みしろについて

- ペダルを踏み続けたときに、ペダルがさらに入り込むことがないことを確認してください。
- 踏み残りしろが少なくなっているときやペダルをいっぱい踏み込んだときの踏みごたえがやわらかく感じるときは、ブレーキ液の漏れ、空気の混入によるブレーキの効き不良や片効きのおそれがありますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。

### ブレーキのきき具合

走り始める前に、安全な場所で徐行し、ブレーキをかけ、効き具合は十分か、片効きはしていないかを点検します。不具合がある場合はブレーキの調整をしてください。

- \* お車の仕様により調整方法が異なります。調整は下記を参照してください。
- ・ ドラムブレーキ★ (→ P.13-36)
- ・ ディスクブレーキ★ (→ P.13-38)



### ⚠ 注意

#### ■ 点検するときは

周囲の交通状況に十分注意し、安全な場所で点検してください。

## 低速・加速の状態

- エンジンを暖機させた状態で、アイドルリングにむらがないかを点検します。
- 運行前に、安全な場所で徐行し、走行状態がスムーズか、またアクセルペダルを徐々に踏み込んでいったとき、ペダルに引っかかりがなくスムーズに加速するかを点検します。
- 低速走行が不安定だったり、アクセルペダルの踏み込み量に対しスピードが追従しないときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

点検・調整作業にあたっての 注意.....	P.13-3	ワイパー .....	P.13-67
搭載工具 .....	P.13-5	バッテリー.....	P.13-68
エンジンオイル		配線関係 .....	P.13-71
フィルター .....	P.13-8	車外騒音に 関わる部品.....	P.13-71
フューエル		車のお手入れ.....	P.13-72
フィルター .....	P.13-11	DPR (排出ガス浄化装置) ...	P.13-76
フューエルフィルターの 水抜き .....	P.13-14	尿素 SCR (尿素選択式 還元触媒) システム ...	P.13-77
インタークーラー .....	P.13-15	燃料添加弁.....	P.13-80
エアクリーナー .....	P.13-16	エアフローメーター .....	P.13-80
エアフィルター .....	P.13-19	低速・加速の状態.....	P.13-81
冷却水.....	P.13-22	計器類の点検.....	P.13-81
ラジエーター			
キャップ .....	P.13-28		
V ベルト .....	P.13-29		
フットブレーキ .....	P.13-34		
ドラムブレーキ .....	P.13-36		
ディスクブレーキ .....	P.13-38		
ブレーキのきき具合 .....	P.13-39		
クラッチ .....	P.13-39		
パーキングブレーキ .....	P.13-41		
ジャッキアップ .....	P.13-42		
タイヤの取り扱い .....	P.13-47		
タイヤ			
ローテーション .....	P.13-52		
スペアタイヤ .....	P.13-54		
ホイール.....	P.13-57		
ステアリング .....	P.13-60		
シャシスプリング .....	P.13-62		
エアコン .....	P.13-64		
ウインドウ			
ウォッシャー .....	P.13-66		

本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。

定期点検には、法律で定められた法定点検項目（距離項目を含む）と、弊社が指定するメーカー指定点検項目〔シビアコンディション（厳しい使い方）項目および定期交換部品を含む〕があり、法令で定められた期間での実施が義務づけられています。

別冊の「メンテナンスノート」にしたがってトヨタ販売店にお申し付けください。ここでは皆様にも簡単に行える点検・手入れについてまとめましたので、お車を快適にご使用いただくために実施されるよう推奨します。

## アドバイス

点検および交換時期に関し、使用期間と走行距離を併記してあるものは、いずれか早く到達した時点で点検または交換などを行ってください。

## 知識

ここでは本文中の点検時期表記の見方について説明しています。

### ■ 例

点検時期	
1	新車 1,000 km 走行時
2	その後、事業用 3ヵ月ごと (距離項目)
3	自家用 6ヵ月ごと (距離項目)
4	[シビアコンディション項目]

- 1 新車時から 1,000 km または 5,000 km 走行時に点検・補給を勧めている項目であることを意味しています。
- 2 事業用自動車の点検が 3 ヵ月ごとであることと、※<sup>1</sup> 距離項目であることを表しています。初回登録および前回の点検より 2,000 km に満たない場合は、この項目の点検を省略することができます。ただし、次回の点検で、前回の点検からの走行距離が 2,000 km に満たなくても、2 回続けたの省略はできません。
- 3 自家用貨物車の点検が 6 ヵ月ごとであることと、※<sup>1</sup> 距離項目であることを表しています。初回登録および前回の点検より 4,000 km に満たない場合は、この項目の点検を省略することができます。ただし、次回の点検で、前回の点検からの走行距離が 4,000 km に満たなくても、2 回続けたの省略はできません。
- 4 この項目が※<sup>2</sup> シビアコンディション項目であることを表し、使用条件の厳しい車両は 1 ヵ月ごとの点検をトヨタが指定している項目であることを意味しています。

#### ※<sup>1</sup> 距離項目

- ・ 自家用貨物車、事業用自動車の定期点検整備項目が法律で設定され、点検期間内の走行距離が短い場合、その点検を省略することができます。
- ・ 事業用自動車では、登録日または前回の定期点検からの走行距離が 2,000 km 以下の場合に、その項目を 1 回に限り省略することができる点検項目です。
- ・ 自家用貨物自動車では、登録日または前回の定期点検時からの走行距離が 6

カ月の時点で 4,000 km 以下、12 カ月の時点で 8,000 km 以下の場合に、その項目を 1 回に限り省略することができる点検項目です。

※<sup>2</sup> シビアコンディション（厳しい使用れ方）項目

定期点検整備は 1 カ月 5,000 km 程度を走行する場合を標準の時期として定めてあります。事業用自動車で特に走行距離が多いなど標準的な使用条件と著しく異なる車両には、シビアコンディション条件を定め、1 カ月ごとの点検・整備および定期交換をトヨタが推奨しています。

## 点検・調整作業にあたっての注意

### ⚠ 危険

■ **バッテリーの点検・取り扱い時には**端子部との接触によるショートが起きないように十分注意してください。感電、爆発などのおそれがあり危険です。

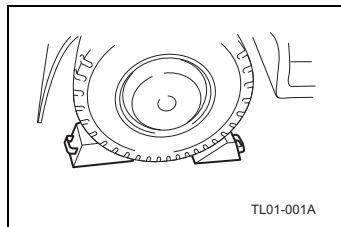
■ **バッテリーに火気を近づけないでください**

バッテリーからは引火性の水素ガスが発生していますので、バッテリーの近くで火花を飛ばしたりタバコの火などの火気を近づけると、可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。

### ⚠ 警告

■ **点検・調整作業にあたって**

- 人や交通のさまたげとなる場所や傾斜地での点検・整備は行わないでください。
- エンジンを止め、キーは必ず抜き取ってください。
- シフトレバーを「N」、AT 車は「P」の位置にしてください。
- パーキングブレーキを確実にかけ、タイヤの前後に輪止めを掛けてください。車両が動き出し思わぬ事故の原因になります。



TL01-001A

- ボデーの端部などでケガなどしないように軍手などを使用してください。
  - 点検・整備作業には適切な工具や機械および測定具を使用してください。
  - エンジン停止直後は、排気管・ラジエーターなど高温部に触れないでください。やけどをするおそれがあります。
  - 車をジャッキアップするときは、適切なジャッキを使用してください。
  - 搭載工具のジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外に使用しないでください。
  - ジャッキアップ後、車両の下に入って作業するときは、必ずフレーム下面にスタンドを掛けるなど、車両の下の安全を確保してください。
  - パイプ類や補機類には乗らないでください。破損や故障の原因になります。
  - 電気系統の作業をするときは、コンピューターなど電気部品を破損するおそれがありますので、必ずバッテリーの⊖端子を外してから行ってください。
  - 点検・調整後、各機能の作動が正常であるかを点検してください。
  - バンパーには乗らないでください。落下などの事故につながり危険です。また、バンパーを損傷させるおそれがあります。
- 換気の不十分な車庫や屋内ではエンジンをかけたままにしないでください

排出ガスにより、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

■ キャブチルトやエンジン点検口を開けて点検するときは

- 安全に十分注意してください。  
(→P.11-1、3-17)
- 必ずエンジンを止めてください。エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分に触れたり近づいたりすると手や衣服などを巻き込まれたりして、思わぬケガをするおそれがあります。
- エンジンルーム内に布や手袋、工具類などを置き忘れないでください。布などの燃えやすい物は火災の原因になります。また、工具類は振動などで飛びはね、部品を損傷させるおそれがあります。
- キャブチルトした状態でキャブ内に乗り込まないでください。

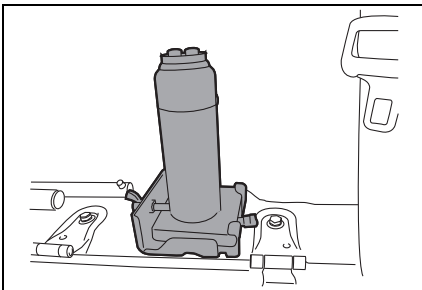
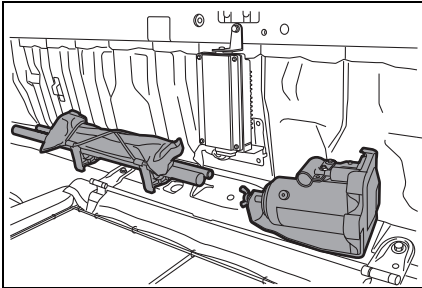
■ 交換後のオイル・冷却水・各種部品類の廃棄処理は

環境に留意した方法で行ってください。処理方法を誤ると法律違反になります。

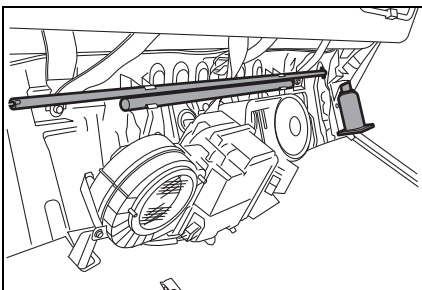
## 搭載工具

### 格納場所

- ▶ シングルキャブ車
- シートの後ろにあります。
- 取り出すときはシートを前に倒します。

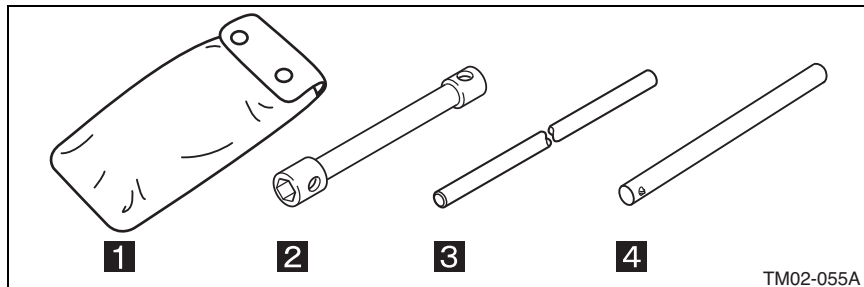


- ▶ ダブルキャブ車
- リヤシートの後ろにあります。
- 取り出すときはリヤシートを折りたたみます。



## 搭載工具

- 下記の工具を車両に搭載してあります

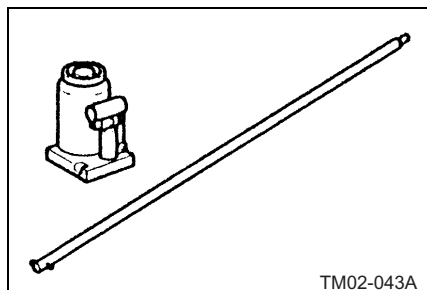


- 1 ツールバッグ
- 2 ホイールナットレンチ
- 3 ホイールナットレンチハンドル
- 4 スペアタイヤ格納用ハンドル

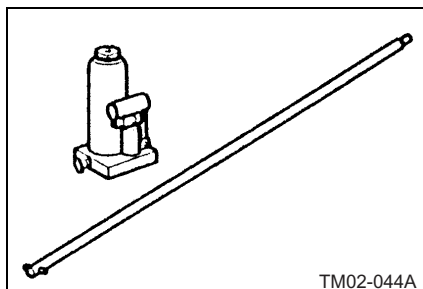
\* 車両の分解・組立・調整に必要な特殊工具は別途販売しております。トヨタ販売店にご用命ください。

### ■ オイルジャッキ&レバー

- ▶ 4トン2段ジャッキ  
(HPD-4T/HPD-4T-2)



- ▶ 4トン1段ジャッキ  
(NP-4H/NF-4H/NF-4H-2)

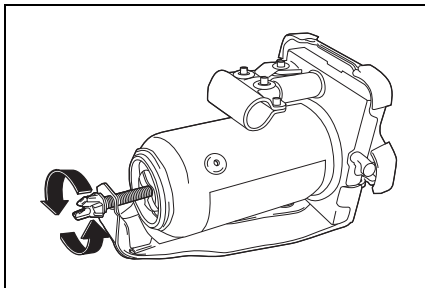


## ジャッキの取り出しおよび格納のしかた

### ■ 取り出しのしかた

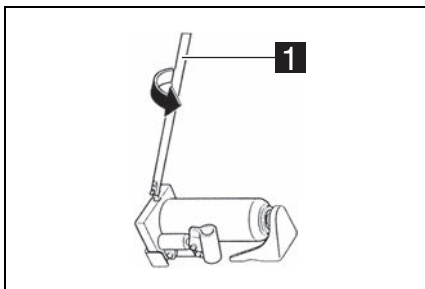
#### ▶ シングルキャブ車

チョウネジをゆるめて外します。



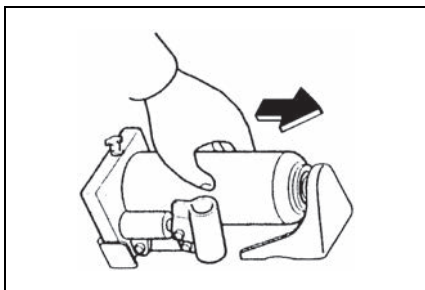
#### ▶ ダブルキャブ車

1. ジャッキアップレバーをリリースバルブに差し込み左へ回す。



### 1 ジャッキアップレバー

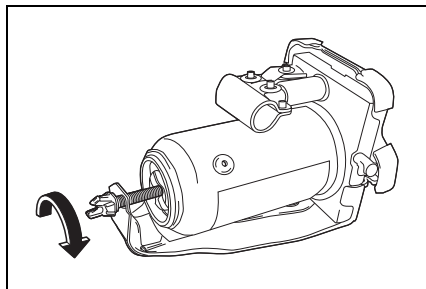
2. ジャッキ本体を持ってジャッキ頭部を押し込みながら取り外す。



### ■ 格納のしかた

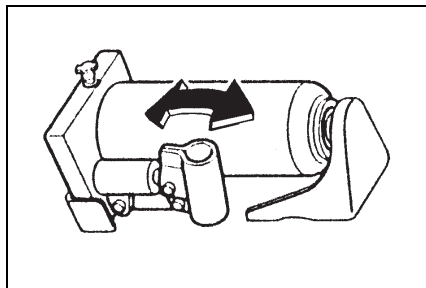
#### ▶ シングルキャブ車

固定具にかみあわせてチョウネジを締めます。



#### ▶ ダブルキャブ車

ジャッキ頭部をブラケットにかみあわせてからソケットを手で左右に動かして、ブラケットに確実に固定します。



**▲ 警告****■ 搭載工具の取り扱いについて**

- 工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ジャッキは確実に固定してください。確実に固定しないと、急ブレーキ時などにジャッキがはずれて飛び出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車に搭載されているジャッキはお客様の車専用です。他の車に使用したり、他の車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

**▲ 注意****■ ジャッキのご使用について**

車に搭載されているジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外使用しないでください。

**エンジンオイルフィルター****交換時期****交換時期**

1年または 15,000 km 走行ごと  
[シビアコンディション時]  
0.5年ごと

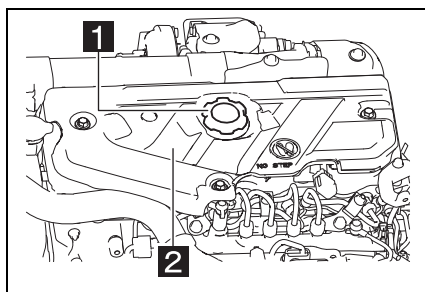
- \* エンジンオイルフィルターについては、シビアコンディション条件での交換時期が異なります。詳しくはメンテナンスノートを参照してください。
- \* エンジンオイルフィルターの交換の際は、二面幅 (mm) 24 ソケット、9.5 sq (3/8in) サイズのソケットレンチを使用します。

**交換要領**

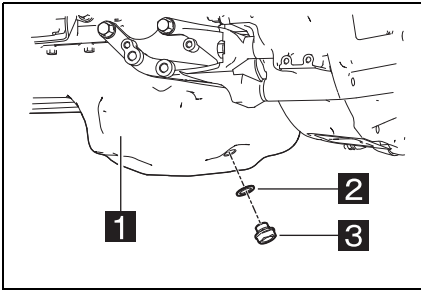
- \* 作業を行う前に、オイルフィルター周りを清掃してください。ゴミが入るおそれがあります。

**■ 取り外し**

1. ヘッドカバーからオイルフィルターキャップを取り外す。

**1 オイルフィルターキャップ****2 ヘッドカバー**

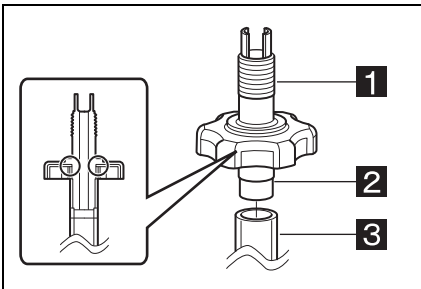
2. オイルパンからドレーンプラグおよびガスケットを外し、エンジンオイルを排出する。



- 1** オイルパン
- 2** ガasket
- 3** ドレインプラグ

3. ドレインアダプターのパイプ部に内径 12 φ のホースを取り付ける。

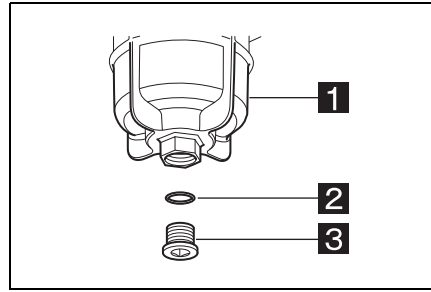
- \* ホースはアダプターのパイプ根元に突き当たるまでしっかりと挿入してください。



- 1** ドレインアダプター
- 2** パイプ部
- 3** ホース

4. ソケットレンチ (3/8 in) を使用して、オイルフィルターキャップからドレインプラグおよび O-リングを取り外す。

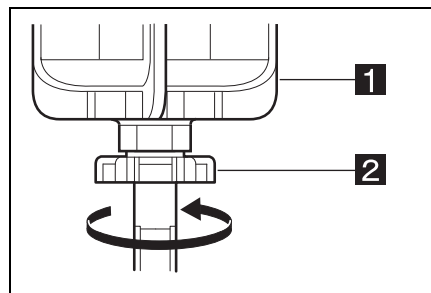
- \* ドレインプラグを外した際に、多少オイルが垂れてくる場合があるのでウエスなどで拭き取ってください。
- \* HEX ソケットを取り付けていない状態のソケットレンチを、使用します。



- 1** オイルフィルターキャップ
- 2** O-リング
- 3** ドレインプラグ

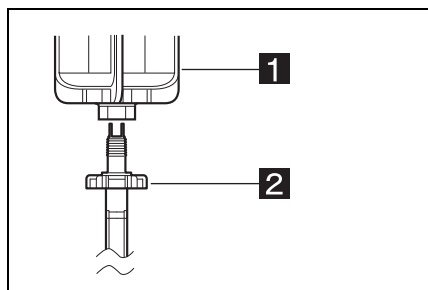
5. ドレインアダプターをオイルフィルターキャップに取り付け、ドレインアダプターがオイルフィルターキャップに着座するまで締め込む。着座後、アダプターが手で回せなくなるまで更に締め込みオイルフィルターキャップからエンジンオイルを排出する。

- \* アダプターを完全に締め込まないとドレインが始まらないので、注意してください。
- \* アダプターの破損に繋がるため、ペンチなどの工具を使用して無理に締め込まないこと。



- 1** オイルフィルターキャップ
- 2** ドレインアダプター

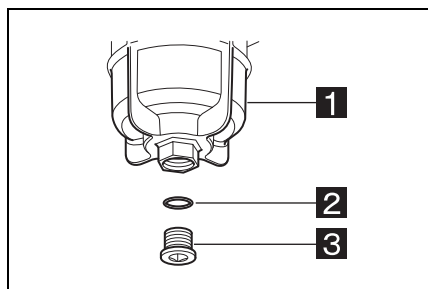
6. エンジンオイルの排出が完了したのを確認し、オイルフィルターキャップからドレインアダプターを取り外す。



- 1 オイルフィルターキャップ  
2 ドレインアダプター

■ 取り付け

1. 新品の O ーリングに交換してドレインプラグをオイルフィルターキャップに取り付ける。

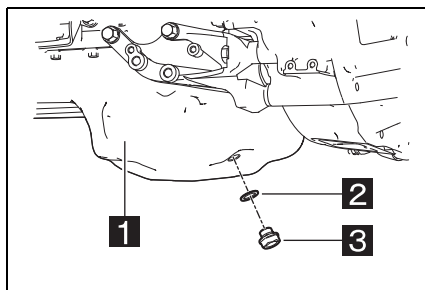


- 1 オイルフィルターキャップ  
2 O ーリング  
3 ドレインプラグ

締め付けトルク

10 ~ 20 N · m {102 ~ 204 kgf · cm}

2. 新品のガスケットに交換してドレインプラグをオイルパンに取り付ける。

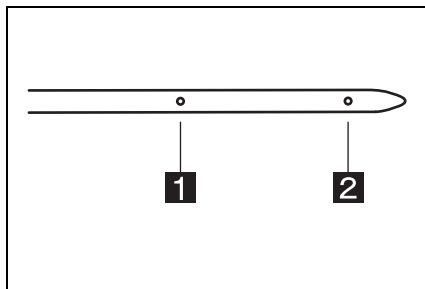


- 1 オイルパン  
2 ガスケット  
3 ドレインプラグ

締め付けトルク

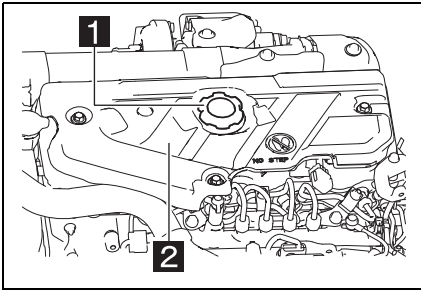
41 N · m {418 kgf · cm}

3. エンジン左側のオイルレベルゲージで油量を確認しながら、オイルフィルターからエンジンオイルを注入する。(→P.14-5)



- 1 FULL  
2 LOW

4. オイルフィルターキャップをヘッドカバーに取り付ける。



**1** オイルフィルターキャップ

**2** ヘッドカバー

\* 交換についての不明な点はトヨタ販売店へご相談ください。

### 👉 アドバイス

#### ■ 交換時期について

エレメントを交換するときは、オイルも交換してください。

#### ■ 交換要領について

オイルフィルターはエンジン型式によって種類が異なります。それぞれ専用品となっておりますので絶対に混用しないでください。

### ⚠️ 警告

#### ■ エンジンオイルフィルター交換時の注意

- 走行後すぐに排油すると、エンジンオイルや周辺部品が高温になっていてやけどをするおそれがありますので、少し時間をおいて温度が下がってから行ってください。
- エレメント交換後は、エンジンを始動させ試運転を行い、キャップおよびドレーンプラグ周りからオイル漏れのないことを確認してください。オイル漏れは、火災の原因になります。

## フューエルフィルター

- フューエルフィルターは車両側とエンジン側の2種類があります。
- 車両側フューエルフィルターは、セジメンター一体型レベルウォーニング付きのエレメントタイプを使用しています。
- エンジン側フューエルフィルターは、エコタイプを使用しています。

## 交換時期


### ▶ 車両側フューエルフィルター

車型	交換時期
標準車	1年また 60,000 km 走行ごと
消防車	1年または 750 時間運転ごと

### ▶ エンジン側フューエルフィルター

車型	交換時期
標準車	1年また 60,000 km 走行ごと
消防車	1年または 750 時間運転ごと

### ⚠️ 注意

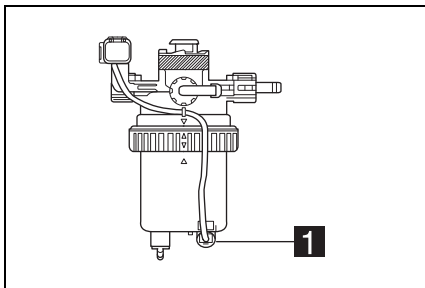
エレメントを適切な時期に交換しなかった場合は、他の燃料系部品の故障を発生させるおそれがあり、 ランプが点灯することがあります。

## 交換要領

- \* 作業を行う前に、フューエルフィルター周りを清掃してください。ゴミが入るおそれがあります。

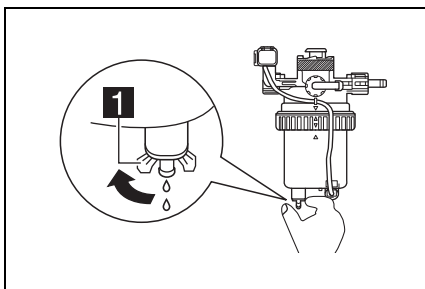
### ▶ 車両側フューエルフィルター

#### 1. コネクターを取り外す。



#### 1 コネクター

#### 2. ドレインプラグを完全に取り外して燃料を抜く。



#### 1 ドレインプラグ

3. 燃料が出なくなったことを確認し、リングを回して取り外す。
4. フィルタの下部ケースを下向きに引き抜く。

#### 5. エレメントを取り外す。

- \* エレメントのガイド部を握り、引っ張るとエレメントが外れます。
- \* フィルター内部にゴミなどが入らないように注意してください。

6. ケース側とドレインプラグのOリングを取り外し、新品に交換する。
7. 新品のエレメントをケースに挿入する。
8. ケースとキャップの矢印の位置を合わせて、組み付け、リングを締める。

- \* リングが「カチッ」と音がするまで回す。

#### 9. ドレインプラグを回し、確実に締め付ける。

- \* 工具を使用せず、手で締め付けてください。

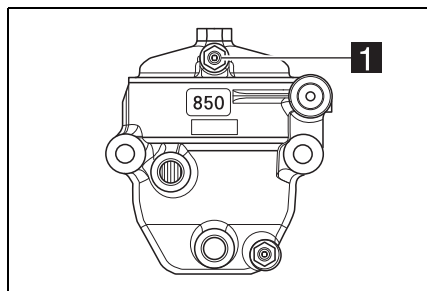
#### 10. コネクターを取り付ける。

#### 11. 取り付け後、燃料系統のエア抜きを行う。

- \* 燃料系統のエア抜き (→P.15-40)

### ▶ エンジン側フューエルフィルター

#### 1. エア抜きプラグを回し、燃料を抜く。

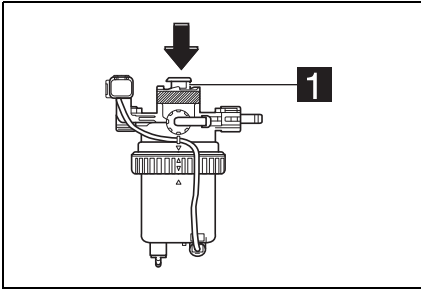


#### 1 エア抜きプラグ

#### 2. エレメント脱着用ボスに工具をかけ、エレメントを取り外す。

- \* 燃料をこぼしたら必ず拭きとってください。

- \* フィルター本体側にOリングが残ってないか確認してください。



### 1 エレメント脱着用ボス

3. フューエルフィルター本体のシール面（エレメントとOリングの接触面）の汚れを取り除く。
  4. 新品のOリングに燃料を塗布し、本体のシール面に当たるまで手で右に軽く回して取り付ける。
- \* Oリングは、エレメントキットに入っている新品と交換してください。
  - \* 取り付けの際、Oリングがねじれて破損しないよう注意してください。
  - \* エレメントの再使用はしないでください。
5. エレメント脱着用ボスに工具をかけ、エレメントを締め付ける。

#### 締め付けトルク

47 N・m [479 kgf・cm]

6. 取り付け後、燃料系統のエア抜きを行う。
- \* 燃料系統のエア抜き（→P.15-40）

## ▲ 警告

- ### ■ フューエルフィルター交換時の注意
- 安全のため、地面を汚さないためにも、燃料は必ず容器に受けてください。
  - エンジン各部に燃料がかかったときは、よく拭き取ってください。火災の原因になり危険です。
  - 作業中はタバコの火などを近づけないでください。着火のおそれがあり危険です。
  - エレメント交換後は、エンジンを始動させ試運転を行い、フィルター周りから燃料漏れがないことを確認してください。燃料漏れは、火災の原因になり危険です。

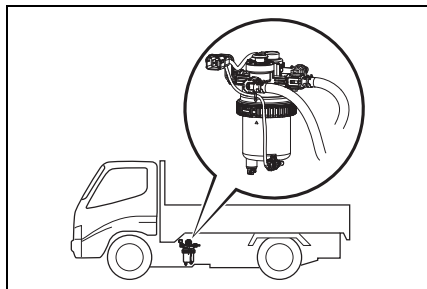
## ▲ 注意

- ### ■ 車両側フューエルフィルターの取り扱について
- カバー部分にブレーキフルードおよび有機溶剤を含む製品（パーツクリーナー、塗料等）が付着しないように注意してください。付着した場合、亀裂が発生するおそれがあります。
  - フューエルフィルターケースの破損の原因になりますので強い衝撃や外力を与えないでください。

## フューエルフィルターの水抜き

燃料系統に水が混入すると、運転不調などの原因となるばかりでなく、エンジンの損傷にもつながります。

エンジン回転中、フューエルフィルター内に規定レベル以上の水がたまると警告灯が点灯します。点灯したらすみやかにフューエルフィルターの水抜きを行ってください。フューエルフィルターは車体下部の左側または右側についています。



### ■警告灯

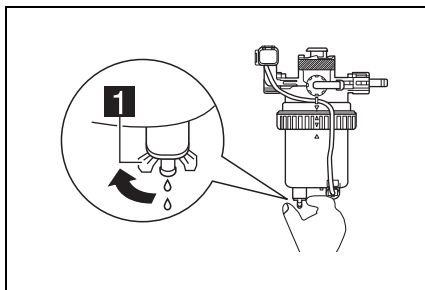


### ■水抜き作業時の注意

- 水を抜くときは、エンジンを停止させた状態で行ってください。
- ドレインプラグを締め付けた後、ドレインプラグから燃料漏れがないことを確認してください。

### ■排水方法

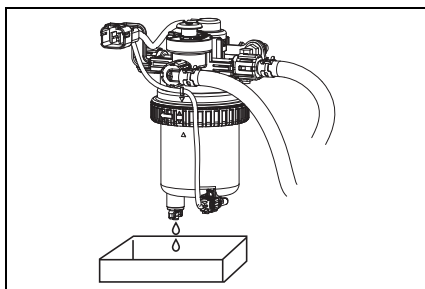
1. ドレインプラグを回す。



### 1 ドレインプラグ

2. 排水する。

\* コップ一杯ぐらい（約 150 mL）の水を排出します。



3. ドレインプラグとエア抜きプラグを回し確実に締め付ける。

\* 工具を使用せず、手で締め付けてください。

4. 燃料系統のエア抜きを行う。

\* 燃料系統のエア抜き（→P.15-40）

### ▲警告

#### ■水抜き作業について

- 安全のため、地面を汚さないためにも、排水は必ず容器に受けてください。

- 作業中はタバコの火などを近づけないでください。着火のおそれがあり危険です。

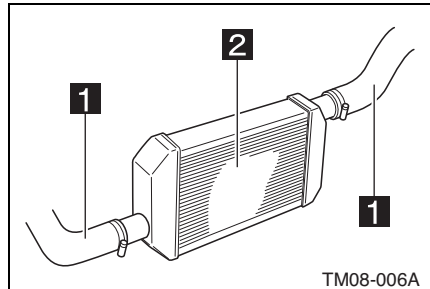
### ⚠ 注意

- 警告灯が点灯したまま走行を続けしないでください

噴射系部品が焼き付きエンジンを損傷するおそれがあります。点灯したときは、すみやかに排水してください。

## インタークーラー

- ターボチャージャーで過給され高温になった吸入空気を冷却する装置です。
- ラジエーターの前面に取り付けられています。
- **インタークーラー本体の清掃**
- 前面が泥やほこりで詰ましていると冷却効率が低下したりインタークーラーコアの腐食の原因になるので、定期的に水洗いをします。
- ホース交換時に、インタークーラー内部に圧縮空気を吹きつけて清掃します。



TM08-006A

**1** インタークーラーホース

**2** インタークーラー

### ■ インタークーラーホースの点検

目視にて外周のひび割れ、亀裂およびかしめ部の抜け出しを点検します。

- \* 不具合があるときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

**△ 注意**

- インタークーラー本体の清掃について
- フィンなどをつぶしたり傷つけたりしないようにしてください。
- インタークーラー内部を清掃するときは、水による清掃をしないでください。
- 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路の走行後は、十分に洗浄してください。

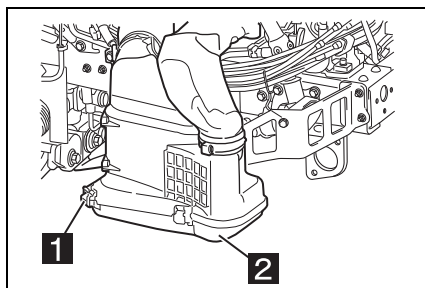
**エアクリナー**

エアクリナーは、車両右側に搭載されています。

■ エレメントの取り外しかた

1. クランプを外しカバーを取り外す。

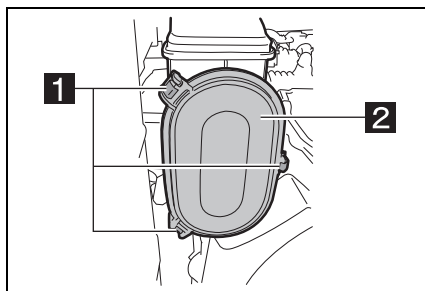
▶ 標準キャブ車



**1** クランプ (4 カ所)

**2** カバー

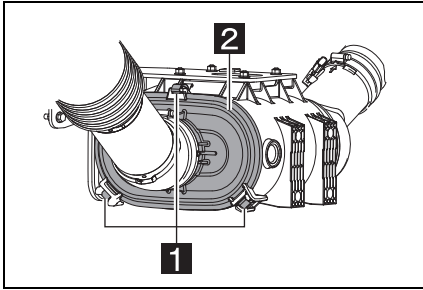
▶ ワイドキャブ車 (シングルキャブ)



**1** クランプ (3 カ所)

**2** カバー

## ▶ ワイドキャブ車（ダブルキャブ）

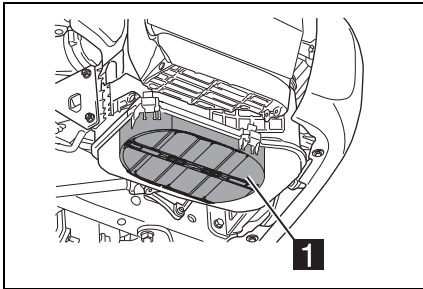


**1** クランプ（3カ所）

**2** カバー

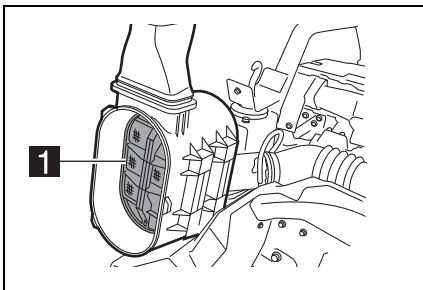
2. エレメントを取り外す。

## ▶ 標準キャブ車



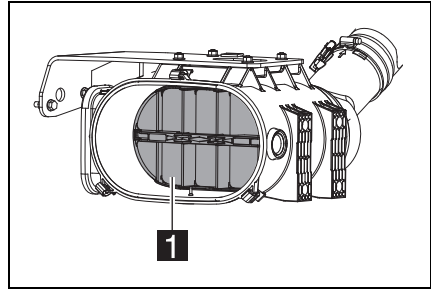
**1** エレメント

## ▶ ワイドキャブ車（シングルキャブ）



**1** エレメント

## ▶ ワイドキャブ車（ダブルキャブ）

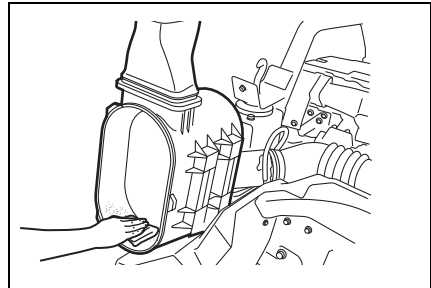


**1** エレメント

## ■ エアクリーナーの清掃のしかた

1. エアクリーナーのカバーとケース内部に付着しているほこりを布などで落とす。

\* エアクリーナーの中に直接水が入らないようにしてください。



2. シールラバー・ホースの破れ、クランプのゆるみなどを点検する。

\* 破れているときは新品と交換します。

\* クランプにゆるみがあるときは確実に締め付けます。

3. エレメントを清掃する。

## ■ エレメントの取り付けかた

エレメントの取り外しと逆の順序で取り付けます。

\* クランプおよびウイングナットは確実に固定してください。

### ■ エレメントの状態

エレメントの汚れ、つまり、損傷がないか点検します。

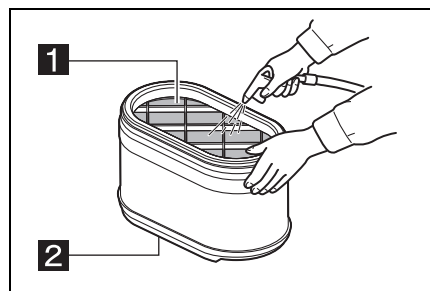
点検時期
事業用 3 カ月ごと（距離項目）、 家用用 6 カ月ごと（距離項目） [シビアコンディション項目]

非舗装路などの埃の多い道を走行されるお客さまは以下の要領でエレメントの清掃を行ってください。

清掃時期
2 カ月または 10,000 km 走行ごと

### ■ エレメントの清掃（乾いたほこり）

エレメントの下流側（格子側）より上流側に向けて、圧縮空気（空気圧力：690 kPa {7.0kgf/cm<sup>2</sup>} 以下）を吹きつけて、ほこりを落とします。



**1** 下流側（格子側）

**2** 上流側

### ■ エレメントの交換

#### ▶ 標準車

交換時期
1 年または エアクリーナ点検時期 6 回目表示時 （5 回清掃ごとに交換）

#### ▶ 消防車

交換時期
500 時間運転ごと

\* シビアコンディション条件での交換時期が異なります。詳しくはメンテナンスノートを参照してください。

#### ⚠ 注意

##### ■ エレメントの取り付けかたについて

クランプの取り付けが不完全な場合、エレメントパッキン面のシール不良となり、エンジン内部にほこりや異物を吸い込み、ピストンおよびライナーなどの早期摩耗の原因になります。

##### ■ エレメントの清掃について

圧縮空気の圧力が高すぎたり、たいたりしてエレメントを変形させると、エンジン故障の原因になります。

##### ■ エレメントの清掃（乾いたほこり）について

ほこりを吸わないようにしてください。人体に悪い影響をあたえるおそれがあります。

### ■ エLEMENTの交換について

ELEMENTは必ずトヨタ純正ELEMENTを使用してください。トヨタ純正以外のELEMENTは、シール不良や締め付けによる破損を招き、ほこりを吸い込むおそれがあるため使用しないでください。

## エアフィルター

### 外気エアフィルター

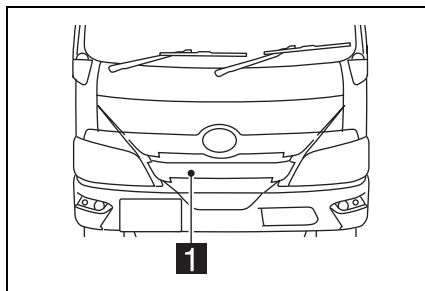
#### ■ 清掃

清掃時期

1 カ月ごと

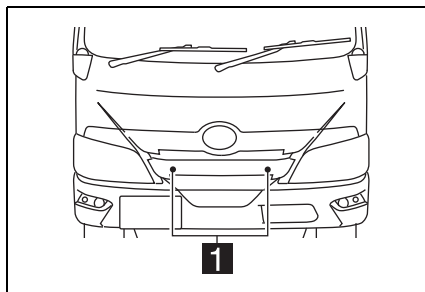
#### ▶ 標準キャブ車

##### 1. ボルトを外す。



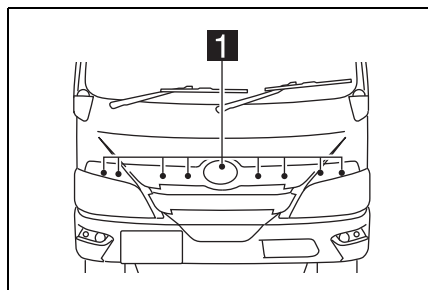
##### 1 ボルト

##### 2. グリル下側のクリップを外す。



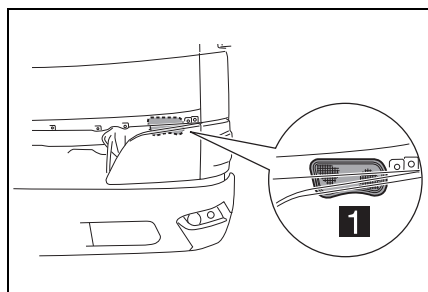
##### 1 クリップ

##### 3. グリル上側のクリップを外し、グリルを手前に引いて取り外す。



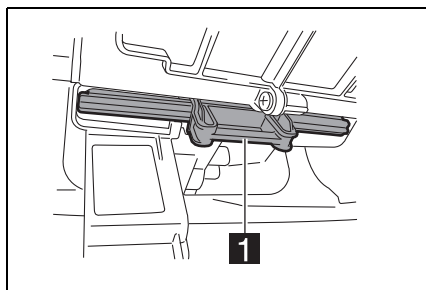
**1** クリップ

4. 誤発進抑制機能システム付き車両は、グリル取り外し後コネクタを外してください。
5. 助手席側ヘッドライト上部にあるエアフィルターをやわらかいブラシや布で清掃する。



**1** 外気エアフィルター

6. 清掃後、フロントグリルをボデーに取り付ける。
  7. ボルトを取り付ける。
- ▶ ワイドキャブ車
1. 助手席足元よりエアフィルターを引き出す。



**1** 外気エアフィルター

2. 水洗い、または圧縮空気を吹きつけて清掃する。
3. 清掃後、エアフィルターを取り付ける。

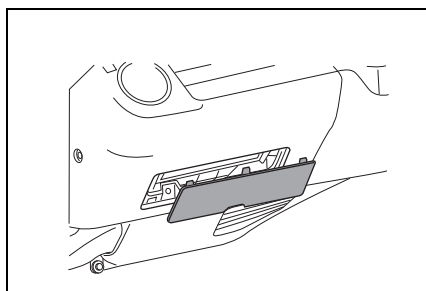
**高性能内気エアフィルター**

■ 清掃

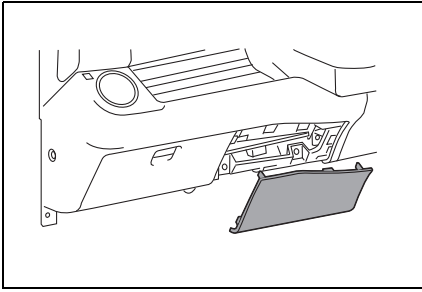
清掃時期
10,000 km 走行ごと

1. カバーを取り外す。

▶ 標準キャブ車

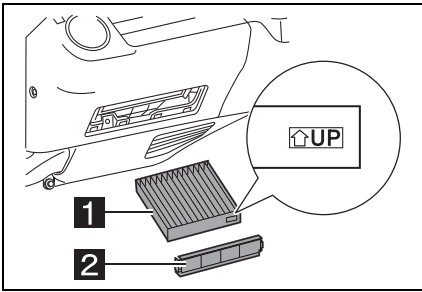


▶ ワイドキャブ車



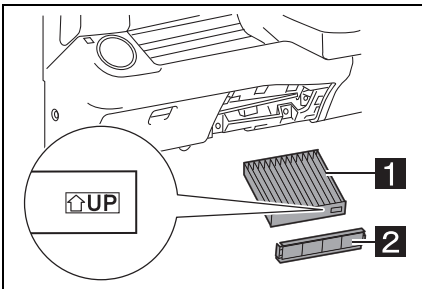
2. エアフィルターカバー両端のツメを押しながら引き出します。
3. エアフィルターを引き出す。

#### ▶ 標準キャブ車



- 1 エアフィルター
- 2 エアフィルターカバー

#### ▶ ワイドキャブ車



- 1 エアフィルター
  - 2 エアフィルターカバー
4. 圧縮空気を吹きつけて清掃する。

5. 清掃後、エアフィルターを取り付ける。

#### ■ 交換

##### 交換時期

1年または30,000 km 走行ごと

#### 👉 アドバイス

##### ■ エアフィルターがゴミやほこりで詰まると

風の出が悪くなってエアコン・ヒーターおよびデフロスターの効が悪くなりますので、定期的に点検してください。

##### ■ エアフィルターの取り付けについて

フィルターは取り外した時と同じ向きになるように取り付けます。

フィルターを取り付けるときは、“↑ UP” マークの矢印が上を向くように確認してください。

“↑ UP” マークを下向きに取り付けたり、フィルターが変形したまま取り付けないでください。

#### ⚠ 注意

##### ■ フロントグリルを外す場合は

車両前方にまっすぐ引いて取り外してください。無理に外そうとすると変形や破損のおそれがあります。

##### ■ エアフィルターを清掃するときは

● エアコンの風が低下してきた場合は、フィルターの点検、又は交換を行ってください。

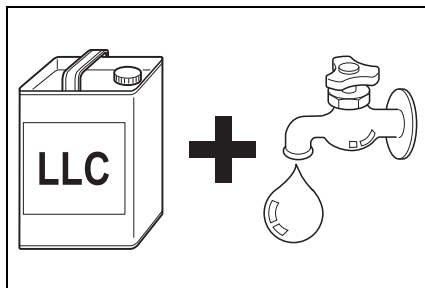
● エアコンは必ずフィルターを取り付けた状態で作動させてください。

- フィルターの交換は、必ずエアコンとエンジンを止めた状態で実施してください。
- 高機能内気エアフィルターは、水洗い、洗剤での洗浄は出来ません。汚れがひどい場合は交換をして下さい。

## 冷却水

### 使用する冷却水

冷却水は、冷却水と水道水を適正に混合したものを使用します。



### ■ 指定（推奨）銘柄

冷却水
トヨタ純正 スーパーロングライフクーラント

- \* トヨタ純正以外の冷却水を使用すると、冷却系の錆などによる損傷を与える原因になります。選定にあたっては十分注意してください。

### 冷却水の作り方

#### ■ 冷却水と水の混合割合

外気温度が0℃以下に下がる期間および寒冷地域では、冷却水の凍結によってエンジンおよびラジエーターなどが破損するおそれがあります。冷却水は必ず冷却水を、下記の混合割合で使用してください。

外気温度	混合割合
-30℃	50%
-12℃	30%

## ▶ 標準車（リヤヒーター付き）

混合量		冷却水容量
混合割合 30%	混合割合 50%	
4.6 L	7.7 L	15.3 L

## ▶ 標準車（リヤヒーター無し）

混合量		冷却水容量
混合割合 30%	混合割合 50%	
4.3 L	7.2 L	14.3 L

## ▶ ワイドキャブ車（リヤヒーター付き）

混合量		冷却水容量
混合割合 30%	混合割合 50%	
4.7 L	7.9 L	15.7 L

## ▶ ワイドキャブ車（リヤヒーター無し）

混合量		冷却水容量
混合割合 30%	混合割合 50%	
4.4 L	7.3 L	14.6 L

## ▶ 消防車（リヤヒーター付き）

混合量		冷却水容量
混合割合 30%	混合割合 50%	
5.2 L	8.7 L	17.3 L

## ▶ 消防車（リヤヒーター無し）

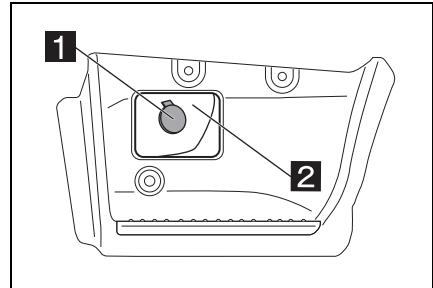
混合量		冷却水容量
混合割合 30%	混合割合 50%	
4.9 L	8.2 L	16.4 L

## 補給

## ■ エンジンが冷えているとき〔日常（運行前）点検〕

リザーバータンクのキャップを取り外し冷却水を「FULL」の線まで補給します。

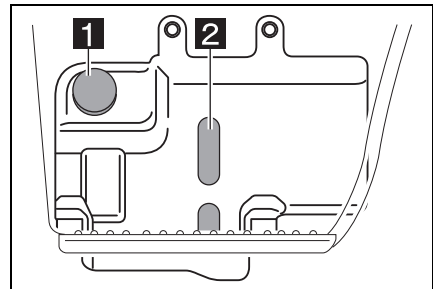
## ▶ 標準キャブ車



## 1 キャップ

## 2 液量確認窓

## ▶ ワイドキャブ車



## 1 キャップ

## 2 液量確認窓

\* リザーバータンクのキャップは、確実に取り付けてください。

### ■ オーバーヒートしたとき

リザーバタンク以外にラジエーター本体の水量不足が考えられます。エンジン回転数をアイドルリングの状態より若干高めにし、水温計の指針がゲージの中央付近まで下がるのを確認した後、ラジエーターキャップを開け給水口いっぱいまで給水し減水しない（約5秒間）ことを確認後、ラジエーターキャップを確実に締めます。また、リザーバタンクのキャップを取り外し冷却水を「FULL」の線まで補給します。

### 交換時期

#### ▶ ピンク

混合割合	交換時期
30%	2年または 200,000 km 走行ごと
50%	3年または 300,000 km 走行ごと

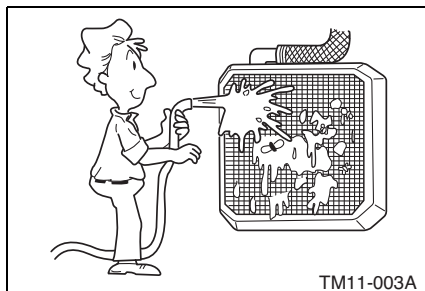
#### ▶ 青

混合割合	交換時期
30%	3年または 300,000 km 走行ごと
50%	4年または 400,000 km 走行ごと

### ラジエーターコアの洗浄

ラジエーターコアが泥やほこりで詰まっていると冷却効率の低下や腐食の原因になるので、定期的に水洗いをします。

\* 洗浄するときは、フィンなどをつぶしたり傷つけたりしないでください。



### 冷却水路の洗浄

ラジエーター・ヒーターコアおよびエンジンの冷却系統内には、水あかや錆がついて冷却効果を低下させるので、冷却水交換時に水道水を使って洗浄します。

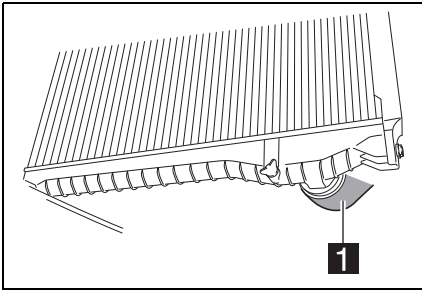
#### 洗浄時期

3年または 300,000 km 走行ごと

1. 冷却水を排水する。
2. 水道水を使用し、アイドルリング回転にして約30分間洗浄後、排水する。
3. 冷却水（冷却水＋水道水）を給水する。

### ラジエーターホースの点検

- 亀裂や損傷がないかを点検します。
- 亀裂や損傷があるときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。



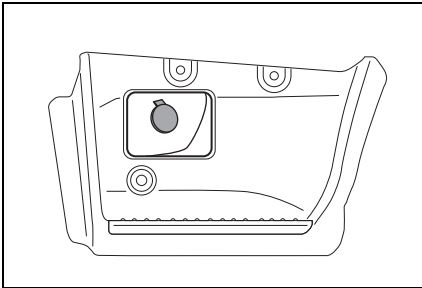
### 1 ラジエーターホース

#### 交換のしかた（排水）

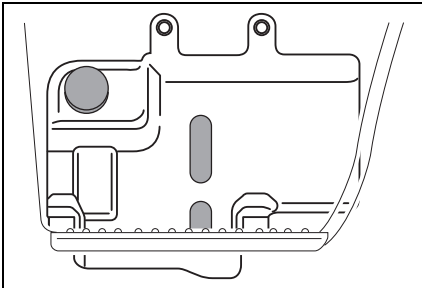
\* 冷却水の温度が十分下がった状態で行います。

1. リザーバータンクのキャップを取り外す。

#### ▶ 標準キャブ車

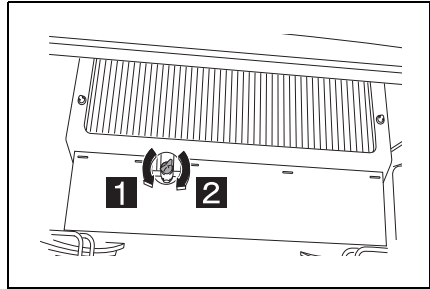


#### ▶ ワイドキャブ車



2. ラジエーターキャップを取り外し、ラジエーターのドレンコックを開けて排水する。

\* 安全のため、地面を汚さないためにも、冷却水は必ず容器に受けてください。

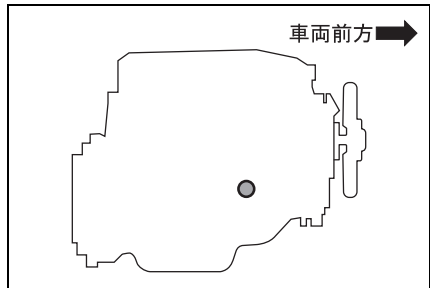


1 開

2 閉

3. エンジンのドレンプラグを開けて排水する。

\* 排水が近接部品にかからないようにドレン用のホースを使用してください。



4. リザーバータンク内の冷却水を排水する。

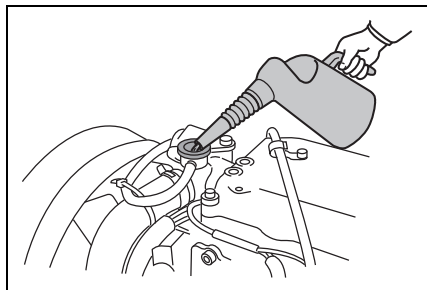
\* 標準キャブ車は、リザーバータンクを外して排水し、排水後は確実にホースを接続します。

\* ワイドキャブ車は、リザーバータンク下部にあるホースを外して排水し、排水後は確実にホースを接続します。

5. 排水完了後、各ドレンコックおよびドレンプラグを閉める。

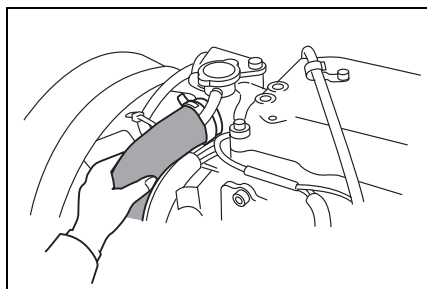
### 交換のしかた（給水）

1. 冷却水を給水口いっぱいまで、エアが混入しないようゆっくり給水する。



2. 給水口までいっぱいにし、ラジエーターアッパーホースを2～3回押す。

\* それによりホース内のエアが抜けて冷却水位が下がりますので、その分給水口いっぱいまで給水する。



3. 給水口いっぱいまで給水し減水しない（約5秒間）ことを確認後、ラジエーターキャップを確実に締める。
4. リザーバータンクの液面レベル「FULL」まで給水してキャップを締める。
5. エンジン内部および配管内のエア抜きを確実にを行う。

\* アイドリングの回転数を通常より少し高めにし、水温計の指針をゲージの中

央付近まで上げ、下記の要領により確実にエア抜き作業を行います。

- 1～4までを1セットとして、2～3セットを行います。リヤヒーター付き車は10セットを行います。

手順	作業内容	時間 (見安)
1	アイドリング 600 r/min	1分
2	レーシング 2,500 r/min	10秒
3	アイドリング 600 r/min	3分
4	エンジン停止	1分

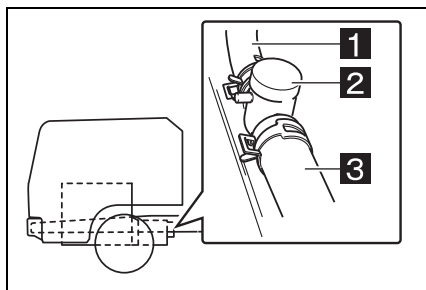
6. エンジンを止め、エンジンが冷えてからリザーバータンク内の冷却水量を点検し、水位が下がった分（エア抜き分）を給水する。

7. 給水後、各キャップは確実に締める。

\* ラジエーターキャップの締めかた  
(→P.13-28)

#### ■4WD、ダブルキャブリヤヒーター付き車

冷却水を充てんするときは、エア抜きバルブをゆるめて行うと容易になります。充てん後は確実にエア抜きバルブを締めてください。



- 1 リヤヒーターホース  
(フロントヒーター側)
- 2 エア抜きバルブ
- 3 リヤヒーターホース  
(リヤヒーターユニット側)

## 知識

### ■ 冷却水の作りかた

冷却水と水との混合割合は、50%で使用してください。混合割合が30%以下になると防錆効果が減少し、60%以上では凍結防止性が低下します。

### ■ レーシングとは

停車の状態、シフトレバーを「N」にしてエンジン回転数を上げることをいいます。

## 警告

### ■ 冷却水の取り扱いについて

- 毒性があるので絶対に飲まないでください。飲んでしまったときはすぐにおう吐し、医師の処置を受けてください。
- 目に入ったときはすぐに清水で洗眼し、医師の治療を受けてください。

### ■ 交換（排水）について

- ドレーンコックは5回転以上回さないでください。冷却水が前方に飛び出し、高温時にはやけどをするおそれがあります。
- 水温計の指針がゲージの中央付近に下がるまでは、絶対にラジエーターキャップを外さないでください。不用意にキャップを開けると熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをするおそれがあり危険です。

## 注意

### ■ 使用する冷却水

冷却水に混合する水は水道水（軟水）をお使いください。河川や井戸水のような硬水を使用すると水あかや錆がつく原因になります。

### ■ 冷却水の作り方

- トヨタ純正品を使用してください。不凍液・防錆剤および市販の冷却水との混用は避けてください。
- 冷却水を補充するときは、注入してあるものと同一銘柄を用い、かつ同一濃度の補充液を注入してください。
- 水だけを補給すると冷却水の濃度が薄くなり、防錆効果および凍結防止性が低下します。

### ■ 冷却水の取り扱いについて

- 引火性があるので火気を近づけないでください。
- 皮膚や衣服についたときは、ただちに水洗いし、石けんで洗ってください。
- 保管するときは、確実にふたをしてお子さまの手の届かないところに置いてください。
- 塗装部に付着したときは、塗装部の損傷を防ぐため、ただちに水洗いしてください。

### ■ ラジエーターコアの洗浄について

海岸地帯・凍結防止剤を散布した道路走行後には、十分に洗浄してください。

### ■ 排水後について

水なし運転はしないでください。ウォーターポンプの故障やエンジン焼き付きなどの原因になります。

### ■ エアの混入について

オーバーヒートやウォーターポンプからの水漏れなどの原因になりますので、必ずエア抜きを行ってください。

### ■ 冷却水の廃棄処理について

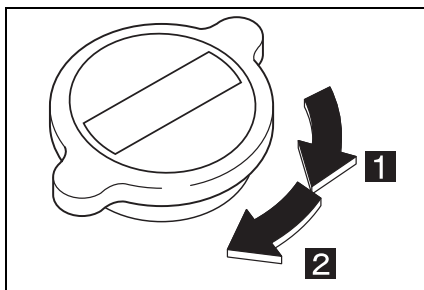
排出した冷却水の廃棄処理は、規定の方法あるいは環境に留意した方法で行ってください。

## ラジエーターキャップ

### ■ 締めかた

常に右いっぱい（2 段目）に回した状態で使用してください。

\* ラジエーターキャップは加圧式です。



**1** 1 段

**2** 2 段

### ■ エンジン高温時

エンジンが熱いときは絶対にラジエーターキャップを外さないでください。熱湯や蒸気が噴き出してやけどをするおそれがあります。

やむを得ずキャップを外すときは、次の要領にしたがってください。

1. 水温計の指針が赤色ゾーン近くを指示しているときは、エンジン回転数をアイドリング回転時より少し高めにしたまま指針がゲージの中央付近に下がるまで待つ。
2. 厚手の布を数枚重ねてラジエーターキャップにかぶせキャップを徐々にゆるめる。

\* 著しく蒸気が噴き出すときには、ただちにキャップを締め直し、冷却水温が下がるまで待ちます。

**▲危険**

- **高温時は絶対にラジエーターキャップを外さないでください**

熱湯や蒸気が噴き出して、やけどなど重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

**▲警告**

- **キャップの締めかたについて**

キャップを締めるときは確実に締め付けてください。確実に締めておかないとオーバーヒートしたとき、高温の冷却水が噴き出すことがあります。

**Vベルト**

Vベルトのゆるみや張りすぎは、充電不良・オルタネーターの故障などを起こす原因になりますので、常に正しい張り具合に調整しておきます。また、ベルト張力が適正でない状態で走行すると、ベルトの早期寿命やベルト脱落による問題が起こる可能性があります。ベルトは常に正しい張り具合に調整しておきます。

**ベルトのゆるみ、損傷の点検****点検時期**

事業用 3 カ月ごと、自家用 6 カ月ごと、  
[シビアコンディション項目]

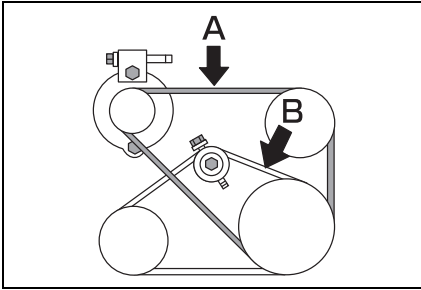
- **音波張力計を使用した測定要領**
- 音波張力計は三ツ星ベルト製「DOCTOR TENSION TYPE-IV」などがあります。（「DOCTOR TENSION TYPE-IV」は三ツ星ベルトの登録商標です）
- 使用方法の詳細については、機器メーカーの取扱説明書をご覧ください。
  1. 電源を入れます。
  2. ベルト種類「V リブドベルト（ゴム）」（オルタネーターベルト）または「V ベルト」（エアコン用コンプレッサーベルト）を選択します。
  3. ベルト単位質量「0.016」（Kg/m）（オルタネーターベルト）または「0.108」（Kg/m）（エアコン用コンプレッサーベルト）を入力します。

4. ベルト山数（オルタネータベルトのみ）「8」を入力します。
5. スパン長 A 部「300 mm」（90 A）または B 部（197 mm）を入力します。
6. 測定部 A 部または B 部にマイクを近づけ、ベルトを棒のようなものではじくことにより張力値が表示されます。（5 回程度の平均値を測定値としてください）

 **注意**

A、B 部は参考値のため、車両にて A、B 部を測定し正確な値を入力してください。

## ■ 測定位置



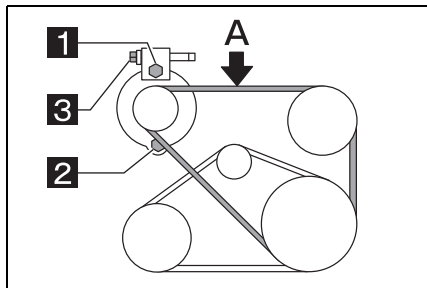
### ▶ A 部の測定（オルタネーターベルト）

測定	スパン長	張力	周波数
	90 A		90 A
点検時の 基準値	300 mm	550 ~ 650 N {56.1 ~ 66.3 Kgf}	109 ~ 119 Hz
新品ベルト 張り時		780 ~ 880 N {79.6 ~ 89.7 kgf}	130 ~ 138 Hz

### ▶ B 部の測定（エアコン用コンプレッサーベルト）

測定	スパン長	張力	周波数
点検時の 基準値	197 mm	300 ~ 400 N {30.6 ~ 40.8 kgf}	134 ~ 155 Hz
新品ベルト 張り時		350 ~ 500 N {35.7 ~ 51.0 kgf}	145 ~ 173 Hz

## オルタネーターベルトの調整要領



- 1** 固定用ボルト
- 2** 固定用ボルト
- 3** 調整ボルト

1. 固定用ボルト **1**、**2** をゆるめる。
2. 調整ボルト **3** を回して測定位置 A のベルトのたわみ量が基準値内になるように調整する。

- \* 調整ボルトを時計回りに回すとベルトが張れます。
- \* 音波式張力計で張力を測定してください。
- \* 音波式張力計が用意できない場合は、ベルトの中央部を約 98 N(10 kgf) の力で指で押すか、または特殊工具ベルトテンションゲージ（品番：S0944-41210）を使用して、測定位置 A のベルトのたわみ量を測定してください。たわみ量は参考値です。
- \* 運転後に調整する場合は、張り直し時の値を適用してください。
- \* 音波張力計について
  - ・ →P.13-29
  - ・ 機器メーカーの取扱説明書をご覧ください。

\* ベルトの温度が高いと不正確な測定になるため、常温時に測定してください。

調整時期	基準値
張り直し時	10.1 ~ 11.2 mm
新品ベルト張り時	7.9 ~ 8.7 mm

3. 固定用ボルト **1** を締め付ける。

締め付けトルク
55.0 N・m [560.0 kgf・cm]

4. 固定用ボルト **2** を締め付ける。

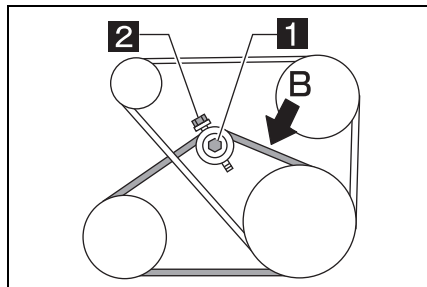
締め付けトルク
55.0 N・m [560.0 kgf・cm]

5. 調整ボルト **3** を締め付ける。

締め付けトルク
6.0 N・m [60.0 kgf・cm]

## エアコン用コンプレッサーベルトの調整要領★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



- 1** ロックナット
- 2** 調整ボルト

1. ロックナット **1** をゆるめる。

## 2. 調整ボルト **2** を回して測定位置 B のベルトのたわみ量が基準値内になるように調整する。

- \* 調整ボルト **2** を時計回りに回すとベルトが張れます。
- \* ベルトの中央部を約 98 N[10 kgf] の力で指で押すか、または特殊工具ベルトテンションゲージ（品番：S0944-41210）を使用して、測定位置 B のたわみ量を計測するか、音波張力計で張力を測定します。
- \* 運転後に調整する場合は、張り直し時の値を適用してください。
- \* 音波張力計について
  - P.13-29
  - ・ 機器メーカーの取扱説明書をご覧ください。

調整時期	基準値
張り直し時	8.5 ~ 10.0 mm
新品ベルト張り時	7.0 ~ 9.0 mm

## 3. アイドルプーリーのロックナット **1** を締め付ける。

締め付けトルク
44.0 N・m [450.0 kgf・cm]

## 4. 調整ボルト **2** を締め付ける。

締め付けトルク
6.0 N・m [60.0 kgf・cm]

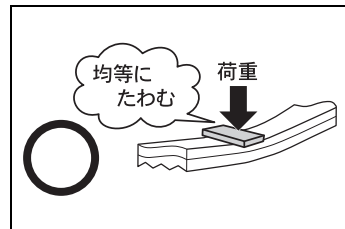
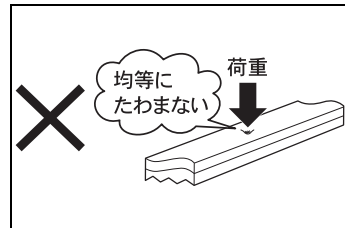
### ベルトの特性

→P.12-7

## アドバイス

### ■新品のベルトに交換したときは

- ベルトに初期なじみが出ていませんので 3 ~ 5 分間程度アイドル回転させ、ベルトの張りを再度調整してください。ベルトのたわみ量を測定するときは、荷重を加える個所のベルトの上に、平らな板状のもの（プレート等）を置いてから行ってください。ベルトへの荷重が均等に加わるため、正しく測定することができます。



### ▲警告

#### ■Vベルトを点検するときは

必ずエンジンを停止させてください。エンジン回転中は回転部分に触れたり近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬケガをするおそれがあります。

#### ■ベルトの張りの調整を行う場合

オルタネーターのファンにボールなどを当てないでください。オルタネーターが損傷するおそれがあります。

## △ 注意

- ベルトの張りの調整を行う場合
- ベルトの張り過ぎは寿命の低下につながるため、指定張力を超えないよう注意してください。
- ベルト張力は運転後に低下しますが、初期なじみにより発生する現象で異常ではありません。

## フットブレーキ

ブレーキは保安上重要な役割を果たしており、点検を怠ったり、調整や整備を誤ると重大事故につながります。

ブレーキの定期点検は、別冊の「メンテナンスノート」にしたがって実施し、異常が認められたときは、ただちにトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

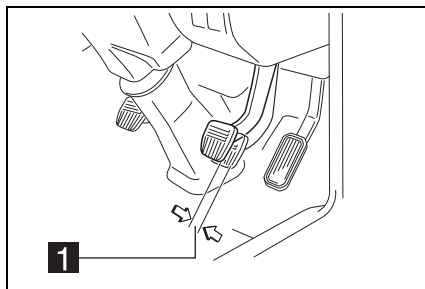
### ブレーキペダルの遊びの点検

#### 点検時期

事業用 3 カ月ごと、自家用 6 カ月ごと  
[シビアコンディション項目]

\* 使用状況によって随時点検を行ってください。

ブレーキペダルを指で押したとき、ペダルの遊びが適正で異常なひっかかりがなく、スムーズに作動するかを点検します。



#### 1 遊び

#### 基準値

ペダル先端で 1 ~ 3 mm

ペダルの遊びが基準値範囲外の場合は、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

### ホースおよびパイプなどの点検

#### 点検時期

事業用3カ月ごと、自家用6カ月ごと

- 他部品と接触していないか、固定用のクリップなどがゆるんでいないか、また、傷・液漏れなどがないかを点検します。不具合が認められたら確実に整備してください。
- 冬期に雪路や融雪路などを走行後、および日常（運行前）点検時、フレームからホイールシリンダー間のオイルホースに雪・泥水の付着で凍結したかたまりが付着していないかを点検します。付着しているときは、ホースを傷つけないように注意し、払い落とします。

### ブレーキスイッチの取り付け状態の点検

#### 点検時期

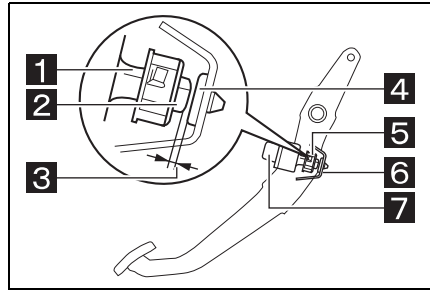
事業用3カ月ごと、自家用6カ月ごと  
[シビアコンディション項目]

#### ■ 点検方法

ブレーキペダルを踏んでいない状態で、スイッチ検知部の見える隙間を点検します。

#### 基準値

0.7 ~ 1.7 mm



- 1 スイッチネジ部
- 2 スイッチ検知部
- 3 隙間
- 4 バッファラバー
- 5 ブッシュ
- 6 バッファ
- 7 スイッチ

隙間が基準値の範囲外の場合は、最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

#### ▲ 警告

#### ■ ブレーキスイッチの点検について

ブレーキスイッチの取り付け状態が正常でないと、事故の原因になりますので、定期点検をおこなってください。

#### ■ フットブレーキの点検について

- 坂道での点検は行わないでください。車両が動き出すおそれがあり危険です。必ず車を平坦な場所に停止し、タイヤの前後に輪止めを掛けてから点検してください。
- 周囲の交通状況に十分注意し、安全な場所で点検してください。

### △ 注意

#### ■ 冬の雪路や融雪路などの走行について

雪や泥などのかたまりが付着したまま走行しないでください。ホースの破損などの原因になります。

## ドラムブレーキ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブレーキライニングが摩耗すると、ドラムのすきまが大きくなり、ブレーキの効きが悪くなります。このブレーキにはオートアジャスタ機能がありますが、ライニングの摩耗状態の点検・調整は定期的に行ってください。フロントホイールがディスクブレーキの場合でもリヤホイールはドラムブレーキになっている車両があります。

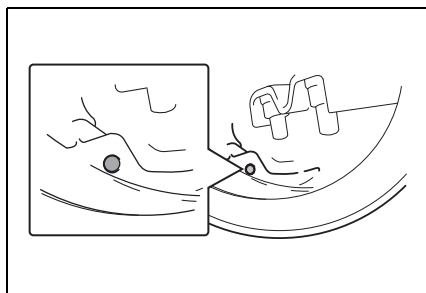
### ドラムとライニングのすきまの点検

#### 点検時期

事業用3カ月ごと、自家用6カ月ごと  
〔シビアコンディション項目〕

\* 使用状況によって随時点検を行ってください。

1. 点検穴のラバープラグを取り外す。



2. 点検穴からシックネスゲージをライニング全幅にわたって差し込み、ドラムとライニングのす

きまが基準値内にあるかを点検する。

基準値
0.24 ~ 0.64 mm

\* 基準値を超えているときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

3. 点検後、取り外したラバープラグは確実に取り付けます。

### ライニング摩耗量の点検

点検時期
事業用 3 カ月ごと（距離項目）、 自家用 1 年ごと

\* 使用状況によって随時点検・調整を行ってください。

1. ドラムカバーにある点検穴のラバープラグを取り外す。
  2. ライニング端面の段差が残っているかを点検する。
- ▶ 車両総重量 7.5t 未満ダンプ、4WD 車

基準値	使用限度〔残り代〕
10.2 mm	4.2 mm

- ▶ 車両総重量 7.5t 未満ダンプ、4WD 車以外

基準値	使用限度〔残り代〕
5.5 mm	1.0 mm

\* 段差がなくなっているときは、ライニングの交換が必要です。ライニングの交換は、トヨタ販売店にお申し付けください。

3. 点検後、取り外したラバープラグは確実に取り付けます。

### ▲ 警告

#### ■ 点検・調整について

ジャッキアップ時は、ジャッキアップ軸以外のタイヤの前後に輪止めを掛けて、車両が動かないようにしておいてください。

#### ■ ライニングの使用限度について

使用限度を超えたまま走行しないでください。限度を超えて使用するとブレーキの効き具合が大幅に低下します。また、ドラムが損傷するおそれがあります。

## ディスクブレーキ★

★：グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。

### ブレーキパッドの摩耗量の点検

#### 点検時期

事業用 3 カ月ごと（距離項目）、  
自家用 1 年ごと  
〔シビアコンディション項目〕

- \* ブレーキパッドが摩耗したとき、ブレーキからのキーキー音により運転者に知らせます。走行中、ブレーキからキーキー音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- \* キーキー音が鳴らなくても点検時期になりましたら目視点検を行ってください。
- \* 使用状況によって随時点検を行ってください。
- \* ブレーキパッドとローターのすきまは、自動的に適正が保たれるため、調整は不要です。

#### ■ ブレーキパッドの厚さ

▶ 標準キャブ：積載量 2 トン※1

点検箇所	基準値	使用限度 〔残り代〕
フロント	12.0 mm	1.0 mm
リヤ		

※1：車両総重量 5 トン車（シングルタイヤ車を除く）

▶ 標準キャブ：積載量 2～3 トン※2、  
ワイドキャブ：積載量 2 トン

点検箇所	基準値	使用限度 〔残り代〕
フロント	14.0 mm	2.5mm
リヤ		2.5mm

※2：車両総重量 5 トン超車、5 トン車  
（シングルタイヤ車）

\* シングルタイヤ車はフロントのみディスクブレーキです。

▶ 標準キャブ：積載量 3.5 トン、ワイドキャブ：積載量 2.95 トン超

点検箇所	基準値	使用限度 〔残り代〕
フロント	13.0 mm	1.0 mm
リヤ		

### ▲ 警告

■ ブレーキパッドの使用限度を超えた  
まま走行しないでください

限度を超えて使用すると、ブレーキの効き具合が大幅に低下します。またローターが損傷するおそれがあります。

## ブレーキのきき具合

走り始める前に、安全な場所で徐行し、ブレーキをかけ、効き具合は十分か、片効きはしていないかを点検します。

### 点検時期

事業用3カ月ごと、自家用6カ月ごと

- \* お車の仕様により点検方法が異なります。点検は下記を参照してください。
- ・ドラムブレーキ★ (→P.13-36)
- ・ディスクブレーキ★ (→P.13-38)
- \* 不具合がある場合は、トヨタ販売店で点検・調整を受けてください。

## ▲ 警告

### ■ 点検について

周囲の交通状況に十分注意し、安全な場所で点検してください。

## クラッチ★

- ★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クラッチは使用するにしたいが、クラッチディスクが摩耗してクラッチペダルの遊びが少なくなり、クラッチが滑りやすくなります。また、遊びが大きすぎるとクラッチの切れが悪くなり変速しにくくなります。

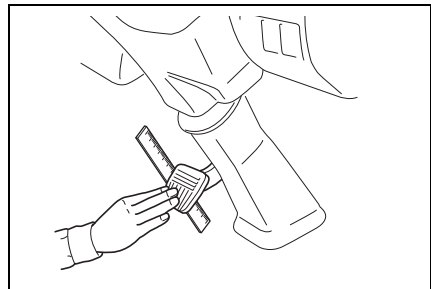
### 点検時期

事業用3カ月ごと、自家用6カ月ごと、  
[シビアコンディション項目]

- \* クラッチペダルの遊び、およびクラッチの作用は定期的に点検してください。

## ペダルの遊び点検

- ペダルを指で押し込んでいくと1段階に抵抗を感じます。1段階までのペダルの動き代が遊びです。
- ペダルを指で押し込み、ペダルの遊びをスケールなどで測定し、基準値内にあるかを点検します。



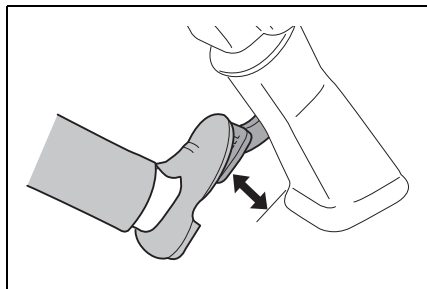
## ■ クラッチペダルの遊び

基準値
1 ~ 5 mm

- \* 基準値を外れている場合は、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

### 切れたときの床板とのすきまの点検

1. エンジンを始動し、アイドル回転でパーキングブレーキをかける。
2. クラッチペダルをいっぱい踏み込んでシフトレバーを1速に入れる。
3. クラッチペダルをゆっくり離しクラッチのつながる直前の状態（エンジン音が変わったり、振動が発生したりする）でペダルと床板（カーペットをめくった状態）とのすきまが基準値の範囲にあるか点検する。



## ■ 床板とのすきま

基準値
25 mm 以上

- \* 点検するとき、車が急発進しないよう十分注意してください。

- \* 基準値を外れている場合は、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

## クラッチの作用

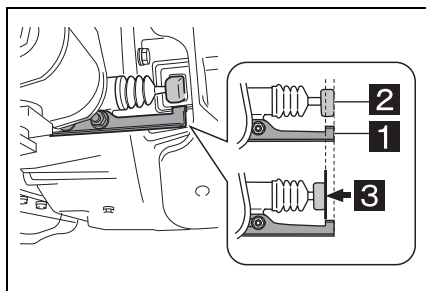
### ■ アイドリング回転で、次の点検をします

- ペダルを踏み込んで、異常に重くないか、異音はしないか。
- ギヤチェンジがスムーズにできるか。
- ペダルを徐々に離して発進したとき、滑りがなく接続がなめらかにできるか。
- \* シフトレバーを「N」位置にし、クラッチペダルから急に足を離すと「ガシャ」と音がしますが異常ではありません。
- \* 異常が認められたときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

## クラッチディスクの摩耗点検

### ▶ MT 車

- クラッチディスクの摩耗は定期的に点検してください。
- レリーズフォークがクラッチディスクウェアインジケータープレートに到達したときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。



- 1 クラッチディスクウェアインジケータープレート
- 2 レリーズフォーク
- 3 摩耗限度

### ⚠ 注意

#### ■ クラッチペダルの遊びについて

ペダルの遊び量を基準値より大きく調整しないでください。クラッチの切れが悪くなり、クラッチおよびトランスミッションを破損させるおそれがあります。

## パーキングブレーキ

### 点検時期

事業用 3 カ月ごと、自家用 6 カ月ごと、  
[シビアコンディション項目]

#### ▶ 手動パーキングブレーキ車

パーキングブレーキレバーの引きしろ（ラチェットの山数）が 10 ノッチ以上（操作力約 250 N [25 kgf] 時）になった場合は、ライニングの摩耗量の点検が必要です。

#### ■ パーキングブレーキレバーの引きしろ

### 基準値

6 ～ 10 ノッチ  
(操作力約 250 N [25 kgf] 時)

\* 基準値を外れている場合はトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

#### ▶ 電動パーキングブレーキ車

パーキングブレーキスイッチを操作し、電動パーキングブレーキがきちんと作動しているか点検します。

#### ■ パーキングブレーキレバーの引きしろ

- 右足でブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを「ON」位置にして、パーキングブレーキスイッチを引き、メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯するかを点検する。

**▲ 警告**

■ 点検は、ブレーキペダルを踏んだ状態で行ってください

車両が動き出すおそれがあります。

## ジャッキアップ

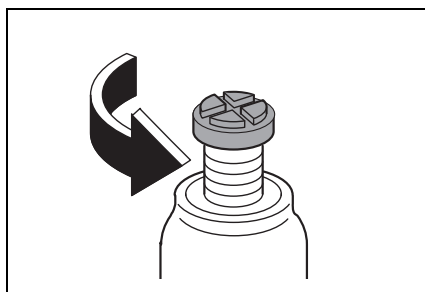
### ジャッキアップの取り扱い

■ ジャッキアップする前に

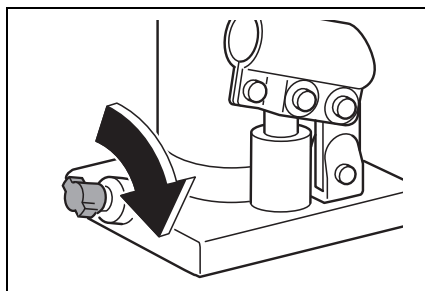
シフトレバーを「R」（MT車）、または「P」（AT車）の位置にします。

■ 上げ方（ジャッキアップ）

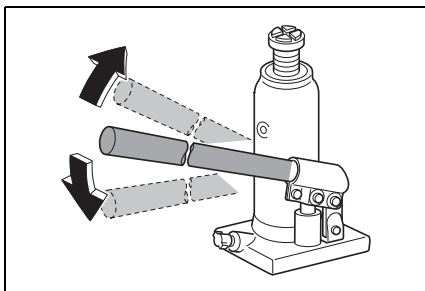
1. ジャッキ頭部を左に回して高さを合わせる。



2. ジャッキアップレバー先端の切り欠きで、リリースバルブを右いっぱい締め込む。



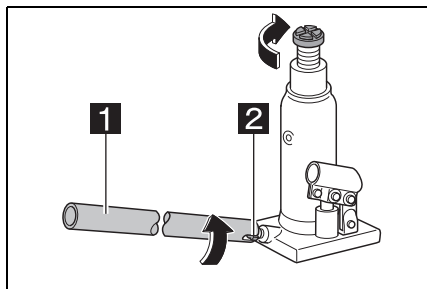
3. ジャッキアップレバーをソケットに差し込み、上下に動かす。



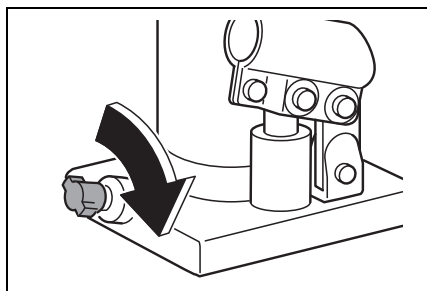
### ■ 下げ方

1. リリースバルブを左にゆっくり回す。

\* ジャッキ頭部を伸ばして使用したときは、右に回して元に戻します。



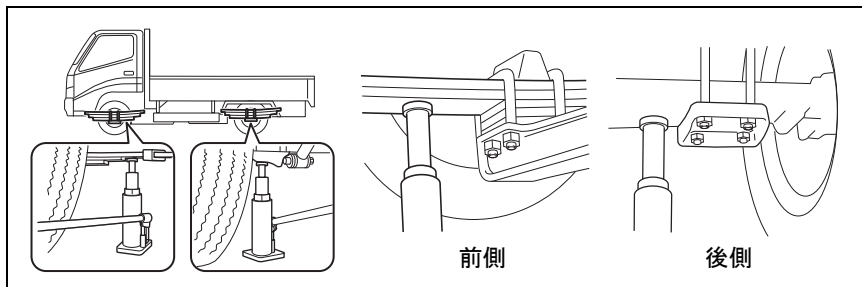
2. リリースバルブを右いっぱい締め込みます。



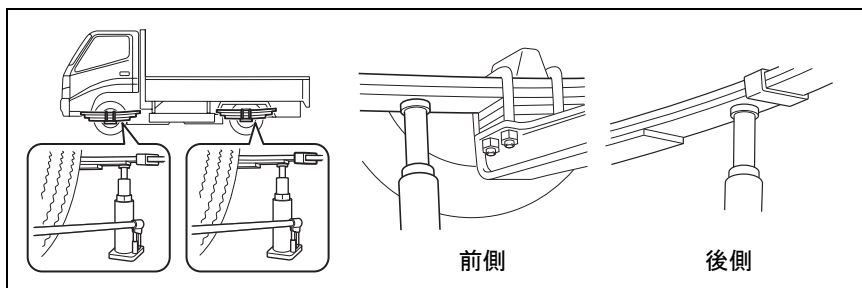
## ジャッキアップポイント

### ■ 標準キャブ車 (2WD 車)

- リジッドアクスル式フロントサスペンション車
- ▶ 広幅荷台車

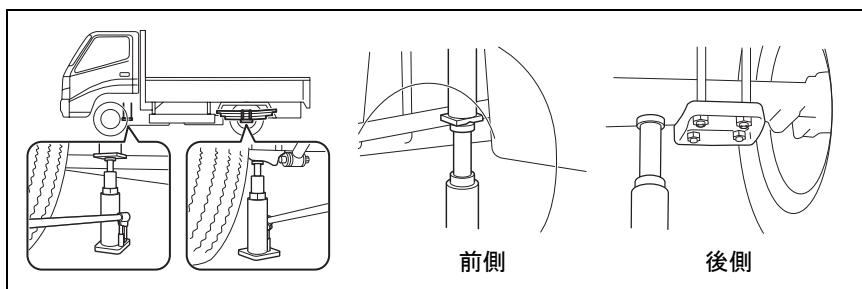


### ▶ 標準幅荷台車

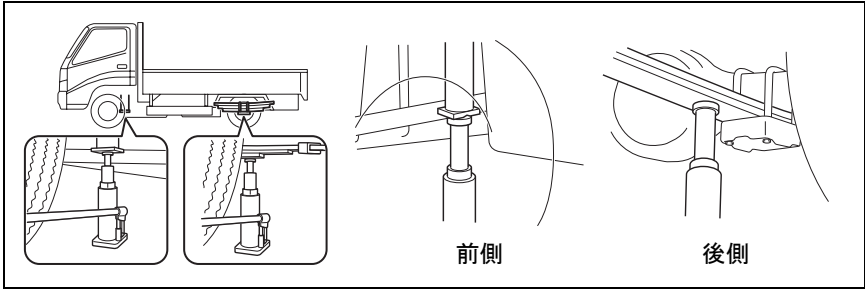


### ● 独立懸架式フロントサスペンション車

### ▶ 広幅荷台車

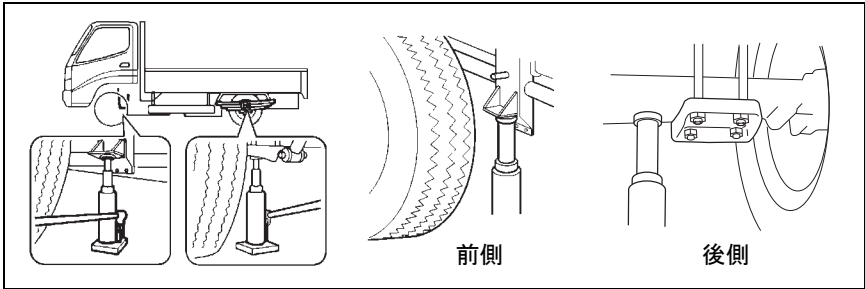


▶ 標準幅荷台車

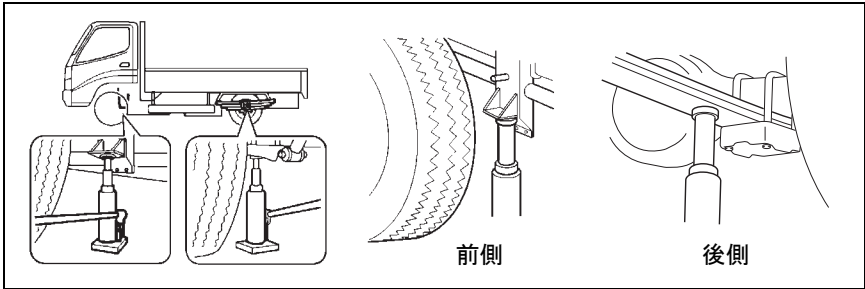


■ 4WD 車

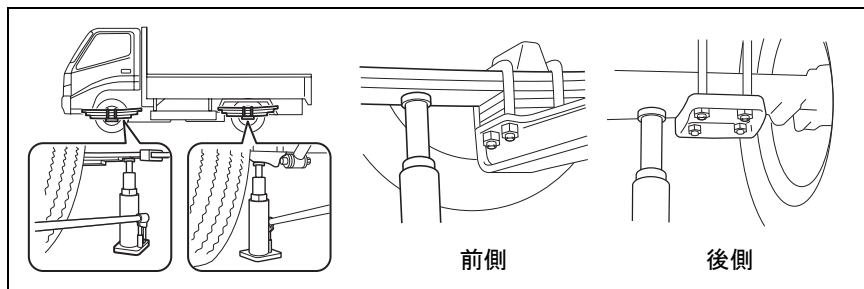
▶ 広幅荷台車



▶ 標準幅荷台車



## ■ワイドキャブ車 (2WD車)



## ▲警告

## ■使用方法および取り扱いについて

ジャッキの本体に記載してありますので必ず使用前に確認してください。

## ■ジャッキアップについて

- ジャッキアップしたときは、車両の下に絶対入らないでください。万一、ジャッキが外れると危険です。
- 車両の下に入って作業するときは必ずフレーム下面にスタンド（ウマ）を掛けるなど、車両の下の安全を確保してください。
- パーキングブレーキを確実にかけ、ジャッキアップ軸以外のタイヤの前後に輪止めを掛けてください。
- ジャッキアップするときは、地面がかたい平坦な場所を選んでください。坂道および地面のやわらかいところでは、ジャッキが傾いたり滑ったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ジャッキが、必ずジャッキアップポイントに掛かっていることを確かめてください。ジャッキアップポイント以外に掛けるとジャッキがたおれたり、部品が損傷するおそれがあります。

- ジャッキやジャッキアップポイントに油脂類が付着しているときは、完全に拭き取ってから掛けてください。すべて思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ジャッキアップ中は、エンジンをかけないでください。振動で外れるおそれがあります。

- 長時間ジャッキアップしておくときは、安全のため、スタンドや角材などで車両を支えておいてください。

- LSD 装着車を片輪のみジャッキアップした状態で、駆動力をかけると、車両が動く危険があります。ジャッキアップ中は駆動力をかけないように注意してください。

- 2台以上のジャッキを同時に使用しないでください。

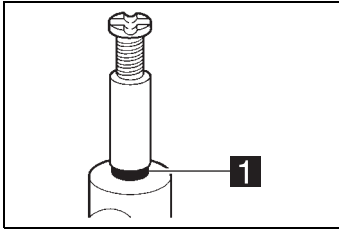
- ジャッキを必要な高さ以上に上げないでください。

- ジャッキの上や下に物をはさまないでください。

- 車に搭載されているジャッキを他の車に使用したりしないでください。

#### ■ 4トン2段ジャッキ (HPD-4T/HPD-4T-2)

- ジャッキアップをするときは上昇停止マーク（黄色塗装）が見えたらハンドル操作を止めてください。そのまま操作を続けると故障の原因になります。



1 上昇停止マーク（黄色）

#### ■ ジャッキの取り扱いについて

- リリースバルブはゆっくり回してください。早く回すと車が急激に落下し、ジャッキが外れるおそれがあります。

## タイヤの取り扱い

### タイヤの状態の点検

#### 点検時期

事業用 3 カ月ごと（距離項目）、  
 家用用 1 年ごと（距離項目）

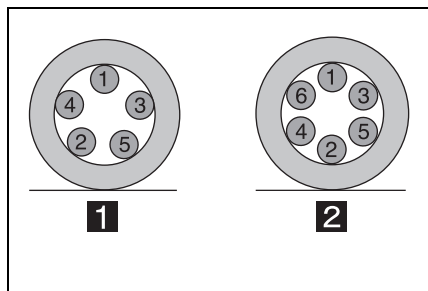
- \* タイヤの状態点検方法は下記を参照してください。
- ・ タイヤの空気圧（→P.12-9）
- ・ タイヤの亀裂・損傷（→P.12-10）
- ・ タイヤの異常な摩耗（→P.12-10）
- ・ タイヤの溝の深さ（→P.12-11）

### タイヤの交換のしかた

#### ■ タイヤの取り外し

1. パーキングブレーキを確実にかけ、エンジンを停止し、タイヤの前後に輪止めを掛ける。
  - \* フロントタイヤを取り外すときは、リヤタイヤの前後に輪止めを掛けます。
  - \* リヤタイヤを取り外すときは、左右のフロントタイヤの前後に輪止めを掛けます。
2. ホイールナットを対角線上に、手で少し回るくらいまでゆるめる。
  - \* 車両右側は左、車両左側は右に回してゆるめてください。
  - \* ダブルタイヤは外側タイヤ（アウターホイールナット）をゆるめてから、内側タイヤ（インナーホイールナット）をゆるめます。

例) 対角締めゆめる順番



1 5本の場合

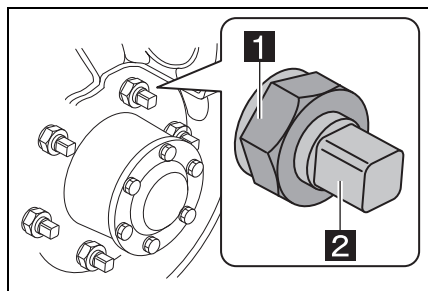
2 6本の場合

3. タイヤが取り外せる高さまでジャッキアップし、ゆるめてあるホイールナットを取り外す。

- \* ジャッキの取り扱い (→P.13-42)
- \* ホイールボルトのねじ山を傷つけないよう十分注意してください。
- \* ダブルタイヤの外側タイヤだけを取り外すときは、インナーホイールナットをゆるめる必要はありません。

4. タイヤを取り外す。

- \* ダブルタイヤの場合は、アウターホイールナットを取り外し、外側タイヤを取り外した後、いったんジャッキを下げタイヤを接地させてからインナーホイールナットを少しゆるめ、再びジャッキアップして同様に内側のタイヤを取り外します。



1 アウターホイールナット

2 インナーホイールナット

■ タイヤの取り付け

1. ホイールボルト、ホイールナットのねじ部およびディスクホイール取り付け面をよく清掃する。
2. ディスクホイールのボルト穴をホイールボルトに合わせながらタイヤを取り付ける。
3. ホイールボルトがディスクホイールのボルト穴の中央になるようにタイヤをセットし、ガタつかない程度にホイールナットを仮締めする。

- \* ホイールナットの球面座部がディスクホイール側です。

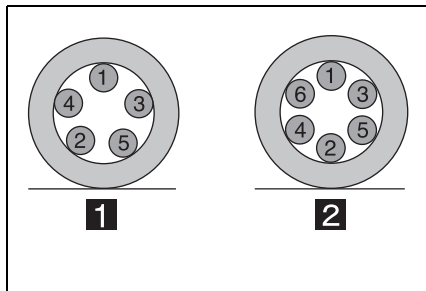
4. ジャッキのリリースバルブを左に回してタイヤを静かに降ろす。

5. ホイールナットを対角線上に2～3回に分けて締め付ける。

- \* 車両右側は右、車両左側は左に回して締め付けてください。

- \* ダブルタイヤは内側タイヤ（インナーホイールナット）を締め付けてから外側タイヤ（アウターホイールナット）を締め付けます。

例) 対角締めの締め付ける順番



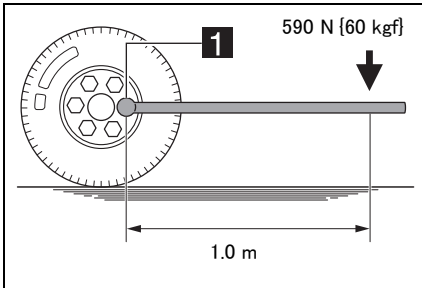
1 5本の場合

2 6本の場合

6. 最後にトルクレンチなどを使用して、規定の締め付けトルクでホイールナットを締め付ける。

▶ スチールホイール装着車

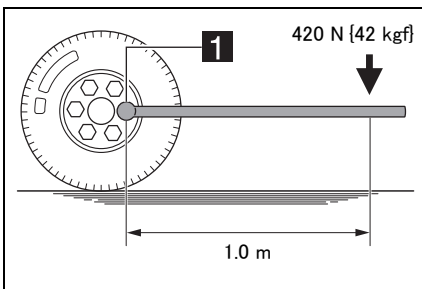
締め付けトルク
440 ~ 590 N・m [4,500 ~ 6,000 kgf・cm] (インナー・アウター)




$$\mathbf{1} \quad 590 \text{ N [60 kgf]} \times 1.0 \text{ m} \\ = 590 \text{ N} \cdot \text{m [6,000 kgf} \cdot \text{cm]}$$

▶ アルミホイール装着車

締め付けトルク
340 ~ 420 N・m [3,400 ~ 4,200 kgf・cm] (インナー・アウター)

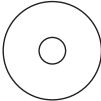


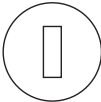












$$\mathbf{1} \quad 420 \text{ N [42 kgf]} \times 1.0 \text{ m} \\ = 420 \text{ N} \cdot \text{m [4,200 kgf} \cdot \text{cm]}$$

 **アドバイス**

- ホイールナットは、車両右側は右ねじ、左側は左ねじになっています。
- アルミホイールを装着している場合は、ホイールナットレンチの先端部とアルミホイールが直接当たらないように、薄い板またはゴム片などをアルミホイールに当ててください。

■ ホイールボルトおよびホイールナットはアルミホイール用とスチールホイール用でそれぞれ専用品になっています。

種別		スチールホイール	アルミホイール
ホイールボルト	右側		 または 
	左側		 または 
ホイールナット (シングルタイヤ) アウターホイール ナット (ダブルタイヤ)	右側		
	左側		
インナーホイール ナット (ダブルタイヤ)	右側		 または 
	左側		 または 

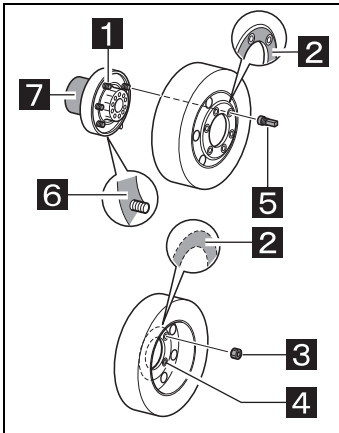
**▲ 警告**

■ **タイヤの交換について**

- レンチはホイールナットの奥まで深く掛けてください。掛けかたが浅いと、レンチが外れケガをするおそれがあります。

- ホイールナットはゆるめすぎないようにしてください。ゆるめすぎると、ねじ山を損傷させるおそれがあります。
- ホイールボルト・ホイールナットのねじ部が損耗しているものやディスクホイールに変形や亀裂があるものは交換してください。そのまま使い続けるとホイールナットのゆるみや脱輪の原因になります。

- ホイールの平面部、ナットの球面座部およびハブのホイール当たり面をきれいに清掃し、錆・ゴミ・追加塗装および異物などは取り除いてください。これらをはさんだまま取り付けると、ホイールナットがゆるむ原因になります。
- タイヤ取り付け時は、アウターホイールナット・インナーホイールナット確実に締まっていることを確認してください。確実に締まっていないと、ホイールボルト・アウターホイールナット・インナーホイールナットやブレーキ部品を破損したり、ホイールがはずれるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付けてください。



- 1 ホイールボルト
- 2 ホイール当たり面（平面部）
- 3 アウターホイールナット
- 4 ホイールナット球面座
- 5 インナーホイールナット
- 6 ホイール当たり面
- 7 ハブ

- タイヤを取り付けるホイールボルトやホイールナットにオイルやグリースを塗らないでください。必要以上に締め付けられてボルトが破損するおそれがあります。

#### ■ ダブルタイヤについて

- ダブルタイヤの外側タイヤを交換したときは、必ずインナーホイールナットを締め付けてからアウターホイールナットを締め付けてください。
- ホイールナットのゆるみおよび締めすぎは、ホイールボルトの折損やディスクホイールの亀裂につながり、脱輪の原因になります。

#### ■ クリップについて

バルブにクリップをつけないとブレーキ装置とバルブが接触し、バルブが損傷して思わぬ事故につながるおそれがあります。

#### ■ アルミホイールとスチールホイールの組み替えについて

ホイールボルトおよびホイールナットはアルミホイール用とスチールホイール用でそれぞれ専用品になっておりますので、絶対に混用しないでください。

混用すると、長さや形状が異なるため、ねじの底付きや、ねじのかみ合い長さ不足によるホイール締め付け不足が発生しホイールボルトの折損やディスクホイールの亀裂につながり、脱輪の原因になります。

## タイヤローテーション

タイヤは道路の状況・積荷・ブレーキ操作・取り付け位置などによってそれぞれ異なった摩耗をします。また、スペアタイヤは長時間使用しないと変質します。タイヤの摩耗を均等にし、寿命を延ばすためには定期的に位置交換をしてください。

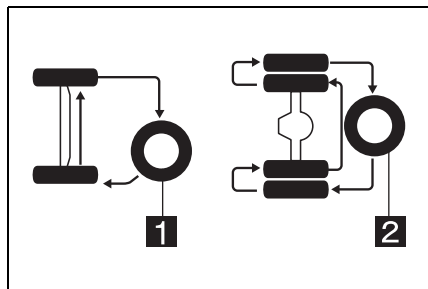
### タイヤローテーション時期

5,000 km 走行ごと

#### ■ タイヤローテーション例

##### ▶ リヤダブルタイヤ車

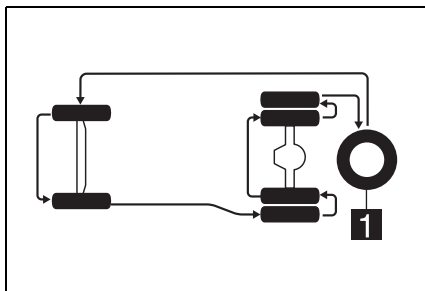
- 前後輪でサイズ、トレッドパターン、プライ数が異なる場合



**1** 前輪用スペアタイヤ  
(前輪タイヤと同一サイズ)

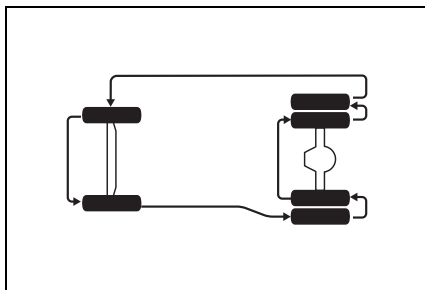
**2** 後輪用スペアタイヤ  
(後輪タイヤと同一サイズ)

- 前後輪でサイズ、トレッドパターン、プライ数が同じ場合



**1** スペアタイヤ  
(前後輪タイヤと同一サイズ)

- 前後輪でサイズ、トレッドパターン、プライ数が同じ場合



#### ■ タイヤローテーション時の注意

- \* タイヤの配置換えは、以前の回転方向と逆になる位置に取り付けてください。
- \* 新品タイヤは発熱しやすく、摩耗が進みやすいため、フロントタイヤとして2本1組で取り付けてください。
- \* タイヤは傷などのないものを使用し、ディスクホイールに組み込むときはバランスを取って使用してください。
- \* ダブルタイヤに外径差のあるとき、小さいタイヤを内側に取り付けてください。
- \* 外径差は次表の範囲内で使用してください。

## 内側と外側のタイヤの外径差

6 mm 以内

- \* 時々、ディスクホイールを組み替えて、タイヤを裏返しにしてください。
- \* ローテーションは同じプライ数間で行ってください。

## ⚠ 注意

## ■ タイヤの取り付けについて

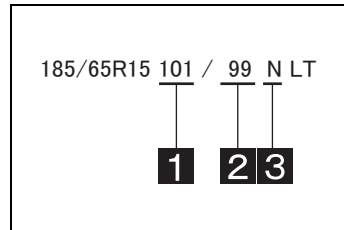
- タイヤ取り付け後は、初期なじみにより締め付けトルクが低下することがあります。50～100km 走行後、規定の締め付けトルクでホイールナットの増し締めを行ってください。
- 傷、変形があるナット・ホイールなどは使用しないでください。
- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、トヨタ販売店でタイヤのバランス点検を受けてください。

## ⚠ 警告

## ■ タイヤローテーションについて

- 同一軸には、必ず同じ型式のタイヤを使用してください。同一軸内で異なる型式のタイヤを使用すると、制動時などに車両が左右に流れたりハンドルを取られたりする原因になります。

- 交換後のタイヤはロードインデックスと速度記号が交換前のタイヤと同一またはそれ以上になるタイヤを使用してください。



- 1 ロードインデックス  
(単輪使用時)

- 2 ロードインデックス  
(複輪使用時)

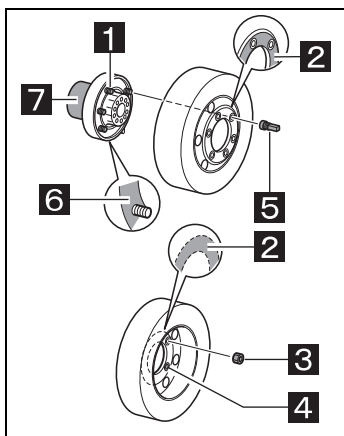
- 3 速度記号

- ・ スペアタイヤは前輪または後輪と同一サイズを装備しています。交換時は同一サイズのタイヤを装着してください。
- ・ 前後輪の指定サイズが異なる場合、必ず前後ともに指定サイズのタイヤを使用してください。

- 構造の違うタイヤ（バイアスタイヤとラジアルタイヤなど）の混用装着はしないでください。混用すると操縦性および安定性が悪くなります。

- タイヤローテーションの際、ホイール平面部のボデー色などの追加塗装面が相手部品（ハブ、ホイール）との当たり面となるときは、当たり面（平面部、ナット球面座部）の塗装をはがし、ワイヤーブラシなどで面をきれいに清掃した後、装着してください。塗装が厚いとホイールナットがゆるむ原因になります。

- タイヤローテーションを行ったあとは、指定空気圧に調整してください。指定空気圧より低いと車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象（高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象）によりタイヤが破裂したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。



- 1 ホイールボルト
- 2 ホイール当たり面（平面部）
- 3 アウターホイールナット
- 4 ホイールナット球面座
- 5 インナーホイールナット
- 6 ホイール当たり面
- 7 ハブ

## スペアタイヤ

### スペアタイヤの点検

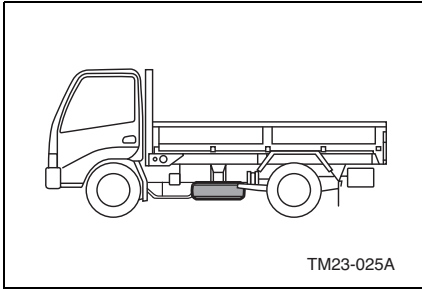
- スペアタイヤが確実に巻き上げられ、ガタや異常な傾きがないかを目視などで確認してください。また、スペアタイヤの取り付けにゆるみがないかをタイヤの上から体重をかけてゆるするなどして点検してください。
- タイヤが動くときはスペアタイヤ取り付け装置の変形などの異常がないことを確認し、確実に巻き上げてください。

### ⚠ 警告

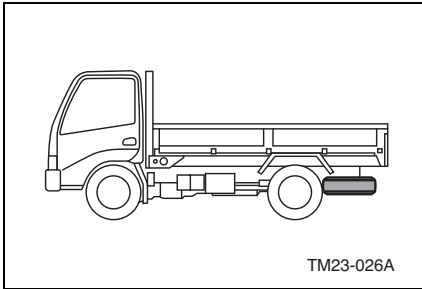
- スペアタイヤは確実に取り付けておいてください。スペアタイヤの取り付けがゆるんでいると、走行中に落下して、事故の原因になる恐れがあります。
- スペアタイヤの当たり面にももの（布、スポンジなど）を挟むと走行中の振動でゆるみ、タイヤがガタついたり落下につながる恐れがあります。
- タイヤキャリアが接地などにより変形したときは、締め付けが不完全となりスペアタイヤの脱落につながるため、トヨタ販売店で点検し新品と交換してください。

## ■ 格納場所

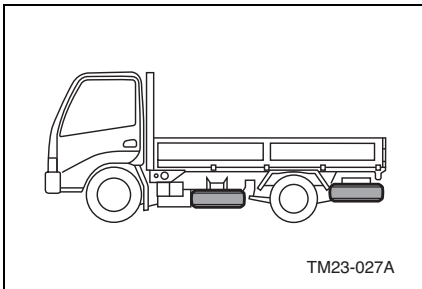
### ▶ フロント吊り下げ式



### ▶ リヤ吊り下げ式



### ▶ 前後吊り下げ式



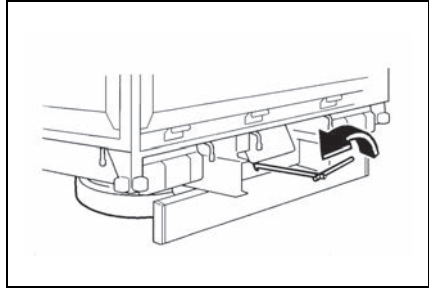
## スペアタイヤの取り外し・取り付けかた

### ■ 取り外しかた

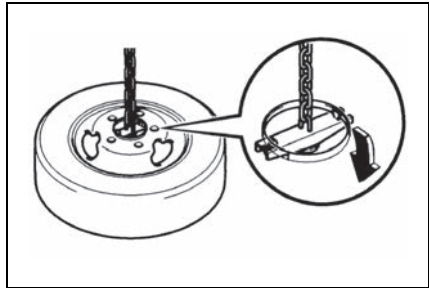
1. スペアタイヤ格納用ハンドルをジャッキレバーへ確実に差し込む。
2. キャリアのスクリューにジャッキレバーを差し込む。

\* キャリアのスクリューは車両後部または車両左側にあります。

3. ジャッキレバーを回して、スペアタイヤを降ろす。



4. アンカープレートを外して、スペアタイヤを取り出します。



### ■ 取り付けかた

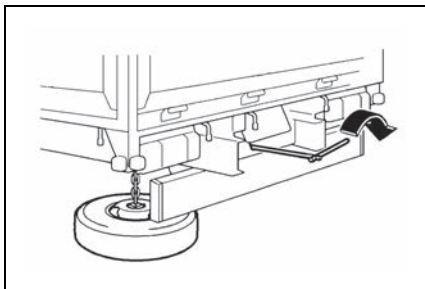
1. スペアタイヤ格納用ハンドルをジャッキレバーへ確実に差し込む。
2. ディスクホイールは凸側を上にして、アンカープレートの爪がディスクホイールのインロー穴から飛び出ることを確認してください。

\* 巻き上げは必ず水平な場所で行ってください。また、スペアタイヤが少し地面から浮いた状態で一旦停止し、爪のかりりやチェーンのねじれを確認してください。

3. キャリアのスクリューにジャッキレバーを差し込む。

#### 4. ジャッキレバーを回して、スペアタイヤを巻き上げる。

- \* タイヤが地面から離れたときにアンカープレートがホイールセンター穴に確実にハマっていることを確認してください。



#### 5. 十分に巻き上げた後、手でいっぱい締め付けて（約 250 N {25 kgf} 以上）ジャッキレバーを逆回転しないで抜く。

- \* スペアタイヤ格納したあとは、タイヤが確実に固定されていることを確認してください。

#### 6. スペアタイヤが確実に巻き上げられ、ガタや異常な傾きがないかを目視などで確認してください。また、スペアタイヤの取り付けにゆるみがないかをタイヤの上から体重をかけてゆるむなどして点検してください。

- \* タイヤが動くときはスペアタイヤ取り付け装置の変形などの異常がないことを確認し、確実に巻き上げてください。

### 👉 アドバイス

#### ■ スペアタイヤについて

スペアタイヤの空気圧は正常なタイヤでも時間がたつと自然漏れのため低下しますので、少し高めにしておいてください。また、使用するときは標準空気圧に調整してください。

### ⚠️ 警告

#### ■ 取り外しについて

- 格納具からタイヤを取り外すときは、足の上などに落とさないようにゆっくりと降ろしてください。
- スペアタイヤはジャッキアップする前に格納具から取り外してください。

#### ■ 取り付けについて

- スペアタイヤ格納したあとは、タイヤが確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中に外れるおそれがあります。
- アンカープレートがホイールセンター穴に確実にハマっていないまま走行すると、スペアタイヤが外れて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 必ずスペアタイヤの点検を行い、異常があるスペアタイヤは装着しないでください。なお、指定空気圧は、運転席ドアを開けたボデー側に貼られている「タイヤ空気圧」の表で確認のうえ、調整してください。

- 巻き上げ後、ハンドルを約 250 N {25 kgf} 以上の力で締め上げて、タイヤを固定します。締め付けが不十分だったりチェーンがねじれたまま巻き上げたりすると走行中の振動でゆるみ、スペアタイヤが「ガタ」ついたり、落下することがありますので、確実に締め付けてください。
- 搭載工具を使用しないで過大トルクで巻き上げると内部機構が損傷し、走行中にスペアタイヤの落下につながる恐れがあります。
- スペアタイヤの当たり面にももの（布、スポンジなど）を挟むと走行中の振動でゆるみ、タイヤがガタついたり落下につながる恐れがあります。
- タイヤキャリアが接地などにより変形したときは、締め付けが不完全となりスペアタイヤの脱落につながるため、トヨタ販売店で点検し新品と交換してください。
- スペアタイヤは確実に巻き上げておいてください。走行中にスペアタイヤを落とすと後続車や対向車が乗り上げたりして、事故の原因になります。
- 空気圧が不足している場合や調整できないときは、控えめな速度で走行してください。
- ジャストローでは、前輪用と後輪用の格納位置を間違えると、地上高が確保できなくなります。取り外した際と同じ位置に格納してください。
- ジャストローのスペアタイヤは、前輪用と後輪用が別々に格納されていますので、タイヤ交換の際は間違えないようにしてください。

## ホイール

### ホイールナットのゆるみ点検

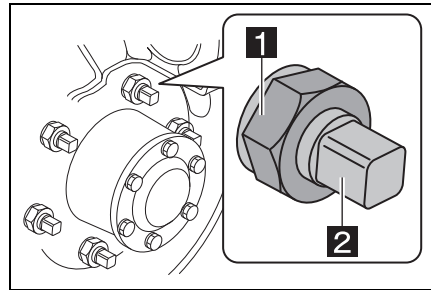
#### 点検時期

事業用 3 カ月ごと、自家用 6 カ月ごと  
[シビアコンディション項目]

ホイールナットのゆるみがないかを点検してください。

#### ■ リヤダブルタイヤ

1. アウターホイールナットをゆるめる。
2. インナーホイールナットを締め付ける。
3. アウターホイールナットを締め付ける。



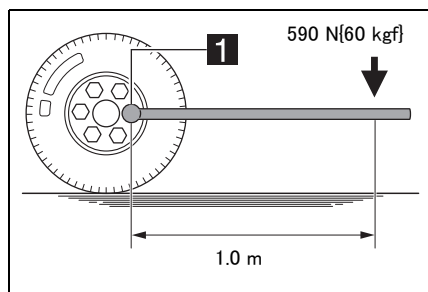
**1** アウターホイールナット

**2** インナーホイールナット

#### ▶ スチールホイール装着車

#### 締め付けトルク

440 ~ 590 N · m {4,500 ~ 6,000 kgf · cm}  
(インナー・アウター)

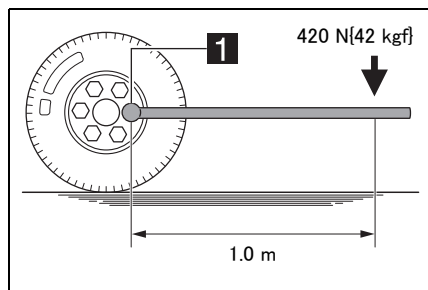


**1**  $590 \text{ N} [60 \text{ kgf}] \times 1.0 \text{ m}$   
 $= 590 \text{ N} \cdot \text{m} [6,000 \text{ kgf} \cdot \text{cm}]$

▶ アルミホイール装着車

締め付けトルク

340 ~ 420 N · m [3,400 ~ 4,200 kgf · cm]  
 (インナー・アウター)



**1**  $420 \text{ N} [42 \text{ kgf}] \times 1.0 \text{ m}$   
 $= 420 \text{ N} \cdot \text{m} [4,200 \text{ kgf} \cdot \text{cm}]$

\* ホイールナットの締め付け  
 →P.13-47

アクスルシャフト・ドライブ  
 シャフト

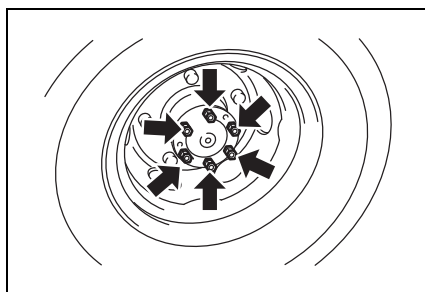
ホイールナットのゆるみの点検と  
 同時に行ってください。

■ 点検

点検時期

事業用 3 カ月ごと、自家用 6 カ月ごと  
 [シビアコンディション項目]

▶ アクスルシャフト (リヤ)



## ■ アクスルシャフト（リヤ）

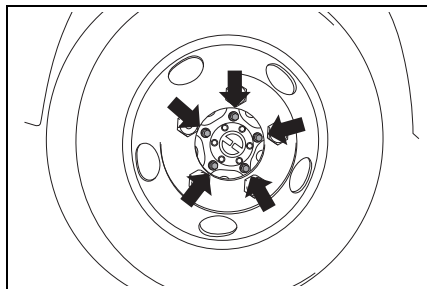
ナットまたはボルトのゆるみを点検します。

締め付け箇所	対象車型	ボルト / ナット 二面幅	締め付け トルク
アクスルシャフト 取り付けボルト またはナット	全車型	14mm( ナット )	49 ~ 71 N · m [490 ~ 730 kgf · cm]
		17mm( ボルト )	86 ~ 107 N · m [870 ~ 1,100 kgf · cm]

## ■ ドライブシャフト

ボルトのゆるみを点検します。

### ▶ ドライブシャフト 取付ボルト



締め付け箇所	対象車型	部位	締め付け トルク
ドライブシャフト 取り付けボルト	4WD 車	フリーホイール ハブ ~ ハブ (フロント)	62 ~ 76 N · m [630 ~ 780 kgf · cm]

## 👉 アドバイス

### ■ ホイールナットについて

- ホイールナットおよびインナーホイールナット・アウターホイールナットは、車両の右側のものは右ねじ、左側のものは左ねじになっています。
- ホイールボルトおよびホイールナットはアルミホイール用とスチールホイール用でそれぞれ専用品になっています。

## ⚠️ 警告

### ■ ホイールナットについて

- タイヤを取り付けるホイールボルトやホイールナットにオイルやグリスを塗らないでください。必要以上に締め付けられてボルトが破損するおそれがあります。

- ホイールナットレンチはホイールナットの奥まで深く掛けてください。掛けかたが浅いと力をかけたとき、ホイールナットレンチが外れケガをするおそれがあります。
- ホイールナットのゆるみおよび締めすぎは、ホイールボルトの折損やディスクホイールの亀裂につながり、脱輪の原因になります。
- ダブルタイヤの点検のときは、アウターホイールナットだけでなくインナーホイールナットも忘れずに締め付けてください。

**△ 注意**

■ **ホイールナットについて**

ディスクホイールやホイールボルトおよびホイールナット交換後、タイヤローテーション後は、初期なじみにより締め付けトルクが低下することがあります。50～100 km 走行後、規定の締め付けトルクでホイールナットの増し締めを行ってください。

**ステアリング**

保安上重要な役割を持っています。点検時、異常が認められたときは、ただちにトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

**ハンドルの操作具合の点検**

点検時期
1年ごと

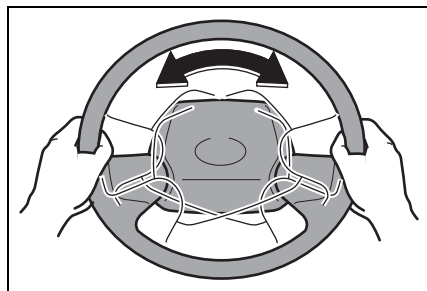
■ **遊びの点検**

遊びはハンドル円周上で次の通りです。

基準値
25 mm 以下

前車輪を直進方向に正しく向けてから、ハンドルを左右に軽く回して遊びを点検します。

\* 必ずエンジンをかけて点検してください。



■ **ガタの点検**

ハンドルを前後・左右・上下に動かして、大きなガタがないかを点検します。

\* ロックレバーは確実にロックしてください。

### ■ 振れ・取られの点検

走行中、ハンドルが異常に振れ、左右取られ、重くないかを点検します。

### ■ 戻りの点検

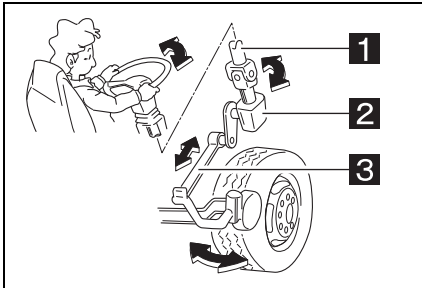
旋回から直進へのハンドル操作時に異常な重さや引っかかりがないかを点検します。

### ■ ステアリング装置各部の点検

#### 点検時期

事業用 3 カ月ごと (距離項目)  
自家用 1 年ごと

#### ▶ リジッドアクスル式フロントサスペンション車

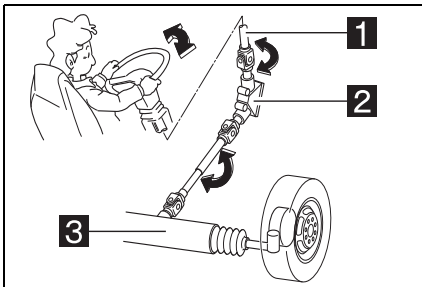


#### 1 シャフト

#### 2 ギヤボックス

#### 3 リンク

#### ▶ 独立懸架式フロントサスペンション車

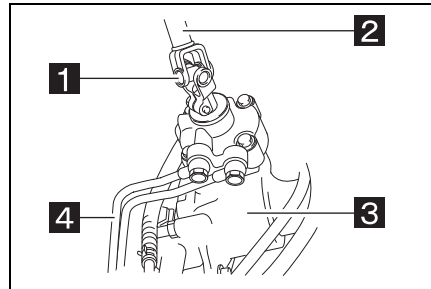


#### 1 シャフト

#### 2 ギヤボックス

#### 3 リンク

- シャフトスプラインの給脂状態とガタがないかを点検します。
- 取り付け各部のゆるみ・亀裂・摩耗および変形がないかを点検します。



#### 1 ステアリングユニバーサルジョイント

#### 2 ステアリングシャフトスプライン

#### 3 ギヤボックス

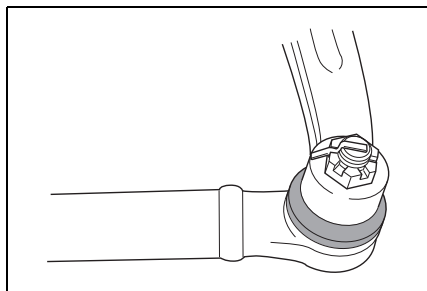
#### 4 オイルパイプ

### リンク連結部のダストカバーの点検

#### 点検時期

1 年ごと

リンク連結部のダストカバーに摩耗や損傷および外れがないかを点検します。



### ホースおよびパイプなどの点検

#### 点検時期

事業用 3 カ月ごと（距離項目）、  
 家用 1 年ごと

- パワーステアリングのオイルパイプやホースが他部と接触していないか、傷およびオイル漏れはないかを点検します。
- 雪路や融雪路などを走行後、日常（運行前）点検時にオイルパイプやリンク類に雪・泥水の付着で凍結したかたまりが付着していないかを点検します。付着しているときは、パイプやリンク類を傷つけないように注意し、払い落とします。

### ホーンの点検

#### 点検時期

1 年ごと

ホーンは鳴るか、また、取り付け部に異常がないかを点検します。

### シャシスプリング

不具合は、乗り心地・積荷の傾き・走行安定性に悪影響をおよぼします。次の点検を行ってください。

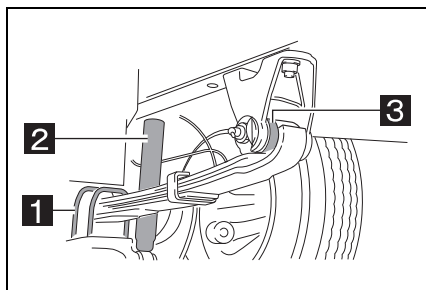
### シャシスプリングの点検

#### 点検時期

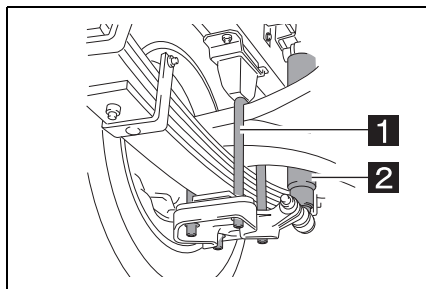
事業用 3 カ月ごと、家用 1 年ごと

シャシスプリング周りに異常がないかを点検します。

- リーフスプリングの損傷
- ショックアブソーバーのオイル漏れ



- 1 U-ボルト
- 2 ショックアブソーバー
- 3 目玉部



- 1 U-ボルト
- 2 ショックアブソーバー

**取り付け部のゆるみ、ガタ、損傷点検**

点検時期

1年ごと

シャシスプリング取り付け部および連結部の異常がないかを点検します。

- スプリング取り付け部の損傷
- スプリング連結部のガタ
- U-ボルト、センターボルトのナットのゆるみ

## エアコン

## 使用冷媒

## ▶ 標準キャブ車

車種	冷媒（ガス）の種類	冷媒（ガス）規定量
コンデンサー電動ファン付き車	HFC134a	400±50 g

## ▶ ワイドキャブ車

車種	冷媒（ガス）の種類	冷媒（ガス）規定量
コンデンサー電動ファン無し車	HFC134a	500±50 g
コンデンサー電動ファン付き車		400±50 g
ダブルキャブリヤクーラー無し車		400±50 g

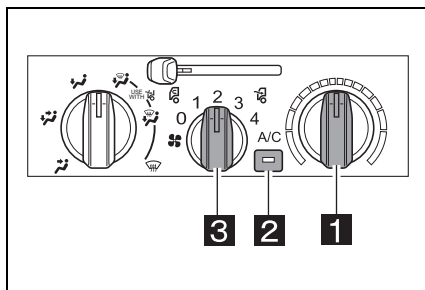
## ▶ リヤクーラー付き車

車種	冷媒（ガス）の種類	冷媒（ガス）規定量
標準キャブ車	HFC134a	750±50 g
ワイドキャブ車		850±50 g

## 冷媒（ガス）充てん量の点検

点検時期
6 カ月ごと

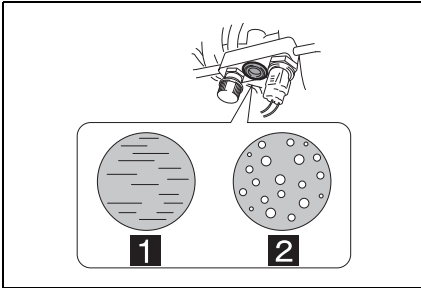
1. エンジンをアイドリング回転する。
2. エアコンスイッチを「ON」、風量切り替えダイヤルを「4」、温度コントロールダイヤルを左いっぱいまで回す。



- 1 温度コントロールダイヤル
  - 2 エアコンスイッチ
  - 3 風量切り替えダイヤル
3. サイトグラスに気泡がないことを確認する。

サイトグラスに気泡が見えないのが正常です。気泡が見えるときは冷媒（ガス）不足ですので、トヨタ販売店に充てんを依頼してください。

- \* 冷媒（ガス）が不足すると冷房能力が低下します。



- 1** 冷媒量適正  
**2** 冷媒量不足（泡が出ている）

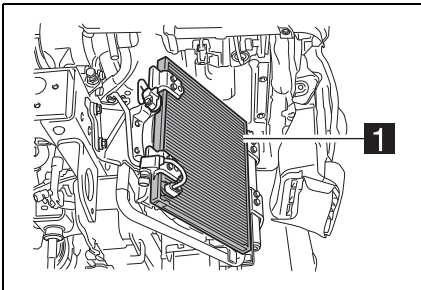
### コンデンサーユニットの洗浄

洗浄時期

6 カ月ごと

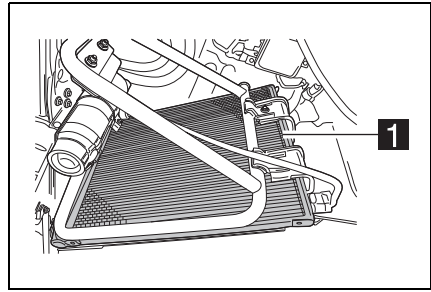
#### ■ 電動ファン付きメインコンデンサー

##### ▶ 標準キャブ車



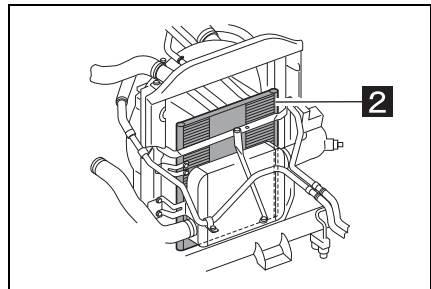
#### **1** メインコンデンサーユニット

##### ▶ ワイドキャブ車



#### **1** メインコンデンサーユニット

#### ■ 電動ファン付きメインコンデンサー



#### **2** メインコンデンサーユニット （ラジエーター前置き）

### 冷媒（ガス）配管接続部の点検

点検時期

6 カ月ごと

- 冷媒（ガス）配管の各接続部にオイルのにじみがないかを目視で点検します。
- オイルのにじみが著しいときは、冷媒（ガス）漏れのおそれがありますので、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

## ↑ アドバイス

### ■ 冷媒（ガス）充てん量の点検

- トヨタ車のエアコンには環境保護のため、オゾン層を破壊しない冷媒（ガス）を使用しています。ただし、法令により大気放出は禁止されています。
- エアコンを廃棄する場合、冷媒（ガス）の回収が必要です。なお、補充・交換・回収の際は、トヨタ販売店にお申し付けください。

## ⚠ 注意

### ■ 冷媒（ガス）の充てんについて

高圧ガスを取り扱うため、トヨタ販売店にお申し付けください。

### ■ コンデンサーユニットの洗浄

- 水洗いするときは、必ずエアコンを停止してください。
- ブラシを使わないでください。フィンがつぶれます。
- フィンなどを傷つけないよう注意し、洗剤、高圧洗浄機は使用しないでください。
- 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行した後は、十分に洗浄してください。

## ウインドウウォッシャー

### 点検時期

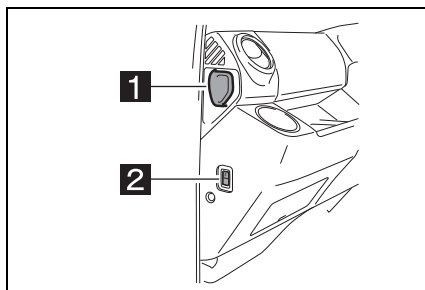
1年ごと

- \* 点検の方法、判定基準は「ウインドウウォッシャーの液量・噴射状態」を参照ください。（→P.12-15）

## ウォッシャー液の補給

キャップを取り外してウォッシャー液を補給します。ウォッシャー液の残量は、キャップに付いているゲージで確認できます。

- \* ウォッシャー液面が満水点検窓の「FULL」の線まで補給します。



**1** キャップ

**2** 満水点検窓

## ウォッシャー液の作り方

ウォッシャーの原液と水との混合割合は、外気温により異なりますので、下記を参考に原液を薄めてください。

使用地域・季節	混合割合	凍結温度
通常	原液 1 : 水 2	-10℃程度
冬期	原液 1 : 水 1	-20℃程度

厳寒期	原液使用	-50℃程度
-----	------	--------

### ▲ 警告

#### ■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液の代わりに冷却水を使用しないでください。ガラス面に冷却液をかけると視界が大幅に悪くなり危険です。

#### ■ ウォッシャー液の原液について

揮発剤が含まれていますので、火気には近づけないでください。火災の原因になります。

### ▲ 注意

#### ■ ウォッシャー液について

石けん水などを入れると目詰まりや塗装面のしみなどの原因になります。

## ワイパー

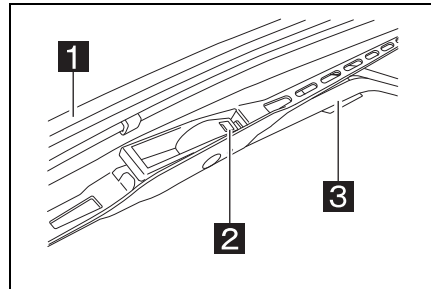
### 点検時期

1年ごと

- \* 点検の方法、判定基準は「ワイパーの拭き取り状態」を参照ください。  
(→P.12-16)

## ワイパーブレードの交換

### ▶ 標準キャブ車・ワイドキャブ車



#### 1 ワイパーブレード

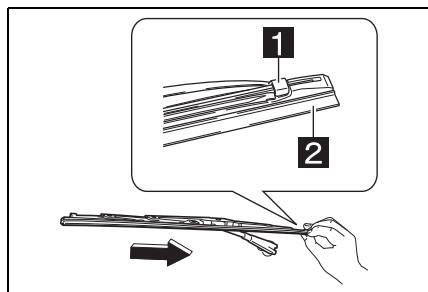
#### 2 ツメ

#### 3 ワイパーアーム

1. ワイパーアームを手前に起こす。
2. 取り外す場合は、固定しているツメを押し込みながらワイパーアーム取り付け部の方向に押す。
3. 取り付けは、新品のワイパーブレードをワイパーアームに「カチッ」と音がするまで引き込む。
4. 取り付け後、ウインドウウォッシャーを併用し、ワイパーを動作させて払拭状態を確認する。

## ワイパーラバーの交換

### ▶ 標準キャブ車・ワイドキャブ車



**1** ストッパー

**2** ワイパーラバー

1. ワイパーラバーを手前に起こす。
2. ストッパーを外してから、ワイパーラバーを取り外し、新品と交換する。
3. 取り外しと逆の順序で取り付けした後、ウインドウウォッシャーを併用し、ワイパーを作動させて払拭状態を確認する。

\* 交換は、トヨタ純正部品を使用してください。

**⚠ 注意**

■ **ワイパーについて**

ワイパーブレードおよびワイパーラバーを取り外したままアームを倒したり、ワイパーを作動させたりしないでください。車体やウインドウガラスに傷がつくことがあります。

**バッテリー**

この車両の電気装置は、12V のバッテリーを 2 個直列に接続した 24V バッテリーで、マイナス側をアースしています。

**点検時期**

- ▶ 標準車

点検時期
事業用 3 カ月ごと、自家用 1 年ごと

- ▶ 消防車

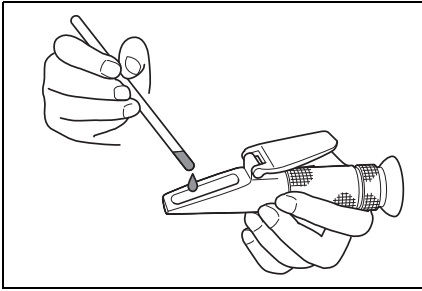
点検時期
120 時間運転ごと

**端子部の点検**

- 端子部にゆるみや腐食がないかを点検します。
- 白い粉が付着しているときは、湯でよく洗いよく拭き取ります。
- 点検および清掃後、ゆるみが生じないように確実に端子を締め付けます。

**比重の点検**

比重の点検は 3 ヶ月ごとに行ってください。また、測定の際は比重計を使用してください。



比重（液温 20℃）

1.24 ~ 1.29	良好
1.23 以下	不足（充電する）

\* 充電しても比重が 1.24 以上にならない場合は、新品に交換してください。

### 充電時の注意

- 充電器で充電するときは、車両からバッテリーを取り外すかバッテリーコードを外してから行います。
- 液口栓を取り外して、風通しの良い場所で充電してください。
- 急速充電するときは、必ずバッテリーコードを外します。外さないとオルタネーターのダイオードが焼損することがあります。
- 充電器のクリップをバッテリー端子に接続する際、また、取り外す際は、充電器のスイッチを切っておいてください。

### アドバイス

#### ■ バッテリーの液口栓について

バッテリーの液口栓を開けたまま清掃しないでください。バッテリー液の中に異物が入り、バッテリーの寿命に悪影響をおよぼします。

### ▲ 危険

#### ■ バッテリーの取り扱いについて

- バッテリーからは引火性の水素ガスが発生していますので、バッテリーの近くで火花を飛ばしたりタバコの火などの火気を近づけたりしないでください。バッテリーから発生する水素ガスに引火すると爆発するおそれがあり危険です。

### ▲ 警告

- バッテリー液は希硫酸ですから、皮膚や衣服に付着するとその部分が侵されますので、十分注意してください。もし、衣服に付着したときは石けんで十分洗い、また、万一皮膚に付着あるいは眼に入ったときは、ただちに清水で十分洗い流し医師の治療を受けてください。
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合は、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受けてください。

■ バッテリーを点検するときは以下の事項をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害を負ったり、車両の故障や損傷につながるおそれがあります

- バッテリーを車両に取り付けるときは、ガタつきがないようにします。取り付けが不完全ですと走行中の振動でケースや極板を傷めることがあります。
- バッテリーから直接 12V の電源を取り出さないでください。また、24V の電気負荷を追加するときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- バッテリーは常に清潔にしておいてください。汚れたままにしておくと、電解液中に不純物が混入して極板を傷めたり、ふた上面でリーク（漏電）し、バッテリーの寿命を短くすることがあります。
- バッテリー点検および清掃後、バッテリーの⊖端子に防錆油・潤滑剤等を塗布しないでください。バッテリーセンサー取付の保持力が低下する可能性があります。

#### ■ 点検・整備するときは

- コンピューターなど電気部品を破損するおそれがあるので、バッテリーを含め電気系統の点検、整備をするときはエンジンスイッチやほかのスイッチを「OFF（LOCK）」にした後、バッテリーの⊖端子を外してから行います。
- ⊖側が接続されていると、工具などが⊕端子と車体に触れたときにショートして危険です。また、電気系統の故障の原因になります。

● バッテリーは、必ず⊖端子（アース側）から取り外し、取り付けるときは⊖端子を最後にしてください。

● バッテリー⊕端子と⊖端子を逆に接続しないでください。逆にすると、過大電流が流れてオルタネーターのダイオードや車体配線が焼損することがあります。

● バッテリー⊖端子を外す際は上側（24V）、下側（12V）ともに外してください。

● バッテリーを外すとバッテリーセンサーの情報がりセットされ、アイドルストップ機能が停止する可能性があります。しばらく走行するとアイドルリングストップ機能が使用可能になります。

● バッテリー端子を外す際は、エンジンスイッチが「LOCK」の位置で5分以上経過した後外してください。この作業を実施しない場合、電子部品の故障や感電する恐れがあります。

#### ■ 取り外し注意点（バッテリーセンサー）

● バッテリーの⊖端子を外すときは、バッテリーセンサーごと取り外してください。型式が異なるバッテリーに交換する際は、故障診断ツールによるシステムの書き換えが必要です。トヨタ販売店にお申し付けください。

## 配線関係

配線止めのクリップのゆるみ、損傷および折れ曲がりなどがなければ点検してください。

不具合があるときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

### 無線関係の取り扱い

- 取り扱うには、申請し免許を受けることが法律で定められています。
- 型式検定合格の無線機を使用するときは、操作のための資格は必要としませんが、無線機の取り付けによる車両電子機器への悪影響も考えられますので、トヨタ販売店にご相談ください。

### アドバイス

#### ■ 無線関係の取り扱いについて

通常車両用無線機の電源は12V方式のため、24Vの車両には直接取り付けることはできませんのでご注意ください。

### 注意

#### ■ 配線の追加について

追加配線は行わないでください。やむを得ず灯火器などを追加するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

## 車外騒音に関わる部品

### アドバイス

#### ■ 取り扱いと点検

- 騒音カバーなどは、保安基準で決められた規制値を満足させるために取り付けられたものであり、故意に改造したり、取り外したりしないでください。なお、整備のために取り外したときは、必ず元通りに取り付けてください。
- マフラーおよび排気管などは、損傷や腐食などによる本来の機能劣化を防止するために「メンテナンスノート」にしたがって点検してください。

### 注意

#### ■ 取り扱いと点検

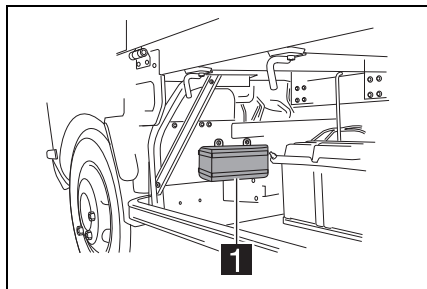
マフラーおよび排気管が損傷または腐食したりすると、消音機能が低下したりするおそれがありますので点検し、異常があるときは交換してください。

## 車のお手入れ

車の外観を美しく保ち、性能・機能を十分に発揮し、長くご使用いただくために、次の手入れを行ってください。

### 洗車

- ホースなどで水をかけながら汚れを落としてください。キャブ周りだけでなく、タイヤハウス、フレーム、シャシスプリング、ラジエーターおよびブレーキパイプなども十分に洗います。
- 洗車するときは室外ヒューズブルリンクボックスのカバーが確実にロックされていることを確認してください。



**1** 室外ヒューズブルリンクボックス

### ワックスがけ

塗装を長持ちさせるため、月に1回程度のワックスがけをお勧めします。

- 洗車後、車体温度がおよそ体温以下になっているときに行ってください。

- コンパウンド（研磨剤）入りのワックスを使用すると、色落ちすることがあります。
- お使いになるワックスの説明をよく読んで正しくお手入れしてください。

### メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る。
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る。
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る。

### ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
  - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない。
  - ・ 硬いブラシを使用しない。
  - ・ 夏場の走行後や駐車場でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない。

### 補修塗装

洗車時には傷や錆がないかを点検します。傷や錆があるときは、正

しいタッチアップ塗装を行ってください。

\* 詳細はトヨタ販売店にご相談ください。

## 内装の手入れ

カークリーナーなどでほこりを取り除いてください。また、汚れている個所は水またはぬるま湯を含ませた布で拭き取ります。

### ▲ 警告

#### ■ 洗車について

- ホースなどで水をかけるときは、インテークエアダクトの空気取り入れ口に水が入らないようにしてください。
- 高圧洗車機を使用するときは、ノズルの先端をドアガラスなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると水圧が高いため、室内に水が入るおそれがあります。マフラー内部に水が浸入すると、触媒やセンサー破損の原因になります。
- シヤシ周りコネクターへの高圧洗浄の直撃は極力行わないでください。コネクターは防水構造になっていますが、高圧洗浄を行うと防水用のゴムが変形し、コネクター内部への浸水を引き起こします。そして一度内部に水が入ると、防水構造になっているため外部に水が出なくなり、錆や電食などにより断線する原因になります。
- エンジンルーム内の電気部品ハーネスコネクター・燃料噴射パイプコネクターに水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障や錆などの原因になります。

- 洗車後、低速でブレーキペダルを踏み、効き具合を確認してください。ブレーキドラムに水が入ると効きが悪くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。効が悪いときは、低速で走行しながら効きが回復するまで数回ブレーキを踏み、ブレーキの湿りを乾かしてください。

- キャブをチルトして洗車するときはエンジンを止めてください。エンジン破損の原因になります。

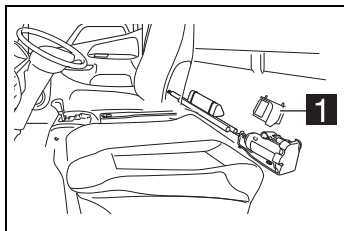
- 寒冷時に洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの固着につながるおそれがあり走行できなくなる場合があります。

- 排気管は排出ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

#### ■ 内装の手入れについて

- 室内清掃時、電装部品に水をかけないでください。特に足元のスイッチ、センサー、ハーネスおよびコネクター等が被水するとリークや導通不良が発生し、エンジン制御やエアバッグなど電子制御機器の誤作動や故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。また、床が錆びたり、悪臭の原因になります。

- 車内の清掃をするときは、DC/DC コンバーター（装着車）を濡らさないでください。水などの液体がかかると、車が故障する原因となります。また、車両火災の発生につながるおそれがあり危険です。



### 1 DC/DC コンバーター

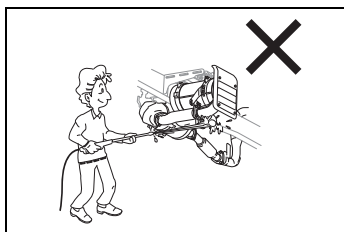
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、十分な効果が発揮できなくなるおそれがあります。清掃するときは中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
- 内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントガラスへ映り込み、運転者の視界をさまざまに妨げる事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

## △ 注意

### ■ 洗車について

- 特に、海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行後は、ラジエーター・インタークーラーを十分に洗浄してください。汚れたまま放置すると腐食の原因になることがあります。
- 下周り、足周りを洗うときは手にケガをしないように注意してください。
- ワイドビューピラー装着車は、アンテナ、アンテナキャップを取り付けていない状態でアンテナ付近に水をかけないでください。
- ランプのレンズ表面をワックス、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤で拭いたり、かたいブラシなどで擦ったりしないでください。破損したり、劣化を早めることがあります。
- 目地がある素他部（塗装されていないバンパー・アウターミラーなどの樹脂部分）に塗装用ワックスを使用しないでください。塗装用ワックスが付着すると、目地に入って取れなくなり、白くなることがあります。
- 洗車するときは、ワイヤーブラシやたわしなどのかたい物を使用しないでください。塗装などに傷がつかまず。

- 洗車の際は、排気管開口から直接水を入れないでください。排気管内のセンサーに水がかかり、故障の原因となります。



- 尿素水タンク、尿素 SCR 周りなどの尿素配管接続部の洗車の際は、水で洗浄を行ってください。（汚れの状況により、やむを得ず洗剤を使用する場合は、中性洗剤の使用にとどめてください）コネクタ部に洗剤が入ると、電熱線が腐食し尿素システム系異常に繋がるおそれがあります。
- 次のようなときは、必ず洗車してください。
  - ・ 海岸地帯を走行したとき
  - ・ 樹液・鳥のフン・虫の死骸やコーラタールが付着したとき
  - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
  - ・ ほこりや泥で汚れたとき
  - ・ 煤煙・油煙・粉じん・鉄粉および化学物質などの降下の多い場所
- 高速道路で使用される多量の融雪塩が車両下部のフレームの早期腐食を招くおそれがあります。定期的に洗車や補修塗装を行ってください。

- 電気配線、電装品、コネクタおよびホーンなどの洗浄（特に高圧洗浄）は避けてください。また、寒冷時ドアのキー穴やゴム部品が凍結して開かなくなることがありますので、洗車後はドア周りなどの水分をよく拭き取ってください。

- プラスチックや樹脂部品を、シンナーやガソリンで清掃しないでください。変色や亀裂の原因になります。
- キャブをチルトして洗車するときは、エンジンの空気取り入れ口に水が入らないように処置してください。エンジン破損の原因になります。

#### ■ 内装の手入れについて

- 液体芳香剤をこぼさないように注意してください。含まれる成分によっては変色やシミ、塗装のはがれの原因になります。
- 変色・しみ・塗装のはがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
  - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
  - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶剤・変形の原因になるおそれがあります。

## DPR（排出ガス浄化装置）

### 点検

点検時期

1年ごと

- \* 排出ガス浄化装置の本体および本体に取り付いているセンサーの配線やホースについて損傷などがいないか点検してください。
- \* エンジンの運転状態での排気圧力を点検してください。
- \* 差圧パイプに詰まりがないか点検してください。
- \* 点検時、センサー用ホースの表面に損傷があるときは、ただちに交換が必要です。トヨタ販売店にお申し付けください。
- \* マフラー周辺を囲うと排気系部品の温度が上昇し、ラバーや樹脂部品の劣化が促進されるおそれがあります。遮熱板などがフレーム上面から 75 mm 以下の位置に設置されている場合は、定期的に点検してください。

### アドバイス

#### ■ 排気圧力の点検について

- DPRの排出ガス浄化装置性能を維持するために、定期的にエンジンの運転状態での排気圧力を点検してください。排気圧力が基準値を超えている場合は、DPR-クリーナーのメンテナンスが必要になります。
- 排気圧力の点検および DPR の点検・整備については、トヨタ販売店にお申し付けください。

- 排気圧力の点検が行えない場合は、目安として 25 万 km 走行ごとに差圧パイプおよび DPR フィルターの清掃を実施してください。

## 連続再生式 DPF 排気圧力センサー用ゴム・ホース

点検時期

3年ごと

### 警告

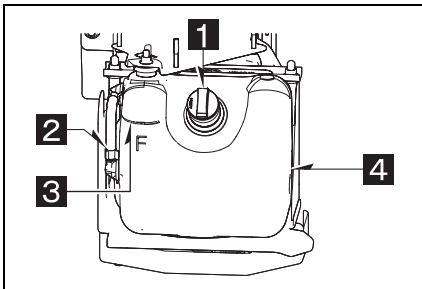
#### ■ 点検について

センサーの配線やホースの点検は、走行直後に行わないでください。排気管やマフラー付近が高温になっていて、やけどをするおそれがあります。

## 尿素 SCR（尿素選択式還元触媒）システム

### AdBlue®（尿素水）の給水のしかた

- フィラーキャップを外します。
- 規格に適合した AdBlue®（尿素水）をタンクに設けられた水位ゲージを見ながら、水位が満水ラインになるまで給水します。
- フィラーキャップを確実に締めます。



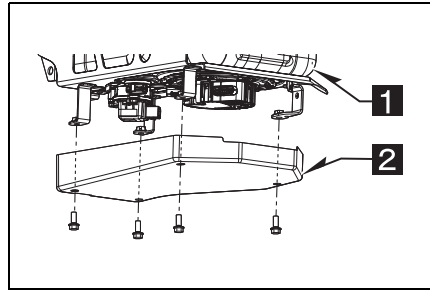
- 1 フィラーキャップ
- 2 AdBlue® ゲージ
- 3 満水ライン
- 4 尿素水タンク

### ⚠ 注意

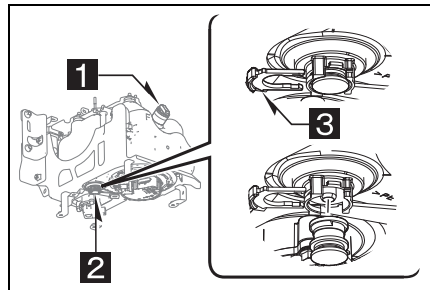
AdBlue® をタンクの満水ラインより上に注がないでください。そうしないと、AdBlue® がブリーザーやフィラーキャップからあふれてしまいます。

### AdBlue®（尿素水）の交換のしかた

1. 車両を安全な場所に停止し、エンジンを停止します。
2. 尿素水タンクから尿素水タンクカバーを取り外します。



- 1 尿素水タンク
- 2 尿素水タンクカバー
3. ドレインプラグからクリップを取り外します。



- 1 フィラーキャップ
- 2 ドレインプラグ
- 3 クリップ

4. ドレインプラグを抜き、AdBlue®（尿素水）を受け皿に排水します。

- \* 事前に排出用の受け皿を準備してください。
- \* 尿素水タンクのフィラーキャップは外さないでください。
- \* 作業を行うために配線のコネクターを外した場合は、外したコネクターに AdBlue®（尿素水）がかからないように防水措置を行ってください。
- 排水が完了したら、ドレインプラグを清掃し、取り付けます。

ドレーンプラグは奥まで差し込みます。

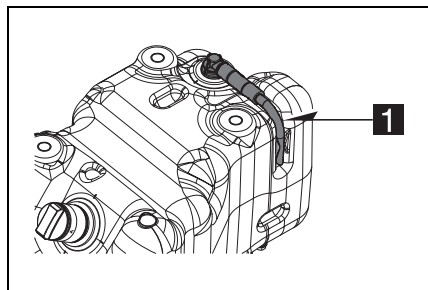
- クリップをドレーンプラグに取り付けます。
- 5. フィラーキャップを外し、規格に適合した AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）を 4L 以上尿素水タンクに給水します。
- 6. フィラーキャップを取り付けます。
- \* ドレーンプラグの周囲から、AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）のにじみがないかを確認します。
- 7. 尿素水タンクカバーを尿素水タンクに取り付けます。

締め付けトルク

31.0 N・m {316.0 kgf・cm}

尿素水タンクブリーザーホースの点検

- ブリーザーホースがゴミなどで詰まると、AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）の給水時に AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）が吹きこぼれたり、尿素水タンクが変形するおそれがあります。
- \* 詰まりを発見した場合は、最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。



1 ブリーザーホース

尿素水の漏れの点検

点検時期

事業用 3ヵ月ごと、自家用 6ヵ月ごと

- 尿素水タンク、尿素水ポンプ、尿素水配管から AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）が漏れていないことを確認してください。
- \* 漏れを発見した場合は、最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

尿素水ホースの点検

点検時期

事業用 3ヵ月ごと、自家用 6ヵ月ごと




- ホースおよびコネクターに亀裂や損傷、折れ曲がりがないか点検してください。
- ホースのコネクターが確実に接続されているか点検してください。
- ホースの固定用のクリップなどにゆるみや亀裂がないか点検してください。
- \* ホースおよびコネクターに亀裂や損傷、折れ曲がりがあるときは、最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

▲ 警告

■ 尿素水漏れおよび尿素水ホースの点検について

点検は、走行直後に行わないでください。排気管、マフラー、冷却水が高温になっており、やけどをするおそれがあります。

 **注意****■ AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）の給水について**

- 故障の原因となるため尿素水タンク内に AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）以外を入れないでください。
- マルチインフォメーションに “ AdBlue 残量少” と表示が出たら、早めに AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）を給水してください。警報が出て一定距離を走行するとブザーが鳴り、尿素水計の警告灯が点灯します。このような状態でエンジンスイッチを ON 以外の位置にした後、エンジンの再始動ができなくなります。余裕をもって給水するようにしてください。
- マルチインフォメーションに “ AdBlue 残量少” または、“ AdBlue 残量少補給して下さい” と表示されているときには、AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）を 4 L 以上給水してください。それ以下だと警報が消えない場合があります。
- 尿素水タンクに補給するときは、タンクに設けられた水位ゲージの黒いライン以上給水しないでください。この位置を超えると AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）があふれます。
- 車両が傾いた状態で AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）の給水を行うと水位ゲージが満水位を示す前にあふれる場合があります。

- AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）があふれてしまったり、給水時にタンクや周辺部品に付着してしまった場合は速やかにウエス等で拭き取ってください。放っておくと白色化します。（これは AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）の尿素成分が結晶化したものです）結晶化した尿素は、乾燥すると白色化し拭き取りにくくなります。取れにくくなった結晶は、お湯を浸したウエスで拭くと取れやすくなります。
- 給水時は、尿素水タンク内にほこり等が入らないように注意してください。尿素水ポンプや配管詰まりの原因となります。
- 尿素水タンクのキャップやフィルターホースに尿素の結晶が付着しキャップが締めにくくなった場合は、無理に締めずにウエス等で結晶を除去してから締めるようにしてください。この際、タンク内にウエスの切れ端等が入らないようにしてください。
- 尿素水タンクのドレーンより抜いた AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）は産業廃棄物として処分してください。
- AdBlue<sup>®</sup>（尿素水）は凍結すると膨張します。満水位以上に給水をし凍結した場合、タンク破裂の原因となります。（-11℃以下で凍結します）

## 燃料添加弁

### 点検

点検時期
1年ごと

- \* DPRの点検と平行して、燃料添加弁の作動を点検してください。
- \* 燃料添加弁の点検・整備については、トヨタ販売店にお申し付けください。

## エアフローメーター

絶対に分解しないでください。分解が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。(分解した場合、正常であってもアッセンブリー交換が必要になる場合があります) また、精密機械のため、たたく等の強い衝撃を与えないでください。

### 点検

点検時期
1年ごと

- \* 点検については、トヨタ販売店場にお申し付けください。

## 低速・加速の状態

### 点検

#### 点検時期

事業用3カ月ごと、自家用1年ごと

- エンジンを暖機させた状態で、アイドルリングにむらがないかを点検します。
  - 運行前に、安全な場所で徐行し、走行状態がスムーズか、またアクセルペダルを徐々に踏み込んでいったとき、ペダルに引っかかりがなくスムーズに加速するかを点検します。
- \* 低速走行が不安定だったり、アクセルペダルの踏み込み量に対してスピードが追従しないときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

## 計器類の点検

### エンジン回転計

エンジンを始動させ、アイドルリング回転にして指針の振れはないか、またアクセルペダルを徐々に踏み込んでいき、エンジン回転計の指針に引っかかりがなくスムーズに上昇するかを点検します。点検時に異常が認められたときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。



純正油脂類.....	P.14-3
エンジンオイル.....	P.14-5
PTO オイル（消防車）.....	P.14-7
トランスミッションオイル （MT 車）.....	P.14-10
トランスミッションフルード （AT 車）.....	P.14-12
トランスファー オイル.....	P.14-14
ディファレンシャル オイル.....	P.14-15
パワーステアリング フルード.....	P.14-18
ブレーキフルード・ クラッチフルード.....	P.14-20
電動キャブチルト シリンダーオイル.....	P.14-22
給脂図.....	P.14-23
給脂.....	P.14-25
油脂一覧表.....	P.14-30

本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。

定期点検には、法律で定められた法定点検項目（距離項目を含む）と、弊社が指定するメーカー指定点検項目〔シビアコンディション（厳しい使い方）項目および定期交換部品を含む〕があり、法令で定められた期間での実施が義務づけられています。

別冊の「メンテナンスノート」にしたがってトヨタ販売店にお申し付けください。ここでは皆様にも簡単に行える点検・給脂についてまとめましたので、お車を快適にご利用いただくために実施されるよう推奨します。

## アドバイス

点検および交換時期に関し、使用期間と走行距離を併記してあるものは、いずれか早く到達した時点で点検または交換などを行ってください。

## 知識

ここでは本文中の点検時期表記の見方について説明しています。

### ■ 例

点検時期	
1	新車 1,000 km 走行時
2	その後、事業用 3ヵ月ごと (距離項目)
3	自家用 6ヵ月ごと (距離項目)
4	[シビアコンディション項目]

- 1 新車時から 1,000 km または 5,000 km 走行時に点検・補給を勧めている項目であることを意味しています。
- 2 事業用自動車の点検が 3 ヵ月ごとであることと、※<sup>1</sup> 距離項目であることを表しています。初回登録および前回の点検より 2,000 km に満たない場合は、この項目の点検を省略することができます。ただし、次回の点検で、前回の点検からの走行距離が 2,000 km に満たなくても、2 回続けたの省略はできません。
- 3 自家用貨物車の点検が 6 ヵ月ごとであることと、※<sup>1</sup> 距離項目であることを表しています。初回登録および前回の点検より 4,000 km に満たない場合は、この項目の点検を省略することができます。ただし、次回の点検で、前回の点検からの走行距離が 4,000 km に満たなくても、2 回続けたの省略はできません。
- 4 この項目が※<sup>2</sup> シビアコンディション項目であることを表し、使用条件の厳しい車両は 1 ヵ月ごとの点検をトヨタが指定している項目であることを意味しています。

#### ※<sup>1</sup> 距離項目

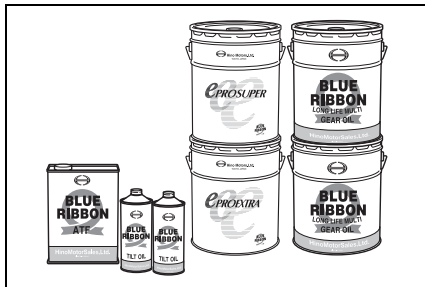
- ・ 自家用貨物車、事業用自動車の定期点検整備項目が法律で設定され、点検期間内の走行距離が短い場合、その点検を省略することができます。
- ・ 事業用自動車では、登録日または前回の定期点検からの走行距離が 2,000 km 以下の場合に、その項目を 1 回に限り省略することができる点検項目です。
- ・ 自家用貨物自動車では、登録日または前回の定期点検時からの走行距離が 6

カ月の時点で4,000 km以下、12カ月の時点で8,000 km以下の場合に、その項目を1回に限り省略することができる点検項目です。

※<sup>2</sup>シビアコンディション（厳しい使用方向）項目

定期点検整備は1カ月5,000 km程度を走行する場合を標準の時期として定めてあります。事業用自動車で特に走行距離が多いなど標準的な使用条件と著しく異なる車両には、シビアコンディション条件を定め、1カ月ごとの点検・整備および定期交換をトヨタが推奨しています。

## 純正油脂類



- オイルやグリースの定期的な補給と交換は、車両の性能維持・寿命延長・事故防止などのために非常に重要なので確実に実施してください。
  - トヨタ純正油脂類は、車両性能を十分に発揮させるように作られていますので、定期的な油脂類の補給および交換時は、トヨタ純正油脂類の使用を推奨します。
- オイルの補給および交換時の注意
- 補給前には漏れがないかを必ず点検し、漏れがあるときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
  - 補給・交換後は、フィルターキャップ、フィルタープラグおよびドレーンプラグ周りに付着したオイルをよく拭き取り、オイル漏れがないかを必ず点検してください。
  - 交換時は排油用の容器を必ず準備し、廃油は空地や溝などには絶対捨てないでください。
- 給脂時の注意

- グリース不足は、回転部や摺動部の動きを悪くし、早期摩耗によるガタや異音および焼き付きの原因になります。常にグリースが保持されるようにしてください。
- 給脂はグリースニップル・ブリーダーおよび塗布部位の泥やほこりを取ってから行い、給脂後はあふれ出たグリースを必ず拭き取ってください。

### アドバイス

#### ■ 点検・交換時期に関して

使用期間と走行距離を併記してあるものは、いずれか早く到達した時点で点検または交換などを行ってください。

#### ■ PTO 搭載車などの作業用車両について

実走行によるオイル劣化に加え、非走行時でも PTO 稼働などによるオイル劣化が発生しますので早めにエンジンオイルを交換してください。交換時期については下記換算式を参照してください。

[交換時期の換算例]

PTO によるエンジン稼働時間を走行距離に換算する例を以下に示します。

$$\textcircled{1} + \{ \textcircled{2} \times \textcircled{3} \times 10 \text{ (km/h)} \}$$

例)

$$\textcircled{1} \text{ 実走行距離} \cdots 10,000 \text{ km}$$

$$\textcircled{2} \text{ PTO 稼働時間} \cdots 4 \text{ 時間/日}$$

$$\textcircled{3} \text{ 稼働日数} \cdots 90 \text{ 日}$$

$$10,000 \text{ km} + \{ 4 \text{ (時間/日)} \times 90 \text{ (日)} \times 10 \text{ (km/h)} \} = 13,600 \text{ km}$$

### 警告

#### ■ 油脂類の取り扱いについて

- 油脂類の廃棄処理は、環境に留意した方法で行ってください。処理方法を誤ると法律違反になります。
- エンジンルーム内に布や手袋、工具類などの置き忘れがないことを確認してください。布などの燃えやすい物は火災の原因になります。また工具類は振動などで飛びはね、部品を損傷させるおそれがあります。

#### ■ オイルの補給および交換について

周りに垂れたオイルは必ず拭き取ってください。そのままにしておくと火災の原因になります。

## エンジンオイル

熱や酸化に対して安定していること、温度による粘度変化が少ないことが必要です。トヨタ純正品は、これらの性能を十分に発揮するように作られていますので、車両の使用条件により、適正なオイル（以下、「指定銘柄」といいます）を使用してください。

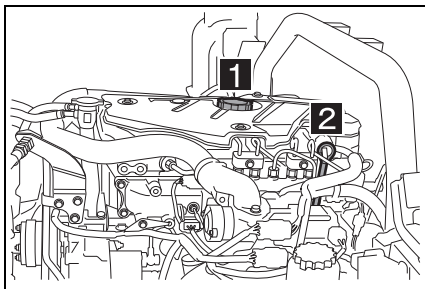
### 指定（推奨）銘柄

オイルの名称	使用温度範囲
推奨（工場充填油） ディーゼルオイル DH-2F 5W-30 (JASO DH-2F ガイドライン)	-30℃ ~ +40℃
適合 トヨタ純正ディーゼルオイル DH-2 10W-30 (JASO DH-2 ガイドライン)	

### 補給

1. フィラーキャップを外しエンジンオイルを補給する。
2. 補給後、10分程してからオイル量を点検する。

\* オイル量の点検（→P.12-4）



### 1 フィラーキャップ

### 2 オイルレベルゲージ

#### 知識

エンジンオイル注入口やそのキャップ裏面、およびオイルレベルゲージに白濁した物質が付着していることがあります。この白濁物質は、ブローパイガス中の水分がエンジン内部で結露してエンジンオイルと混合してクリーム状になったものです。短時間の走行や冬期などエンジンの温度が上がらないときに発生しますが、エンジンが温まって水温計が安定する程度の走行によりオイルと水分が分離して元に戻ります。

### 交換時期

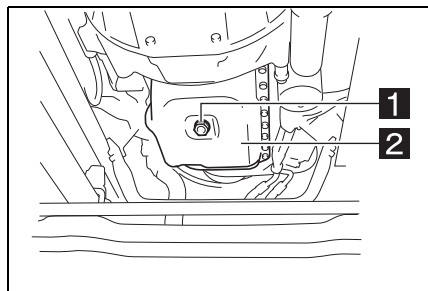
#### ▶ 標準車

交換時期
1年または15,000 km 走行ごと [シビアコンディション時] 0.5年ごと

#### ▶ 消防車

交換時期
1年または150時間運転ごと

新車およびオーバーホール後1,000 km 走行時に交換したあとは、前記の表にしたがって定期的に交換してください。



## 1 ドレインプラグ

## 2 オイルパン

1. フィラーキャップとオイルパンのドレインプラグおよびオイルフィルターのドレインプラグを取り外して排油する。

オイルが少し暖かいうちに行くと容易に排油することができます。

- \* 各プラグは油温と同じ温度で熱いため手を触れないよう注意してください。
2. 完全に排油した後、ドレインプラグを確実に締め付ける。
  - \* ドレインプラグのガスケットは、必ず新品と交換してください。
  3. オイルフィルターから給油する。

オイル量	
オイルパン	オイルフィルター
約 7.3 L	約 1.1 L

4. 給油後 10 分程してから、オイル量を点検します。
  5. エンジンをかけてアイドル回転にする。
  6. エンジンを止め、30 分以上経過してからオイル量を点検する。
- 不足しているときは補給します。また、ドレインプラグからオイル漏れがないことを確認してください。

- 入れすぎたときは、オイルを抜いてください。

## 👉 アドバイス

### ■ オイルの交換について

- オイル交換時期はオイルを補給せずに走行できる期間、距離を示したものではありません。定期的オイルの状態をオイルレベルゲージで確認し、必要な場合はオイルを補給してください。
- オイル交換時にオイルフィルターエレメントも交換してください。

## ⚠️ 警告

### ■ 補給時にオイルをこぼさないようにしてください

排気管などにオイルが付着すると、火災の原因になります。こぼしたときは、完全に拭き取ってください。

### ■ オイル交換について

- 走行後すぐに排油すると、オイルが高温になっていてやけどをするおそれがあります。少し時間をおいて温度が下がってから行ってください。
- 排出ガス浄化装置の機能を長時間維持するために指定（推奨）銘柄のエンジンオイルをお使いになることを推奨します。

## ⚠ 注意

### ■ オイル交換について

エンジンを高回転・高負荷で多く使用している場合は、走行キロ数または稼働時間にかかわらず早めに交換してください。また、油量点検時オイルが著しく汚れているときも走行キロ数または稼働時間にかかわらず早めに交換してください。

## PTO オイル（消防車）

PTO は作動と内部の潤滑にオイルを使用しています。PTO には大きな負荷がかかりますので、熱や酸化に対して安定しており、温度による粘度変化の少ない、適正なオイルを使用してください。これらにはトヨタ純正エンジンオイルを使用されるようお勧めします。

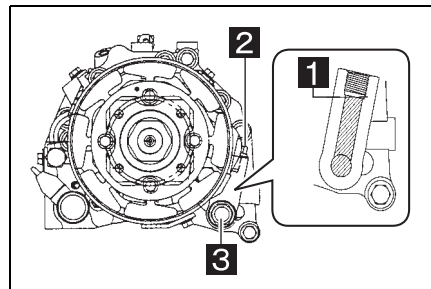
### 指定（推奨）銘柄

オイルの名称
トヨタ純正ディーゼルオイル DH-2 10W-30 (JASO DH-2 ガイドライン)

\* 上記オイルは JASO DH-2 に準拠する。

### 点検・補給

点検時期
50 時間運転または 3 カ月ごと



- 1 油面
- 2 フィラープラグ
- 3 ドレインプラグ

1. PTO 後方のフィラープラグを取り外す。
2. フィラープラグのねじ穴からのぞいて、ねじの下端にある段差

部分まで油面がきているか、また同時にオイルの汚れ具合も点検する。

- \* 不足しているときは、フィラープラグのねじ穴から補給してください。

### 3. 点検・補給が完了したら、フィラープラグを確実に締める。

#### 締め付けトルク

41 N・m [420 kgf・cm]

### 4. 試運転を行い、フィラープラグからオイル漏れがないことを確認する。

- \* フィラープラグは油温と同じ温度で熱いため手を触れないよう注意してください。
- \* 補給するときは、入れ過ぎないように注意してください。
- \* オイルが著しく汚れている場合は、運転時間にかかわらず早めに交換してください。
- \* フィラープラグのガスケットは、必ず新品と交換してください。
- \* オイルが著しく減っていたり、また逆に増加しているような場合には、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

## 交換

交換時期	オイル量
100 時間運転または 1 年ごと	約 0.67 L

### 1. PTO 後方のドレーンプラグおよびフィラープラグを取り外して排油する。

- \* オイルが少し温かいうちに行くと容易に排油することができます。

### 2. 完全に排油した後、ドレーンプラグを確実に締め付ける。

#### 締め付けトルク

41 N・m [420 kgf・cm]

### 3. フィラープラグのねじ穴からのぞいて、ねじの下端にある段差部分まで油面がくるように給油する。

### 4. 給油が完了したら、フィラープラグを確実に締め付ける。

#### 締め付けトルク

41 N・m [420 kgf・cm]

### 5. 試運転を行い、各プラグからオイル漏れがないことを確認する。

- \* ドレーン穴からオイルが落ちなくなるまで完全に排油してください。
- \* 各プラグは油温と同じ温度で熱いため手を触れないよう注意してください。
- \* ドレーンプラグのガスケットは、必ず新品と交換してください。
- \* 給油するときは、油面を確認しながらゆっくりと行ってください。また、入れ過ぎや不足のないように注意してください。
- \* フィラープラグのガスケットは、必ず新品と交換してください。

## アドバイス

### ■ オイルについて

- 点検や交換作業は、平坦な場所で行ってください。傾いていると、正確なオイル量が測れません。

- オイルグレードにかかわらず、交換時期は同一です。これは、オイル交換の主な目的の一つに、PTO 作動時に発生する装置内部の摩耗粉の除去があるためです。

### 警告

#### ■ 作業時について

- 作業時は必ずエンジンを停止させてください。エンジン回転中は、回転部分に触れたり近づいたりしないでください。手や服などが巻き込まれたりして思わぬケガをするおそれがあります。
- 作業時は周囲にオイルをこぼさないようにしてください。排気管などにオイルが付着すると、火災の原因になります。こぼしたときは、完全に拭き取ってください。
- 走行後や PTO 運転後すぐに作業すると、PTO 本体やオイルが高温になっていてやけどをするおそれがあります。少し時間をおいてから行ってください。

#### ■ 点検・補給・交換をするときは

走行後、オイルが高温になっていてやけどをするおそれがあります。少し時間をおいて温度が下がってから行ってください。

### 注意

#### ■ 作業時について

- オイル量は、少なすぎても多すぎても、PTO の性能が発揮できなくなったり、故障の原因になります。

- PTO を高回転・高負荷で多用している場合や、オイルが著しく汚れている場合は、運転時間にかかわらず早めに交換してください。
- オイルが著しく減っていたり、また逆に増加しているような場合には、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

## トランスミッションオイル (MT車)

### 指定(推奨)銘柄

- ▶ RE62、RE50F

#### オイルの名称

トヨタ純正  
MGギヤオイルスペシャルII  
GL-3 (API分類) の SAE75W-90

### オイル量一覧表

- ▶ RE62

車種	オイル量
MT車	約 3.2 L (PTO 付き + 0.2 L)

- ▶ RE50F

#### オイル量

約 3.2 L (PTO 付き + 0.2 L)

### 点検・補給

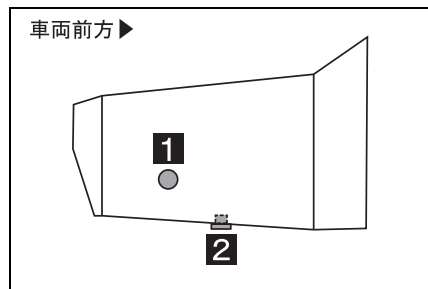
#### ■ 油漏れやにじみおよび油量

#### 点検時期

新車 1,000 km 走行時、その後、  
事業用 3 カ月ごと (距離項目)、  
自家用 6 カ月ごと (距離項目)  
[シビアコンディション項目]

- ▶ RE62、RE50F 型トランスミッション

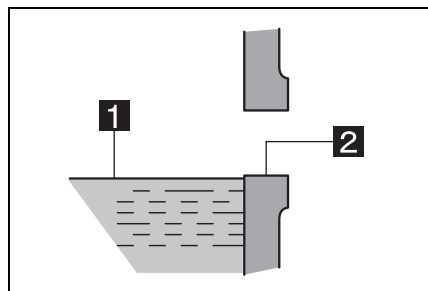
#### ■ 油量の点検



**1** フィラープラグ (車両左側)

**2** ドレインプラグ

1. 側面のフィラープラグを取り外す。
2. オイル面がフィラープラグのねじ穴下面から 0 ~ 5 mm 以内にあるかを点検する。



**1** オイル面

**2** 油量 (ねじ穴下面)

- 不足しているときは、フィラープラグのねじ穴から補給してください。

#### ■ 漏れやにじみの点検

1. トランスミッションの外観を見渡し、油漏れやにじみがないか確認ください。
2. 漏れ、にじみがある場合はトヨタ販売店へご連絡ください。

## 交換

### 交換時期

2年または 40,000 km 走行ごと

1. ドレインプラグおよびフィルタープラグを取り外して排油する。
  - オイルが少し暖かいうちに行くと容易に排出することができます。
  - ドレインプラグはマグネット式になっています。付着した鉄粉は除去してください。
    - \* 各プラグは油温と同じ温度で熱いため手を触れないよう注意してください。
2. 完全に排油した後、ドレインプラグを確実に締め付ける。
  - \* ドレインプラグのガスケットは、必ず新品と交換してください。
3. フィラープラグのねじ穴下面までオイルを給油する。
4. フィラープラグを確実に締め付ける。
  - \* フィラープラグのガスケットは、必ず新品と交換してください。

## 警告

### ■ 点検・補給・交換をするときは

走行後はオイルが高温になっていてやけどをするおそれがあります。少し時間をおいて温度が下がってから行ってください。

## 注意

### ■ 点検・補給について

オイル量は、少なすぎても多すぎても、トランスミッションの故障の原因になります。

### ■ オイルの補給・交換後は

車両の試運転を行いドレインプラグおよびフィルタープラグからオイル漏れのないことを確認してください。オイル漏れによりトランスミッションが損傷するおそれがあります。

### ■ トランスミッションオイルについて

指定銘柄以外のオイルを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

## トランスミッションフルード (AT車)

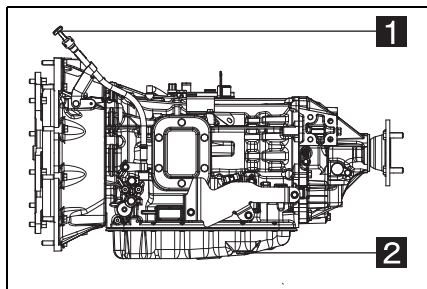
### 指定 (推奨) 銘柄

オイルの名称
トヨタ純正 オートフルードタイプ T-IV

### 点検・補給

点検時期
新車 1,000 km 走行時、その後、 事業用 3 カ月ごと (距離項目)、 家用 6 カ月ごと (距離項目) [シビアコンディション項目]

- \* 点検は定期的に行い、オイル量が減少しているときは、オイル漏れの点検を行ってください。



#### 1 オイルレベルゲージ

#### 2 ドレインプラグ

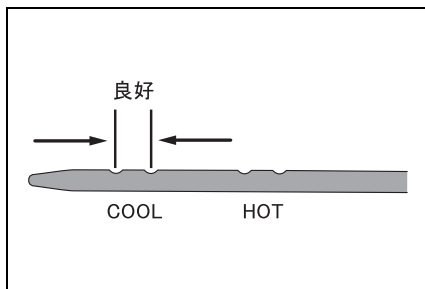
### ■ コールドチェック (オイル量点検)

1. 車両を平坦な場所に停止し、シフトレバーを「P」の位置にする。
2. 1分間以上アイドル回転させ、油圧回路のエア抜きをし油温を 20 ~ 30 °C にする。

3. ブレーキペダルを踏みながら、シフトレバーを各位置にゆっくりとシフトした後、「P」の位置にする。

各油圧回路やクラッチ部にオイルを充満させます。

4. アイドリング回転のままオイルの量と性状 (色・臭い・粘度) を点検する。



- \* オイル量を COOL の範囲内に調整した後、ホットチェックを実施してください。

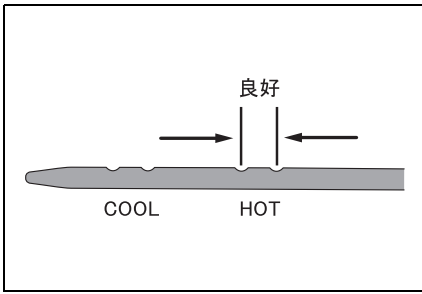
- \* コールドチェックの目的は、ホットチェックできる量があるかどうかを確認するためです。

### ■ ホットチェック (オイル量点検)

1. ブレーキペダルを踏みながら、シフトレバーを「D」の位置にし、トランスミッションを作動させ、油温を通常の運転温度 (70 ~ 80 °C) にする。
2. シフトレバーを各位置にゆっくりシフトした後、「P」の位置にする。

各油圧回路やクラッチ部にオイルを充満させます。

3. アイドリング回転のままオイルの量と性状 (色・臭い・粘度) を点検する。



- \* HOT の範囲内であれば良好です。不足しているときはオイルレベルゲージガイドから給油を行い、多すぎるときはドレーンプラグから排油して調整します。
- \* 温度の上昇と共にオイル面も上昇するのでホットチェックは、油温が高くなければなりません。
- \* ホットチェックは必ず実施してください。

## 交換

### 交換時期

2年または 40,000 km 走行ごと

- \* オイル交換はトヨタ販売店にお申し付けください。

### オイル量

約 12.5 L

## 警告

### ■ 点検・補給・交換をするときは

走行後はオイルが高温になっていてやけどをするおそれがあります。少し時間をおいて温度が下がってから行ってください。

### ■ ホットチェックをするとき

高温のときに排油すると、やけどをするおそれがあります。少し時間をおいてから行ってください。

## 注意

### ■ オイルの点検について

- 点検は必ずシフトレバーを「P」の位置にし、エンジンをアイドリング回転にそのまま行ってください。
- 油温が上昇するとオイル面も上昇しますので、オイルレベルゲージの指定の範囲以上にオイルを補給しないでください。
- 点検を行うときは、オイルレベルゲージの周りのゴミやほこりをふき取ってください。
- 補給容器はきれいな物を使用してください。異物が入ると故障の原因になります。

### ■ 故障を防ぐために

- ほかのオイルを使用したり、混合したりすると性能低下や焼き付きなどの不具合が発生しますので絶対に使用しないでください。
- オイル量は、少なすぎても多すぎても、オートマチックトランスミッションの故障の原因になります。

### ■ オイルの補給・交換後は

車両の試運転を行いドレーンプラグからオイル漏れのないことを確認してください。オイル漏れによりオートマチックトランスミッションが損傷するおそれがあります。

## トランスファーオイル★

★：グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。

### 指定（推奨）銘柄

オイルの名称

トヨタ純正  
MG ギヤオイルスペシャルⅡ GL-3  
(API 分類) の SAE75W-90

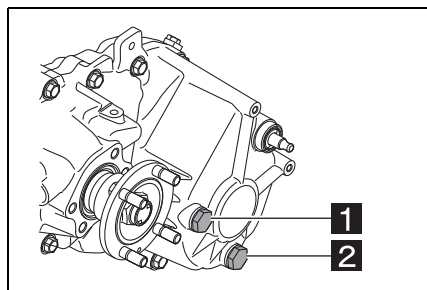
### 点検・補給

#### ■ 油漏れやにじみおよび油量

点検時期

新車 1,000 km 走行時、その後、  
事業用 3 カ月ごと（距離項目）、  
自家用 6 カ月ごと（距離項目）  
〔シビアコンディション項目〕

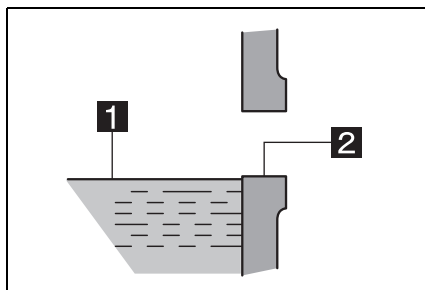
#### ■ 油量の点検



#### 1 フィラープラグ

#### 2 ドレインプラグ

1. トランスファーケースのフィラープラグを取り外します。
2. オイル面がフィラープラグのねじ穴下面から 0～5 mm 以内にあるかを点検します。



#### 1 オイル面

#### 2 油量（ねじ穴下面）

- 不足しているときはフィラープラグのねじ穴から補給してください。
- #### ■ 漏れやにじみの点検
1. トランスミッションの外観を見渡し、油漏れやにじみがないか確認ください。
  2. 漏れ、にじみがある場合はトヨタ販売店へご連絡ください。

### 交換

交換時期

2 年または 40,000 km 走行ごと

オイル量

約 1.6 L

1. トランスファーケースのドレインプラグおよびフィラープラグを取り外して排油する。
- オイルが少し暖かいうちに行くと容易に排出することができます。
  - ドレインプラグおよびフィラープラグはマグネット式になっています。付着した鉄粉は除去してください。

- \* 各プラグは油温と同じ温度で熱いため手を触れないよう注意してください。
- 2. 完全に排油した後、ドレーンプラグを確実に締め付ける。
- \* ドレーンプラグのOリングは、必ず新品と交換してください。(オイル塗布のこと)
- 3. フィラープラグのねじ穴下面までオイルを給油する。
- 4. フィラープラグを確実に締め付ける。
- \* フィラープラグのOリングは、必ず新品と交換してください。(オイル塗布のこと)

### 警告

#### ■ 点検・補給・交換をするときは

走行後はオイルが高温になっていてやけどをするおそれがあります。少し時間をおいて温度が下がってから行ってください。

### 注意

#### ■ オイルの補給・交換後は

車両の試運転を行いドレーンプラグおよびフィラープラグからオイル漏れのないことを確認してください。オイル漏れによりトランスファーが損傷するおそれがあります。

#### ■ トランスファーオイルについて

指定銘柄以外のオイルを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

## ディファレンシャルオイル

### 指定(推奨)銘柄

- ▶ リヤ 10.5 インチ、12 インチ、13 インチ

#### オイルの名称

トヨタ純正  
ハイポイドギヤオイル SX  
(API GL-5, SAE85W-90)

- ▶ フロント、リヤ 12 インチ LSD 付き車

#### オイルの名称

トヨタ純正  
ハイポイドギヤオイル LSD  
(API GL-5 SAE85W-90)

### オイル量一覧表

- ▶ フロント

#### オイル量

約 1.3 L

- ▶ リヤ (10.5 インチ)

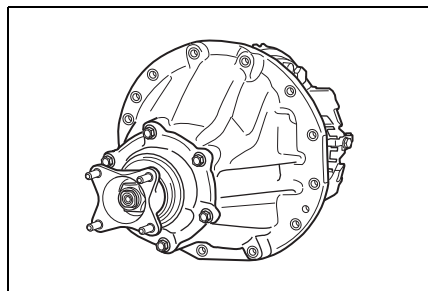
#### オイル量

約 3.4 L

- ▶ リヤ (12 インチ) A 仕様

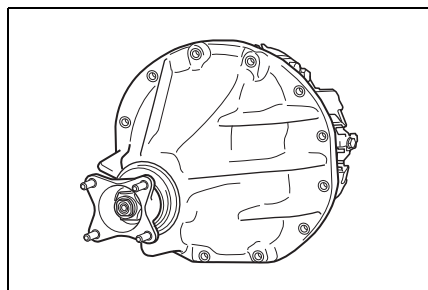
#### オイル量

約 5.2 L



▶ リヤ（12 インチ）B仕様

オイル量
約 6.1 L



▶ リヤ（12 インチ）LSD 付き車

オイル量
約 5.2 L

▶ リヤ（13 インチ）

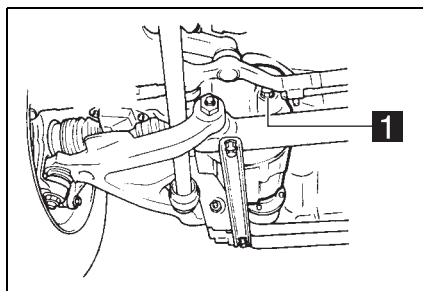
オイル量
約 3.7 L

**点検・補給**

点検時期
新車 5,000km 走行時、その後、 事業用 3 カ月（距離項目）、 家用用 6 カ月ごと（距離項目） [シビアコンディション項目]

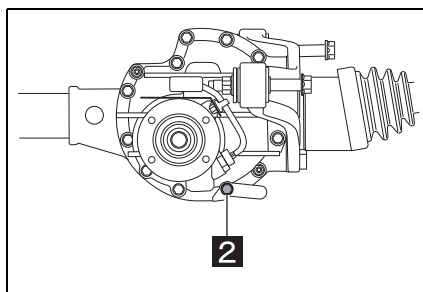
▶ フロントディファレンシャル

● 車両前面視



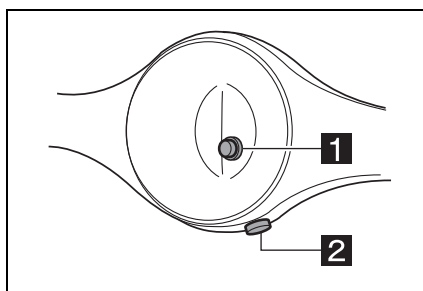
**1** フィラープラグ

● 車両後面視



**2** ドレインプラグ

▶ リヤディファレンシャル（12 インチ）



**1** フィラープラグ

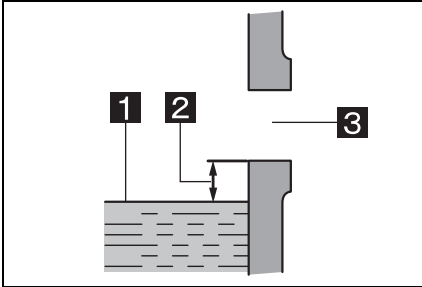
**2** ドレインプラグ

1. アクスルハウジングのフィラープラグを取り外します。

2. フロントディファレンシャル・リヤディファレンシャルのオイルが下記のオイル量まであるかを点検します。不足しているときは、フィラープラグのねじ穴から補給してください。

### ■油量

#### ▶ フロントディファレンシャル

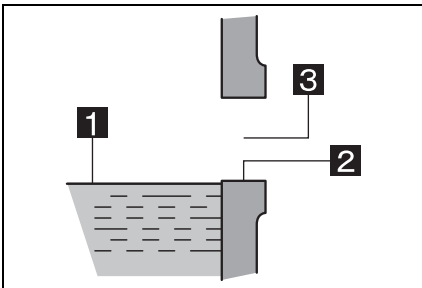


**1** オイル面

**2** 油量（ねじ穴下面から 5 mm 下）

**3** フィラープラグねじ穴

#### ▶ リヤディファレンシャル



**1** オイル面

**2** 油量（ねじ穴下面）

**3** フィラープラグねじ穴

## 交換

### 交換時期

2年または 40,000 km 走行ごと

1. アクスルハウジング下部のドレーンプラグおよびフィラープラグを取り外して排油する。

- オイルが少し暖かいうちに行くと容易に排出することができます。

- ドレーンプラグはマグネット式になっています。付着した鉄粉は除去してください。

- \* 各プラグは油温と同じ温度で熱いため注意してください。

2. 完全に排油した後、ドレーンプラグを確実に締め付ける。

- \* ドレーンプラグのガスケットは、必ず新品と交換してください。

3. オイルレベルまで給油する。

### ⚠ 警告

#### ■ 点検・補給・交換をするときは

走行後はオイルが高温になっていてやけどをするおそれがあります。少し時間を置いて温度が下がってから行ってください。

### ⚠ 注意

#### ■ オイルの補給・交換後は

- 車両の試運転を行いドレーンプラグからオイル漏れのないことを確認してください。オイル漏れによりディファレンシャルが損傷するおそれがあります。

### ■ オイルは適正・適量に

- フロントディファレンシャル、リミテッドスリップディファレンシャル付き車には、必ずトヨタ純正ハイポイドギヤオイル LSD を使用してください。
- 4WD 車のフロントディファレンシャルギヤオイルのオイル量は、フィルタープラグのねじ穴下面より 5 mm ほど低い位置にあれば適量（約 1.3 L）です。フィルタープラグいっぱいまで入れると走行条件によっては、ギヤオイルがオーバーフローするおそれがあります。

## パワーステアリングフルード

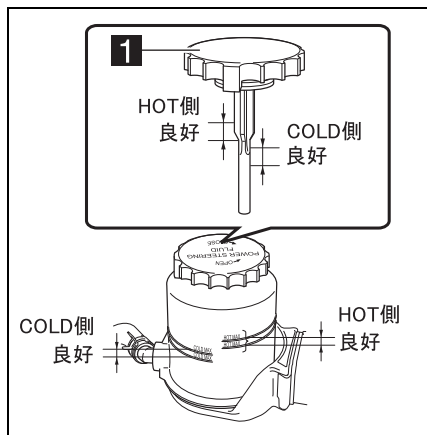
### 指定（推奨）銘柄

オイルの名称
トヨタ純正 パワーステアリングフルード

### 点検・補給

点検時期
新車 1,000 km および 5,000 km 走行時、その後、事業用 3 カ月ごと（距離項目） 自家用 1 年ごと

- リザーバータンク内のオイル量が規定範囲内にあるかを点検します。
- オイル量点検時に汚れ具合も点検します。汚れているときは交換が必要です。
- オイル量はタンク本体の目盛りまたはオイルレベルゲージで確認します。オイルが冷えているときはオイル面が「COLD」の範囲内に、暖まっているときはオイル面が「HOT」の範囲内にあるかを点検してください。



### 1 オイルレベルゲージ (フィラーキャップ)

#### 交換

##### 交換時期

新車 5,000 km 走行時、その後、  
1年または 60,000 km 走行ごと

- オイルの交換は、トヨタ販売店にお申し付けください。

##### オイル量

約 1.5 L

#### 警告

##### ■ オイルについて

- 必ず純正のオイルを使用してください。異なったオイルを混合すると、作動不良の原因になります。
- オイルの不足や汚れは、ハンドル操作に支障をきたします。補給または交換をしてください。

##### ■ 点検・補給をするときは

- キャップを外す際は、キャップの周りを十分に清掃し、タンク内にゴミや水などが入らないようにしてください。ゴミや水が入ると、作動不良の原因になります。
- 異常にオイルが不足するようであれば、オイル漏れによるものですから、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

## ブレーキフルード・クラッチフルード

### 指定（推奨）銘柄

フルードの名称

トヨタ純正  
ブレーキフルード 2500H-A

### ブレーキフルードの取り扱い

- \* キャップを外すときはキャップの周りを清掃してください。
- \* リザーバータンクに異物が沈澱しているときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- \* 補給時に使用する容器などに汚れがないかを点検し、汚れているときは洗浄してから使用してください。
- \* 補給の際、こぼれた液が塗装面に付着すると塗装がはがれる原因になりますのですぐに拭き取ってください。（特に樹脂部品）
- \* 吸湿性が強いいため、点検や補給および保管中に水分が混入しないよう取り扱いに注意してください。
- \* リザーバータンクホースに亀裂および傷がないかを点検してください。不具合があるときは、トヨタ販売店にお申し付けください。

### 点検・補給

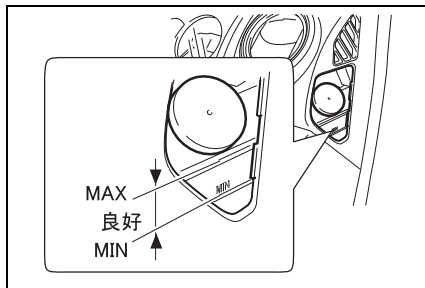
点検時期

事業用3カ月ごと、自家用1年ごと

- リザーバータンク内の液量が規定の範囲内にあるかを点検します。

- 液面が、「MAX」と「MIN」の線の間であれば良好です。不足しているときは、配管系に液漏れがないことを確認し、ブレーキフルードを「MAX」の線まで補給します。

#### ▶ MT車（ブレーキ・クラッチ）



- \* MT車の場合、リザーバータンクはブレーキ、クラッチ共用です。点検および補給についてはブレーキの基準に従い実施してください。
- 液面が異常に低下しているときは、パイプなどからの漏れが考えられますので、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

## 交換

点検時期

2年ごと

- ブレーキフルードは、必ず純正品の新しいものと全量交換します。また、交換はトヨタ販売店にお申し付けください。

## 知識

### ■ ブレーキフルードの液面低下について

ブレーキパッドの摩耗に伴いブレーキフルードの液面が低下しますが液漏れではありません。

## 警告

### ■ ブレーキフルードについて

- 常に清浄なものを使用してください。異物が混入していると、ブレーキ系統の各装置に傷をつけるだけでなく、機能の障害を引き起こし、ブレーキの効き不良の原因になります。
- 必ず純正を使用してください。異なったブレーキフルードを混合すると、性状が変化して沸点の低下や部品の錆つきを招くことがあります。ほかの鉱物油が混入すると、ブレーキ装置のゴム部品を膨潤させブレーキの効き不良の原因になります。
- 長期間使用すると、水分吸収により沸点が大幅に低下し、ペーパーロックが発生しやすくなりますので、必ず交換時期に純正品の新しいものと全量交換してください。

## 注意

- リザーバータンクの取り扱いについて
- リザーバータンクのキャップは補給以外では開けないでください。また、補給の際キャップを開けたときは、確実に閉めてください。
- 「MAX」の線を超えて補給しないでください。

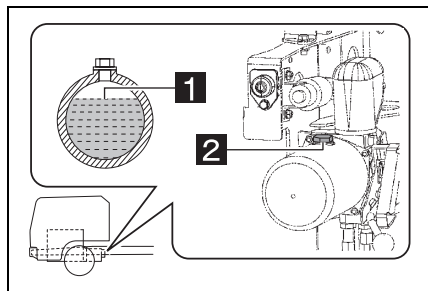
## 電動キャブチルトシリンダーオイル★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### 点検・補給

#### 点検時期

1年ごと



#### 1 油面

#### 2 フィラープラグ

1. フィラープラグを取り外す。
2. オイルがタンク上面より 10 mm 以内まであるか点検する。

不足しているときは、フィラープラグのねじ穴から補給します。

### 交換

#### 交換時期

2年ごと

\* オイル交換は、トヨタ販売店にお申し付けください。

#### オイル量

約 2.0 L

### アドバイス

#### ■ 点検・補給をするときは

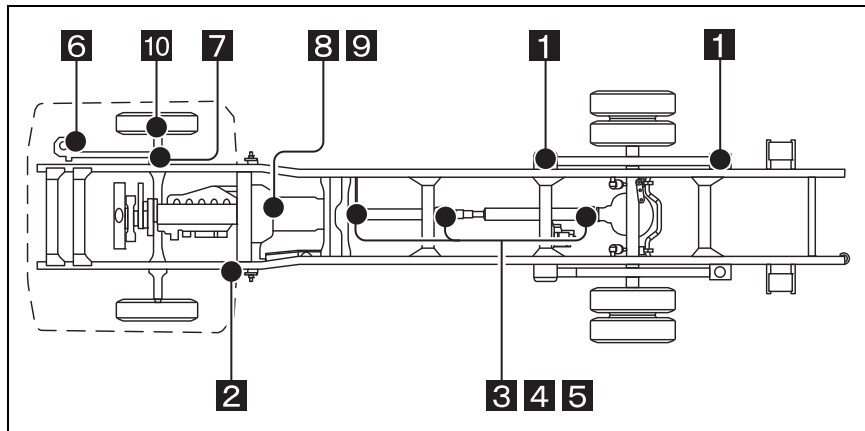
キャブを下げた状態で行ってください。

### ⚠ 注意



#### ■ オイルの補給について


電動キャブチルトシリンダーオイルは、必ず純正のオイルを使用してください。異なったオイルを混入すると、作動不良の原因になります。

## 給脂図



上記の「●」は、給脂箇所を示します。


グリースの種類	
	シャシグリース [シャシグリーススペシャル]
	リチウム系ベアリンググリース [トヨタ純正 MP グリース NO.2]

 1 カ月または 1,000 km 走行ごと

- 1** スプリングピン [後軸 (前)] (左右 2 カ所)  
 およびシャックルピン [後軸 (後)] (左右 4 カ所)  
 [標準キャブ車 3.5 t 積以上、ワイドキャブ車 セミロング]

 3,000 km 走行ごと


- 2** キャブロックリンク本体摺動部 [手動キャブチルト車]

 1 ヶ月または 4,000 km 走行ごと

- 3** プロペラシャフトユニバーサルジョイント


- 4** プロペラシャフトスプラインヨーク

- 5** プロペラシャフトセンターベアリング

 6 ヶ月ごと [ワイドキャブ車、2.95 t 積以上]


- 6** ドラッグリンクボールジョイント (前後 2 カ所)

- 7** タイロッドボールジョイント (左右 2 カ所)

 6ヶ月または 5,000 km 走行ごと

**8** リリースフォークとサポートの摺動部 (MT 車)

**9** リリースフォークとレリーズシリンダーロッドの摺動部 (MT 車)

 6ヶ月または 10,000 km 走行ごと ※

**10** キングピン (左右、上下 4 カ所)

※ ワイドキャブ車、2.95t 積以上 :

出荷時は、「コスモ石油 : コスモ製モリブデングリース NO.1」を給脂しております。(→P.14-29)



 **注意**

■ **給脂時期について**

給脂時期に期間と走行距離を併記してあるものは、いずれか早く到達した時点で給脂をしてください。

## 給脂


## グリースの種類

グリースの種類	
	シャシグリース 〔シャシグリーススペシャル〕
	リチウム系ベアリンググ リース 〔トヨタ純正 MP グリース NO.2〕

- \* グリースニップルへの給脂はシール部からはみでるまでに行い、はみだしたグリースを拭き取ってください。
- \* グリースの補給が必要な箇所のみ記載してあります。分解整備および組み立て時の給脂は、トヨタ販売店にご相談ください。
- \* スプリングピンおよびプロペラシャフト（**1**、**3**、**4**、**5**）以上の給脂箇所は車型により異なります。

➡ は給脂部分。

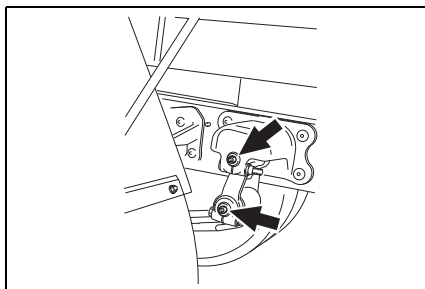
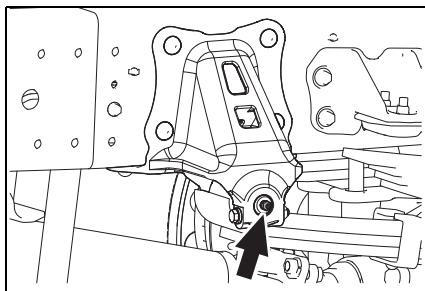
## 1 カ月または 1,000 km 走行ごと

 シャシグリース


適量塗布

（**1** スプリングピンおよびシャックルピンはグリースがあふれ出るまで）

- 1** スプリングピン〔後軸（前）〕（左右 2 カ所）およびシャックルピン〔後軸（後）〕（左右 4 カ所）  
〔標準キャブ車 3.5t 積以上、ワイドキャブ車 セミロング〕



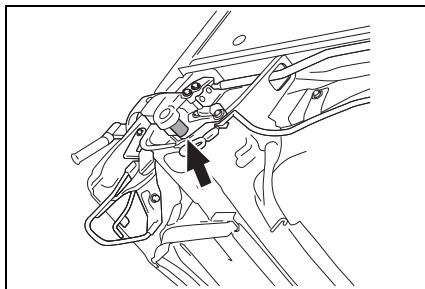
## 3,000km 走行ごと

 リチウム系ベアリンググリース


不足の場合、適量塗布

**2** キャブロックリンク本体摺動部  
〔手動キャブチルト車〕

- 点検はリンクカバーを取り外して行ってください。



## 1 カ月または 4,000 km 走行ごと

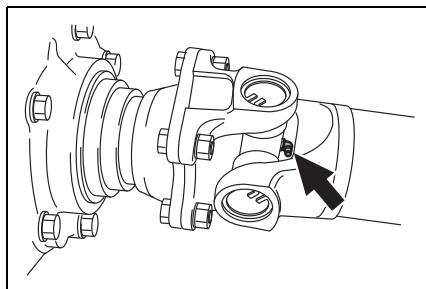
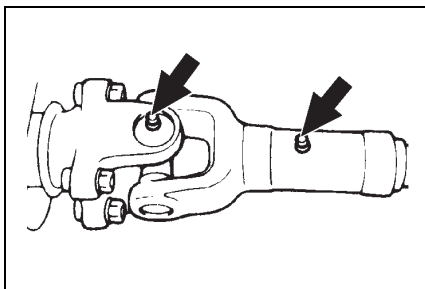
 リチウム系ベアリンググリース

適量

▶ フロント

**3** プロペラシャフトユニバーサル  
ジョイント

**4** プロペラシャフトスプライン  
ヨーク

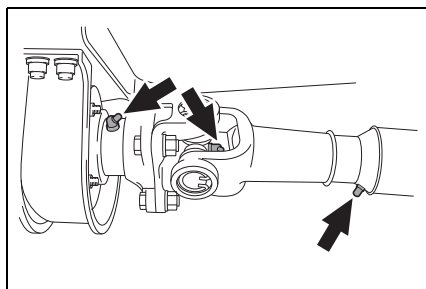
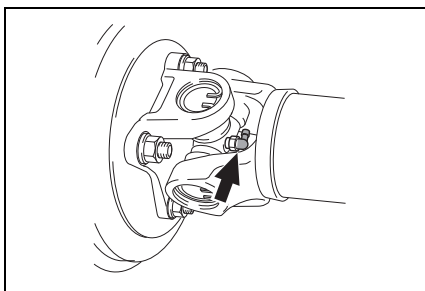


▶ リヤ


**3** プロペラシャフトユニバーサル  
ジョイント

**4** プロペラシャフトスプライン  
ヨーク

**5** プロペラシャフトセンターベア  
リング



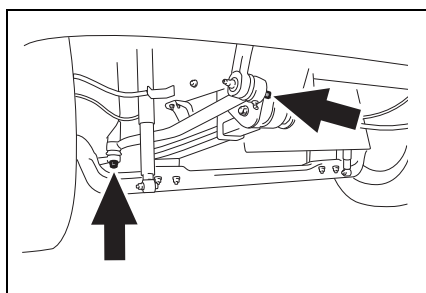
6 か月ごと

 シヤシグリース

グリースがあふれでるまで

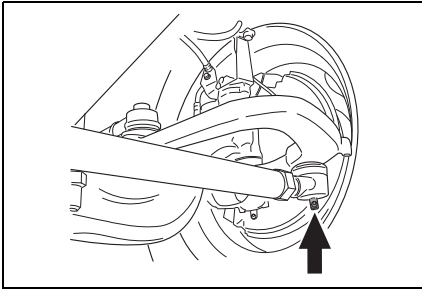
**6** ドラッグリンクボールジョイ  
ント (前後 2 カ所)

[ワイドキャブ車、2.95 t 積以  
上]




**7** タイロッドボールジョイント  
(左右 2 カ所)

[ワイドキャブ車、2.95 t 積以  
上]

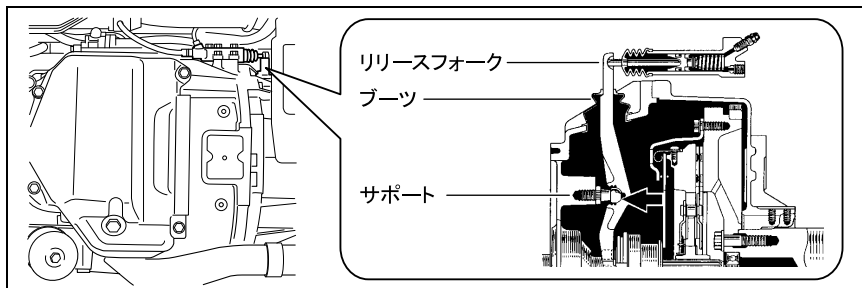


6 カ月または 5,000 km 走行ごと

 リチウム系ベアリンググリース

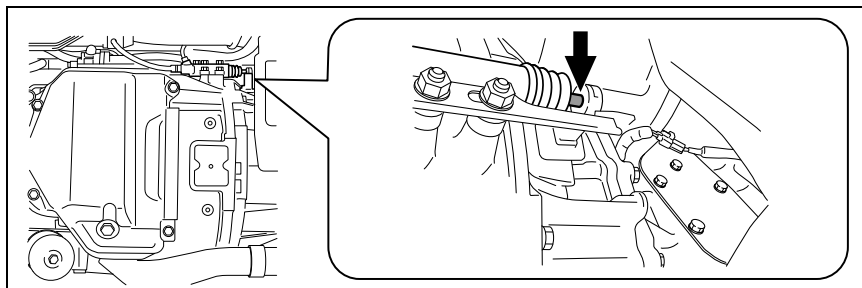
適量（ただし **8** はスプレータイプのグリース）

**8** リリースフォークとサポートの摺動部（MT 車）



● 給脂は、ブーツを取り外し、内部にグリースガンを挿入します。

**9** リリースフォークとリリースシリンダーロッドの摺動部（MT 車）



● 給脂は、ブーツを取り外し、内部にグリースガンを挿入します。

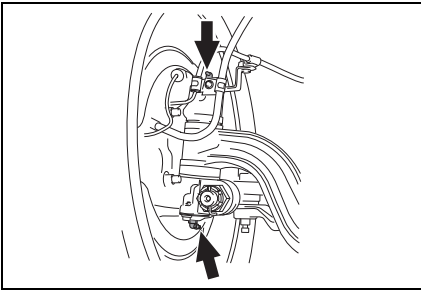
## 6 カ月または 10,000 km 走行ごと

### シャシグリース

グリースがあふれでるまで

## 10 キングピン（左右、上下 4 カ所）

- \* ワイドキャブ車、2.95t 積以上：出荷時は、「コスモ石油：コスモ製モリブデングリース NO.1」を給脂しております。



### 知識

#### ■ ワイドキャブ車、2.95t 積以上のキングピンへ給脂するグリースについて

- 「シャシグリース」または「コスモ石油：コスモ製モリブデングリース NO.1」で給脂を行ってください。
- 「シャシグリース」での給脂直後は、ハンドル操作の抵抗感が増したと感じることがございますが、走行により「シャシグリース」がなじむことで、「コスモ石油：コスモ製モリブデングリース NO.1」で給脂を行った場合と、同じハンドル操作の抵抗感となります。
- \* ハンドル操作に抵抗感がある場合は、「コスモ石油：コスモ製モリブデングリース NO.1」を給脂すると抵抗感が解消されます。

- \* グリースが混合しないように注意し、給脂を行ってください。  
「シャシグリース」および「コスモ石油：コスモ製モリブデングリース NO.1」には、色の違いがございます。

## 油脂一覧表

### エンジンオイル

#### ■ 時期

点検	交換	
日常（運行前）	標準車	1年または 15,000 km 走行ごと [シビアコンディション時] 0.5年ごと

備考：新車およびオーバーホール後 1,000 km で交換。

#### ■ 指定〔推奨〕油脂名・容量

名称	オイル量	
	オイルのみ交換時	オイルと フィルター交換時
推奨（工場充填油） ディーゼルオイル DH-2F 5W-30 （JASO DH-2F ガイドライン）  適合 トヨタ純正ディーゼルオイル DH-2 10W-30 （JASO DH-2 ガイドライン）	約 7.3 L	約 8.4 L

### PTO オイル（消防車）

#### ■ 時期

点検	交換
50 時間運転または 3 カ月ごと	100 時間運転または 1 年ごと

#### ■ 指定〔推奨〕油脂名・容量

名称	オイル量
トヨタ純正ディーゼルオイル DH-2 10W-30 （JASO DH-2 ガイドライン）	約 0.67 L

## トランスミッションオイル (MT 車)

## ■ 時期

点検	交換
※事業用 3ヵ月 (距離項目) 自家用 6ヵ月 (距離項目)	2 年または 40,000 km 走行ごと

備考：新車 1,000 km で点検。

※ 印は、シビアコンディション項目を表します。

## ■ 指定〔推奨〕油脂名・容量

型式	指定〔推奨〕油脂名	オイル量
RE62 (MT 車)	トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ GL-3 (API 分類) SAE75W-90	約 3.2 L (PTO 付き + 0.2L)
RE50F		約 3.2 L (PTO 付き + 0.2L)

## トランスミッションフルード (AT 車)

## ■ 時期

点検	交換
新車 1,000 km	2 年または 40,000 km 走行ごと
※事業用 3ヵ月 (距離項目) 自家用 6ヵ月 (距離項目)	悪路走行、発進停止の多い車は 1 年または 20,000 km 走行ごと

※ 印は、シビアコンディション項目を表します。

## ■ 指定〔推奨〕油脂名・容量

指定〔推奨〕油脂名	オイル量
トヨタ純正 オートフルードタイプ T-IV	約 12.5 L

## トランスファーオイル★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ 時期

点検	交換
※* 事業用 3ヵ月（距離項目） 自家用 6ヵ月（距離項目）	2年または 40,000 km 走行ごと

備考：新車 1,000 km で点検。

※ \* 印は、シビアコンディション項目を表します。

### ■ 指定〔推奨〕油脂名・容量

指定〔推奨〕油脂名	オイル量
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ GL-3（API 分類） SAE75W-90	約 1.6 L

## ディファレンシャルオイル

### ■ 時期

点検	交換
新車 5,000 km ※* 事業用 3ヵ月（距離項目） 自家用 6ヵ月（距離項目）	2年または 40,000 km 走行ごと

※ \* 印は、シビアコンディション項目を表します。

### ■ 指定〔推奨〕油脂名・容量

#### ▶ フロント

指定〔推奨〕油脂名	オイル量
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル LSD (API GL-5 SAE85W-90)	約 1.3 L

## ▶ リヤ

インチ	指定〔推奨〕油脂名	オイル量
10.5	トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5, SAE85W-90)	約 3.4 L
※ 12 (A 仕様)		約 5.2 L
※ 12 (B 仕様)		約 6.1 L
13		約 3.7 L
12 (LSD 付き車)	トヨタ純正ハイポイドギヤオイル LSD (API GL-5 SAE85W-90)	約 5.2 L

※ 12 インチ (A 仕様) と 12 インチ (B 仕様) の詳細について  
→P.14-15

### パワーステアリングフルード

#### ■ 時期

点検	交換
事業用 3ヵ月 (距離項目) 自家用 1年	1年または 60,000 km 走行ごと

備考：新車 1,000 km および 5,000 km で点検。

備考：新車 5,000 km で交換。

#### ■ 指定〔推奨〕油脂名・容量

指定〔推奨〕油脂名	オイル量
トヨタ純正 パワーステアリングフルード	約 1.5 L

### ブレーキフルード・クラッチフルード

#### ■ 時期

点検	交換
事業用 3ヵ月ごと、自家用 1年ごと	2年ごと

■ 指定〔推奨〕油脂名

指定〔推奨〕油脂名
トヨタ純正 ブレーキフルード 2500H-A

電動キャブチルトシリンダーオイル★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 時期

点検	交換
1年ごと	2年ごと

グリースの給脂箇所

- 1** スプリングピン〔前軸・後軸（前）〕（左右2カ所）  
 およびシャックルピン〔前軸・後軸（後）〕（左右4カ所）  
 〔標準キャブ車 3.5 t 積以上（後軸）ワイドキャブ車、2.95 t 積以上〕

■ 時期

補給
1ヵ月または 1,000 km 走行ごと

■ 指定〔推奨〕油脂名・容量

指定〔推奨〕油脂名	容量
シャシグリース シャシグリーススペシャル	グリースがあふれ出るまで

- 2** キャブロックリンク本体摺動部〔手動キャブチルト車〕

■ 時期

点検
3,000 km 走行ごと

### ■ 指定〔推奨〕油脂名・容量

指定〔推奨〕油脂名	容量
リチウム系ベアリンググリース トヨタ純正 MP グリース NO.2	不足の場合、適量塗布

### ③ プロペラシャフトユニバーサルジョイント

### ④ プロペラシャフトスプラインヨーク

### ⑤ プロペラシャフトセンターベアリング

### ■ 時期

補給
1ヵ月または 4,000 km 走行ごと

### ■ 指定〔推奨〕油脂名・容量

指定〔推奨〕油脂名	容量
リチウム系ベアリンググリース トヨタ純正 MP グリース NO.2	適量

### ⑥ ドラッグリンクボールジョイント（前後 2 カ所）〔ワイドキャブ車、2.95t 積以上〕

### ⑦ タイロッドボールジョイント（左右 2 カ所）〔ワイドキャブ車、2.95t 積以上〕

### ■ 時期

補給
6ヵ月ごと

### ■ 指定〔推奨〕油脂名・容量

指定〔推奨〕油脂名	容量
シャシグリース シャシグリーススペシャル	グリースが排出するまで

### ⑧ リリースフォークとサポートの摺動部（MT 車）

### ⑨ リリースフォークとレリーズシリンダーロッドの摺動部（MT 車）

■ 時期

補給
6ヵ月または 5,000 km 走行ごと

■ 指定〔推奨〕油脂名・容量

▶ MT 車

指定〔推奨〕油脂名	容量
シャシグリース シャシグリーススペシャル	適量 ( <b>8</b> はスプレータイプのグリース)

**10** キングピン（左右、上下 4 カ所）

■ 時期

補給
6ヵ月または 10,000 km 走行ごと

■ 指定〔推奨〕油脂名・容量

指定〔推奨〕油脂名	容量
シャシグリース シャシグリーススペシャル	グリースがあふれ出るまで
コスモ石油 コスモ製モリブデングリース NO.1※ <sup>1</sup>	

※<sup>1</sup>: 上記グリースはワイドキャブ車、2.95t 積以上の車両のみ使用できます。

不調時の原因と処置 .....	P.15-2
アイドルストップシステム付き車の不調時の原因と処置 .....	P.15-12
故障したとき .....	P.15-14
発炎筒 (緊急保安炎筒) .....	P.15-15
警告灯が 点灯したとき .....	P.15-16
メーターが異常を示したとき .....	P.15-16
オーバーヒートしたとき .....	P.15-17
警報ブザーが 鳴ったとき .....	P.15-18
ランプ類が 点灯しないとき .....	P.15-19
ヒューズを 交換するとき .....	P.15-26
ヒューズブルリンクが 溶断したとき .....	P.15-34
リレーが 故障したとき .....	P.15-37
ブレーキの効きが 悪くなったとき .....	P.15-37
電動パーキングブレーキが 解除できなくなったとき .....	P.15-38
走行中エンジンが 止まったら .....	P.15-38
走行中 バンクしたとき .....	P.15-39
火災が発生したとき .....	P.15-39
燃料が切れたとき .....	P.15-40
バッテリーが あがったとき .....	P.15-41

スマートエントリー&スタートシステムの故障.....	P.15-43
けん引するとき、 してもらったとき.....	P.15-44
水没・冠水したとき.....	P.15-47

故障を防止するため、正しい運転と日常の手入れおよび定期的な点検・整備を確実に実施してください。

不調が発生したときは、大きな故障になる前に修理してください。

原因が不明なとき、ご自分で整備できないときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

## 不調時の原因と処置

## エンジンがかからない

## ■スターターが回らない、または回転が低い場合

原因	処置	記載ページ
バッテリーがあがっている	充電または交換	13-68
バッテリー端子の外れ・ゆるみ・腐食	腐食部を清掃後、確実に締め付け	13-68
アースが外れている	確実に取り付け	—
スターター、電気系統の故障	トヨタ販売店へ	—
シフトレバーが「P」または「N」にない	レバーを「P」または「N」の位置にする	—
エンジンオイル粘度が高い	適正のオイルと交換	14-5
エンジンイモビライザー機能の故障	トヨタ販売店へ	—

## ■スターターが正常に回る場合

原因	処置	記載ページ
予熱装置の故障	トヨタ販売店へ	—
燃料がない	燃料補給	6-6
フューエルフィルターが詰まっている	エレメント交換	13-11
エンジン警告灯または MIL が点灯	トヨタ販売店へ	6-47 6-49
燃料系統にエアがたまる	エア抜き	15-40
燃料が凍結	燃料パイプをお湯（60℃以下）で暖める	—
インテークダクトの空気取り入れ口がふさがっている	ふさいでいる物を除去	9-13
エアクリーナーが詰まっている（エアクリーナー点検時期表示時）	エレメント清掃または交換	13-16
インテークエアホースがつぶれている	トヨタ販売店へ	—

## ■ クランキング（回転）しない場合

原因	処置	記載ページ
エンジンイモビライザー機能の故障	トヨタ販売店へ	—

## エンジンが止まらない

原因	処置	記載ページ
エンジン警告灯または MIL が点灯	トヨタ販売店へ	6-47 6-49

## 低速回転が不調で止まりやすい

原因	処置	記載ページ
燃料がない	燃料補給	6-6
フューエルフィルター詰まり	エレメント交換	13-11
燃料系統にエアがたまる	エア抜き	15-40
インテークダクトの空気取り入れ口がふさがっている	ふさいでいる物を除去	9-13
エアクリーナーが詰まっている（エアクリーナー点検時期表示時）	エレメント清掃または交換	13-16
インテークエアホースがつぶれている	トヨタ販売店へ	—

## エンジンの力がない

原因	処置	記載ページ
フューエルフィルターが詰まっている	エレメント交換	13-11
燃料系統にエアがたまる	エア抜き	15-40
インテークダクトの空気取り入れ口がふさがっている	ふさいでいる物を除去	9-13
エアクリーナーが詰まっている（エアクリーナー点検時期表示時）	エレメント清掃または交換	13-16

原因	処置	記載ページ
インテークエアホースがつぶれている	トヨタ販売店へ	—
ヒューズ切れ	ヒューズ交換	15-26
パーキングブレーキが戻っていない	パーキングブレーキレバー★をいっぱいに戻す	5-29
ブレーキを引きずっている	トヨタ販売店へ	—
クラッチが滑っている	ペダルの遊び調整	13-39
エンジン警告灯または MIL が点灯	トヨタ販売店へ	6-47 6-49

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### エンジンがオーバーヒートする

原因	処置	記載ページ
ラジエーターキャップが正常に締まっていない	正しく締めなおす	13-28
ラジエーターキャップの作動不良	トヨタ販売店へ	—
冷却水が不足	冷却水の漏れ点検・給水	13-22
ラジエーター前面が詰まっている	洗浄	13-24
ラジエーターが水あかで詰まっている	洗浄	13-24
インタークーラー前面が詰まっている	洗浄	13-15
サーモスタットの作動不良	トヨタ販売店へ	—
Vベルトがゆるんでいる	調整または交換	13-29
ファンクラッチが故障	トヨタ販売店へ	—

### 排出ガスが黒い

原因	処置	記載ページ
インテークダクトの空気取り入れ口がふさがっている	ふさいでいる物を除去	9-13

原因	処置	記載ページ
エアクリーナーが詰まっている（エアクリーナー点検時期表示時）	エレメント清掃または交換	13-16
インテークエアホースがつぶれている	トヨタ販売店へ	—
エンジン警告灯または MIL が点灯	トヨタ販売店へ	6-47 6-49
アクセルを急激に踏んでいる	アクセル操作を急激に行わない	—
DPR が損傷	トヨタ販売店へ	—

### 燃料消費量が多い

原因	処置	記載ページ
燃料漏れ	燃料系統を点検、ゆるみがあるときは増し締め	—
インテークダクトの空気取り入れ口がふさがっている（エアクリーナー点検時期表示時）	ふさいでいる物を除去	9-13
エアクリーナーが詰まっている	エレメント清掃または交換	13-16
インテークエアホースがつぶれている	トヨタ販売店へ	—
タイヤの空気圧が低い	標準の空気圧にする	12-9
クラッチが滑っている	ペダルの遊びを調整	13-39
ブレーキを引きずっている	トヨタ販売店へ	—
エンジン警告灯または MIL が点灯	トヨタ販売店へ	—

### エンジンオイルの消費量が多い

原因	処置	記載ページ
使用オイルが不適正	正規オイルに交換	14-5
オイル量が多すぎる	正規オイル量にする	12-4
オイル漏れ	ボルトおよびナットがゆるんでいるときは増し締め	—

原因	処置	記載ページ
オイルの交換時期が遅い	正規通りに交換	14-5
オイルフィルターが目詰まりしている	エレメント交換	13-8
暖機運転を省略している	正規通りに行う	5-17

### ギヤチェンジが困難

原因	処置	記載ページ
クラッチ液量不足	液量点検 ゆるみで液漏れがあるときは増し締め止まらないときはトヨタ販売店へ	14-20

### ハンドルが重い

原因	処置	記載ページ
積荷が前にかたよっている	正しく積みなおす	9-13
タイヤの空気圧が低い	標準の空気圧にする	12-9
パワーステアリングのフルード不足	補給	14-18

### 走行中ハンドルが振れる

原因	処置	記載ページ
ステアリング関係の連結部がゆるんできている	増し締め	13-60
パワーステアリング回路にエアが混入	エア抜き	—
タイヤのバランスが悪い	バランスを取りなおす	—
タイヤの空気圧が不均一	標準の空気圧にする	12-9
タイヤが偏摩耗している	タイヤ交換	12-10
ホイールナットがゆるんでいる	正規トルクで締め付け	13-47

## ブレーキの効きが悪い

原因	処置	記載ページ
ライニングとドラムまたはパッドとローターのすきまが大きい	トヨタ販売店へ	—
ライニングまたはパッドが使用限度に達している	ライニングまたはパッド交換	—
ライニングまたはパッド表面に油脂類が付着	油脂類の除去ライニングまたはパッド交換	—
ブレーキ液系統にエアが混入	エア抜き	—
ブレーキ系統から液漏れ	ゆるみで液漏れがあるときは増し締め 止まらないときはトヨタ販売店へ	—

## ブレーキが引きずる

原因	処置	記載ページ
ライニングとドラムまたはパッドとローターのすきまが不適正	トヨタ販売店へ	—

## ブレーキが片効きになる

原因	処置	記載ページ
ライニングとドラムまたはパッドとローターのすきまが不適正	トヨタ販売店へ	—
タイヤの空気圧が不均一	標準の空気圧にする	12-9
タイヤの摩耗が不均一	タイヤ交換	12-10
積荷が左右どちらかによっている	均等になるよう積みなおす	9-13

### パーキングブレーキの効きが悪い

原因	処置	記載ページ
ライニングとドラムのすきまが大きい	トヨタ販売店へ	—
ライニングが使用限度に達している	ライニング交換	—
ライニング表面に油脂類が付着	油脂類の除去、ライニング交換	—

### ブレーキ液が減少する

原因	処置	記載ページ
ブレーキ系統から液漏れ	ゆるんでいるときは増し締め 止まらないときはトヨタ販売店へ	—
パッドが摩耗している	パッドの残り代を確認 ・ 残り代に余裕あるときは液補充 ・ 残り代がないときは交換（トヨタ販売店へ）	13-38

### しばしばバッテリーがあがる

原因	処置	記載ページ
バッテリー端子の腐食・外れ・ゆるみ	腐食部を清掃し確実に取り付け	13-68
バッテリー液不足	補給	12-8
バッテリーの寿命	バッテリー交換	13-68
オルタネーターの発電不良	トヨタ販売店へ	—
Vベルトのゆるみまたは滑り	ベルトの張り調整または交換	13-29

### ランプがつかない

原因	処置	記載ページ
バルブが切れている	バルブを交換する	15-19

原因	処置	記載ページ
ヒューズ切れ	ヒューズ交換 交換後さらにヒューズが切れるときは、トヨタ販売店へ	15-26
各部アース不良	アースを確実に取り付ける	—

### 走行中異音がする

原因	処置	記載ページ
タイヤ空気圧が不足（ウォーン音）	標準の空気圧にする	12-9
タイヤに異物をかみ込み（ウォーン音）	異物を取り除く	—
ホイールナットのゆるみ（ガタガタ音）	正規トルクで締め付け	13-47
Vベルトのゆるみ（ギューン音）	ベルトの張り調整または交換	13-29
エンジンオイル不足（エンジン音が全体にうるさい）	補給	14-5
パワーステアリングフルード不足（ギューン音）	補給	14-18
荷物を高く積んでいる（ゴーゴー音）	積み方を変える	9-13
排気管・マフラー取り付け部のゆるみ	トヨタ販売店へ	—

### 走行中車両が異常に振動する

原因	処置	記載ページ
プロペラシャフトの各連結部のナットがゆるんでいる	増し締め	—
プロペラシャフトの振れが大きい	トヨタ販売店へ	—
プロペラシャフトにガタがある	トヨタ販売店へ	—

**走行中キャブが異常に振動する**

原因	処置	記載ページ
シートやキャリアなどに過大な重量物を載せている	上のせ重量を減らす	—
ショックアブソーバーから油漏れ	ショックアブソーバー交換	—

**キャブが上がらない（電動キャブチルト）**
**■ 電動モーターが動かない**

原因	処置	記載ページ
キャブロックが解除されていない	ロックハンドルを持ち上げる	11-5
連続操作などでモーターが過熱	しばらく時間をおいてから再操作	11-5
バッテリーがあがっている	充電または交換	13-68
ヒューズ切れ	ヒューズ交換 交換後さらにヒューズが切れるときはトヨタ販売店へ	15-26

**■ 電動モーターは動くが上がらない**

原因	処置	記載ページ
油圧ジョイント部から作動油漏れ	トヨタ販売店へ	—
キャブを上げた状態で作動油を補給	キャブを下げた状態で油量点検し、規定レベルにする	—
エアが混入	トヨタ販売店へ	—

**キャブが下がらない（電動キャブチルト）**
**■ 電動モーターが動かない**

原因	処置	記載ページ
連続操作などでモーターが過熱	しばらく時間をおいてから再操作	11-5
ヒューズ切れ	ヒューズ交換 交換後さらにヒューズが切れるときはトヨタ販売店へ	15-26

原因	処置	記載ページ
バッテリーがあがっている	充電または交換	13-68

### キャブロックを解除しても警報ブザーが鳴らない（電動キャブチルト）

原因	処置	記載ページ
電気系統の故障	トヨタ販売店へ	—

### キャブがいつもより早く下がる（電動キャブチルト）

原因	処置	記載ページ
油圧系統の故障	トヨタ販売店へ	—

### トランスファーの切り換えができない


原因	処置	記載ページ
トランスファーコントロールヒューズ切れ	ヒューズ交換 交換後さらにヒューズが切れるときはトヨタ販売店へ	15-26
操作手順が間違っている	操作手順を確認	5-67
トランスファーコントロールシステムの故障	トヨタ販売店へ	—

## アイドルストップシステム付き車の不調時の原因と処置

### ■ エンジンが自動始動しない

原因	処置
前回エンジンを止めたとき、エンジンスイッチで止めた	エンジンスイッチでエンジンを始動する
前回エンジンを止めたとき、エンストで止めた	エンジンスイッチでエンジンを始動する

### ■ エンジンが自動停止しない

原因	処置
アイドルストップキャンセルスイッチが「OFF」の状態、ディーゼル車は 10 km/h 以上で走行しなかった	アイドルストップキャンセルスイッチが「OFF」の状態、ディーゼル車は 10 km/h 以上で走行する
エンジン冷却水温が低い	冷却水温が低いとエンジンが自動的に停止しないので冷却水温が適温になるまで十分暖機する
上り坂走行の直後である（ターボが高温）	しばらくクーリングする
DPR がクーリングモード中である	DPR のクーリングモードが終了すれば正常に自動停止するようになります
シフトレバーが「N」の位置以外にあるとき（MT 車）	シフトレバーを「N」の位置にする
シフトレバーが「D」または「S4,S5,S6」の位置以外にあるとき（AT 車）	シフトレバーを「D」または「S4,S5,S6」の位置にする
方向指示灯または非常点滅灯の点灯時	方向指示灯または非常点滅灯を消灯する
外気温度が低いとき	外気温度が上がると自動停止するようになります。
急勾配路での停車時（AT 車）	急勾配路を避け、停車する
冷凍・冷蔵コンプレッサー作動時	冷凍・冷蔵コンプレッサー作動が停止すると、自動停止するようになる
PTO 作動時	PTO 作動が停止すると、自動停止するようになる
停車していない（約 1 km/h 以上の走行）	車両を完全に停車させる
 ランプが点灯しているとき	アイドルストップキャンセルスイッチが「OFF」にする

原因	処置
バッテリーが十分に充電されていないとき	バッテリーを充電または新品に交換する

## 故障したとき

### 停車時の注意

あわてずに非常点滅灯を点灯させ、後続車に注意を促してください。そして、徐々にスピードを落とし、ほかの交通のさまたげとならない安全な場所に停車させてください。

### 故障車の表示方法

#### ■ 表示には、次のような方法があります

- 非常点滅灯を点滅させる。
- 停止表示板を車両後方に置く。
- 赤旗の掲示または赤ランプを点灯させる。
- 白い布などを車外の目立つところに結びつける。
- 場合によっては、発炎筒（緊急保安炎筒）を着火させる。

### 故障とその処置

- 故障箇所を点検し、整備可能なときは、他車の通行に十分注意して作業してください。整備が不可能なときは、トヨタ販売店に連絡してください。
- 高速道路では、非常電話でロードサービスに連絡し、その指示にしたがってください。また、危険防止のための処置をした後、車内に残らずガードレールの外に避難してください。

## 知識

### ■ 停止表示板の準備

停止表示板はお客様のお車に標準で搭載されておりません。トヨタ販売店でお求めいただけます。

## 警告

### ■ 停車するときは

- トンネル内での停車は危険です。トンネルを出てから停車させてください。
- 停車後は、必ずタイヤの前後に輪止めを掛けてください。
- 高速道路や自動車専用道路では、停車していることが後続車にわかるように、自動車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務づけられています。

### ■ 故障表示

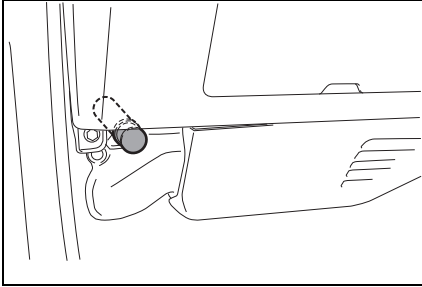
車両故障により停車するときは、必ず故障の表示をしてください。故障の表示をしないと、後続車に追突されるおそれがあります。

### ■ トンネル内での整備

非常に危険ですので行わないでください。

## 発炎筒（緊急保安炎筒）

- 踏み切りや高速道路での故障などの非常時に使用します。
- 発炎時間は約 5 分間です。
- 取り付け位置は、助手席足元で、手前に引くと外れます。



\* 前もって発炎筒の脱着を確認しておいてください。

- 使用方法および取り扱いについては、発炎筒の記載を必ずお守りください。

### ▲ 警告

#### ■ 発炎筒の取り扱いについて

- 炎が 15 cm 程度噴き出します。着火の際、筒先を顔や体に向けないでください。やけどをするおそれがあります。
- お子さまには手を触れさせないでください。いたずらなどにより発火し事故につながるおそれがあります。
- トンネル内では、煙で視界が悪くなりますので使用しないでください。非常点滅灯などを使用してください。
- ガソリンや燃えやすい物のそばでは使用しないでください。引火するおそれがあります。
- 発炎筒には有効期限があります。期限がすぎる前に新品と交換してください。

**警告灯が点灯したとき**

6. メーター・警告灯・表示灯を参照してください。

**メーターが異常を示したとき**

6. メーター・警告灯・表示灯を参照してください。

## オーバーヒートしたとき

次のような状態がオーバーヒートです。

- 水温計の目盛りが最上部で点滅表示したり、エンジンの出力が低下する（スピードが出ないなど）。
- マルチインフォメーションに「安全な場所に停車エンジンオーバーヒート」が表示される。
- 床下から蒸気が立ちのぼる。

### ■ 処置のしかた

1. 車を安全な場所に止め、エアコンを使用している場合は「OFF」にする。
2. 床下から蒸気が出ているか確認する。
  - \* 床下から蒸気が出ていない場合、エンジン点検口を開ける、またはキャプチュルトしてそのままエンジンをかけておきます。
  - \* 床下から蒸気が出ている場合、エンジンを停止し、蒸気が出なくなったら、風通しをよくするためにエンジンをかけて、エンジン点検口を開ける、またはキャプチュルトします。
3. ラジエーターのクーリングファンが作動していることを確認する。
  - \* ファンが作動していないときは、エンジンを停止してトヨタ販売店に連絡してください。
4. 水温計の目盛りが下がってきたら、エンジンを停止する。
5. エンジンが十分冷えてからラジエーターキャップを外し、リザーバータンクの冷却水量の確認、およびラジエーターコア部

（放熱部）が著しく汚れていないか、ごみなどが付着していないかなどを確認する。

- \* ラジエーターキャップ（→P.13-28）
  - \* リザーバータンク（→P.13-22）
6. 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補給する。
    - \* 冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。
    - \* 冷却水の補給（→P.13-22）
  7. すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
    - \* 移動途中で再び水温計の表示が上昇したときは、空調の温度調整を最大暖房にし、ファンを最大風量にすることで、ヒーター配管内の冷却水により水温の上昇を抑えることができます。

### ▲ 危険

- 高温時は絶対にラジエーターキャップを外さないでください

熱湯や蒸気が噴き出して、やけどなど重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

**▲ 警告**

- やけどなどしないように十分気をつけてください
- 床下から蒸気がでているときは、蒸気が出なくなるまでエンジン点検口を開けたり、キャプチルト操作しないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも高温になっている部分があります。エンジン点検口を開けたり、キャプチルト操作するときは十分注意してください。
- キャップを開けるときは、ラジエーターやリザーバータンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。
- エンジンがまわっているときは、Vベルトなどにふれたり、近付いたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

**▲ 注意**

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください
- 急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水はエンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

**警報ブザーが鳴ったとき**

- 次の部位を確認してください。
- 排出ガス浄化装置スイッチ  
→P.5-70
- バキューム警告灯  
→P.6-41
- キャプチルト警告灯  
→P.6-58

## ランプ類が点灯しないとき

ランプ類の交換は必ずエンジンスイッチを「LOCK」の位置にし、各スイッチを「OFF」にしてから行ってください。

\* 記載されていないランプ類の交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

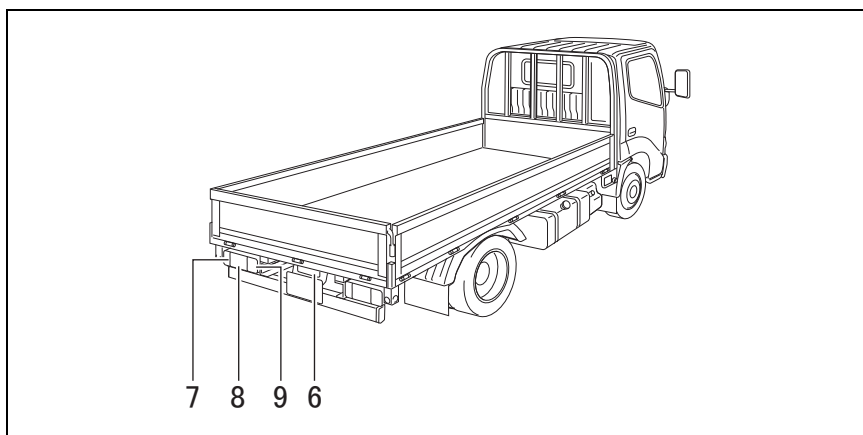
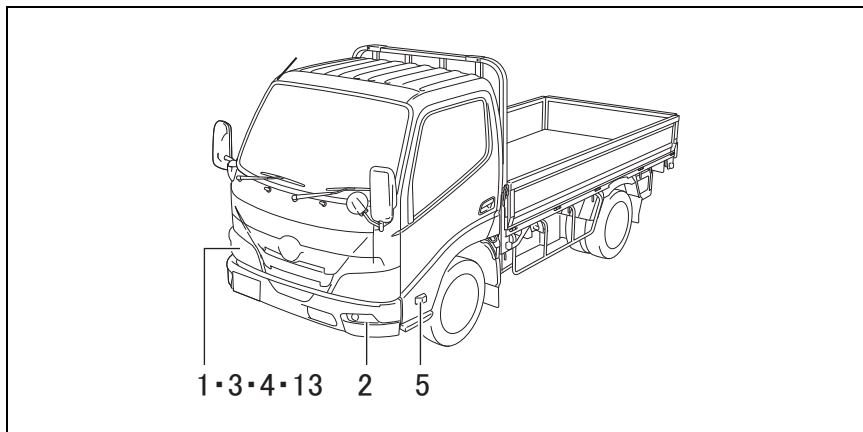
## ランプ一覧表

No.	ランプ類の名称	容量
1	ヘッドランプ〔ハイビーム / ロービーム〕 (LED)	12V-25/20W
2	フォグランプ (LED)	12V-4W
3	方向指示灯 (フロント)	24V-21W
4	車幅灯	24V-5W
5	方向指示灯 (フロントサイド)	24V-21W
6	番号灯	24V-5W
7	方向指示灯 (リヤ)	24V-21W
8	制動灯 / 尾灯	24V-21/5W
9	後退灯	24V-21W
10	ヒーターコントロールパネルランプ	24V-1.8W
11	ルームランプ	24V-10W
12	室内 LED 灯★	24V-0.8W
13	デイトタイムランニングランプ (LED)	12V-6W

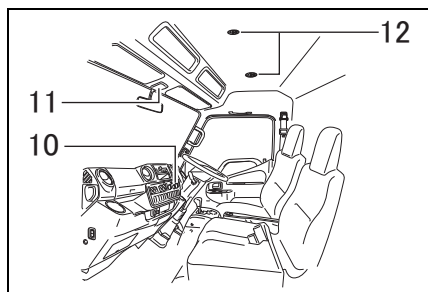
★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ位置

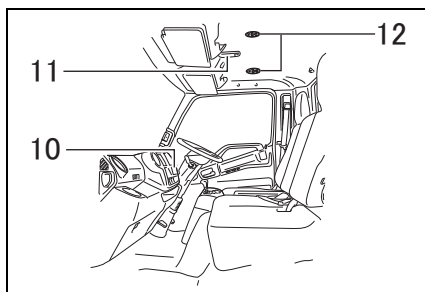
イラストの数字は一覧表のNo. です。



▶ 標準キャブ車



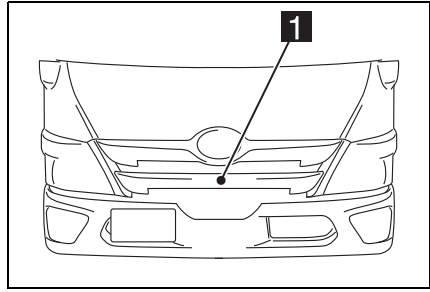
▶ ワイドキャブ車



## ヘッドランプの交換

- 下向き（ロービーム）ランプおよび上向き（ハイビーム）ランプの交換

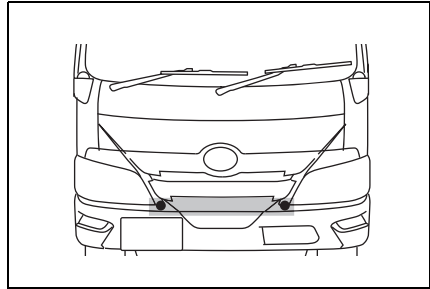
LED ランプのため、ランプの交換は不要ですが、故障等が発生したときは、トヨタ販売店へご連絡ください。



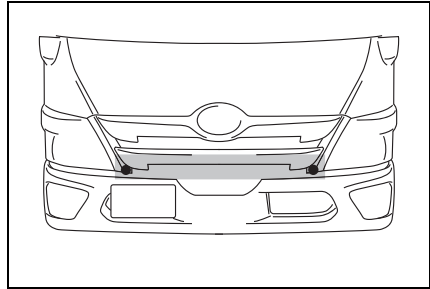
### 1 ボルト

2. 下側クリップを外す。

#### ▶ 標準キャブ車



#### ▶ ワイドキャブ車



3. 上側クリップを外し、グリルを引いて取り外す。

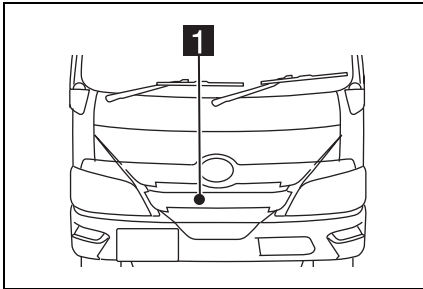
\* 誤発進抑制機能システム付きの車両は、グリル取り外し後、コネクタを外してください。

#### ▶ 標準キャブ車

## 車幅灯の交換

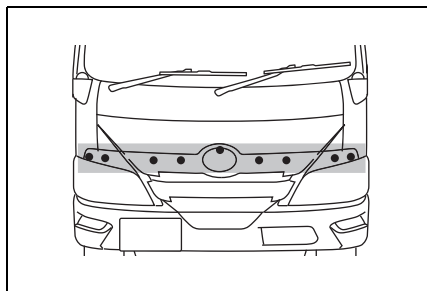
1. ボルトを外す。

#### ▶ 標準キャブ車

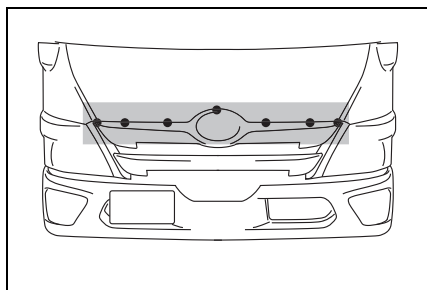


### 1 ボルト

#### ▶ ワイドキャブ車

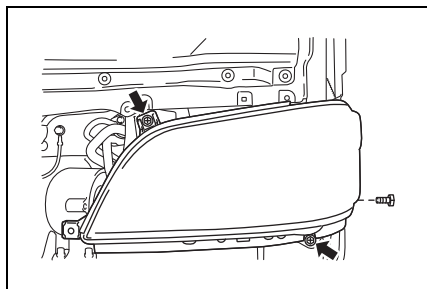


▶ ワイドキャブ車

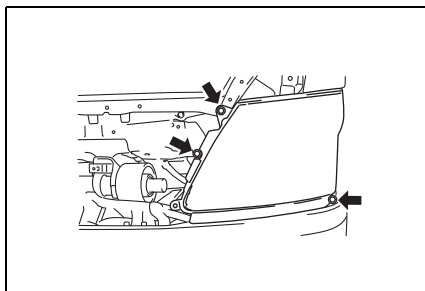


4. ボルトを外し、ランプを取り出す。

▶ 標準キャブ車

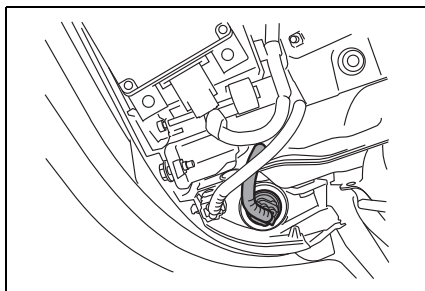


▶ ワイドキャブ車

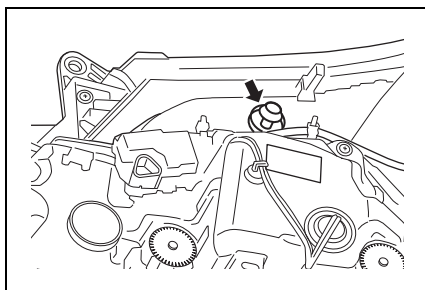


5. ソケットを取り外す。

▶ 標準キャブ車

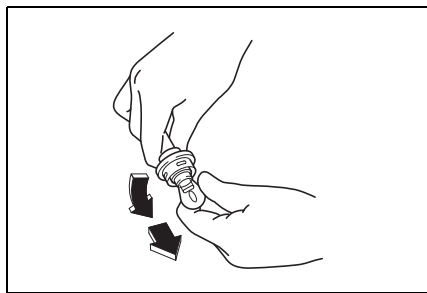


▶ ワイドキャブ車

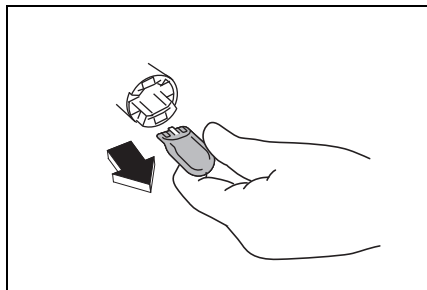


6. ソケットからバルブを取り外し、新品のバルブと交換する。

▶ 標準キャブ車



▶ ワイドキャブ車

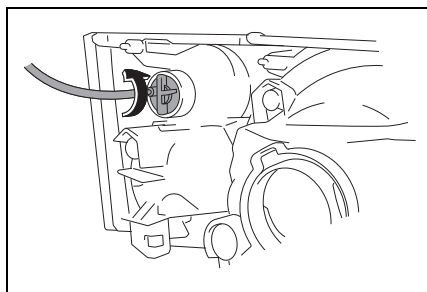


7. バルブ交換後、逆の手順で取り付ける。

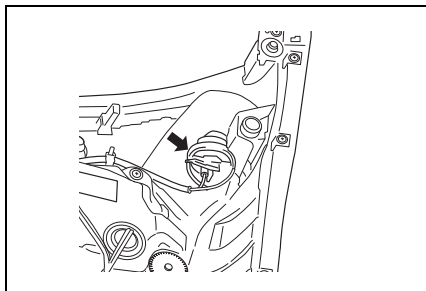
**方向指示灯（フロント）の交換**

1. ソケットを取り外す。

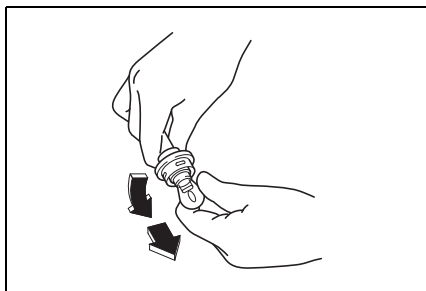
▶ 標準キャブ車



▶ ワイドキャブ車



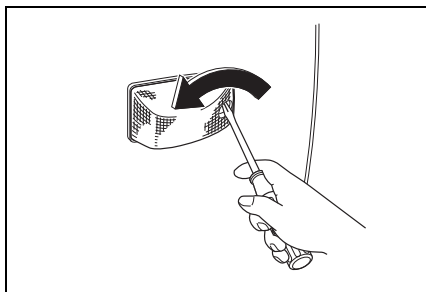
2. ソケットからバルブを取り外し、新品のバルブと交換する。



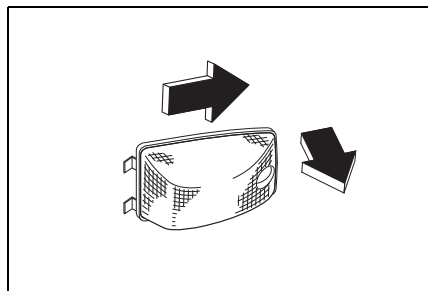
3. バルブ交換後、逆の手順で取り付ける。

**方向指示灯（フロントサイド）の交換**

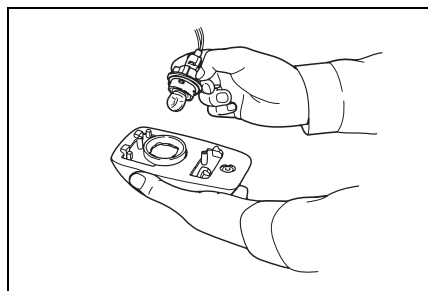
1. ビスを外す。



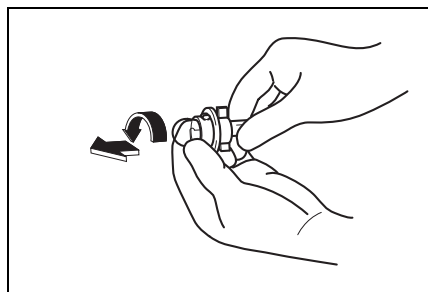
2. ランプをスライドさせ外す。



3. ランプからソケットを取り出す。



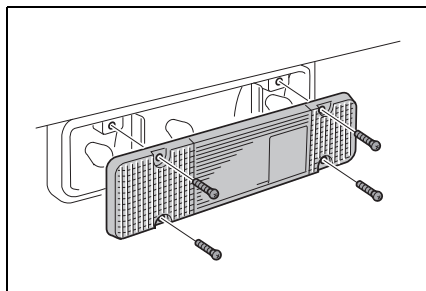
4. ソケットからバルブを取り外し、新品のバルブと交換する。



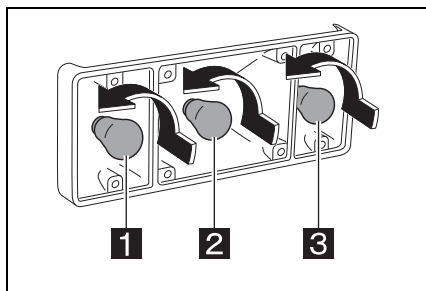
5. バルブ交換後、逆の手順で取り付け。

### 方向指示灯（リヤ）・後退灯・制動灯／尾灯の交換

1. ビスを外し、カバーを外す。



2. バルブを取り外し、新品のバルブと交換する。

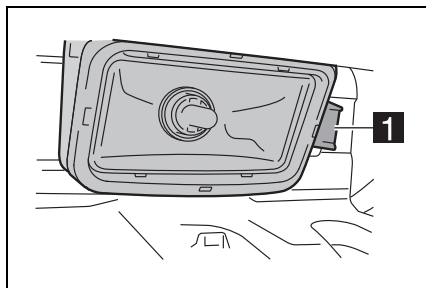


- 1 方向指示灯  
2 制動灯／尾灯  
3 後退灯

3. バルブ交換後、逆の手順で取り付け。

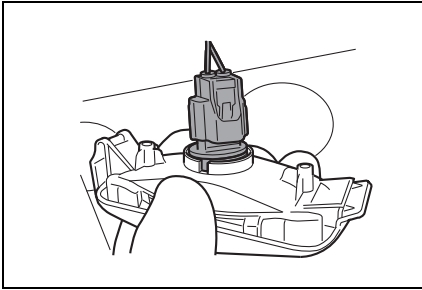
### 番号灯の交換

1. ツマミを押し、ランプを取り外す。

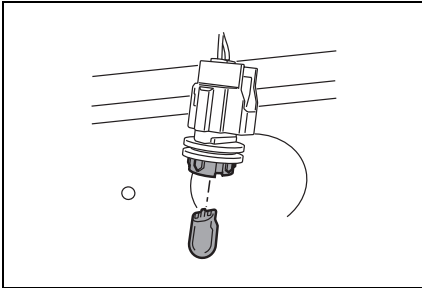


- 1 ツマミ

2. ランプからソケットを取り外す。



3. バルブを取り外し、新品のバルブと交換する。

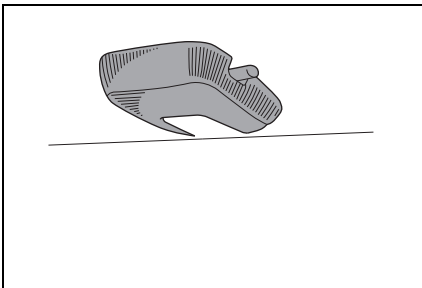


4. バルブ交換後、逆の手順で取り付ける。

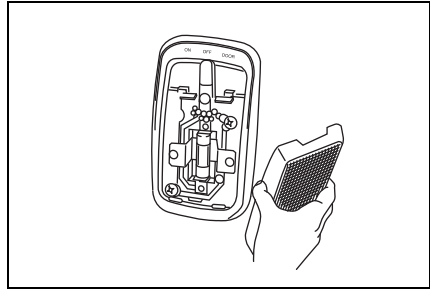
### フロントルームランプの交換

ドライバーをレンズの切り欠きに差し込み、レンズを取り外し、新品のバルブと交換します。

- ▶ 標準キャブ車



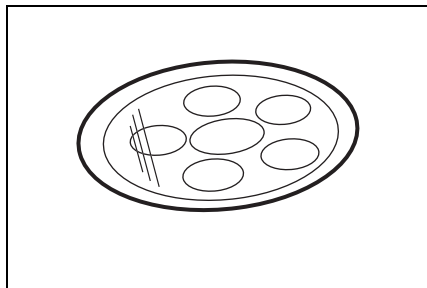
- ▶ ワイドキャブ車



## 室内 LED 灯の交換★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

LED ランプのため、ランプの交換は不要ですが、故障等が発生したときは、トヨタ販売店へご連絡ください。



### 👉 アドバイス

#### ■ ランプを交換するときは

- 片側のランプが切れた場合、もう一方のランプも寿命末期のため、左右同時に交換することをお勧めします。
- バルブを交換するときは、手袋を着用してください。

### ⚠️ 警告

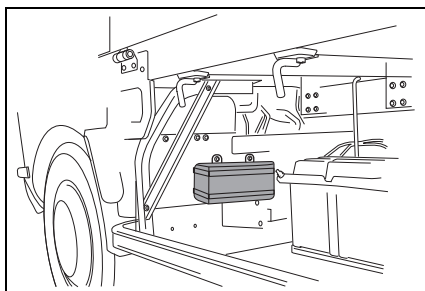
#### ■ ランプを交換するときは

- 必ず規定ワット数の物を使用してください。配線過熱などによる火災の原因になります。
- 消灯後すぐにランプ類を交換すると、高温になっていてやけどをするおそれがあります。少し時間をおいて温度が下がってから行ってください。
- スイッチが「OFF」の位置にあることを確認してください。

## ヒューズを交換するとき

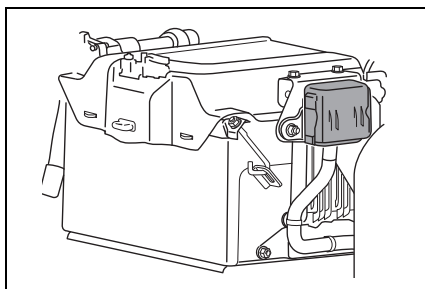
### ヒューズの点検

#### ■ 室外ヒューズボックス 1

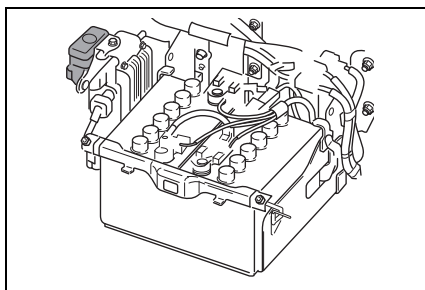


#### ■ 室外ヒューズボックス 2

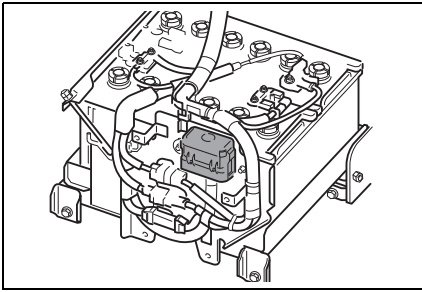
- ▶ ワイドダブルキャブ、消防車以外



- ▶ ワイドダブルキャブ



- ▶ 消防車

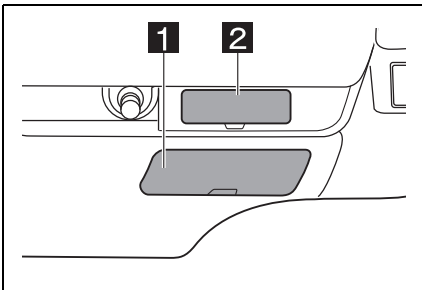


ことを確認する。切れている場合は交換する。

- \* 室外ヒューズボックスのカバーを取り付けるときは、確実にロックされていることを確認してください。

## ■ 室内ヒューズブロック

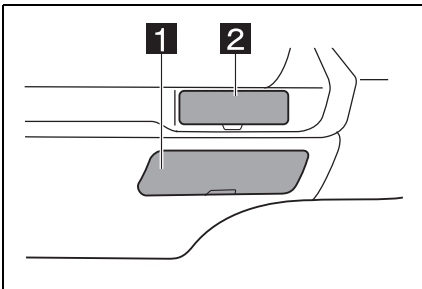
### ▶ 標準キャブ車



**1** 室内ヒューズブロック 1

**2** 室内ヒューズブロック 2

### ▶ ワイドキャブ車

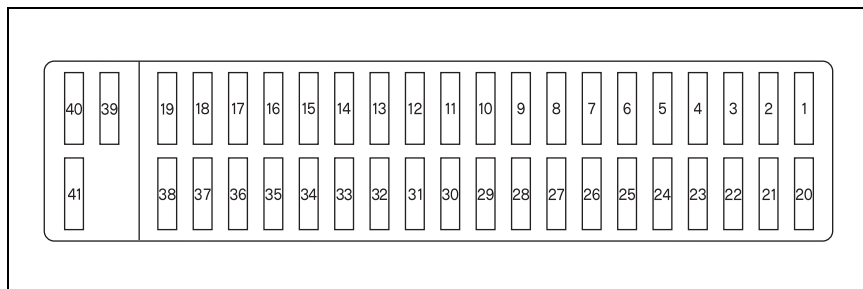


**1** 室内ヒューズブロック 1

**2** 室内ヒューズブロック 2

1. エンジンスイッチを「LOCK」、そのほかのスイッチを「OFF」にする。
2. 該当すると思われるヒューズを取り外し、ヒューズ切れがない

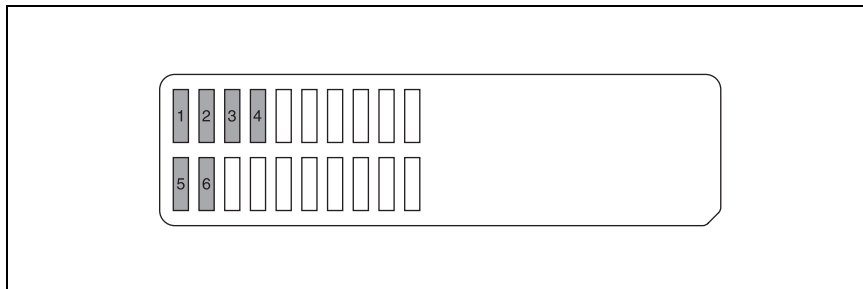
■室内ヒューズブロック 1



No.	名称	表示容量	主な負荷
1	MIR HTR	10A	ミラーヒーター
2	OBD	10A	ダイアグノーシス
3	ECU-B 12V	10A	スマートエントリー、イモビライザー
4	WIPER	20A	ワイパー（フロント）
5	WASHER	15A	ウォッシャー、ヘッドランプクリーナー
6	STOP	10A	制動灯
7	HAZ	15A	方向指示灯、非常点滅灯
8	HORN	10A	ホーン
9	FOG FR	10A	フロントフォグランプ
10	H-LP LH-HI	10A	ヘッドランプ左 Hi
11	H-LP RH-HI	10A	ヘッドランプ右 Hi
12	DRL	10A	デイトタイムランニングランプ
13	H-LP LH-LO	10A	ヘッドランプ左 Lo
14	H-LP RH-LO	10A	ヘッドランプ右 Lo
15	P/W RR	30A	リヤパワーウインドウ
16	IG1 12V	10A	ヘッドランプ光軸調整、車線逸脱警報装置、PCS、デジタルインナーミラー
17	AM1	10A	エンジンスイッチ（ACC、ON）
18	DOME	10A	ルームランプ、室内 LED 灯
19	AM2	10A	エンジンスイッチ（START）
20	ECU-B	10A	メーター、車両制御 ECU、CGW ECU、エンジン制御システム
21	VCS	10A	車両制御 ECU

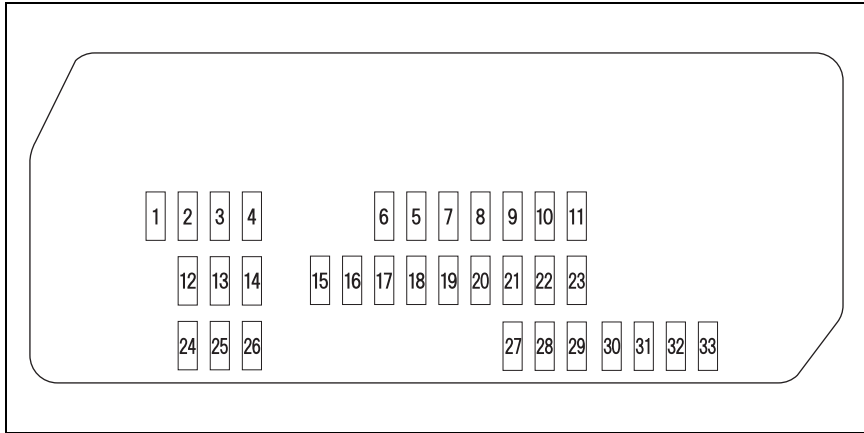
No.	名称	表示容量	主な負荷
22	ECU-IG-2	10A	A/T-ECU、シフトロック
23	ECU-IG-3	10A	車両制御 ECU、CGW ECU、電動パーキングブレーキ、タコグラフ、スマートエントリー、尿素 SCR システム、サイトアラウンドモニターシステム
24	ECU-IG	10A	エンジン制御システム
25	TAIL	10A	車幅灯、尾灯、番号灯、メーター照明、スイッチ照明
26	METER	10A	メーター
27	ECU-DC/DC	10A	エアバッグ、パワーウインドウ、キーレスエントリー、イモビライザー、ヘッドランプ光軸調整、車線逸脱警報装置、PCS、デジタルインナーミラー
28	BKUP LP	10A	後退灯、バックブザー、デジタルインナーミラー、バックモニター
29	IG1	10A	BCM
30	ECU-B 12V-2	10A	キーレスエントリー、ステアリングセンサー (VSC)
31	DCM 12V	10A	—
32	P/W	30A	フロントパワーウインドウ
33	A/BAG	10A	エアバッグ
34	ECU-IG 12V	10A	キーレスエントリー、イモビライザー
35	IG1-2	10A	4WD、ヘッドランプクリーナー、PTO
36	A/C	10A	ヒーター、エアコン
37	ACC	10A	電動格納式アウターミラー
38	P/OUTLET	15A	アクセサリソケット
39	SPARE	10A	予備ヒューズ
40	SPARE	15A	予備ヒューズ
41	SPARE	20A	予備ヒューズ

■ 室内ヒューズブロック 2



No.	名称	表示容量	主な負荷
1	DCM	10A	外部データ通信用コネクタ
2	D/L	20A	ドアロック
3	HTR RR	10A	リヤヒーター
4	A/C RR	20A	リヤクーラー
5	ECU-B 12V-3	10A	AT-ECU
6	AT-EOP	10A	AT車のアイドルストップ中ブレーキ保持用電動オイルポンプ

## ■ 室外・床下ヒューズボックス 1

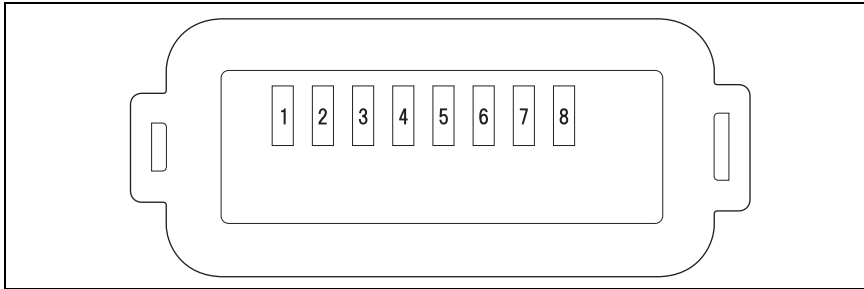


No.	名称	表示容量	主な負荷
1	P-IGN	15A	予備電源（キー「ON」連動）
2	ECU-IG-4	10A	サイトアラウンドモニターシステム
3	ENG-3	10A	エンジン制御システム
4	—	—	—
5	P-ACC	15A	予備電源（ACC 連動）
6	EPB	20A	電動パーキングブレーキ
7	E-FAN	20A	コンデンサー電動ファン
8	—	—	—
9	P-BATT	15A	予備電源（常時）
10	A/C COMP	10A	エアコン用コンプレッサー
11	P-TALL	10A	予備電源（尾灯連動）
12	RADIO 12V	10A	オーディオ
13	—	—	—
14	—	—	—
15	ENG-2	30A	EGR コントローラー、VNT コントローラー
16	ECU-B-2	10A	サイトアラウンドモニターシステム
17	ECU-B-3	10A	タコグラフ
18	DCU-2	10A	尿素 SCR システム
19	—	—	—

**15-32** 故障時の処置

No.	名称	表示容量	主な負荷
20	POWER-3	20A	キャブ行き電源（キースイッチ、ルームランプ）
21	FUEL HTR	30A	燃料ヒーター
22	DC-DC	15A	DC/DC コンバーター
23	—	—	—
24	DC-DC 12V	20A	DC/DC コンバーター
25	IPD 12V	20A	ヘッドランプ、フロントフォグランプ、デイタイムランニングランプ
26	—	—	—
27	DCU	20A	尿素 SCR システム
28	NOX SSR	10A	NOx センサー
29	PM SSR	10A	PM センサー
30	UREA HTR	20A	尿素 SCR システム
31	IG1-4	25A	室外ヒューズボックス内電源（キー ON 連動予備電源、サイトアラウンドモニターシステム）
32	S/HTR	10A	シートヒーター
33	ENG	30A	エンジン制御システム

## ■ 室外・床下ヒューズボックス 2



No.	名称	表示容量	主な負荷
1	BATT-S 12V	10A	バッテリーセンサー
2	IPS 12V	10A	バッテリーセンサー
3	—	—	—
4	—	—	—
5	—	—	—
6	—	—	—
7	BATT-S	10A	バッテリーセンサー
8	IPS	10A	バッテリーセンサー

\* 車両の仕様等で異なる場合がありますので、必ず車両に貼り付けられたプレートで確認してください。

### ▲ 警告

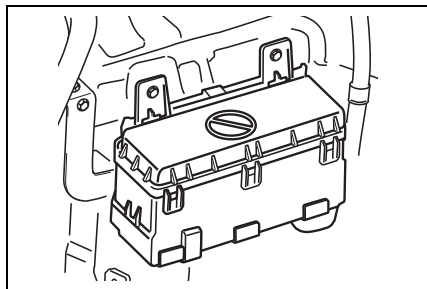
#### ■ 車両の故障や火災を防ぐために

- ヒューズ交換は、エンジンスイッチを「LOCK」の位置にし、そのほかのスイッチを「OFF」にしてから行ってください。
- ヒューズ類は必ず規定のアンペアのものを使用してください。
- ヒューズの代わりに針金や銅線を使わないでください。
- エンジンスイッチが「ON」の位置にあるときはヒューズの交換をしないでください。

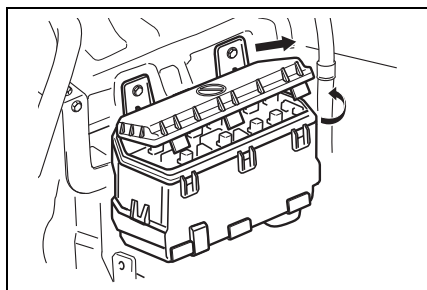
- 何度もヒューズが切れるときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- ヒューズを交換するときは、バッテリーの⊖端子を取り外してから行ってください。

## ヒューズブルリンクが溶断したとき

- ▶ 室外ヒューズブルリンクボックス
1. 車両正面の樹脂ロックを外す。



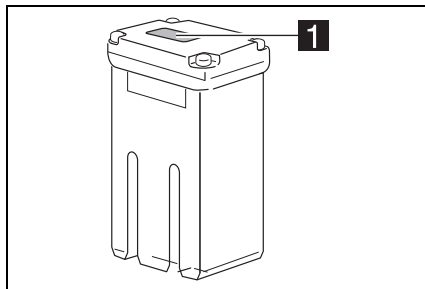
2. 外れる位置まで持ち上げ、斜め方向にスライドさせカバーを取り外す。



- バッテリーからヒューズボックス間、オルタネーター間の回路に過大電流が流れたとき、ヒューズブルリンクが溶断し、車体配線を保護する一種の安全ヒューズが、キャブのリアアーチ付近に取り付けられています。
- ヒューズブルリンクは、カセット式になっています。
- カバーを取り付けるときは、確実にロックされていることを確認してください。

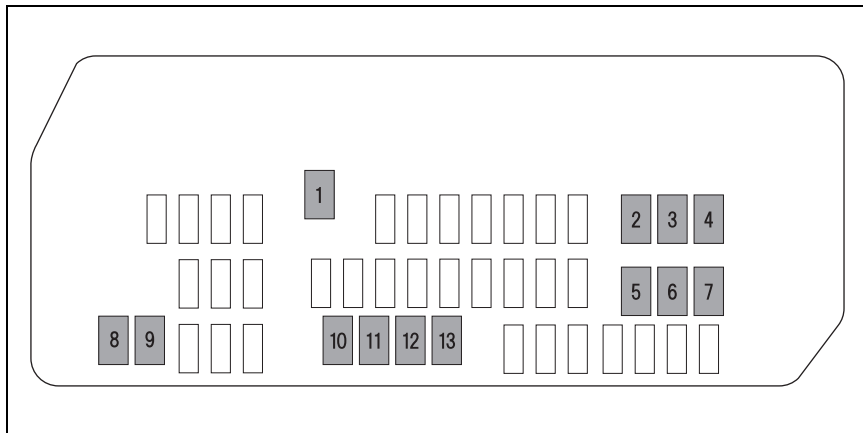
## ヒューズブルリンクの点検

ヒューズブルリンク本体にある「窓」から溶断がないかを点検します。



1 窓

## ■ 室外・床下ヒューズブルリンクの一覧表



No.	名称	表示容量	主な負荷
1	ABS SOL 12V	30A	ABS
2	POWER-2	40A	キャブ行き電源（ダイアグノーシス、ミラーヒーター、ヒーター、エアコン、4WD、ヘッドランプクリーナー、PTO、アクセサリースOCKET、電動格納式アウターミラー）
3	POWER-5	30A	キャブ行き電源（外部データ通信用コネクタ、ドアロック、リヤヒーター、リヤクーラー）
4	HTR	20A	ブローモーター
5	—	—	—
6	P/OUTLET-2	60A	ミキサー車専用予備電源
7	—	—	—
8	POWER 12V	40A	キャブ行き電源（キーレスエントリー、イモビライザー、エアバッグ、パワーウインドウ、ヘッドランプ光軸調整、車線逸脱警報装置、スマートエントリー）
9	ABS MTR 12V	50A	ABS
10	POWER	40A	キャブ行き電源（メーター、PCS、BCM、後退灯、バックブザー、車幅灯、尾灯、番号灯、メーター照明、スイッチ照明、ウォッシャー、ヘッドランプクリーナー、ホーン、制動灯、非常点滅灯、方向指示灯、ワイパー）

No.	名称	表示容量	主な負荷
11	POWER-4	40A	キャブ行き電源（車両制御 ECU、エンジン制御システム、A/T-ECU、シフトロック、電動パーキングブレーキ、タコグラフ、スマートエントリー、尿素 SCR システム、メーター、CGW ECU、サイトアラウンドモニターシステム）
12	E-TILT	40A	電動キャブチルト（消防車）
13	GLOW	50A	グロープラグ

 **注意****■ 車両の故障を防ぐために**

- コネクターを外したときは、必ず元の位置に戻してください。
- 指定容量以外のヒューズブルリンクを使用しないでください。
- ヒューズブルリンクが溶断したときは
- ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

## リレーが故障したとき

 注意

- 車両故障を防ぐために
- リレーの交換は、ご自身で行わないでください。
- リレーが故障したときは
- ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

ブレーキの効きが悪くなった  
ら 警告

- ブレーキの効きの低下
- ブレーキの効が悪くなったら、ブレーキペダルを強く踏み、さらに排気ブレーキ、ギヤシフトダウン、パーキングブレーキを併用し、ただちに安全な場所に停車させてください。停車後、トヨタ販売店に連絡してください。
- 停車したときは、絶対に車を動かさないでください。ブレーキの効きが低下している状態での走行は危険です。

### 電動パーキングブレーキが解除できなくなったとき

パーキングブレーキ自動解除機能で解除してください。(→P.5-31)

解除できない場合は最寄りのトヨタ販売店にご連絡ください。

### 走行中エンジンが止まった ら

- 走行中、エンジンが止まったときは、あわてずに、ブレーキペダルを踏みながら減速し、安全な場所に停車させて点検してください。また、パワーステアリングが作動しなくなるためハンドルが急に重くなりますので、通常より強い力でハンドルを操作してください。
- 走行中に燃料切れでエンジンが止まったときは、燃料系統にエアが入ってしまい、燃料を補給しただけでは始動できません。燃料系統のエア抜きを行ってください。(→P.15-40)

## 走行中パンクしたとき

急ブレーキを避け、ハンドルをしっかり握り、非常点滅灯で後続車に注意を促してください。そして、徐々にスピードを落とし、安全で平坦な場所に停車させて、タイヤの交換をしてください。

\* タイヤの取り扱い (→P.13-47)

## 火災が発生したとき

ただちに安全な場所に停車させてエンジンを止め、消火器などで消火してください。

### 警告

#### ■ 走行中にパンクしたら

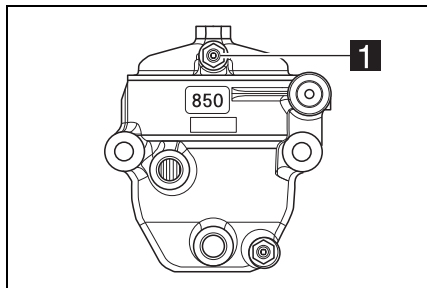
- 急ブレーキをかけるとハンドルを強くとられ大変危険ですので絶対に行わないでください。
- パンクしたままで走行しないでください。そのまま走行を続けると、タイヤがバースト（破裂）などを起こすおそれがあり危険です。

## 燃料が切れたとき

燃料切れでエンストしたときや、フューエルフィルターエレメントなどを交換したときは、燃料系統に空気が混入し、燃料を補給しただけではエンジンを始動できません。エア抜きを行ってください。

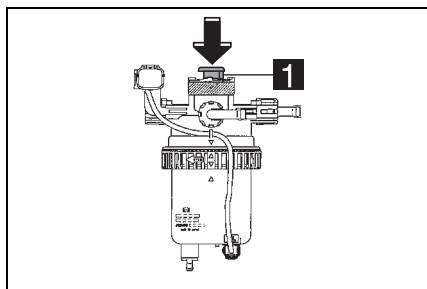
### エア抜きのしかた

1. エンジン側フューエルフィルターのエア抜きプラグをゆるめる。



#### 1 エア抜きプラグ

2. 車両側フューエルフィルターのプライミングポンプを上下に動かし燃料を送る。



#### 1 プライミングポンプ

3. エア抜きプラグにウエスなどを当て、エア抜きプラグから気泡の混じっていない燃料が出てき

たら、エア抜きプラグを締め付ける。

締め付けトルク

7 N・m [71 kgf・cm]

4. エア抜き後はエンジンをかけて燃料漏れがないことを確認する。
5. エンジンがかからない場合は、1～3の手順を数回繰り返す。

\* 噴射ポンプ関係に異常がみられたときは、トヨタ販売店で必ず点検・整備を受けてください。

### 警告

#### ■ 車両火災を防ぐために

- 燃料漏れがあるときは、ガスケット交換または増し締めをしてください。
- 安全のため、地面を汚さないためにも、燃料は必ず容器に受けてください。
- エンジン各部に燃料がかかったときは、よく拭き取ってください。
- 作業中はタバコの火などを近づけないでください。

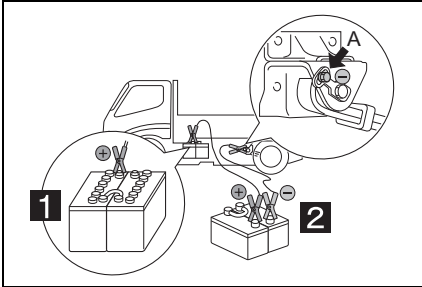
### 注意

#### ■ プライミングポンプの扱いについて

エア抜きプラグを締め付けた状態でプライミングポンプを操作しないでください。破損の原因になります。

## バッテリーがあがったとき

ブースターケーブルで他車のバッテリーと接続してエンジンを始動させるときは、必ず次の順序で行ってください。故障車のエンジン始動は、記載している以外の方法では行わないでください。



### 1 故障車のバッテリー

### 2 正常車のバッテリー

1. 良好なバッテリー側の車両（正常車）のエンジンを停止させる。
2. 赤色ブースターケーブルを故障車のバッテリーの⊕端子に接続する。
3. 正常車のバッテリーの⊕端子に接続する。
4. 黒色ブースターケーブルを正常車の⊖端子に接続する。
5. 故障車のバッテリーからできるだけ離れたフレームか「A」に接続する。
6. 故障車のエンジンを始動させる。
7. エンジン始動後、ブースターケーブルを接続の逆の順序で取り外す。

## ■ スマートエントリー&スタートシステム付き車

- バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレス機能、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリー脱着後、最初のエンジン始動は始動できないことがあります。2回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

## 👉 アドバイス

### ■ 寒冷時にエンジンがかかりにくいときは

正常車のエンジンを始動させ数分たってから、故障車のエンジンを始動させてください。

## ⚠ 警告

### ■ ブースターケーブルの取り扱いについて

- ブースターケーブルをつなぐ前にバッテリー液量を確認してください。バッテリー液量が「LOWER」以下で充電すると劣化を早めたり、発熱や爆発のおそれがあります。補充してから行ってください。
- 最後の接続時にはスパークが発生することがあり危険ですので、バッテリーからできるだけ離れた位置に接続してください。

**■ 引きがけや坂道でエンジンをかけないで**

引きがけや坂道で車を動かしてエンジンをかけないでください。追突事故につながるおそれがあり危険です。

**■ 火気をバッテリーに近づけないでください**

● 必ず以下のことをお守りください。お守りいただかないとバッテリーから発生する水素ガスに引火・爆発し、やけどなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ・ 「A」の接続（手順5参照）は故障車バッテリーの⊖端子につながないでください。バッテリーに直接つなぐと、火花が発生します。
- ・ ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。接触させると火花が発生します。
- ・ 火気をバッテリーに近づけないでください。

● 充電中はバッテリーに近付かないでください。希硫酸の含まれるバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

**■ バッテリー液の取り扱い**

誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合は、多量の水を飲み、医師の診察を受けてください。

**⚠ 注意**

■ 救援車のバッテリーは24Vを使用してください

● 他車（正常車）のバッテリーは24Vでなければなりません。必ず確認してください。

● バッテリーがあがりやすい場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

## スマートエントリー&スタートシステムの故障

### ■ 電子キーが正常に働かない場合

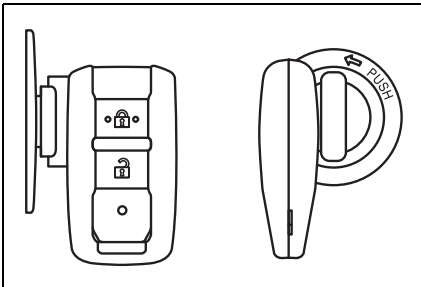
- カスタマイズでスマートキャンセルになっていないことを確認してください。スマートキャンセルになっている場合には、スマートアクティブにしてください。
- 電子キーが節電モードに設定されている可能性があります。電子キーのいずれかのスイッチを押してください。節電モードは解除されます。
- キーの電池残量が低下している可能性があります。電池残量が低下したときは、新しい電池と交換してください。

### ■ ドアの解錠・施錠の方法

スマート機能でドアの解錠・施錠ができない場合には、ワイヤレス機能、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

### ■ 電源 OFF からのエンジン始動

1. シフトレバーが「N」（AT 車は「P」）の位置でブレーキペダルをしっかり踏み込む。
2. 電子キーのオーナメント部分でエンジンスイッチにふれる。



3. 電子キーのオーナメント部分でエンジンスイッチにふれたまま、エンジンスイッチを1度押す。
4. 電子キーを検知後、ブザーが吹鳴する。
5. エンジンスイッチを回す。

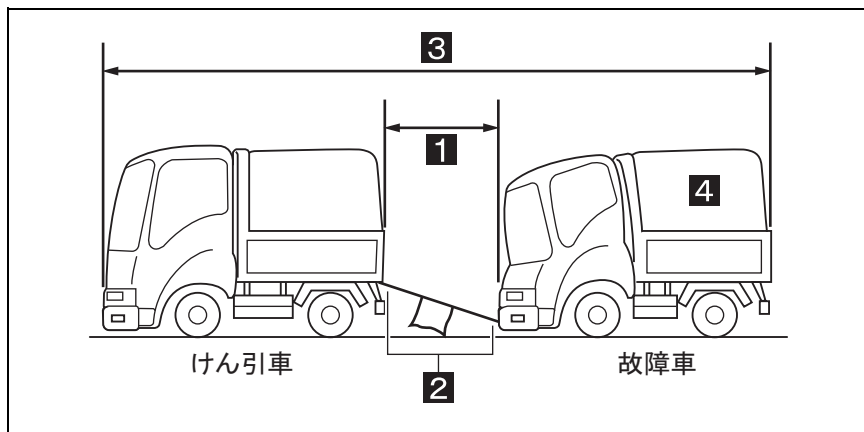
上記の処置をしてもエンジン始動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

## けん引するとき、してもらうとき

けん引するときあるいはしてもらうときは、トヨタ販売店に連絡してください。

やむを得ずけん引するとき、またはしてもらうときは、次の点に注意してください。

### けん引前の準備

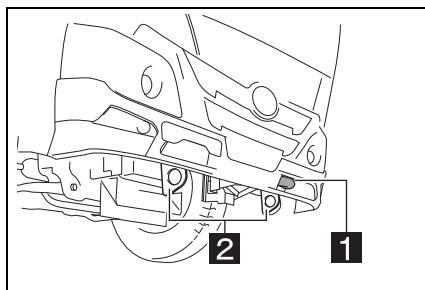


- 1** けん引車と故障車の車間距離を 5 m 以内にします。
- 2** けん引ロープの中間の見やすい箇所に 30 cm 四方以上の白布を付けます。
- 3** けん引車前端から故障車後端までの長さを 25 m 以内にします。
- 4** 故障車の荷物は全て降ろします。

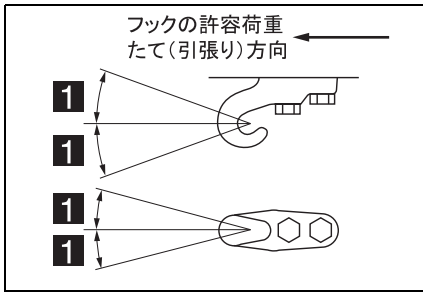
### けん引フック位置

- けん引ロープは強度のあるものを使用し、けん引車後端のフックと故障車前端のフックに外れないように掛けます。
- けん引フックはロープの掛け方によりフックの強度が異なりますので安全のため使用範囲内（角度）でご使用ください。

\* 輸送用フック★をけん引には絶対に使用しないでください。



- 1** けん引フック
- 2** 輸送用フック★



### 1 15°

\* ワイヤーの使用限度（フック中心に30°）

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ▲ 警告

### ■ けん引される車は慎重に運転してください

- けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- けん引中に、キーを抜いたり、エンジンスイッチを「LOCK」にしないでください。ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、エンジンスイッチが「LOCK」だとキーが抜けるおそれがあります。
- けん引する車は急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。けん引フックやロープが破損するおそれがあります。また、万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

- スタックからの脱出などにけん引フックを使用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、けん引フックやロープに無理な力がかかり破損するおそれがあります。また、万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり重大な傷害を与えるおそれがあります。

- ・ けん引してもらった車がなかなか動かないときは、無理にけん引をしないでください。
- ・ けん引は車に対してできるだけまっすぐに引っぱってください。
- ・ けん引中は車に近寄らないでください。

## ▲ 注意

### ■ けん引時の注意

- 故障車のエンジンは、必ず回しておきます。エンジンを止めておくとブレーキが効かなくなるばかりか、ハンドル操作が異常に重くなり危険です。
- 故障車のエンジンが回らないときは、けん引専用車（レッカー車）で行います。
- 故障車のシフトレバーを「N」の位置にします。
- 4WD車は、フリーホイールハブを左右とも「FREE」の位置にします。
- 急発進を避け、ロープをたるませないようにします。
- けん引するときの最高速度は30km/hです。高速道路でのけん引はできません。

- 電動パーキングブレーキのオートモードを OFF にし、パーキングブレーキを解除してから走行してください。走行中に自動的に作動してしまう危険があります。
- 急激な力がかかる使い方（溝に落ちた車をけん引するときなど）をするときは、フックでのけん引を避けて、アクスルなどを用いてけん引します。
- スタックしたときは、無理にけん引せず、トヨタ販売店や JAF などに依頼してください。けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。
- 次のときは、必ず 4 輪を持ち上げて運搬してください。
  - ・ 駆動系内部に異常があると思われるとき
  - ・ 4WD 車にて後輪駆動（2WD）にならない
- 車速が高いとトランスミッションを損傷させるおそれがあります。
- 輸送用フックは、船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。けん引には絶対に使用しないでください。
- 長坂路を下るときは、けん引専用車（レッカー車）でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。
- ワイヤロープは使用しないでください。バンパーに傷が付くおそれがあります。

#### ■ オートマチック車のけん引時の注意

- 必ず後輪を持ち上げて行ってください。後輪を持ち上げずにワイヤロープなどでけん引するときは、プロペラシャフトを外してください。外さないでけん引するとトランスミッション焼き付きの原因になります。
- オートマチック車は、車を引いたり押し下したりしてエンジンをかけることはできません。
- オートマチック車は、けん引速度 30 km/h 以下、けん引距離 80 km 以内で前進方向でけん引してください。この速度、距離をこえてのけん引、または後進方向でのけん引をするとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがありますので、これらの場合は車両積載量などにより全輪とも持ち上げて運搬してください。

#### ■ スマートエントリー&スタートシステム付き車のけん引時の注意

けん引中は電源を OFF にしないでください。電源を OFF にすると、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり危険です。

## 水没・冠水したとき

この車両は、水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
  - ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
  - ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
  - 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。
- \* 車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

## 知識

### ■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

### ■ 緊急脱出用ハンマー★の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

- \* 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

## 警告

### ■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動けなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

## アドバイス

「安全・快適走行のために」を合わせてご覧ください。(→P.1-7)





ご自身でできる点検整備の基準値をまとめてあります。

## V ベルト

### ■ 音波張力計を使用した測定値

#### ▶ オルタネーターベルト

##### ● 点検時の基準値

種類	スパン長	張力	周波数
90 A	300 mm	550 ~ 650 N {56.1 ~ 66.3 kgf}	109 ~ 119 Hz

##### ● 新品ベルト張り時

種類	スパン長	張力	周波数
90 A	300 mm	780 ~ 880 N {79.6 ~ 89.7 kgf}	130 ~ 138 Hz

#### ▶ エアコン用コンプレッサーベルト

##### ● 点検時の基準値

スパン長	張力	周波数
197 mm	300 ~ 400 N {30.6 ~ 40.8 kgf}	134 ~ 155 Hz

##### ● 新品ベルト張り時

スパン長	張力	周波数
197 mm	350 ~ 500 N {35.7 ~ 51.0 kgf}	145 ~ 173 Hz

### ■ オルタネーターベルト

基準値		参照ページ
張り直し時	新品ベルト張り時	
10.1 ~ 11.2 mm <sup>※</sup>	7.9 ~ 8.7 mm <sup>※</sup>	12-7、13-29

<sup>※</sup> ベルトの中央を 98 N {10 kgf} の力で押したときのたわみ量

### ■ エアコン用コンプレッサーベルト★

基準値		参照ページ
張り直し時	新品ベルト張り時	
8.5 ~ 10.0 mm <sup>※</sup>	7.0 ~ 9.0 mm <sup>※</sup>	12-7、13-29

<sup>※</sup> ベルトの中央を 98 N {10 kgf} の力で押したときのたわみ量

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## タイヤ・ホイール・アクスルシャフト

### ■ タイヤ溝の深さ限度

基準値	参照ページ
本文参照	12-11

### ■ ホイールナットの締め付けトルク（インナー・アウター）

#### ▶ スチールホイール装着車

締め付けトルク	参照ページ
440 ~ 590 N・m {4,500 ~ 6,000 kgf・cm}	13-47、13-57

#### ▶ アルミホイール装着車

締め付けトルク	参照ページ
340 ~ 420 N・m {3,400 ~ 4,200 kgf・cm}	13-47、13-57

### ■ アクスルシャフト・ドライブシャフトの締め付けトルク

#### ▶ アクスルシャフト（リア）

締め付け箇所	対象車型	ボルト / ナット / 二面幅	締め付けトルク	参照ページ
アクスルシャフト 取り付けボルト またはナット	全車型	14mm (ナット)	49 ~ 71 N・m {490 ~ 730 kgf・cm}	13-56
		17mm (ボルト)	86 ~ 107 N・m {870 ~ 1,100 kgf・cm}	

#### ▶ ドライブシャフト（フロント）

締め付け箇所	対象車型	部位	締め付けトルク	参照ページ
ドライブシャフト 取り付けボルト	4WD 車	フリーホ イールハブ ～ ハブ (フロント)	62 ~ 76 N・m {630 ~ 780 kgf・cm}	13-56

### ■ 内側と外側タイヤの外径差

外径差		参照ページ
ラジアルタイヤ	6 mm 以内	13-52

## ラジエーター

## ■ 冷却水容量

## ▶ 標準車

車種	冷却水容量	参照ページ
リヤヒーター付き	15.3 L	13-22
リヤヒーター無し	14.3 L	

## ▶ ワイドキャブ車

車種	冷却水容量	参照ページ
リヤヒーター付き	15.7 L	13-22
リアヒーター無し	14.6 L	

## ▶ 消防車

車種	冷却水容量	参照ページ
リヤヒーター付き	17.3 L	13-22
リアヒーター無し	16.4 L	

## ブレーキ

## ■ パーキングブレーキレバーの引きしろ★

基準値	参照ページ
6 ~ 10 ノッチ	13-41

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ ドラムとライニングのすき間（ドラムブレーキ）

基準値	参照ページ
0.24 ~ 0.64 mm	13-36

## ■ ブレーキパッドの厚さ（ディスクブレーキ）

\* シングルタイヤ車は、フロントのみディスクブレーキです。

### ▶ 標準キャブ

基準値		参照ページ
積載量 2 t <sup>※1</sup>	12.0 mm	13-38
積載量 2 ~ 3 t <sup>※2</sup>	14.0 mm	
積載量 3.5 t	13.0 mm	

※1: 車両総重量 5 t 車（シングルタイヤ車を除く）

※2: 車両総重量 5 t 車超、5 t 車（シングルタイヤ車）

### ▶ ワイドキャブ

基準値		参照ページ
積載量 2 t	14.0 mm	13-38
積載量 2.95 t 超	13.0 mm	

## ■ ブレーキペダルの遊び

基準値	参照ページ
ペダル先端で 1 ~ 3 mm	13-34

## クラッチ

### ■ クラッチペダルの遊び

基準値	参照ページ
1 ~ 5 mm	13-39

### ■ クラッチペダルと床板のすき間

基準値	参照ページ
25 mm 以上	13-39

## ステアリング

### ■ ハンドルの遊び（円周上）

基準値	参照ページ
25 mm 以上	13-60

## エアコン

### ■ エアコン冷媒（ガス）規定量

#### ▶ 標準キャブ車

規定量		参照ページ
コンデンサー電動ファン付き	400 ± 50 g	13-64

#### ▶ ワイドキャブ車

規定量		参照ページ
コンデンサー電動ファン無し	500 ± 50 g	13-64
コンデンサー電動ファン付き	400 ± 50 g	
ダブルキャブ リヤクーラー無し車	400 ± 50 g	

#### ▶ リヤクーラー付き車

規定量		参照ページ
標準キャブ車	750 ± 50 g	13-64
ワイドキャブ車	850 ± 50 g	

## ランプ

ランプの名称	容量	参照ページ
ヘッドランプ [ハイビーム / ロービーム] (LED)	12V-25/20 W	15-19
フォグランプ (LED)	12V-4 W	
方向指示灯 (フロント)	24V-21 W	
車幅灯	24V-5 W	
方向指示灯 (フロントサイド)	24V-21 W	
番号灯	24V-5 W	
方向指示灯 (リヤ)	24V-21 W	
制動灯・尾灯	24V-21/5 W	
後退灯	24V-21 W	
ヒーターコントロールパネルランプ	24V-1.8 W	
ルームランプ	24V-10 W	
室内 LED 灯★	24V-0.8 W	
デイトタイムランニングランプ (LED)	12V-6 W	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



さくいん

五十音順さくいん  
..... さくいん-2

## 五十音順さくいん

## あ

アイドルストップシステム .....	P.5-74
アイドルストップシステム付き車の 不調時の原因と処置 .....	P.15-12
アクセサリソケット .....	P.8-44
安全・快適走行のために .....	P.1-7
アンテナ .....	P.8-2

## い

インタークーラー .....	P.13-15
インナーミラー .....	P.8-43

## う

ウインドウウォッシャー .....	P.13-66
ウインドウウォッシャーの 液量・噴射状態 .....	P.12-15
運転前に .....	P.1-2

## え

エアクリーナー .....	P.13-16
エアコン .....	P.7-3、13-64
エアフィルター .....	P.13-19
エアフローメーター .....	P.13-80
ABS 警告灯 .....	P.6-43
ABS 表示停止警告灯 .....	P.6-45
ECO MODE スイッチ (MT 車) .....	P.5-79
SRS エアバッグ (シートベルト補助拘束装置) .....	P.5-34
SRS エアバッグについて .....	P.1-25
SRS エアバッグ警告灯 .....	P.6-47
MIL .....	P.6-49
エラー表示について .....	P.8-19
エンジンオイル .....	P.14-5
エンジンオイルの量 .....	P.12-4
エンジンオイルフィルター .....	P.13-8
エンジンスイッチ (スマートエントリー & スタートシステム付き車) .....	P.5-10

エンジン警告灯 .....	P.6-47
エンジン (イグニッション) スイッチ .....	P.5-8
エンジン点検口の開閉 .....	P.3-17
エンジンのかかり具合・異音 .....	P.12-14
エンジンのかけ方 .....	P.5-13
エンジンの止め方 .....	P.5-18
エンジン表示停止警告灯 .....	P.6-45

## お

オイルパンヒーター コンセント .....	P.5-15
AUX 端子の使い方 .....	P.8-24
オーディオの種類 .....	P.8-5
オーディオを上手に お使いいただくために .....	P.8-2
オーディオシステムについて .....	P.8-31
オートマチック車を 運転するにあたって .....	P.1-14
オートハイビーム (AHB) .....	P.5-45
オートマチック トランスミッション (AT 車) .....	P.5-20
オーバーヒート警告灯 .....	P.6-39
オーバーヒートしたとき .....	P.15-17
お子さまを乗せるときの 気くばり .....	P.1-20

## か

夏の取り扱い .....	P.10-6
火災が発生したとき .....	P.15-39

## き

機能設定モード	P.8-9
キー	P.3-2
キーレスエントリー	P.3-3
キャプセル警告灯	P.6-58
キャブを上げる前の準備	P.11-2
給脂	P.14-25
給脂図	P.14-23

## &lt;

クラッチ	P.13-39
クリアランスソナー システム	P.5-124
車のお手入れ	P.13-72
車の点検について	P.2-3

## け

計器類の点検	P.13-81
警告灯・表示灯	P.6-34
警告灯が点灯したとき	P.15-16
警報ブザーが鳴ったとき	P.15-18
けん引するとき、 してもらうとき	P.15-44

## こ

故障したとき	P.15-14
故障診断コネクターなどへの 電装品取り付けについて	P.1-32
誤発進抑制機能システム	P.5-115
これは危ない！気をつけて	P.1-21
コンソールボックス類	P.8-47

## さ

サイトアラウンド モニターシステム	P.5-131
サンバイザー	P.8-44

## し

シート	P.4-2
シートヒーター	P.5-140
シートベルト	P.4-7
シートベルト非着用警報 ランプ	P.6-46
知っておいて いただきたいこと	P.1-31
室内LED灯	P.8-36
車外騒音に関わる部品	P.13-71
シャシスプリング	P.13-62
車線逸脱警報装置	P.5-92
車台番号・エンジン番号	P.2-6
ジャッキアップ	P.13-42
充電警告灯	P.6-46
車両への乗り降り	P.3-18
手動キャプセルト	P.11-2
手動式ミラー	P.5-55
消防PTO	P.5-86
純正油脂類	P.14-3
新車時の取り扱い	P.2-5

## す

スターター過熱警告灯	P.6-57
ステアリング	P.13-60
ステアリングスイッチ	P.8-4
スピードメーター	P.6-3
スペアタイヤ	P.13-54
スマートエントリー & スタートシステム	P.5-3
スマートエントリー & スタートシステムの故障	P.15-43
スロットルノブ	P.5-16
水没・冠水したとき	P.15-47

## せ

選局操作 .....	P.8-13
前日または前回運行中の 異状箇所 .....	P.12-3

## そ

走行時の注意 .....	P.9-4
走行中エンジンが止まったら .....	P.15-38
走行中パンクしたとき .....	P.15-39

## た

ターボ車の取り扱い .....	P.1-13
タイヤの異常な摩耗 .....	P.12-10
タイヤの亀裂・損傷 .....	P.12-10
タイヤの空気圧 .....	P.12-9
タイヤの取り扱い .....	P.13-47
タイヤの溝の深さ .....	P.12-11
タイヤローテーション .....	P.13-52
タコグラフ .....	P.6-3
タコメーター .....	P.6-4
暖機運転 .....	P.5-17
ダンプレバー .....	P.5-82

## ち

駐・停車時の注意 .....	P.9-11
駐・停車するとき .....	P.1-18

## つ

ツールボックス .....	P.3-23
積荷 .....	P.9-13

## て

DC/DC コンバーター警告灯 .....	P.6-58
低速・加速の状態 .....	P.12-20、13-81
ディスクブレーキ .....	P.13-38
DPR (排出ガス浄化装置) .....	P.13-76
DPR (排出ガス浄化装置) 警告灯 .....	P.6-51
DPR (排出ガス浄化装置) の 取り扱い .....	P.1-27
ディファレンシャルオイル .....	P.14-15
デジタルインナーミラー .....	P.8-37
点検・調整作業にあたっての 注意 .....	P.13-3
点検にあたっての注意 .....	P.12-2
電動格納式アウトミラー スイッチ .....	P.5-52
電子キー .....	P.3-6
電動キャブチルト .....	P.11-5
電動キャブチルト シリンダーオイル .....	P.14-22
電動パーキングブレーキが 解除できなくなったとき .....	P.15-38
電動パーキングブレーキ 警告灯 .....	P.6-41

## と

ドア .....	P.3-10
ドア (スマートエントリー付き車) .....	P.3-14
ドアガラスの開閉 .....	P.3-15
冬期の取り扱い .....	P.10-2
統合電源ユニット警告灯 .....	P.6-59
搭載工具 .....	P.13-5
ドラムブレーキ .....	P.13-36
トランスファーオイル .....	P.14-14
トランスミッションオイル (MT車) .....	P.14-10
トランスミッション PTO .....	P.5-80
トランスミッションフルード (AT車) .....	P.14-12

## に

荷台 .....	P.3-19, 9-13
2 面鏡ミラー .....	P.5-57
尿素水残量警告灯 .....	P.6-52
尿素水品質警告灯 .....	P.6-52
尿素 SCR (尿素選択式 還元触媒) システム .....	P.1-29, 13-77
尿素 SCR システム警告灯 .....	P.6-56

## ね

燃料が切れたとき .....	P.15-40
燃料・水分離器水位警告灯 .....	P.6-43
燃料添加弁 .....	P.13-80

## は

排気ブレーキスイッチ .....	P.5-51
パーキングブレーキ .....	P.5-29, 13-41
パーキングブレーキの 引きしろ .....	P.12-13
灰皿 .....	P.8-45
排出ガス浄化装置スイッチ .....	P.5-70
配線関係 .....	P.13-71
バキューム警告灯・ブザー .....	P.6-41
発炎筒 (緊急保安炎筒) .....	P.15-15
発進アイドルアップ .....	P.5-73
発進前の準備 .....	P.9-2
バックガイドモニター .....	P.5-58
バックブザー減音スイッチ .....	P.5-141
バッテリー .....	P.13-68
バッテリー液の量 .....	P.12-8
バッテリーがあがったとき .....	P.15-41
バッテリーメインスイッチ (消防車) .....	P.5-12
パワーステアリングフルード .....	P.14-18
ハンドル .....	P.5-33

## ひ

非常点滅灯 .....	P.5-48
ヒューズブルリンクが 溶断したとき .....	P.15-34
ヒューズを交換するとき .....	P.15-26
PGS (プリクラッシュセーフティ) .....	P.5-95
PTO オイル (消防車) .....	P.14-7
ヒルスタート アシストコントロール .....	P.9-9

## ふ

V ベルト .....	P.13-29
V ベルトの緩み・損傷 .....	P.12-7
VSC・TRC .....	P.5-90
フォグランプスイッチ .....	P.5-49
吹き出し口の調整 .....	P.7-2
不調時の原因と処置 .....	P.15-2
フットブレーキ .....	P.13-34
フューエルフィルター .....	P.13-11
フューエルフィルターの 水抜き .....	P.13-14
フューエルキャップ (燃料補給口) .....	P.3-19
Bluetooth® オーディオの 操作 .....	P.8-20
Bluetooth® 対応機器 登録のしかた .....	P.8-11
Bluetooth® 電話の 使い方 .....	P.8-26
ブレーキ液の量 .....	P.12-12
ブレーキ警告灯 ・バキューム警告灯 .....	P.6-40
ブレーキの効きが 悪くなったなら .....	P.15-37
ブレーキのきき具合 .....	P.12-19, 13-39
ブレーキフルード ・クラッチフルード .....	P.14-20
ブレーキペダルの踏みしろ .....	P.12-18

ブレーキロック (作業用補助制動装置).....	P.5-88
フロントルームランプ.....	P.8-34

## へ

ペダル類.....	P.5-19
ヘッドランプクリーナー スイッチ.....	P.5-51
ヘッドランプ光軸調整 スイッチ.....	P.5-50

## ほ

ホイール.....	P.13-57
方向指示レバー.....	P.5-49
ホーンボタン.....	P.5-34
保証について.....	P.2-2

## ま

マニュアルトランスミッション (MT車).....	P.5-20
マルチインフォメーション.....	P.6-4

## み

ミラーヒータースイッチ.....	P.5-54
------------------	--------

## め

メーターが異常を 示したとき.....	P.15-16
メーター類の配置.....	P.6-2

## ゆ

油圧警告灯.....	P.6-42
USB の操作.....	P.8-14
油脂一覧表.....	P.14-30

## よ

予熱装置異常警告灯.....	P.6-57
4WD.....	P.5-67
4WD 車の取り扱い.....	P.1-15

## ら

ラジエーターキャップ.....	P.13-28
ラジオの使い方.....	P.8-7
ランプスイッチ.....	P.5-42
ランプ類が点灯しないとき.....	P.15-19
ランプ類の作用点検.....	P.12-17
ランプの汚れ・損傷.....	P.12-3

## り

リヤクーラー.....	P.7-8
リヤヒーター.....	P.7-9
リヤルームランプ.....	P.8-35
リレーが故障したとき.....	P.15-37

## れ

冷却水.....	P.13-22
冷却水の量.....	P.12-6

## わ

ワイドビューミラー.....	P.5-55
ワイパー.....	P.13-67
ワイパー&ウォッシャー スイッチ.....	P.5-40
ワイパーの拭き取り状態.....	P.12-16





























お問い合わせ、ご相談は  
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター  
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00~18:00

所在地 〒450 - 8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を  
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、  
[https://toyota.jp/privacy\\_statement/](https://toyota.jp/privacy_statement/) にて  
掲載しております。

「リコール等情報」については、  
<https://toyota.jp/recall/index.html> にて  
掲載しております。

**トヨタ自動車株式会社**  
<https://toyota.jp>

2025年 10月 初版発行

2025年 11月 OM-DR2024JPNJT-AALLC

不許複製

ト7762

